平成29年度　教育研究発表会

平成27～30年度　文部科学省研究開発学校指定　第3年次

未来社会を創造する主体としての子供を育成する教育課程の編成

子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域の開発

平成30年2月16日(金)・17日(土)

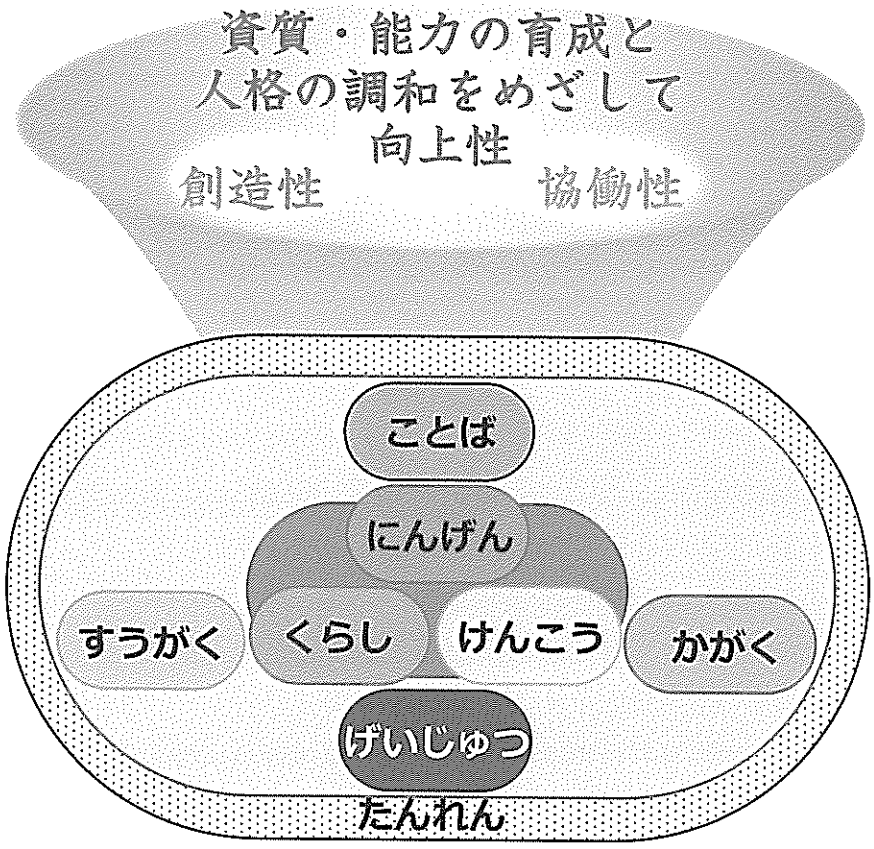
福岡教育大学附属福岡小学校

平成29年度　教育研究発表会

平成27～30年度　文部科学省研究開発学校指定　第3年次

未来社会を創造する主体としての子供を育成する教育課程の編成

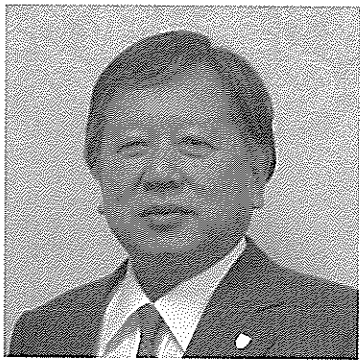
子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域の開発



平成30年2月16日(金)・17日(土)

福岡教育大学附属福岡小学校

ご あ い さ つ



学 長　櫻 井 孝 俊

福岡教育大学附属福岡小学校の平成29年度教育研究発表会の開催にあたり，ひとことごあいさつを申し上げます。

附属学校は，地元教育委員会と大学との緊密な連携のもと，地域の教育課題を解決し，新しい教育を推進するモデル校であり且つ先導的・実験的な取り組みを行う「国の拠点校」として位置付けております。そこで，本学において附属学校園と連携を強化して教育研究の開発を行い，その成果を地域の諸学校に還元し，地域教育界の発展に貢献することをめざしています。

平成32年度全面実施の新学習指導要領では，これまで以上に資質・能力重視の教育のあり方が求められます。そのような中，本校では平成27年度から４年間の文部科学省研究開発学校指定を受け，20年後，30年後の子供たちに必要となる資質・能力の育成と人格の調和をめざして，「教科」に代わる「領域」による新たな教育課程編成の在り方を研究しています。本年度教育研究発表会は，「未来社会を創造する主体としての子供を育成する教育課程の編成　～子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域の開発～　」のもと，研究３年次の成果について発表し，今後の方向性につきまして，ご参会の皆様からご示唆いただくものであります。本教育研究発表会が地域の学校のみならず，我が国における初等教育実践の進展に少しでも寄与できれば，これに優る喜びはありません。ご参会された皆様のご指導・ご助言を切にお願いいたします。

最後になりましたが，ご多用の中，ご講演等を快くお引き受けくださいました，國學院大學人間開発学部初等教育学科教授　田村学様，文部科学省初等中等教育局教科調査官　渋谷一典様，国立教育政策研究所総括研究官　福本徹先生に深く感謝申し上げます。また，学びのデザイン・カンファレンスにおきまして，指導助言者としてご協力いただきました諸先生方にも，心より御礼申し上げます。

今後とも，附属学校園の教育研究活動を介して，各地域の公立学校及び教育関係機関との連携を深めてまいりたいと考えています。関係する皆様方に一層のご指導・ご助言をお願い申し上げまして，ごあいさつといたします。

はじめに

校長　豊嶌啓司

再生医療技術，パワースーツ等による「高齢者でも丈夫な身体で生活」，一家に１台の家庭ロボットによる「家事からの解放」，国際標準化された電子マネーやID管理技術による「財布不要の買い物」，自ら危険作業に対処できる人工知能のロボットによる「作業からの解放」等，「第四次産業革命」としての技術革新による自動化・自律化は，私たちのくらしや生き方にいかなる変化を来すのか，楽観と悲観が交錯しています。なぜならば，技術革新は危険，煩雑，ストレスフルな労働代行が期待できる反面，社会生活の様々な場面において直接的に人が携わってきた従前の労働機会を奪うことでもあるからです。同時に，我が国の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)は，「空き家が2167万戸を数え，3戸に１戸は空き家となる(2033年)」，「死亡者数が167万9000人とピークを迎え，火葬場不足が深刻化する(2039年)」等，現状を放置すれば国民個々人の豊かさが十分に維持できない，少子高齢化社会の問題を浮き彫りにしています。

このような状況下，次代の牽引者である子供たちにとって，従前の社会システム・規範として「これまで(こうだった)」の内容・方法に依存した学びに固執するだけでは，今後豊かな社会生活を切り拓いていくことは困難でしょう。未だ結果が不確実な挑戦に成果を創造できるように，「これから(いかに向かっていくか)」の目標・内容・方法・評価を学習者自らマネジメントする「学習者主体の学び」への大きな転換が必要です。そこで，本校では平成27年度から４年間の文部科学省研究開発学校指定のもと，我々の眼前に迫る予測困難な未来社会において能動的かつ主体的に生き抜く人間を育成することを目指し，「何ができるか」「いかに問題を解決できるか」といった資質･能力を「未来創造型の資質･能力」として研究を進めてきています。これは，昨年３月に告示された新学習指導要領のさらに次世代を見据え，教育課程の枠組みを発展的に「脱構築」するものでもあります。本年度は，子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域(にんげん，くらし，けんこう，ことば，かがく，すうがく，げいじゅつ)と１時間(たんれん)及び領域間の関連を可能とする教育課程について，実際に子供たちが学ぶ姿を論拠に研究３年目の成果を提案いたします。

本会を開催するにあたり，多くの方々のご指導・ご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。今後とも各方面からのご助言やお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

目　　次

ごあいさつ …… 1
はじめに …… 2
目　　次 …… 3
本校研究のあゆみ …… 4

第１日

日　　程 …… 6
授業案内図 …… 7
学びのデザイン …… 8
トーク・セッション …… 32

第２日

日　　程 …… 34
授業案内図 …… 35
学びのデザイン …… 36
全体講演 …… 96

おわりに …… 97
平成29年度研究同人 …… 98

本　校　研　究　の　あ　ゆ　み　Ⅰ　（昭和23年度～63年度）

年度	研究主題等
昭和	
23	○学習効果判定の理論と実際 学習効果判定の理論と実際（永田書店から出版）
24	○カリキュラムの構成と実際
25	（発表会なし）
26	○学習深化の指導
27	○学習深化の指導
28	○学習深化をめざす指導
29	○学習指導における諸問題の再検討
30	○学習指導における新課題の再検討
31	○学習指導深化をめざす新課題の究明
32	○組織化をめざす学習指導法の究明
33	○組織化をめざす学習指導法の究明
34	○学習指導の系統化
35	○改訂指導要領による学習指導の諸問題
36	○考える子どもを育てる指導法の究明
37	○考える力をのばす学習指導法の考察
38	○考える力をのばす学習指導法の考察
39	○考える力をのばす学習指導法の考察
40	○考える力をのばす学習指導法の考察
41	○考える力をのばす学習指導法の考察 「授業における思考訓練」（明治図書から出版）
42	○教科の本質に立脚した学習指導法の考察 「思考をのばす学習過程の評価」（明治図書から出版）
43	（発表会なし）
44	○現代化をめざす指導法の究明 教材の現代的価値と児童の実態と反応に基づく指導内容の検討
45	○現代化をめざす指導法の究明 基本的内容にせまらせる学習の開発
46	○現代化をめざす指導法の究明 ひとりひとりを生かす合理的な学習指導のしくみ
47	○現代化をめざす指導法の究明 学習の連帯化をはかる指導のしくみ
48	○現代化をめざす指導法の究明 連帯性を育てる学習指導のしくみ
49	○現代化をめざす指導法の究明 連帯の力で学びとる姿勢の形成をはかる学習指導のしくみ 「学習を連帯化する指導法」（明治図書から出版）
50	○現代化をめざす指導法の究明 学びとる力の育成をはかる学習指導のしくみ
51	○学びとる力を伸ばす学習指導法の究明 操作を通した学習の構造化
52	○学びとる力を伸ばす学習指導法の究明 操作を通した学習指導法の展開 「できるまで育てる」（秀巧社から出版）
53	○「できるまで育てる」学習指導の計画と運営 交流でよりよい操作を身につける学習指導 「自由活動の時間」（秀巧社から出版）
54	○現代化をめざす指導内容と指導法の実証的究明 教材の価値にせまらせる操作学習の評価
55	○自己実現の喜びを生みだす学習指導 見直し活動を生かした操作学習の深化
56	○自己実現の喜びを生みだす学習指導 自己を見直し，考えを深める指導のしくみ
57	○自己実現の喜びを生みだす学習指導 自ら見直し活動に取り組み，自己を深める指導のしくみ 「学ぶ喜びを生み出す授業」（北大路書房から出版）
文部省研究開発学校指定Ⅰ（昭和58年度～61年度）	
58	○自己実現の喜びを生みだす学習指導 個が生きる課題づくり
59	○自己実現の喜びを生みだす学習内容の検討 学習実態の多様性に即応する学習指導
60	○自己実現の喜びを生みだす学習指導法 子どもの個性が生きる指導
61	**○自己実現の喜びを生みだす学習指導法** 「学習の個性化をめざす指導法の開発」（明治図書から出版）
62	○自己実現の喜びを生みだす学習指導法 学習の個別化をめざす学習過程
63	○自己実現の喜びを生みだす学習指導法 「学習の個性化」をめざす授業の改造 「感動体験を中核とした生活科の授業づくり」（明治図書から出版）

本　校　研　究　の　あ　ゆ　み　Ⅱ　（平成元年度～29年度）

年度	研究主題等
平成元年	○個が生きる授業の創造 自己理解の学習過程
2	○個が生きる授業の創造 考えを確かにする活動構成
3	○個が生きる授業の創造 考えを深める自己吟味活動を通して 「個が生きる授業づくり」（北大路書房から出版）
4	○生きる喜びを生み出す授業の創造 思い・願いをもって問いつづける活動づくり
5	○生きる喜びを生み出す学習の創造 思いをあらわしていくよさを実感する活動の展開
文部省研究開発学校指定Ⅱ（平成6年度～8年度）	
6	○生きる喜びを生み出す学習の創造 自分のよさを実感する表現活動の展開
7	○生きる喜びを生み出す教育課程の創造 新しい教育課程における教科領域の学習の具体化
8	○生きる喜びを生み出す教育課程の創造 子供主体の活動からみる教育課程の編成 「新時代の授業を創る」（明治図書から出版）
9	○生きる喜びを生み出す教育課程の創造 子供主体の活動からみる教育課程の編成
10	○豊かな人間の育成をめざす教育の創造 活動や体験を基盤にした学習の総合化 「学習創造」（算数・人間・障害児教育）出版
11	○豊かな人間の育成をめざす教育の創造 子供と創る教科・総合的学習の展開 「学習創造」（理科・図画工作・音楽）出版
12	○豊かな人間の育成をめざす教育の創造 知恵と心情をはぐくむ教科・総合の調和的展開 「学習創造」（国語・体育）出版
13	○豊かな人間の育成をめざす教育過程の創造 調和的に展開する教科領域・総合的学習像の明確化 「新世紀の学力づくり」（明治図書から出版）
14	○豊かな人間の育成をめざす教育課程の創造 教科・総合の学びを連動する〈ふくおかプラン〉の展開
15	○豊かな人間の育成をめざす教育課程の創造 「自己追究」の学びを拓く〈ふくおかプラン〉の展開 「評価で変えるカリキュラムづくり」（明治図書から出版）
16	○豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造 「生活・文化・人間の学び」を位置付けた〈ふくおかプラン〉の構想
17	○豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造 自己開発と「生活・文化・人間の学び」を統合する〈ふくおかプラン〉の展開
18	○豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造 協働を中核とした学習の展開
19	○学びを強め確かにする学習の創造 学びの体験を活かす3つの統合による授業づくり
20	○豊かな学びを育む学習の創造 子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり
21	○豊かな学びを育む学習の創造 知のネットワーク化を図る活用・探究の授業づくり
22	○未来を豊かに生きる学力を育む学習指導の創造 活用の質を高める学び方を活かした指導法の開発
23	○未来を豊かに生きる学力を育む学習指導の創造 学び方の連続・発展を重視した授業づくり
24	○「開かれた個」を育てる学習指導の創造 チームを活かした学習過程の工夫
25	○「開かれた個」を育てる学習指導の創造 チームの活動が活性化する学習の工夫
26	○「開かれた個」を育てる学習指導の創造 チームの活動を活かす重点単元の設定と評価の工夫
文部科学省研究開発学校指定Ⅲ（平成27年度～30年度）	
27	○未来社会を創造する主体としての子供の育成Ⅰ 未来創造型の資質・能力に基づく新領域構想
28	○未来社会を創造する主体としての子供の育成Ⅱ 未来創造型の資質・能力を育成する新領域の学習展開
29	○未来社会を創造する主体としての子供を育成する教育課程の編成 子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域の開発

第1日目

12:30～13:00　受付

13:00～13:45
学びのデザイン（公開授業）1

13:45～14:00　移動・休憩

14:00～15:15
全体会
挨拶
全体研究発表
領域研究発表
児童発表

準備

15:25～16:30
トーク・セッション

閉会行事

学びのデザイン（公開授業）1

領　域	学年学級	題　材・単　元	授業者
にんげん	3年2組	つくろう，ぼくたちわたしたちの未来	伊澤　直美 野口　順也
かがく	4年1組	つくろう！創造の世界（プログラミング）	古賀　　誠 永田　裕二
ことば	4年2組	みんなでトークSNS	谷口　慎一郎
くらし	5年1組	すごいよ！日本！ ～増やそう　インバウンド～	井手　　司
ことば	5年2組	ことのはに　こめし思いを　あらつ庵	大橋　美香
けんこう	6年1組	つくろう，ぼくわたしのいきいきプラン	中村　　剛
すうがく	6年2組	引き出そう！　脳の力	曽根﨑　達雄
ことば	3組 (帰国子女学級)	That's why I study … ～第2言語のみ力～	杉本　克如
特別支援 算数	さくら・梅組 (Aグループ)	くらべて　はかって　あそぼう！	藤　　康宏
特別支援 算数	さくら・梅組 (Bグループ)	かぞえて　すすもう！　ゴールを　めざして	赤司　光徳

全体会

挨拶	学　長	櫻井　孝俊
全体研究発表	研究部長	二串　英一
領域研究発表①	第6学年・かがく部	中村　剛・永田　裕二
全体研究発表②	くらし部	井手　司
児童発表	合唱　希望と誇り	合奏　『新世界より』第四楽章　第6学年児童

トーク・セッション

「徹底分析！未来創造型の資質・能力を育成する授業」

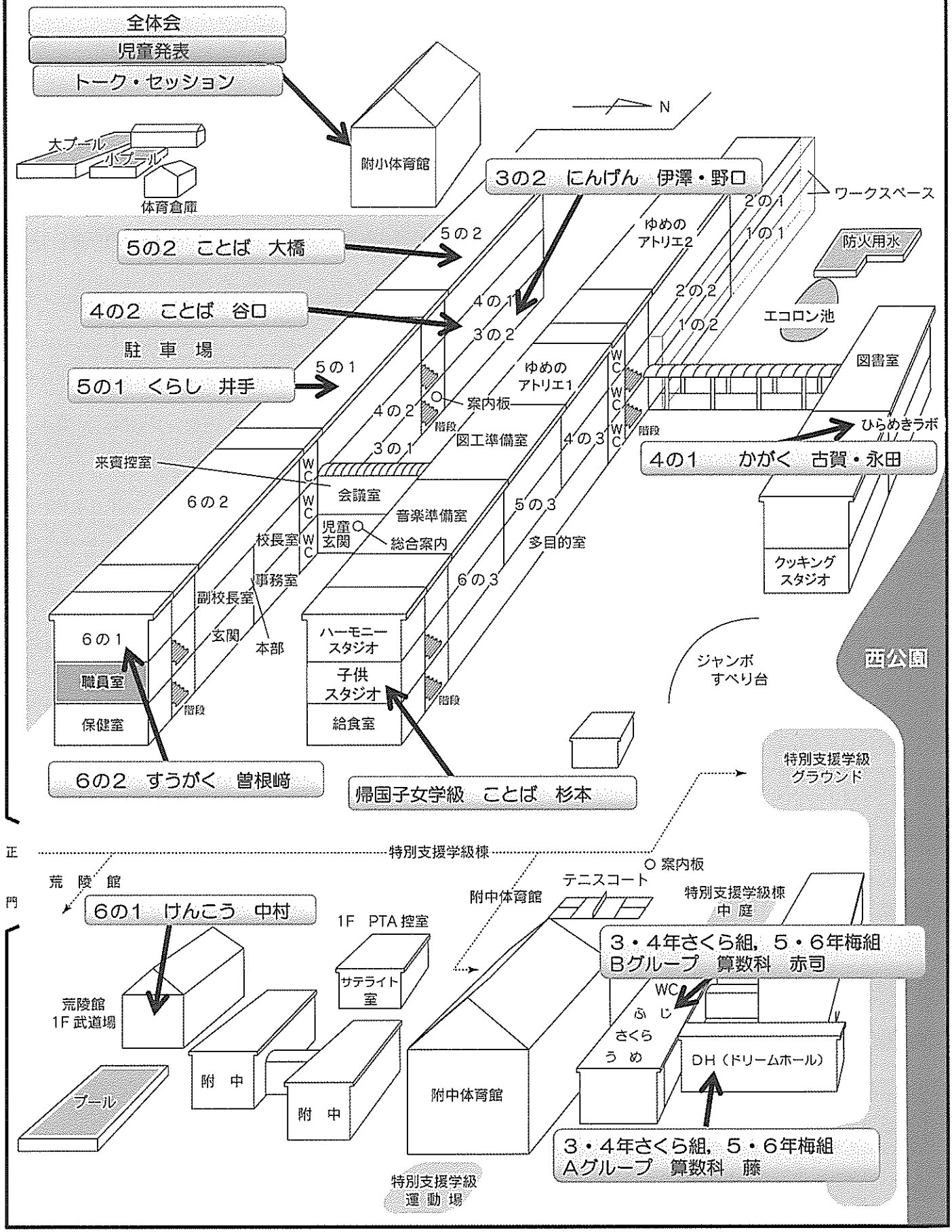
◆ コメンテーター

文部科学省初等中等教育局	教科調査官	渋谷　一典　氏
国立教育政策研究所	総括研究官	福本　　徹　氏
本学教育心理学講座	教授	大坪　靖直
本学学校教育講座	准教授	樋口　裕介
本校	研究副部長	齋藤　　淳

◆ コーディネーター

本校	副校長	髙野　誠一

2月16日（金）会場案内図



第３学年２組　にんげん（Ｃ　いきるみち）

指導者　伊澤直美・野口順也

題材　「つくろう，ぼくたちわたしたちの未来」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「お世話になった人に気持ちを伝えよう」の学習において，自分たちの身の回りにいるたくさんの人のおかげで成長することができていることをとらえたり，感謝の気持ちを自分なりの方法で伝えたりすることができている。そこで，自分の成長や将来のことについて考えることができるようになってきているこの期に，本題材を設定する。そして，将来なりたい自分になるために大切なことを探すために取材する方との出会いや交流を通して，自分の好きなことを見つけて続けていこうとする態度や，将来の自分の姿を描き，自分の意識を更新しながら，努力を続けて取り組むことの意識を高めていきたい。

○　本題材では，将来なりたい自分の姿を描き，そうなるために大切なことを集め，自分の特徴をとらえ，これからできることをしていこうとする態度を育成することをねらいとしている。具体的には，①自分の好きなことや得意なことから自分の特徴に気付くこと，②将来なりたい自分になるためには，多様な過程があることをとらえること，③将来の自分のために，現在の自分の行動を見直していくことである。本題材において，将来なりたい自分をつくるために大切なことを提供する人と関わり，将来の自分のことについてまとめていくことは，子供自ら働きかけ自己の生き方を広げていく上でも，自分の特徴をとらえ，将来に向けての自分の意思を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，将来なりたい自分になるために取材を行う方を対象として，その生き方にふれたり，自分についてまとめたりすることにより，自分の特徴に対する考え方や，将来の自分のあり方に向けて自分の行動についての見方を自己更新できるようにする。まず，導入段階では，自分の好きなことや得意なこと，将来の自分についての考えを出し合い，将来の自分に関する問いを設定する。次に，展開段階では，将来なりたい自分をつくるために大切なことを見つけるために，身の回りの人へ取材をしたり，自分で調べたりして自分シートにまとめることを通して，なりたい自分になるためにはいろいろな過程があることに気付く。最後に終末段階では，将来の自分がどのようにあればよいのかを考え，自分の好きなことを見つけて取り組むことや，将来に向けた自分の生活を変えていこうとする期待感をもたせるようにする。

目標（目指す資質・能力）

○　未来の自分について興味をもち，将来の自分のためにできることについての考えを創ることができる。（創造性）

○　将来の自分をつくるために考えたことを，友達の考えを聞き，話し合うことができる。（協働性）

◎　将来の自分についての考えの変容や，自分の特徴をとらえることができる。（向上性）

学びのプラン（全12時間）

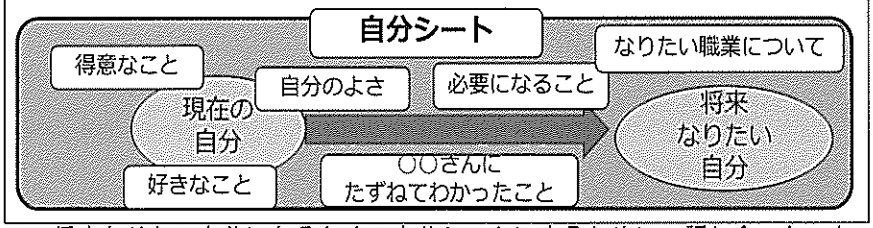
学習活動と内容
1　自分の好きなことや得意なこと，よさについて振り返り，将来なりたい自分の姿についての追究課題を話し合う。　2 ○　現在の自分の特徴や，将来の自分について関心をもつこと ※　今の自分の好きなことや得意なこと，よさを見つける活動 将来なりたい自分になるためには，どのようなことが大切なのだろう。
2　将来なりたい自分をつくるための自分シートづくりを行う。　7 (1) 将来なりたい自分になるために必要なことについて，手がかりを調べる。　④ ○　自分の好きなことをいかした仕事をしている人がいることに気付くこと ※　家族や先生，これまで学習で関わってきた方など，身の回りにいる人への取材活動 (2) 自分シートを紹介し合い，よりよいものへと付加，修正する。　③本時2/3 ○　将来なりたい自分をつくるために，自分の現在や未来についてとらえること ※　将来なりたい自分になるために，現在の自分のことや，調べたことをまとめた自分シートを紹介し合う場の設定
3　将来なりたい自分や，自分の特徴について気付いたことを振り返る。　3 ○　自分の将来に向けて，どのように生活していくかについての考えを見直すこと ※　出来上がった自分シートを紹介したり，自分を振り返ったりする場の設定

本時の目標（向上性）

自分の好きなことや得意なこと，将来なりたい自分について調べてまとめたことなどが書かれた自分シートを紹介し合い，将来のなりたい自分について友達の考えを聞いて自分の考えを発言し，付加，修正しながら自分シートづくりにいかすことができる。

・　これまでつくってきた自分シートを紹介したり，友達の発表を聞いたりすることで，将来，人の役に立つような自分になるためには，いろいろな職業があることに気付いた。自分の得意なことをいかすということにも何かつながりそうだ。

本時の展開（８／１２時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　これまでの自分シートづくりの進み具合を確かめ本時のめあてを話し合う。 ○　将来なりたい自分のために調べてまとめたことを，さらによりよいものにしたいという意識をもつこと ・　将来なりたい自分についてまとめている自分シートが，だんだんでき上がってきたよ。友達はどのようなものをつくっているのかな。	※　自分シートづくりでの考えをつくらせるために，これまで調べたことや活動してきたことを振り返る場を設定する。
めあて　自分シートが未来につながるものになっているか話し合おう。	
2　将来なりたい自分になるためにまとめた自分シートを紹介し合い，友達の発表から自分に取り入れたいことについての考えをつくる。 (1) これまでつくってきた，自分の特徴や将来なりたい自分についてまとめたものを紹介し合う。 ○　つくった自分シートをわかりやすく説明したり，友達の考えを整理して聞いたりすること ・　聞いたり，調べたりした人の役に立つ仕事はたくさんあるな。 ・　友達は自分のよさからいかせることを家族にたずねているな。	※　これまでつくってきた自分シートの内容を交流させるために，自分シートを紹介し合う場を設定する。
(2) お互いに紹介し合ったことから，自分のシートづくりにいかせそうなことは何かについての考えをつくる。 ○　自分シートをよりよくしていくために，友達のシートのよさをとらえること ・　友達が書いていたこれからの自分に必要なことは，自分シートに書き加えよう。	【評価内容】 これまでにつくってきた自分シートの内容を，友達に分かりやすく伝える姿 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言
	※　友達の自分シートのよさに気付かせるために，取り入れたいことについて交流する場を設定する。
3　将来なりたい自分になるための自分シートにするために，話し合ったことをもとにして付加・修正をする。 ○　自分シートをよりよいものにするために，つけ加えたり，修正したりすることをとらえること ・　自分シートには，これから学習していきたいことを書き加えて，将来なりたい自分につなぎたいな。	【評価内容】 自分の考えと交流後の自分の考えとを比べている姿 【評価方法】 ◇学習感想の記述内容と発言
学びのゴール ☆　自分シートに付け加えたいことは，これからどのような勉強をしていくかだ。自分シートをもっとよくしていこう。	※　自分シートに書き加えたり，修正したりすることを決めさせるために，友達のシートのよさを確かめる場を設定する。

第４学年１組　かがく（Ｃ　科学と人間生活）

指導者　　古　賀　　誠・永　田　裕　二

題材　「つくろう！創造の世界（プログラミング）」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，これまで身近な自然事象や未知のものへの探究心を高め，継続的に観察をしたり，実験を行ったりすることができた。また，自然事象における変化とそれに関わる要因とを関係付けることができるようになってきた。そこで，自分の仮説をもとに観察・実験を行い，結果から考察し，結論を導き出すという問題解決の過程が分かってきているこの期に，本題材を設定する。そして，目的に沿って，プログラムをつくりかえる活動を通して，手続き，場合分け，繰り返しなどのプログラミング的思考を身に付け，仮説をもとに，何度も繰り返し追究方法や仮説実験を行い，自らの課題を解決できるようにしていきたい。

○　本題材では，目的としている動作や出来事を考え，フローチャートなどを使って，手続き，場合分け，繰り返しを組み合わせていくことによりプログラムをつくることができることをねらいとしている。具体的には，①自分が考えた図形や絵づくりのプログラムを組み合わせること，②目的としているプログラムを作成する過程において，アナログとデジタルを往還して何度も試行錯誤しながら実行すること，③仮説をもとに，手続き，場合分け，繰り返しなどのプログラミング的思考を向上することである。本題材において，プログラムづくりを扱うことは子供の知的好奇心を喚起し，試行錯誤しながら，自分の創造する事柄を広げ，考えをつくりだすことができることに価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，目的としている図形や絵を考え，手続き，場合分け，繰り返しを組み合わせていくことにより，プログラムのつくり方を理解できるようにする。まず，導入段階では，九州大学の峯教授にプログラムのよさとその動きなどを提示してもらい，追究意欲を高め，プログラムづくりの追究課題を考える。次に展開段階では，グループでどのような図形や絵をつくりたいか考え，フローチャートを利用した仮説をもとに検証し，試行錯誤しながら目的に合ったプログラムをつくるようにする。そして，中間発表会などを入れ，どのようなプログラムを他のグループがつくっているのか交流する。最後に終末段階では，グループで考えた図形や絵を九州大学の峯先生に発表し，自分たちが考えたプログラムの工夫を説明して，プログラムの凄さと面白さを実感し合い，プログラムづくりの価値を見いだすようにする。

目標（目指す資質・能力）

◎　自分がかきたい図形や絵を考え，手続き，場合分け，繰り返しを組み合わせて，プログラムを考えることができる。（創造性）

○　同グループで役割を分担し，協力して図形や絵をプログラムでつくりだしたり，追究課題を解決したりすることができる。（協働性）

○　プログラムをつくる価値を見いだし，自他のよさを実感し，プログラムをつくりだした自他のよさを認め合うことができる。（向上性）

学びのプラン（全12時間）

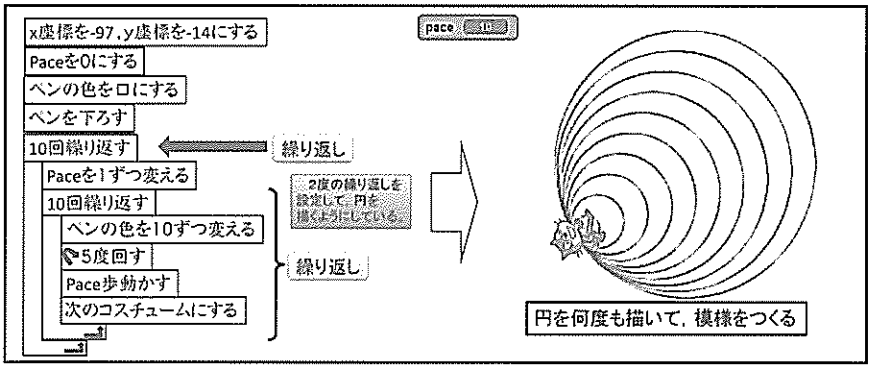
学　習　活　動　と　内　容
1　九州大学の峯准教授にプログラムの話を聞いたりブロックでの創作活動をしたりして，プログラムの疑問を出し合い，学習課題を話し合う。　3 ○　ブロックの創作活動やプログラムの提示を通して，図形や絵を表現するプログラムのつくり方についての学習課題をとらえること ※　九州大学の峯准教授の話と積み木やブロック，パズルなどの創作活動の設定 自分がかきたい図形や絵ができるプログラムをつくろう。
2　目的としている図形や絵のプログラムをつくりフローチャートなどを使って，仮説検証を行いながら，創造した作品をつくりだす。　7 (1)　どのような作品にしたいのか，図形や絵を考え，作品の完成予想を話し合う。　② ○　自分が描きたい具体的な図形や絵の作成手順や計画作成の仕方を理解すること ※　プログラムをした図形や絵の例示と活用 (2)　仮説に沿って，目的とした図形や絵になるようにプログラムを追究する。　⑤本時5/5 ○　プログラムのつくり方を理解し，思うように動かすプログラムの仕組みをとらえること ※　グループの作品を交流する中間発表会の設定
3　自分たちが考えたプログラムを九州大学の峯教授に伝え，プログラムのよさを話し合う。　2 ○　プログラムを使うことによって，表現することのよさや面白さをとらえること ※　自分たちが考えたプログラムのよさや工夫点，面白さを伝え合う交流活動の設定

本時の目標（創造性）

自分がかきたい図形や絵を考え，手続き，場合分け，繰り返しを組み合わせていくことにより，目的としている図形や絵を描くプログラムをつくることができる。

・　３つの円をかくプログラムをつくることができた。次は，その円を使って，模様をつくりたいと思う。何度も繰り返しのコマンドと座標をうまく使って，きれいな模様をつくりたい。どのような模様ができるのか，何度も試しながら，つくりかえていきたいね。

本時の展開（10／12時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　これまでのプログラムを振り返り，グループで目的としている図形や絵をどのようにつくるのかという本時の課題について話し合う。 ○　自分が描きたい図形や絵をどのようなコマンドをうまく使って表すのだろうかという本時の学習の課題をもつこと ・　繰り返しのコマンドと座標の位置を調節すればよいかな。	※　グループの課題を想起させるために，目的としている図形や絵がどこまでできたのかを交流する活動を設定する。
めあて　必要なコマンドを使って，自分たちがかきたい図形や絵のプログラムをつくろう。	
2　仮説をもとに何度も試行錯誤しながら，目的としている図形や絵のプログラムをどのようにつくるのかを話し合う。 (1) 目的としている図形や絵はどのようなものなのかグループで確認し，そのプログラムをどのようにつくるのかを話し合う。 ○　どのような図形や絵にすれば，目的に合うのか見通しをもつこと ・　座標を入れ替えて，次にいくプログラムを組む必要がある。	※　目的としている図形や絵を創造させるために，モデルとなる問題とプログラムを提示する。
(2) 目的としている図形や絵のプログラムをつくりだす。 ○　目的としている図形や絵のプログラムの組合せを考えたり，繰り返しなどのコマンドの組み替え方を創り出したりすること ・　繰り返しのコマンドと座標をうまく関連させることが大切だね。	【評価内容】 目的としている図形や絵を創造して，プログラムを組み替えている姿 【評価方法】 ◇プログラムの内容と発言
	※　図形や絵の動きを確認させるために，付箋をホワイトボードに貼らせて，デジタルとアナログを連動させるようにする。
3　どのような作品ができたのかをグループ間で出し合い，各グループのプログラムのよさや工夫点，改善策を話し合う。 ○　自分たちが考えたプログラムのよさや，図形や絵づくりの内容の工夫点など自分たちのプログラムの面白さをとらえること ・　他のグループが考えた図形や絵のプログラムは，つくり方に工夫があって面白い。ぼくたちもまねをしてつくりたいな。	【評価内容】 プログラムを何度も作り直している姿 【評価方法】 ◇プログラム内容とグループ内での発言
学びのゴール ☆　プログラムのコマンドを一つ入れ替えただけで，図形や絵のかき方が全く違う。プログラムのコマンドを組み替える工夫をすることで，目的としている図形や絵をつくることができる。	※　自分たちが考えたプログラムのよさを実感させるために，他のグループのプログラムのよさを交流する場を設定する。

第４学年２組　ことば（Ｂ　伝え合う）

指導者　　谷　口　慎一郎

題材　「みんなで　トーク　ＳＮＳ」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「みんなが笑顔でくらすために」の学習において，周りの人にとって住みやすいまちにしていくために大切なことについて，自分の考えを伝え，仲間や他者の考えを理解し，考えを深めることができている。そこで，様々な情報を組み合わせながら新たな考えを創り出すことができたり，友達と関わり合いながら自分の考えを深めていきたいという意欲が高まったりするこの期に，本題材を設定する。そして，自分の考えをつくるために，様々な資料を比較・関連付け，資料や事例を根拠にしながら説明しようという表現意欲を高める。

○　本題材では，SNSがもたらす光と影について書かれた資料等を使って調べる活動を通して，複数の資料を関係付けながら自分の考えをつくり，その考えを根拠にして分かりやすく伝え合うことができることをねらいとしている。具体的には，①複数の資料からSNSのよさと問題点について読み取ること，②読み取ったことを根拠にして，自分の考えをつくること，③資料を活用しながら課題について他者と伝え合い，考えをまとめること，④これまでの学習を振り返り，変容した自分の考えに気付くとともに，伝え合うことの満足感を味わうことである。本題材において，これから身近になってくるSNSの世界について自分の考えをつくることは，意欲的に他者と関わっていこうという態度を育てるとともに，資料を活用して自分の考えを分かりやすく伝え合う方法を身に付ける上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，これから身近になるSNSについて着目し「あなたはSNSで，友達を増やしたいか」という論題に沿って伝え合うことで，根拠を明確にしながら自分の考えや思いを意欲的に伝え合うことができるようにする。まず，導入段階では，SNSに関する記事を提示することで，「よさと問題点があるSNSで，友達を増やしたいか」という課題意識をもつようにする。次に，展開段階では，複数の資料を読み取ったり，GTの話を聞いたりして，論題についての立場を決める。とくに，本時では，資料で読み取ったことを根拠にして，立場を決定した根拠を明確にしながらグループや全体で話し合う中で，論題についての考えをまとめる。最後に，終末段階では，これまでの話合い活動を振り返り，伝え合うことで自分の考えを深めることができたよさや工夫して話すことの大切さに気付く。

目標（目指す資質・能力）

○　「SNSがもたらす光と影」「SNSとのつき合い方」について書かれた複数の資料を関係付けながら，考えをつくることができる。　（創造性）

◎　複数の資料を根拠にしながら自分の考えを伝えたり，友達の考えと比べ相違点に着目して論題に対する考えを深めることができる。　（協働性）

○　複数の資料を読み取ったり，SNSについての考えを他者と伝え合ったりすることで，変容した自分の考えを振り返りながら，伝え合うことのよさを感じることができる。　（向上性）

学びのプラン（全12時間）

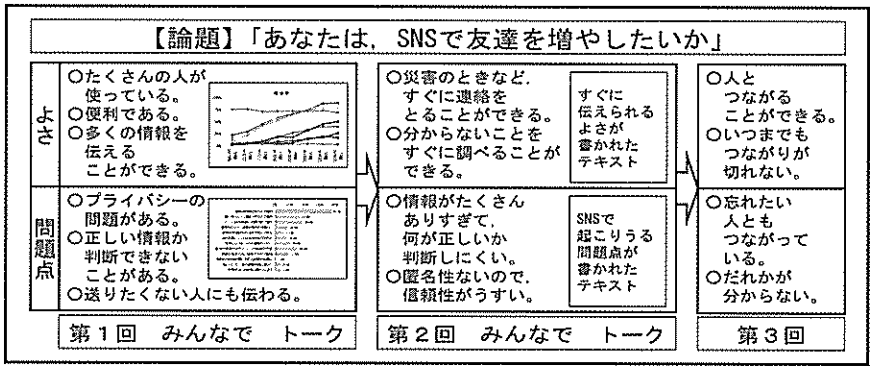
学　習　活　動　と　内　容
1　SNSを体験したり，SNSのよさや問題点について考えたりしながら追究課題を話し合う。　2 ○　社会で普及しているSNSについて関心をもち共通の追究課題を設定すること ※　SNSを体験する場の設定と複数資料の提示 あなたは，SNSで友達を増やしたいか。
2　複数の資料やGTの話から，SNSのよさや問題点について読み取り，他者と伝え合う。　8 (1) SNSについて調べSNSで友達を増やしたいか，増やしたくないかの立場を決定する。　② ○　SNSには情報をすぐに伝えることができる，他者とすぐにつながることができるよさがある反面，関係がすぐに切れるなどの人間関係が希薄になる，情報の信頼性があいまいであるという問題点があることを理解すること ※　GTの活用とSNSについて調べる活動の設定 (2) 資料を読み取ったことをもとに，論題に対する考えをつくり，他者と伝え合う。　⑥本時6/6 ○　根拠を明確にし，筋道を立てて自分の考えを伝えたり，他者の考えと比較し相違点に着目しながら論題に対する考えをまとめること ※　論題に対する考えをまとめるために，新たな資料の提示と全体で意見を交流する場の設定
3　伝え合うことのよさについて話し合う。　2 ○　考えを伝え合うことで，工夫して話すことの大切さや考えを伝え合うよさを実感すること ※　他者と関わり合うことで変容した自分の考えを振り返ることができる交流する場の設定

本時の目標（協働性）

「SNSで友達を増やしたいか」という論題について決定した自分の立場を，新たな資料を活用しながら他者に説明したり，他者の考えを聞き，自分との相違点から考えを変容させたりすることができる。

・ 前の時間に，「SNSで友達を増やしたいか」自分の立場を決めその根拠もはっきりさせることができたよ。今日は，資料を使いながら自分の立場を友達に説明したり，友達の説明を聞いて，自分の考えと同じところ，違うところを見つけ，もう一度自分の考えを見直していきたいな。

本時の展開（10／12時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1 「SNSで友達を増やしたいか」についてつくった考えを，二つの立場が書かれている資料をもとに話し合うという本時の課題について話し合う。 ○ 前時までと同様に，資料を読み取ったことを根拠にして，自分の考えをグループや全体で伝え合い，まとめるという活動の見通しをもつこと ・ 今まで通り，資料を使って，自分の考えを友達に伝えていこう。	※ 本時の学習の見通しをもたせるために，流れ図を活用して前時までを振り返る場を設定する。
めあて 「SNSで友達を増やしたいか」について，みんなでトークしよう。	
2 「SNSで友達を増やしたいか」について資料を根拠にして考えを伝えたり，友達の考えを聞き，相違点に着目したりしながら話し合う。 (1) 「SNSで友達を増やしたいか」についてグループで話し合う。 ○ 複数の資料を読み取ったことを根拠にし筋道立てながら話したり，友達の考えを聞いて，相違点に着目したりして考えを見直すこと ・ この資料を見てください。この資料とこの資料から，SNSは一度にたくさんの人とつながることが分かりました。だから友達を増やしたいです。	※ 自分の思いや考えと他者の考えを比較するために，論題について話し合う場を設定する。
(2) 「SNSで友達を増やしたいか」について全体で話し合う。 ○ グループトークで見直した考えを全体の場で伝え合いながら，即時性，信頼性，活用性の３つの視点から論題についての考えをまとめること ・ 実際に会うことができない人とは，知り合いになれるけれど，それが本当の友達なのかな。本当の友達はSNSではできないのではないかな。分からないな。だから，わたしは，SNSで友達を増やしたくないと考えました。	【評価内容】 資料を関連付けながら根拠を明確にしている姿 【評価方法】 ◇プリントの記述内容と発言
	※ 自分の考えをまとめるために，見直した考えを全体で伝え合う場を設定する。
	【評価内容】 友達を納得させながら考えや思いを説明している姿 【評価方法】 ◇プリントの記述内容と発言
3 本時学習を振り返り，「SNSで友達を増やしたいか」についての変容した考えや伝え合うことのよさについて全体で話し合う。 ○ 変容した考えや友達と話し合うことのよさについて気付くこと ・ 友達と話し合うことで，自分の考えを見つめることができてよかった。 ・ 資料を根拠にして話し合うことで，分かりやすく伝えることができた。	※ 考えの変容や話し合うことのよさに気付かせるために，視点（分かったこと，もっと知りたいこと，友達の考えのよさ）で振り返りを書く活動を設定する。
学びのゴール ☆ 今日も根拠をはっきりさせながら考えを伝えることができた。また，友達と伝え合うことで，論題に対する考えを見直すことができてよかった。	

第５学年２組　ことば（A　知る）

指導者　　大　橋　美　香

題材　「ことのはに　こめし思いを　あらつ庵」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，１学期に「受けつがれてきた理由を考えよう～狂言～」の学習において，おおよその内容が理解できる室町言葉を独特の言い回しで話したり，人間の本能を滑稽に描いた内容におもしろさを感じたりすることができた。２学期は「読もう　孔子のことば～論語研究所～」の学習において，古典文化が伝える教えが今も日本において受け継がれ，自分たちにとって身近なものであることに気付くことができた。そこで，自分の思いや考えを表現して，それを伝えたいと思い始めるこの期に，本題材を設定する。そして，短い句にするために，選ばれた言葉には一人一人が自由に想像できる世界が広がっていることや，想像しながら読むことのおもしろさに気付かせたい。

○　本題材では，言葉では書かれていない作者の思いや情景を想像することや，写真のように時間を止め，その瞬間を具現化することなどの俳句の魅力に気付くことをねらいとしている。具体的には，①俳人と一緒に俳句を読む活動を通して，俳句を読んだり，つくったりすることに関心をもつこと，②俳句を読んで考えたことを話し合ったり，つくった俳句を推敲したりする活動を通して，俳句のおもしろさについて自分の考えをもつこと，③見つけた俳句のおもしろさを交流することである。本題材において，俳句を読んだり，つくったりさせることは，生活の中の小さな変化に気付く喜びを感じさせたり，これからの言葉の使い方を考えさせたりしながら子供たちの言語感覚を高める上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，俳句を読んだり，自分でつくったりすることを通して，俳句の魅力に気付かせることができるようにする。まず，導入段階では，校庭で俳句をつくり，同じ場所でもそれぞれ違う俳句ができることに気付くことを通して，俳句に関心をもち，追究課題を設定する。次に，展開段階では，俳句を読んだり，つくったりする活動を通して，俳句のおもしろさを味わう。その際，つくった俳句をよりよくするために友達と一緒に推敲したり，俳句を読んだ印象について話し合ったりする。最後に終末段階では，俳人と一緒に優れた俳句を読む活動を通して，言葉には書かれていない風景や気持ちを想像することにおもしろさを感じ，そのことを生かして，俳句をつくったり，読んだりする活動を楽しむ。

目標（目指す資質・能力）

◎　言葉を厳選して俳句をつくることや，言葉には書かれていない世界を想像することなどの俳句のおもしろさを見つけ，言葉に対する自分の考えをもつことができる。　（創造性）

○　先人の俳句を読んだり，つくったりする活動を通して，一人一人が想像することには違いがあることに気付き，言葉に関する知識を広げたり，深めたりすることができる。　（協働性）

○　生活の中の小さな変化を発見したり，言葉には書かれていないことを想像したりすることのおもしろさに気付き，これからの言葉の使い方について考えることができる。　（向上性）

学びのプラン（全11時間）

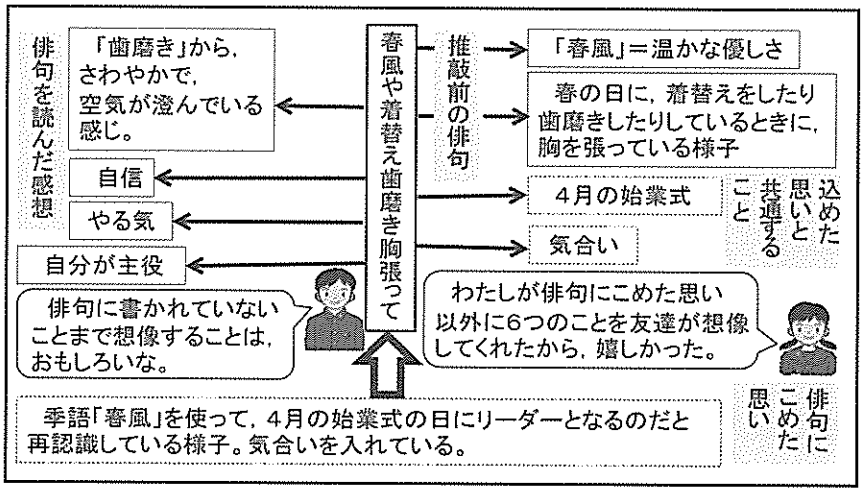
学　習　活　動　と　内　容
1　俳人と一緒に，自分がつくった俳句を推敲し，追究課題について話し合う。　4 ○　俳句を読んだり，つくったりすることに関心をもち，言葉が与える印象について考えること ※　俳人と一緒に推敲する機会の設定 短い言葉にこめられた俳句のおもしろさを見つけよう。
2　先人の俳句を読んだり，つくったりする活動を通して，俳句のおもしろさを調べる。　4 (1) 諸感覚を働かせて，自然に注目してつくられた俳句を読み，俳句のおもしろさを調べる。② ○　俳句にこめられた思いを想像すること ※　先人の俳句を読んで想像した情景を絵や文章に表す活動の位置付け (2) 俳句のつくり手としての立場から俳句のおもしろさを調べる。　② ○　生活の中の一瞬を切り取り，その場面を表す言葉を選ぶおもしろさに気付くこと ※　ホワイトボードを活用した言葉集めの設定
3　読み物資料を読み，俳句のおもしろさについて話し合ったり，見つけた俳句のおもしろさを生かして俳句をつくったりする。　３本時2/3 ○　言葉には書かれていない情景を想像するという俳句のおもしろさに気付くこと ※　俳句の魅力について書かれた資料の提示，俳人と一緒に俳句を読む機会の設定

本時の目標（創造性）

優れた俳句を俳人と一緒に読む活動を通して，言葉には書かれていない風景や気持ちを想像することのおもしろさを感じ，俳句を読んだりつくったりする活動を通して，言葉に対する自分の考えをもつことができる。

・　俳句のおもしろさは，俳句が表現している一場面を自分の経験と重ねながら，言葉には書かれていない情景までも一人一人が自由に想像できることだと思う。

本時の展開（10／11時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　俳人とこれまでにつくった俳句を推敲する観点について話し合う。 ○　子供たちの俳句のよさを見つける活動を通して，既習の俳句のおもしろさを想起し，さらに俳句のおもしろさを見つけることに関心をもつこと ・　自然に目を向け，季語を入れたり，俳句が表している場面が展開するようにつくったりする他に何があるかな。	※　俳句のおもしろさが他にもあることに気付かせるために，俳人に子供たちの俳句を評価してもらう機会を設定する。
めあて　もっとよい俳句にするために，すいこうしよう。	
2　俳句のおもしろさを見つけ，俳句を推敲する。 (1) 優れた俳句を読む活動を通して，俳句のおもしろさを見つける。 ○　言葉には書かれていない世界をとらえることのおもしろさに気付くこと ・　正岡子規の句の「力を入れて赤を咲く」という言葉から，言葉には書かれていないけれど，「元気にする」や「力強さ」などを伝えているように感じた。作者は読み手が多様に想像できる言葉を使うことで，作者と似た「追体験」をさせ，俳句を読むおもしろさを味わわせているんだね。	※　言葉には書かれていない風景や気持ちを想像するおもしろさに気付かせるために，言葉をもとに想像したことを言葉ボードに書いて，整理する場を設定する。
(2) 見つけた俳句のおもしろさを使って，自分の俳句を推敲する。 ○　様々な情景を想像することができる言葉を選ぶことに関心をもつこと ・　どのような言葉に変えようか。 ・　この言葉にすると，どのような情景を想像することができるかな。	※　どの言葉をなぜ変えたのかなど推敲した過程を後で振り返らせるために，学習プリントに推敲した過程を書く活動を位置付ける。
	【評価内容】 読み手が自由に想像できる言葉を使った俳句につくり直す姿 【評価方法】 ◇推敲する姿，推敲した俳句
3　俳句を推敲して感じたことを話し合い，これまでの学習を通して，言葉に対する考え方やこれからどのように言葉を使いたいのかを書く。 ○　言葉の機能や言葉を使うことに対する自分の考え方の変化に気付くこと ・　言葉には書かれていない風景を言葉をもとに想像することが楽しい。	※　言葉の使い手として言葉の見方・考え方の変化をとらえさせるために，俳人に俳句を推敲しているときの子供たちの様子を価値付けてもらう場を位置付ける。
学びのゴール ☆　今まで言葉が与える印象まで考えて使っていなかった。この学習を通して，相手によって言葉から受ける印象が違うことが分かったので，相手に応じて言葉を選んで，使っていきたい。	【評価内容】 言葉の使い手としてこれからどのようにしたいかについて自分の考えをつくる姿 【評価方法】 ◇話合い後の感想

MEMO

第５学年　「見つけよう！日本の魅力！」プラン

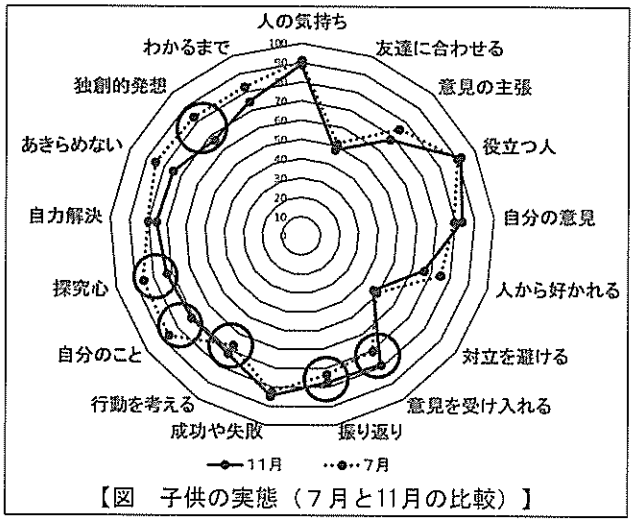
指導者　　井　手　　司・鞭　馬　あゆみ

関連領域　くらし→（くらし・けんこう・にんげん）→くらし
学年テーマ　日本（日本とはどのような国か）

目標（目指す資質・能力）

創造性	日本のもつ魅力に関心をもち，その魅力がどのようなものであるか調べたり，考えたりして，日本とはどのような国であるかとらえ，自分なりの考えをもつことができる。
協働性	よりよい解決方法を見つけるために，友達と協力して情報を集め，折り合いをつけながら話し合ったり，問題に取り組む人々の考え方や思いを理解し，状況に応じた働きかけをしたりすることができる。
向上性	日本人の一人として，日本の魅力について再認識するとともに，その魅力を守り育む一員として，自分にできることを続けていこうという意欲をもつことができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と11月の比較）】

○　５年生の子供たちは，人の気持ちを考えたり，誰かの役に立ちたいと思ったりという社会性の側面は育ってきている。くらし１学期題材「どうする？わが国の領土問題」といった学習では，社会的な問題を考えようとする態度を身に付けてきている。また，けんこう１学期題材「はじめてみようクッキング」では，実践意欲を高めることができた。５年生２学期題材「どうする？食料問題」では，くらしを中心に，けんこう，ことばと関連させながら，世界の食料問題を世界，日本，身の回りの視点から考え，解決方法を追究したり，自分にできることを実践したりする活動を行った。それによって，世界の遠く離れたところであっても，自分にも関係があるかもしれないという広い視野をもつことができた。本題材「見つけよう！日本の魅力！」では，日本の魅力について追究することを通して，子供たちの考える日本の魅力を付加したり，強化したりしながら，日本人としてのアイデンティティをもち，自分にできることを実践する意欲をもたせたい。そこで，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連して学習を展開していく。

関連題材の価値について

○　本題材では，現在，増加している福岡へのインバウンドを，より増やすために実現可能な方法について考え，実践することを通して，日本の魅力（関係性，多様性，心配り，アレンジ力など）についてとらえ，日本人としての自覚をもつ資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域くらしを中心とし，日本の魅力を調べ，福岡へのインバウンドをより一層増やそうとしている福岡市の方に出会うことを通して，子供の求めに応じて，けんこうにおける学習を関連させながら，子供の学びを総合的に深めていくようにする。具体的には，①日本の魅力とインバウンドについて調べることを通して，日本はまだまだ世界に開かれていないことに気付き，追究していきたい課題を見い出すこと（くらし），②日本や福岡のインバウンドの増加に向けた取組を理解すること（くらし），③日本の食文化である和食について知り，自分の健康と結びつけて考えること（けんこう），④ゲストハウスを経営する人の取組の様子から，「おもてなし」とはどのようなものかとらえ，自分の生き方を見つめ直すこと（にんげん），⑤福岡市役所の方に福岡のインバウンドを増やすための計画について提案すること（くらし）などである。各領域での学びを最終的には，日本のインバウンドを増加させるために，自分にできることを考え，実践することにいきつくようにしたい。今後，日本や子供たちの住む福岡においては，2019年にラグビーワールドカップ，2020年に東京オリンピック，2021年には福岡で世界水泳が行われ，一層インバウンドの増加が見込まれる。その点から本題材は，日本の魅力について再認識し，日本人としてのアイデンティティを確立するとともに，日本，そして地元である福岡でできることをしていこうとするグローカル（地球規模で考えながら，地域で活動する）の視点へとつながるという点からも価値がある。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　日本の魅力とはどのようなものか話し合い，これからの学習課題を決める。	2　自分の課題を解決するための方法を考え，課題解決のために必要な追究を行う。
けんこう⑫		学習課題１　和食にはどのような特徴があるのだろう。 1　和食にはどのような特徴があるのか調べる。④ (1) 和食の特徴を調べる。③ ○　和食は，素材そのものを活かした調理であることに気付き，和食のよさが分かること (2) 自分の課題決め，学習計画を話し合う。① ○　自分の食生活を振り返り，和食を取り入れるよさに気付くこと
くらし⑮	1　東京オリンピックを前に，日本への観光へ関心が高まっていることを知り，日本の魅力について追究する課題を決める。⑩ (1) 東京2020国際招致ＰＲフィルムを見て，海外にアピールしている日本の魅力について話し合う。② ○　海外からみえる日本の魅力に関心をもつこと (2)　実際に海外の人に日本の魅力に尋ねて，自分たちの課題を話し合う。③ ○　自分たちのイメージと海外の人のイメージの差に気付き，どのようなことを調べたいのか課題をもつこと (3) 福岡市役所MICE推進課の馬場さんの話を聞き，インバウンド増加のメリットやデメリットについて話し合う。③ ○　インバウンドの増加によって，どのような生活の変化があるのかとらえ，自分の課題とのかかわりについて考えること (4) 自分のテーマについて友達と交流し，自分の追究するテーマを決定する。② ○　調べる中で関心をもったことがテーマとして価値があるのか，追究方法が適切か判断すること	学習課題　海外の方にもっと日本に来てもらうためにはどのようなことをすればよいのだろうか。 2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのようなことが必要になるのか，話し合う。⑩ (1) 自分の考えるインバウンド増加の取組について追究する。⑤ ○　日本の魅力をどのように伝えるかと，伝えるべき日本の魅力とはどのようなものかについて考えること
にんげん④		学習課題　「おもてなし」とは何だろう。 1　近年，増えつつあるゲストハウスの様子から，日本の魅力について話し合い，課題を決める。① ○　福岡市の周辺にできているゲストハウスの様子を見て，おもてなしを感じる部分をとらえ，おもてなしとは何かについて，関心をもつこと

評価	領域「くらし」において，世界に誇る日本の様々な「もの」や「こと」に出合い，それをもとに「海外から見える日本の魅力とは何か」を考えることに関心をもち，追究したいテーマを設定することができる。 →　東京オリンピックを紹介する映像を見たときの感想内容や，その後個人で追究テーマを設定し，それを吟味しながらテーマを付加・修正していく発言内容，記述内容

展開	終末
2　自分の課題を解決するための方法を考え，課題解決のために必要な追究を行う。	3　学習を通して，自分にできるようになったことや考え方の変化について話し合う。

学習課題２　和食を生活に取り入れるにはどうしたらよいだろうか。

2　簡単な和食の調理方法を調べ，調理をする。⑥
(1) これまでの調理技能を活用してつくることができる和食の調理方法を調べる。①
○　簡単に調理できるだし巻き卵ときんぴらごぼうの調理手順を理解すること
(2) だし巻き卵ときんぴらごぼうを調理する。⑤
○　できることが増えたことを実感すること

3　自分の生活にどのようにして和食を取り入れていくことができるのか話し合う。②
○　自分の生活時間や身に付けている技能をもとに，これから実行可能な計画を考えること

2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのようなことが必要になるのか，話し合う。
(2) 自分の考えるインバウンド増加の取組を提案し，他者の意見から改善する。⑤
○　価値が対立するような取組や，目的達成のために多様なアプローチがある取組などについて，その価値を根拠を示しながら，判断すること

本時１／５

（子供の求めに応じて）
3　自分が考えたインバウンド増加のための取組を実施したり，提案したりする。⑤
○　自分の考えたことが形になることで，日本人の一人として自覚をもつこと

【例】
・日本のよさをまとめた動画をつくり，HP上にアップする。
・海外からの観光客向けのパンフレットやポスターをつくる。
・日本に来たいと考えている人に，メールなどで紹介する。
・自分の考えを提案書にまとめ，市役所の方に送る。

2　自分の課題について追究する。③
(1) オリンピックの招致の際に使われた「おもてなし」の意味について話し合う。①
○　言葉の意味や由来など，「おもてなし」の言葉に込められた日本人の考え方をとらえること

2　自分の課題について追究する。
(2) 実際にゲストハウスで「おもてなし」をしている方の取組と，その思いについて聞き，「おもてなし」とは何か，話し合う。②
○　どのような思いで，ゲストハウスを運営しているのかとらえ，その中に見えるおもてなしの心についてとらえること

評価

領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，日本の魅力について考え，海外の方にアピールしようと取組を考えたり，実践しようとしたりすることができる。

→　各領域でかかわってきた人や内容について追究してきたノート記述や表現物，日本のよさを支える人の願いや，価値観がぶつかる中で取り組んでいる発言内容や，解決策を提案する表現物や発言内容

第５学年１組　くらし（A　れきしとぶんか）

指導者　　井　手　　司

題材　「すごいよ！日本！～増やそう インバウンド～」プラン

題材について

○　領域「くらし」では，学年題材である「すごいよ！日本！～増やそう インバウンド～」について考える。また，題材を通して，日本という国をとらえ，日本人としてのアイデンティティをもつことをねらいとしている。具体的には，①日本の魅力（関係性，多様性，心配り，アレンジ力など）について理解すること，②それによって，現在，日本へのインバウンドが増加しつつあり，政府もそれを推進し，特に福岡市は増加が著しいことをとらえること，③日本人として，「日本や福岡の魅力を守り育んでいきたい」という意欲をもつことである。ここでは，日本や福岡のインバウンドを増加させるためのアイデアを考えることを通して，日本の魅力についてより深く追究し，日本人としての自覚をもつことができる。また，日本の魅力を海外の人に伝えるという点から，自国を客観的に考えることにつながり，世界を意識しながら，地元で活動するグローカルな考え方の素地を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，日本のインバウンドを増加するための取組を考える中で，日本の魅力について追究し，日本の歴史，文化，経済，治安，技術などに目を向け，日本とはどのような国であるのか理解する。また，日本人の一員であることを改めて自覚する。まず，導入段階では，子供たちが関心をもっている東京オリンピックの国際招致ＰＲフィルムを視聴し，オリンピックや日本の特色に関心をもち，課題を設定する。具体的には，どうして日本は選ばれたのか，どのような魅力があったのか，どうしたらもっと魅力を伝えられるのかなどが考えられる。その中で，インバウンド増加のための取組に気付き，「もっと増加させるためのアイデアがないか考えたい」という意欲をもつ。展開段階では，それぞれが考えるインバウンド増加のための計画づくりを行っていく。とくに本時では，自分たちが考えるインバウンド増加のための映像の内容について友達や，留学生の方にプランを聞いてもらい，アドバイスをもらう中で，日本人として伝えたいことだけでなく外国の方のニーズを重視したプロモーションの大切さをとらえることができるようにする。終末段階では，アイデアの実現を目指し，実際に取り組んだり，自分たちの考えを市役所の方に提案したりする。このような学習を通して，日本人，福岡市民の一人としての自覚がもてるようにしていく。

目標（目指す資質・能力）

◎　日本の魅力をどのように海外の方に伝え，海外の方にまた来たいと思ってもらえるのか，根拠をもって提案することができる。　（創造性）

○　日本の魅力やインバウンド増加の取組について話し合う過程で，他者の意見から自分の考えを付加・修正し，改善することができる。（協働性）

○　自分の知らなかった日本の姿に気付き，それを海外にアピールすることで，日本人として自覚を感じることができる。　（向上性）

学びのプラン（全25時間）

学　習　活　動　と　内　容
1　日本への観光へ関心が高まっていることから，日本の魅力について追究する課題を決める。　10 ○　東京オリンピック招致に成功した理由や日本の魅力について関心をもつこと ※　東京2020国際招致ＰＲフィルムの提示 海外の方に日本にもっと来てもらうためには，どのようなことをすればよいのだろうか。
2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのような取組が必要かについて話し合う。　10 (1) 自分の考えるインバウンド増加の取組について追究する。　⑤ ○　日本の魅力を伝える方法と伝えるべき日本の魅力について考えること ※　今の取組が分かる政府や市の計画の提示，自分たちの計画について友達と交流する場の設定 (2) 自分のインバウンド増加の取組を提案し，他者の意見から改善する。　**⑤本時1/5** ○　インバウンド増加には，ターゲットとコンセプトを大切にしたプロモーションを行うことや環境整備が重要であることをとらえること ※　市役所の方や海外からの留学生と自分の計画について意見を交流する活動の設定
3　自分が考えたインバウンド増加のための取組を実施したり，提案したりする。　5 ○　自分の考えたことが形になることで，日本人の一人としての自覚をもつこと ※　自分たちの考えを提案書にまとめたり，取組を実施したりして，それを留学生や市役所の方に評価していただく場の設定

本時の目標（創造性）

インバウンドを増加させていくために，プロモーションが大切であることをとらえ，そのための動画に何を入れるべきか，外国の人のニーズや日本人として伝えたいことの両方の視点から考えることができる。

・　３分間という映像の中に何を入れるべきかな。海外の人が知りたいことを入れるのも大切だけど，それ以上に日本人として伝えたいことも入れていかないといけないね。そうすれば，インバウンドが増加しそうだな。

本時の展開（16／25時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　自分たちの制作物をよりよくする本時のめあてについて話し合う。 ○　インバウンド増加のための制作物を改善したいという意欲をもつこと ・　動画をつくったけれど，もっとよりよいものにしたいな。 ・　マナー紹介本をつくったけれど，どこを改善するとよいのだろう。	※　制作物をもっと改善したいという意欲を高めるために，これまでにできている制作物を提示する。
めあて　自分たちがつくっているものをよりよくするために，どうすればよいか，話し合おう。	
2　自分たちがつくっているものをよりよくするために，どうすればよいか，事例グループの制作物をもとに話し合う。 (1) 事例グループの作った動画を視聴し，そのグループのプレゼンテーションをもとに，アドバイスする。 ○　ターゲットとしている人に適したコンセプトになっているのか，そのコンセプトを伝えることができる動画になっているのかについて考えるとともに，海外の人の視点で考える大切さについて気付くこと ・　初めて来る人をターゲットにして作っているから，日本らしさを感じさせることができる「文化」をコンセプトにしているのはよいと思う。 ・　でも，海外の人は着物の着付けよりも日本の食に関心があると思うよ。	※　海外の人の視点で考える大切さに気付かせるために，日本への留学生をGTとして招聘し，子供たちと一緒に改善点について考えアドバイスしてもらう。
(2) 改善するためにはどのような視点で考えることが大切か話し合う。 ○　海外の人の視点やニーズも大切にしながらも，自分たちが伝えたい日本のよさとは何か，改めて考えること ・　WiFiが整っていることを伝えるのはニーズに応えることだけど，これは日本のよさではないな。「おもてなし」の心が日本にあることを伝えたいからもっとそれが伝わるようにできないかな。	※　自分たちが伝えたい日本のよさとは何か改めて考えさせるために，動画の中に使われている映像や写真がニーズに応えようとしたものか，日本のよさを伝えようとしたものか分類する活動を設定する。
本時までに：市役所の方からのアドバイス　／　留学生の方から **ターゲットを決める ⇨ コンセプト（伝えたい日本の魅力） ＋ ニーズ** ○長期周遊タイプ ・自分でプランニング ・観光地以外にも興味あり ○短期リピートタイプ ・次にしたいことが明確 ・体験への関心が高い ○初回来訪タイプ ・買い物に関心が高い ・日本らしさに触れたい 文化／食べ物／便利さ／自然／歴史／… ○海外と比較した日本のよさは何か ○日本の何に魅力を感じているか ○日本へは簡単に来ることができるわけではない	【評価内容】 インバウンド増加には，効果的なプロモーションが大切であることをとらえ，自分の考える映像の価値を判断し，考えをノートにまとめたり，話し合ったりする姿 【評価方法】 ◇　発言や記述の内容
3　自分たちの制作物の改善点について，話し合う。 ○　自分たちが今後改善すべき点に気付くこと ・　自分たちが伝えたい日本のよさとは何かもう一度考えよう。 ・　海外の人がどのようなことに興味があるのかもう一度調べよう。	※　自分たちのグループの改善点を海外の方の視点も取り入れて考えられるようにするためにＧＴの留学生の方に，それぞれのグループに入っていただく。
学びのゴール ☆　海外の方のニーズも意識しながら，日本の魅力が十分に伝わるような動画やマナー紹介パンフレット，案内マップなどを作りたいな。	

第６学年１組　けんこう（Ａ　体）

指導者　　中　村　　剛

題材　「つくろう，ぼくわたしのいきいきプラン」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「どう整える　心と体」の学習において，心と体の状態を整えることが自分自身の健康状態を整えていくためには心の安定に加えて，食事や運動，睡眠などを整える必要があることをとらえている。また，九州北部豪雨に関する学習を通して，毎日の生活が幸せであることをとらえることもできている。そこで，健康をつくりだす生活行動についての理解ができ，健康について自分の考えをもつことができるこの期に，本題材を設定する。そして，ライフステージの異なる人生の先輩から実践できる行動を学び，実践することを通して，いきいきとした生活に対する考え方をつくることができるようにする。

○　本題材では，題材を通して，いきいきとした生活のための生活行動を実践し，そのために行動を考えていくことをねらいとしている。具体的には，①いきいきとした生活を送るには，運動や食事などを整える必要があることをとらえること，②いきいきと生活を送る人の生活行動から今の自分がどのような生活をするべきなのかを考えること，③自分がいきいきとできる生活行動を考えることである。ここでは，様々な年齢の人からいきいきとした生活の秘密を聞き，実践プランをつくることで食生活や運動習慣等の大切さをとらえることができ，現在の自分の生活やこれからの生活を考えることができる。また，多様な方の秘密を探ることはライフステージによる違いや健康観の違いについてとらえることができ，自分自身の健康観をつくる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，多様な方がいきいきと生活をするために実践している生活行動を理解し，自分の生活との相違点をとらえ，実践プランに取り組み，自分が継続してできそうなことを選択することができるようにする。まず，導入段階では，いきいきと生活している方の存在を知り，自分自身の課題をとらえる。次に，展開段階では，いきいきと生活できる理由についてとらえる。その際，自分の生活行動との相違点を探ることでいきいきと生活ができる秘密をとらえ，生活習慣を整えることの大切さをとらえていく。その後，自分の生活をより健康にするためのプランを考え，実践する。最後に，終末段階では，プランを紹介し合い，自分の生活に取り入れることができそうなものを選択することができるようにする。

目標（目指す資質・能力）

○　より健康な生活を送るために，様々な方の生活と自分の生活との相違点から課題をつくり，プランを立てることができる。　（創造性）

○　健康でいられる秘密について，同じ仮説を立てた友達と根拠をもとに話し合い，結論を出すことができる。　（協働性）

◎　自分の生活やいきいきプランの実践を振り返り自分の生活に取り入れることができそうなことを決定することができる。　（向上性）

学びのプラン（全11時間）

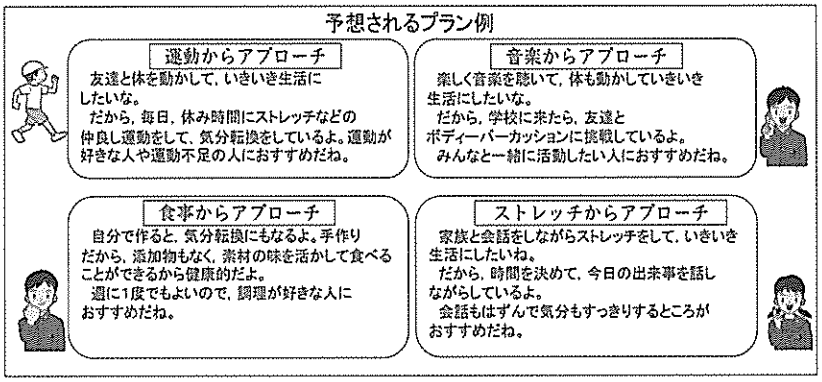
学　習　活　動　と　内　容
1　いきいきと毎日の生活を送っている様々な年代の方と出会い，追究の課題をつくる。　5 ○　中学生や大学生，社会人，お年寄りなど様々な年代の方と運動や音楽などの交流を通して，生き方に憧れをもつこと ※　食事，運動，人との関わりなど多様な健康行動を実践している方々との交流の設定 みんながいきいきとしている理由を探り，健康な毎日を送るプランをつくろう。
2　出会った方がいきいきと生活できる理由を調べ自分自身がより健康になるプランをつくる。　4 (1) 仮説をもとにインタビューや体験をしたりして考えたことを話し合う。　② ○　運動や食事，睡眠や人との関わりなどの観点からいきいきと生活できる理由をとらえること ※　健康な方へのインタビューの場の設定と実践をGTの方から教わることができる場の設定 (2) いきいきとした方の行動と自分の生活とを比較し，いきいきプランを作成する。　②＋課外 ○　いきいきしている方の行動や考え方と自分の生活行動との相違点をとらえ，付加・修正すべき行動や考え方を踏まえて考えること ※　様々な方からの聞き取りを交流する場の設定
3　プランを紹介し合い，自分の生活に取り入れることを決定する。　2本時2/2 ○　互いのプランのよさや共通点をとらえ，自分に取り入れることができるものを選択すること ※　いきいきプランの紹介と実践結果の報告や気付きを交流したり自己決定したりする場の設定

本時の目標（向上性）

いきいきプランの紹介や体験を相互に行うことで，互いのプランの共通点やよさ，日常の生活を整えることが健康な生活を送ることにつながることをとらえ，自分の生活に合った行動を選択することができる。

・　いきいきとした生活を送るために，友達と話をすることを実践したよ。ほかの人は，運動や食べることで気分転換をしていたけれど，お年寄りに尋ねると「人と話をすることで，気持ちが軽くなることもある。大切なことだ。」と言われた。いきいきするには，会話をしっかりと楽しもう。

本時の展開（11／11時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　前時の交流を想起し，本時の学習課題を話し合う。 ○　いきいき提案プランを交流し，そのよさについて話し合うことで自分に合ったプランを自己決定するという本時学習の見通しをもつこと ・　友達のプランを聞くと，運動をすること以外にもいきいきとした生活を送るための秘密があるかもしれない。	※　本時の活動の見通しをもたせるために，前時の交流を振り返る場を設定する。
めあて　友達と提案プランを交流し，自分が実践することを決めよう。	
2　提案プランを交流し，共通点を話し合う。 (1) 友達の考えたいきいき提案プランを体験する。 ○　運動や食習慣，人との関わり方などの多様な観点で実践してきたことを発表し，それぞれの実践のよさをとらえること ・　毎日，簡単運動を実践したよ。運動をすると心もすっきりとするからいきいきと生活できるよ。是非，試してみてくださいね。	※　自分が実践したプランとの違いに気付かせるために，取組内容が分かる一覧表を提示する。
(2) それぞれの発表のよさや共通点を話し合う。 ○　異なる課題解決の方法に取り組んだ友達の発表を見たり聞いたりして，自分たちの考えとの違いを明確にしたりよさをとらえたりすること ・　音楽でいきいき生活を実践したよ。運動をするのもよいと思うけれど，わたしは音楽や食事を工夫することが自分に合っていると感じた。	【評価内容】 友達の実践のよさに気が付いている姿 【評価方法】 ◇発言の内容とプリントへの記述
	
3　自分に合ったいきいきプランをつくる。 ○　友達の考えを聞いて，自分の実践に生かすことができそうなことを自己決定し，実践する意欲を高めること ・　音楽をあまり聴いていなかったけれど，みんなと取り組むと目標ができて楽しかった。みんなと楽しく取り組めることをプランに入れたい。	【評価内容】 自分の実践に活かすことを決定している姿 【評価方法】 ◇プリントへの記述と発言
学びのゴール ☆　ＧＴの方から，音楽や会話，運動や食事など様々ないきいきと生活する秘密を教わった。音楽や運動など自分に合った方法で実践していきたい。	※　実践への意欲を高めるために，ＧＴから子供の活動の価値について話をしてもらう場を設定する。

第６学年２組　すうがく（Ｂ　はっそう）

指導者　　曽根﨑　達　雄

題材　「引きだそう！脳の力」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，１学期や２学期の題材において，問題場面から必要な数量を取り出し，きまりを見つけたり，直観的にひらめいた補助線を図形に引いたりして問題を解決することができるようになってきている。研究開発のアンケートの結果では，人の気持ちを考えたり，役に立ちたいと思ったりする対人的な関係調整は伸びてきている。一方で，意見の主張や独創的な発想の伸びについては課題がある。そこで，本題材を設定し，脳クイズを解いたり，つくったりする活動を通して，考えることの楽しさを実感させたり，数や量，形についての多面的な見方を身に付けさせたりしていきたい。

○　本題材では，脳クイズを解いたり，つくったりする活動を通して，考えることの楽しさを味わったり，直観的にひらめく力を高めたりすることをねらいとしている。具体的には，①数や量，形に関する脳クイズの仕組みをとらえること，②数や量，形に関する脳クイズの仕組みをもとに，自分で脳クイズをつくることができることである。本題材において，脳クイズに関心をもち，脳クイズを解いたり，つくったりする活動を通して，脳クイズの仕組みを追究していくことで，これからの社会で必要となる直観力を鍛えることにつながると考える。また，これから出合う様々な問題を多面的に見て，自分で解決方法を見つけ出そうとする態度を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，脳クイズの仕組みに関心をもたせ，脳クイズを解いたり，つくったりすることができるようにする。まず，導入段階では，毎日，副校長先生から出されている脳クイズを例に，いろいろなパターンの脳クイズを提示し，「自分の脳を柔らかくして，脳の力を引き出すクイズをつくろう。」という課題意識をもつことできるようにする。次に展開段階では，数や量，形に関する脳クイズを解いたり，つくったりする活動を通して，脳クイズの仕組みを見つけることができるようにする。その際，クイズ作家の方と出会わせ，脳クイズの仕組みや脳クイズのつくり方について交流する場を設定する。最後に終末段階では，オリジナルの脳クイズをつくって，解き合ったり，全校の子供たちに問題を出す場を設定したりすることで，脳クイズを解いたり，つくったりすることの達成感を味わうことができるようにする。

目標（目指す資質・能力）

○　脳クイズを解いたり，つくったりすることを通して，脳クイズの仕組みを見つけ，多面的な見方ができる。（創造性）

○　脳クイズの解き方を友達と話し合ったり，お互いに脳クイズの問題を出して，解き合ったりすることができる。（協働性）

◎　脳クイズの解き方を見つけたり，自分で考えた問題を友達が楽しそうに解く姿を見たりして，達成感を味わうことができる。（向上性）

学びのプラン（全13時間）

学　習　活　動　と　内　容
1　いろいろなパターンの脳クイズを解き，学習課題について話し合う。　5 ○　脳クイズを解いたり，自分でつくったりすることに関心をもつこと ※　いろいろなパターンの脳クイズの提示 自分の脳を柔らかくして，脳の力を引き出すクイズをつくろう。
2　数や量，形に関するいろいろな脳クイズを解いたり，つくったりする。　6 (1) すうがくに関する脳クイズを解いて，脳クイズの仕組みについて話し合う。　③ ○　数や量，形に関する脳クイズのパターンを知り，考え方のコツをとらえること ※　クイズ作家との交流の場の設定 (2) 脳クイズの仕組みをもとに，類似のすうがくに関する脳クイズをつくったり，つくった脳クイズを解いたりする。　③ ○　数や量，形に関する脳クイズのつくり方をとらえること ※　つくった問題を友達とお互いに解き合ったり，アドバイスをし合ったりする場の設定
3　オリジナル脳クイズをつくり，友達やクイズ作家の方に脳クイズを解いてもらったり，友達がつくった脳クイズを解いたりする。　**2本時2/2** ○　自分でつくった脳クイズを楽しんで解いてもらったり，友達がつくった脳クイズを解いたりすることで達成感を味わうこと ※　問題を解いた後に付箋にコメントを書く，他者評価の設定

本時の目標（創造性）

脳クイズの仕組みをもとに，数や量，形に関わるオリジナル脳クイズをつくったり，友達がつくった脳クイズを楽しみながら解いたりすることができる。

・ ○○さんがつくった問題はおもしろかった。初めは全然分からなかったけれど，はっと解き方が分かったときはうれしかったよ。たくさん問題を解いていくと，どれも当てはめながら考えていくと答えを見つけることができたよ。また違う脳クイズをつくったり，解いたりしたいな。

本時の展開（13／13時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　オリジナル脳クイズをつくるという本時課題について話し合う。 ○　オリジナル脳クイズをつくり上げて，友達やクイズ作家の方に解いてもらうという本時学習の見通しをもつこと ・ クイズ作家の方が悩むような難しい問題をつくりたいな。 めあて　オリジナル脳クイズをつくり上げて，みんなで解き合おう。	※　脳クイズにはいくつかのパターンがあったことを想起させるために，前時までに自分たちで見つけた仕組みを掲示する。
2　みんながつくったオリジナル脳クイズを解き合って，脳クイズの解き方やおもしろさについて話し合う。 (1) みんながつくったオリジナル脳クイズに挑戦する。 ○　オリジナル脳クイズの解き方を図や式に表すこと ・ この問題は，順番に当てはめていけば解けそうだな。	※　オリジナル脳クイズを完成させるようにするために，クイズ作家の方にヒントをもらえる，ヒントコーナーを設定する。
(2) オリジナル脳クイズの解き方やおもしろさについて話し合う。 ○　オリジナル脳クイズの仕組みをとらえること ・ たくさんの脳クイズがあるけど，どれも何かに置き換えて考えたり，当てはめて考える問題がたくさんあるな。	【評価内容】 オリジナルパズル問題をつくっている姿 【評価方法】 ◇プリントの記述内容と発言
オリジナル脳クイズ（例） 数：スタートからゴールまで行くときに通った数を全てかけて，120になるようにしましょう。（スタート，1，6，5，2，3，3，4，ゴール）　120の約数は？ 量：①～⑧までのおもりがあります。その中に1つか2つ重いおもりがまぎれてしまいました。他は同じ重さです。まぎれたおもりはどれでしょう。（①③⑤，②④⑥，③④⑥，②⑤⑦，①④，③⑦）　絶対にに違うのはどれかな？ 形：タイルを組み合わせて，もとの形になおしましょう。　角にどれが当てはまるかな？	※　問題の面白さ，友達の頑張りを伝えさせるために，問題を解いた感想を付箋に書いて貼れるように付箋を準備しておく。
3　オリジナル脳クイズをつくったり，解いたりした感想を交流する。 ○　オリジナル脳クイズを友達に楽しみながら解いてもらったり，友達がつくったオリジナル脳クイズを解いたりしたことへの達成感を味わうことができること ・ 自分で問題を考えたり，問題を解いたりするのが楽しかった。 ・ 全校のみんなにも，自分でつくった脳クイズを出したいな。	【評価内容】 付箋に問題の面白さ，問題作成者の頑張りなどを記述している姿 【評価方法】 ◇付箋の記述内容と発言
学びのゴール ☆　問題を解く人が悩みながら解くようにと，いろいろ仕組みを合わせながら考えてつくったり，どうすれば解けるのか考えるのが楽しかったな。今までとは，同じような見方でしか問題を見ていなかったけど，脳クイズをつくったり，解いたりして，違う見方をすることができるようになった。	※　子供たちがつくった問題を価値付けるために，クイズ作家の方から評価をもらう場面を設定する。

帰国子女学級　ことば（B　伝え合う）

指導者　　杉　本　克　如

題材　「That's why I study...　～第２言語のみ力～」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，「たんれん（英会話）」の学習において，自分の思いや考えを伝える英語表現を身に付けることを通して，ことばを新たに獲得したり，表現の幅が広がることで，英語で自己表現したりする喜びを実感している。そこで，帰国子女学級のほとんどの子供たちにとって第２言語である英語を学ぶ価値に気付き始めているこの期に，本題材を設定する。そして，滞在国でのことばに関する学びの体験や第２言語の習得に関する価値を子供自ら見いだし，これから学び続けていく意欲を高めていきたい。さらに，第２言語を自分の生活や将来にどのように生かしていきたいか，ことばを使って自分の生活をどのように豊かにすることができるのかについて考えさせたい。

○　本題材では，第２言語を学ぶ目的や価値について自分なりの考えをもったり，これからの学ぶ意欲を高めたりすることをねらいとしている。具体的には，①日本語を学んでいる留学生との交流から「なぜ留学生は日本語を学んでいるのか」「なぜわたしたちは英語や日本語などの第２言語を学ぶのか」という追究課題を見いだすこと，②複数言語に慣れ親しむ人たちへのインタビュー活動をもとに，第２言語を学ぶ価値について考えること，③留学生や帰国子女学級出身の附属中学校の生徒と第２言語を学ぶ上での悩みや喜び，価値などを意見交流することである。本題材において，多様な人たちとの出会いを通して，第２言語を学ぶ価値について考えさせることは，自分の価値観を広げ，多言語・多文化と共生する子供を育てる上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，滞在国で慣れ親しんだ第２言語を学ぶ価値について考え，学び続ける意欲を高めることができるようにする。まず，導入段階では，日本語を学ぶ留学生と意見交流し，「第２言語を学ぶ魅力とは何か」という追究課題を設定する。次に，展開段階では，滞在国でのことばの学びや体験を想起しながら，第２言語や自分の習得状況を考えたり，第２言語を学ぶ価値について自分の考えをもち，留学生や中学生と意見交換したりする。とくに本時では，第２言語を学ぶ価値を自分なりにとらえ，ことばを学ぶ意欲を高めようとする。最後に終末段階では，第２言語をどのように学び，自分の生活や将来にどのように生かしていきたいのかを交流し，英語や日本語などのことばを学ぶ意欲をさらに高めるようにする。

目標（目指す資質・能力）

◎　「なぜ第２言語を学ぶのか」という自分が第２言語を学ぶ理由や価値について，自分なりの考えを見いだすことができる。　（創造性）

○　英語や日本語などの自分が使えることばを使って，第２言語を学ぶ多様な人たちとそれを学ぶ価値について話し合うことができる。　（協働性）

○　第２言語を学ぶ価値を見いだし，第２言語を学び，それを自分の生活や将来に生かそうとする意欲を高めることができる。　（向上性）

学びのプラン（全12時間）

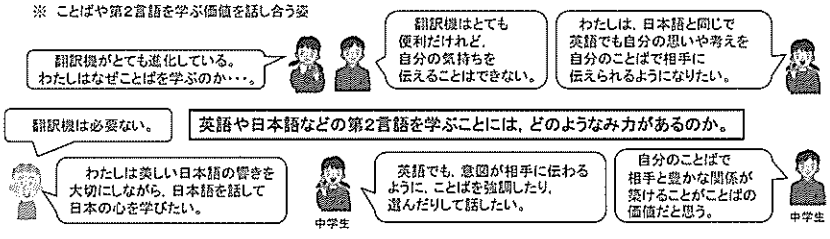
学　習　活　動　と　内　容
1　留学生にインタビューして，日本語を学ぶ理由を整理し，追究していきたい課題を話し合う。４ ○　留学生が日本語を学ぶ理由をとらえ，第２言語を学ぶ価値を追究する課題を見いだすこと ※　留学生との交流，学びの足跡ボードの活用 第２言語を学ぶことには，どのようなみ力があるのだろうか。
2　第２言語を学ぶ多様な人たちとの意見交流を通して，第２言語を学ぶ価値を話し合う。　６ (1) 滞在国で学んだ経験について家族に話を聞いたり，帰国子女学級出身の中学生や大学生と意見交流したりして，自分の考えをつくる。　⑤ ○　滞在国で第２言語を学んだ経験や身に付けた能力には価値があることに気付き，第２言語を学ぶ価値を自分なりに考えること ※　家族へのインタビュー活動，附属中在籍の中学生との交流の設定，学びの足跡ボードの活用 (2) 日本語を学ぶ留学生や英語を学ぶ中学生と，第２言語を学ぶ価値について話し合う。**①本時** ○　第２言語を学ぶ上での悩みを共有したり，第２言語を学ぶ価値を見いだしたりすること ※　留学生や中学生との交流の設定，最新の翻訳機の提示，学びの足跡ボードの活用
3　題材を通して考えた「第２言語を学ぶ魅力」について，自分の考えや学びを交流する。　２ ○　第２言語を学ぶ価値を自分なりにとらえ，これから第２言語を学ぶ意欲をさらに高めること ※　第２言語を学ぶ価値や自分の変容などを交流する場の設定，学びの足跡ボードの活用

本時の目標（創造性）

日本語や英語を使って，第２言語を学ぶ留学生や中学生と交流することを通して，第２言語を学ぶ上での困難や悩みを共有し，第２言語を学ぶ価値について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

・　英語を話すことは当たり前だと思っていたけれど，英語が話せることで，いろいろな人たちとやりとりできて，自分の考えを広げることができる。英語を学んで，自分のことばで伝えることができるようになりたい。

本時の展開（10／12時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　第２言語を学ぶ価値について自分なりに考えてきたこれまでの学習を振り返り，本時の活動について話し合う。 ○　「英語や日本語などの第２言語を学ぶことには，どのようなみ力があるのか」という題材を通した追究課題を想起し，留学生や中学生の話を聞いたり，自分の考えを説明したりする本時の活動への意欲を高めること ・　留学生や中学生のみなさんは，なぜ日本語や英語を学んでいるのかな。わたしが英語を学ぶ理由と同じなのかな。話を聞いてみたい。	※　題材を通した追究課題と本時のめあてをとらえさせるために，学びの足跡ボードを活用して，これまでの学びを共有する場を位置付ける。
めあて　日本語や英語などの第２言語を学ぶみ力について話し合おう。	
2　日本語や英語，非言語などを活用しながら，第２言語を学ぶ留学生や中学生と第２言語を学ぶ価値について意見交換する。 (1) 滞在国での自分の経験をもとに，第２言語を学ぶ上での困難や悩みを発表したり，第２言語を学ぶ価値について自分の考えを出し合ったりする。 ○　第２言語を学ぶ価値について自分なりの考えを明確にしたり，留学生や中学生の意見を聞いて自分の考えを見直したりすること ・　留学生は，日本語を使った仕事をしたいと考えているのだね。ぼくも，英語を使って仕事をしたい。いろいろな国でたくさんの人と交流したい。	※　第２言語を学ぶ価値について，自分の考えを深めさせるために，第２言語を学ぶ上での悩みを共有したり，学ぶ価値を追究したりする話合いを位置付ける。
(2) 第２言語を学ぶ価値やことばの価値について話し合う。 ○　「ことばで自分の思いや考えを相手に伝えることができる」という，ことばの価値をとらえ，第２言語を学ぶ価値と関連付けて考えること ・　翻訳機も便利だが，それでは気持ちまで伝えられない。ことばは自分の気持ちを伝えられる。第２言語を使っていろいろな人と交流したい。	※　第２言語やことばを学ぶ価値への気付きを深めさせるために，最新の翻訳機を提示し「それでもあなたはことばを学ぶか」という発問を行い，その価値に迫る話合いを位置付ける。
※ ことばや第2言語を学ぶ価値を話し合う姿  	【評価内容】 使い手の思いや考えをことばで伝えることができることをとらえ，第２言語を主体的に学び，使っていこうと発言する姿 【評価方法】 ◇交流における発言内容
3　本時の活動を通して学んだことや自分の考えの変容を交流する。 ○　第２言語を学ぶ価値を自分なりに見いだし，学ぶ意欲を高めること ・　今までなぜ英語を勉強するのか考えたことがなかったけれど，滞在国で身に付けた英語の力をもっと高めて，いろいろな人と関わりたい。 ・　ぼくは，日本語でも英語でも，自分のことばで思いや考えを伝えられるようになりたい。だから，新しい英語表現をもっと学んでいきたい。	※　本時の学習を通した自己の変容や意欲の高まりなどを共有させるために，学びの足跡ボードを活用して，自己の学びを伝え合う場を位置付ける。
学びのゴール ☆　母語と同じで，第２言語でも自分の思いや考えを相手に伝えたり，いろいろな人と関わり合ったりしたい。そのためにこれからも学び続けたい。	

第3・4・5・6学年さくら・梅組(Aグループ)　算数科学習指導案

指導者　　藤　　康　宏

題材　くらべて　はかって　あそぼう！

指導観

○　本グループは，さくら組２名，梅組２名，計４名で構成されている。子供たちは遊ぶことに対して意欲的であり，活動に対する安心感や見通しをもつことができれば，自分たちから進んで活動することができる。これまでの学習から子供たちは，ものの長さに気付くこと，対象同士を比較して比べることを経験してきている。また，日常生活の中で自分の身長や靴のサイズなどを表現する際にcmという単位を使用することも理解している。一方で，実際に長さを測る活動では，どのように長さを測定すればよいのか戸惑う様子が見られた。そこで，知っている普遍単位を活かして測定の方法を身に付ける学習は，子供が生活の中で量的な情報をもとに判断したり行動したりしていくことが増えていく段階の子供たちにとって価値がある。

○　本題材では，間接比較や正確に長さを測定する方法を身に付けることをねらいとしている。具体的には，①距離を測定する活動に意欲的に取り組むこと，②飛ばしたおもちゃの距離を間接比較したり，普遍単位を使って測定した長さを比較したりすること，③始点と終点を意識して正確に測定することである。おもちゃを飛ばして遊ぶことは，子供が「わくわく」を感じながら取り組めること，距離を測る必然性があることなどから，正確に測定する方法を身に付けさせることができる。子供が主体的に長さを測定することができる上に，正確に長さを測定する必然性のある本題材は，生活の中で長さを測定することへの興味をもたせることができる上で価値がある。

○　本題材の指導にあたっては，飛ばしたおもちゃまでの距離を正確に測定する方法をつかむことをねらいとする。そこで，まず「動機」段階では，飛ばすことができるおもちゃを提示し，おもちゃを飛ばして遊ぶ中で，その距離に関心をもたせる。そして，個人やペアで飛ばした距離を競い合っていく中で，測定することの必要感をもたせる。次に「熱中」段階では，実際に，飛ばしたおもちゃの距離を測定していくようにする。具体的には，①始点と終点を意識して測ること，②飛ばしたおもちゃの距離を直線で測ること，③距離を測るための道具を選ぶことなどの内容を設定する。最後に「発展段階」では，Bグループの友達を招待し，おもちゃを飛ばした長さを競う大会を開き，大会に一緒に参加したり，大会を運営したりすることで遊びの広がりを実感することへとつなげる。

題材の目標

○　おもちゃを飛ばした距離を進んで測定しようとしたり，何度も繰り返し測定しようとしたりすることができる。　（学びに向かう意欲）

○　おもちゃが飛んだ飛距離を測定する方法を選択したり，長さを正確に測定する方法を理解したりすることができる。　（生活にいきる知識・技能）

（ＡＧ）　ペアの友達と一緒に間接比較したり長さを正確に測定したりすることができる。

（ＢＧ）　ペアの友達と間接比較したり普遍単位を使い長さを測定したりする方法を理解できる。

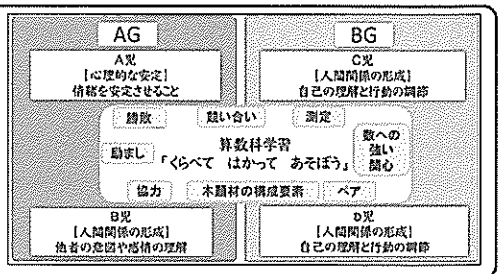
○　始点や終点に着目したり，距離を直線でとらえて測定したりするなど，長さを正確に測定することができる。　（かかわる力）

題材の計画（全６時間）

学　習　活　動　と　内　容	
【事前】さくら・梅組の友達とおもちゃを使って仲良く遊ぶための工夫を身に付けること　自立活動②	
1　様々なおもちゃと出合い，おもちゃを遠くへ飛ばして遊ぶ。　1 ○　学習の目的をつかみ，見通しをもつこと ※　様々な飛ぶおもちゃの提示	
2　おもちゃを飛ばして遊ぶことを通して，友達とその距離を競い合って遊ぶ。　4 (1) おもちゃをより遠くに飛ばして遊ぶ。　②	
ＡＧ	距離を正確に測定するための条件として始点と終点に着目すること
ＢＧ	距離を正確に測定するために始点と終点を結んだ直線距離で長さをとらえること
※　測定に用いる長さや形状の異なる道具の提示 ※　測定方法を視覚化したボードの提示 (2) ペアやグループの友達とおもちゃを飛ばした距離を競って遊ぶ。　②本時2/2	
ＡＧ	おもちゃを飛ばした距離を正確に測定するために適切な道具を判断すること
ＢＧ	普遍単位を用いて，飛ばしたおもちゃの距離を比較する方法をつかむこと
※　複数の長さの比較ができる表の提示	
3　おもちゃを飛ばす大会を開いて遊ぶ。　1 ○　距離を正確に測定することで，勝敗を明確にできたことに対する満足感を味わうこと	
【事後】ふじ組の友達が記録会を楽しむことができる関わり方を身に付けること　自立活動②	

本題材の考え方

本題材は，以下のような考え方に基づき構成されたものである。自立活動において，遊びの中でルールを守ったり，自分の感情をコントロールしたりしながら遊ぶために気を付けることを意識している。そこで，本題材では，子供たちの学び方を基に編成を行い，飛ばしたおもちゃの距離を競い合う算数的活動を中心に学習内容を設定している。友達と協力して，長さの測定方法を身に付けることで，勝敗のあるゲームの楽しさに触れることができるようにしている。



本時の目標

○　飛ばしたおもちゃの長さを何度も測定することができる。　（学びに向かう意欲）

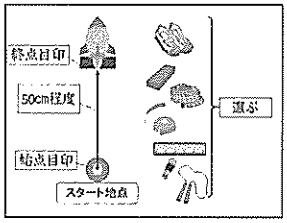
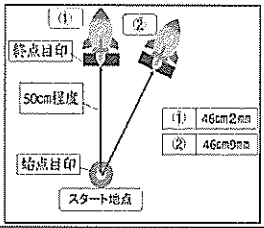
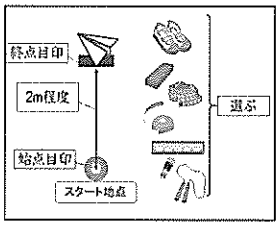
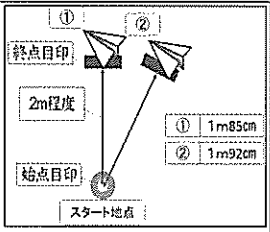
○　道具を使っておもちゃが飛んだ距離を正確に測定したり，距離を比較するために普遍単位を使って数字に置き換えて比較したりすることができる。　（生活にいきる知識・技能）

（ＡＧ）　測定のために始点と終点の直線距離を測定するための適切な道具を判断することができる。

（ＢＧ）　おもちゃを飛ばした距離を比較するために普遍単位を用いることのよさに気付くことができる。

○　正確に長さをとらえようと，始点と終点に着目し直線距離で長さを測定することができる。　（かかわる力）

本時の展開（５／６時）

学習活動と内容	手だて
1　本時で遊ぶおもちゃを確認し，グループのみんなとおもちゃを飛ばして競い合って遊ぶために，ルールや気を付けることなどについて話し合う。 ○　勝敗を明確にするために方法や活動に対する見通しをもつこと めあて　おもちゃを　とばした　きょりを　ただしく　はかって　ともだちと　あそぼう。	1　活動の見通しをもたせるための支援 ※　これまでの活動を記録した表の提示 ※　おもちゃの写真の提示
2　ペアの友達と一緒におもちゃを飛ばして，その距離を競って遊ぶ。 (1) ペアの友達と飛ばしたおもちゃの距離を協力しながら測定し，測定した長さを他のペアの友達と比較して競い合って遊ぶ。	2　活動に熱中する支援 ※　距離を正確にとらえるための始点・終点の視覚化 ※　距離を測るための長さや形状の異なる道具の提示 ※　操作を限定し，誰もが扱いやすいおもちゃの提示 ※　個に応じた支援
AG ○始点と終点の直線距離で50cm程度の長さを測定するための道具を判断すること  	BG ○普遍単位であるcmを使って距離を測定し，長さ同士を比較する方法をとらえること  	（ＡＧ） ・　測定箇所を直線距離で測定するための視覚化 ・　飛ばしたおもちゃまでの距離の測定に集中するための場の構造化 （ＢＧ） ・　正確に計測を進めていくための手順の視覚化 ・　正確に測定を行うための注意点を視覚的に示すボードの提示
(2) おもちゃを調整しながら遠くに飛ばして，グループの友達と協力して距離を測定しながら，その長さを競い合って遊ぶ。	
AG ○始点と終点の直線距離で２ｍ程度の長さを測定するための道具を判断すること  ・　ひもで比べてみると分かるね。	BG ○cmやmといった普遍単位を用いて距離を測定し，長さ同士を比較する方法をとらえること  ・　数字で表すと分かるね。	
3　ペア同士やグループでおもちゃ飛ばしをし，その距離を競い合って勝敗を決めることができた理由についてみんなで話し合う。 ○　距離を正確に測ることによって，勝敗を明確に示すことができたことに対する満足感を味わうこと ・　これを使って他のグループの友達とも遊びたいな。 ・　勝敗が分かってすっきりしたね。	3　活動に満足感をもたせたり自己の成長を実感させたりするための支援 ※　活動の様子を録画した視聴覚資料の提示 ※　全員が発表を行い賞賛し合う活動の設定

第3・4・5・6学年さくら・梅組(Bグループ)　算数科学習指導案

指導者　　赤　司　光　徳

題材　かぞえて　すすもう！　ゴールを　めざして

指導観

○　本グループは，さくら組２名，梅組３名，計５名で構成されている。子供たちは意欲的にゲーム遊びをし，活動の見通しをもつことができれば，自分たちから進んで活動することができる。子供たちは，これまでの算数科学習で集合数，順序数，数の合成・分解，加法などの学習に取り組んでいる。また日常生活において，給食を人数分取って配るときや鬼ごっこをするときなど，数を数える機会が多くある。しかし，学びを具体的な生活の場面で活用することはまだ難しい子供がほとんどである。そこで，具体，数字，数詞の３つを関連付けながら計算する活動を設定することは，子供が生活で数を数えるための素地を養う上でも価値がある。

○　本題材では，すごろくゲームを通して，操作活動をしながら数処理を行うことで，サイコロの目と数字を結び付けて正しく数を数えることや，止まったマスで問題の答えをたし算で求めることをねらいとしている。具体的には，①サイコロの目の数だけコマを動かす活動に粘り強く取り組むこと，②コマの進め方を考えたり，止まったマスに準備された問題の計算の仕方をとらえたりすること，③正しく数を数えてコマを進め，ゴールできたことに満足感を味わうことなどである。すごろくゲームは，遊びの要素を介して学習意欲を高めることが魅力である。また，算数科として，サイコロとコマという具体物を操作することで，数詞，数字，具体物を関連付け，数処理を行いながら思考する楽しさを味わうことができる上でも価値がある。

○　本題材の指導にあたっては，ゴールをするために，具体的な操作活動を繰り返し行いながら，正しく数を数えてコマを動かしたり，たし算の問題に対して，数字を具体物に置き換え，５や10のまとまりを作って計算したりすることをねらいとしている。そこで，まず「動機」段階では，ルールを理解するために，簡単なすごろくゲームで試しの活動を行う。次に「熱中」段階では，正しく数を数えてコマを動かしたり，数字を具体物に置き換えて計算したりして，ゴールを目指す。そのために，すごろくマット上に問題があるマスを設置し，問題を正解するごとに，ゴール前で使える数字の書いてあるスペシャルカードを与え，それらを選ばせたり組み合わさせたりしながらゴールを目指させるようにする。最後に「発展」段階では，満足感を味わうことができるようにするために，数を数えたり，計算したりした学びをいかすすごろくゲーム大会を行う。

題材の目標

○　すごろくゲームでゴールを目指すために，正しく数を数えてコマを進める活動に，粘り強く取り組むことができる。　（学びに向かう意欲）

○　すごろくゲームで，正しく数を数えたり，たし算の問題を解決したりして，コマを進めることができる。　（生活にいきる知識・技能）

（ＡＧ）　10のまとまりを作って，繰り上がりのあるたし算の仕方をとらえること

（ＢＧ）　数字を具体物に置き換えて，繰り上がりのないたし算の仕方をとらえること

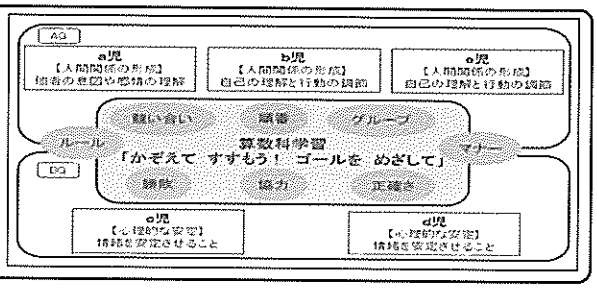
○　友達と数を数えたり計算したりして，ゴールした満足感を味わうことができる。　（かかわる力）

題材の計画（全６時間）

学　習　活　動　と　内　容	
【事前】さくら・梅組の友達とすごろくゲームを通して順番やルールを守って遊ぶこと　自立活動②	
１　すごろくゲームを通して，数を数えてコマを動かしたり，計算したりして試しの活動をする。１ ○　学習の見通しをもち，意欲を高めること ※　個別に用意したすごろくマットとコマ	
２　数を数えてコマを動かしたり，止まったマスのところにある問題を計算したりする。　４ (1) サイコロの出た目の数だけ，正しく数を数えてコマを動かし，ゴールを目指す。　② ※　サイコロの目と数字を一致させるシールの活用 ※　サイコロの目の数と移動できる数を量感としてとらえることのできるシートの提示 (2) たし算の問題が設定されたコースで，数を数えたり，計算したりする。　②本時2/2	
ＡＧ	数字を具体物に置き換え，数え箱を使い10のまとまりを作って，たし算をすること
ＢＧ	数字を具体物に置き換え，タイル板を使い５のまとまりを作って，たし算をすること
※　計算の仕方を視覚化した資料の提示 ※　具体的な操作活動を促す支援具の活用	
３　４コースに分かれたマットで，全員ですごろくゲームをして，学びを振り返る。　１ ○　早くゴールするための進み方や計算の仕方を考え，これまでの学びを実感すること ※　できるようになったことを発表する場の設定	
【事後】さくら・梅組の友達とさいころゲームで，ルールを守って仲良く遊ぶこと　自立活動①	

本題材の考え方

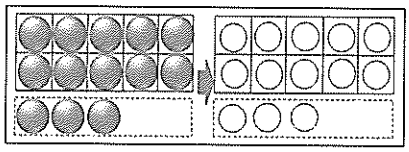
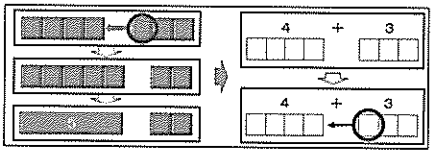
本題材は，以下のような考え方に基づき構成されたものである。自立活動において，ゲームの中でルールを守ったり，自分の感情をコントロールしたりしながら遊ぶために気を付けることを意識している。本題材では，算数的ゲームの要素を取り入れ，ペアやグループでルールを守って，競い合う学習であり，共通の目的に向かって取り組むことで，感情のコントロールを促すものであると考える。



本時の目標

○　すごろくゲームのゴールを目指し，数を数える活動に粘り強く取り組むことができる。　（学びに向かう意欲）
○　すごろくゲームでゴールするために，正しく数を数えたり，すごろくマット上にあるたし算の問題を解決したりして，正確にコマ進める方法をとらえることができる。　（生活にいきる知識・技能）
（ＡＧ）　具体物を操作しながら10のまとまりにし，繰り上がりのあるたし算の仕方をとらえることができる。
（ＢＧ）　具体物を操作しながら５のまとまりにし，繰り上がりのないたし算の仕方をとらえることができる。
○　友達と協力し，数を数えたり計算したりして，ゴールしたことに満足感を味わうことができる。（かかわる力）

本時の展開（５／６時）

学　習　活　動　と　内　容	手だて
1　すごろくゲームをしてゴールをするために，これまでの活動を振り返り，数を数えたり，コマを進めたりするときに，気を付けることを発表する。 ○　ゴール地点までコマを正しく進めるために，どのような数え方やコマの進め方があるのかについて確認し，本時の活動の見通しをもつこと めあて　みちを　えらんで　ただしく　かぞえたり　けいさんしたりして　ゴールを　めざそう。	1　活動への見通しをもたせ一人一人に目標設定させるための支援 ※　前時までのすごろくゲームで進んだ図の提示 ※　マスターカードの提示
2　すごろくゲームをしながら，数を数えたり，すごろくマット上のたし算の問題を解いたりして，正しくコマを進めながらゴールを目指す。 (1) 個人で，サイコロの出た目の数を数えてコマを動かしたり，たし算の計算をしたりしながらすごろくゲームに取り組む。	2　数を数える活動に熱中させるための支援 ※　個とグループで活動するすごろくの場の設定 ※　問題で止まる仕組みのあるすごろくマットの活用 ※　サイコロの目の数と移動できる数を量感としてとらえることができるシート ※　個に応じた支援
ＡＧ ○数え箱を使って10のまとまりをとらえて計算する方法をつかむこと ①　サイコロを振って，コマを進める。 ②　数え箱で10のまとまりを作ってマスにある問題の計算をする。 ③　ゴール前で使える１～６の目が書いてあるスペシャルカードを貰う。 ④　カードを選んでゴールする。	ＢＧ ○タイル板を使って５のまとまりをとらえて計算する方法をつかむこと ①　サイコロを振って，コマを進める。 ②　タイル板で５のまとまりを作ってマスにある問題の計算をする。 ③　ゴール前で使える「１マス進む」と書いてあるスペシャルカードを貰う。 ④　カードを組み合わせてゴールする。	（ＡＧ） ・　10のまとまりを視覚的にとらえることができる数え箱や丸図の提示 ・　ゴール前で使える１～６の目までのカード （ＢＧ） ・　５のまとまりを視覚的にとらえることができるタイル板や図の提示 ・　ゴール前で使える１マス進むカード
(2) グループでサイコロの出た目の数を数えてコマを動かしたり，たし算の計算をしたりしながらすごろくゲームに取り組む。		
ＡＧ ○丸図を使って10のまとまりをとらえて計算する方法をつかむこと  具体物から丸図へ変化	ＢＧ ○タイル図を使って５のまとまりをとらえて計算する方法をつかむこと  具体物からタイル図への変化	
3　問題を解いて集めたスペシャルカードを友達の前で紹介しながら，本時にできるようになったことや，そのために頑張ったことなどを発表する。 ○　数え方や計算の仕方ができるようになったこと，そのことによってすごろくゲームで，ゴールすることができたことなどに満足感を味わうこと	3　数を数える活動に満足感を味わわせるための支援 ※　全員が発表を行い，賞賛し合う活動の設定

トーク・セッション

徹底分析！未来創造型の資質・能力を育成する授業

○　コメンテーター

文部科学省　初等中等教育局	教科調査官	渋谷（しぶや）　一典（かずのり）　先生
国立教育政策研究所	総括研究官	福本（ふくもと）　徹（とおる）　先生
本学教育心理学講座	教授	大坪（おおつぼ）　靖直（やすなお）　先生
本学学校教育講座	准教授	樋口（ひぐち）　裕介（ゆうすけ）　先生
本校	研究副部長	齋藤（さいとう）　淳（じゅん）

○　コーディネーター

本校	副校長	髙野（たかの）　誠一（せいいち）

MEMO

第2日

9:00～9:45　受付

9:45～10:30
学びのデザイン（公開授業）2

10:30～10:45　移動・休憩

10:45～12:00
全体会
挨拶
全体研究発表
領域研究発表
児童発表

12:00～12:40　昼食
（児童自由研究発表 体育館）

12:50～13:35
学びのデザイン（公開授業）3

13:35～13:50　移動・休憩

13:50～15:05
学びのデザイン・カンファレンス（授業協議会）

15:05～15:20　移動・休憩

15:20～16:30
全体講演

閉会行事

学びのデザイン（公開授業）2

領　域	学年学級	題　材・単　元	授業者
げいじゅつ	1年1組	こころつなぐ　あらつあそびたい ～いろ・かたち・おとのあそびでつながる・ひろがる～	岡﨑　教昭
くらし	2年1組	見たい！知りたい！やってみたい！ ～われら　おしごと　ちょうさたい～	関　尚幸
すうがく	3年1組	強い形を見つけよう	石橋　大輔
にんげん	4年1・3組	つながってわかり合おう～となりの外国人～	伊澤　直美
くらし	5年2組	すごいよ！日本！ ～増やそう　インバウンド～	井手　司
かがく	6年2組	日本の未来と科学技術 ～プログラミングでロボットが動く！話す！～	永田　裕二
特別支援 国語	ふじ組	よんで　ほしいな！　はじめての　おてがみ	野村　喜代香
特別支援 国語	梅組	よんで　つくって　あそぼう	辻本　拓

全体会

挨　拶　校　長　豊嶌　啓司
全体研究発表　研究副部長　齋藤　淳
領域研究発表　にんげん部　野口　順也
領域研究発表　特別支援教育部　藤　康宏・辻本　拓
児童発表　合唱　いのちの歌　合奏　『新世界より』第四楽章　第6学年児童

学びのデザイン（公開授業）3

領　域	学年学級	題　材・単　元	授業者
にんげん	1年2組	こころつなぐ　あらつあそびたい ～とどけたい！つながりたい！みらいの小学生へ～	野口　順也
すうがく	2年2組	見つけよう　はこのなぞ	曽根﨑　達雄
ことば	3年1組	ことばはかわる？～国語じてんくらべ～	菊竹　一平
かがく	3年2組	発明しよう！未来につながるひみつ道具	古賀　誠
ことば	4年2組	This is my favorite place. ～福岡のおすすめスポットPR隊～	杉本　克如
けんこう	5年1組	ゲームでつくろう　健康な体	中村　剛
けんこう	5年2・3組	どんなところがすごい？　日本の食事	鞭馬　あゆみ
くらし	6年1・3組	これからの幸せな国のかたち	齋藤　淳

学びのデザイン・カンファレンス(授業協議会)

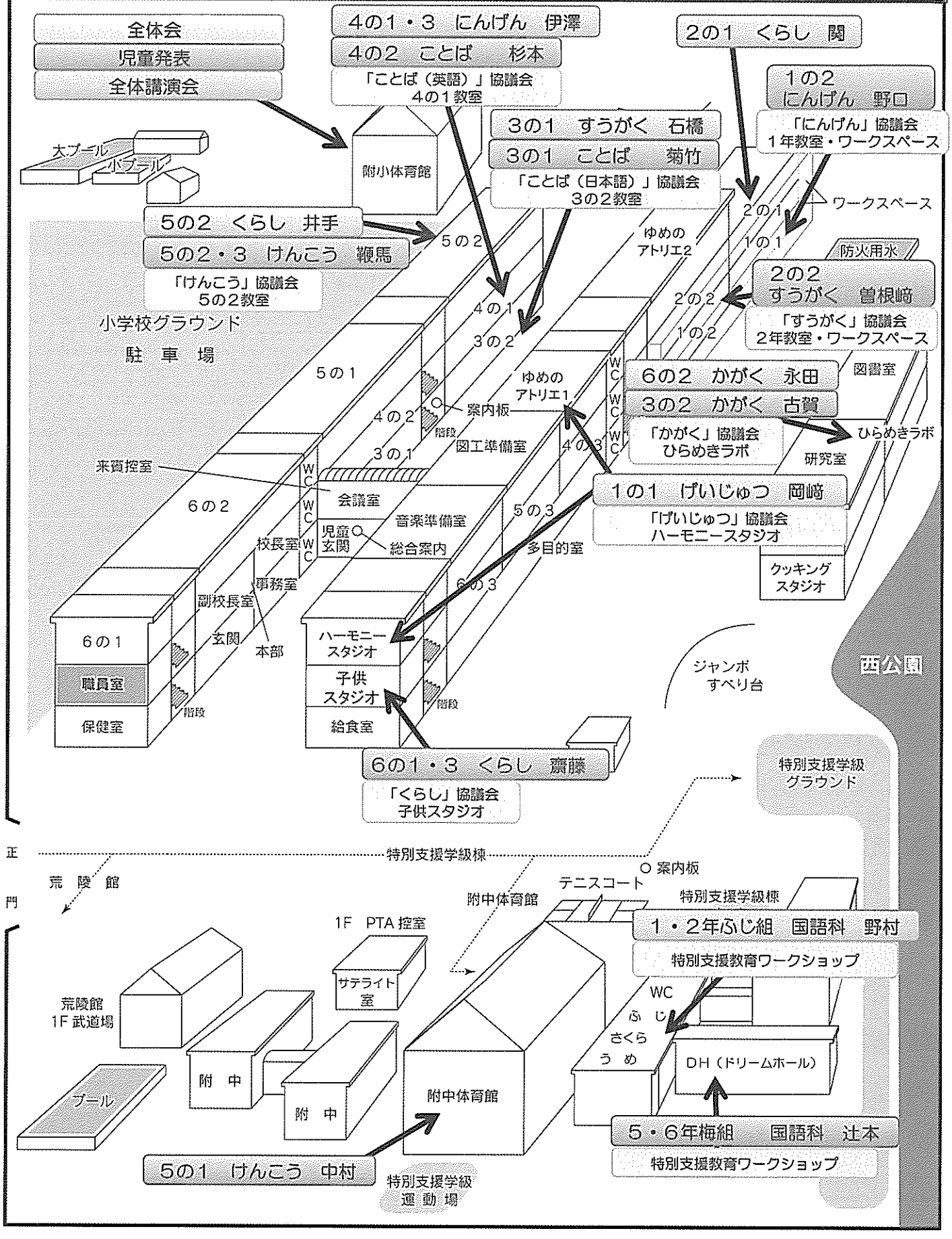
領　域	共同研究者	研究協力者	司会者
ことば（国語分野）	国語教育講座　教授　河野　智文	福津市立上西郷小学校　校長　光延　正次郎	福岡県教育庁南筑後教育事務所　指導主事　山田　深雪
ことば（英語分野）	英語教育講座　教授　中島　亨	篠栗町立篠栗小学校　教頭　大田　亜紀	小郡市立三国小学校　教諭　棚町　尚子
すうがく	数学教育講座　准教授　今井　一仁	春日市立春日野小学校　校長　小森　晃	那珂川町立岩戸北小学校　主幹教諭　島川　二郎
かがく	理科教育講座　教授　坂本　憲明	福岡市福岡中央支援学校　校長　野口　信介	那珂川町立片縄小学校　主幹教諭　福原　伸治
くらし	社会科教育講座　教授　小田　泰司	糸島市立前原小学校　教頭　髙瀬　雄大	福津市立津屋崎小学校　主幹教諭　藤岡　太郎
げいじゅつ	美術教育講座　准教授　笹原　浩仁 音楽教育講座　准教授　山中　和佳子	新宮町立新宮東小学校　主幹教諭　刀坂　順子	福岡市立舞松原小学校　主幹教諭　北田　尚雄
けんこう	家政教育講座　教授　貴志　倫子 保健体育講座　准教授　樋口　善之	小郡市立大原小学校　校長　岩城　一磨 福岡市立若宮小学校　校長　脇本　孝枝	福岡県教育センター教育経営部　主任指導主事　緒方　勝彦
にんげん	学校教育講座　准教授　樋口　裕介 教育心理学講座　准教授　生田　淳一	久留米市立金島小学校　校長　中原　浩 糸島市教育委員会学校教育課　課長　石硯　昭雄	福岡市立三宅小学校　主幹教諭　三浦　研一
特別支援教育	特別支援教育講座　教授　中山　健 教職大学院　教授　納富　恵子	久留米市教育委員会指導主事　中島　卓哉	

全体講演

「新学習指導要領と未来創造型の資質・能力」

講師　國學院大學人間開発学部初等教育学科　教授　田村　学　氏

2月17日（土）会場案内図



MEMO

第１学年　「こころつなぐ　あらつあそびたい」プラン

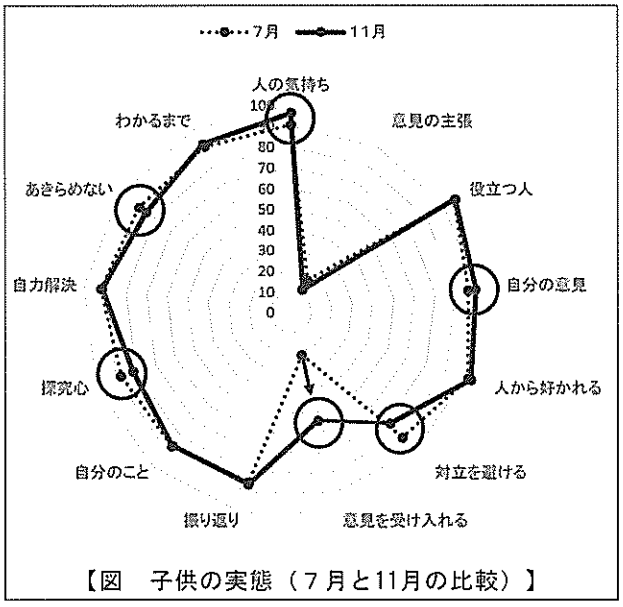
指導者　岡　崎　教　昭・野　口　順　也

関連領域　くらし→（にんげん・げいじゅつ）→くらし
学年テーマ　自立（自分たちの生活を自分たちで豊かにする）

目標（目指す資質・能力）

創造性	様々な材料や場所，友達との関わりを通して，つながりを深めたい他者とともに楽しむために大切なことを考えながら，試しの遊びを繰り返して集団で楽しむ遊びをつくりだすことができる。
協働性	友達と一緒につくりだした集団で楽しむ遊びを体験し合い，感じた面白さや楽しさについて伝え合ったり一緒に遊ぶ相手のことを考えながら，よりよい遊びにしようとしたりすることができる。
向上性	自分たちがつくりだした遊びに面白さや楽しさを見いだし，つながりを深めたい他者とともに楽しめる遊びをつくりだすことができた自分のよさに気付くことができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と11月の比較）】

○　１年生の子供たちは，人の気持ちを考えること，自分の意見をもつこと，異なる意見でもよりよいものを求めて伝え合うことという社会性の側面を育んできている。２学期の「あらつあそびたい」の活動において，晒竹や毛糸などの材料や，四季の舞台，夢広場，ジャンボ滑り台などの場所に関わりながら，自分たちで楽しい遊びを追究していくことができた。そして，自分たちがつくりだした遊びの楽しさを，あらつフェスタで多様な他者に紹介した。それらの活動を通して，ともに遊ぶことで多様な他者と心のつながりを深めることができることに気付き，相手に応じて遊びを変えることや工夫することの必要性を感じ，さらに「あらつあそびたい」の活動を続けて，対象を広げていきたいという追究意欲を高めた。そこで，つながりを深めたい他者とともに遊びを通して関わることの楽しさを味わい，生活をよりよくしていこうとする資質・能力を高めるために，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連した学びを展開していく。

関連題材の価値について

○　本題材では，つながりを深めたい他者とともに楽しむための遊びを自分たちでつくりだし，それらを通して実際に関わりをもつことを通して，自分の身の回りに存在する多様な他者と良好な関係を築きながら自分たちの生活をよりよくしていこうとする資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域「くらし」を中心として幼稚園・保育園の園児と集団で楽しむ遊びを行うことを通して，他者とのつながりを深める。その過程で，子供の求めに応じて「にんげん」「げいじゅつ」を関連させていくことで，効果的に課題を解決していくことができる。具体的には，①幼稚園・保育園の園児と楽しく遊ぶことができる遊びについて，聞き取りや試し遊びをしながら，一緒に遊ぶ相手を意識した遊びをつくることのよさを味わうこと（くらし），②年下の友達と関わる際に大切なことについて考えることを通して，人とよりよい関わりを求めたり，相手の立場を意識した関わりをもつことの大切さに気付き，自己の成長や学びを実感したりすること（にんげん），③わらべうた遊びや不織布を主材料とした色・形の遊び，遊びの場をつくりだすことを通して，曲や材料，場の特徴を活かした表現の面白さや楽しさを味わうこと（げいじゅつ）である。最終的に，各領域の学びを活かして幼稚園・保育園の園児との「たのしくあそぼうかい」を開き，自分たちがつくりだした他者と良好な関係を築くことができる遊びの価値を認識することにつなげたい。また，第１学年の子供たちは，遊びを通して，人の気持ちを考えることの大切さに気付き，他者と関わることの楽しさを見いだすことができる。そして，社会性を身に付け，自立に向けて成長していく。このように，遊びを通して学ぶことは，自分の考えをもち，自分で生活をつくりだしながら様々な特徴をもつ人と関わり，よりよい社会をつくろうとする態度を育む上でも価値がある。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　2学期の「あらつあそびたい」の活動を通して学んだことについて話し合う。	2　幼稚園・保育園の園児とつながりを深めるための遊びを，自分たちでつくる。

くらし⑳

1　あらつフェスタの様子を映像で見たり，互いのマイタイムノートやあそびノートへの振り返りの記述について聴き合ったりしながら，成長した点や今後の「あらつあそびたい」の活動について話し合う。
(1) 2学期の「あらつあそびたい」の活動の成果と課題について，互いのノートへの記述や映像をもとに話し合う。①
○　「あらつあそびたい」の活動に対する全体の評価をもとに，今後の活動について考えるための視点をもつこと
(2) 2学期末に行った活動の振り返りから生じた幼稚園・保育園の園児と遊びを通して関わりたいという欲求をもとに，3学期の「あらつあそびたい」の活動について話し合う。①
○　どのような遊びをつくって活動をしていくのか，具体的な見通しをもつこと

学習課題　幼稚園・保育園のみんなと楽しく遊べるように，「あらつあそびたい」で遊びをつくろう。

2　幼稚園・保育園の園児と一緒に遊ぶ遊びについて調べたり，遊びをつくり実際に遊んだりする。
(1) 幼稚園・保育園の園児や2年生にインタビューをして，どのような遊びがよいか話し合う。④
○　発達段階や立場によって求める遊びの内容や方法が異なることに気付くこと

にんげん⑩

学習課題　どうすれば幼稚園・保育園のみんなともっと仲良くなれるのだろう。

1　遊びを通した関わりで思い通りにならなかったことに対する考えをもち，追究課題を話し合う。①
○　年下の園児たちと関わるときに戸惑っていた自分がいることに気付くこと

2　あけぼの保育園や大日保育園の先生から話を聞き，一緒に遊んだり，学校紹介をしたりする 計画を立て，よりよい関わりを探る。
(1) 保育園の年中児や年長児が楽しめる活動を計画する。②
○　自分だけではなく，園児たちが楽しめるような遊びや学校紹介の内容，　関わり方を考えること

げいじゅつ⑭

学習課題　幼稚園・保育園のみんなと楽しく遊べる色や形，音の遊びをつくろう。

1　不織布に様々な関わり方をしたり，様々なわらべうたで遊んだりしながら，それらの遊びの面白さや楽しさを見つける。②
○　不織布を使った遊びやわらべうた遊びについて追究していくことへの意欲を高めること

2　不織布を使った色・形遊びを考えたり，様々なわらべうたの遊びを試したりしながら，幼稚園・保育園の園児が楽しめる遊びや遊びの場，遊び方を選ぶことができる。
(1) 思い付いた不織布を使った遊びや選んだわらべうた遊びをを試し，面白さや楽しさについて話し合う。④
○　不織布やわらべうたの特徴を活かした遊びの面白さや楽しさを見いだすこと

評価

領域「くらし」において，「あらつあそびたい」の活動の成果と課題をもとに，3学期の活動でしてみたいことや一緒に活動したい他者について話し合う子供の姿から，以下の方法で評価をする。
→　「あそびノート」や「マイタイムノート」への活動の見通しや他者との関わりに関する記述内容，友達とともに話し合っているときの発言内容

展開	終末
2　幼稚園・保育園の園児とつながりを深めるための遊びを，自分たちでつくる。	3　他者とともに，自分たちの集団遊びで遊び，遊びを通して他者と関わることのよさについて話し合う。

2　幼稚園・保育園の園児と一緒に遊ぶ遊びについて調べたり，遊びをつくって実際に遊んだりする。
(2) 幼稚園・保育園の園児の求めに合うような遊びを考え，幼稚園や保育園の園児と一緒に実際に試し遊びをしながら，遊びをつくる。⑧
○　遊ぶ相手に合わせて遊びを選んだり遊び方を変えたりすることのよさを見いだすこと

3　「たのしくあそぼうかい」で，来年度本校に入学する新１年生と一緒に，自分たちが考えた遊びで遊ぶ。④
○　遊ぶ相手に合わせて遊びを選んだり遊びを変えたりすることのよさを味わうこと

4　「あらつあそびたい」の解散式を行う。②
○　「あらつあそびたい」の活動を通して成長したことや学んだことを整理し，これからの自分の生活の中で大切にしていきたいことを明らかにすること

2　あけぼの保育園や大日保育園の先生から話を聞き，一緒に遊んだり，学校紹介をしたりする 計画を立て，よりよい関わりを探る。
(2) 実践した計画のよさや課題を話し合う。 ②
○　園児たちとの関わりを通してできるようになったことをとらえること

3　保育園の園児たちとの経験を活かして，来年度本校に入学する新１年生と関わり活動を行い，自分たちの成長や２年生で目指す姿について話し合う。
(1) 昨年の経験をもとに，本校に入学する新１年生との関わり活動の存在を知り，活動計画を立てる。③
○　入学する新１年生がより楽しく学校に通えるようにするための関わりを考えること
(2) 自分の成長を見つめ，新１年生をどのような姿で２年生として迎えるか話し合う。②
○　新１年生のために活動したように，自分の成長の裏にも身近な人の存在があることに気付き，次年度で目指す姿をもつこと

2　不織布を使った色・形遊びを考えたり，様々なわらべうた遊びを試したりしながら，年長児が楽しめる遊びや遊びの場，遊び方を選ぶことができる。
(2) 幼稚園・保育園の園児と実際に遊んで感想を聞き，さらに面白くするための方法について話し合い，実際に遊びながら遊びをつくりかえる。⑤
○　対象に合わせて色や形，曲の選択や速さを変えながら遊びをつくることのよさを見いだすこと

本時 4／5

3　「たのしくあそぼうかい」で，来年度本校に入学する新１年生と一緒に，自分たちが考えた不織布を使った色や形の遊び，わらべうた遊びで遊ぶ。③
○　つくりだした色や形，音の遊びの価値を見いだし，自分で遊びをつくりだすことのよさを味わうこと

評価

領域「くらし」において，「あらつあそびたい」の活動や「たのしくあそぼうかい」で他者と関わり，自分や友達の成長を見つけたり，学びについて気付いたことを話し合ったりする姿から，以下の方法で評価をする。
→　「あそびノート」や「マイタイムノート」への記述内容，考えた遊びの工夫やつくったものの変化，友達とともに活動しているときの発言内容

第１学年１組　げいじゅつ（A ひょうげん・B かんしょう）

指導者　岡　崎　教　昭

題材　「いろ・かたち・おとのあそびでつながる・ひろがる」プラン

題材について

○　領域「げいじゅつ」では，学年題材である「こころつなぐ　あらつあそびたい」に関連して，「集団で楽しむことのよさを味わうことができる色や形，音の遊び」をつくりだす。また，題材を通して，自分たちでつくりだした他者とのつながりを良好にしていく色や形，音の遊びで，他者とともに遊ぶことのよさをとらえることができることをねらいとしている。具体的には，①不織布に包まれたり，吊り下げた不織布をくぐり抜けたりするなど，体全体で関わりながらできる遊びを見つけたり，不織布の色や形を活かして遊びの場をつくったりすること，②様々なわらべうた遊びをすることを通して，曲による遊び方の違いや速さを変えることによる楽しさの違いなどに気付き，集団で共有することのよさを味わうことなどである。ここでは，自分たちで遊びを楽しむことに没頭する側面と，つながりを深めたい多様な他者とともに遊びを楽しむ側面の両面を取り入れていくことで，様々な立場の人と良好な関係を築き，生活をよりよくしていくために色や形，音の遊びは有効であることに気付くことができるようにしていきたい。本題材において，他者とのつながりを意識した遊びをつくって遊ぶことは，様々な感じ方があり，どれもよさや楽しさがあるということに気付き，生活の中の様々な美を見つけていこうという態度や探究する能力を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，不織布やわらべうたの特徴と遊びの場の特徴，遊びに参加する人の特徴をもとに遊びをつくり，試すことを繰り返し，全員が楽しく遊ぶことができるようにするための不織布の使い方やわらべうたの遊び方を見いだす。まず，導入段階では，包む，切る，風になびかせるなど，不織布に様々な関わり方をしながらできる遊びを見つけたり，様々なわらべうた遊びを楽しんだりする。次に，展開段階では，幼稚園・保育園の園児を意識した遊びのつくりかえやわらべうたの選択を行い，実際に園児と一緒に遊ぶことを通して，自分たちでつくった遊びのよさを実感する。最後に終末段階では，つくりかえた不織布を使った遊びや遊びの場，わらべうた遊びで，来年度本校に入学する新１年生と遊ぶことを通して，他者の肯定的な評価を受け，自分たちの色や形，音の遊びに自信をもち，自分たちで他者とつながりながら生活を豊かにしていくことのよさについて話し合う。

目標（目指す資質・能力）

◎　遊ぶ相手のことを考えながら，不織布の特徴を活かした遊びや遊びの場をつくったり，わらべうた遊びを選んだりすることができる。（創造性）

○　遊びの場やわらべうたを共有する友達とともに遊ぶ相手のことを考えた遊びの工夫について話し合い，試すことができる。（協働性）

○　造形や音楽の要素をもとに，遊びの面白さや楽しさを見いだすことができる。（向上性）

学びのプラン（全14時間）

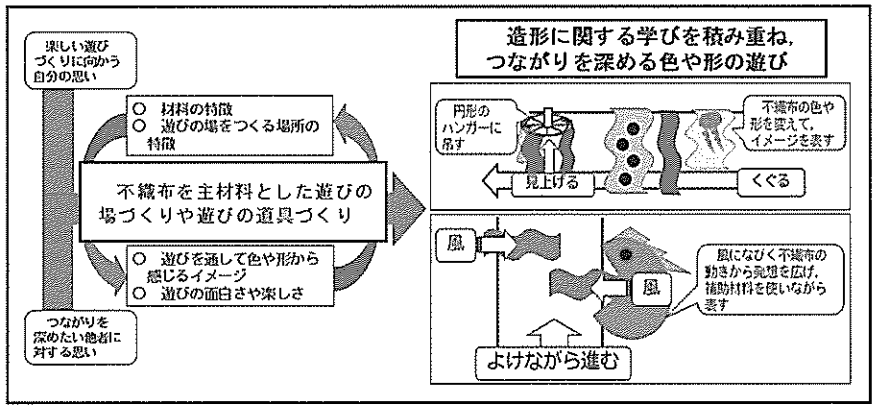
学　習　活　動　と　内　容
1　不織布に様々な関わり方をしたり，様々なわらべうたで遊んだりしながら，それらの遊びの面白さや楽しさを見つける。　2 ○　不織布を使った遊びやわらべうた遊びについて追究していくことへの意欲を高めること ※　大判不織布（120cm×20mの９色，100cm×10mの12色）や室内外でできるわらべうた遊びの提示 幼稚園・保育園のみんなと楽しく遊べる色や形，音の遊びをつくろう。
2　不織布を使った色・形遊びを考えたり，様々なわらべうた遊びを試したりしながら，対象に合う遊びや遊びの場，遊び方を選ぶことができる。９ (1) 不織布を使った遊びやわらべうた遊びを試して，面白さや楽しさについて話し合う。　④ ○　不織布やわらべうたの特徴を活かした遊びの面白さや楽しさを見いだすこと ※　対象となる子供へのアンケート結果の提示 (2) 園児と遊んで感想を聞き，さらに面白くするための方法について話し合い，実際に遊びながら遊びをつくりかえる。　⑤本時4/5 ○　対象に合わせて色や形，曲の選択や速さを変えて遊びをつくることのよさを見いだすこと ※　園児との試しの遊びの場の設定
3　来年度本校に入学する新１年生と一緒に，自分たちが考えた不織布を使った色や形の遊び，わらべうた遊びをする。　3 ○　つくりだした色や形，音の遊びの価値を見いだし，遊びをつくりだすよさを味わうこと ※　遊びの面白さや楽しさへの共感を得ることができる「たのしくあそぼうかい」の設定

本時の目標（創造性）

試しの遊びをしたときの保育園の園児の感想や，自分たちがつくりかえてきたことをもとにして，不織布を使った遊びや遊びの場を新たにつくったり，つくりかえたりすることができる。

・ 保育園の○○くんが，「赤いひらひら布が横から出てきたとき，恐竜が火を噴いたみたいで面白かった。」と言っていたから，ダンボールで恐竜の顔の形をつくって，そこから本当に恐竜が火を噴くようにして，それをよけて通る遊びを考えたよ。きっと，○○くんは，喜んでくれると思うよ。

本時の展開（10／14時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　一緒に試し遊びをした後で聞いた保育園の園児の感想をもとに，不織布を使った遊びのつくりかえについて話し合う。 ○　相手の願いや感じたことをもとにして，新たな遊びをつくったり，遊びをつくりかえたりするための視点をもつこと ・ いろいろな色の不織布でつくった冒険ランドを楽しんでくれて，よかった。不織布をひらひらと動くようにしたら，喜んでくれたので，いろいろな色のひらひら布をつくろうかな。 たのしい　あそびに　なる　しかけや　ばしょを　つくろう。	※　一緒に遊ぶ相手の願いを具体的にとらえさせるために，試しの遊び後の保育園の園児のインタビュー映像を提示する。
2　不織布の使い方や色を変えて遊びを試したり，不織布の特徴を活かすための補助材料を生かして遊びの道具や場をつくりかえたりする。 (1) 不織布や補助材料を使って，遊びの場や遊びに使う道具をつくる。 ○　遊びをさらに楽しくするための不織布や補助材料の特徴を活かした表し方の工夫を見いだすこと ・ 水色の不織布は冷たい感じがするから，北風が吹いてきたみたいに使おう。赤は恐竜がはく炎みたいだと言っていたから，恐竜の顔をつくろう。	※　不織布の色や形を活かした遊びをつくらせるために，ダンボールや色画用紙などの補助材料を提示する。
(2) つくった遊びの場や道具を使いながら，試しの遊びをする。 ○　遊びを通して，不織布の色や形からのイメージをもつこと ・ 北風や恐竜の炎をよけながら進む遊びが面白そうだな。	【評価内容】 相手のことを意識しながら，不織布の色や形を活かして遊びの場や道具をつくる姿 【評価方法】 ◇　遊びの場や道具の変化とそれに対する発言
	※　つくった遊びを楽しみながら色や形からのイメージをもたせるために，色や形から感じたことを伝え合う場を設定する。
3　互いがつくった遊びで遊び，感じた面白さや楽しさを伝え合う。 ○　つくりだした遊びの面白さや楽しさを実感すること ・ 水色のひらひら布が冷たい北風で，赤が恐竜の熱い炎で，それをよけながら進む冒険ランドは，とっても楽しかったよ。ひらひらが飛び出してきて，面白かったよ。きっと保育園の○○くんも喜んでくれると思うよ。	【評価内容】 色や形をもとにして感じたイメージを根拠に，遊びの楽しさについて発言をする姿 【評価方法】 ◇学習感想の記述内容と発言
学びのゴール ☆　前に保育園のみんなと遊んだときよりも楽しい遊びになったよ。色や材料を試してもっと楽しくして，入学してくるみんなを喜ばせたいな。	※　遊ぶ相手が感じる面白さや楽しさを具体的に想像できるようにするために，色，形，動きと感じるイメージをもとにした発言の仕方を例示する。

MEMO

第２学年　「見たい！知りたい！やってみたい！」プラン
～われら　おしごと　ちょうさたい～

指導者　　関　　尚　幸・曽根崎　達　雄

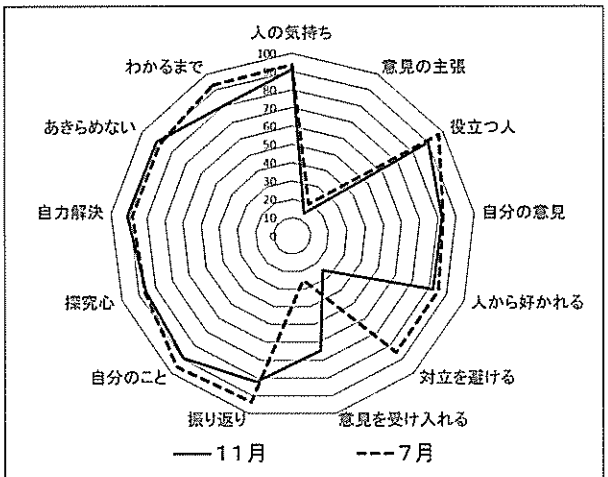
関連領域　くらし→（にんげん）→くらし

学年テーマ　生命（生長と成長）

目標（目指す資質・能力）

創造性	お家の人や地域の人の仕事について自分なりの「問い」をもち，実際に見学したり，体験したりしながら探究し，その活動を通して，自分なりの仕事観を創り上げることができる。
協働性	同じ仕事に興味・関心がある友達と役割分担をしながら調べたり，仕事体験をしたりする活動を通して，お互いの知恵や力を合わせながら，最後まで課題追究することができる。
向上性	これまでにお家の人からいただいていたお小遣いの価値やお家の人や地域の人が働く意味を，自分のこととして考え，自分の成長に気付くことができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と11月の比較）】

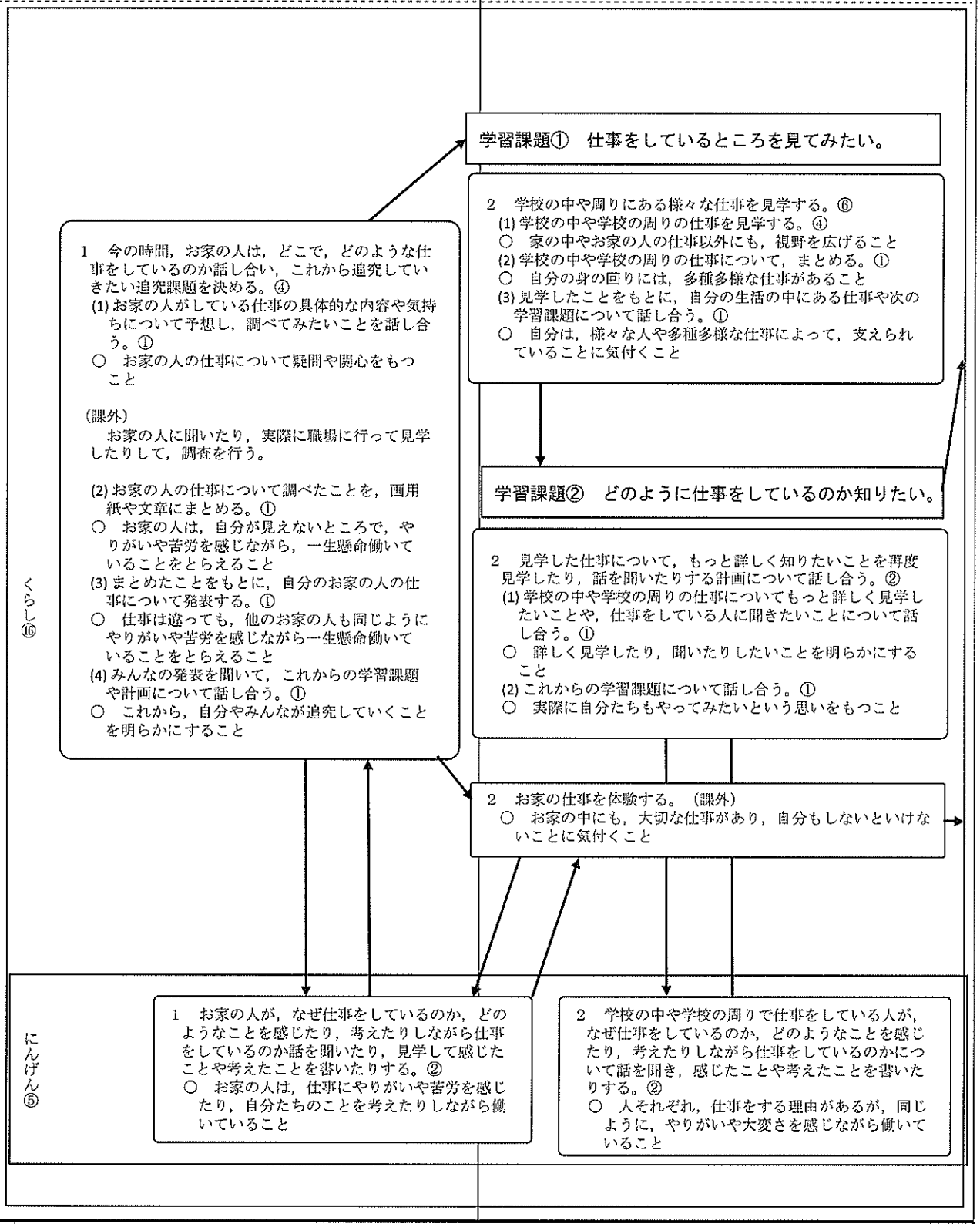
○　２年生の子供たちは「あきらめない」「自力解決」「自分の意見をもつ」など，自分のことは自分で行うなどという側面は育ってきている。２年生の２学期の「くらし」の学習において，マイ野菜を自分で育てるために，様々な方法で調べたり，毎日畑に行って野菜の様子を観察したりしている。その中で，自分だけの野菜のお世話の方法を見いだしたり，必要なものを考えたりして，野菜づくりに真剣に取り組んでいる。このように，自分に必要なことは，意欲的に取り組む子供たちに，体験を通して，自分の問いを見つけ，解決していく資質・能力や他者の意見を受け入れながら自分の考えを創り上げていく資質・能力を身に付けさせたい。そこで，多様な仕事についての調査や体験を通して，仕事について教えてもらいながら，自分で考え，実践し，解決しなければならない本題材を取り上げる。このことは，調査や体験などを通して感じたことや考えたことだけをもとに考えるのではなく，他の人の考えや思いに共感したり，それらを取り入れたりして，考えを創り上げていくことにつながると考える。

関連題材の価値について

○　本題材では，自分に身近なお家の人の仕事（家事も含めた）や学校の中，学校の周りの仕事について，自分なりの問いを見いだし，調査や仕事体験を通して，仕事をすることの楽しさや大変さなどを感じ，そこから自分なりの仕事観を創り上げていく資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域「くらし」を中心とした学習課題を見いだし，調査や体験などの追究をしていく過程で，他領域の学びを子供の求めに応じて関連させていくことで問題解決していく学びを行う。具体的には，①調査や仕事体験を通して，お家の人や地域の人たちは，やりがいや苦労を感じながら，自分も含めた人や社会のために一生懸命働いていることに気付くこと（にんげん），②お家の人からいただいているお小遣いは，自分のお金ではなく，お家の人が一生懸命働いた対価であるから，大切に使う方法を考えること（くらし），③たくさんの人が人や社会のために働いており，働くことは大変だが，楽しさややりがいもあり，そうやってお金を稼いでいること（くらし）などである。このような各領域での学びから，最終的には，お家の人の仕事（家事も含む）や地域の人の仕事，そして，学級の仕事などを振り返ることを通して，自分がしている仕事について考え，その中で働くとはどういうことなのか，自分なりの仕事観を創り上げていく。そうすることで，今の社会，これからの社会を創り上げていく一人としての基盤を養うことにつながり，自分なりに，未来社会を創造する学習が期待されるものである。調査や体験を通して，お家の人やお店などで実際に働いている人の生き方に直接ふれるものであり，領域「くらし」に領域「にんげん」が包含される関係にある。子供は，学習を進める中で，何度もお家の人に調査をすることが考えられ，学びを強化していく。

学びのプラン

段階	導入	展開前半
	1　お家の人の仕事について話し合ったり，調査をしたりして，これから追究していきたい課題を決める。	2　仕事をしているところを見学したり，働いている人に話を聞いたりする。



評価	領域「くらし」において，お家の人は，どこで，どのような仕事（家事も含む）をしているのか予想し，調査や見学を通して，これから自分や学級のみんなが追究していきたい学習課題を設定することができる。 →　お家の人の仕事（家事も含む）の具体的な内容を予想した表現物や調査を通して感じたことや考えたことをまとめた調査用紙の記述内容から

展開後半	終末
3　仕事体験をして，感じたことや考えたことについて話し合う。	4　今まで学んだことをもとに，学級や家庭，地域の中の自分の仕事について，話し合う。

学習課題③　実際に仕事をやってみたい。

4　店番など，いろいろな仕事を体験し，感じたことや考えたことについて話し合う。④
(1) 実際に仕事体験をする。②
○　仕事の楽しさややりがい，大変さを感じること
(2) 仕事体験を通して，感じたことや考えたことについて話し合う。②
○　働くということに対する自分の見方・考え方の変容に気付くこと

2/2本時

学習課題④　家庭や地域，学級の中での自分の仕事を見直そう。

5　これまでの学習をもとに，家庭や地域，学級の中での仕事について調べ，調べたことや考えたことを話し合う。③
(1) 学級や家庭，地域の中での自分の仕事について調べる。①
○　学級や家庭，地域の中での自分の仕事を見つめること
(2) 自分の仕事について，調べる。①
○　自分の仕事も，学級やみんなのためになっていることに気付くこと
(3) これからの自分の仕事に対する姿勢を見つめ直す。①
○　楽しさだけでなく，大変さも理解した上で，みんなのために，仕事をすることの素晴らしさを見直すこと

3　お家の人からいただいているお小遣いを，これからどのように使っていくのか考え，話し合う。①
○　お小遣いは，お家の人が一生懸命働いた対価としてもらっているものであり，大切に使わなければいけないことに気付くこと

3　お店の人と一緒に働きながら，仕事をすることの意味について聞いたり，実際に体験したりして，感じたことや考えたことについて話し合う。①
○　お店の人は大変さだけでなく，楽しさややりがいを感じながら働いていることに気付くこと

評価	領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，学級や家庭，地域の中での自分の仕事について考え，これからどのような気持ちで仕事をしていくのか，理由を明確にしながら発表することができる。 →　家庭や地域，自分の学級での仕事について調べた内容やその仕事に対する自分の見方や考え方の変容をまとめた画用紙の記述内容から

第２学年１組　くらし（b　あそびとしごと）

指導者　　関　　尚　幸

題材　「われら　おしごと　あそびたい」プラン

題材について

○　領域くらしでは，学年題材の中心である「見たい！知りたい！やってみたい！」について考える。また，題材を通して，自分の身の回りには多種多様な仕事があり，みんな時間と労力を使い，一生懸命働いていること，その対価としてお金をもらい，そのお金で今の自分の生活があることをとらえることをねらいとしている。具体的には，①お家の人の仕事（家事も含む）や地域の仕事についての調査や仕事体験などの活動を通して，働く人は楽しさや苦労を感じながら，人や社会のために一生懸命働いていることを理解すること，②自分は，お家の人の労力の対価としてもらったお金をお小遣いとしていただいており，大切に使う方法を考えること，③自分のお家の人や地域の人のように，大変なことはあるが，その中に楽しさを見いだしながら，自分自身の仕事を見つめ直すことなどである。ここでは，調査や仕事体験などを通して，人は時間と労力を使いながら，様々な思いや願いをもって一生懸命働いているという側面と，その対価としてお金を稼いでいるという側面を取り入れていく。そうすることで，お小遣いについて考えさせるとともに，自分なりの仕事観を創り上げるようにする。「仕事」について真剣に考えることは，この先仕事が変化していくであろう実社会において，自分のくらしをどのようにつくっていくのか考える態度や能力を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，お家の人の仕事や地域の仕事，そして，自分の仕事を対象として追究していく。まず，導入段階では，お家の人の仕事（家事も含む）についての調査を通して，お家の人は，楽しさや苦労を感じながら，一生懸命働いていることをとらえ，実際に働いているところを見たい，詳しく話を聞きたい，自分もやってみたいという思いをもつ。次に，展開段階では，地域の人の仕事の調査や体験を通して，楽しさや苦労を実感する。とくに本時においては，仕事体験を通して，仕事に対する自分の見方や考え方が，どのように変容したのか，振り返る。最後に終末段階では，これまでの学習を生かして，家庭や地域，学級での自分の仕事について調べ，自分は仕事をしているのか，どうしてその仕事をしないといけないのか，これから，どのような気持ちで仕事をしていきたいのかについてを発表し，自分の仕事に対する姿勢を見直す。そうすることで，学びを生活に生かし，自分なりの仕事観を創り上げていくようになると考える。

目標（目指す資質・能力）

◎　お家の人や地域，学級での自分の仕事について問いをもち，調査や体験を通して，働くということの楽しさや大変さなど，自分なりの仕事観を創り上げることができる。（創造性）

○　同じ仕事を体験する仲間とともに，役割分担などをしながら活動することができる。（協働性）

○　学習を生かして，家庭や地域，学級での仕事について考え，今の自分を振り返ることができる。（向上性）

学びのプラン（全19時間）

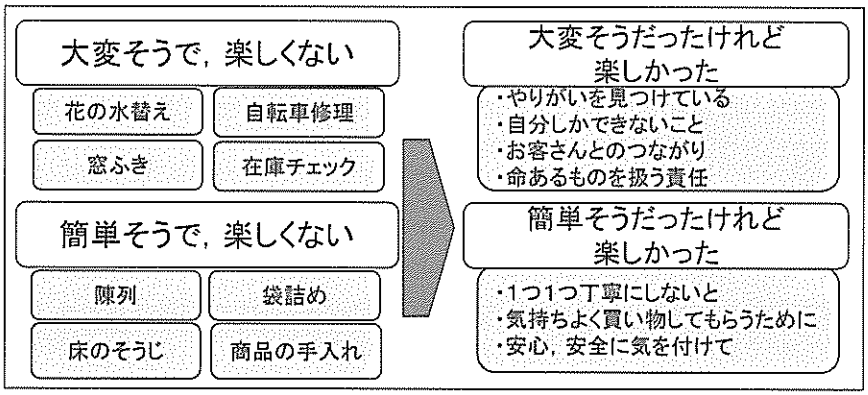
学　習　活　動　と　内　容
1　お家の人の仕事について話し合ったり，実際に職場に行き，調査をしたりして，それぞれがこれから追究していきたい課題を決める。　4 ○　お家の人の仕事に興味をもつこと ※　お家の人の仕事（家事も含む）の調査，体験活動の設定 仕事をもっと詳しく見たり，聞いたり，やってみたりしよう。
2　仕事をしているところを見学したり，働いている人に話を聞いたりする。　8 (1) さらに詳しく見学したり，聞いたりしたいことについて話し合う。　⑥ ○　調査の観点を明らかにすること (2) 仕事体験の計画を立てる。　② ○　実際に働きたいという思いをもつこと ※　学校の中や周りの仕事の調査活動の設定
3　仕事体験をして，感じたことや考えたことについて話し合う。　4 (1) 実際に仕事体験をする。　② ○　やりがいや大変さを実感すること ※　店番など，可能な仕事の体験活動 (2) 体験を通して，感じたことや考えたことについて話し合う。　②本時2/2 ○　仕事に対する見方・考え方を見直すこと ※　具体的な動作などを取り入れた交流の設定
4　今まで学んだことをもとに，学級や家庭，地域の中の自分の仕事について，話し合う。　3 ○　自分の学級の中での仕事を見つめること ※　どのような気持ちで仕事をしているのか語り合う場の設定

本時の目標（創造性）

様々な仕事体験を通して，感じたことや考えたことを実物を使ったり，動作化をしたりしながら仕事の大変さや楽しさを交流することで，様々な仕事に対する自分の見方や考え方の変化と理由について発言することができる。

・　仕事体験前は，「簡単」「やりたくない」と思っていたけれど，どの仕事も大変で，大切だったんだね。働く人は，仕事にやりがいをもったり，お客さんのことを考えたりしながら一生懸命働いているんだね。

本時の展開（16／19時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　仕事体験をする前とした後の仕事に対する自分の見方や考え方の変化について話し合い，どうして変わったのか，その理由を明らかにしようという本時学習のめあてを決める。 ○　仕事に対する自分の考え方の変化に気付き，どうして変化したのだろうか，という本時に解決することを明らかにすること ・　仕事体験前は，「簡単そう」「やりたくない」と思っていたけれど，考え方が少し変わったよ。どうして変わったのかな。	※　唐人町商店街で仕事体験の時の様子や気持ちを想起させるために，仕事体験をしている写真を提示する。
めあて　どうしてしごとについての自分の考えがかわったのか，話し合おう。	
2　模擬仕事体験をし，体験して思ったことや考えたことについて話し合う。 (1) 仕事体験で使った実物を用いて，動作化しながら，自分が体験した仕事をみんなに伝える。 ○　自分が体験した仕事の内容について伝えること ・　この仕事は，こういうところが大変でした。でも，お客さんが物を取りやすいようにと考えることが楽しかったです。そして，お客さんから「ありがとう」と言われたからうれしかったです。実際にやってみます。	※　自分が体験した仕事の楽しさや大変さを伝えたり，体験したりさせるために，実際に仕事体験で使用した道具を提示したり，動作化をしたりしながら，発表する活動を位置付ける。
(2) 様々な仕事の話を聞いたり，体験したりする。 ○　自分が体験した仕事以外にも，様々な仕事があり，それぞれの仕事には楽しさや大変さがあることに気付くこと ・　一つ一つ丁寧にやらないといけないから，とても大変だね。私もやってみたいな。これは，本当に丁寧にやらないといけないね。	【評価内容】 具体物を使ったり，動作化したりしながら，自分が体験した仕事の楽しさや大変さを伝える姿。 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言
	
3　他の仕事グループの発表を聞いたり，体験したりして，仕事に対する自分の見方や考え方が変わった理由について話し合う。 ○　仕事に対する自分の見方や考え方を見直すこと ・　今日の学習で大変そうと思っていた仕事が，実は，楽しかったことが分かったね。働く人は，お客さんのために働いているんだね。	※　仕事に対する自分の見方や考え方の変容を明らかにするために，仕事を記入した付箋紙を移動させ，移動させた理由について話し合う活動を位置付ける。
学びのゴール ☆　大変な仕事でも，そこにやりがいを感じたり，お客さんのためにと思ったりしながら，働いているんだね。おしごとってどれも大切だね。	【評価内容】 話を聞いたり，体験したりしたことをもとに，付箋紙を移動させ，発言する姿 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言

第３学年１組　すうがく（Ａ　数楽のちえ）

指導者　　石　橋　大　輔

題材　「強い形を見つけよう」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，自分が調べたいことについては主体的に追究を行う態度が身についてきている。とくに１学期題材「つくろう！生き物のひみつの力」では，生き物がもつ習性を自分なりに調べ，明らかにしていく姿が見られた。また，２学期題材「つくろう！わたしたちの小さな森」では，学校の自然環境から課題意識をもち，図鑑で植物の特徴を調べたり，実際に植物を育てたりして解決方法を模索する姿が見られた。研究開発アンケートの結果では，友達に合わせたり，人の気持ちを考えたりする項目で高い数値が見られた一方，自分で考える項目については低い数値であった。つまり，課題に対して自分なりの方法で追究していく学習過程の工夫が必要であると考える。

○　本題材では，図形を強度の視点でとらえ，自分で考えた計画に沿って生活に役立つものづくりを行うことを通して，どのような図形が丈夫なのか追究することをねらいとしている。具体的には，①図形の強度を調べたいという思いをもとに，どのような図形が丈夫なのかをとらえること，②ものづくりに図形の強さを生かすことである。ここでは，生活に役立つものづくりという目標を達成するために必要となる図形の強さをとらえられるようにしていきたい。本題材において，ものづくりという目標をもった上で図形の強さを追究させていくことは，子供が問題解決に主体性をもって取り組む態度を育成することや，身の回りのものを図形の視点でとらえる見方を養う上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，丈夫な踏み台をつくりたいという思いをもとに追究し，丈夫な図形をとらえることができるようになる。まず，導入段階では，丈夫な踏み台をつくりたいという思いをもたせるために，踏み台が潰れてしまい，うまくいかない例を提示する。次に，展開段階では，ものづくりに必要となる図形の強さを探り，どのような図形が強いのかを明らかにする。とくに本時では，人が乗ることができる踏み台に生かせそうな図形の強さを，比較しながら明らかにしていく活動を行う。具体的には正六角形を組み合わせた踏み台と，円柱を組み合わせた踏み台とでは，どちらが強いのか，図形を組み合わせたときの強さを追究していく。最後に終末段階では，明らかになった図形の強さを生かし，踏み台づくりを行う。踏み台づくりを通して，本題材での学びが生かせるようにする。

目標（目指す資質・能力）

◎　「人が乗ることができる踏み台をつくりたい」という課題意識をもとに，追究活動を通して丈夫な図形を明らかにすることができる。（創造性）

○　一人で問題を解決できない場合に，追究する方法について話し合ったり，協力しながらデータを収集・整理したりすることができる。（協働性）

○　追究方法を振り返ったり，学びを生かした踏み台をつくったりすることを通して，自分の学びを実感することができる。（向上性）

学びのプラン（全９時間）

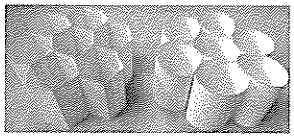
学　習　活　動　と　内　容
１　すぐに潰れてしまう踏み台を見て，これからの追究課題について話し合う。　１ ○　構造物の強度が図形にあるのではないかということに着目し，人が乗ることができる踏み台をつくりたいという思いをもつこと ※　上に物を載せると潰れてしまう製作物の提示 どのようにすれば，人が乗ることができるような踏み台をつくることができるだろうか。
２　図形の強さを追究する活動を行い，踏み台づくりに適した丈夫な図形を見つける。　４ (1)　底の形が違う図形の強さを調べ，その強度を実証するために，一番丈夫だと思われる踏み台に実際に乗る。　② ○　底の形に着目し，円柱の踏み台が本当に丈夫なのか調べたいという思いをもつこと ※　様々な底の形をした踏み台のモデルの提示 (2)　図形を組み合わせてつくった踏み台が本当に丈夫か，その強度を探る。　②本時2/2 ○　図形を組み合わせることで丈夫になることをとらえること ※　図形の強度が数値化できる教具の準備，結果をとらえやすくするためのプリントや表の活用
３　これまでの学びを生かし，人が乗ることができる踏み台をつくり，図形の強度を検証する。　４ ○　生活に役立つ踏み台づくりを通して，図形の強度を実感すること ※　構造物の設計の仕方を話し合う場の設定，これまでに明らかになった丈夫な図形の掲示

本時の目標（創造性）

正六角柱を組み合わせた踏み台と円柱を組み合わせた踏み台の強度を比較することを通して，円柱を組み合わせてつくった踏み台の丈夫さに気付くことができる。

・　正六角形を組み合わせた方が隙間ができないので，丈夫になると思ったけれど，調べてみると円を組み合わせた方が丈夫だった。底が円の形をした踏み台の方が丈夫だった。図形を組み合わせると丈夫になるのだな。

本時の展開（５／９時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　自分がつくろうとしている踏み台のつくり方を振り返り，本時で行う活動についての見通しを話し合う。 ○　円柱を組み合わせた踏み台と正六角形を組み合わせた踏み台はどちらの方が本当に丈夫なのか調べるという見通しをもつこと ・　正六角形を組み合わせてつくった踏み台は，隙間ができないので，底が円の形を組み合わせた踏み台よりも丈夫なはずだ。比べてみよう。 **めあて**　円と正六角形とでは，組み合わせたときにどちらがじょうぶになるのか調べよう。	※　円柱や正六角形を組み合わせた踏み台はどちらが丈夫なのか調べたいという思いをもたせるために，これまでの学びを振り返る場を設定する。
2　踏み台のモデルを使って図形の強度を調べる追究活動を行う。 **(1)　円柱や正六角形を組み合わせた図形の強度を比較する。** ○　丈夫な踏み台をつくるための図形の組み合わせ方をとらえること **追究活動の例** そこが円形のふみ台と，正六角形を組み合わせたふみ台とでは，どちらがじょうぶなのだろう。 A：正六角形を組み合わせた踏み台 B：円柱を組み合わせた踏み台  A　B コップの中にビー玉を入れ，モデルがつぶれたときの個数を調べる。 調べたいふみ台のモデルをおく。 円を組合わせたふみ台の方がたくさんビー玉が入ったから，円の方がじょうぶだね。 ・　円を組み合わせたモデルの方がたくさんのビー玉が載ったぞ。 ・　たくさんのビー玉が載ったということは，丈夫だということだな。	※　踏み台の強度を，数値のデータとしてとらえさせるために，モデルにビー玉を載せていくことのできる教具を準備し，強度を調べることができるようにする。 【評価内容】 踏み台のモデルにビー玉を載せ，その個数から強度の違いをとらえている姿 【評価方法】 ◇調べ活動をしているときのつぶやきや，発言内容
(2)　追究活動の結果や，結果から分かったことを出し合う。 ○　円柱を組み合わせたモデルの方が丈夫であることをとらえること ・　円を組み合わせたモデルの方が丈夫になるのだな。 ・　隙間があっても，円は上からの力に強い形なのだな。	※　円柱を組み合わせた図形が丈夫であることに気付かせるために，追究活動で明らかになったことの共通点を板書上でまとめる。
3　踏み台をつくるために生かせそうな本時の学びを交流し，自分の踏み台に生かすことができそうなことについて出し合う。 ○　友達がものづくりに取り入れている図形の強さをとらえること ・　円を組み合わせた踏み台をつくれば，人が乗ることのできる踏み台をつくることができるかもしれないな。	【評価内容】 丈夫な踏み台づくりに本時の学びをどのように生かしていくかを説明する姿 【評価方法】 ◇つぶやきや発表の内容
学びのゴール ☆　底が円の図形を組み合わせた踏み台をつくれば，丈夫な踏み台をつくることができそうだ。この学びを生かし，実際に踏み台をつくっていこう。	※　本時の学びを次時以降につなげさせるために，これからの活動についての話合いの場を設定する。

４学年１・３組　にんげん　（Ｃ　いきるみち）

指導者　伊澤直美

題材　「つながってわかり合おう～となりの外国人～」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「みんなが笑顔でくらすために」の学習において，視覚障がい者の方や伴走者の方との交流を通して，自分も周りの人にとっても住みやすい町にするために大切なことについて気付き，自分にできることを実践してきている。そこで，周りの人に目を向けられるようになってきているこの期に，本題材を設定する。そして，アメリカから日本に来て30年が経つ方や日本に暮らす外国人を支える活動を行う方との交流を通して，その方の生き方に迫り，自分や日本に暮らす外国人とが一緒に気持ちよく暮らしていくための自分なりの考えを見いだせるようにしていきたい。

○　本題材では，日本に暮らす外国人と互いに気持ちよく生活していくために，問題が起こったときは一緒に解決していこうとする関係をつくることの大切さをとらえることをねらいとしている。具体的には，①日本に暮らす外国人を支えるために活動している人がいることに気付くこと，②日本と外国の違いを受け入れようとすることが大切であることをとらえること，③共に生活していくためには，知ることや支えること，交流することが必要であることに気付くことである。本題材において，日本で暮らす外国人との共生について考えていくことは，これからの他文化共生社会を生きる上で，自分の見方や考え方を広げ，周りの人や地域社会のために何ができるかを考え，実行しようとする理想の自分に向かって努力し続ける態度を育てる上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，日本に暮らす外国人と自分たちが互いに気持ちよく暮らしていくために，関わりの違いや，互いによかったことや困っていることに着目し，どのようにすれば地域の中で互いに気持ちよく暮らしていくことができるのかについて自分の考えをつくることができるようにする。まず，導入段階では，福岡市に住む外国人の数の変化や，来日して30年経つ外国の方と出会うことから個々の問いを設定する。次に，展開段階では，日本に暮らす外国の方を支援する方との交流を通して，日本で暮らすときにどのようなことが必要なのかについて調べる。最後に終末段階では，日本で暮らす外国の方が気持ちよく暮らすために自分ができることを実践し振り返ることでこれからの生き方につなぐことができるようにする。

目標（目指す資質・能力）

○　日本に暮らす外国人と日本人との関わりについて問いをもち，互いに気持ちよく暮らしていくために自分ができることを実践することができる。（創造性）

○　互いに気持ちよく暮らしていくために大切なことについて，仲間の考えに共感しながら自分の考えを伝えることができる。（協働性）

◎　日本に住む外国人との関わりにおける自分の特徴に気付き，自分がどのように生きていくかについて意思決定することができる。（向上性）

学びのプラン（全20時間）

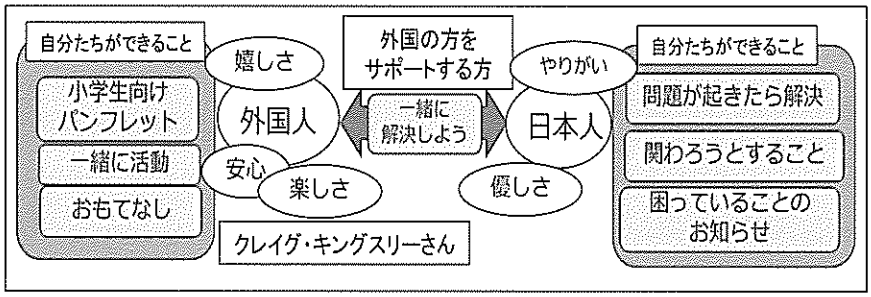
学　習　活　動　と　内　容
1　福岡市で暮らす外国人についての考えを出し合い，追究課題を話し合う。　5 ○　多くの外国人が住んでいることについて関心をもつこと ※　福岡市に住む外国人の人口を30年前と比較する活動や，日本に住む外国人と出会う活動の設定 なぜ，30年も日本で暮らすことができているのだろうか。
2　日本で暮らす外国の方が，気持ちよく暮らせるように活動している人について調べ，自分たちにできることについて話し合う。　10 (1) 外国の方が日本で気持ちよく暮らすために活動している人について調べる。　⑥ ○　一緒に生活するために支えたり，交流したりする活動をしている人がいることに気付くこと ※　外国の方を支援している方との交流活動 (2) 外国の方も互いに気持ちよく暮らしていくための考えを話し合う。　④本時3/4 ○　問題を一緒に解決していこうとする関係をつくることが大切であることに気付くこと ※　何ができるかについて話し合う活動の設定
3　日本で暮らす外国の方も気持ちよく暮らしていくために自分ができることを実践し，これからの自分の生き方について話し合う。　5 ○　互いに気持ちよく暮らしていくために自分ができることについての考えを創り出すこと ※　互いに気持ちよく暮らしていくために自分ができることを実践したり表現したりする活動の設定

本時の目標（協働性）

キングスリーさんや，外国の方を支援している方との交流活動で分かったことをもとに，互いに気持ちよく暮らしていくために大切なことや自分ができることについての考えを伝えることができる。

・　キングスリーさんは，生活の中で使うジェスチャーが日本とアメリカで違ったから，どのようにすればよいか分からず困ったとおっしゃっていた。外国の方をサポートする方は，外国の方との間で起こったことは困ったことではなく，一緒に解決することであるとおっしゃっていた。私は，日本のことを正確に知らせることや相手に対して嫌な思いをさせないようなふるまいをすることが必要だと思う。

本時の展開（14／20時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　外国の方や支援している方との交流で分かったことから，本時，解決したいことについて話し合う。 ○　日本で暮らす外国の方と一緒に暮らしていくためにどのようなことができるか考えるという本時の課題をとらえること ・　日本で暮らす外国の方が少しでも住みやすくなるために，みんなと話し合って，自分にできることを見つけたい。	※　日本で暮らす外国の方と気持ちよく暮らすために必要なことをとらえさせるために，交流して分かったことを提示する。
めあて　つくったプランは，これでわかってもらえるか話し合おう。	
2　外国の方が困っていることや支援する方の思いから考えた，自分たちにできることについて話し合う。 (1) 日本で暮らす外国の方が困っていることや思い，支援をする方の思いから考えた自分にできることを出し合う。 ○　人とのつながりや，生活習慣の違いなどで困ったことを解決していくための方法を提案すること ・　日本の生活について，子供向けのパンフレットをつくったらよい。 ・　違いがあっても一緒に考えようと周りの人に知らせていったらよい。	※　外国の方が困っていることの解決につなげさせるために，どのようなことができるかの計画を提案する活動を設定する。
(2) 互いに気持ちよく暮らすために出し合ったことを，さらによりよいものにするために相互評価する。 ○　外国の方に働きかけることと，周りに住む人に働きかけることに分けて自分にできることをとらえること ・　私は，日本に住む外国人の小学生に向けて生活の仕方を知らせたい。	【評価内容】 一緒に気持ちよく暮らすためにできることを，交流や調査活動を根拠にして発言することができる姿 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言
	※　互いに気持ちよく暮らしていくために自分ができることがふさわしいかどうか確かめさせるために，ゲストティーチャーからの話を聞く場を設定する。
3　実際にどのようなことができるかの自分の考えをつくり，話し合う。 ○　アドバイスをもらったことから，自分でできることや，周りに働きかけていくことについてとらえること ・　日本に暮らす外国の方を支えるために自分にできることを決めることができた。次は実際におもてなしのマナーを身に付けたい。	【評価内容】 できることがふさわしいかどうか，友達の考えに自分の考えを発言する姿 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言
学びのゴール ☆　日本で暮らす外国の方と気持ちよく生活するために自分にできることは相手を嫌な気持ちにさせないようなマナーを身に付けることだ。	※　自分ができることについての考えをつくらせるために，自分の考えを友達に話す場を設定する。

MEMO

第５学年　「見つけよう！日本の魅力！」プラン

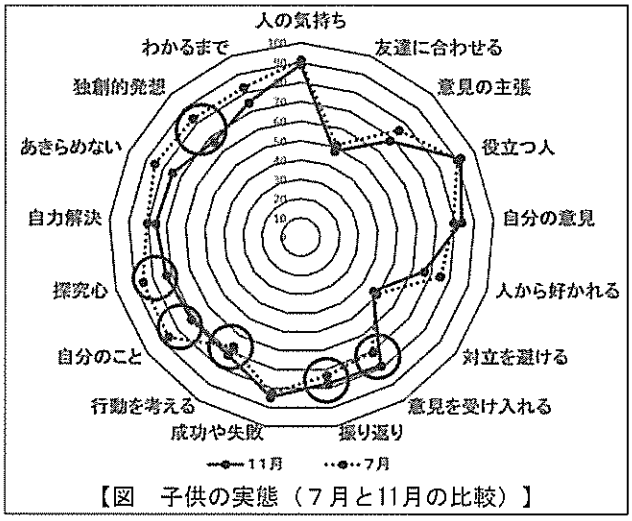
指導者　　井　手　　司・鞭　馬　あゆみ

関連領域　くらし→（くらし・けんこう・にんげん）→くらし
学年テーマ　日本（日本とはどのような国か）

目標（目指す資質・能力）

創造性	日本のもつ魅力に関心をもち，日本とはどのような国であるかとらえるとともに，日本の抱える問題について自分なりの考えをもつことができる。
協働性	よりよい解決方法を見つけるために，友達と協力して情報を集め，折り合いをつけながら話し合ったり，問題に取り組む人々の考え方や思いを理解し，状況に応じた働きかけをしたりすることができる。
向上性	日本人の一人として，日本の魅力について再認識するとともに，その魅力を守り育む一員として，自分にできることを続けていこうという意欲をもつことができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と11月の比較）】

○　５年生の子供たちは，人の気持ちを考えたり，誰かの役に立ちたいと思ったりという社会性の側面は育ってきている。くらし１学期題材「どうする？わが国の領土問題」といった学習では，社会的な問題を考えようとする態度を身に付けてきている。また，けんこう１学期題材「はじめてみようクッキング」では，実践意欲を高めることができた。５年生２学期題材「どうする？食料問題」では，くらしを中心に，けんこう，ことばと関連させながら，世界の食料問題を世界，日本，身の回りの視点から考え，解決方法を追究したり，自分にできることを実践したりする活動を行った。それによって，世界の遠く離れたところであっても，自分にも関係があるかもしれないという広い視野をもつことができた。本題材「見つけよう！日本の魅力！」では，日本の魅力について追究することを通して，子供たちの考える日本の魅力を付加したり，強化したりしながら，日本人としてのアイデンティティをもち，自分にできることを実践する意欲をもたせたい。そこで，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連して学習を展開していく。

関連題材の価値について

○　本題材では，現在，増加している福岡へのインバウンドを，より増やすために実現可能な方法について考え，実践することを通して，日本の魅力（関係性，多様性，心配り，アレンジ力など）についてとらえ，日本人としての自覚をもつ資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域くらしを中心とし，日本の魅力を調べ，福岡へのインバウンドをより一層増やそうとしている福岡市の方に出会うことを通して，子供の求めに応じて，けんこうにおける学習を関連させながら，子供の学びを総合的に深めていくようにする。具体的には，①日本の魅力とインバウンドについて調べることを通して，日本はまだまだ世界に開かれていないことに気付き，追究していきたい課題を見い出すこと（くらし），②日本や福岡のインバウンドの増加に向けた取組を理解すること（くらし），③日本の食文化である和食について知り，自分の健康と結びつけて考えること（けんこう），④ゲストハウスを経営する人の取組の様子から，「おもてなし」とはどのようなものかとらえ，自分の生き方を見つめ直すこと（にんげん），⑤福岡市役所の方に福岡のインバウンドを増やすための計画について提案すること（くらし）などである。各領域での学びを最終的には，日本のインバウンドを増加させるために，自分にできることを考え，実践することにいきつくようにしたい。今後，日本や子供たちの住む福岡においては，2019年にラグビーワールドカップ，2020年に東京オリンピック，2021年には福岡で世界水泳が行われ，一層インバウンドの増加が見込まれる。その点から本題材は，日本の魅力について再認識し，日本人としてのアイデンティティを確立するとともに，日本，そして地元である福岡でできることをしていこうとするグローカル（地球規模で考えながら，地域で活動する）の視点へとつながるという点からも価値がある。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　日本の魅力とはどのようなものか話し合い，これからの学習課題を決める。	2　自分の課題を解決するための方法を考え，課題解決のために必要な追究を行う。
けんこう⑫		学習課題１　和食にはどのような特徴があるのだろう。 1　和食にはどのような特徴があるのか調べる。④ (1) 和食の特徴を調べる。③ ○　和食は，素材そのものを活かした調理であることに気付き，和食のよさが分かること (2) 自分の課題決め，学習計画を話し合う。① ○　自分の食生活を振り返り，和食を取り入れるよさに気付くこと
くらし㉕	1　東京オリンピックを前に，日本への観光へ関心が高まっていることを知り，日本の魅力について追究する課題を決める。⑩ (1) 東京2020国際招致ＰＲフィルムを見て，海外にアピールしている日本の魅力について話し合う。② ○　海外からみえる日本の魅力に関心をもつこと (2)　実際に海外の人に日本の魅力に尋ねて，自分たちの課題を話し合う。③ ○　自分たちのイメージと海外の人のイメージの差に気付き，どのようなことを調べたいのか課題をもつこと (3) 福岡市役所MICE推進課の馬場さんの話を聞き，インバウンド増加のメリットやデメリットについて話し合う。③ ○　インバウンドの増加によって，どのような生活の変化があるのかとらえ，自分の課題とのかかわりについて考えること (4) 自分のテーマについて友達と交流し，自分の追究するテーマを決定する。② ○　調べる中で関心をもったことがテーマとして価値があるのか，追究方法が適切か判断すること	学習課題　海外の方にもっと日本に来てもらうためにはどのようなことをすればよいのだろうか。 2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのようなことが必要になるのか，話し合う。⑩ (1) 自分の考えるインバウンド増加の取組について追究する。⑤ ○　日本の魅力をどのように伝えるかと，伝えるべき日本の魅力とはどのようなものかについて考えること
にんげん④		学習課題　「おもてなし」とは何だろう。 1　近年，増えつつあるゲストハウスの様子から，日本の魅力について話し合い，課題を決める。① ○　福岡市の周辺にできているゲストハウスの様子を見て，おもてなしを感じる部分をとらえ，おもてなしとは何かについて，関心をもつこと
評価	領域「くらし」において，世界に誇る日本の様々なことに出合い，それをもとに「海外から見る日本の魅力とは何か」に関心をもち，追究したいテーマを設定することができる。 →　東京オリンピックを紹介する映像を見たときの感想内容や，その後個人で追究テーマを設定し，それを吟味しながらテーマを付加・修正していく発言内容，記述内容	

展開	終末
2　自分の課題を解決するための方法を考え，課題解決のために必要な追究を行う。	3　学習を通して，自分にできるようになったことや考え方の変化について話し合う。

学習課題２　和食を生活に取り入れるにはどうしたらよいだろうか。

2　簡単な和食の調理方法を調べ，調理をする。⑥
(1) これまでの調理技能を活用してつくることができる和食の調理方法を調べる。①
○　簡単に調理できるだし巻き卵ときんぴらごぼうの調理手順を理解すること
(2) だし巻き卵ときんぴらごぼうを調理する。⑤
○　できることが増えたことを実感すること

3　自分の生活にどのようにして和食を取り入れていくことができるのか話し合う。②
○　自分の生活時間や身に付けている技能をもとに，これから実行可能な計画を考えること

2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのようなことが必要になるのか，話し合う。
(2) 自分の考えるインバウンド増加の取組を提案し，他者の意見から改善する。⑤
○　価値が対立するような取組や，目的達成のために多様なアプローチがある取組などについて，その価値を根拠を示しながら，判断すること

（子供の求めに応じて）
3　自分が考えたインバウンド増加のための取組を実施したり，提案したりする。⑤
○　自分の考えたことが形になることで，日本人の一人として自覚をもつこと

【例】
・日本のよさをまとめた動画をつくり，HP上にアップする。
・海外からの観光客向けのパンフレットやポスターをつくる。
・日本に来たいと考えている人に，メールなどで紹介する。
・自分の考えを提案書にまとめ，市役所の方に送る。

本時３／５

2　自分の課題について追究する。③
(1) オリンピックの招致の際に使われた「おもてなし」の意味について話し合う。①
○　言葉の意味や由来など，「おもてなし」の言葉に込められた日本人の考え方をとらえること

2　自分の課題について追究する。
(2) 実際にゲストハウスで「おもてなし」をしている方の取組と，その思いについて聞き，「おもてなし」とは何か，話し合う。②
○　どのような思いで，ゲストハウスを運営しているのかとらえ，その中に見えるおもてなしの心についてとらえること

評価	領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，日本の魅力について考え，海外の方にアピールしようとすることができる。 →　各領域でかかわってきた人や内容について追究してきたノート記述や表現物，日本のよさを支える人の願いや，価値観がぶつかる中で取り組んでいる発言内容や，解決策を提案する表現物や発言内容

第５学年２組　くらし（A　れきしとぶんか）

指導者　　井　手　　司

題材　「すごいよ！日本！～増やそう インバウンド～」プラン

題材について

○　領域くらしでは，学年題材である「すごいよ！日本！～増やそう インバウンド～」について考える。また，題材を通して，日本という国をとらえ，日本人としてのアイデンティティをもつことができることをねらいとしている。具体的には，①日本の魅力（関係性，多様性，心配り，アレンジ力など）について理解すること，②それによって，現在，日本へのインバウンドが増加しつつあり，政府もそれを推進し，特に福岡市は増加が著しいことをとらえること，③日本人として，日本や福岡の魅力を守り育んでいきたいという意欲をもつことである。ここでは，日本や福岡のインバウンドを増加させるためのアイデアを考えることを通して，日本の魅力についてより深く追究し，日本人としての自覚をもつことができる。また，日本の魅力を海外の人に伝えるという点から，自国を客観的に考えることにつながり，世界を意識しながら，地元で活動するグローカルな考え方の素地を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，日本のインバウンドを増加するための取組を考える中で，日本の魅力について追究し，日本の歴史，文化，経済，治安，技術などに目を向け，日本とはどのような国であるのか理解する。また，日本人の一員であることを改めて自覚する。まず，導入段階では，子供たちが関心をもっている東京オリンピックの国際招致ＰＲフィルムを視聴し，オリンピックや日本の特色に関心をもち，課題を設定する。具体的には，どうして日本は選ばれたのか，どのような魅力があったのか，どうしたらもっと魅力を伝えられるか，などが考えられる。その中で，インバウンド増加のための取組に気付き，もっと増加させるためのアイデアがないか考えたいという意欲をもつ。展開段階では，それぞれが考えるインバウンド増加のための計画づくりを行っていく。終末段階では，アイデアの実現を目指し，実際に取り組んでいき，日本人，福岡市民としての自覚をもてるようにしていく。とくに本時では，自分たちがつくってきた日本を紹介する映像のタイトルを話し合い，映像を完成させる。その中で，これまでの学習を生かして，日本の特色を表す表現を考え，日本という国を改めてとらえ直すことができるようにする。そうすることで，日本という国の概念を形成し，自身の日本という国のとらえ方を更新し，日本人としての自覚をもてるようにしていく。

目標（目指す資質・能力）

◎　日本の魅力をどのように海外の方に伝え，海外の方にまた来たいと思ってもらえるのか，根拠をもって提案することができる。　（創造性）

○　日本の魅力やインバウンド増加の取組について話し合う過程で，他者の意見から自分の考えを付加・修正し，改善することができる。（協働性）

○　自分の知らなかった日本の姿に気付き，それを海外にアピールすることで，日本人として自覚を感じることができる。　（向上性）

学びのプラン（全25時間）

学　習　活　動　と　内　容
1　日本への観光へ関心が高まっていることから，日本の魅力について追究する課題を決める。　10 ○　東京オリンピック招致に成功した理由や日本の魅力について関心をもつこと ※　東京2020国際招致ＰＲフィルムの提示 海外の方に日本にもっと来てもらうためには，どのようなことをすればよいのだろうか。
2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのような取組が必要かについて話し合う。　10 (1) 自分の考えるインバウンド増加の取組について追究する。　⑤ ○　日本の魅力を伝える方法と伝えるべき日本の魅力について考えること ※　今の取組がわかる政府や市の計画の提示，自分たちの計画について友達と交流する場の設定 (2) 自分のインバウンド増加の取組を提案し，他者の意見から改善する。　⑤ ○　インバウンド増加には，ターゲットとコンセプトを大切にしたプロモーションを行うことや環境整備が重要であることをとらえること ※　市役所の方や海外からの留学生と自分の計画について意見を交流する活動の設定
3　自分が考えたインバウンド増加のための取組を実施したり，提案したりする。　**５本時3/5** ○　自分の考えたことが形になることで，日本人の一人としての自覚をもつこと ※　自分たちの考えを提案書にまとめたり，取組を実施したりして，それを留学生や市役所の方に評価していただく場の設定

本時の目標（向上性）

日本とは，古くからあるものを受け継ぎながらも，外部から入ってきたものも受け入れ，日本流にアレンジしながら新しいものを常に創り出している国であることが分かり，これまでの学習を通して，自分自身の日本という国のとらえ方が変化したことに気付くことができる。

・ 学習を始める前は，日本にこれほど素晴らしいところがあると思っていなかった。でも，映像を作ったり，提案書を書いたり，友達と話し合ったりする中で，日本とはどのような国であるか分かってきたな。

本時の展開（23／25時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　これまでに作成してきた映像を視聴し，完成した映像のタイトル決めを行うという本時のめあてについて話し合う。 ○　映像のタイトルを決めようという意欲をもつこと ・ 海外の人の知らない一面をとらえる映像になっているな。 ・ 映像のタイトルは何にするとよいのかな。	※　映像のタイトルを決めようという意欲を高めさせるために，これまで作ってきた映像を提示する。
めあて　私たちが作った映像にどのようなタイトルをつけるのがよいか，話し合おう。	
2　映像にどのようなタイトルをつけるとよいか，話し合う。 (1) 作成した映像のタイトルについて話し合う。 ○　タイトルのよさを，これまで調べてきた日本の魅力や，外国の人たちのニーズ，日本人として大切にしたいことなどから選択すること ・ 伝統と新しいもの，どちらもある国ではあるよね。 ・ どちらかと言えば，伝統を大切にしている気がするな。 ・ 確かに大切だけど，常に新しいものを生み出そうとするのが日本だよ。	※　選択するときの基準とするために，外国の人たちの日本観光へのニーズや，来て感動したことなどの資料を提示する。
(2) みんなが考えたタイトルの中から適していると考えたものを決める。 ○　日本をとらえているものはどれか，日本とはどのような国と言えるのかこれまでの学習で学んだことを生かして，適切なものを判断すること ・ なかなか決まらないね。タイトルを決めるためにどうしたらよいかな。 ・ 共通点は何だろうか。それぞれにつながりはないのかな。 ・ 受け入れるという点ではつながりがありそうだよね。 ・ 確かに自然を受け入れたり，海外のものを受け入れたりしているね。 ・ 他にはどのようなつながりや共通点があるのかな。	※　タイトルについてまとめたり，選択したりさせるために，子供たちがこれまで調べてきた日本の魅力をまとめ，提示する。
○日本文化へのあこがれ ○日本のイメージをつくっている ○私たちも守ろうとしている ○建物や文化など種類も多い ○外国人からの評価が高い ○オリンピックの招致でも紹介 ○相手を大切にする心の表れ ○日本がずっと大切にしていること 伝統の国 / 【タイトル】 ？？？ / おもてなしの国 新しいものを創り出す国 / 多彩な国 ○世界が日本製を信頼している ○日本初の技術はたくさん ○海外のものでも日本流にアレンジ ○私たちも日本の技術に誇り ○四季がある（自然） ○古い文化から新しい文化まで ○地域ごとにある文化や食の特色 ○何度来ても楽しむことができる	【評価内容】 日本は多様な価値のあるものを受け入れながらも，それを日本流にアレンジしながら発展していることや，伝統を大切にしている国であることを，ノートにまとめたり，話し合ったりする姿 【評価方法】 ◇　発言や記述している内容
3　自分たちのこれまでの学習を振り返り，自分の変化について話し合う。 ○　自分たちの住む日本に対する愛着をもつとともに，自身の日本という国へのとらえ方の変化に気付くこと ・ これからも日本のことを伝え，守り，自分にできることをしたいな。	※　自分の日本に対する認識の変化をとらえさせるために，学習を始めたころの，日本に対するイメージマップを提示し，現在のイメージマップと比較させる。
学びのゴール ☆　日本のよさはたくさんあったな。自分たちも日本に住む一人として，それを守ったり，新しく創ったりすることができたらよいな。	

MEMO

第６学年　「これからの幸せな国のかたち」プラン

指導者　中村　剛・永田裕二・齋藤　淳

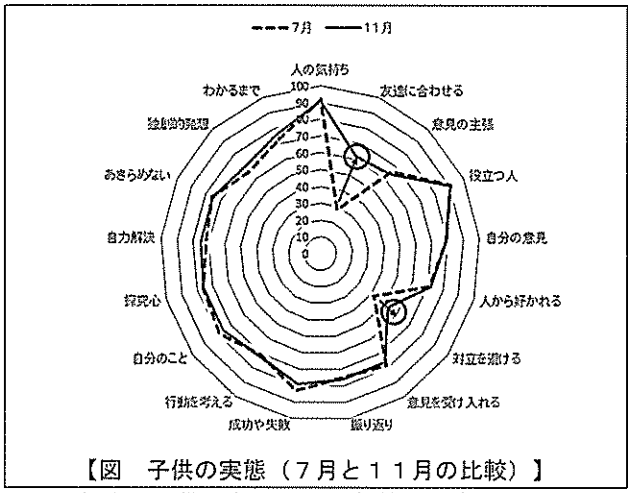
関連領域　くらし→（けんこう・かがく・にんげん）→くらし

学年テーマ　幸福（幸福になるために大切なことは何か）

目標（目指す資質・能力）

創造性	今の日本の急激な変化について「問い」をもち，つぶさに各方面で興味をもって探究し，これからの未来について起こるべき課題を見通すことで，自分たちの財政プランをつくることができる。
協働性	仲間とともに日本の現状や今後起こるであろう未来への見通しについて調べたり，考えを話し合ったりすることを通して，自分の考えを確かにして政治家や行政の人々とともに，あるべき財政の形について協働して考えることができる。
向上性	自分や日本の未来にとっての幸せとは何か考えるとともに，どのようにお金を使うことによって幸せになることができるのかについて，自分の問題として考えることができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と１１月の比較）】

○　６年生の子供たちは，人の気持ちを考えること，誰かの役に立ちたいという推量，貢献といった社会性の側面は育ってきている。６年生２学期の「にんげん」の学習において，九州北部豪雨について，被災者の現状をとらえ，「わたしたちにできること」を実践することができた。しかし，自分の生き方とのつながりを考えたり，自分事として社会の課題をとらたりする段階には至っていない。そこで，現代社会の中で激しく起こっている変化や正も負も入り乱れた様々な可能性について，自ら「問い」をもって探究し，現実をとらえた上での冷静な未来への判断が必要であると考えた。このことは，未来社会を創造する主体としての６年の学びの集大成にふさわしいテーマであるとともに，課題解決する上で難易度の高いものである。そのため，各領域での有機的な関連とともに，人間としての学びという立ち位置を失うことのない，「にんげん」の学習を軸とした螺旋的な学びの展開が必要である。このことで未来社会は自分の手でつくるという「意志と実践」に基づく学びが期待され，総合的・横断的に子供の求めに応じて他領域と関連して展開されていく。

関連題材の価値について

○　本題材では，お金と人の幸福について自分の問題として考えることを通して，現実の社会が抱える課題や将来にわたって予想される課題に対して，自分事としてどのように解決していくべきか粘り強く考えようとする資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域「くらし」を中心とした人とお金との関係を見つめ直していく過程で「けんこう」「かがく」「にんげん」を子供の求めに応じて関連させていくことで課題解決を行う。具体的には，①国の政治の仕組みについて探究することを通して，これからの社会を考えていく財政の在り方とその仕組みについて理解し，提案すること（くらし），②「人の幸せとは何か」に対する自分の考えを語り合うことを通して，人の幸福について考えること（にんげん），③最新科学の動向について学ぶことを通して，未来社会においても発展していくAIやIot，ロボット工学などの新たなテクノロジーの在り方や可能性の本質を正しく理解すること（かがく），④人の健康的な生活について考えることを通して，認知症やがんなどの現代的な医療の在り方とそれを防ぐ健康課題について体験的に理解し，実践につなぐために自分の生活にできることを考えること（けんこう）などである。このような各領域での学びを，最終的には未来社会において誰にとっても幸せなくらしとは何か考えることを通して，今を生きる自分のこれからの生きる目的や今後の在り方について深く考え，生き方につなげることができるようにしたい。このような点からも，本題材「これからの幸せな国のかたち」は，本校の第６学年の子供たちにとって，小学校生活最後の締めくくりとなる学習という意味でも，社会は自らの手で変えることができるという，未来社会の主体となる本研究のゴール像を培う意味でも価値があるものである。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　自分が考える幸せなくらしと社会とは何か語り合い，これからの学習課題を話し合う。	2　自分たちのくらしとこれからの社会全体で必要なことは何かを話し合い，課題に応じた探究を行う。

けんこう⑦

学習課題　がんや認知症は予防できるのだろうか。

1　医療費がかかっている理由であるがんや認知症のリスクや考えられる予防について話し合う。
(1)　がんについてＧＴから話を聞き，がん予防について話し合う。②
(2)　認知症について話を聞き，認知症予防について話し合う。①
○　がんや認知症の原因をとらえ早期発見や予防行動の大切さをとらえること

にんげん⑯

学習課題　わたしたちが生きていく上での幸せのためにお金は本当に必要なのだろうか。

1　医療費がかかっている理由であるがんや認知症のリスクや考えられる予防について話し合う。④
○　健康寿命を全うすることの大切さをとらえるとともに，家族ががんや認知症に直面した場合の課題について自分の考えをもつこと

2　お金と幸せについて考えた様々な人々の考え方について探究し，どのような考え方になったのか語り合う。
(1)　がんや認知症の方の家族の生き方，世界の国の政治の考え方について，資料をもとに調べたり人と出会ったりして探究する。⑥
○　仲間や他者の考え方と自分の考え方の違う部分と共感する部分は何か分析すること

くらし⑰

1　国会議員や財務省の方々との交流や日本の財政に関わる問題を調査し，今の財政が未来の国づくりに大きく影響することについて知ったことから，自分たちが幸せだと思う国のかたちにしていくための財政がどうあるべきか考える学習課題について話し合う。
(1)　国会議員の方の話をもとに国の政治や税の働きについて知り，その大切さを話し合う。②
○　自分の生活と政治や税との関係を明らかにすること
(2)　財務省の方々と出会い，日本の財政状況と日本や世界が抱える大まかな問題について話を聞く。②
○　財政についての大まかな理解と財政に関わる問題を理解し，自分の財政に関わる問いをもつこと
(3)　財政をつくる上で，自分たちに知識や明らかにしたいことは何か「問い」を出し合い，これからの各領域で学習したい課題について話し合う。③
○　財政をつくる上での自分たちの不十分さを感じるとともに，どのようなことを学びたいのか解決の見通しをもつこと

学習課題　日本の未来を決める財政について自分たちの考えを国に提案しよう。

2　福岡小財政会議を複数回開き，どのような国をつくっていきたいのかビジョンを確かにもった上で，歳入と歳出を決めるために話し合う。
(1)　日本国憲法の考え方に則った国の行政，司法，立法の仕組みや財政の健全化の基準となるプライマリーバランスなどについて知り，その是非について判断した上で第１回財政会議を行う。⑤
○　国の政治の仕組みや財政に関する基本的な事項について資料や取材をもとにした情報収集を行い探究する中で，他チームと比較したり関連づけたりしながら，自分たちの適正化とは何か考えること

かがく⑮

学習課題　日本の未来のために，科学技術をどのように活用していくべきなのだろうか。

1　日本の未来と科学技術について考えを出し合い，追究課題を話し合う。③
○　20年後の未来社会と現代に至るまでの科学技術の変遷について関心をもつこと

2　モバイル型ロボットを作った企業の方の話から，モバイル型ロボットを使ってしてみたい自分の構想をつくり，解決に向けて，プログラミングを繰り返し行う。
(1)　モバイル型ロボットを連動して，プログラムの仕組みを追究する。④
○　プログラムの基本的な組合せ方を，モバイル型ロボットを使った動きで理解すること

評価	
	領域「くらし」において，今までのくらしの中でどのようなことが幸せなのか真剣に考え，すべての人が幸せに生きる社会のための国の財政について知り，課題を設定することができる。 →　今までの自分の生活経験や学習の中で出会った人々の考えをもとに，自らの「問い」を話し合い，分類したことから，各領域で学びたいことを自己決定し，探究している各自の表現物の記述内容

展開	終末
2　自分たちのくらしとこれからの社会全体で必要なことは何かを話し合い，課題に応じた探究を行う。	3　今まで学んだことを生かして，自分たちが考える財政プランを提案し，他者と共に話し合う。

2　がんや認知症を予防する生活行動や習慣について調べ，予防プランを作成する。②
○　がんや認知症の予防行動について知り，自分の生活行動を見直す視点をとらえること

3　自分の生活を振り返り，今後の目標を話し合う。②
○　これから大切にしていきたいことを考え，行動目標としてまとめたり，実際に運動を試したりすること

2　お金と幸せについて考えた様々な人々の考え方について探究し，どのような考え方になったのか語り合う。
(2) 人間にとっての幸せとは何かについて自分の考えを語り合い，お金と幸せとの関係について語り合う。⑥
○　自分にとってはどのくらいのお金があって暮らすことが幸せなのか，それぞれの考え方を認め合うことと，幸せはすべてお金が握っているわけではないことを理解すること

3　国会議員や財務省の職員の方々を招いて，各領域で探究してきたことをもとに小学生が国に提案したい財政プランについて提案する。①
○　今までの各領域の学びを通して，どのようにこの財政プランにしようと考えたのか理由を明らかにするとともに，それぞれの考え方の違いについて納得したり，国の政治に関わる方々の考えの深さを理解すること

2　福岡小財政会議を複数回開き，どのような国をつくっていきたいのかビジョンを確かにもった上で，歳入と歳出を決めるために話し合う。
(2) 世界の国々の政治の仕組みや財政の考え方について知り，幅広い視点から考えたことを基に，財務省の方々のアドバイスや評価をもらいながら，第2回財政会議を行う。④
○　より現実的なものや自分たちの価値観や考え方を伝えられるような財政プランにつくり直すこと

2　モバイル型ロボットを作った企業の方の話から，モバイル型ロボットを使ってしてみたい自分の構想をつくり，解決にむけて，プログラミングを繰り返し行う。
(2) 構想の実現に向けて自分で計画した組合せを，繰り返し試行する。④
○　目的に合った動きを実現することで，自分の意図した動きを実現できることをとらえること

本時2/4

3　プログラミングでつくったモバイル型ロボットの動きを全校児童に披露し，ロボットの実用性を発信する。④
○　人の代わりにロボットが担える将来の可能性をプログラミングを通してとらえること

評価	領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，国の財政プランを作成し，国会議員や財務省の職員の方々に提案することを通して，何を大切にすべきか価値判断することができる。 →　各領域で関わってきた学習内容について個々やチームで探究してきたノート記述や表現物を手がかりにして，未来社会に向けて期待したい財政と人々のくらしを関連付けている発言内容

第６学年２組　かがく（Ｃ　科学と人間生活）

指導者　　永　田　裕　二

題材　「日本の未来と科学技術~プログラミングでロボットが動く！話す！~」プラン

題材について

○　領域「かがく」では，学年題材の領域くらし「これからの幸せな国のかたち」に関連して，「日本の未来と科学技術」について考える。また，題材を通して，科学技術は過去の形態から確実に発展していること，自分のデザインした創造を形にすることができることをとらえることをねらいとしている。具体的には，①実際にプログラミングすることを通して科学技術の発展を実感すること，②目的に合ったプログラムを組み込むことで，創造を形にすることができることを理解することである。ここでは，プログラミングを通して未来の科学技術の振興と深く関わる側面について調べていくことで，STEM（科学・技術・工学・数学）領域を横断し，実社会でのプログラミングの価値を，より深く追究することができる。また，このようなプログラミング学習は，日本の未来の科学技術の振興についての考えをもち，自分なりの最適解を創り出す態度や探究する能力を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，目的に応じた自分の創造をプログラミングの手続き，繰り返し，場面分けを組み合わせていくことにより，プログラムのつくり方が理解できたり，モバイル型ロボットを使っての具体的な動きの実現ができたりするようにする。まず，導入段階では，くらしで財務省の方と話し合った財政の使い方について考えた後，日本の科学技術の発展について自分の考えをもつ。そこで，科学技術の変遷について，アニメ鉄腕アトムを例に，当時の人々にとって夢だったことが，２足歩行型ロボットなど，夢の実現に近付いてきていることをとらえる。次に展開段階では子供の求めに応じ，実際にモバイル型ロボットをつくった企業の方に話を聴く。そこでモバイル型ロボットを使って自分がしてみたい構想（介護用や観光案内用など）をつくり，プログラミングを行っていく。とくに本時では，プログラミングしたことでロボットが動く仕組みを理解することで，創造力を働かせながら，構想した理想の動きを追究していくことができるようにする。具体的な活動としては自分で構想した動きを実際にモバイル型ロボットを通して行い，交流してモバイル型ロボットの動きの付加・修正を行っていく。最後に終末段階では，ロボットの動きを全校児童に披露し，実用性を発信する。そしてこの場における他者評価が，自分の構想が実現したことによる，大きな喜びや達成感を味わうことにつながると考える。

目標（目指す資質・能力）

◎　構想の設計，修正，繰り返しを行いながらモバイル型ロボットにプログラミングすることで，自分の創造を形にするができる。　（創造性）

○　プログラムの組合せを話し合う過程で，自他の考えを付加し，連動した複雑な動きを創りあげることができる。　（協働性）

○　習得したプログラミングの技能が，未来の科学技術の振興と関連があることに気付き，学びの有用性を感じることができる。　（向上性）

学びのプラン（全15時間）

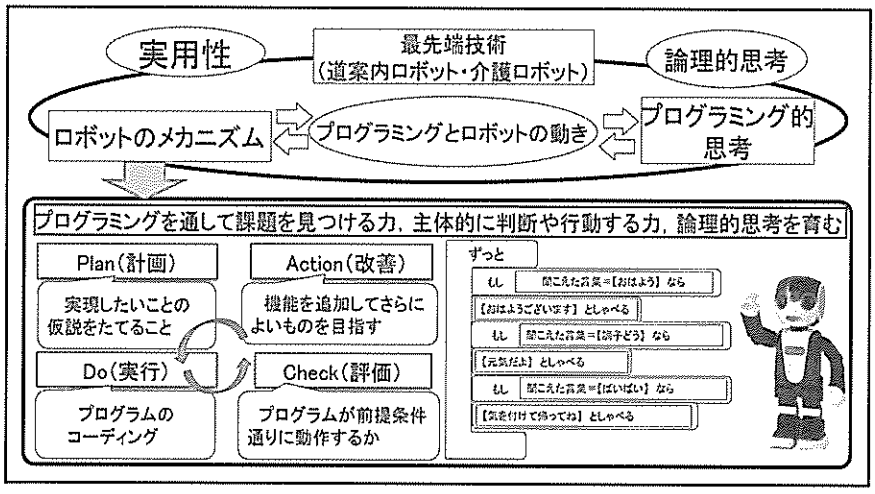
学　習　活　動　と　内　容
1　日本の未来と科学技術について考えを出し合い追究課題を話し合う。　3 ○　20年後の未来社会と，現在に至るまでの科学技術の変遷について関心をもつこと ※　ロボット開発の歴史と自作ロボットの提示 日本の未来のためにロボットをどのように活用していくべきなのだろうか。
2　ロボットを使ってしてみたい自分の構想をつくり，構想の実現に向けて，プログラミングを繰り返し行う。　8 (1) モバイル型ロボットの動きと関連させて，プログラムの仕組みを追究する。　④ ○　プログラムの基本的な組合せ方を，モバイル型ロボットを使った動きを通して理解すること ※　基本的な組合せ方の提示と，自他の考えをタブレット画面上で交流するスタディノートの活用 (2) 構想の実現に向けて，自分で計画した組合せを繰り返し試行する。　④本時2/4 ○　目的に合った動きを実現することで，自分の意図した動きを実現できることをとらえること ※　ロボット構想図と実際のモバイル型ロボットの動きを見合う活動の設定
3　プログラミングでつくったモバイル型ロボットの動きを全校児童に披露し，モバイル型ロボットの実用性を発信する。　4 ○　人の代わりにロボットが担える将来の可能性をプログラミングを通してとらえること ※　モバイル型ロボットの実用性をまとめた報告書やモバイル型ロボット展覧会の場での相互評価，学習過程を綴ってきたポートフォリオ

本時の目標（創造性）

解決したい場面や気付きを関連付けて，実行可能な解決方法を考えるとともに，何度も試行しながら追究する動きを求め，新たな方策を考えている。

・　「もし」コマンドを効果的に使えば，ロボットの会話を繰り返すことができた。これから，学校案内に対応できるように，会話の内容の種類を増やしたり，制御の新たな機能を組み合わせたりしていきたいな。

本時の展開（９／15時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　本時で試みるモバイル型ロボットの動作の構想を話し合う。 ○　前時で実行してきた動き方の結果をもとに，本時で設定した仮説に沿った動き方にするための解決の見通しをもつこと ・　会話が続くように，対応した言葉をプログラムしたい。 めあて　目的に合った動きになるように，「もし」コマンドの使い方を考え，実行しよう。	※　前時に行ったモバイル型ロボットの動きを確認させるために，タブレットの動画をもとに，動きを交流する場を設定する。
2　実際のモバイル型ロボットの動きを見合い，どのようにプログラムを組めば，目的に合う動きになるのか話し合い，プログラムを付加・修正する。 (1) 自分がつくったプログラムをスタディノートで共有し，他グループの動きも参考にして，操作ボード上でグループで話し合ったものを実行する。 ○　プログラムの動作確認の仕方を把握し，新たな機能を理解すること ・　あいさつの会話の後に，道案内を続けられるようにしたい。 (2) 友達のプログラムから得た情報を取り入れ，付加・修正して，自分の目的としている動作を実行する。 ○　プログラムを組み替えて，思い通りにいった操作手順をとらえること ・　「こんにちは」の後に，進む方向の案内が言えるようになった。	※　各自まとめてきた情報を参考にしたり，自作のプログラムを友達に伝えたりさせるために，スタディノートと操作ボードを活用する。
	【評価内容】 構想にそった動きになるように，プログラムを付加・修正する姿 【評価方法】 ◇タブレットの内容と発言
3　組み替えたプログラムによってできたモバイル型ロボットの動きを交流し合い，目的に沿った活動の達成を賞賛し合う。 ○　付加・修正することでうまくいったプログラミングのよさや，今後モバイル型ロボットを使って行っていきたいことの見通しをもつこと ・　「もし」コマンドを，「会話」機能や「動作」機能に効果的に組み合わせることで，実用的なコミュニケーションにつながるね。	※　新たな機能を追加して会話が成立するために，プログラムを組み替え，何度も動作確認して，試行できるようにする。
学びのゴール ☆　構想に合わせてプログラムを組むことで，学校案内ロボットができた。次は，連続した会話や動きが連動できるよう組合わせを考えていく。	【評価内容】 構想に沿った検証から得られた考えを，根拠のある内容をもとに発言する姿 【評価方法】 ◇学習感想の記述内容と発言 ※　子供たちの取組を価値付けるために，企業開発部の方から助言していただく場を設定する。

第１・２学年ふじ組　国語科学習指導案

指導者　　野　村　喜代香

題材　かいて　つくろう　「なまえの　ほん」

指導観

○　本学級は，第１学年男子１名，女子１名，第２学年男子１名，女子２名の５名の子供たちで構成されている。話し言葉の実態としては，身の回りの語句を使って単語や二語文で話すことができる。書くことの実態としては，主に語句のなぞり書きをする子供，２～３音の語句を写し書きする子供がいる。また，自分で書いた文字を見せたり，おうちの人と一緒に書いた日記を読んで聞かせたりする姿が見られる。さらに，これまでに行った「ひらがな　かるたで　あそぼう」では，身近なものの名前に興味をもち，進んで平仮名を読んでかるた遊びをすることができた。しかし，語句を平仮名で書いて表すまでには至っていない。そこで本題材では，身近なものと名前をつなぐことだけでなく，なぞり書きや写し書きをして「なまえの　ほん」をつくることで，書くことの基礎を養いたい。

○　本題材では，身近なものの名前を自分で書いて「なまえの　ほん」をつくることをねらいとしている。具体的には，①身近なものの名前を書いて本をつくることに興味をもつこと，②本をつくるために，絵カードに合う語句をなぞり書きしたり，写し書きしたりすること，③自分でつくった「なまえの　ほん」を異学年の友達やおうちの人に紹介し，文字を書くことができた満足感を味わうことなどである。本題材は，身近なものの名前を書いて「なまえの　ほん」をつくることを通して，ものと名前をつないで書いたり，正しい表記に気を付けたりして書くことができるようにする。これらは，平仮名を書く基礎を養う上で価値がある。

○　本題材の指導にあたっては，身近なものの名前を書いて「なまえの　ほん」をつくることを通して，２音から４音の平仮名の語句を書くことができるようにする。まず「動機」段階では，「なまえの　ほん」を自分で書いてつくりたいという思いをもたせたり，異学年の友達やおうちの人に紹介したいという願いをもたせたりする。そのために，教師がモデルの「なまえのほん」を提示して見通しをもたせる。次に「熱中」段階では，絵カードに合った「なまえかあど」を書いて仲間分けしたものの名前を「なまえの　ほん」にまとめる。そのために，絵カードに合うなぞり書き用の語句シートや文字シート，写し書き用の文字カード，正しい語句表記を選択して写し書きをすることができる語句カードなどの教具を用いながら書かせる。最後に「発展」段階では，異学年の友達やおうちの人に紹介することで，書くことができた満足感を味わわせる。

題材の目標

○　「なまえの　ほん」をつくるために，進んで身近な語句を書こうとすることができる。
（学びに向かう意欲）

○　絵カードに合った語句をなぞり書きしたり，写し書きをしたりして，ものの名前を書き表すことができる。　（生活にいきる知識・技能）

（ＡＧ）　絵カードに合う語句や文字を選択して，なぞり書きをすることができる。

（ＢＧ）　絵カードに合う文字カードを選択して，正しく並べ，写し書きをすることができる。

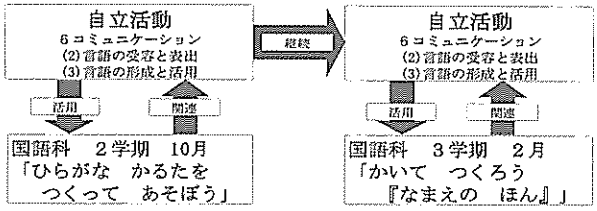
（ＣＧ）　正しく表記されている語句カードを選択して，写し書きをすることができる。

○　「なまえの　ほん」をつくって，下級生やお家の人に紹介することができる。　（かかわる力）

題材の計画（全６時間）

学　習　活　動　と　内　容	
１　「なまえの　ほん」のモデルを見て，ものの名前を書くことについて知る。　1	
○　「なまえかあど」の書き方や「なまえの　ほん」のつくり方について見通しをもつこと	
※　「なまえかあど」や「ほん」のモデル掲示	
２　「なまえの　ほん」をつくるために，ものの名前をなぞり書きしたり，写し書きしたりして「なまえかあど」をつくる。　4	
(1) 清音で表すものの名前を書く。　②	
ＡＧ	絵カードに合う２～３音の語句をとらえること
ＢＧ	絵カードに合う３～４音の語句をとらえること
ＣＧ	絵カードに合う3～4音の正しい語句表記をとらえること
※　絵カードに合う語句や文字カードの提示	
※　平仮名の文字カードの活用	
※　音声で語句を表すタブレットの活用	
(2) 濁音や半濁音などの特殊音節で表す語句を含むものの名前を書く。　②本時2/2	
ＡＧ	絵カードに合う２～３音の語句をとらえること
ＢＧ	絵カードに合う３～４音の語句をとらえること
ＣＧ	絵カードに合う3～4音の正しい語句表記をとらえること
※　なぞり書き用の語句や文字シートの活用	
※　マス目を書いた語句シートの提示	
※　二者択一することができる語句カードの提示	
３　異学年やおうちの人に，ものの名前を書いてつくった「なまえの　ほん」を紹介する。　1	
※　「なまえの　ほん」を紹介することができたことを表す「読んだよ！」シールの活用	

本題材の考え方



本題材は，自立活動　6コミュニケーション(2)言語の受容と表出，(3)言語の形成と活用に関することに関連している。言葉を構成している音韻や音韻の構造，文字に関する知識等を用いて書くこと，語彙や文法体系の習得等を用いて書くことにつながると考える。発達段階より，2学期から継続して取り組む必要があると考える。

本時の目標

○　「なまえのほん」をつくるために，進んで「なまえかあど」を書こうとすることができる。(学びに向かう意欲)
○　身近なものの名前をなぞり書きしたり，写し書きしたりすることができる。　(生活にいきる知識・技能)
(AG)　絵カードに合う2～3音の語句を文字や語句シートを選び，なぞり書きをすることができる。
(BG)　絵カードに合う3～4音の語句を平仮名カードでつくり，写し書きをすることができる。
(CG)　絵カードに合う正しい表記の語句カードを選び，写し書きをすることができる。
○　「なまえかあど」について友達に紹介することができる。　(かかわる力)

本時の展開（5／6時）

学習活動と内容			手だて
1　身近なものの名前を書いて集めた「なまえのほん」をつくるために，新しい語句を「なまえかあど」に書くことを知る。 ○　新しい語句を書くことへの見通しをもつこと めあて　ものの　なまえを　かいて　「なまえの　ほん」を　しあげよう。			1　活動の見通しをもたせるための支援 ※　「なまえかあど」を書く活動の流れの視覚化
2　特殊音節を含む語句を書いて，「なまえのほん」の語句を増やす。 (1) 絵カードに合う語句を書いて，名前カードをつくる。			2　絵カードに合うものの名前をなぞり書きしたり，写し書きしたりすることができるための支援 ※　個に応じた支援
AG	BG	CG	（AG） ・　清音2～3音，濁音2～3音で表す絵カードの提示 ・　音声を聞くことができるタブレットの活用 ・　なぞり書きをするための語句や文字シートの活用 （BG） ・　清音3音，濁音・半濁音4音まで表す絵カードの提示 ・　音声を聞くことができるタブレットの活用 ・　平仮名文字カードの活用 （CG） ・　清音3音，濁音・半濁音4音まで表す絵カードの提示 ・　音声を聞くことができるタブレットの活用 ・　二者択一することができる語句カードの提示
○絵カードに合う語句をなぞり書きして，ものの名前をとらえること	○絵カードに合う語句を写し書きして，ものの名前をとらえること	○正しい語句カードを選んで写し書きをして，ものの名前をとらえること	
・絵カードを表す音声言語を聞く。 ・絵カードに合う語句や文字シートを選ぶ。 ・語句や文字のなぞり書きをする。 ・「なまえかあど」を仲間分けする。	・絵カードを表す音声言語を聞く。 ・絵カードに合う語句を平仮名の文字カードを用いて並べる。 ・写し書きをする。 ・「なまえかあど」を仲間分けする。	・絵カードを表す音声言語を聞く。 ・絵カードに合う正しい語句カードを選ぶ。 ・語句カードを見て，写し書きをする。 ・「なまえかあど」を仲間分けする。	
(2) 特殊音節を含む，新しい語句を書き加えて，名前カードをつくる。			
AG	BG	CG	
○濁音のある語句をなぞり書きして，ものの名前をとらえること	○濁音・半濁音のある語句を写し書きして，ものの名前をとらえること	○正しい語句カードを選んで写し書きをして，ものの名前をとらえること	
・絵カードを表す音声言語を聞く。 ・絵カードに合う語句や文字シートを選ぶ。 ・語句や文字のなぞり書きする。 ・「なまえかあど」を仲間分けする。	・絵カードを表す音声言語を聞く。 ・絵カードに合う語句を平仮名の文字カードを用いて並べる。 ・写し書きをする。 ・「なまえかあど」を仲間分けする。	・絵カードを表す音声言語を聞く。 ・絵カードに合う正しい語句カードを選ぶ。 ・語句カードを見て，写し書きをする。 ・「なまえかあど」を仲間分けする。	※　仲間分けすることができるように，カテゴリーの提示
3　仲間分けした「なまえかあど」を見て，感想を発表する。 ○　自分で「なまえかあど」を書いたり，仲間分けしたりすることができたことへの満足感を味わうこと			3　学習の達成感を味わわせるための支援 ※　頑張りを振り返る場の設定

第５・６学年梅組　国語科学習指導案

指導者　　辻　本　　拓

題材　よんで　つくって　あそぼう

指導観

○　本学級は，第５学年男子３名，第６学年女子２名の５名の子供たちで構成されている。生活で使う語句を読んで意味が分かる子供がほとんどである。しかし，文になると語句と語句をつなげて理解することが難しい子供がいる。また，「並べる」や「貼る」など各々の語句の意味は分かるが，助詞を含む文では意味をとらえを間違える子供もいる。２学期題材の「よんでつくろう！梅組おもちゃ」では，教材文からおもちゃ作りに必要な文を読み取り，自分が作りたいおもちゃを作ることができた。そこで，ものづくり活動を設定し読む必然性をもたせることで，意欲的に読む姿が引き出されると考える。

○　本題材では，説明書から必要な文を読み取ることをねらいとしている。具体的には，①説明書を読んでロボットを作って動かす活動に進んで取り組むこと，②ロボット作りや動かすために説明書の文の意味や，つながりを理解して読み取ること，③ロボットを作って動かすことができた達成感を味わうことなどである。これらは，生活場面において文の意味を正しく読み取り，行動へ移すことへとつながる。本題材で，ロボット作りを扱うことで，発達段階が異なる子供にそれぞれの読みの段階に合う説明書を用意することができる。また，文を読んで理解するためには，語句や文の意味はもちろん，文同士のつながりや順序を表す言葉を読み取らなければならない。これらの言葉を扱う本題材は，子供のQOLを高める上でも意義深いと考える。

○　本題材の指導にあたっては，名称語や動作語，接続詞などを正しく読み取り，行動に移すことができるようにする。そこで，まず「動機」段階では，教師が作成したロボットを提示して遊び，自分のロボットを作る方法を話し合ったり，試しの活動を行ったりする。そのために，文字や記号を操作して動くロボットを提示したり，説明書なしでロボットを動かしたり遊んだりする試しの活動を設定する。次に「熱中」段階では，ロボットを作ったり動かしたりするために，説明書を読み取る。そのために，個別の説明書を用意したり，読み上げ機能やヒント機能のあるアプリを作成したりする。最後に「発展」段階では，友達とロボットで遊ぶ活動を設定する。そのために，子供が作ったロボットやまとめたカードを用意する。本題材を通して，説明書を正しく読むことで，ロボットを作ったり動かしたりすることができた達成感を味わわせたい。

題材の目標

○　ロボットを作るために，最後まで意欲的に学習に取り組むことができる。　（学びに向かう意欲）

○　ロボットを作ったり，動かしたりするために必要な文を読み取ることができる。　（生活にいきる知識・技能）

（ＡＧ）　ロボット作りに必要な名称語と動作語を含む三語文を読み取ることができる。

（ＢＧ）　ロボット作りに必要な名称語と動作語を含む四語文を読み取ることができる。

（ＣＧ）　順序や順接(そのために)の接続詞を含む多語文を読み取ることができる。

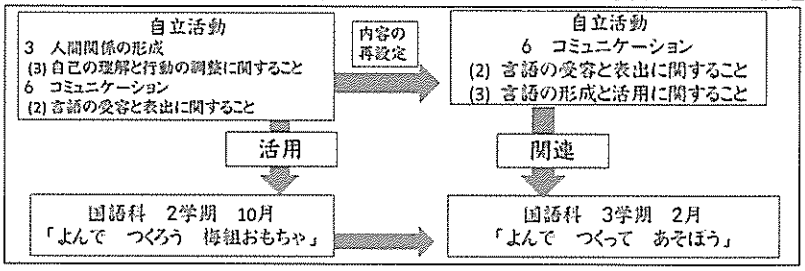
○　語句や文の意味を理解することができる。　（かかわる力）

題材の計画（全10時間）

学　習　活　動　と　内　容	
1　教師のロボットで遊び，ロボットを作る方法を話し合ったり，試しの活動を行ったりする。　2	
○　ロボットを作りたいという意欲をもつこと	
※　ロボット作りの説明の場の設定	
※　ロボットで遊ぶ試しの活動の設定	
2　ロボットを作ったり，動かしたりするために，説明書から必要な文を読み取る　6	
(1) 体の一部が動くロボットを作るために，教材文を読み取る。　③	
ＡＧ	語連鎖の三語文の意味が分かること
ＢＧ	語連鎖の四語文の意味が分かること
ＣＧ	順序を表す接続詞を含む多語文の意味が分かること
※　体の一部が動くロボットの仕組みづくり	
※　語句のまとまりを示す印	
※　読み取る場と道具置き場の設定	
(2) まっすぐ進んだり，曲がったりするロボットを作るために教材文を読み取る。　③本時3/3	
ＡＧ	助詞を含んだ三語文の意味が分かること
ＢＧ	助詞を含んだ四語文の意味が分かること
ＣＧ	接続詞を含む多語文の意味が分かること
※　タブレットの自作アプリの作成	
※　ロボットの中間報告の時間の設定	
※　写真による振り返りの場の設定	
3　友達とロボットで遊ぶために，必要な文を読み取る。　2	
○　自分のロボットができた達成感を味わうこと	
※　ロボットで遊ぶ場の設定	

本題材の考え方

本題材は，自立活動　６コミュニケーション（２）言語の受容と表出，（３）言語の形成と活用に関することに関連している。ＡＧやＢＧは言葉を構成している音節や音韻の構造，文字に関する知識を用いて，ロボットを動かす行動化へとつなぐ。ＣＧは言語の属性関連語等の形成のために，生活経験の記憶，関連付けを行い，ロボットを動かす行動化へとつなぐ。



本時の目標

○　説明書を読んで，ロボットを動かして遊びたいという意欲をもつことができる。　（学びに向かう意欲）
○　ロボットを動かすときに必要な文を教材文から読み取ることができる。　（生活にいきる知識・技能）
（ＡＧ）「○○と□□をつなげる。」などの三語文のまとまりを読み取ることができる。
（ＢＧ）「○○の横に□□を並べる。」などの四語文のまとまりを読み取ることができる。
（ＣＧ）「次に，○○します。そのために，□□します。」などの接続詞を含んだ多語文を読み取ることができる。
○　説明書の「緑のボタンを黄色のボタンの後につなげる。」などの文の意味を理解することができる。
（かかわる力）

本時の展開（８／10時）

<table>
<tr><th colspan="4">学　習　活　動　と　内　容</th><th>手だて</th></tr>
<tr><td colspan="4">１　今まで作ってきたロボットを発表し合い，本時ではロボットの説明書を読み取って動かすことについて話し合う。
○　説明書を読んで，ロボットを動かしたいという意欲をもつこと
めあて
せつめいしょを　よんで　ロボットを　うごかそう。
２　ロボットを動かすために，説明書を読み取る。
(1) ロボットを動かすために，説明書から文を読み取る。</td><td rowspan="4">１　学習への意欲をもたせるための支援
※　ロボットの説明書の提示
※　ロボットを動かす場の設定
※　本時のゴール像の提示
２　読んだことをもとに行動化させるための支援
※　個に応じた説明書の提示
※　個別化した読む場の設定
※　個別のタブレットの提示
※　ロボットが進む道の提示
※　読みと行動化を往還させる場の構造化
※　個に応じた支援
（ＡＧ）
・　読み上げ機能を付けたタブレットアプリの提示
・　写真を貼る枠の提示
（ＢＧ）
・　１文で１ページになっているタブレットアプリの提示
・　読み上げ機能を付けたタブレットアプリの提示
（ＣＧ）
・　複数の文で１ページを構成したタブレットアプリの提示
・　書き抜くマス目付きの教具</td></tr>
<tr><td>ＡＧ</td><td>ＢＧ</td><td>ＣＧ</td></tr>
<tr><td>○名称語と動作語で構成された三語文のまとまりをとらえること</td><td>○名称語，動作語で構成された四語文のまとまりをとらえること</td><td>○ロボットを動かすために順接の接続詞を含む多語文の意味が分かること</td></tr>
<tr><td colspan="3">(2) 説明書から読み取ったことを使って，ロボットを意図した方向に動かしたり，ロボットを動かす方法をまとめたりする。</td></tr>
<tr><td>ＡＧ</td><td>ＢＧ</td><td>ＣＧ</td></tr>
<tr><td>○順序を表す接続詞と三語文のまとまりをとらえること</td><td>○順序を表す接続詞と四語文のまとまりをとらえること</td><td>○順序や順接を表す接続詞を含む多語文の意味が分かること</td></tr>
<tr><td>・説明書を読む。
・ロボットの動作ごとの動かし方を読む（１文で１工程）。
・前や横に進む機能を読み取る。
・順序を表す接続詞を加えて読み取る。
・ロボットの動かし方の手順の写真を選ぶ。</td><td>・説明書を読む。
・ロボットの動作ごとの動かし方を読む（１文で１工程）。
・前に進むを何秒するかなどを読み取る。
・順序を表す接続詞を加えて読み取る。
・工程や動作を示す文に対応する写真を選ぶ。</td><td>・説明書を読む。
・説明書を読んでロボットを動かす（２文で１工程のものと全文が書かれているもの）。
・順接や順序を表す接続詞を含む多語文を読み取る。
・写真をもとに，必要な語句や文を書き抜く。</td></tr>
<tr><td colspan="4">３　今日の学習で作ったロボットや読み取った内容を発表し合い，一人一人が頑張ったことについて話し合う。
○　ロボットを動かしてコースを進むために，必要な文を読み取ることができた実感を味わうこと</td><td>３　学習の達成感を味わわせるための支援
※　発表の場の設定
※　写真による振り返りの場</td></tr>
</table>

MEMO

第１学年　「こころつなぐ　あらつあそびたい」プラン

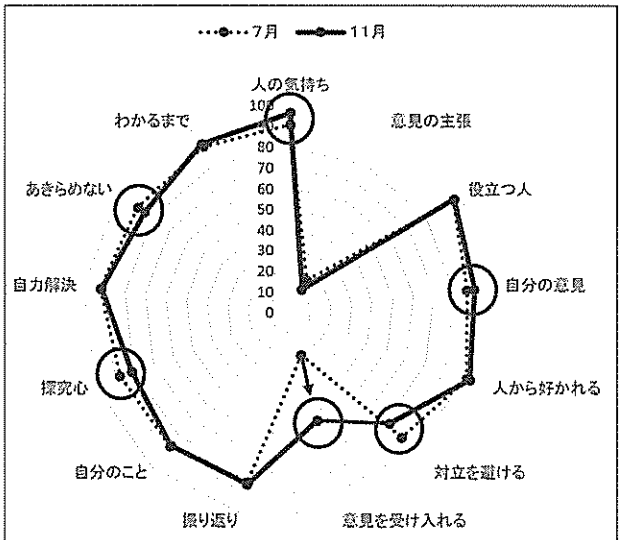
指導者　岡　崎　教　昭・野　口　順　也

関連領域　くらし→（にんげん・げいじゅつ）→くらし
学年テーマ　自立（自分たちの生活を自分たちで豊かにする）

目標（目指す資質・能力）

創造性	様々な材料や場所，友達との関わりを通して，つながりを深めたい他者と共に楽しむために大切なことを考えながら，試しの遊びを繰り返して集団で楽しむ遊びをつくりだすことができる。
協働性	友達と一緒につくりだした集団で楽しむ遊びを体験し合い，感じた面白さや楽しさについて伝え合ったり一緒に遊ぶ相手のことを考えながら，よりよい遊びにしようとしたりすることができる。
向上性	自分たちがつくりだした遊びに面白さや楽しさを見いだし，つながりを深めたい他者と共に楽しめる遊びをつくりだすことができた自分のよさに気付くことができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と11月の比較）】

○　１年生の子供たちは，人の気持ちを考えること，自分の意見をもつこと，異なる意見でもよりよいものを求めて伝え合うことという社会性の側面を育んできている。２学期の「あらつあそびたい」の活動において，晒竹や毛糸などの材料や，四季の舞台，夢広場，ジャンボ滑り台などの場所に関わりながら，自分たちで楽しい遊びを追究していくことができた。そして，自分たちがつくりだした遊びの楽しさを，あらつフェスタで多様な他者に紹介した。それらの活動を通して，共に遊ぶことで多様な他者と心のつながりを深めることができることに気付き，相手に応じて遊びを変えることや工夫することの必要性を感じ，さらに「あらつあそびたい」の活動を続けて，対象を広げていきたいという追究意欲を高めた。そこで，つながりを深めたい他者と共に遊びを通して関わることの楽しさを味わい，生活をよりよくしていこうとする資質・能力を高めるために，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連した学びを展開していく。

関連題材の価値について

○　本題材では，つながりを深めたい他者と共に楽しむための遊びを自分たちでつくりだし，それらを通して実際に関わりをもつことを通して，自分の身の回りに存在する多様な他者と良好な関係を築きながら自分たちの生活をよりよくしていこうとする資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域「くらし」を中心として幼稚園・保育園の園児と集団で楽しむ遊びを行うことを通して，他者とのつながりを深める。その過程で，子供の求めに応じて「にんげん」「げいじゅつ」を関連させていくことで，効果的に課題を解決していくことができる。具体的には，①幼稚園・保育園の園児と楽しく遊ぶことができる遊びについて，聞き取りや試し遊びをしながら，一緒に遊ぶ相手を意識した遊びをつくることのよさを味わうこと（くらし），②年下の友達と関わる際に大切なことについて考えることを通して，人とよりよい関わりを求めたり，相手の立場を意識した関わりをもつことの大切さに気付き，自己の成長や学びを実感したりすること（にんげん），③わらべうた遊びや不織布を主材料とした色・形の遊び，遊びの場をつくりだすことを通して，曲や材料，場の特徴を活かした表現の面白さや楽しさを味わうこと（げいじゅつ）である。最終的に，各領域の学びを活かして幼稚園・保育園の園児との「たのしくあそぼうかい」を開き，自分たちがつくりだした他者と良好な関係を築くことができる遊びの価値を認識することにつなげたい。また，第１学年の子供たちは，遊びを通して，人の気持ちを考えることの大切さに気付き，他者と関わることの楽しさを見いだすことができる。そして，社会性を身に付け，自立に向けて成長していく。このように，遊びを通して学ぶことは，自分の考えをもち，自分で生活をつくりだしながら様々な特徴をもつ人と関わり，よりよい社会をつくろうとする態度を育む上でも価値がある。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　2学期の「あらつあそびたい」の活動を通して学んだことについて話し合う。	2　幼稚園・保育園の園児とつながりを深めるための遊びを，自分たちでつくる。
くらし⑳	1　あらつフェスタの様子を映像で見たり，互いのマイタイムノートやあそびノートへの振り返りの記述について聴き合ったりしながら，成長した点や今後の「あらつあそびたい」の活動について話し合う。 (1) 2学期の「あらつあそびたい」の活動の成果と課題について，互いのノートへの記述や映像をもとに話し合う。① ○　「あらつあそびたい」の活動に対する全体の評価をもとに，今後の活動について考えるための視点をもつこと (2) 2学期末に行った活動の振り返りから生じた幼稚園・保育園の園児と遊びを通して関わりたいという欲求をもとに，3学期の「あらつあそびたい」の活動について話し合う。① ○　どのような遊びをつくって活動をしていくのか，具体的な見通しをもつこと	学習課題　幼稚園・保育園のみんなと楽しく遊べるように，「あらつあそびたい」で遊びをつくろう。 2　幼稚園・保育園の園児と一緒に遊ぶ遊びについて調べたり，遊びをつくり実際に遊んだりする。 (1) 幼稚園・保育園の園児や2年生にインタビューをして，どのような遊びがよいか話し合う。④ ○　発達段階や立場によって求める遊びの内容や方法が異なることに気付くこと
にんげん⑩	1　遊びを通した関わりで思い通りにならなかったことに対する考えをもち，追究課題を話し合う。① ○　年下の園児たちと関わるときに戸惑っていた自分がいることに気付くこと	学習課題　どうすれば幼稚園・保育園のみんなともっと仲良くなれるのだろう。 2　あけぼの保育園や大日保育園の先生から話を聞き，一緒に遊んだり，学校紹介をしたりする 計画を立て，よりよい関わりを探る。 (1) 保育園の年中児や年長児が楽しめる活動を計画する。② ○　自分だけではなく，園児たちが楽しめるような遊びや学校紹介の内容，関わり方を考えること
げいじゅつ⑭	1　不織布に様々な関わり方をしたり，様々なわらべうたで遊んだりしながら，それらの遊びの面白さや楽しさを見つける。② ○　不織布を使った遊びやわらべうた遊びについて追究していくことへの意欲を高めること	学習課題　幼稚園・保育園のみんなと楽しく遊べる色や形，音の遊びをつくろう。 2　不織布を使った色・形遊びを考えたり，様々なわらべうたの遊びを試したりしながら，幼稚園・保育園の園児が楽しめる遊びや遊びの場，遊び方を選ぶことができる。 (1) 思い付いた不織布を使った遊びや選んだわらべうた遊びを試し，面白さや楽しさについて話し合う。④ ○　不織布やわらべうたの特徴を活かした遊びの面白さや楽しさを見いだすこと
評価	領域「くらし」において，「あらつあそびたい」の活動の成果と課題をもとに，3学期の活動でしてみたいことや一緒に活動したい他者について話し合う子供の姿から，以下の方法で評価をする。 →　「あそびノート」や「マイタイムノート」への活動の見通しや他者との関わりに関する記述内容，友達と共に話し合っているときの発言内容	

展開	終末
2　幼稚園・保育園の園児とつながりを深めるための遊びを，自分たちでつくる。	3　他者と共に，自分たちの集団遊びで遊び，遊びを通して他者と関わることのよさについて話し合う。

2　幼稚園・保育園の園児と一緒に遊ぶ遊びについて調べたり，遊びをつくって実際に遊んだりする。
(2) 幼稚園・保育園の園児の求めに合うような遊びを考え，幼稚園や保育園の園児と一緒に実際に試し遊びをしながら，遊びをつくる。⑧
○　遊ぶ相手に合わせて遊びを選んだり遊び方を変えたりすることのよさを見いだすこと

3　「たのしくあそぼうかい」で，来年度本校に入学する新１年生と一緒に，自分たちが考えた遊びで遊ぶ。④
○　遊ぶ相手に合わせて遊びを選んだり遊びを変えたりすることのよさを味わうこと

4　「あらつあそびたい」の解散式を行う。②
○　「あらつあそびたい」の活動を通して成長したことや学んだことを整理し，これからの自分の生活の中で大切にしていきたいことを明らかにすること

2　あけぼの保育園や大日保育園の先生から話を聞き，一緒に遊んだり，学校紹介をしたりする 計画を立て，よりよい関わりを探る。
(2) 実践した計画のよさや課題を話し合う。 ②
○　園児たちとの関わりを通してできるようになったことをとらえること

本時４／４

3　保育園の園児たちとの経験を活かして，来年度本校に入学する新１年生と関わり活動を行い，自分たちの成長や２年生で目指す姿について話し合う。
(1) 昨年の経験をもとに，本校に入学する新１年生との関わり活動の存在を知り，活動計画を立てる。③
○　入学する新１年生がより楽しく学校に通えるようにするための関わりを考えること
(2) 自分の成長を見つめ，新１年生をどのような姿で２年生として迎えるか話し合う。②
○　新１年生のために活動したように，自分の成長の裏にも身近な人の存在があることに気付き，次年度で目指す姿をもつこと

2　不織布を使った色・形遊びを考えたり，様々なわらべうた遊びを試したりしながら，年長児が楽しめる遊びや遊びの場，遊び方を選ぶことができる。
(2) 幼稚園・保育園の園児と実際に遊んで感想を聞き，さらに面白くするための方法について話し合い，実際に遊びながら遊びをつくりかえる。⑤
○　対象に合わせて色や形，曲の選択や速さを変えながら遊びをつくることのよさを見いだすこと

3　「たのしくあそぼうかい」で，来年度本校に入学する新１年生と一緒に，自分たちが考えた不織布を使った色や形の遊び，わらべうた遊びで遊ぶ。③
○　つくりだした色や形，音の遊びの価値を見いだし，自分で遊びをつくりだすことのよさを味わうこと

評価　領域「くらし」において，「あらつあそびたい」の活動や「たのしくあそぼうかい」で他者と関わり，自分や友達の成長を見つけたり，学びについて気付いたことを話し合ったりする姿から，以下の方法で評価をする。
→　「あそびノート」や「マイタイムノート」への記述内容，考えた遊びの工夫やつくったものの変化，友達と共に活動しているときの発言内容

第１学年２組　にんげん（Ａ　わたし）

指導者　　野　口　順　也

題材　「とどけたい！　つながりたい！　みらいの小学生へ」プラン

題材について

○　領域にんげんでは，学年題材である領域くらし「こころつなぐあらつあそびたい」から関連して，「幼児たちと関わるときに大切にすることや自己の成長と２年生になる自分」について考える。また，題材を通して，新１年生に学校生活で必要なことや楽しいことを伝えること，新１年生との関わりから見えてきた自己の成長と自分が目指す２年生の姿をとらえることができることをねらいとしている。具体的には，①新１年生の不安をなくし，楽しい思いをふくらませる関わりとはどのようなものか考え，実践すること，②自分たちの成長を支えてくれている人の存在に気付き，目指す２年生の姿をつくることができることである。ここでは，新１年生との関わりについて考え，実践していくことで，身近な人に温かい心で接する価値をより深く追究することができる。またこのような学習は，自己の成長を見つめ，よりよい自分をつくっていこうとする態度や探究する能力を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，幼児たちとどのような関わりをつくることが大切なのか話し合い，実践し，振り返ることで，本校に入学する新１年生のみんなが楽しい学校生活をスタートできるために大切にすることをとらえることができるようにする。また，身近な人と自己の成長の関係についてもとらえ，目指す自分の姿をもつことができるようにする。まず導入段階では，くらしで多くの人たちと遊びを通して関わった経験から，上手く関われなかったことに対する自分の考えをもつ。そこで，年下の園児たちとどのように関わればよいのか戸惑ったことをとらえる。展開段階では子供の求めに応じて保育園の先生に話を聞き，園児と共に遊ぶ計画を立てる。そこで，関わるときに大切なことを考え，実践後に課題を解決できたか振り返る。次に園児との関わりでの学びを活かし，本校に入学する新１年生のお世話を計画して取り組む。特に本時では，今の２年生がどのような思いで実践したのかとらえ，新１年生のために話し合うことができるようにする。具体的な活動としては，計画した関わりを実演しながら交流し合い，付加・修正を行っていくようにする。終末段階では，新１年生やその保護者からのメッセージを受け，題材全体を振り返る場を設ける。そして，達成感を味わうと共に，自己の成長について見つめ，身近な人の支えに気付かせる。

目標（目指す資質・能力）

○　新１年生の子供たちが楽しく小学校生活を送ることができると思えるような関わりをつくりだすことができる。（創造性）

○　新１年生が学校を楽しいところだと思えるような活動を友達と一緒に考えたり，つくったりすることができる。（協働性）

◎　自分ができるようになったことを活かし，２年生での目指す姿をもつことができる。（向上性）

学びのプラン（全10時間）

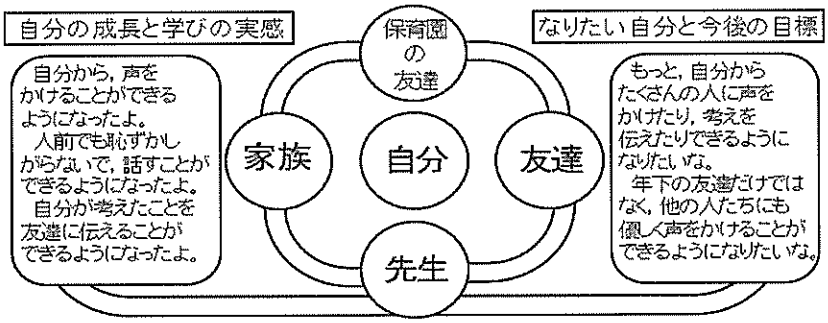
学　習　活　動　と　内　容
1　遊びを通した関わりで上手くいかなかったことに対する考えをもち，追究課題を話し合う。　1 ○　年下の幼児たちと関わるときに戸惑っていた自分がいることに気付くこと ※　あらつフェスタの写真や振り返り作文の提示 年下の保育園のみんなともっと仲良くなるようにするにはどのようにすればよいのか。
2　大日保育園やあけぼの保育園の子供たちと一緒に遊ぶ計画を立て，よりよい関わりを探る。　4 (1) 一緒に遊ぶ活動を計画する。　② ○　自分たちがではなく，園児たちが楽しめるような遊びや関わり方を考えること ※　園児たちの遊ぶ様子やインタビューのＶＴＲ，保育園の先生へのインタビュー (2) 実践した計画の中での成長を話し合う。　②本時2/2 ○　園児たちとの関わりで，できるようになったことをとらえること ※　園児たちからの手紙，ＶＴＲ，マイタイムノート
3　保育園の子供たちとの経験を活かして，本校に入学する新１年生と関わり活動を行い，自分たちの成長と２年生で目指す姿について話し合う。5 (1) 新１年生との活動を計画する。　③ ○　入学する新１年生がより楽しく学校に通えるようにするための関わりを考えること ※　２年生へのインタビュー，昨年度の写真提示 (2) 自分の成長を見つめ，新１年生をどのような姿で２年生として迎えるか話し合う。　② ○　新１年生のために活動したように，自分にも支えてくれる身近な人がいることに気付くこと ※　新１年生やその保護者からの手紙

本時の目標（向上性）

大日保育園やあけぼの保育園の園児たちと関わった経験や書きためてきたマイタイムノートをもとに，自分ができるようになったことをとらえて発言し，新たな目標を設定することができる。

・ 保育園の友達と関わる前までは自分から話しかけたり，思っていることを言ったりすることがあまりできなかったけれど，保育園の友達に教えてできるようになった。次は，もっとたくさんの人と関わるようにする。

本時の展開（５／10時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　保育園の友達と関わり活動をしたことを振り返る。 ○　保育園の友達と関わった経験を思い出し，その中で自分ができるようになったことを考えるという見通しをもつこと ・ 保育園の友達と一緒に遊んだり，学校のことを教えたりしたけど，どのようなことができるようになったのかな。 めあて　ほいくえんの　ともだちと　かかわって　じぶんが　できるように　なった　ことは　なにか　はなしあおう。	※　自分たちで考えて保育園の子供と関わってきたことを思い出すために，一緒に活動しているときの写真やＶＴＲをもとにした交流の場を設定する。
2　保育園の友達との関わり活動を通して，自分ができるようになったことやどうしてできるようになったのかについてを話し合う。 (1) 代表児童のマイタイムノートをもとに，自分が成長したことや学んだことについて考え，伝え合う。 ○　保育園の友達と関わったことでの自分の成長や学びをとらえること ・ ○○くんと同じで，ぼくも恥ずかしがらないで，自分から声をかけて遊んだり，話しかけたりできるようになったよ。	※　自分ができるようになったことをとらえて，発言するために，書きためてきたマイタイムノートと関わりノートを活用した交流の場を設定する。
(2) とらえた自分ができるようになったことや学んだことは，どうしてできるようになったのかについて話し合う。 ○　自分の成長や学びの支えになっているものに気付くこと ・ 友達が大丈夫だよやできるよと励ましてくれたからできたのだね。	【評価内容】 自分の成長や学びをとらえ，発言する姿 【評価方法】 ◇マイタイムノートや関わりノートを根拠にした発言
もっとできるようになりたい，成長したい自分  	※　これからの目標やなりたい自分の姿を設定するために，今の２年生が去年の自分たちと一緒に活動している写真をモデルとして提示する。
3　とらえた自分ができるようになったことや学んだことをもとにして，これからもっとできるようになりたいことを話し合う。 ○　新１年生との関わり活動での目標やなりたい自分について考えること ・ これから，もっとたくさんの人に自分から話しかけて仲良くしたい。	【評価内容】 自分の目標やなりたい姿をイメージし，発言する姿 【評価方法】 ◇関わりノートの記述内容と発言
学びのゴール ☆　ぼくができるようになったことは，自分から友達に話しかけたり，声をかけて一緒に遊んだりすることができるようになったことだな。できるようになって嬉しいし，自分でもすごいと思うよ。	※　自分たちの成長を実感し，今後の活動への意欲をもつために，保護者からの手紙を提示する。

第２学年２組　すうがく（Ａ　数楽のちえ）

指導者　　曽根﨑　達　雄

題材　「見つけよう　はこのなぞ」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「形のひみつを見つけよう」の学習において，辺の長さや直角，頂点の数などの図形を構成する要素に着目しながら，観察や構成などの活動をすることを通して，平面図形である三角形や四角形などについて理解をしている。そこで，身の回りにある形を平面図形として見ることで，辺の長さや直角の有無といった約束に基づいて図形を弁別できるようになってきているこの期に，本題材を設定する。そして，箱のなぞを見つけて宝箱を作るという学習を通して，立体図形である箱は，これまでに学習した平面図形を組み合わせて作られているという見方を育て，図形を構成する要素の存在に気付くことができるようにしていきたい。

○　本題材では，宝箱を作るために箱のなぞを調べていくという活動を通して，立体図形である箱の形に関心をもち，図形の概念を形成することをねらいとしている。具体的には，①箱の形は，同じ形が２つずつ３組の面で構成されているということをとらえること，②箱の形は向かい合う面が同じ形であるということをとらえること，③箱の形は，同じ長さの辺が４本ずつ３組で構成されていて，同じ長さの辺同士がつながってできているということをとらえることである。本題材において，自分の宝物に合った大きさや形の宝箱を作らせることは，身に付けた知識・技能を生活に役立たせるというこれから求められる資質・能力を身に付けさせる上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，宝箱を作るために箱のなぞについて調べたいという思いをもたせ，調べる活動を通して箱の形の構成要素に着目することができることをねらいとしている。まず，導入段階では，試しに宝箱を作る活動を位置付けることで「どのようにしたら，宝箱を作ることができるのか，箱のなぞを見つけよう。」という課題意識をもつことができるようにする。次に，展開段階では，箱を切り開いたり，箱の面を写し取ったり，箱を観察する活動や，箱を組み立てたり，面をつないだりして，箱を構成する活動を通して，面の形や数など箱を構成している要素について理解することができるようにする。最後に，終末段階では，自分の宝物に合った大きさ，形の宝箱を作る活動を位置付けることで，見つけた箱のなぞを使って，自分の宝箱を作ることができるようにする。

目標（目指す資質・能力）

◎　箱の形の特徴をとらえ，自分の宝物にあった箱の形や大きさを決めて，箱を作ることができる。（創造性）

○　友達と協力しながら箱の特徴を調べ，見つけた考えを比べながら，箱の形の特徴を伝え合うことができる。（協働性）

○　見つけた箱の特徴を用いて自分の宝物を入れるための箱を作り上げたことに，達成感を感じることができる。（向上性）

学びのプラン（全８時間）

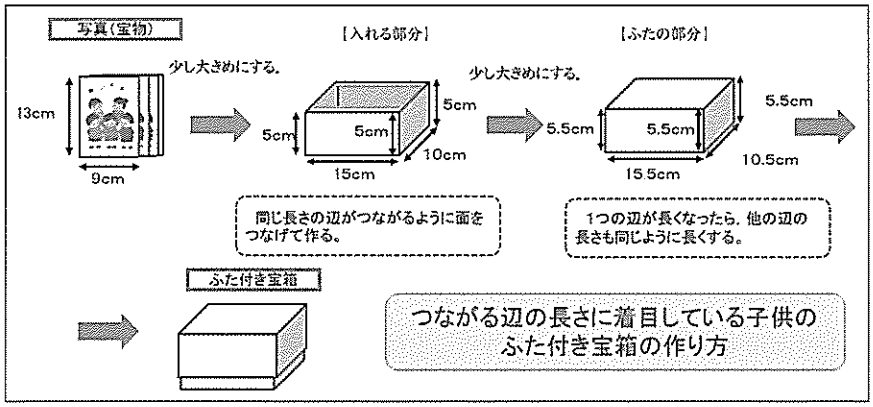
学　習　活　動　と　内　容
1　思い出の宝箱を試しに作ってみて，追究課題を話し合う。　1 ○　宝物を入れる箱をどのようにして作ればよいのかを調べていくという課題をとらえること ※　宝箱を作る試しの活動の設定 どのようにしたら，宝箱を作ることができるのか，箱のなぞを見つけよう。
2　箱には，どのようなぞが隠れているのかを調べて，見つけたなぞについて話し合う。　4 (1) 箱の面の形や箱を作るための面のつなぎ方など箱のなぞを調べる。　② ○　箱は，正方形や長方形などの平面を向かい合う面が同じ形になるように，同じ長さの辺をつなぎ合わせて作られていることをとらえること ※　箱の面を写し取ったり，切り開いて観察したりする場の設定 (2) いろいろな形の箱がどのようにして作られているのか，箱のなぞについて調べる。　② ○　目的に応じて箱の形が工夫されていて，作り方が異なっているということをとらえること ※　箱の形によって異なる目的と工夫を表に整理した比較提示
3　見つけた箱のなぞを使って，自分の宝物を入れる宝箱を作る。　③本時2/3 ○　宝箱の縦，横，高さの辺の長さを決めて，自分の宝物に合った大きさ，形の宝箱を作ることができることをとらえること ※　作り方の参考にできるように，いろいろな形の箱を用意したヒントコーナーの設置

本時の目標（創造性）

箱を構成する要素に着目しながら，自分の宝物に合った大きさや形の宝箱を作り，なぜその大きさや形の宝箱にしたのかや，作り方を説明することができる。

・　わたしの宝物は，高さが低くて上と下が正方形の形をしているから，ちょうどこの高さが入るくらいの小さい長方形４枚を横の面にして，正方形２枚を上と下の面になるように作りました。６枚の面の同じ長さの辺をつないだらできました。

本時の展開（７／８時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　これまでに見つけた箱のなぞを使って，自分の宝物の大きさや使い方に合う宝箱を作るという本時の課題について話し合う。 ○　宝物の大きさや使う目的に合うように，辺の長さや面の形に気を付けながら宝箱を作るという本時学習の見通しをもつこと ・　ふたを開けられるようにしたいので，大きさの違う２つの箱を作らないといけないな。	※　宝物の大きさや使い方に合った宝箱を作るという見通しをもたせるために，いろいろな形の箱を提示する。
めあて　自分の宝物を入れるオリジナル宝箱を作ろう。	
2　自分の宝物を入れる宝箱を作り，作った宝箱を紹介し合う。 (1) 自分の宝物に合う大きさ，形の宝箱を作る。 ○　見つけた箱のなぞを使って，自分の宝物に合う大きさや形の宝箱を作る方法をとらえること ・　ぼくの宝物は細長いから，横の面は細長い長方形の面が２枚必要だな。	※　辺の長さを意識して，面を組み合わさせるために，自分の宝物に合った大きさの面カードを選べるように様々な大きさの面カードを用意しておく。
(2) 自分の宝物と自分が作っている宝箱を紹介し合う。 ○　これまでに見つけた箱のなぞを使って，なぜその大きさや形の宝箱にしたのかや宝箱の作り方について説明すること ・　宝物が写真なので，いつでも見られるように，ふた付きの宝箱を作りました。ふたを作るときは，つながる辺の長さが同じになるように気を付けて，辺の長さを長くしました。	【評価内容】 面の数や辺の長さに気を付けて宝箱を作っている姿 【評価方法】 ◇宝箱を作っている様子とそのときのつぶやき
	※　見つけた箱のどのようなぞを使ったのかをとらえさせるためにキーワード化した箱のなぞを黒板に掲示する。
3　本時の学習活動や題材導入の試しの活動を振り返り，自分の変容やこれから取り組みたいことなどについて話し合う。 ○　始めはうまく作ることができなかった箱も学習を通して作ることができるようになったという自己の伸びを実感すること ・　辺の長さに気を付けて作ったら，簡単に作ることができた。	【評価内容】 箱のなぞを使って，自分の宝箱について説明している姿 【評価方法】 ◇宝箱について説明している様子とそのときの発言
学びのゴール ☆　自分の宝物にぴったりの宝箱を作ることができた。今度，家でも作ってみたいです。	※　自己の伸びに気付かせるために，単元導入の試しの活動を振り返る場面を設定する。

第３学年１組　ことば（A　知る）

指導者　　菊　竹　一　平

題材　ことばはかわる？～国語じてんくらべ～

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「ことばのきまりを知ろう」の学習において，国語辞典のことばの並び方や紹介されていることばの形などに着目しながら，使い方を学び，国語辞典に親しんできている。しかし，複数の国語辞典を引き，自分のことばで語釈をつくる経験はない。そこで，国語辞典の語釈の違いに気付き，１つのことばでも様々な説明ができるおもしろさを実感できる本題材を設定する。そして，国語辞典の必要性に気付き，１つ１つのことばの意味を丁寧にとらえていこうとする意欲を高めていきたい。

○　本題材では，１つのことばでも多様な語釈ができることばの豊かさを実感し，主体的にことばと関わろうとする資質・能力を養うことをねらいとしている。具体的には，①同じことばでも国語辞典によって語釈が違うことがあることに気付くこと，②辞典の語釈をもとに，多様な語釈ができることをとらえること，③国語辞典を複数活用して，ことばの意味を広げたり深めたりすることの大切さを実感することである。本題材において，複数の辞典の語釈を比べることは，ことばのもつ多様性に気付き，自分が納得できるまで適切なことばの意味をとらえようとする主体的なことばの使い手を育成する上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，ことばの意味を広げたり深めたりすることができる国語辞典のよさに気付くことができるようにする。まず，導入段階では，国語辞典の現状について書いた文章と様々な小学国語辞典が並ぶ写真をもとに，なぜ国語辞典がたくさんあるのか課題をもたせるようにする。次に，展開段階では，複数の国語辞典を比べることで，語釈に違いがあることに気付かせ，多様な説明ができることばの豊かさを実感できるようにする。また，今年１月に10年ぶりに改訂された広辞苑のキャッチコピー「ことばは，自由だ。」を提示し，自由であるのに，なぜ国語辞典が必要なのか話し合う。そして，複数の資料をもとに国語辞典の必要性についてとらえることができるようにする。最後に，終末段階では，大辞泉（小学館）の企画である「あなたの言葉を辞書に載せよう」に採用された語釈を紹介し，新たな語釈をつくる活動を位置付ける。これらの活動を通して，国語辞典の必要性や複数活用することの大切さを実感し，主体的にことばと関わり，自分のことばで語釈をつくっていこうとする意欲を高めることができるようにする。

目標（目指す資質・能力）

○　国語辞典によって語釈に違いがあることに気付き，複数の国語辞典を使って，自分のことばで語釈をつくることができる。（創造性）

○　国語辞典について自分の考えを伝え合い，互いの共通点や違いをとらえ，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（協働性）

◎　国語辞典の必要性に気付き，ことばの豊かさを実感しながら主体的にことばと関わろうとすることができる。（向上性）

学びのプラン（全12時間）

学　習　活　動　と　内　容
1　国語辞典の現状について書いた説明文や書店の写真をもとに学習課題について話し合う。　3 ○　ことばの意味はパソコン等ですぐに調べることができるのに，多くの国語辞典が発行されていることから課題をもつこと なぜ国語じてんは，たくさんあるのだろう。 ※　様々な小学国語辞典が並ぶ写真や国語辞典の現状についての説明文の提示
2　複数の国語辞典で共通のことばの語釈を比べ，なぜ国語辞典がたくさんあるのか話し合う。　6 (1)　複数の国語辞典の前書きを読み，なぜ国語辞典がたくさんあるのか自分の考えをつくる。② ○　国語辞典はことばの適切な意味や使い方を知ることができるだけではなく，自分の生活を豊かにすることをとらえること ※　課題解決の視点を明確にして，複数の小学国語辞典の前書きを読む活動の設定 (2)　共通のことばの語釈を比べ，なぜ国語辞典がたくさんあるのか話し合う。　④本時4/4 ○　１つのことばでも多様な語釈ができることをとらえ，ことばの意味を広げたり深めたりすることができる国語辞典の必要性を実感すること ※　今年改訂された広辞苑のポスターと辞典編纂に関わる人々の思いを書いた複数の資料の提示
3　複数の国語辞典の語釈をもとに，自分の語釈をつくり，投稿する。　3 ○　複数の国語辞典を活用して，自分のことばで新たな語釈をつくりだそうとすること ※　大辞泉（小学館）に採用された語釈の紹介と複数の国語辞典を活用して，新たな語釈をつくる活動の設定

本時の目標（向上性）

国語辞典の語釈の違いをとらえるとともに，編纂に関わる人々の思いが書かれた文章などを根拠に，国語辞典を複数引くことの必要性を実感することができる。

・　国語辞典は，ことばの意味を広げたり深めたりするために無くてはならないものだ。たくさんの国語辞典を引いて，様々な説明をもとに１つのことばの意味を考えていきたい。

本時の展開（８／１２時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　「なぜたくさんの国語辞典があるのか」という問いに対する現在の自分の考えを伝え合い，本時のめあてについて話し合う。 ○　友達の考えとの共通点や相違点をとらえ，本当に国語辞典はたくさん必要なのか話し合いたいという意欲をもつこと ・　ぼくは，語釈がそれぞれに違うから意味を正しく判断できるように複数あると思うけど，語釈が同じ場合もあるから迷っているよ。	※　本当に複数の国語辞典が必要なのか課題意識をもたせるために，子供たちの考えを板書で整理する。
めあて　同じことばの意味をくらべて，なぜたくさんの国語じてんがあるのか話し合おう。	
2　複数の国語辞典の語釈の共通点や相違点をもとに，なぜ国語辞典がたくさんあるのか話し合う。 (1) 複数の国語辞典の語釈をもとに，納得できる語釈について話し合う。 ○　複数の小学国語辞典の語釈の違いから自分が納得できる語釈をつくり，同じことばであっても，様々な語釈ができることをとらえること ・　同じことばでも様々な説明の仕方ができるのはおもしろいね。だから，国語辞典はたくさんあるんだろうな。	※　国語辞典を複数引くよさを実感させるために，語釈を比べ，納得できる語釈をつくる活動を設定する。
(2) 広辞苑のポスターをもとになぜ国語辞典がたくさんあるのか話し合う。 ○　複数の文章資料から国語辞典の編纂に関わる人々の思いを読み取り，国語辞典についての自分の考えを広げたり深めたりすること ・　辞典があることで，共通の意味を知ることができるね。そして，たくさんの辞典があることで，より適切な意味も知ることができるよ。	【評価内容】 複数の語釈から自分たちが納得できる語釈をつくろうとしている姿 【評価方法】 ◇プリントの記述内容と発言
「ことばは，自由だ。」 自由であるならば，国語辞典は必要ないの？ ぼくは，辞典で調べて，そこから自分で自由に意味を考えてほしいということだと思うよ。 でも，ことばは，人によって違うように考えることもあるから必要ないかもしれないな。 人によってことばの意味のとらえが違うから道しるべとして辞典があると資料に書いてあるね。 他の資料には，少数の国語辞典では，１つのことばの意味を書き尽くすことはできないと書いてあるよ。 ネットの辞書には書いていない説明ができるように，国語辞典をつくる人達が努力していることが資料からわかるよ。 ことばは，自由だからこそたくさんの辞典を使って，適切なことばの意味を知ることが大切なんだね。	※　国語辞典の必要性に気付かせるために，広辞苑のポスターのキャッチコピーを提示する。
3　国語辞典についての自分の考えの広がりや深まりについて書く。 ○　１つのことばでも複数の国語辞典を引くことで，より適切な語釈をとらえることができるよさを実感すること ・　適切な意味をとらえるには，複数の辞典を引いたほうがよいね。	【評価内容】 ※　根拠を明確にして，自分の考えを伝え合う姿 【評価方法】 ◇プリントの記述内容と発言
学びのゴール ☆　複数の国語辞典を比べることでより適切な意味を知ることができるね。国語辞典は，ことばの意味をとらえる道しるべとして大切なんだね。	※　考えの広がりや深まりを実感させるために，自分の考えの変容を振り返る学習プリントを準備する。

第３学年２組　かがく（Ｃ　科学と人間生活）

指導者　　古　賀　　誠

題材　「発明しよう！未来につながるひみつ道具」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「つくろう！わたしたちの小さな森」の学習において，自然の仕組みや生活環境に目を向け，学校生活を豊かにする工夫を考えることができている。そこで，身の回りにある生活の道具に着目し，このようなものがあったら，生活が便利になるといった未来につながるひみつ道具を考えることで，豊かな発想が発揮できるようになるこの期に，本題材を設定する。そして，身近な材料を扱って，仕組みを工夫することで，様々なひみつ道具を製作できるようにしたい。身近な生活の場面において，「こんなものがあったらいいな」という思いをもとにして，自分なりの仮説を見いだせるようにしていきたい。

○　本題材では，身近な材料を使って，仕組みを工夫すれば，自分たちでも生活に便利なものを創り出せることをとらえることをねらいとしている。具体的には，①アニメに出ているひみつ道具のように，生活の中であったら便利なものを考えること，②ひみつ道具の設計図をつくり，ゴムや電池の動力を使って，動く仕組みを創り出すことなどである。身近な材料を使って，生活場面にあったら便利な未来につながるひみつ道具を考えていくことは，STEM教育の基礎にもつながる。自然の事物・現象の仕組みやきまりを，知的好奇心をもって粘り強く探究し，複雑な情報を処理したり，分析・考察したりと，自分の仮説に沿って，何度も繰り返し実証し，考えを創り出す上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，身近な材料をもとにゴムや電池などの動力を活用して仕組みを工夫すれば，自分たちでも生活に便利なものを創り出せるようにする。まず，導入段階では，身近なものを分解したり，身近にある便利グッズを調べたりする活動を通して，生活場面において便利なものがたくさん開発されていることに気付き，「どのようなものがあったら，もっと生活が便利になるのか」という課題を設定する。次に展開段階では，身近な生活場面において，どのようなものがあったら便利なのか考えたり，どのような動力や仕組みが必要なのか設計図をつくったりしていく。最後に終末段階では，様々な便利グッズを開発する技術開発のナブテスコの方に，自分たちが考えたひみつ道具を説明して，価値付けしてもらい，最先端技術の基礎は，身近なものの仕組みを開発することであることを実感できるようにする。

目標（目指す資質・能力）

◎　身近な材料を使って，生活の中にあったら便利なものを考え，新たな道具の仕組みをつくりだすことができる。（創造性）

○　同じひみつ道具のグループで役割を分担し，協力して結果をまとめたり，追究課題を解決したりすることができる。（協働性）

○　ひみつ道具を開発する価値を見いだし，自他のよさを実感し，考えをつくりだしたことを認め合うことができる。（向上性）

学びのプラン（全15時間）

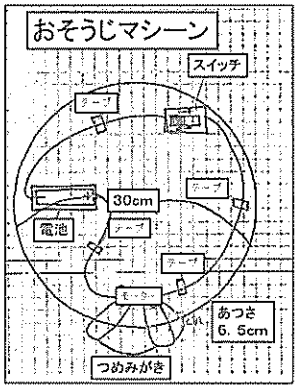
学　習　活　動　と　内　容
1　学校や家庭で使えるひみつ道具について考えを出し合い，追究課題を話し合う。　3 ○　未来につながるものづくりの仕組みについて興味や関心をもち，課題をつくること ※　見本となる道具の提示や分解活動の設定 どのようなものがあれば，もっと学校生活や家庭生活が便利になるのだろうか。
2　未来につながるひみつ道具の仕組みについて，仮説実験を行い，ひみつ道具を制作する。　10 (1) ひみつ道具の設計図を考え，ひみつ道具の製作計画や仕組みを話し合う。　③ ○　ひみつ道具の目的や材料，設計図，今後の製作計画を立案できること ※　ひみつ道具製作における製作例の提示と生活に役立つ道具の資料活用の仕方 (2) ひみつ道具の仕組みや材料を追究し，試行錯誤しながらひみつ道具を製作する。　**⑦本時5/7** ○　これまでのひみつ道具の仕組みは，様々な材料の組合せや動力を使って設計され，創り出されていることをとらえること ※　学校場面や生活場面の例示とこれまでの追究計画ノートの振り返り活動の設定
3　技術開発者の方に，未来の技術開発の話を聞き自分たちが作ったひみつ道具の仕組みを伝え，今後のものづくりについて話し合う。　2 ○　ひみつ道具の仕組みにおいて，生活場面における活用の目的や便利さをとらえること ※　これまで学習した内容を使って作ったひみつ道具の仕組みを伝える交流活動の設定

本時の目標（創造性）

ひみつ道具について，これまでの製作過程や実験結果を振り返りながら，身近な材料の組み合わせを工夫したり，様々な動力を使ったりして設計し，身近な生活に活かされるひみつ道具を製作することができる。

・　ぼくは消しゴムのゴミを拾う掃除機をつくろうと思う。先生が見せてくれたモーター掃除機をどのように改良していくのか考えているので，早く実験して，自分の掃除機を完成させたい。

本時の展開（11／15時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　自分のひみつ道具についてこれまで調べてきたことを振り返り，本時の実験について話し合う。 ○　自分の前回の実験結果をもとに，これまで行ってきた実験内容を振り返り，本時の実験の見通しをもつこと ・　モーターをうまく使って，掃除機を完成させたい。どのように，ブラシを付けると，うまくゴミを拾うようになるのかな。	※　自分のひみつ道具をつくる見通しをもたせるために，これまでの実験結果やこれからの設計図を振り返る活動を設定する。
めあて　これまでの実けん結果を見直し，ひみつ道具の完成度を高めよう。 2　設計図をもとに，目的としている動きになるのか実験する。 (1) ひみつ道具の動きを確認しながら実験する。 ○　設計図通りなのかを確認して，どのようにすると，目的としている動きになるのか考えること ・　ブラシの長さとモーターの動きを何度か実験してみよう。	※　目的としている動きに近づかせるために，いろいろな動力の種類や，ものの仕組みの例を提示する。
(2) ひみつ道具の動きの様子や，時間，距離など数値化した結果を表にまとめ，設計通りの動きなのかを話し合う。 ○　目的としている動きと電気，モーターの関係をとらえること ・　ブラシの長さとモーターの動きとを関係付けることで，掃除機の動きが制御できると分かった。ブラシの長さと動きをもっと設計通りにしたい。	【評価内容】 自分のひみつ道具のできていない部分を把握し，改良する内容を発言する姿 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言
 学校のつくえをきれいにしてくれるそうじマシーン 結果 材料 / 1回目 / 2回目 / 3回目 / 4回目 / 5回目 つめみがき / 1cm× / 2cm× / 3cm○ / 3cm○ / 3cm○ 歯ブラシ / 5cm× / 4cm× / 3cm× / 2cm× / 6cm× 考察 つめみがきの3cmを付けた方が，消しゴムのゴミを拾うことが分かった。 歯ブラシは，消しゴムのゴミを集めなかった。	※　自分のひみつ道具の仕組みを完成させるために，実験結果を表にまとめる活動を位置付ける。
3　実験結果から考察し，自分のひみつ道具について話し合う。 ○　自分のひみつ道具をつくることは難しく，どのような仕組みを取り入れればよいのかを何度も考えることが必要なことをとらえること ・　他の人も完成していないようだ。ぼくの掃除機もまだ完成していない。次は回転を止める仕組みを考えることが必要だな。	【評価内容】 自分のひみつ道具について結果をもとに考察したことを発言する姿 【評価方法】 ◇学習感想の記述内容と発言
学びのゴール ☆　掃除機でも，いろいろな工夫ができることが分かった。材料は自分の生活の中にあるものを使えるな。何かを発明するときは，材料や動力の組合せや仕組みを工夫すればできる。これから，設計図を見直して，未来に役立ち，生活につながるひみつ道具をつくりたいと思った。	※　今後の見通しをもたせるために，自分のひみつ道具に仕組みが活かせる生活の便利グッズを提示する。

第４学年２組　ことば（B　伝え合う）

指導者　　杉　本　克　如

題材　「This is my favorite place. ～福岡のおすすめスポットPR隊～」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材“Turn right. ～道案内をしよう～”の学習において“Where is ～?”という場所を尋ねる表現や，“Go straight.”“Turn left.”などの道案内をする表現に慣れ親しんでいる。そこで，これまでに慣れ親しんでいる英語を使い，自分が本当に伝えたいことを英語で表現したいと思い始めているこの期に，本題材を“Turn right.”の発展として設定する。「聞くこと」「話すこと」を中心に英語を学んできた子供たちに，「書くこと（書き写すこと）」の活動を仕組むことで，「書くこと」もコミュニケーションの一つの手段であることを実感させつつ，「書くこと」への意欲を高められるようにしたい。

○　本題材では，居住区にある自分が好きな場所（店や公共施設，観光地など，以下おすすめスポット）について，紹介内容やそれを伝える英語表現を考えたり，英語や非言語を使って，おすすめスポットのよさを相手に説明したりすることをねらいとしている。具体的には，①福岡在住の留学生が抱く「福岡のおすすめの場所をもっと知りたい」という願いを知り，追究課題を考えること，②紹介内容を日本語で考え，伝えるための英語表現を考えること，③おすすめスポットを紹介するリーフレットを作成して，それをもとに友達や留学生に紹介することなどである。本題材において，友達や留学生におすすめスポットを紹介することは，友達への理解を深めたり，英語や非言語を使って思いを伝える喜びを味わわせたりする上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，おすすめスポットの紹介内容を日本語や英語で考えたり，友達や留学生に英語や非言語を使って説明したりすることができるようにする。まず，導入段階では，留学生との交流から，「福岡のおすすめスポットを留学生に紹介する」という追究課題を設定する。次に，展開段階では，おすすめスポットについて調べ，紹介文を日本語で書いたり，リーフレットを作成したりする。とくに本時では，作成したリーフレットをもとに，友達とおすすめスポットを紹介し合う。具体的には，その場所でできること（以下，PRポイント）を紹介したり，リーフレットにPRポイントを英語で書き写したりする。最後に終末段階では，留学生におすすめスポットを紹介する活動を通して，英語を使ってできるようになったことやことばに関する気付きについて話し合う。

目標（目指す資質・能力）

◎　留学生の願いをもとに，自分が紹介したい場所のよさやそれを伝えられる英語表現を考え，友達や留学生に説明することができる。　（創造性）

○　おすすめスポットのよさが伝わるように英語を考えながら話したり，友達の紹介を聞き，友達への理解を深めたりすることができる。（協働性）

○　「書くこと」もコミュニケーションの一つの手段であることを実感し，英語を学び，使うことへの意欲を高めることができる。　（向上性）

学びのプラン（全10時間）

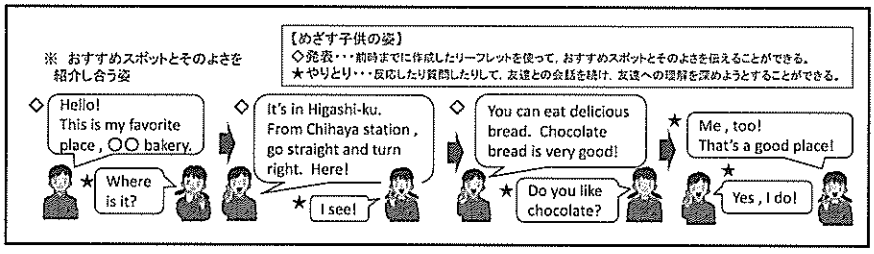
学　習　活　動　と　内　容
1　留学生と交流し，追究課題を話し合う。　2 ○　留学生の「福岡のおすすめスポットを知りたい」という願いを知り，追究課題を考えること ※　留学生との交流，追究課題の話合いの設定 「福岡ガイド～４の２版～」をつくって，留学生の方に福岡のおすすめスポットを紹介しよう。
2　おすすめスポットについて，紹介内容や理由を日本語で考え，リーフレットを作成したり，英語表現を考え，紹介し合ったりする。　6 (1) おすすめスポットのPRポイントを調べ，紹介文を書いたり，キーワード化したりする。　④ ○　おすすめスポットの好きな理由やPRポイントを考えたり，英語で表現できそうな日本語へ変換することを意識したりすること ※　英語で表現できそうな日本語へ変換する活動の位置付け，タブレットの翻訳機能や辞書の活用 (2) おすすめスポットについて，作成したリーフレットをもとに友達と紹介し合う。　**②本時2/2** ○　道案内の表現や既習表現を想起し，おすすめスポットの紹介に必要な英語表現を考えたり，非言語を使うことを意識したりすること ※　新教材“Let's Try!”“We Can!”の活用，目的意識のある「書く（書き写す）」活動の設定
3　留学生におすすめスポットを紹介し，ことばに関する気付きや自分の変容を話し合う。　2 ○　「書くこと」の意義を実感したり，英語を学び，使う意欲を高めたりすること ※　導入で出会った留学生への紹介活動の設定，留学生からの反応，ことばに関する話合いの設定

本時の目標（協働性）

相手とおすすめスポットのよさや好きな理由を伝え合うために，反応や質問を返しながら友達の紹介を聞いたり非言語を活用しながら英語を考えて話したりすることができる。

・ ○○くんが家の近くの△△広場でスケボーをしていることを初めて知った。今度教えてもらいたいな。
・ 友達が住んでいるところにも，おすすめスポットがたくさんあった。次は留学生に紹介して知ってほしい。

本時の展開（8／10時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1 友達のおすすめスポットを紹介するリーフレットを見て，友達が好きな場所やその理由を予想することを通して，本時の活動について話し合う。 ○ 友達の好きな場所やその理由を考えることを通して，友達とおすすめスポットを紹介し合うという本時の活動の見通しをもつこと ・ □□パン屋さんって，誰のおすすめスポットなのだろう。どこにあるのかな。自分が知らないおすすめスポットがたくさんありそう。 ・ 友達とおすすめスポットを紹介し合いたいな。	※ 本時の活動に対する相手意識と目的意識を明確にもたせるために，作成しているおすすめスポットのリーフレットを活用した“Who am I?”クイズを行う。
めあて おすすめスポットとそのPRポイントを紹介し合おう。	
2 友達とおすすめスポットを紹介し合い，自分のおすすめスポットのPRが相手に伝えられる英語を書き写して，リーフレットを仕上げる。 (1) おすすめスポットについて，そこへの行き方を説明する道案内の表現やできることを紹介する表現を発話し，友達と紹介し合う。 ○ 友達の紹介を聞く際に，反応することを意識したり，非言語を活用することばを選ぶなど，相手に伝わる話し方を考えたりすること ・ 自分のおすすめスポットを「いいね！」と言ってくれてうれしいな。 ・ □□パン屋さんは○○さんのおすすめスポットだね。食べてみたいな。	※ リーフレットをもとにした発表に加え，即興性のあるやりとりを体験させるために，反応や質問を返しながら聞くよう聞き手に指示したり，中間評価を行い，モデル提示を行ったりする。
	【評価内容】 おすすめスポットについて“Nice!” “Why?” “Do you like ～?”などの英語を使って反応しながら聞いたり，友達に伝わるように英語，指差しやジェスチャーなどの非言語を考えて話したりする姿 【評価方法】 ◇やりとりにおける発言内容
(2) 留学生にもおすすめスポットのPRポイントを伝えるためにリーフレットに表現集の英語を書き写したり，基本表現をもとに英語を書いたりする。 ○ 大文字や小文字の区別，書き終わりのピリオドを意識したり，自分のPRポイントを伝えられる英語を考えたりすること ・ You can の後に eat を書いたら，食べ物について伝えられそうだ。 ・ わたしが書いた英語で伝えたいPRポイントが伝わるといいな。	※ この場にいない留学生にPRポイントを伝えるという「書く」目的意識をもたせるために，留学生からのビデオメッセージを提示する。
3 本時の学習活動を通して，友達やことばについて新たに気付いたこと，留学生におすすめスポットを紹介する方法などについて話し合う。 ○ 友達への新たな気付きを共有したり，ことばを使って自分ができるようになったことをとらえたり，次時の学習への見通しをもったりすること ・ 友達の好きな場所や自分が知らなかった場所を知ることができた。 ・ PRポイントを英語で言ったり，書き写したりすることができた。	※ 自己の変容やこれから追究していきたい課題を共有させるために，視点（①ことばへの気付き，②できるようになったこと，③これからの見通し）を明確にした交流を位置付ける。
学びのゴール ☆ 友達と紹介し合って，いろいろな福岡のおすすめスポットを知ることができた。完成したリーフレットを使って，留学生に紹介したい。	

第５学年１組　けんこう（Ｃ　運動）

指導者　　中　村　　剛

題材　「ゲームでつくろう　健康な体」プラン

題材について

○　本学級の子供たちは，２学期題材「ゲームを楽しもう」の学習において，バレーボールやベースボールをもとにしたゲームを行い，それぞれの特徴をとらえて楽しむことができた。また，自己の運動課題を「素早く動く」「チームに貢献して活躍する」などと設定し，目標へ近づいている自分を感じながら，運動の学習に取り組むことができている。しかし，役割を分担して攻め方を工夫し，勝利を目指すまでには至っていない。そこで，自分の役割をとらえ，友達と共通の目標に向かって協力して活動に取り組むことができるこの期に，本題材を設定する。そして，友達と協力してゲームを楽しんだり，作戦を実行する喜びを味わったりして，運動やスポーツへの意欲を高めていきたい。

○　本題材では，題材を通して自分たちの思いや願いを出し合い，現状を分析して解決策を考えていく活動をすることで，自分たちのチームに合った攻撃の仕方をとらえることをねらいとしている。具体的には，①縦へのパスや横へのパスが通る状況をとらえ，そのための動きができること，②作戦の必要性をとらえ，チームの実態に合った作戦をつくることなどである。本題材において，チームの勝利のために現状を分析した上で思いや願いを出し合い，攻撃の仕方を考えることは，スポーツをする喜びを味わわせることができるとともに，他者とつながるというスポーツの価値をとらえさせる上で価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，ゲームの様相を分析し，思いや願いを出し合うことで効果的な動きを見いだし，自分やチームの課題を解決することができるようにする。まず，導入段階では，２面ゴールハンドボールを行い，多く表出するパスの種類や理由について話し合い，その後どのような動きをしていきたいのか思いや願いを出し合う。次に，展開段階では，子供の技能が上がることで生じる課題を解決するようにする。その際，ゲームの様相と結果を分析し，どのような動きをしていきたいのか思いや願いを出し合う。そして，次の課題をつくり，解決策をチームで考えていくようにする。さらに，空いたスペースを活かして連携を図ることができた攻撃を振り返り，失敗や成功の場面を想起することで，課題を解決できるようにする。最後に終末段階では，大会を行い，自分たちの学びや個人の高まりを実感できるようにする。

目標（目指す資質・能力）

◎　自分たちのチームが相手よりも多く得点を取るために空いている場所を見つけた攻撃や守備の仕方を工夫することができる。　（創造性）

○　相手や自分たちの特徴に応じた攻め方や守り方について，これまでの結果をもとに話し合い，よりよい攻撃や守り方をチームで話し合って選択することができる。　（協働性）

○　自分のチームが勝利するために，よりよい動き方を考えることができる。　（向上性）

学びのプラン（全12時間）

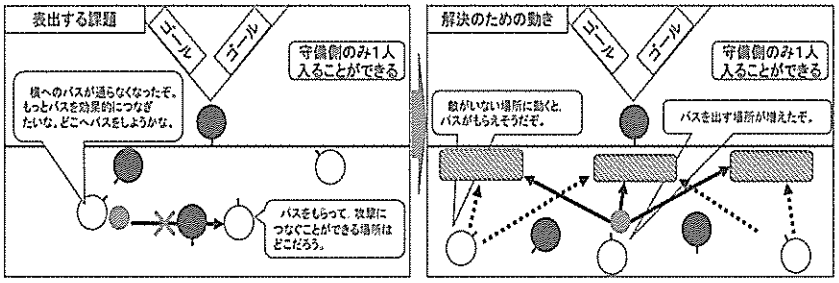
学　習　活　動　と　内　容
1　２面ゴールハンドボールと出合い，ゲームの特徴について話し合い，追究課題を決定する。　２ ○　大まかなルールとゲームの特徴をとらえ，目指す攻撃の仕方やそれを実現するための個人の動きをとらえること ※　既習のゲームとの比較やできている動きを確かめるための動画の視聴 ２面ゴールハンドボールで，ゴール前に素早くボールを運ぶための動きを見つけよう。
2　チームでパスを受ける場所や移動する方向を確かめながら２面ゴールハンドボールを行う。　８ (1) 課題を解決する動き方を工夫して２面ゴールハンドボールを行う。　② ○　ゴール前に素早くボールを運ぶための個人の動きをとらえること ※　兄弟チームによる動き方の分析と動画の視聴 (2) 新たな課題を解決する動き方を工夫して２面ゴールハンドボールを行う。　⑥本時4/6 ○　攻撃を組み立てる動きやチームで空いた場所を使って攻める動き方をとらえること ※　兄弟チームによる動き方の分析と攻撃の様子についての動画の視聴
3　２面ゴールハンドボールの大会を行い，自分やチームの仲間の高まりを話し合う。　２ ○　チームで解決してきた課題や課題解決のために工夫して考えた動きのよさや各グループの考えのよさをとらえること ※　チームで考えて課題を解決してきた動き方を発揮して対戦する大会の設定

本時の目標（創造性）

チームで得点を決めたり防いだりするための動きについて，チームで考えた攻撃や守りが成功した場面をとらえて，その実行のために個人の動き方を工夫することができる。

・　右側の空いているところに敵がいないから，そこを中心に攻撃しよう。何回もすると，相手に動きを読まれたから，次は，左側と右側を使って，分からないように空いている場所を使ってみたら成功したよ。

本時の展開（８／１２時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　前時までのゲームの様相を見て，学習課題を話し合う。 ○　自分たちのチームのゲームの様相から，どのような動き方をすると課題を解決することができそうか見通しをもつこと ・　縦パスや横パスでの組立ては相手に読まれるようになった。空いている場所を上手く使えると攻撃ができそうだから，試してみたい。	※　課題と解決の方向性を見いださせるために，空いたスペースを使っている動画とそうでない動画を視聴する場を位置付ける。
めあて　ゴール前で空いている場所を活かすための動きを，チームで考えて工夫しよう。	
2　チームで動きを考えて，２面ゴールハンドボールを行う。 (1) チームの課題を解決する動きを確かめながらタスクゲームを行う。 ○　ハーフコートで空いている場所に素早く入ることができるために空いている場所を見つけ，そこへ移動するための動き方をとらえること ・　動く方向を決めて走ると，空いた場所に入ることができる。敵が来たらもう一度別の場所に動くことが大切だね。	※　個人の動き方のイメージをもたせるために，グループ作戦ボードの活用と空いたスペースを意識させるためのシートを用意し，位置を視覚化する。
(2) 見つけた動きを活かしてメインゲームを行う。 ○　攻守の切り替えを素早くすることで，空いている場所に素早く入ることができ，ねらった攻め方が成功しやすいことをとらえること ・　コートが広いので，攻撃になったらすぐに走るとよさそうだぞ。反対にボールを取られたらすぐに戻ろう。	【評価内容】 見つけた目印を参考に空間を意識して動く姿 【評価方法】 ◇子供の発言とゲームの様相
	※　チームでの動きを確認させるために，状況に応じて30秒の作戦タイムを要求できるルールを設定する。
3　本時のゲームで解決できた課題や自己の高まりについて振り返り，次時の学習で解決していきたい課題を話し合う。 ○　縦パスや横パスが相手に読まれてできなくなっても，動きを工夫することでシュートチャンスをつくることができたことや，そのために個人の動き方を考えたことをとらえること ・　空いた場所に入るために，素早く移動することを頑張りました。友達から声をかけてもらい，動き始めを自分で判断できるようになりました。	※　チームや個人の高まりをとらえさせるために，チームや個人での振り返りができる発問をする。
学びのゴール ☆　今日の学習では，縦や横へのパスを止められた場合に，どうするとよいのかを考えた。空いた場所へ走って行き，パスをもらったらよい。	

MEMO

第５学年　「見つけよう！日本の魅力！」プラン

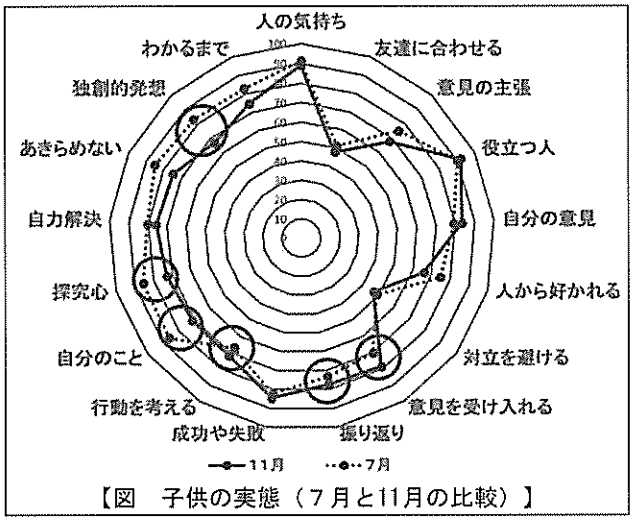
指導者　　井　手　　司・鞭　馬　あゆみ

関連領域　くらし→（くらし・けんこう・にんげん）→くらし
学年テーマ　日本（日本とはどのような国か）

目標（目指す資質・能力）

創造性	日本のもつ魅力に関心をもち，日本とはどのような国であるかとらえるとともに，日本の抱える問題について自分なりの考えをもつことができる。
協働性	よりよい解決方法を見つけるために，友達と協力して情報を集め，折り合いをつけながら話し合ったり，問題に取り組む人々の考え方や思いを理解し，状況に応じた働きかけをしたりすることができる。
向上性	日本人の一人として，日本の魅力について再認識するとともに，その魅力を守り育む一員として，自分にできることを続けていこうという意欲をもつことができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と11月の比較）】

○　５年生の子供たちは，人の気持ちを考えたり，誰かの役に立ちたいと思ったりという社会性の側面は育ってきている。くらし１学期題材「どうする？わが国の領土問題」といった学習では，社会的な問題を考えようとする態度を身に付けてきている。また，けんこう１学期題材「はじめてみようクッキング」では，実践意欲を高めることができた。５年生２学期題材「どうする？食料問題」では，くらしを中心に，けんこう，ことばと関連させながら，世界の食料問題を世界，日本，身の回りの視点から考え，解決方法を追究したり，自分にできることを実践したりする活動を行った。それによって，世界の遠く離れたところであっても，自分にも関係があるかもしれないという広い視野をもつことができた。本題材「見つけよう！日本の魅力！」では，日本の魅力について追究することを通して，子供たちの考える日本の魅力を付加したり，強化したりしながら，日本人としてのアイデンティティをもち，自分にできることを実践する意欲をもたせたい。そこで，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連して学習を展開していく。

関連題材の価値について

○　本題材では，現在，増加している福岡へのインバウンドを，より増やすために実現可能な方法について考え，実践することを通して，日本の魅力（関係性，多様性，心配り，アレンジ力など）についてとらえ，日本人としての自覚をもつ資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域くらしを中心とし，日本の魅力を調べ，福岡へのインバウンドをより一層増やそうとしている福岡市の方に出会うことを通して，子供の求めに応じて，けんこうにおける学習を関連させながら，子供の学びを総合的に深めていくようにする。具体的には，①日本の魅力とインバウンドについて調べることを通して，日本はまだまだ世界に開かれていないことに気付き，追究していきたい課題を見い出すこと（くらし），②日本や福岡のインバウンドの増加に向けた取組を理解すること（くらし），③日本の食文化である和食について知り，自分の健康と結びつけて考えること（けんこう），④ゲストハウスを経営する人の取組の様子から，「おもてなし」とはどのようなものかとらえ，自分の生き方を見つめ直すこと（にんげん），⑤福岡市役所の方に福岡のインバウンドを増やすための計画について提案すること（くらし）などである。各領域での学びを最終的には，日本のインバウンドを増加させるために，自分にできることを考え，実践することにいきつくようにしたい。今後，日本や子供たちの住む福岡においては，2019年にラグビーワールドカップ，2020年に東京オリンピック，2021年には福岡で世界水泳が行われ，一層インバウンドの増加が見込まれる。その点から本題材は，日本の魅力について再認識し，日本人としてのアイデンティティを確立するとともに，日本，そして地元である福岡でできることをしていこうとするグローカル（地球規模で考えながら，地域で活動する）の視点へとつながるという点からも価値がある。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　日本の魅力とはどのようなものか話し合い，これからの学習課題を決める。	2　自分の課題を解決するための方法を考え，課題解決のために必要な追究を行う。
けんこう⑫		学習課題１　和食にはどのような特徴があるのだろう。 1　和食にはどのような特徴があるのか調べる。④ (1) 和食の特徴を調べる。③ ○　和食は，素材そのものを活かした調理であることに気付き，和食のよさが分かること (2) 自分の課題決め，学習計画を話し合う。① ○　自分の食生活を振り返り，和食を取り入れるよさに気付くこと
くらし㉕	1　東京オリンピックを前に，日本への観光へ関心が高まっていることを知り，日本の魅力について追究する課題を決める。⑩ (1) 東京2020国際招致ＰＲフィルムを見て，海外にアピールしている日本の魅力について話し合う。② ○　海外からみえる日本の魅力に関心をもつこと (2)　実際に海外の人に日本の魅力に尋ねて，自分たちの課題を話し合う。③ ○　自分たちのイメージと海外の人のイメージの差に気付き，どのようなことを調べたいのか課題をもつこと (3) 福岡市役所MICE推進課の馬場さんの話を聞き，インバウンド増加のメリットやデメリットについて話し合う。③ ○　インバウンドの増加によって，どのような生活の変化があるのかとらえ，自分の課題とのかかわりについて考えること (4) 自分のテーマについて友達と交流し，自分の追究するテーマを決定する。② ○　調べる中で関心をもったことがテーマとして価値があるのか，追究方法が適切か判断すること	学習課題　海外の方にもっと日本に来てもらうためにはどのようなことをすればよいのだろうか。 2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのようなことが必要になるのか，話し合う。⑩ (1) 自分の考えるインバウンド増加の取組について追究する。⑤ ○　日本の魅力をどのように伝えるかと，伝えるべき日本の魅力とはどのようなものかについて考えること
にんげん④		学習課題　「おもてなし」とは何だろう。 1　近年，増えつつあるゲストハウスの様子から，日本の魅力について話し合い，課題を決める。① ○　福岡市の周辺にできているゲストハウスの様子を見て，おもてなしを感じる部分をとらえ，おもてなしとは何かについて，関心をもつこと

評価	領域「くらし」において，世界に誇る日本の様々なことに出合い，それをもとに「海外から見る日本の魅力とは何か」に関心をもち，追究したいテーマを設定することができる。 →　東京オリンピックを紹介する映像を見たときの感想内容や，その後個人で追究テーマを設定し，それを吟味しながらテーマを付加・修正していく発言内容，記述内容

展開	終末
2　自分の課題を解決するための方法を考え，課題解決のために必要な追究を行う。	3　学習を通して，自分にできるようになったことや考え方の変化について話し合う。

学習課題２　和食を生活に取り入れるにはどうしたらよいだろうか。

2　簡単な和食の調理方法を調べ，調理をする。⑥
(1) これまでの調理技能を活用してつくることができる和食の調理方法を調べる。①
○　簡単に調理できるだし巻き卵ときんぴらごぼうの調理手順を理解すること
(2) だし巻き卵ときんぴらごぼうを調理する。⑤
○　できることが増えたことを実感すること

3　自分の生活にどのようにして和食を取り入れていくことができるのか話し合う。②
○　自分の生活時間や身に付けている技能をもとに，これから実行可能な計画を考えること

本時 1/2

2　日本のインバウンドを増加させるためには，どのようなことが必要になるのか，話し合う。
(2) 自分の考えるインバウンド増加の取組を提案し，他者の意見から改善する。 ⑤
○　価値が対立するような取組や，目的達成のために多様なアプローチがある取組などについて，その価値を根拠を示しながら，判断すること

（子供の求めに応じて）
3　自分が考えたインバウンド増加のための取組を実施したり，提案したりする。⑤
○　自分の考えたことが形になることで，日本人の一人として自覚をもつこと

【例】
・日本のよさをまとめた動画をつくり，HP上にアップする。
・海外からの観光客向けのパンフレットやポスターをつくる。
・日本に来たいと考えている人に，メールなどで紹介する。
・自分の考えを提案書にまとめ，市役所の方に送る。

2　自分の課題について追究する。③
(1) オリンピックの招致の際に使われた「おもてなし」の意味について話し合う。①
○　言葉の意味や由来など，「おもてなし」の言葉に込められた日本人の考え方をとらえること

2　自分の課題について追究する。
(2) 実際にゲストハウスで「おもてなし」をしている方の取組と，その思いについて聞き，「おもてなし」とは何か，話し合う。②
○　どのような思いで，ゲストハウスを運営しているのかとらえ，その中に見えるおもてなしの心についてとらえること

評価	領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，日本の魅力について考え，海外の方にアピールしようとすることができる。 →　各領域でかかわってきた人や内容について追究してきたノート記述や表現物，日本のよさを支える人の願いや，価値観がぶつかる中で取り組んでいる発言内容や，解決策を提案する表現物や発言内容

第５学年２・３組　けんこう（Ｂ　食）

指導者　　鞭　馬　あゆみ

題材　「どんなところがすごい？　日本の食事」プラン

題材について

○　領域けんこうでは，学年題材である領域くらし「すごいよ！日本！」から関連して，「和食の魅力」について考える。また，題材を通して，「和食」といわれる食事にはどのような特徴があるのかをとらえ，そのよさを自分の生活の中にどのように取り入れていくのかを考えることをねらいとしている。具体的には，①和食を構成する複数の要素をとらえることを通して，和食のもつ価値を実感すること，②これまで身に付けてきた技能を活用しながら簡単な和食の調理をすること，③状況に応じたいろいろな方法で和食を自分の生活の中に取り入れられることが分かり，実行することである。ここでは，和食の特徴について調べていくことで，自分の食生活に関心をもち，よりよい食生活をつくっていこうとする向上性を育てることができる。また，和食を生活に取り入れていく方法を，自分の生活時間や自分がもっている技能など，多面的な視点から考えることで，自分の食生活をマネージメントしていくことができる能力を育てる上でも価値がある。

○　本題材の学びにあたっては，和食に関わっている人の話を聞くことで，和食の魅力を自分なりの言葉で表現できるようにする。また，簡単な和食の調理をすることで，自分でも和食をつくることができることを実感できるようにする。そして，和食を自分の生活に取り入れる方法を選び，実行していく。まず，導入段階では，領域くらしで自分や外国の人が考える日本の魅力について話合いをした後，日本の魅力の一つである和食について自分の考えをもつ。そこで，和食の料理人や海外での生活経験がある方，毎日の食事をつくってくれる家族の話から共通点を見つけ，和食の特徴や魅力を自分なりの言葉で表現する。そして，和食を取り入れることが健康な食生活につながることに気付き，これからの自分の食事に取り入れたいという思いをもつ。次に，展開段階では，和食で用いる基本的な調理方法を調べ，簡単な和食の調理を行うことで自分でもできることを実感する。最後に，終末段階では，和食をどのように自分の生活に取り入れていくことができるのかを考え，実行していくための計画を立てる。とくに本時では，和食を取り入れるいろいろな方法を話し合い，自分の現在の生活時間やこれまでの学習で身に付けてきた技能を総合的に判断しながら，状況に応じた実現可能な計画を立てる。

目標（目指す資質・能力）

◎　和食の調理方法，自分の生活時間，身に付けてきた技能などを総合的に判断して，状況に応じて自分の生活に和食を取り入れる方法を考えることができる。（創造性）

○　和食といわれる食事をさまざまな視点で調べ，自他の考えをもとに，和食の特徴を表現することができる。（協働性）

○　和食のもつ健康的な価値を理解し，自分の生活に取り入れることで，よりよい食生活をつくっていこうとすることができる。（向上性）

学びのプラン（全12時間）

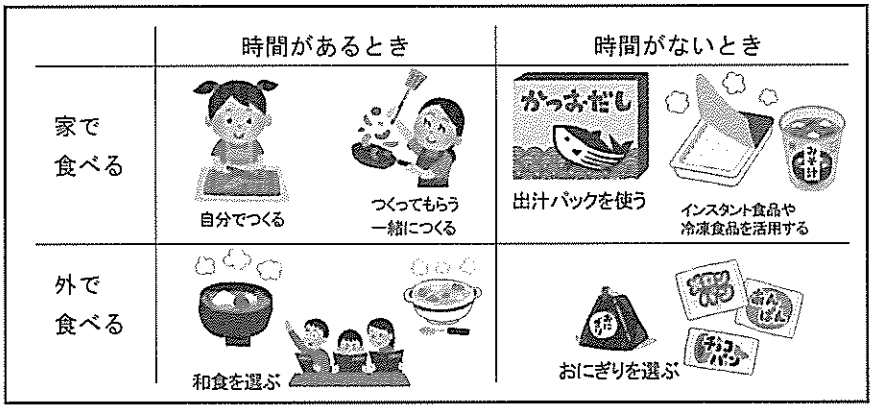
学　習　活　動　と　内　容
1　和食の特徴を調べ，学習課題を話し合う。　4 (1) 和食の特徴を調べる。　③ ○　和食は，素材そのものを活かした調理であることに気付き，和食のよさが分かること ※　和食の料理人や海外での生活経験がある方，毎日の食事をつくってくれる家族から，和食についての考えを聞く場の設定 (2) 自分の食生活の課題を見つけ，これからの学習計画を話し合う。　① ○　和食を取り入れるよさに気付くこと ※　事前の継続的な食事調べの実施 和食を生活に取り入れていくには，どうしたらよいだろうか。
2　簡単な和食の調理方法を調べ，調理をする。6 (1) これまでの調理技能を活用してつくることができる和食の調理方法を調べる。　② ○　簡単に調理できるだし巻き卵ときんぴらごぼうの調理手順を理解すること ※　映像や写真による手順の提示 (2) だし巻き卵ときんぴらごぼうを調理する。④ ○　できることが増えたことを実感すること ※　保護者による調理補助
3　自分の生活にどのようにして和食を取り入れていくことができるのか話し合う。　２本時1/2 ○　自分の生活時間や身に付けている技能をもとに，これから実行可能な計画を考えること ※　自分でつくる，つくってもらう，インスタントを活用するなど，複数の選択肢の提示

本時の目標（創造性）

和食の調理の特徴や自分のこれまでの食事内容，現在の生活時間，身に付けてきた調理技能などを総合的に判断して，自分の生活に和食を取り入れていく方法を考えることができる。

・　時間があって家で食べるときには，自分でみそ汁やだし巻き卵などつくって食べるようにしよう。時間がないときでも，だしパックやインスタントの食品を使って和食を食べるようにしたいな。

本時の展開（11／12時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　これまでの学習で分かったことを交流し，これからの生活を話し合う。 ○　前時までに分かった和食の特徴や，自分たちができるようになったことを確認し，和食の取り入れ方について考えていくという見通しをもつこと ・　たくさんの魅力があり，簡単なものなら自分でもつくることができるようになった和食を毎日の食事に取り入れたい。	※　和食の特徴を確認するとともに，自分でもできるようになったことを実感させるために，これまでの学習を振り返る活動を設定する。
めあて　自分の生活に和食を取り入れる方法を考えよう。	
2　食事をするときの条件を知り，和食を取り入れる方法を話し合う。 (1) 食事をするときの条件を確認し，自分の食事の仕方を分類する。 ○　食事をするときには，場所と時間の２つの条件があることが分かり，自分の生活を振り返ること ・　土曜日は塾があるから，昼食は「外で」「時間がない」に当てはまり，夕食は「家で」「時間がある」に当てはまるな。	※　食事をするときの２つの条件を自分の生活に当てはめるために，「家で」「外で」，「時間がある」「時間がない」のマトリックスを提示する。
(2) 条件に応じた和食の取り入れ方を話し合う。 ○　自分で工夫することによって，状況に応じたいろいろな取り入れ方があることに気付くこと ・　これまでの学習でできるようになったことを活かしてつくる方法もあるけれど，時間がないときでも簡単に和食を取り入れる方法がいろいろあるから，そのときに合ったものを選ぶとよさそうだね。	※　和食を取り入れる具体的な方法に気付かせるために多く利用されている，簡易だしやインスタントの商品を提示する。
	【評価内容】 それぞれの状況を想定して，和食を取り入れる方法を考える姿 【評価方法】 ◇話合いにおける発言
3　自分の生活時間や身に付けてきた調理技能を考えながら，自分に合った和食の取り入れ方を決める。 ○　自分で実行していくことができる方法を考え，これからの生活の見通しをもつこと ・　この方法なら，わたしの今の生活に合っているし，すぐに実行することができそう。	※　これから実行できそうだという見通しをもたせるために，これまでの食事調べの表を活用する。
学びのゴール ☆　多くの魅力があり，日本が世界に誇れる和食を自分の生活の中に取り入れていくことは，これからの健康な自分をつくっていくことにつながる。	【評価内容】 自分の生活にあった具体的な方法を選択している姿 【評価方法】 ◇学習プリントの記入

MEMO

第６学年　「これからの幸せな国のかたち」プラン

指導者　　中　村　　剛・永　田　裕　二・齋　藤　　淳

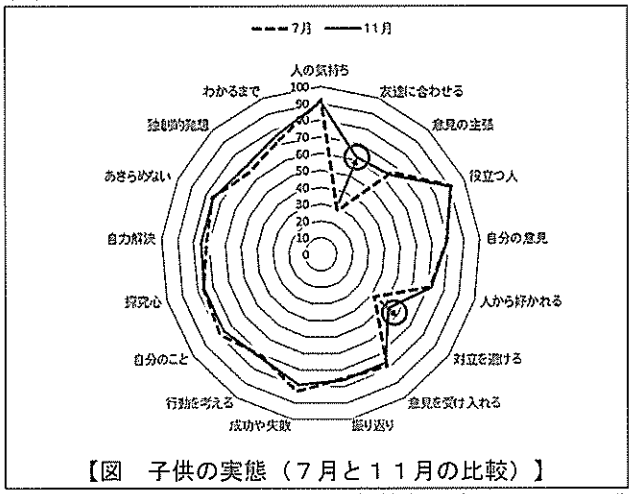
関連領域　くらし→（けんこう・かがく・にんげん）→くらし

学年テーマ　幸福（幸福になるために大切なことは何か）

目標（目指す資質・能力）

創造性	今の日本の急激な変化について「問い」をもち，つぶさに各方面で興味をもって探究し，これからの未来について起こるべき課題を見通すことで，自分たちの財政プランをつくることができる。
協働性	仲間とともに日本の現状や今後起こるであろう未来への見通しについて調べたり，考えを話し合ったりすることを通して，自分の考えを確かにして政治家や行政の人々とともに，あるべき財政の形について協働して考えることができる。
向上性	自分や日本の未来にとっての幸せとは何か考えるとともに，どのようにお金を使うことによって幸せになることができるのかについて，自分の問題として考えることができる。

子供たちの実態



【図　子供の実態（７月と１１月の比較）】

○　６年生の子供たちは，人の気持ちを考えること，誰かの役に立ちたいという推量，貢献といった社会性の側面は育ってきている。６年生２学期の「にんげん」の学習において，九州北部豪雨について，被災者の現状をとらえ，「わたしたちにできること」を実践することができた。しかし，自分の生き方とのつながりを考えたり，自分事として社会の課題をとらたりする段階には至っていない。そこで，現代社会の中で激しく起こっている変化や正も負も入り乱れた様々な可能性について，自ら「問い」をもって探究し，現実をとらえた上での冷静な未来への判断が必要であると考えた。このことは，未来社会を創造する主体としての６年の学びの集大成にふさわしいテーマであるとともに，課題解決する上で難易度の高いものである。そのため，各領域での有機的な関連とともに，人間としての学びという立ち位置を失うことのない，「にんげん」の学習を軸とした螺旋的な学びの展開が必要である。このことで未来社会は自分の手でつくるという「意志と実践」に基づく学びが期待され，総合的・横断的に子供の求めに応じて他領域と関連して展開されていく。

関連題材の価値について

○　本題材では，お金と人の幸福について自分の問題として考えることを通して，現実の社会が抱える課題や将来にわたって予想される課題に対して，自分事としてどのように解決していくべきか粘り強く考えようとする資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域「くらし」を中心とした人とお金との関係を見つめ直していく過程で「けんこう」「かがく」「にんげん」を子供の求めに応じて関連させていくことで課題解決を行う。具体的には，①国の政治の仕組みについて探究することを通して，これからの社会を考えていく財政の在り方とその仕組みについて理解し，提案すること（くらし），②「人の幸せとは何か」に対する自分の考えを語り合うことを通して，人の幸福について考えること（にんげん），③最新科学の動向について学ぶことを通して，未来社会においても発展していくAIやIot，ロボット工学などの新たなテクノロジーの在り方や可能性の本質を正しく理解すること（かがく），④人の健康的な生活について考えることを通して，認知症やがんなどの現代的な医療の在り方とそれを防ぐ健康課題について体験的に理解し，実践につなぐために自分の生活にできることを考えること（けんこう）などである。このような各領域での学びを，最終的には未来社会において誰にとっても幸せなくらしとは何か考えることを通して，今を生きる自分のこれからの生きる目的や今後の在り方について深く考え，生き方につなげることができるようにしたい。このような点からも，本題材「これからの幸せな国のかたち」は，本校の第６学年の子供たちにとって，小学校生活最後の締めくくりとなる学習という意味でも，社会は自らの手で変えることができるという，未来社会の主体となる本研究のゴール像を培う意味でも価値があるものである。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　自分が考える幸せなくらしと社会とは何か語り合い，これからの学習課題を話し合う。	2　自分たちのくらしとこれからの社会全体で必要なことは何かを話し合い，課題に応じた探究を行う。

けんこう⑦

学習課題　がんや認知症は予防できるのだろうか。

1　医療費がかかっている理由であるがんや認知症のリスクや考えられる予防について話し合う。
(1)　がんについてＧＴから話を聞き，がん予防について話し合う。②
(2)　認知症について話を聞き，認知症予防について話し合う。①
○　がんや認知症の原因をとらえ早期発見や予防行動の大切さをとらえること

にんげん⑯

学習課題　わたしたちが生きていく上での幸せのためにお金は本当に必要なのだろうか。

1　医療費がかかっている理由であるがんや認知症のリスクや考えられる予防について話し合う。④
○　健康寿命を全うすることの大切さをとらえるとともに，家族ががんや認知症に直面した場合の課題について自分の考えをもつこと

2　お金と幸せについて考えた様々な人々の考え方について探究し，どのような考え方になったのか語り合う。
(1)　がんや認知症の方の家族の生き方，世界の国の政治の考え方について，資料をもとに調べたり人と出会ったりして探究する。⑥
○　仲間や他者の考え方と自分の考え方の違う部分と共感する部分は何か分析すること

くらし⑰

1　国会議員や財務省の方々との交流や日本の財政に関わる問題を調査し，今の財政が未来の国づくりに大きく影響することについて知ったことから，自分たちが幸せだと思う国のかたちにしていくための財政がどうあるべきか考える学習課題について話し合う。
(1)　国会議員の方の話をもとに国の政治や税の働きについて知り，その大切さを話し合う。②
○　自分の生活と政治や税との関係を明らかにすること
(2)　財務省の方々と出会い，日本の財政状況と日本や世界が抱える大まかな問題について話を聞く。②
○　財政についての大まかな理解と財政に関わる問題を理解し，自分の財政に関わる問いをもつこと
(3)　財政をつくる上で，自分たちに知識や明らかにしたいことは何か「問い」を出し合い，これからの各領域で学習したい課題について話し合う。③
○　財政をつくる上での自分たちの不十分さを感じるとともに，どのようなことを学びたいのか解決の見通しをもつこと

学習課題　日本の未来を決める財政について自分たちの考えを国に提案しよう。

2　福岡小財政会議を複数回開き，どのような国をつくっていきたいのかビジョンを確かにもった上で，歳入と歳出を決めるために話し合う。
(1)　日本国憲法の考え方に則った国の行政，司法，立法の仕組みや財政の健全化の基準となるプライマリーバランスなどについて知り，その是非について判断した上で第１回財政会議を行う。⑤
○　国の政治の仕組みや財政に関する基本的な事項について資料や取材をもとにした情報収集を行い探究する中で，他チームと比較したり関連づけたりしながら，自分たちの適正化とは何か考えること

かがく⑮

学習課題　日本の未来のために，科学技術をどのように活用していくべきなのだろうか。

1　日本の未来と科学技術について考えを出し合い，追究課題を話し合う。③
○　20年後の未来社会と現代に至るまでの科学技術の変遷について関心をもつこと

2　モバイル型ロボットを作った企業の方の話から，モバイル型ロボットを使ってみたい自分の構想をつくり，解決に向けて，プログラミングを繰り返し行う。
(1)　モバイル型ロボットを連動して，プログラムの仕組みを追究する。④
○　プログラムの基本的な組合せ方を，モバイル型ロボットを使った動きで理解すること

評価	領域「くらし」において，今までのくらしの中でどのようなことが幸せなのか真剣に考え，すべての人が幸せに生きる社会のための国の財政について知り，課題を設定することができる。 →　今までの自分の生活経験や学習の中で出会った人々の考えをもとに，自らの「問い」を話し合い，分類したことから，各領域で学びたいことを自己決定し，探究している各自の表現物の記述内容

展開	終末
2　自分たちのくらしとこれからの社会全体で必要なことは何かを話し合い，課題に応じた探究を行う。	3　今まで学んだことを生かして，自分たちが考える財政プランを提案し，他者と共に話し合う。

2　がんや認知症を予防する生活行動や習慣について調べ，予防プランを作成する。②
○　がんや認知症の予防行動について知り，自分の生活行動を見直す視点をとらえること

3　自分の生活を振り返り，今後の目標を話し合う。②
○　これから大切にしていきたいことを考え，行動目標としてまとめたり，実際に運動を試したりすること

2　お金と幸せについて考えた様々な人々の考え方について探究し，どのような考え方になったのか語り合う。
(2)　人間にとっての幸せとは何かについて自分の考えを語り合い，お金と幸せとの関係について語り合う。⑥
○　自分にとってはどのくらいのお金があって暮らすことが幸せなのか，それぞれの考え方を認め合うことと，幸せはすべてお金が握っているわけではないことを理解すること

3　国会議員や財務省の職員の方々を招いて，各領域で探究してきたことをもとに小学生が国に提案したい財政プランについて提案する。①
○　今までの各領域の学びを通して，どのようにこの財政プランにしようと考えたのか理由を明らかにするとともに，それぞれの考え方の違いについて納得したり，国の政治に関わる方々の考えの深さを理解すること

本時

2　福岡小財政会議を複数回開き，どのような国をつくっていきたいのかビジョンを確かにもった上で，歳入と歳出を決めるために話し合う。
(2)　世界の国々の政治の仕組みや財政の考え方について知り，幅広い視点から考えたことを基に，財務省の方々のアドバイスや評価をもらいながら，第２回財政会議を行う。④
○　より現実的なものや自分たちの価値観や考え方を伝えられるような財政プランにつくり直すこと

2　モバイル型ロボットを作った企業の方の話から，モバイル型ロボットを使ってしてみたい自分の構想をつくり，解決にむけて，プログラミングを繰り返し行う。
(2)　構想の実現に向けて自分で計画した組合せを，繰り返し試行する。④
○　目的に合った動きを実現することで，自分の意図した動きを実現できることをとらえること

3　プログラミングでつくったモバイル型ロボットの動きを全校児童に披露し，ロボットの実用性を発信する。④
○　人の代わりにロボットが担える将来の可能性をプログラミングを通してとらえること

評価

領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，国の財政プランを作成し，国会議員や財務省の職員の方々に提案することを通して，何を大切にすべきか価値判断することができる。
→　各領域で関わってきた学習内容について個々やチームで探究してきたノート記述や表現物を手がかりにして，未来社会に向けて期待したい財政と人々のくらしを関連付けている発言内容

第６学年１・３組　くらし（Bせいじとほう，Cけいざい）

指導者　齋藤　淳

題材　「これからの幸せな国のかたち」プラン

題材について

○　本題材は，領域くらし「日本の未来について語り合おう」から関連して，国の財政について考える「これからの幸せな国のかたち」を取り上げる。この学習では，題材を通して，国の財政は国家・国民の助け合いの仕組みということを理解するとともに，予算を決めるために様々な人々の考え方を尊重し，誰もが納得できるような形を目指していることをとらえることなどをねらいとしている。具体的には，①国の財政のバランスが崩れつつあることや変化する社会への対応が必要なことから問題意識をもち主体的に探究すること，②様々な立場の人の思いに共感し，財政に関わる自分たちのプランを創ること，③財政について学ぶことを通して，自分たちが日本国に対して，どのような願いをもっているのか明らかにすることである。ここでは，助け合いの仕組みとしての財政の仕組みから，生きた経済を学びつつ，あるべき日本の未来像を思い描き，主権者として政治に参画することで，領域「くらし」が目指す日本を土台として世界に貢献する主体を育む上でも価値があると考える。

○　本題材の学びにおいては，財務省が推進する財政教育プログラムとの連携を図り，財務省職員や政治家，企業など様々な考えを享受しながら，自分なりの価値判断を行うことができるようにする。そのためにまず，導入段階では，国の財政の問題や年金，医療，防衛，教育など様々な分野にわたる社会問題があることを認識し，自分たちならどのような財政プランを創りたいのか考える課題をつかむ。展開段階では自分たちが国の将来に求める願いを「幸せな国のかたち」として設定して，考えが似ているもの同士でチーム（党）をつくり，財政プランを作成する。また，財務省職員の方のアドバイスを受けながら，他のチームとの交流や討議を行いながら，プランを練り上げていったり，理念や考え方の共通性が観られるチームの再編を行ったりしていく。その中で，自分たちの考えの根拠となる資料を収集したり，収集した情報を整理・分析したりする学習を通して，知識を概念化していくことができるように支援する。終末段階では，自分たちの作成した財政プランを根拠を示しながら，説明したり議論したりする中で，どのプランを生かしてもらえるのか国会議員や財務省の方に評価してもらい，今後の自分と財政との関係について考える。

目標（目指す資質・能力）

◎　今の日本の急激な変化に各方面で興味をもって探究し，これからの未来について起こるべき課題を見通すことで，自分たちの財政プランをつくることができる。（創造性）

○　チームで未来への見通しを調べたり，考えを話し合ったりすることを通して，自分の考えを確かにして政治家や財務省の人々と共に，あるべき財政の形を考えることができる。（協働性）

○　人々にとっての幸福な日本の未来とは何か考え財政と国民の生活について自分の問題として考えることができる。（向上性）

学びのプラン（全17時間）

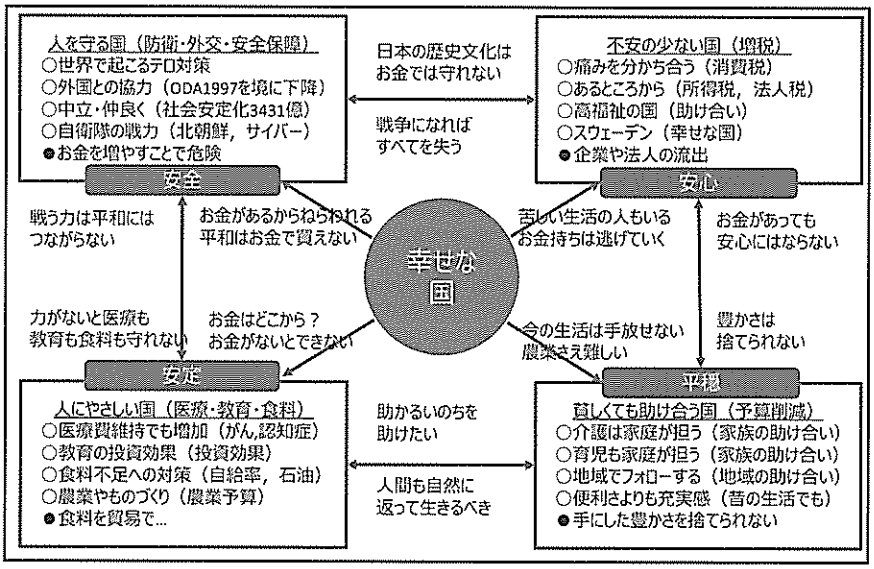
学　習　活　動　と　内　容
1　日本の財政に関わる問題を知り，自分たちが考える「幸せな国のかたち」のための財政がどうあるべきか考える学習課題を話し合う。　7 ○　国づくりのために財政の課題を設定すること ※　国会議員や財務省の方々との交流 日本の未来を決める財政について自分たちの考えを国に提案しよう。
2　福岡小財政会議を複数回開き，どのような国をつくっていきたいのかビジョンを確かにもった上で，歳入と歳出を決めるために話し合う。　9 (1) 財政の健全化の基準や国の考え方などを知りその是非を判断した第１回財政会議を行う。⑤ ○　国の政治の仕組みや財政に関する基本的な事項について資料や取材をもとにした情報収集を行い，探究すること ※　比較・関連・総合を図るチーム編制の工夫 (2) 他国の財政の考え方を知り，幅広い視点から考えたことをもとに，財務省の方々の助言や評価をもらう第２回財政会議を行う。　④ ○　現実的で自分たちの価値観や考え方を伝えられるような財政プランに修正すること ※　チームとチーム間交流や討議の活動の設定
3　国会議員や財務省の職員の方々に対して，国に提案したい財政プランを紹介する。　１本時 ○　根拠をもとに議論し，考え方の違いや国の政治に関わる方々の考えの深さを理解すること ※　各チームの根拠となる資料提示（映像），自己の学びを振り返るシートの準備

本時の目標（創造性）

現在の日本の社会にある課題や今後考えられる社会問題に対して，自分たちが国の財政についてどのように考えたのか提案するために，今までの学びを根拠にして交流や議論を進めることができる。

・　人の幸せや自分の幸せのためにも，何を大切にするか選ぶだけでなく，どのような国にしたいのか自ら考えよりよい国にするために，みんなで論じ合い，判断することが大切なことだ。

本時の展開（17／17時）

学習活動・内容・予想される子供の反応	支援と評価
1　現在の日本の社会が抱える問題をもとに各党の財政プランを紹介する。 ○　「幸せな国のかたち」を考える財政への考え方の違いを共有すること ・　自分たちがあまり知らなかった問題が社会にはたくさんあった。 ・　「自分たちの考えを･･･」と言われても分からないことが多い。	※　各チーム（党）の財政プランの違いや共通点を明確にさせるために，それぞれの財政プランの特色を資料提示する。
めあて どの財政プランにすべきか話し合い，「これからの幸せな国のかたち」を考え，国に提案しよう。	
2　これからの幸せな国のために，どの財政プランがよいのか話し合う。 (1) 財政プランのコンセプトと理由を説明し，それぞれの考えを聞き合う。 ○　自分たちのプランと比較したり関連させたりすること (2) 国会議員や財務省の方の助言をもとにどの財政プランにすべきか選ぶ。 ○　どのプランが「幸せな国のかたち」につながるか価値判断すること ・　お金では買えない平和の尊さを大切にするべきではないか。 ・　人間の幸せをもう一度考えていくことが必要。結論はまだ出せない。	※　それぞれの考え方を分かりやすく示させるため，子供が作成した資料や財政の実際のグラフをデータで表し，可視化する。
	【評価内容】 自分の考えを示して，どのプランにすべきか選ぶことができる姿 【評価方法】 ◇表現物の記述内容と発言
3　国会議員と財務省の職員の方から，自分たちが選んだ財政プランや今までの学習についてのコメントを聴き，振り返りを書く。 ○　今までの学びを自分自身で価値付けるとともに，これからも生きていく上で考え続けていきたいことを明らかにすること ・　自分たちの考える財政プランの提案がこれからの日本の幸せな未来につながるようになるとよい。	※　主体的な選択をさせるために，カードを提出できる箱を準備する。
学びのゴール ☆　財政を考えることはお金の使い方だけでなく，人の生活や幸せとは何か考えることにもつながる。何を大切にするべきか考え続けていきたい。	※　学びの足跡を辿れるようにするために，今までの学びの概念図の中での考え方の変容や，振り返りシートに残る自己の考えの変遷を提示する。

全体講演

新学習指導要領と
未来創造型の資質・能力

○　講師紹介

國學院大學　人間開発学部　初等教育学科
教授　　田村（たむら）　学（まなぶ）　先生

○　職歴等

昭和37年新潟県生まれ。新潟大学教育学部卒業後，昭和61年４月より，新潟県上越市立大手町小学校教諭，上越教育大学附属小学校教諭，新潟県柏崎市教育委員会指導主事，国立教育政策研究所教育課程調査官，文部科学省教科調査官，文部科学省視学官などを経て，平成29年４月より現職。文部科学省視学官，日本生活科・総合的学習教育学会理事も務める。

主な編著書

『小学校生活　イラストで見る　全単元・全授業のすべて』（東洋館出版）

『思考ツールの授業」（小学館）

『新教科誕生の軌跡』（東洋館出版）

『生活・総合　アクティブ・ラーニング』（東洋館出版）

『授業を磨く』（東洋館出版）

『「探究」を探究する』（学事出版）

『今日的学力をつくる新しい生活科授業づくり』（ぎょうせい）

『深い学びを育てる思考ツールを活用した授業実践』（小学館）

『カリキュラムマネジメント入門』（東洋館出版）など多数

おわりに

副校長　髙野誠一

「未来社会を創造する主体としての子供を育成する」

この本校のテーマの中で本年度，特にこだわったのは，「主体」という言葉です。

新学習指導要領においても，「主体的・対話的で深い学び」という学習の在り方がキーワードになっていますが，我が国の子供たちの学びに関して何より「主体的」ということが課題だと思っています。このことは，諸外国と比較できる様々な学力等に関する調査でも明らかになっています。

子供たちが「主体」となるためには，授業観，学習観を変える必要があります。これまで大切にされてきた「教科」という文化，本質は尊重しながらも，もっと学習者である子供たちに近い自由な枠組みが必要である。これが，本校が主張する「領域」です。

「教科の専門性が…，教科では…。」といった大人の都合ではなく，本校では知りたい，学びたい，考えたいと思う子供たちに寄り添って考えることを大切にしてきました。このことが，本年度特に取り組んだ，学年での「関連題材」という重点です。これには二つの要点があります。一つは，子供自身が真正の課題をつくるということです。教師がつくった問題をたどらせるのではなく，どれだけ子供が自分の課題をつくることができるかということです。本校の子供たちも教師も大変苦労したところです。子供たちも教室に座っていれば，「学習すべきことは先生が与えてくれる」という調子でした。いろいろな体験や人との出会いから，いくつも「?」を考え，調べては新たな課題にぶつかり，考えてみても「こたえ」が出ない。本物の課題とは大変難しいことを学んでいきました。そうすることで，自分にとっての「学ぶ意味」が自覚されます。

もう一つは，カリキュラム・マネジメントという視点です。枠組みが自由な領域だからこそ，子供の課題に応じて題材を関連させた学びのストーリーができます。教科の壁は大人がつくったもので，学ぶ側には１グラムの重みもありません。ですから，子供の課題に応じて，複数の領域での学びが保障されるように各領域の題材と題材を関連させるのです。もちろん，どのような課題でもよいというわけではありません。担任教師たちの思いや目の前の子供たちにとって必要な課題であるということが大前提です。それが，「学年テーマ」というカリキュラムを想定するときの原点となっています。

創造的な問題解決能力やコミュニケーションが必要とされない職業は淘汰されると言われる未来社会に生きる子供たちが，自ら課題を立てる，つまり目的・目標を設定して，その解決に創造的な思考や判断を用い，他の人と協働する。本校がめざしているのは，そのような子供たちの育成につながる新しいカリキュラムの開発なのです。

最後になりますが，本校の研究開発に関わる研究推進に当たり，文部科学省在職時からご指導いただいております，國學院大學人間開発学部初等教育学科　教授　田村　学先生，文部科学省初等中等教育局　教科調査官　渋谷　一典先生，国立教育政策研究所　総括研究官　福本　徹　先生，京都大学大学院教育学研究科　准教授　石井　英真先生をはじめ，共同研究者としてご指導いただきました，福岡教育大学の先生方，各領域の実践への助言を賜りました，本校ＯＢを中心とした研究協力者の先生方，研究全体の運営を含めてご指導いただきました運営指導委員の皆様に衷心より感謝申し上げます。

来年度の本研究開発指定の仕上げまで，私たちの研究に厳しいご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

□運営指導委員

福岡県教育庁　教育振興部　義務教育課	主幹指導主事	秋永晃生	様
福岡県教育庁　福岡教育事務所	主幹指導主事	伊藤啓二	様
福岡県教育センター	副所長	芋生修一	様
糸島市教育委員会	教育長	家宇治正幸	様
国立大学法人　福岡教育大学　教育心理学講座	教授	大坪靖直	様
国立大学法人　福岡教育大学　学校教育講座	准教授	樋口裕介	様
国立大学法人　福岡教育大学　教育心理学講座	准教授	生田淳一	様

□ご指導いただいた先生方

文部科学省　初等中等教育局　教育課程課	教科調査官	渋谷一典	様
国立教育政策研究所	総括研究官	福本徹	様
國學院大學　人間開発学部　初等教育学科	教授	田村学	様
京都大学大学院　教育学研究科	准教授	石井英真	様

□共同研究者・研究協力者

領域等	本学共同研究者	研究協力者
ことば（日本語分野）	国語教育講座 教授　河野智文　先生	福津市立上西郷小学校 校長　光延正次郎　先生 福岡県教育庁南筑後教育事務所 指導主事　山田深雪　先生
ことば（英語分野）	英語教育講座 教授　中島亨　先生	篠栗町立篠栗小学校 教頭　大田亜紀　先生
すうがく	数学教育講座 准教授　今井一仁　先生	春日市立春日野小学校 校長　小森晃　先生
かがく	理科教育講座 教授　坂本憲明　先生	福岡中央特別支援学校 校長　野口信介　先生
くらし	社会科教育講座 教授　小田泰司　先生	糸島市立前原小学校 教頭　髙瀬雄大　先生 福津市立津屋崎小学校 主幹教諭　藤岡太郎　先生
げいじゅつ	美術教育講座 准教授　笹原浩仁　先生 音楽教育講座 准教授　山中和佳子　先生	新宮町立新宮東小学校 主幹教諭　刀坂順子　先生 福岡県教育センター 主任指導主事　原クミ　先生 久山町教育委員会 指導主事　髙武龍彦　先生
けんこう	保健体育講座 准教授　樋口善之　先生 家政教育講座 教授　貴志倫子　先生	小郡市立大原小学校 校長　岩城一磨　先生 福岡市立若宮小学校 校長　脇本孝枝　先生 福岡県教育センター 主任指導主事　緒方勝彦　先生
にんげん	学校教育学講座 准教授　樋口裕介　先生 教育心理学講座 准教授　生田淳一　先生	久留米市立金島小学校 校長　中原浩　先生 朝倉市立立石小学校 校長　山下浩徳　先生 糸島市教育委員会 学校教育課長　石硯昭雄　先生 福岡市立三宅小学校 主幹教諭　三浦研一　先生
特別支援教育	特別支援教育講座 教授　中山健　先生 教職実践講座 教授　納富恵子　先生	久留米市教育委員会 指導主事　中島卓哉　先生

□本校教員　（○印は本年度研究部員）

校長	豊嶌啓司	副校長	髙野誠一	教頭	平井源樹
教務主任	齋藤淳○	研究部長	二野串英一○	総括主任	菊竹一平
	岡崎教昭		石口橋順也		関尚幸
	曽根崎達雄		谷中村大輔		古賀誠
	伊澤直美		杉本慎一郎		井手司
	鞭馬あゆみ		辻本剛○		永田裕二○
	大橋美香		藤岡克如○		藤野康宏
	赤司光徳		牧本拓		村喜代香
	藤本香織		水和枝		中貴仁
	武裕道		真代		木雄一郎
	山口亮大		清知子		阿久津奈美恵
	ラヴィ　チャンドラン				

カメラ及びビデオ等による撮影に関するお願い

個人情報の保護法の趣旨に基づき，本校の教育研究発表会における授業等において撮影した本校児童・職員の映像，写真，音声及び個人情報等については，研究・研修を目的とした個人的使用以外に利用することをご遠慮いただいています。また，本校職員・児童・保護者の承諾を得ずに，公表・発表等を行わないようにお願いいたします。ご理解とご協力のほど，よろしくお願いします。

平成30年２月　印刷・発行
福岡教育大学附属福岡小学校
研　究　紀　要　No.48

発行者　福岡教育大学附属福岡小学校
〒810－0061
福岡市中央区西公園12-１
℡092－741－4731（代）

表紙デザイン　株式会社タイム社
印刷　〒812－0068
福岡市東区社領2-7-4
℡092－621－6800

Future Creation

平成29年度　教育研究発表会

平成27～30年度　文部科学省研究開発学校指定　第3年次

学習指導要領試案
実践事例集

Fukuoka Primary School
attached to
University of Teacher Education Fukuoka

平成29年度　教育研究発表会

平成27～30年度　文部科学省研究開発学校指定　第3年次

学習指導要領試案
実践事例集

Fukuoka Primary School

attached to

University of Teacher Education Fukuoka

目　　次

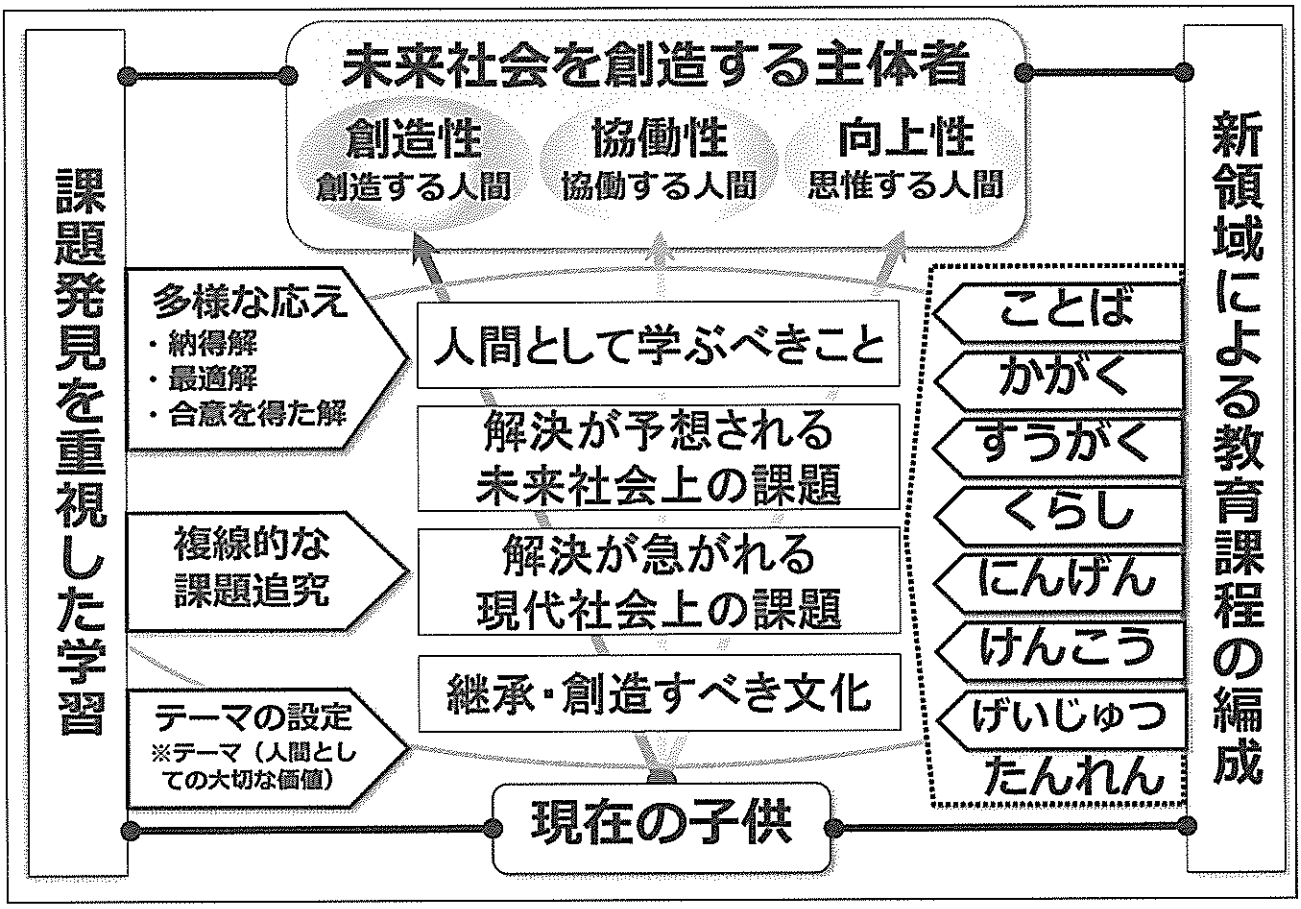
目　　次 …… 1
研究全体構想
研究全体構想 …… 2
各領域構想・年間指導計画
ことば …… 12
かがく …… 20
すうがく …… 28
くらし …… 36
げいじゅつ …… 44
けんこう …… 52
にんげん …… 60
帰国子女教育 …… 68
たんれん …… 70
各学年実践・年間指導計画
第１学年 …… 72
第２学年 …… 82
第３学年 …… 92
第４学年 …… 102
第５学年 …… 112
第６学年 …… 126
帰国子女教育 …… 140
特別支援教育部研究構想・実践
特別支援教育部 …… 142

文部科学省研究開発学校指定（平成27～30年度　3年次）

未来社会を創造する主体としての子供を育成する教育課程の編成

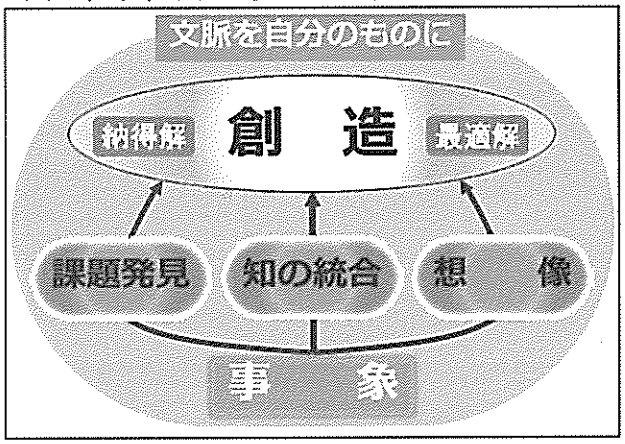
－子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域の開発－

Ⅰ　未来社会を創造する主体としての子供を育成する仕組み



Ⅱ　未来社会を創造する主体としての子供を育成することの重要性

(1) 未来社会が求める人間像



【図1　未来社会が求める人間像】

「AI（人工知能，以下同様）がディープ・ラーニングによって，人間の知能を凌駕し，人間の職業を奪う。」このことを危惧する声を耳にするようになったが，果たしてそうであろうか。いかにAIが進化しようとも，よりよい社会をつくるために，課題そのものを発見するのは，私たち人間である。AIは，プログラムによって解決すべきことについて最良の方法を選択するのには優れているが，何を解決しなくてはいけないのか，そもそもその課題を発見することは困難である。目の前の状況から判断して解決すべき課題を発見することは人間にしかできないことである。また，状況に応じて新しい解決方法を探ったりものをつくったりする「創造」も，人間にしかできないことである。人間だからできることとAIだからできることとを使い分けながら，よりよい社会をつくる態度と能力を備えた人間が，今後求められる。

①　「創造」のために課題を発見できる

②　「創造」のために知を統合できる

少子高齢化は，やがて生産労働人口の減少を招く。このような未来社会が求める生産は，高度経済成長期に求められた量ではなく質である。質の向上は，現状を分析して課題を見つけ，解決方法を探っていく「創

造」抜きにはできないことである。見いだした課題を解決するためには，もっている知識・技能から必要なものを選んだり，組み合わせたりして解決しなければならない。また，解決目的を同じくする他者がいる場合は，知識・技能を出し合って解決しなければならない。課題解決を含む問題解決の過程において大切なのは，困難や喜びを感じることから生まれる「知の統合」，解決の目的を同じくする他者と困難や喜びを共有することから生まれる「知の統合」である。

③ 「創造」のために想像できる

スマホ，タブレット端末などによるSNS，Iotなどの情報化は，相手と直接会わずして話したり話し合ったりする間接的なコミュニケーションの場を提供している。これは，空間的・時間的にとても便利であるが，意思の疎通という面においては，相手の心情を推し量る態度や能力の育成を妨げている懸念もある。私たち人間は，相手の心情や周りの状況を推し量ることで，互いにとってよりよい社会をつくっている。今後さらに情報化が進むにつれ，相手の心情や周りの状況を推し量って自分の言動をつくる態度と能力を備えた人間の重要性が増してくる。つまり，「創造」のために適切に想像できる人間が，今後求められる。

④ 文脈を自分のものとする

奈須正裕氏（上智大学総合人間科学部教育学科教授）は，内容中心の教育原理の盲点及びこれまでの全国学力・学習状況調査の結果から，学習は簡単に転移しないと述べている。具体的には，以下の通りである。

【内容中心の教育原理の盲点】

○ 内容中心の教育では，学問・科学・芸術などの文化遺産から知識・技能を選りすぐり教授することにより，子供を優れた問題解決者にまで育て上げることができると信じてきた。

○ 文化遺産から知識・技能を選りすぐり教授することは，人類が成し遂げてきた最も偉大にして洗練された革新的問題解決の成果であり，子供たちは習得したそれらの知識を適宜上手に活用することで，同様の優れた問題解決を成し遂げながら人生を生きていくだろうと考えた。

○ 内容中心の教育は，その成果を確認するのに，「何を知っているか」を問うことで事足れりとしてきた。

【全国学力・学習状況調査の結果（平成19年度）】

○ 同じ平行四辺形の面積に関する知識を適切に用いれば正答できる問題において，授業で教わった通りの尋ねられ方をするA問題の正答率が96%，図形を地図中に埋め込んだB問題では18%。

これらのことから，「人間の知性や学習の発揮は本来的に領域固有なものであり，文脈や状況に強く依存する」と氏は述べている。そして，「学習とは具体的な文脈や状況の中で生じるものであり，学ぶとはその知識が現に生きて働く本物の社会的実践に当事者として参画することである」と続けている。

従来の授業の多くは，その知識がどのような場面においても使うことができるようになることをねらって，文脈や状況において不要なものは捨象して理想化，一般化してきた。このような，子供たちにとって無駄がなく整理された文脈や状況は，スムーズそして効率的な解決の姿をつくってきた。しかし，転移の面から見ると，転移する必要がない状況設定といえなくもない。そこで，不要な情報も含み，今まで以上に具体的な文脈や状況によって子供の学びをデザインすることで，学び取られた知識も本物となり，現実の問題解決においても生きて働くと考える。

(2) 未来社会を創造する

自分たちが成人している20，30年後の社会を生き抜いたり，そのような社会に適応したりすることにとどまらず，自らの手で理想とする社会を切り拓き，多様な他者と豊かに関わりながらよりよい社会像を見通し，創り出していくこと

(3) 未来社会を創造する主体としての子供

未来は自分たちで創り出すものであると強く求め，今日的な価値を再吟味したり，新たな価値を創造したりすることのできる未来創造型の資質・能力を十分に発揮して，多様な他者と協働し，現在を能動的かつ主体的に生き抜こうとする子供

(4) 未来創造型の資質・能力

他者と共に理想とする社会を創り出していくことを可能にすると同時に，どのような未来社会が到来しようとも通用するであろう資質・能力

本校では，未来創造型の資質・能力を創造性，協働性，向上性の３つの側面で整理している。

創造性

複数の情報を結び付けて，新たな考えや価値を生み出す態度と能力のことであり，知の統合に着目した資質・能力である。学習対象との関係づくりを目指しており，知識・技能，見方・考え方を使って思考，判断，表現する姿などとして現れる。創造し続ける人間の育成に不可欠な資質・能力である。

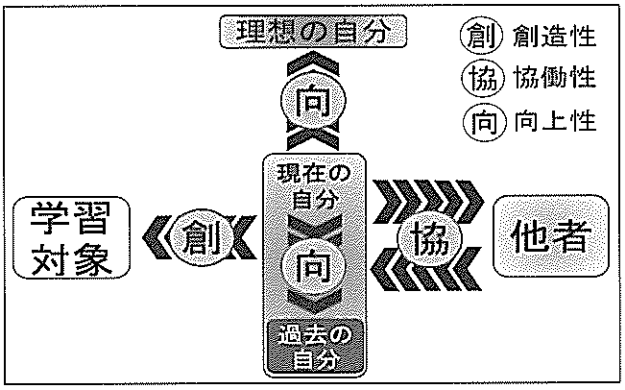
協働性

ものごとの多様性を認め，自分の役割や責任を果たしながら，他者とよりよい関係を築く態度と能力のことであり，多様性に着目した資質・能力である。自分と他者との関係づくりを目指しており，感情や行動を制御する姿として現われる。協働し続ける人間の育成に不可欠な資質・能力である。

向上性

自分の行いや在り方を深く省察し，今の自分を認め，よりよい自分を求める態度と能力のことであり，過去

から観る現在の自分や現在から観る未来の自分など，内省に着目した資質・能力である。自分との関係づくりを目指しており，自己を肯定したり，志をもって目標を設定したりする姿などとして現われる。思惟する人間の育成に不可欠な資質・能力である。



【図2　未来創造型の資質･能力の発揮対象】

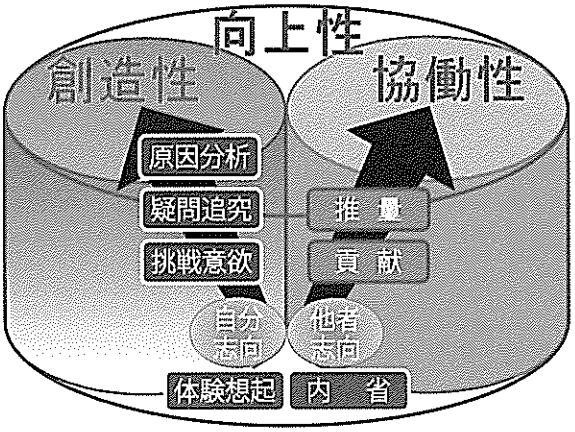
３つの資質・能力が発揮される対象は図２の通りである。創造性は，学習者が学習対象へ働きかけるときに発揮される資質・能力である。学習者がもつ基礎（知識・技能，見方・考え方等）が学習対象に活かせると学習者自身が判断したとき，学習者のもつ基礎と学習対象とが含みもつ基礎とが結び付いて創造性が発揮される基盤がつくられる。

協働性は，学習者が他者へ働きかけるときに発揮される資質・能力である。その際，学習者と他者とが問題を解決していく上で共通の目標や計画をもち備えていることが重要である。

向上性は，学習者が自分に働きかけるときに発揮される資質・能力である。向上性が発揮される場面には，過去の自分に働きかける「フィード・バック」と，未来の自分に働きかける「フィード・フォワード」とがある。「フィード・バック」は，現在と過去の自分とを比較して，ありのままの自分を認める活動である。「フィード・フォワード」は，現在と過去の自分の比較から生じた，ありのままの自分を認める自己肯定感と，さらにこうありたいと願う未来志向をもとに，達成目標や向上目標を設定するなど理想の自分を設定する活動である。

また，３つの資質・能力の構造は図３の通りである。昨年度までの研究実績から，向上性には他者の役に立ちたいという他者志向と自分を高めていきたいという自分志向の存在があること，他者志向が高まり，それによる自信が付いてくると自分志向が高まることが明らかになっている。具体的には，向上性の「内省」や「体験想起」が他者志向として協働性の「貢献」や「推量」，自分志向として創造性の「挑戦意欲」「疑問追究」「原因分析」の姿を高めることが明らかになっている。

以上のことから，向上性を土台として協働性と創造性がその上に位置付く構造をとっている。



【図3　未来創造型の資質･能力の構造】

Ⅲ　子供の学ぶ欲求と現代的課題をつなぐ新領域の開発

(1) 自分事の問題解決

ゲーム，スマホ，タブレットなどによるバーチャル（仮想的現実）に浸ることが多い子供たちにとって，不易と流行の不易の部分が強い学校教育の内容では，ますます学習内容と現実が乖離するばかりである。しかしながら，現代社会は否応なく人間が早急に，そして適切に解決していかなければならない課題を露わにしてきている事実がある。子供たちの学習と現実の乖離を埋めていくためには，子供たちが目の前の課題を自分事としてとらえ，その解決に強い志をもって挑んでいく自分事の問題解決を行う体験が必要である。

(2) 子供の学びを強める鍵

従来の授業は，問題解決学習ではなく問題解決的な学習が多かったと分析している。これは，教科は学習内容が明確であるがために，その確実な習得のために敢えて場面を理想化，一般化してきたことによる。すなわち，子供にとっての理想化，一般化された場面は，自ら課題を発見しようとする必然性，自ら課題解決のために必要な情報とそうでない情報に分けようとする必然性，自ら必要な情報を使って知識や技能を発揮して解決しようとする必然性が弱かったと判断している。

このようなことから，子供の学びをより強めるためには，子供に出合わせる場面が鍵であると考え，そのための手段として，学習内容の自由度が弱い教科ではなく，学習内容の自由度を高める「領域」を設定することとした。

(3) 本校が設定する「領域」の特徴

①　現代的課題に対応する

教育者が社会に存在する文化の中から次世代に伝えたい内容を選びとることによって編成される教育課程。本研究では，以下の課題に応える必要がある。

○　現代的課題は，総合的な取組を要求している。
○　子供たちの学習をさらに活性化させるためには，

教科枠よりも自由度の高い枠組が必要である。
○　内容中心の教育の最大の難点は，教えている内容の選択や量ではなく，質である。

また，防災教育，情報教育，国際理解教育，消費者教育，環境教育，金融教育，キャリア教育など現在の学校に求められる○○教育の数は，100を超える。そして，今もなお時代の要請に合わせて増え続けている。これらの教育は，教科横断的に行うものであり，従来の教科等による教育課程では対応が難しいのが実情である。○○教育における解決が求められる課題は，必要な知識・技能を洗い出し，それらを組み合わせて用いないと解決できないもの，新たに知識・技能を創り出さないと解決できないものである。そのため，解決の過程においては他者と知恵を出し合ったり，周りの状況に配慮したり，「この方法なら解決できそうだ」「それなら今度はこのようにしよう」など自分の解決状況を自覚したりすることが大切となる。

本校の「領域」による教育課程は，これらにも対応できるものである。

②　昨年度までの成果

昨年度までは，「子供の姿の変容」「質問紙調査の結果」の観点から以下の成果を挙げている。

【子供の姿の変容】
○　題材学習が進むにつれて，学習材が子供にとって身近な存在へと変わっていった。
（例）学習時間以外にも個人的に調べている。
いろいろな解決・表現方法を子供自ら組み合わせている。
○　毎時間の学習を楽しみに待つ姿，活動や思考に没頭する姿が数多く見られるようになった。
○　グループの活動で，自分がもつ能力以上のものを発揮する子供の姿が見られた。
○　今までは見過ごしていたものにも気を留め，気付きや発見を教師や友達に伝える姿が増えてきた。

【表１　高い数値の維持が見られた資質・能力項目】

	協働性		向上性		創造性		
1年	推量	貢献	向上心			疑問追究	原因分析
2年	推量	貢献	向上心	体験想起	挑戦意欲	疑問追究	原因分析
3年	推量	貢献	自己省察	体験想起	挑戦意欲	疑問追究	原因分析
4年	推量	貢献	自己省察	体験想起	挑戦意欲	粘り強さ	原因分析
5年	推量	貢献		体験想起	挑戦意欲	疑問追究	原因分析
6年	推量	貢献		体験想起		粘り強さ	原因分析

また，表１は，平成27年７，11月，平成28年２，７，11月の計５回（第２学年は平成28年７，11月の２回）の児童への質問紙調査において，高い数値を維持している項目を取り出したものである。協働性については，他者の気持ちや考えに思いを寄せる「推量」，みんなの役に立ちたい「貢献」，向上性については，成功や失敗経験を思い起こす「体験想起」，創造性については，失敗してもあきらめずにその原因を探る「原因分析」が全学年に共通しているとの結果が得られた。

これらのことから，協働性としての他者志向の育ちは，向上性や創造性の自分志向の育ちに関係しているのではと推測している。一昨年度明らかにできなかった向上性と協働性，創造性の関係が見えてきている。

③　本年度の方向性

ア　学びを強めるための領域再編
→　学習者主体の学びは，課題発見までの過程の充実によって成立する。また，今後子供たちが直面するであろう課題の解決には，知識・技能などの組合せ，誰からも納得を得る考え方の活用が必要である。

イ　学びを強めるための領域関連
→　現代的な課題の特徴として，複雑化がある。学習内容の面から言い換えれるならば，一つのアプローチからだけでは解決が難しいということである。そこで，領域の関連が重要となる。

ウ　学びを支える時間の設定
→　課題にふさわしい応えを出すためには，これまでの教科等による教育課程で大切にされてきた知識・技能も必要である。未来社会でも必要となる知識・技能を厳選し，獲得する愉しさを味わいながら自分で学び進める時間を設定する。

ア　学びを強めるための領域再編

昨年度までの領域である「言語文化」「自然探究」「社会共創」「生き方」「表現」「健康」の６領域＋「マイタイム」の１時間の教育課程において，子供たちが出合う対象によっては，複数の領域が担って学習を進めた方が未来創造型の資質・能力の発揮が期待できる状況が見られた。このことは，領域による教育課程の特徴の一つであると考えている。

また，領域「自然探究」においては，私たちの生活を支えている文化を継承する観点から，従来の算数科と理科の内容で大切なことと（内容Ａ），現代社会及び未来社会で必要とされる統計（内容Ｂ）をもとに内容を構成していた。結果，内容Ｂの学習開発は進んだものの，内容Ａの学習は従来の教科等との違いを見いだすまでには至らなかった。さらに，諸外国の教育課程においても，理科と算数科を融合したものは見当たらず，それぞれに必要な内容と資質・能力を備えている学問として位置付けていることが明らかになった。

よって，本年度はまず，昨年度までの領域を見直すことで，本研究の主張点が明確になると考えた。具体的には，以下の手順で領域を再編している。

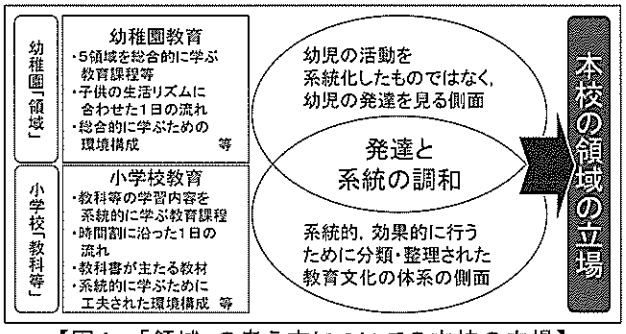
① 身の回りにある事象を以下の観点で類別する。

○ これからも継承すべき文化
→ 昨年度まで重視した観点
○ 人間として学ぶべき人間的欲求に関する内容
→ 昨年度まで重視した観点
○ 現在解決途中もしくは未解決の事象
→ 昨年度まで重視した観点
○ 未来社会上の課題を含む事象
→ 本年度取り入れた観点

② 幼稚園教育及び中学校教育との接続を考え，教育課程をグラデーション化する。

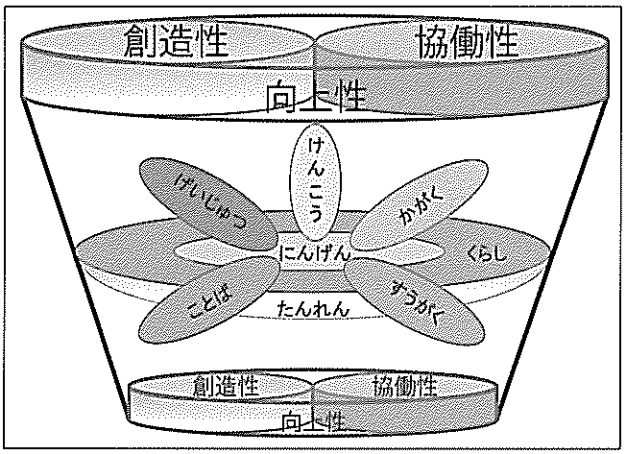
③ 「子供主体の学び」のイメージが浮かぶ言葉で領域の名称を付ける。

子供は，目の前にある環境に自ら働きかけることで，発達課題を克服していくとされている。スタートカリキュラムが生まれた背景にもあるように，子供たちの発達を丁寧に支援する，つまり，子供の学びの意欲を丁寧に掘り起こす学習を全ての教育活動を通じて行うことが大切である。また，幼稚園教育以降の教育課程をキャリアに応じて人格を形成していく教育活動ととらえ直すことが大切である。よって，本校の領域は，発達と系統の調和を目指している（図４）。



【図4 「領域」の考え方についての本校の立場】

上記の基本的な考え方をもとに，本年度は，「にんげん」「ことば」「かがく」「すがく」「くらし」「けんこう」「げいじゅつ」の７領域及び各領域の基礎となる知識・技能を愉しく身に付ける時間「たんれん」による教育課程を編成，実施する（図５）。



【図5 本年度の領域設定】

にんげん 人の生き方に学び，自分の生き方をつくる

人の生き方にふれることで自分らしさに気付き，自分らしさを大切にしながら，自分そして自分たちの生活をつくり出すことをねらいとしている。そこで，「個性を発揮して生きる人の生き方」を対象としている。また，昨年度まで領域とは別の時間に設定していたマイタイムは，自分の学びの成長を確かめる場として領域「にんげん」の内容に位置付ける。

かがく 自然との共生における知恵をつくる

自然の事物・現象に親しみ，自然との共生を視点とした新たな考えを粘り強く探究し，創り出していくことをねらいとしている。そこで，「人間の生活を豊かにする上で創り上げてきた自然界の現象や法則」を対象としている。

すうがく 文化の発展に役立つ知恵をつくる

物事をわかりやすく伝えるため，物事を解決に導くために創り出されてきた物事の理や理に至るまでの思考方法のすばらしさを感じ，自分たちもそのような理や思考方法を身に付けていくことをねらいとしている。そこで，「人為的につくられた法則や各種の情報」を対象としている。

くらし 日本を土台に世界に貢献する

生活や社会の中にある問題を解決するために参画し，日本の伝統や文化を大切にし，深い知見と良識をもって主体的に判断し，行動できることをねらいとしている。そこで，「人間が日常生活や社会を理解し，未来社会を他者と創り上げていくために「改善を必要とする生活や社会事象」を対象としている。

ことば 自分・自分たちの言語文化をつくる

ことばの価値を実感し，ことばを使って自己の内面及び他者とのつながりを豊かにしようとすることばの使い手を育てることをねらいとしている。そこで，「基盤となる母語，母語との比較でその価値をとらえる他の言語，つまり日本語，日本の言語文化，英語，英語圏の言語文化」を対象としている。

けんこう 健やかな心と体をつくる

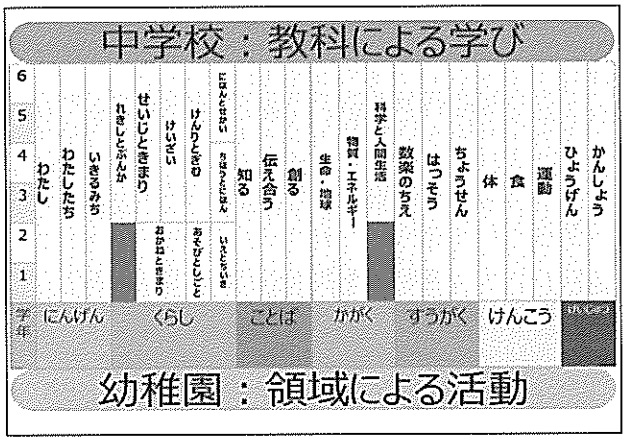
生命維持活動である食事や運動，睡眠などに加え，心の健康にも焦点を当てて，QOL（生活の質）の向上をねらいとしている。そこで，「心身の健康を構成しているもの」を対象としている。

げいじゅつ 心ゆくまで表現する

表現の組合せによる新しい芸術世界が広まっている今日において，個々の表現の価値を組み合わせて新しい表現を創り出すこと，他者の表現を認め自分の表現に生かすことをねらいとしている。そこで，「人間の飽くなき表現欲求」を対象としている。

また，本校の領域においては，幼児期教育及び中学校教育との接続を考えた教育課程のグラデーション化

を図る（図６）。幼児期は，生涯にわたる人格形成の基礎を培う「育ち」の教育である。小学校期は，生涯にわたり学習する基礎を培う「学び」の教育である。このような特質を踏まえ，本校では幼児期教育で大切にしている，生活や遊びを中心とし，子供が能動的に環境に働きかけることができるように，子供の発達特性に応じて環境を施す「環境を通して行う教育」を全学年重視して学習を展開する。また，中学校期は，「学び」の教育において，自己のキャリア形成の方向性を見いだす時期である。この特質と現行の中学校の教育課程を踏まえ，高学年に進むにつれて，各領域の学習内容を系統的に学ぶ，領域の教科化を行う。



【図6　教育課程のグラデーション化（例）】

イ　学びを強めるための領域関連

現代的課題及び未来社会で起こりうるであろう課題の解決においては，複数の知識や技能を組み合わせること，いろいろな資質・能力を駆使することは容易に想像できる。このような学び，つまり子供主体の学びを実現させるためには，領域を関連させて複数の領域で課題解決を図る学習が有効である。

そこで，以下の手順で領域の関連及び題材構成を図り，内容の確かな獲得とともに，未来創造型の資質・能力の発揮を期待する。

①　子供の実態をもとに，解決すべき発達課題に相当するテーマを仮説設定する。

学年	テーマ（例）
第１学年	自立
第２学年	生命
第３学年	自然
第４学年	共生
第５学年	世界
第６学年	幸福

未来創造型の資質・能力は，緩やかに発揮したり育成されたりするものである。よって，学期に１回程度の領域の関連化を図り，未来創造型の資質・能力の育ちを評価しやすい状態にする。学期に１回程度の領域の関連化を図る上で，教育内容の重点化を図る。教育内容の重点化が，各学年でのテーマ設定である。このテーマは，人間として大切にすべき価値とも言い換えられる。

②　テーマを含む学習対象（学習材）を設定する。

学年	学習対象・人材（例）	
第１学年	自然材料や空間を使った創造遊び	PLAY 福岡（遊びを啓発している方）
第２学年	地域で採れる野菜	野菜ソムリエ レストランのシェフ
第３学年	学校の緑	環境マイスター グリーンシティ福岡
第４学年	福祉	ブラインドランナー伴走者
第５学年	世界の食糧問題	子ども食堂 フードバンク福岡
第６学年	自然災害	自然災害に立ち向かう方

③　学習対象（学習材）から子供が見いだすであろう課題と解決に必要な知識・技能等を洗い出す。

④　洗い出した課題，知識・技能等を担う領域を詮索する。

⑤　課題設定を重視した活動を構成する。

領域の特質を活かして，内容と活動を効果的に位置付けて題材を構成する。子供の発達段階の実態を踏まえて，特に学習材との出合わせ方（課題発見像）を重視する。また，学習材とのかかわり方（課題追究像），学習材とのかかわりを通して成長した自己の姿の表現の仕方（見いだす応えとテーマの達成像）を明らかにしていく。

⑥　課題解決の難易，学習内容の系統をもとに，学習時期を決定する。

⑦　未来創造型の資質・能力を評価する場面を設定し，関連化の有効性を判断する。

計画した題材構成を実施する中で大切なことは，子供自らの評価に基づく即時修正である。そのためにも，評価規準は毎時間，達成目標として事前に明らかにしておく必要がある。この達成目標については，子供自ら学びの方向性をつくっていくことを大切にしたとき，教師と子供とで設定することが望ましい。毎時間，達成目標の到達度について相互評価に基づく自己評価を行い，次の内容及び活動，内容達成のための支援を修正していく。

⑧　未来創造型の資質・能力の評価をもとに，題材計画を修正して，学習を進める。

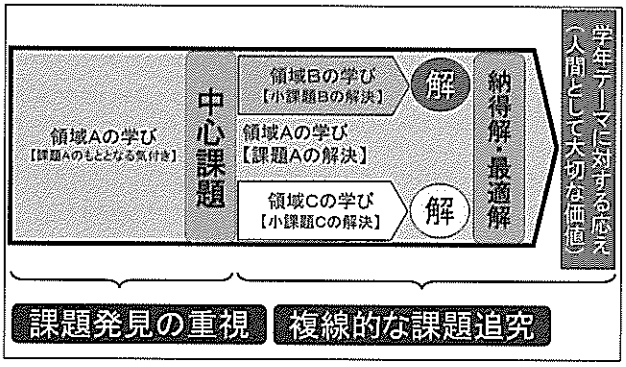
⑨　⑦⑧を繰り返す。

⑩　題材終了後，未来創造型の資質・能力を総合的に評価し，次題材及び次年度の学年年間指導計画と領域年間指導計画を修正する。

関連については，本校はこれまでも，教科等による教育課程において「学びの統合」という視点で，「補完」「系統」「関連」の３つの統合を見いだしてきている。このうち，「補完」は，本研究の領域による教育課程でも効果的であると判断している。それは，中心とする領域の課題解決に向けて他の課題が生じたとき，子供自らが関連する領域における知識・技能等を選んだり，組み合わせて使ったりするといった創造性の発揮が期待できるからである。また，そのまま課題解決を進めたり，必要なところを修正しながら課題解決を進めたりといった自己の学びを振り返る向上性の発揮も期待できるからである。さらには，解決目的を同じくする他者と，思いや状況を推し量ってそれぞれの考えを擦り合わせるといった協働性の発揮も期待できるからである。

領域関連における学びは，以下のような学びである。

学習の出発点となる領域を中心とし，そこから生じた中心課題を解決する上で必要だと感じた小課題を解決していくことで，納得解や最適解をつくり，自分の生き方に対する応えを見いだそうとする学び。



【図7　「補完」による関連】

ウ　学びを支える時間の設定

たんれん　知識・技能を愉しく身に付ける

大人がこれまでの人生における蓄積した知識・技能等を関連付けて記憶する連合記憶を得意としているのに対し，子供は脳内に貯めている知識・技能等がまだまだ少ないため，繰り返し書く・聞く・話す等，諸感覚を使って記憶する機械的記憶を得意としている。そこで，繰り返すこと，小さな目標設定・達成を繰り返しながら成功体験を増やすことを主たる条件として，各領域の対象範囲となっている知識・技能等を身に付ける時間「たんれん」を設定する。「たんれん」は，朝の帯タイムに位置付ける。

「たんれん」が目指しているのは，子供自ら課題をとらえて自分自身を伸ばす，究極の個別学習である。そのために，指導内容表を作成する。指導内容表は，教師が子供一人ひとりの獲得状況を把握するために用いるとともに，子供自らも獲得状況を確認することができるチェックカードとして用いる（表２）。

指導内容表の作成においては，以下の点に留意する。

（内容を割り出す視点）
○　従来の教科等の内容で20，30年後も必要だと判断されるもの
○　従来の教科等による内容には含まれていないが，20，30年後も必要だと判断されるもの
（特筆すべき事項）
○　従来の教科等による内容配列には準じない。
○　学級集団全体の指導内容表から，一人ひとりの指導内容表へと内容を高めていく。

【表２　「たんれん」指導内容表（例）】

	A	B	C	D
ことば	慣用句・俳句	英会話	漢字	
	１～５級の検定試験			
すうがく	計算	単位	図形	公式
	１～５級の検定試験			
くらし	都道府県	地図記号	世界地図	歴史人物
	１～５級の検定試験			
かがく	天体	生き物	実験器具	記号
	１～５級の検定試験			
けんこう	持久走	集団行動		
	各行事での体験			

Ⅳ　学びを強める評価

(1) 子供自らが行う評価活動

問題解決を迫られている一瞬に，これまでの学習経験や生活経験で身に付けた知識・技能，ものの見方・考え方等が発揮される。つまり，目の前の状況から問題解決に必要な知識・技能等を選び，組み合わせて試行錯誤しながら解決を進めていく。このような解決過程こそ，解決者本人にとって意味のある学びとなり，これからの生活にも役立つ。

上記のことを目指す学習条件は，以下の通りである。

○　子供自らの強い求めが土台となる学習
自ら試行錯誤する学習であること
○　資質・能力を発揮して追究する学習
子供自ら未来創造型の資質・能力を発揮することで，自分の感じ方，考え方，かかわり方がよりよいものに変わっていくこと
○　納得解や最適解を導く学習
自他の判断や思考をまとめ上げた応えを見いだす学習であること

このような条件を満たす学習を，本研究では自分の学びの状況を振り返る「自己評価活動」を位置付けた「自己追究の学び」としている。この「自己追究の学び」は，本校が従来から大切にしてきている学びでもある。「自己評価活動」には２つある。１つは「自己

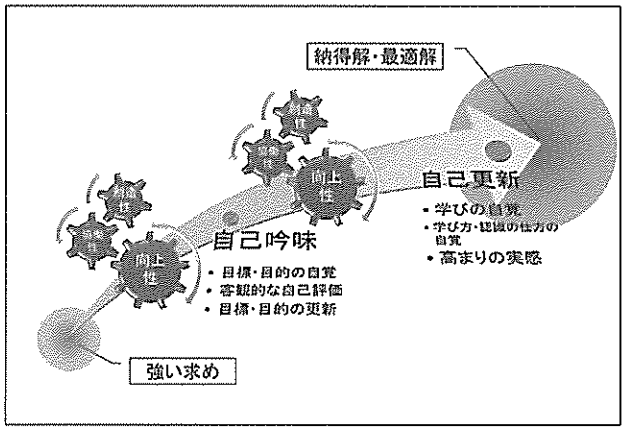
吟味」，もう１つは「自己更新」である。「自己吟味」とは，「自己追究」の過程とその結果についてその是非を問う，自己内の交流であり，以下の条件を備えた自己評価活動である。

○　自分の目標・目的に応じた評価活動であること　【目標・目的の自覚】
○　他者評価を通した自己評価活動であること　【客観的な自己評価】
○　自己吟味の結果，新たな目標・目的を設定することができること　【目標・目的の更新】

「自己更新」とは，「自己追究の学び」において，自分の感じ方，考え方，行い方に価値を見いだしたり，自分の個性をとらえて自分の中に取り込んだりする活動であり，以下の条件を備えた自己評価活動である。

○　学びの内容をとらえること　【学びの自覚】
○　自分の学習の進め方・認識の仕方に気付くこと　【学び方・認識の仕方の自覚】
○　自分の学習の進め方及び認識の仕方の高まりを実感できること　【高まりの実感】

「自己追究の学び」で，未来創造型の資質・能力のうち向上性を常に発揮して学びが進む。向上性が発揮されることで，他者志向である協働性，学び方や認識における創造性が発揮される。つまり，向上性は自己追究の原動力となるものである（図８）。



【図８　自己追究の学び】

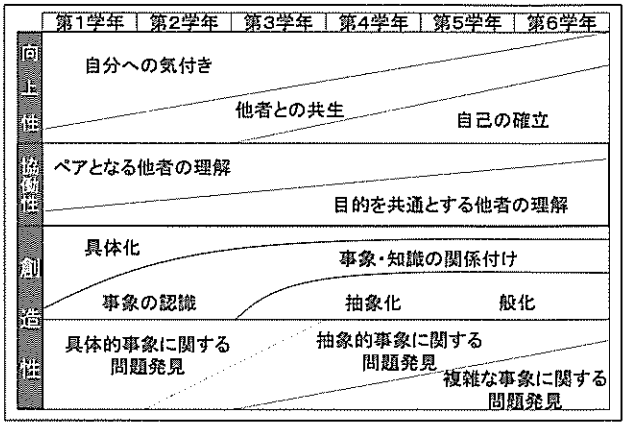
(2) 妥当性，信頼性を高める評価

未来創造型の資質・能力の評価については，学年の発達に応じた質的な高まりについて系統化を図り，それを評価指標とする（図９）。

【向上性】
比較思考が伸びることで，自分を主体から客体化して観ることができるようになる。よって，自己を意識し始める発達段階から，「自分への気付き」→「他者との共生」→「自己の確立」としている。

【協働性】
協働が有効に機能する人数及び自分志向と他者志向の相互作用から，「ペアとなる他者の理解」から「目的を共通とする他者の理解」としている。

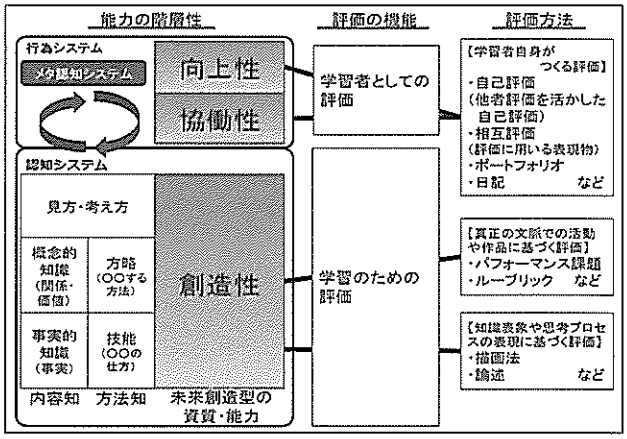
【創造性】
問題解決の発端である問題発見と，解決を進める思考方略の傾向性から系統化を図っている。



【図９　未来創造型の資質・能力の評価指標】

図10は，本校の評価の仕組みである。これは，「知の構造」（ウィギンズ・マクタイ，2012）をもとに石井英真氏（京都大学大学院教育学研究科准教授）が再構成した「知識のタイプ分け」に，本校の未来創造型の資質・能力を当てはめたものである。認知システムのうち事実的知識や概念的知識といった内容知，技能や方略といった方法知において特に「創造性」が発揮される。また，見方・考え方においても「創造性」が発揮される。メタ認知を含む行為システムでは，特に「向上性」と「協働性」が発揮される。このように考えると，評価の機能としては，「創造性」は形成的評価のうち「学習のための評価」となり，「向上性」と「協働性」は「学習者としての評価」となる。

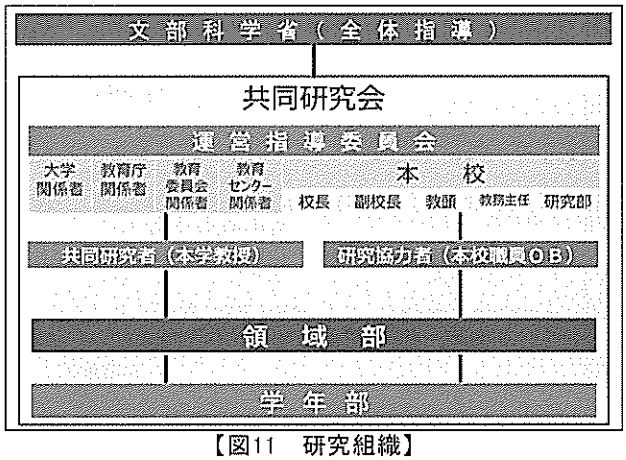
評価方法については，「創造性」は音声言語や文字言語，記号などによって表現される知識の表象や思考過程について定性的に評価する。「向上性」と「協働性」は，子供自らがつくるポートフォリオや日記などの表現物の相互評価，相互評価をもとにした自己評価を参考に評価する。また，開発尺度をもとにした意識調査を年３回行い，未来創造型の資質・能力の変容及びそれらの関係性を分析することで，定量的にも未来創造型の資質・能力の育ちを評価する。



【図10　能力の階層性と評価の関係】

Ⅴ　学びを強めるカリキュラムを編成するための研究組織

(1) 関係機関との連携



【図11　研究組織】

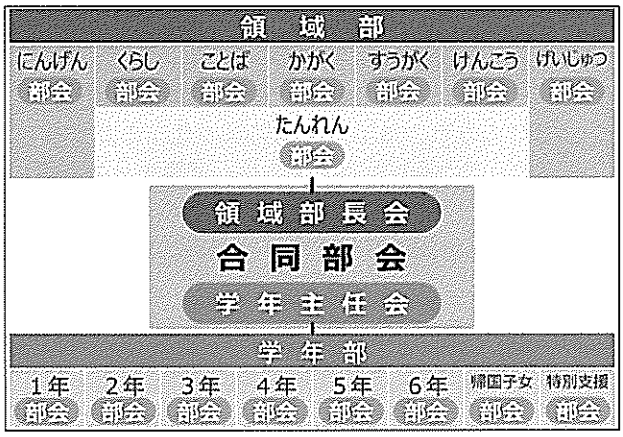
本研究では，図11のように，本校がこれまでに積み上げてきている本学及び本校職員 OB との連携をもとに共同研究会を組織している。共同研究会には，大学関係者，教育行政関係者等によって構成される運営指導委員会を置いている。運営指導委員会では，研究の全体構想及び運営について指導助言をいただいている。そして，運営指導委員会での指導助言をもとに，本学教授からなる共同研究者，本校職員 OB からなる研究協力者に，各領域の構想と授業づくりに関して指導助言をいただいている。

運営指導委員会，共同研究会とも年度に複数回設定することで，研究の方向性を随時確認・修正している。

(2) 各会の設立と連携

領域による教育課程においては，子供の育ちを客観的に見取るためにも，子供の育ちに適した学習材を多面的・多角的に見いだしていくためにも，職員の協働体制が不可欠である。そこで，本研究では以下のような６つの組織をつくり，教育課程を実施している。

会の名称	概　　要
領域部会	○　７つの領域部ごとに設定 ○　領域学習指導要領の作成・修正 ○　領域年間指導計画の作成・修正 ○　題材評価 （関連題材または単独題材の判断） ○　「たんれん」の内容作成・修正
領域部長会	○　各領域部構想の協議 ○　各領域年間指導計画の協議 ○　各領域題材の協議 ○　「たんれん」の内容協議
学年部会	○　第１～６学年，帰国子女，特別支援教育ごとに設定 ○　学年テーマ（当該学年における，人間として大切にすべき価値）設定・見直し ○　学年年間指導計画作成・修正 ○　題材評価 （関連題材または単独題材の判断） ○　「たんれん」の内容評価
学年主任会	○　学年テーマの協議 ○　各学年年間指導計画の協議 ○　各学年題材の協議 ○　「たんれん」の内容評価
領域部長・学年主任合同部会	○　領域年間指導計画と年間指導計画の調整 ○　「たんれん」の内容評価
たんれん部会	○　領域「ことば」「くらし」「かがく」「すうがく」「けんこう」部長で編成 ○　内容・検定試験の協議



【図12　領域部と学年部の連携】

(3) 教育課程表

先述の組織運営を経て，本年度の各領域の時数を下表のように設定している。なお，「たんれん」の時間は，時数としてはカウントしていない。

平成29年度　各領域年間時数一覧表(1･6年34週，2～5年35週で)

	にんげん	くらし	ことば	すうがく	かがく	けんこう	げいじゅつ	計
第1学年	68	68	306	170	34	102	136	884
第2学年	70	105	315	175	35	105	140	945
第3学年	140	105	280	140	70	140	140	1015
第4学年	140	105	280	175	70	140	140	1050
第5学年	140	105	245	175	70	175	140	1050
第6学年	136	102	238	170	68	170	136	1020
	694	590	1664	1005	347	832	832	5964

（研究部長　　二　串　英　一）

参考・引用文献

新教育課程ライブラリⅡ VOL 1～12(2017). ぎょうせい.
田村学(2017).「カリキュラム・マネジメント入門」. 東洋館出版社.
嶋田総太郎(2017).「認知脳科学」. コロナ社.
松尾知明(2016).「未来を拓く資質・能力と新しい教育課程」. 学事出版.
坂野慎二・藤田晃之(2016).「海外の教育改革」. 放送大学教育振興会.
サンドラ・ジョンソン&キャスリン・テイラー(2016).「脳科学が明らかにする大人の学習」. ヒューマンバリュー.
アンジェラ・ダックワース(2016).「GRIT　やり抜く力」. ダイヤモンド社.
新教育課程ライブラリ VOL 1～12(2016). ぎょうせい.
中央教育審議会(2016).「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」.
文部科学省（http://www. mext. go. jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/　1380731. htm）.
石井英真(2016).「教育展望－カリキュラム・マネジメントで求められる評価のあり方」. 教育調査研究所.
石井英真(2016).「カリキュラム研究－資質・能力ベースのカリキュラムの危険性と可能性」.
日本カリキュラム学会. 83-89.
白水始(2016).「カリキュラム研究－「21世紀型能力」の整理を通した学習論と学力論の関係再考」.
日本カリキュラム学会. 99-104.
安彦忠彦(2016).「教育方法学研究－コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影－人格形成を見据えた能力育成をめざして」. 日本教育方法学会紀要第41巻.
石井英真(2016).「教育方法学研究－『コンピテンシー・ベース』を超える授業づくり－人格形成を見据えた能力育成をめざして. 日本教育方法学会紀要第41巻.
西岡加名恵・石井英真・田中耕治（2016).「新しい教育評価入門」. 有斐閣コンパクト.
田村学(2015).「授業を磨く」. 東洋館出版社.
カリキュラム・イノベーション研究会(2015).「カリキュラム・イノベーション」. 東京大学出版会.
山邊光宏著(2015).「人間形成の基礎理論［第４版］」. 東信堂.
石井英真(2015).「今求められる学力と学びとは－コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影－」.
日本標準.
国立教育政策研究所(2015).「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書Ⅰ使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力」.
国立教育政策研究所(http://www. nier. go. jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h27/2-1_all. pdf）.
中央教育審議会(2015).「教育課程企画特別部会　論点整理」.
文部科学省(http://www. mext. go. jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/09/24/1361110_1. pdf).
中央教育審議会(2014).「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」.
文部科学省（http://www. mext. go. jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440. htm）.
吉富芳正・田村学(2014).「新教科誕生の軌跡」. 東洋館出版社.
安彦忠彦(2014).『「コンピテンシー・ベース」を超える授業づくり（教育の羅針盤）』. 図書文化社.
松尾知明(2014).「教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる授業デザイン－」. 学文社.
小泉英明(2010).「脳科学と学習・教育」. 明石書店.
文部科学省(2008).「幼稚園教育要領解説」. 文部科学省.
安彦忠彦(2006).「新版　カリキュラム研究入門」. 勁草書房. 209-238.
安彦忠彦(2002).「改訂版　教育課程編成論－学校は何を学ぶところか－」. 放送大学教育振興会.
西康隆(2001).「小学生の創造的態度についての研究－体験・学力・創造的思考との関連を通して」.
兵庫大学大学院学校教育研究科（http://repository. hyogo-u. ac. jp/dspace/bitstream/10132/2314/1/ZF30302-002. pdf）.
堀洋道（監修）. 吉田富二雄（編）(2001).『心理測定尺度集Ⅱ－人間と社会のつながりをとらえる〈対人関係・価値観〉－』. サイエンス社.
堀洋道（監修）. 松井豊（編）(2001).『心理測定尺度集Ⅲ－心の健康をはかる〈適応・臨床〉－』.
サイエンス社.
ジーン・レイヴ，エティエンヌ・ウェンガー(1993).「状況に埋め込まれた学習」. 産業図書.

小学校学習指導要領(試案)

領域「ことば」編

1　領域新設の経緯

(1) ことばの役割から

領域「ことば」は，生活を豊かにする主体的なことばの使い手を育てる上で設定した領域である。そこで，本領域では，ことばを思考，伝達，創造の３つの機能でとらえ，ことばを通して，生活を豊かにすることを中心に据える。それは，人が思考，伝達，創造するためには，ことばが不可欠であり，思考，伝達，創造なしに生活を豊かにすることはできないと考えるからである。そのため，ことばで思考することを通して生活を豊かにすることばの知識・技能を学ぶ「Ａ知る」，ことばで伝達することを通して他者とのつながりを豊かにする「Ｂ伝え合う」，ことばで創造することを通して自己の内面を豊かにする「Ｃ創る」の３つの学習内容を設定する。このように，領域「ことば」では，主体的なことばの使い手を育成することを求める。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「言語文化」が領域「ことば」の学習内容を担っていた。この領域「言語文化」の学習においては，「言語文化の向上を担う主体としての意識を育む」ことをねらいとし，内容を「言語基礎」「コミュニケーション」「創生」の３つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

○　言語を外言（コミュニケーション）と内言（創生），それを支える言語基礎という機能でとらえ，内容を構成することができた。
○　日本語と英語を関連することで，それぞれの言語についての新たな気付きやことばのおもしろさを実感させることができた。

しかし，領域「言語文化」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

●　創生，コミュニケーションと言語基礎の学習内容に重複があり，明確に区別できなかった，
●　日本語と英語をことばとしてとらえ，ことばの価値に迫る内容の位置付けが曖昧だった。

そこで，成果と課題を踏まえ，内容を言語の機能でより明確に区別した。具体的には，従来の「言語基礎」の内容を「Ａ知る」と変更し，文字，言葉の特徴やきまり，文化の３つで整理して，内容の重複をなくした。また，Ａ，Ｂ，Ｃの３つの内容を①日本語，②英語，③日本語と英語の関連で整理し，互いの内容を関連させるようにした。これらのことから領域「ことば」を設定することとなった。

2　目標

ことばに関する課題をとらえ，その解決を図る言語活動を通して，主体的なことばの使い手としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」

(1) ことばに関する課題について，筋道立てて表現したり，新たな自分の考えを創り出すことができる。（創造性）

(2) ことばに関する課題について，目的や意図に応じて，相手を意識しながら，自分の思いや考えを伝え合おうとすることができる。（協働性）

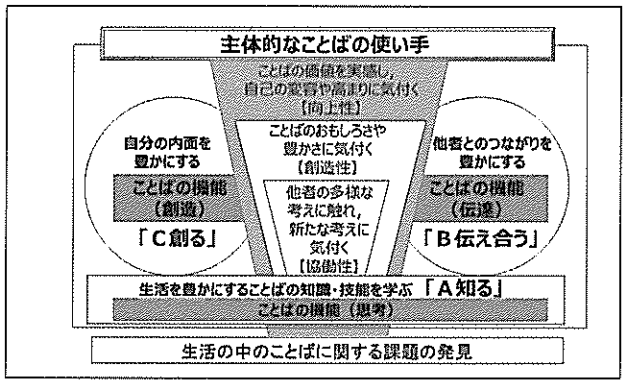
(3) ことばに関する課題の解決を通して，自他の変容や高まり，ことばについての気付きを価値付けようとすることができる。（向上性）

(1) 目標の趣旨

「ことばに関する課題をとらえ，その解決を図る言語活動」とは，「文学・落語などの文化財やＣＭや方言など子供の生活の中にあることばについてのあらゆる課題を発見すること」と「見出した課題の解決に対する自分の考えを広げたり深めたりする言語活動を行うこと」の２つの活動を表す。これは，本領域の学習内容が子供の生活の中にあり，そこから課題を見出し，その解決を図るためには，自分の考えを言語化する活動を通すことが必要であることを意味している。

「主体的なことばの使い手」とは，ことばを通して生活を豊かにしようとする子供の姿を表している。具体的には，ことばで自己の内面や他者とのつながりを豊かにしようとする子供の姿のことである。これは，領域「ことば」で目指す人格の具体を表している。そのためには，他者の多様な考えに触れ，新たな考えに気付いたり，ことばのおもしろさや豊かさ，自己の変容や高まりに気付いたりすることが必要である。

(2) 3つの資質・能力に関する目標と概念図



【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

主体的なことばの使い手を育てていくためには，ことばを通して生活を豊かにできることを子供が実感することが大切である。そのためには，ことばを通して，考えたり，分かり合ったり，言語文化に親しんだりすることで，生活を豊かにできることを子供たちに気付かせることが必要である。そこで，ことばを思考・伝達・創造の３つの役割でとらえ，内容を「Ａ知る」，「Ｂ伝え合う」，「Ｃ創る」から構成していく。

「Ａ知る」の内容は「ａ文字」，「ｂことばの特徴やきまり」，「ｃ文化」である。日本語や英語に親しみ，ことばの知識・技能を育んだり，多様な言語文化に親しんだりすることで，生活を豊かにする基盤としての思考力を育むことができるようにする。

「Ｂ伝え合う」の内容は「ａ話すこと・聞くこと」，「ｂ話し合うこと」，「ｃ書くこと・読むこと」である。日本語や英語で自分の思いや考えを伝え合い，他者の多様な考えに触れ，自分の思いや考えを見つめ直したり，新たな考えに気付いたりすることで，他者とのつながりを豊かにする表現力や共感力を育むことができるようにする。

「Ｃ創る」の内容は「ａ読むこと」「ｂ書くこと」，「ｃ創り出すこと」である。日本語や英語の文字や文章を読んだり書いたりすることや様々な言語文化について追究する活動を通して，考えの広がりや深まりをもたらすことばの価値を実感し，自分の内面を豊かにする創造力を育むことができるようにする。

これらの内容で育てる資質・能力は，相互に関連しており，一体となって働くことが大切である。そのため，この内容にある資質・能力を別々に分けて育成したり，「Ａ知る」で育成した思考力を身に付けてから，「Ｃ創る」で身に付ける創造力を扱うといった順序性を示すものではないことに留意する必要がある。

(2) 内容構成の具体的視点

領域「ことば」で扱う言語は，日本語と英語の２つである。そこで３つの内容を①日本語，②英語，③日本語と英語の関連の３つの視点で構成する。特に③については，独自の内容として構成することもあるが，①日本語や②英語の内容で，発展的に扱うこともできることに留意する。

(3) 学習活動や学習対象

Ａ　知る

①　日本語

ここでは，平仮名，片仮名，漢字，ローマ字などの読みと書きを扱う「文字」，語彙や表現の技法，ことばの働きなどを扱う「ことばの特徴やきまり」，ことわざや慣用句，俳句や古文などの伝統的な言語文化に親しむ「文化」を内容とする。

②　英語

ここでは，アルファベットや単語の読みと書きを扱う「文字」，語順や文構造などを扱う「ことばの特徴やきまり」，簡単な英語で書かれた絵本や歌などの言語文化に親しむ「文化」を内容とする。

③　日本語と英語の関連

ここでは，日本語と英語に共通することばの響きやリズムのおもしろさや美しさを実感したり，それぞれの言語文化の共通点や相違点をとらえたりする内容を「文字」，「ことばの特徴やきまり」，「文化」の中で特設したり，発展的に扱ったりする。

Ｂ　伝え合う

①　日本語

ここでは，話題の設定，話の内容構成の検討や表現の工夫などを扱う「話すこと」，内容の把握や解釈，感想や考えの形成などを扱う「聞くこと」，話合いの進め方の検討や考えの形成，複数の考えから合意を見いだす共有などを扱う「話し合うこと」を内容とする。

②　英語

ここでは，挨拶，自己紹介やスピーチなどを扱う「話すこと」，具体的な情報の聞き取りや内容の大体の把握などを扱う「聞くこと」，質問や応答など相手とのやり取りを扱う「話し合うこと」を内容とする。

③　日本語と英語の関連

ここでは，日本語と英語のどちらにも共通する表現技法のよさ，表情や仕草などの非言語の役割，ことばで思いを伝え合うことのできる価値の実感などの内容を「話すこと」，「聞くこと」，「話し合うこと」の中で特設したり，発展的に扱ったりする。

Ｃ　創る

①　日本語

ここでは，題材の設定や内容，構成の検討，表現の工夫，推敲などを扱う「書くこと」，文章構造と内容把握，必要な情報を取り出したり，書かれていることから想像を広げる解釈，考えの形成などを扱う「読むこと」，共通する視点での文学の解釈やＣＭの作成などを扱う「創り出すこと」を内容とする。

②　英語

ここでは，英文の書き写しや基本文を参考にした英作文などを扱う「書くこと」，フォニックスや絵本の読み聞かせなどを扱う「読むこと」，英語によるプレゼンテーションやスキットなどを扱う「創り出すこと」を内容とする。

③　日本語と英語の関連

ここでは，日本語と英語の文章についての感じ方の共通点や相違点をとらえたり，それぞれの言語文化に対する国による考え方の共通点や相違点をとらえたりする内容を「書くこと」，「読むこと」，「創り出すこと」の中で特設したり，発展的に扱ったりする。

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

①　ことばに関する具体的な活動や体験を通して，文字に親しむことや語句の量を増やすことのよさや昔話や英語の絵本などの言語文化の楽しみに気付いたりすることができる。　（創造性）

B　ことばに関する課題を解決する活動を通して，伝え合う楽しさに気付き，事柄や相手に応じて，思いや考えを伝え合うことができる。（協働性）

C　ことばに関する具体的な活動や体験を通して，日本語や英語の言語文化についての自分の考えの変容に気付くことができる。　（向上性）

(2) 内容

【A知る】

a　日本語や英語の文字の形や筆順を学ぶ活動を通して，表記のきまりに気付き，正しい字形を意識して，平仮名及び片仮名，配当漢字，アルファベットを読んだり書いたりする。

b　身近なことを言葉で表す活動を通して，言葉の働きに気付き，身近なことを表す語句の量を増やし，話や文章の中で使おうとする。

c　昔話や神話・伝承などの読み聞かせや長く親しまれている言葉遊びなどを通して，話のおもしろさに気付き，友達と音読したり遊んだりして，言語文化に親しもうとする。

【B伝え合う】

a　日本語や英語で身近なことなどを紹介する活動を通して，話すことや聞くことの楽しさに気付き，順序や大事なことに気を付けて話したり聞いたりしようとする。

b　日本語や英語で質問したり返答したりする活動を通して，話し合うことのよさに気付き，話題に関心をもって，日本語で伝え合おうとする。

c　日本語で経験したことや想像したことなどについて書いて伝え合う活動を通して，順序に気を付けて楽しんで文章表現をしようとする。

【C創る】

a　日本語の文章や言語文化に親しむことを通して，ことばや表現方法の特徴に気付き，思いを明確にして，日本語でつながりのある文や文章を書こうとする。

b　日本語の文章を読んだり，簡単な英語で書かれた文章の読み聞かせを聞いたりすることを通して，表現の仕方の特徴に気付き，感じたことを話し合って，自分の考えをもとうとする。

c　日本語と英語の文章や言語文化を比較することを通して，それぞれの特徴に気付き，言語文化に親しみ，自分の考えをもとうとする。

〔第２学年〕

(1) 目標

A　ことばに関する具体的な活動や体験を通して，文字に親しむことや語句の量を増やすことのよさや昔話や英語の絵本などの言語文化に親しむよさに気付いたりすることができる。（創造性）

B　ことばに関する課題を解決する活動を通して，伝え合う楽しさに気付き，事柄や相手に応じて，思いや考えを伝え合うことができる。（協働性）

C　ことばに関する具体的な活動や体験を通して，日本語や英語の言語文化についての自分や友達の考えの変容に気付くことができる。（向上性）

(2) 内容

【A知る】

a　日本語や英語の文字の形や筆順を学ぶ活動を通して，表記のきまりに気付き，正しく使うことを意識して，配当漢字やアルファベットを楽しんで読んだり書いたりする。

b　身近なことを言葉で表す活動を通して，言葉の意味により語句のまとまりがあることに気付き，身近なことを表す語彙を豊かにして，話や文章の中で使おうとする。

c　昔話や神話・伝承などの読み聞かせや長く親しまれている言葉遊びなどを通して，言葉の豊かさに気付き，友達と音読したり遊んだりして，言語文化に親しもうとする。

【B伝え合う】

a　日本語や英語で身近なことなどを紹介する活動を通して，話すことや聞くことの楽しさに気付き，順序や大事なことに気を付けて，進んで話したり聞いたりしようとする。

b　日本語や英語で質問したり返答したりする活動を通して，話し合うことのよさに気付き，話題に沿って，日本語で伝え合おうとする。

c　日本語で経験したことや想像したことなどについて書いて伝え合う活動を通して，順序や構成に気を付けて進んで文章表現をしようとする。

【C創る】

a　日本語の文章や言語文化に親しむことを通して，ことばや表現方法の特徴に気付き，思いや考えを明確にして，日本語でつながりのある文や文章を書こうとする。

b　日本語の文章を読んだり，簡単な英語で書かれた文章の読み聞かせを聞いたりすることを通して，表現の仕方の特徴に気付き，考えたことを話し合って，自分の考えをつくろうとする。

c　日本語と英語の文章や言語文化を比較することを通して，それぞれの特徴に気付き，言語文化に親しみ，自分の考えをつくろうとする。

〔第３学年〕

(1) 目標

A　ことばに関する活動や体験を通して，正しい文字の使い方や語句の量を増やすよさや短歌や俳句，英語の絵本などの言語文化に親しむよさに気付くことができる。　（創造性）

B　ことばに関する課題を解決する活動を通して，相手や目的に応じるよさに気付き，思いや考えを伝え合うことができる。　（協働性）

C　ことばに関する活動や体験を通して，言語文化の共通点や相違点をとらえ，そのよさや考えの変容に気付くことができる。　（向上性）

(2) 内容

【A知る】

a　文字を読んだり書いたりする活動を通して，表記のきまりや送り仮名の付け方に気を付け，配当漢字及びローマ字，アルファベットを意欲的に読んだり，句読点の打ち方を理解して書いたりする。

b　経験したことや考えたことを表す活動を通して，語句のまとまりがあることに気付き，様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，話や文章の中で使おうとする。

c　易しい文語調の短歌や俳句，ことわざや慣用句などを音読・暗唱する活動を通して，言葉の響きやリズムのおもしろさに気付き，言語文化に慣れ親しもうとする。

【B伝え合う】

a　日本語や英語で説明や報告をする活動などを通して，工夫して話すことや聞くことのよさに気付き，話の中心を意識し，筋道を立てて自分の思いや考えを話したり聞いたりしようとする。

b　日本語や英語で考えを伝える活動を通して，工夫して話すことのよさに気付き，相違点に注意して伝え合い，考えをまとめようとする。

c　日本語で調べたことなどを文章に書いて伝え合う活動を通して，相手や目的を意識して進んで文章表現をしようとする。

【C創る】

a　日本語の文章や言語文化に親しむことを通して，ことばや表現方法の特徴に気付き，自分の考えと理由を明確にして，日本語で文や文章，英語で簡単な単語を書こうとする。

b　日本語の文章を読んだり，簡単な英語で書かれた文章の読み聞かせを聞いたりすることを通して，一人一人の感じ方の違いに気付き，考えたことを話し合って，考えを広げようとする。

c　日本語と英語の文章や言語文化を比較することを通して，共通点や相違点に気付き，言語文化に親しみ，よさを見いだそうとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

A　ことばに関する活動や体験を通して，正しい文字の使い方や語彙を豊かにするよさやことわざや英語の絵本などの言語文化に親しむよさに気付くことができる。　（創造性）

B　ことばに関する課題を解決する活動を通して，相手や目的に応じるよさに気付き，思いや考えを意欲的に伝え合うことができる。　（協働性）

C　ことばに関する活動や体験を通して，言語文化の共通点や相違点に気付き，そのよさや考えの変容を共有することができる。　（向上性）

(2) 内容

【A知る】

a　文字を読んだり書いたりする活動を通して，表記のきまりや送り仮名の付け方に気を付け，配当漢字及びローマ字，アルファベットを意欲的に読んだり，改行の仕方を理解して書いたりする。

b　経験したことや考えたことを表す活動を通して，語句のまとまりがあることに気付き，様子や行動，気持ちや性格を表す語句の使い方の範囲を広げ，話や文章の中で使おうとする。

c　易しい文語調の短歌や俳句，ことわざや慣用句，故事成語などを音読・暗唱する活動を通して，言葉の響きやリズムのおもしろさに気付き，言語文化に慣れ親しもうとする。

【B伝え合う】

a　日本語や英語で説明や報告をする活動などを通して，工夫して話すことや聞くことのよさに気付き，話の中心をとらえ，筋道を立てて自分の思いや考えを話したり聞いたりしようとする。

b　日本語や英語で考えを伝える活動を通して，工夫して話すことの大切さに気付き，相違点に着目して伝え合い，考えをまとめようとする。

c　日本語で文章を書いたり英語で文を書き写したりして伝え合う活動を通して，相手や目的を意識して進んで文章表現をしようとする。

【C創る】

a　日本語と英語の文章や言語文化に親しむことを通して，ことばや表現方法の特徴に気付き，考えと理由や事例を明確にして，日本語で文や文章，英語で簡単な単語や文を書こうとする。

b　日本語の文章や簡単な英語で書かれた文を読むことを通して，表現の仕方の特徴や一人一人の感じ方の違い気付き，考えたことを話し合って，考えを共有しようとする。

c　日本語と英語の文章や言語文化を比較することを通して，共通点や相違点に気付き，それぞれのよさを価値付けようとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

A　ことばに関する課題を解決する活動を通して，正しい文字の使い方や語彙を豊かにするよさや古文や漢文，英語でのプレゼンなどの言語文化のよさを見いだすことができる。　（創造性）

B　ことばに関する課題を解決する活動を通して，互いの立場を明確にしながら，目的に応じて，思いや考えを伝え合うことができる。（協働性）

C　ことばに関する課題を解決する活動を通して，言語文化の共通点や相違点に気付き，よりよい言語文化を見いだすことができる。　（向上性）

(2) 内容

【A知る】

a　文字を読んだり書いたりする活動を通して，表記のきまりに気付き，送り仮名や仮名遣いに注意して，文や文章の中で配当漢字を使ったり，身近な英単語を読んだりする。

b　考えたことを表す活動を通して，語句と語句の関係，語句の構成や変化に気付き，情報と情報との関係や比較，原因と結果の関係を明らかにして，話や文章の中で使おうとする。

c　親しみやすい古文や漢文，英語でのスピーチなどの言語文化に親しむ活動を通して，時間の経過による言葉の変化や表現方法の多様さに気付き，言語文化のよさや言葉のおもしろさを実感する。

【B伝え合う】

a　日本語や英語で資料を使って説明する活動などを通して，的確に話すことや聞くことのよさに気付き，目的や意図に応じて，自分の考えを適切に話したり聞いたりしようとする。

b　日本語や簡単な英語で考えを話し合う活動を通して，計画的に伝え合うことのよさに気付き，話の構成に注意して，考えを伝え合おうとする。

c　英語で文を書いたり日本語で効果を考えて文章を書いたりする活動を通して，目的や意図に応じて適切に文章表現をしようとする。

【C創る】

a　日本語と英語の文章や言語文化に親しむことを通して，ことばや表現方法の特徴に気付き，日本語で筋道の通った文章，英語で簡単な文を書こうとする。

b　日本語や簡単な英語で書かれた文章を読むことを通して，表現の仕方の特徴や感じ方の違いに気付き，自分の考えを広げようとする。

c　日本語と英語の文章や言語文化を比較することを通して，共通点や相違点に気付き，それぞれの特徴を生かして，よりよい言語文化を見いだそうとする。

〔第６学年〕

(1) 目標

A　ことばに関する課題を解決する活動を通して，正しい文字の使い方や語彙を豊かにするよさや古文や漢文，英語でのプレゼンなどの言語文化のよさを共有することができる。　（創造性）

B　ことばに関する課題を解決する活動を通して，互いの立場を明確にしながら，意図に応じて，思いや考えを伝え合うことができる。（協働性）

C　ことばに関する課題を解決する活動を通して，言語文化の共通点や相違点をとらえ，よりよい言語文化をつくりだすことができる。（向上性）

(2) 内容

【A知る】

a　文字を読んだり書いたりする活動を通して，表記のきまりに気付き，漢字と仮名を使い分け，文や文章の中で適切に使ったり，短い英文を読んだりする。

b　考えたことを表す活動を通して，語句と語句の関係，語句の構成や変化に気付き，優れた表現に触れて，語感や語彙を豊かにして，話や文章の中で使おうとする。

c　親しみやすい古文や漢文，英語でのスピーチなどの言語文化に親しむ活動を通して，時間の経過による言葉の変化や表現方法の多様さをとらえ，言語文化の価値を実感する。

【B伝え合う】

a　日本語や英語で資料を使って説明する活動などを通して，的確に話すことや聞くことのよさをとらえ，目的や意図に応じて，自分の考えや思いを適切に話したり聞いたりしようとする。

b　日本語や簡単な英語で考えを話し合う活動を通して，計画的に伝え合うことのよさに気付き，話の構成を工夫して，考えを伝え合おうとする。

c　英語で文や文章を書いたり日本語で効果を考えて文章を書いたりする活動を通して，目的や意図に応じて適切に文章表現するよさを見いだそうとする。

【C創る】

a　日本語と英語の文章や言語文化に親しむことを通して，ことばや表現方法の特徴に気付き，日本語で筋道の通った文章，英語で意図に合う簡単な文を書こうとする。

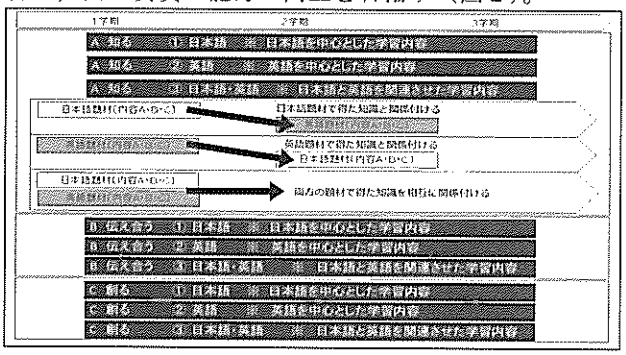
b　日本語や簡単な英語で書かれた文章を読むことを通して，表現の仕方の特徴や感じ方の違いに気付き，自分の考えを深めようとする。

c　日本語と英語の文章や言語文化を比較することを通して，共通点や相違点に気付き，それぞれの特徴を生かして，よりよい言語文化をつくろうとする。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

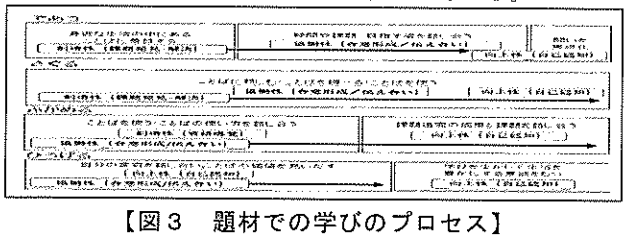
年間指導計画作成にあたっては，本校の全体計画に基づき，領域「ことば」においては，子供たちが日本語や英語がもつことばの特性に気付き，ことばへの感性を養うものである必要がある。そのために，各内容における a，b については，日本語と英語のそれぞれの内容を基に題材を配列する。そして，内容 c については，日本語と英語とを関連させた題材を学期に１つ配列し，双方の言語文化を比較することを通して，ことばへの気付きを深めることができるようにする。次の３つの視点を基に関連させる。一つは，英語文化への気付きを促す日本語題材を関連する英語題材の前に位置付ける。二つは，日本語文化への気付きを促す英語題材を関連する日本語題材の前に位置付ける。 三つ目は，日本語文化と英語文化相互で関連する題材を並行し，同じ資質・能力の向上を目指す（図２）。



【図２　年間指導計画のイメージ】

(2) 題材計画についての考え方

題材計画については，子供たちが生活の中で見つけたことばに関する課題について，４つの段階で子供たちの主体的な学習を仕組む。「であう」段階では，子供たちが学習材と出合い，ことばに関する疑問や課題，めざす姿を話し合い，追究課題を明確にすることができるようにする。「さぐる」段階では，子供たちが課題解決に向けて，課題追究を進めていくことができるようにする。「ふかめる」段階では，ＧＴや友達など他者の多様な考え方に触れることで，自分のことばに関する見方・考え方を深めたり，修正したりすることができるようにする。「ひろげる」段階では，子供たちが自分の学びや変容を価値付けることで，ことばの価値を実感することができるようにする（図３）。そうすることで，自分のことばで生活を豊かにしていこうとする意識を高めることができると考える。



【図３　題材での学びのプロセス】

6　指導計画の作成と学習指導

(1) 「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は日本語と英語の関連題材と他領域との関連題材の２つによって成り立っている。年間を通して，日本語と英語の関連題材を毎学期に１つ位置付ける。さらに，学年後半は他領域との関連も位置付け，より主体的，総合的な学びへと導くことができるようにする。

(2) 「内容」を学ぶための課題設定について

２頁に述べた内容構成を踏まえて，子供の生活の中のどのようなことばに出合い，どのような価値ある課題設定であるかということが求められる。そのためには，①ことばに関する子供の素朴な「問い」を取り上げ，様々な視点からことばへの気付きを深めることができること，②日本語と英語との比較を通してことばへの感性を高めることができること，③ことばの価値を追究することができることなどが求められる。

【表３　課題設定の例】

課題設定	学習場面での「問い」の例
ことばに関する素朴な「問い」	・どのような場面で使うのだろう。 ・英語では何と言うのだろう。 ・日本語と英語では表現の仕方にどのような違いがあるのだろう。
ことばへの感性を高める「問い」	・このことばからどのような様子が想像できるだろう。 ・このことばには使い手のどのような思いや意図があるのだろう。 ・どちらのことばが自分の意図により合うことばだろう。
ことばの価値を追究する「問い」	・ことばは必要なのだろうか。 ・ことばとは何だろう。 ・どのようにことばを使って人とかかわり合うとよいのだろう。

(3) 「学習の評価」について

生活の中からことばに関する課題を見出し，解決に向けて追究する活動を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示した内容として次のように評価していく。

【表４　評価場面と評価方法】

創造性	全段階の発言や記述，終末段階の表現場面 ○言語活動における発言，学習ノート等の記述 ○終末段階の表現物
協働性	展開・終末段階の発言や記述，表現場面 ○交流場面での発言，ボード等への記述 ○話す・聞く・話合いにおける表現内容
向上性	終末段階の振り返りの場面 ○学習ノート等の記述　○ポートフォリオ ○マイタイムノート

参考文献

森山卓郎編『国語からはじめる外国語活動』慶應義塾大学出版会，2009

ラボ教育センター編『ことばの学び，英語の学び』ラボ教育センター，2011

領域「ことば」年間指導計画

学年	学期 / 内容区分	1学期	
第1学年	A 知る	平仮名と仲良し⑪, アルファベットと仲良し②【文字】 言葉の決まりを見つけよう⑫【言葉の特徴や決まり】	平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑬, ア 言葉の決まりを見つけよう【言葉の特 福岡に伝わるお話を紹介しよう【文化 Christmas songs. クリスマスソングを
	B 伝え合う	どうぞよろしく④, 絵を見て話そう④【話すこと, 聞くこと】 宝物は何ですか⑦【話し合うこと】 Hello! 世界の いろいろな 言葉で あいさつしよう④【話すこと, 聞くこと】 Brown Bear,brown bear what do you see? いろいろな色と動物のいいかたを知ろう④【話すこと, 聞くこと】	お話聞いて④, 知らせたいな 見せた I'm happy. ジェスチャーを つけて Fruits and Vagetables. いろいろな果
	C 創る	お話(物語, 説明文)を楽しもう⑩, Storytelling 英語でお話を聞こう①【読むこと】 文を作ったり, 文章を書いたりしよう【書くこと】⑭	お話(物語・説明文)を楽しもう⑩, St よく見て, 順序よく書こう【書くこと】⑮ 幼稚園や保育園の友達に読み聞かせ Making a speech. 自分のことを 英語
年間時数(275時間)		89時間	
第2学年	A 知る	平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑩, アルファベット, Numbers 1から20まで②【文字】 言葉の決まりを見つけよう⑦【言葉の特徴や決まり】 昔のお話を楽しもう【文化】⑧	平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑩, ア 言葉の決まりを見つけよう⑬【言葉の 言葉遊びを楽しもう⑭【文化】 Christmas songs. 英語で歌おう①【文
	B 伝え合う	お話クイズをしよう⑥, インタビュー名人になろう⑩【話し合うこと】 ともこさんはどこかな④【聞くこと】 Do you have "a"? アルファベットクイズをつくろう④【話すこと, 聞くこと】 Let's make a zoo. 動物園をつくろう④【話すこと, 聞くこと】	組み立てを考えてスピーチしよう⑬【 I like soccer. すきなものをつたえよう Let's play cards. 休み時間を楽しもう
	C 創る	お話(物語・説明文)を楽しもう⑰, Storytelling 英語でお話を聞こう②【読むこと】 丁寧に観察して記録しよう⑬【書くこと】 大好きな場面をシナリオにしよう(「スイミー」場面間の話の創作)⑩【創り出すこと】	お話(物語・説明文)を楽しもう⑱, Sto お話の作者になろう⑩, 心に残ったこ 英語と日本語で絵本を楽しもう⑮【創 Making a speech. すきなものをスピー
年間時数(283時間)		97時間	
第3学年	A 知る	日本の文字に親しもう⑧, 英単語に親しもう⑧【文字】 言葉の決まりを知ろう③, What day is it today? 今日は何曜日？①【言葉の特徴や決まり】 俳句を楽しもう【文化】⑤	日本の文字に親しもう⑩, 英単語に 言葉の決まりを知ろう⑤【言葉の特徴 詩や短歌を楽しもう⑤ Christmas songs. 英語で歌おう①【文
	B 伝え合う	みんなでつくろうミュージカル⑭【話し合うこと】【書くこと, 読むこと】 Do you like soccer? 好きなスポーツを伝えよう④【話すこと, 聞くこと】箇所 I can swim. できることをしょうかいしよう④【話すこと, 聞くこと】	進行を考えながら, 話し合おう⑬【話し What do you like? すきなもの, なあ Let's have a barbecue. バーベキュー I'm good at playing soccer! ぼくの特
	C 創る	お話(物語・説明文)を楽しもう⑯, Storytelling 英語を聞いて想像しよう②【読むこと】 報告する文章を書こう⑪, 手紙を書こう⑤【書くこと】 Making a speech できることをスピーチしよう⑤【創り出すこと】	お話(物語・説明文)を楽しもう⑲, Sto 物語を書こう⑧【書くこと】 ピクトグラムが伝える言葉⑮【創り出 Let's present yourself. 自分のことを
年間時数(252時間)		86時間	
第4学年	A 知る	日本の文字に親しもう⑥, 英単語に親しもう⑦【文字】 言葉の決まりを知ろう④【言葉の特徴や決まり】 短歌, 俳句を楽しもう【文化】⑤	日本の文字に親しもう④, 英単語に親 言葉の決まりを知ろう④【言葉の特徴 詩や短歌を楽しもう③【文化】 Christmas songs. 英語で歌おう①【文
	B 伝え合う	読書生活について考えよう⑧【話し合うこと】【書くこと, 読むこと】 What do you like? すきなものをたずねよう②【話すこと, 聞くこと】 What do you want? 誕生日にほしいもの②【話すこと, 聞くこと】	ことわざからの学びを伝えよう⑧【話し 松ながさんに感しゃの気持ちを伝える What's this? クイズ大会をしよう④【話 Turn right. 道案内をしよう④【話すこ
	C 創る	お話(物語・説明文)を楽しもう⑰, Storytelling 英語を聞いて想像しよう①【読むこと】 調べたことを整理して書こう⑫【書くこと】 新聞の秘密をさぐろう⑩【創り出すこと】 広めよう！日本のこころ～英語にしたい日本のことば～⑫【創り出すこと】	お話(物語・説明文)を楽しもう⑱, Sto 心に残ったことを感想文に書こう⑧, 言葉でつくる笑いの世界～とんち話の Let's read and sing "SUKIYAKI". み
年間時数(252時間)		86時間	
第5学年	A 知る	日本の文字を正しく使おう④, 英単語を知ろう②【文字】 言葉の特徴や決まりをとらえよう③【言葉の特徴や決まり】 受け継がれてきた理由を考えよう～狂言～【文化】⑫	聞きやすく話そう⑤, 英単語を知ろう 読もう 孔子のことば～論語研究所～ Let's introduce Japanese items to th
	B 伝え合う	「きく」をつなごう⑤【聞くこと】, あなたをとりこにする言葉のヒミツ⑥【話すこと】【書くこと, 読むこと】 I study Japanese マイ時間割をつくろう⑥【話すこと, 聞くこと】 We are good friends! 世界の小学生とつながろう⑥【話し合うこと】	言葉でえがく未来～TEDスピーチの What do you like? 友達にインタビュ What do you like? ランチメニューをつ 伝わる？和食・WASHOKUのみ力⑧【
	C 創る	お話(物語・説明文)を楽しもう⑧, Storytelling 英語を聞いて想像しよう①【読むこと】 事実と意見を区別して書こう⑧【書くこと】 登場人物のかかわりが面白い物語を紹介しよう⑧【創り出すこと】 Making a speech 英語でスピーチ②, What's this? 英語で説明しよう④【創り出すこと】	お話(物語・説明文)を楽しもう⑲【読 グラフや表を使って書こう⑥【書くこと どうする？食料問題～世界初の無料
年間時数(220時間)		75時間	
第6学年	A 知る	日本の文字を正しく使おう④, 英単語を知ろう②【文字】 言葉の特徴や決まりをとらえよう③【言葉の特徴や決まり】 音で感じる日本語の心～大和言葉～⑧【文化】 Let's sing. 英語で歌う日本の歌④【文化】	日本の文字を正しく使おう④, 英単語 言葉の特徴や決まりをとらえよう④【 古典に親しもう③【文化】 Let's sing and dance! フラッシュモブ
	B 伝え合う	学級討論会をしよう⑦【話すこと, 聞くこと】 つくろうおいしい広告～オノマトペの活用～⑧【話し合うこと】【書くこと, 読むこと】 What time do you get up? 休日の過ごし方⑤【話すこと, 聞くこと】【書くこと, 読むこと】 What are you doing? 今, 何をしていますか？④【話すこと, 聞くこと】	自分の考えを明確に伝えよう⑥【話す When is your birthday? 誕生日を尋 Let's go to Italy. 友達を旅行に誘お 解決しよう！ニッポンの不思議⑩【話
	C 創る	お話(物語・説明文)を楽しもう⑮【読むこと】 パンフレットをつくろう⑧【書くこと】 Making a speech. 修学旅行の思い出 英語でスピーチ⑦【創り出すこと】	お話(物語・説明文)を楽しもう⑰【読 この絵わたしはこう見る(解説文)⑥【 ことばでできる？復興支援⑳【創り出 Making a speech. 自分のこと④【創り
年間時数(214時間)		75時間	

2学期	3学期
ルファベットとなかよし②【文字】 徴や決まり】⑦ 】⑮ うたおう①【文化】	平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑥，アルファベットとなかよし①【文字】 言葉の決まりを見つけよう④【言葉の特徴や決まり】 昔話を楽しもう【文化】⑤ FUKUWARAI 体の部位の言い方を知ろう②【文化】
いな④【話すこと，聞くこと】 つたえよう③【話すこと，聞くこと】 物と野菜のいいかたを知ろう③【話すこと，聞くこと】	もうすぐ2年生⑩【話すこと，聞くこと】【書くこと・読むこと】 Making a Speech. ありがとうの きもちを つたえよう⑤【話すこと，聞くこと】
orytelling 英語でお話を聞こう②【読むこと】 をしよう⑫【創り出すこと】 で 紹介しよう④【創り出すこと】	お話（物語・説明文）を楽しもう⑫，Storytelling 英語でお話を聞こう①【読むこと】 出来事や気持ちが伝わるように書こう（もうすぐ2年生）⑩【書くこと】 見つけたいな，ぼく・わたしと似ているお話⑮【創り出すこと】
115時間	71時間
ルファベットと仲良し①【文字】 特徴や決まり】 化】	平仮名・片仮名・漢字に親しもう⑥，アルファベットとなかよし①【文字】 言葉の決まりを見つけよう④【言葉の特徴や決まり】 言葉遊びを楽しもう【文化】⑥
話すこと，聞くこと】 ③【話すこと，聞くこと】 ③【話すこと，聞くこと】	お手紙でつたえよう⑧【書くこと・読むこと】 I like star! すきな形をつたえよう②【話すこと，聞くこと】
rytelling 英語でお話を聞こう②【読むこと】 とを書こう⑦【書くこと】 り出すこと】 チしよう④【創り出すこと】	お話（物語・説明文）を楽しもう⑫，Storytelling 英語でお話を聞こう①【読むこと】 出来事や気持ちが伝わるように書こう【書くこと】⑫ 心に響く言葉で作ろう（再話本の比較と続き話の創作）⑮【創り出すこと】 Making a speech. 1年間の思い出を気もちとともにつたえよう④【創り出すこと】
115時間	71時間
親しもう⑩【文字】 や決まり】 化】	日本の文字に親しもう②，英単語に親しもう⑥【文字】 言葉の決まりを知ろう②【言葉の特徴や決まり】 ことばはかわる？～国語じてんくらべ～【言葉の特徴やきまり】⑫ 詩や短歌を楽しもう【文化】②
し合うこと】 に？③【話すこと，聞くこと】 の買い物をしよう④【話すこと，聞くこと】 技，教えます④【話すこと，聞くこと】	落語でみがく言葉の力⑩【話すこと，聞くこと】【書くこと，読むこと】 What's "Osechi"? 日本のお正月を説明しよう④【話すこと，聞くこと】
rytelling 英語を聞いて想像しよう①【読むこと】 すこと】 プレゼンしよう⑤【創り出すこと】	お話（物語・説明文）を楽しもう⑧，Storytelling お話を聞いて想像しよう②【読むこと】 本で調べて，ほうこくしよう【書くこと】⑨ Let's make a skit. 英語でスキットをつくろう⑥【創り出すこと】
103時間	63時間
親しもう⑨【文字】 や決まり】 化】	日本の文字に親しもう④，英単語に親しもう①【文字】 言葉の決まりを知ろう②【言葉の特徴や決まり】
合うこと】 には⑩【話し合うこと】【書くこと・読むこと】 すこと，聞くこと】 と，聞くこと】	聞き取りメモの工夫③【聞くこと】 みんなでトーク SNS⑪【話し合うこと】 This is my favorite place. ～福岡のおすすめスポットPR隊～⑩【話すこと・聞くこと】【書くこと・読むこと】 Let's go abroad. 世界の国々のみ力を発見しよう⑦【話すこと，聞くこと】【書くこと・読むこと】
rytelling 英語を聞いて想像しよう①【読むこと】 リーフレットをつくろう⑦【書くこと】 創作～⑫【創り出すこと】 んなでつくる "SUKIYAKI"ソング⑪【創り出すこと】	お話（物語・説明文）を楽しもう⑪【読むこと】 調べて，まとめて，読み合おう⑥【書くこと】 昔話でLet's talk! ～We are good friends.～⑧【創り出すこと】
103時間	63時間
⑤【文字】 ⑭【文化】 e world. プロに学ぶプレゼン英語③【言葉の特徴や決まり】	日本の文字を正しく使おう②，英単語を知ろう②【文字】 ことのはに こめし思いを あらつ庵⑪【文化】
活用～⑮【話すこと，聞くこと】 ーしよう④【話すこと，聞くこと】 くろう④【話すこと，聞くこと】 話し合うこと】	最後の一年に期待をこめて④【話すこと，聞くこと】【書くこと，読むこと】 What did you do? 冬休みの思い出②【話すこと，聞くこと】【書くこと，読むこと】 Discover JAPAN 世界にほこる日本文化を伝えよう⑧【話し合うこと】
むこと】 】 スーパーとは～⑧【創り出すこと】	お話（物語・説明文）を楽しもう⑤【読むこと】 一枚の写真から⑤【書くこと】 時と世界を超える，変身の物語⑩【創り出すこと】 Making a speech. 英語でスピーチ⑥【創り出すこと】
90時間	55時間
を知ろう②【文字】 言葉の特徴や決まり】 に挑戦④【文化】	英単語を知ろう①【文字】 言葉の決まりを知ろう②【言葉の特徴や決まり】 HAIKUで広がる言葉の世界【文化】⑥
こと，聞くこと】【書くこと，読むこと】，考えようネチケット⑦【話し合うこと】 ねよう④【話すこと，聞くこと】 う④【話すこと，聞くこと】 し合うこと】	卒業を前に 今，わたしは ぼくは④【話すこと，聞くこと】【書くこと，読むこと】 This is my dream! 6年生の夢宣言④【話すこと，聞くこと】【書くこと，読むこと】 プレゼンしよう！6年間の思い出④【話し合うこと】
むこと】 書くこと】 すこと】 出すこと】	お話（物語・説明文）を楽しもう⑧【読むこと】 自分を見つめ直して～随筆を書こう～⑥【書くこと】 共に考える～言葉って何だろう～⑧【創り出すこと】 Making a skit. オリジナルの物語をつくろう⑥【創り出すこと】
90時間	49時間

小学校学習指導要領（試案）
領域「かがく」編

1　領域新設の経緯

(1) 社会の変化から

領域「かがく」は，自然の事物・現象の仕組みやきまりを知的好奇心をもって粘り強く探究し，考えを創り出す上で設定した領域である。そこで，本領域では，人工知能やグローバル化の進展など絶え間ない技術革新等により，複雑な情報を処理したり，ビッグデータを分析・考察したりと，自分の仮説に沿って，何度も繰り返し実証し，考えを自分なりに創り出す力を身に付けさせる。それは，今後の未来社会を生き抜く上で欠かせないものだからである。そのため，身近な存在である自然の事物・現象を新たな視点でとらえ，これからの情報化，人工知能などの未知の探究ができる学習内容を設定する。このように，領域「かがく」では，子供が課題を明確にもち，ものの仕組みやきまりを創造することを求める。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「自然探究」が領域「かがく」の学習内容を担っていた。この領域「自然探究」の学習においては，領域目標を「自然の事物・現象にかかわる仕組みを，知的好奇心をもとに粘り強く探究していく過程を通して，発見力，探究力，未来発想力を発揮し，自然の事物・現象にかかわる考えを創り出す能力を育てる。」とし，内容を「自然」「数理」「数理探究」の３つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

- ○　自然，数理，数理探究の３つの内容区分で内容構成を考え，系統的に学習内容を設定することができた。
- ○　子供の資質・能力を育てる上で，数学的な考え方と科学的な見方・考え方を育てたり，問題解決の核を担ったりすることができた。
- ○　未来社会に必要な内容で新たな題材開発ができ，考えを創り出す子供の資質・能力を育てる上では有効であった。

しかし，領域「自然探究」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

- ●　自然，数理は基礎・基本としての内容であり，内容の精選・統合の仕方が不明確だった。
- ●　低学年の内容設定が不十分であった。

そこで，成果と課題を踏まえ，数理の内容を他の領域に任せ，本来充実させるべき「自然の事物・現象」の内容や，今後，必要となるＳＴＥＭ教育の内容を取り入れた領域「かがく」を創ることにした。

2　目標

(1) 目標の趣旨

自然の事物・現象に親しみ，発見力，探究力，発想力，かがくの見方・考え方を働かせて，課題を解決していく過程を通して，新たな価値の創造に粘り強く探究していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

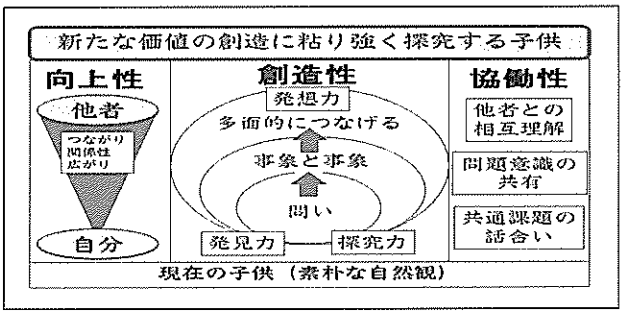
(1)　自然の事象・現象にかかわる事象から仮説を立て，理由や根拠を明確にして，要因や規則性，関係を多面的分析・考察して，より妥当な考えをつくりだすことができる。　（創造性）

(2)　課題解決に向けて，互いに納得できる考えを見出すために自分の考えを伝え合うことができる。　（協働性）

(3)　課題解決を通して，多面的・多角的な視点から自分の考えを改善し，自他の変容や高まりを価値付けようとすることができる。　（向上性）

「自然の事物・現象に親しみ，発見力，探究力，発想力，かがくの見方・考え方を働かせて課題を解決していく過程」とは，「自然の事物・現象に親しむ」と「発見力，探究力，発想力，かがくの見方・考え方を働かせて，課題を解決する」の２つの活動を表す。これは，本領域の学習原理を表し，自然の事物・現象に親しむことが重要であり，子供がもつ見方や考え方を働かせて，課題解決することが必要であることを意味する。「新たな価値の創造に粘り強く探究することができる」とは，自然の事物・現象を対象として，子供が粘り強く課題に取り組み，新たな仕組みやきまりなどのよさに気付く価値を創造することができる子供の具体的な姿を表している。自然の事物・現象に働きかけて課題を発見（発見力）し，かがくの見方・考え方で追究し，得られたデータについて何度も練り直し（探究力），問題解決を通して考えを創り出そうとする（発想力）３つの力の発揮が必要になる。

(2) ３つの資質・能力に関する目標と概念図



【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

子供たちは，自然から学び，自然の中で生きていく。古代にさかのぼっても，食料を確保するために，狩猟する動物の生態を調べたり植物の育ち方を考えたりした。現代社会では，それぞれの学問によって研究開発が進み，科学的知識は常につくりだされ更新されるものになっている。常に新しい知識がつくりだされる状況にある今日では，つくりだされた知識を得ることは大切であるが，それだけが大切ではない。それらをいかにつくりだし用いていくかといった力を身に付ける子供を育てることが大切である。そのためには，これまでの知識の習得をゴールとする内容構成では不十分である。その領域における知識の活用だけでは新しい知識をつくりだすことはできない。もっと多様な知識を組み合わせたり多面的に物事をとらえ直したりすることで，新たな知識はつくりだされたり活用されたりするのである。そこで領域かがくでは，自然事象との出会い，体験で生まれた問いを，科学的な知識や能力を活用して探究したり，実社会や実生活とのつながりを感じつつ，新たな発見や問題意識を想像したりするような実践を行う。そのことが子供たちが将来にわたって科学技術社会，情報化社会を積極的に生きていくための素養として「科学的リテラシー」を育てる営みを重視する。その観点から内容を以下の３つから構成していく。

それは「生命・地球」「物質・エネルギー」「科学と人間生活」である。本来，科学という学問は，自然科学から，理学・応用科学に派生し，理学が「物理学」「化学」「地学」「生物学」に分類され，応用科学が「医学」「工学」「農学」いわゆる科学技術に分類された。そこで，領域かがくの内容構成の一つ目「生命・地球」では，身近な自然や環境に関して課題をつくり，それらを追究していく過程において，自然を愛する心情を育み，自然観を豊かにするものである。次に「物質・エネルギー」では，身近な生活や自然の事物・現象を通して，物事の原理・原則を解明していくものである。最後に，「科学と人間生活」では，科学技術や応用科学に焦点を当て，テーマを個々で設定し，今後未来社会で必要とされる新たな探究や発想ができるものである。とくに科学と人間生活は，カーツワイル博士が提唱したシンギュラリティ（技術的な進化の成長曲線が2045年に爆発的に上昇していくこと）を背景に，バイオ科学と人間生活，ハイ科学と人間生活など，科学技術の進化と関係がある。これらの内容は，現実生活と関連させることで，子供たちの学びが，より自分の生き方に意味のあるものとして還元されることが大切である。

(2) 内容構成の具体的視点

上記の３つの内容を設定しつつ，対象を環境，物質の２つの視点を重視する。

(3) 学習活動や学習対象

ア　生命・地球

この視点では，子供が生活者として主体的に生活環境にかかわり，生活環境とよりよい関係をもつことができる。また，これから重視される環境教育，防災教育も取り入れることができる。具体的に，低学年から中学年にかけては，自分の生活の中に見られる，身近な事象や事象と自分とのかかわりに興味や疑問をもち，観察したり調べたりして，自分の生活を支えている事象への認識を深め，それに対して自分がどう行動したらよいか考えることである。高学年では，わが国という視野で環境や防災を考える。例えば，「九州北部豪雨」などの現代的課題について，甚大な被害に至った原因を究明する活動の中で，気象予報のメカニズムや災害避難速報のメカニズムなど，今後の防災の視点に役立つ内容につなげることができる。特に，事象から得た知識を生かして，自分と事象との新たな関係をつくりだし，生活の向上を求めていくことを目指す。

イ　物質・エネルギー

物質の視点は，エネルギー・粒子から構成され，時間・空間の尺度の小さい範囲内で直接実験を行うことにより，対象の特徴や変化に伴う現象や働きを，何度も人為的に再現して調べることができやすい特性をもっている。エネルギー・粒子といった科学の基本的な見方や概念は，内容Ｂ「物資・エネルギー」を中心に養い，内容Ｃ「科学と人間生活」で応用していく。また，基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る観点からも子供たちの発達段階を踏まえ，小・中・高等学校を意識した内容の構造化を図っていく必要がある。具体的に高学年にかけて物質の対象を繰り返し関わり，見方や概念を定着していくように位置づける。

(4) 構成要素と階層性

上記の内容構成と視点を生かした要素と学年の系統について表すと以下のようになる。

	１，２年生	３，４年生	５，６年生
Ａ 生命・ 地球	自然との ふれあい ・栽培経験 ・飼育経験	自然との共生 ・校内の自然 環境美化 ・環境汚染 ・美化活動	防災 ・自然災害 環境保全 ・生態系 ・生命の連続性
Ｂ 物質・ エネ ルギー	自然や物を 使った遊び ・昔遊び ・音遊び	物質 ・熱，空気， 水，ゴム，風， 磁石，電流	エネルギー変換 物質 ・火，大地，力 学，電磁石
Ｃ 科学と 人間 生活		ものづくり プログラミン グ	ＩＣＴ ＡＩ 航空力学，情報 科学と人間生活

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

① 身近な自然の事物・現象に親しみ，試行錯誤しながら，見通しをもち，事物・現象の特徴に気付く見方や考え方をもつことができる。（創造性）

② 他者の考えを聞き取り，自分の考えと比べて，違いに気付き，認めようとすることができる。（協働性）

③ 自分の問題解決過程や学習内容を振り返ることができる。（向上性）

(2) 内容

（第１学年）

【Ａ生命・地球】

① 植物の生長について学ぶことを通して，自分自身の体の成長だけでなく，毎日毎日休まずに植物の世話を続けることのできた自分自身の心の成長にも気付き，仲間とともに楽しく観察していくことができ，互いの気付きを交流していく中で，自分の自然観を豊かにする。

② 植物の生長を通して，植物には命があることに気付き，虫や植物が生きていくためには，水をやったり，えさをやったりすることが大切であることを考え，動植物の生命を感じ，植物が生長する喜びを実感する。

【Ｂ物質・エネルギー】

③ 風で運ばれる植物の秘密を楽しもうから，風の力や自然の形について学ぶことを通して，風と飛距離に気付き，仲間とともに協力して実験を行い，自然の事物・現象の不思議や楽しさを実感する。

④ 音の秘密や音の不思議を調べる活動を通して，響き合う音を楽しもうとすることから，音の力について学ぶこと，音の震え方と音の違いに気付き，仲間とともに協力して実験を行い，自然の事物・現象の不思議や楽しさを実感する。

〔第２学年〕

(1) 目標

① 身近な自然の事物・現象に親しみ，試行錯誤しながら，見通しをもち，事物・現象の特徴に気付く見方や考え方をもつことができる。（創造性）

② 他者の考えを聞き取り，自分の考えと比べて，違いに気付き，認めようとすることができる。（協働性）

③ 自分の問題解決過程や学習内容を振り返ることができる。（向上性）

(2) 内容

（第２学年）

【Ａ生命・地球】

① 夏野菜の生長について学ぶことを通して，自分自身の体の成長だけでなく，種植えから収穫までの体験を通して自分自身の心の成長にも気付き，仲間とともに楽しく栽培していくことができ，互いの気付きを交流していく中で，自分の自然観を豊かにする

② 夏野菜を育てる活動を通して，植物には命があることに気付き，虫や植物が生きていくためには，水をやったり，肥料をやったりすることが大切であることを考え，植物の生命を感じ，夏野菜が生長する喜びを実感する。

【Ｂ物質・エネルギー】

③ 光の世界から，光の力について学ぶことを通して，光の直進性や屈折などの光の共通性や性質に気付き，仲間とともに協力して体験や実験を行い，自然の事物・現象の不思議や楽しさを実感する。

④ 生活の中で経験している影ができる現象から，日光について学ぶことを通して，日光や光の共通性に気付き，仲間とともに協力して体験や実験を行い，影は太陽の動きや物の位置によって，変わることを理解し，自然の事物・現象の不思議や楽しさを実感する。

〔第３学年〕

(1) 目標

① 自然の事物・現象から見い出した問題について，比較することを通して，差異点や共通点に気付き，根拠のある仮説や考察を発想する見方や考え方をもつことができる。（創造性）

② 他者の考えと自分の考えを比べて，共通点や差異点に気付き，考えのよさを認めようとする。（協働性）

③ 他者の考えと比較して，自分の問題解決過程や考えを振り返ることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ生命・地球】

① 身の回りの生物やその周辺の環境について学ぶことを通して，身の回りの生物と環境との関わりに気付き，自分ができることについて考え，自然環境を守る活動を行っていこうとする。

② 学校の生物や植物の生育について学ぶことを通して，学校の自然環境のよさや課題に気付き，学校の自然改善の計画を立て，自分の自然に対する考えを豊かにしようとする。

【Ｂ物質・エネルギー】

③ 風やゴム，磁石の力について学ぶことを通して，エネルギーのとらえ方，エネルギーの変換と保存に気付き，事象同士を比較しながら，身の回りの生活事象につなげていこうとする。

④ 音と光の性質について学ぶことを通して，エネルギーのとらえ方に気付き，探究して，共通点や差異点を見出し，光の強さや音の大きさを変えたときの違いを考えようとする。

⑤ 電流の性質について学ぶことを通して，エネルギーの変換と保存に気付き，乾電池と豆電球のつなぎ方や電気回路の問題点などを見出し，物には電気を通す物，通さない物があり，電気の通り道は輪になることをとらえようとする。

【Ｃ科学と人間生活】

⑥ 身近な材料やものを使って，ものが動く仕組みを考えたり，生活を便利にするものを創造したりして探究し，ものづくりの仕組みを考えようとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

① 自然の事物・現象の見い出した問題について，比較することを通して，差異点や共通点に気付き，根拠のある仮説や考察を発想する見方や考え方をもつことができる。（創造性）

② 他者の考えと自分の考えを比べて，共通点や差異点に気付き，考えのよさを認めようとする。（協働性）

③ 他者の考えと比較して，自分の問題解決過程や考えを振り返ることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ生命・地球】

① 植物の神秘や不思議さについて学ぶことを通して，生物の連続性やすばらしさに気付き，仲間とともに協力して探究して，自分にできる生物保全を行っていこうとする。

② 植物の形態の規則性について学ぶことを通して，生物の不思議さに気付き，仲間とともに協力して探究して，数と植物のつながりを考えようとする。

【Ｂ物質・エネルギー】

③ 空気，水，金属について学ぶことを通して，粒子のもつエネルギーに気付き，仲間とともに協力して探究して，温度変化させたときの体積変化についての考えをもとうとする。

④ 電気の性質について学ぶことを通して，エネルギーの変換と保存に気付き，仲間とともに協力して探究して，生活経験に基づいて，電流の大きさや向きなどの電気の性質を身の回りの生活につなげていこうとする。

【Ｃ科学と人間生活】

⑤ 手続き，場合わけ，繰り返しを組み合わせていくことによる論理的な思考について学ぶことを通して，プログラミング的思考のよさに気付き，個人やグループでのテーマを仲間とともに協力して探究して，何度もつくりかえ，試行錯誤した結果をもとに創り出した考えを実践しようとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

① 自然の事物・現象の変化や働きについてその要因や規則性，関係を多面的に分析し考察して，より妥当な考えをつくる見方や考え方を養う。（創造性）

② 自分の考えを明確に説明したり，多様な他者の考えを理解しようとしたりして，考え方を広げようとする。（協働性）

③ 多面的な視点で，自分の問題解決過程や考えを振り返ることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ生命・地球】

① 植物の発芽から結実までの過程，生物と環境について学ぶことを通して，生命の連続の神秘に気付き，仲間とともに協力して探究して，自分にできる環境保全を行っていこうとする。

② 生命の循環について学ぶことを通して，生物の共存の大切さに気付き，仲間とともに協力して探究して自分の自然観を豊かにしようとする。

【Ｂ物質・エネルギー】

③ ものの溶け方，水溶液の性質から水の力について学ぶことを通して，粒子の結合，粒子の保存性に気付き，仲間とともに協力して探究して，身の回りの生活事象につなげていこうとする。

④ 振り子の運動，てこの働き，放物運動，電磁石の性質から運動・電磁石の力について学ぶことを通して，エネルギーの変換と保存に気付き，仲間とともに協力して探究して，身の回りの生活事象につなげていこうとする。

【Ｃ科学と人間生活】

⑤ 生命が循環する環境づくりについて学ぶことを通して，生命の連続の神秘に気付き，個人テーマを仲間とともに協力して探究して，創り出した考えを実践しようとする。

⑥ 身近にある力学的エネルギーの学習を通して，ものが飛ぶ仕組みや動く仕組みに気付き，個人テーマを仲間とともに協力して探究して，創り出した考えを実践しようとする。

〔第６学年〕

(1) 目標

① 自然の事物・現象の変化や働きについてその要因や規則性，関係を多面的に分析し考察して，より妥当な考えをつくる見方や考え方を養う。（創造性）

② 自分の考えを明確に説明したり，多様な他者の考えを理解しようとして考え方を広げようとする。（協働性）

③ 多面的な視点で，自分の問題解決過程や考えを振り返ることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ生命・地球】

① 気象について学ぶことを通して，雲と天気の関係や気象予報の必要性に気付き，仲間とともに協力して探究して，わが国の気候の特徴をとらえ，自分の生活を豊かにしていこうとする。

② 地球と月，太陽の関係について学ぶことを通して，３つの惑星の関係性に気付き，仲間とともに協力して探究して自分の宇宙観を豊かにしようとする。

【Ｂ物質・エネルギー】

③ 土地のつくりと変化から大地の力について学ぶことを通して，地震や洪水の脅威に気付き，仲間とともに協力して探究して，防災意識の向上につなげていこうとする。

④ ものの燃え方，電気の利用から火・エネルギーの力について学ぶことを通して，粒子の存在やエネルギーの変換と保存に気付き，仲間とともに協力して探究して，身の回りの生活事象につなげていこうとする。

【Ｃ科学と人間生活】

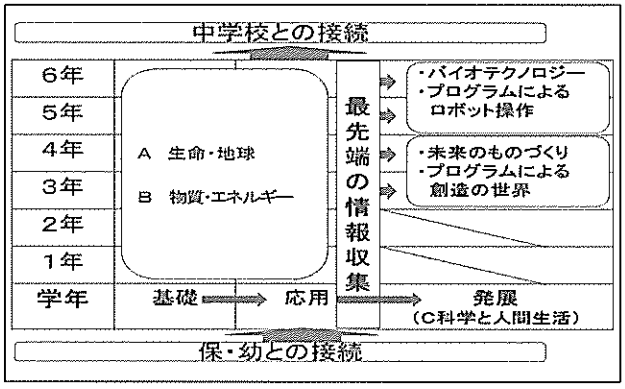
⑤ 日本の自然災害について学ぶことを通して，危険予測する大切さに気付き，個人テーマを仲間とともに協力して探究して，創り出した考えを実践しようとする。

⑥ 最新科学技術を通して，ロボットの動きや人工知能の仕組みに気付き，個人テーマを仲間とともに協力して探究して，創り出した考えを実践しようとする。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

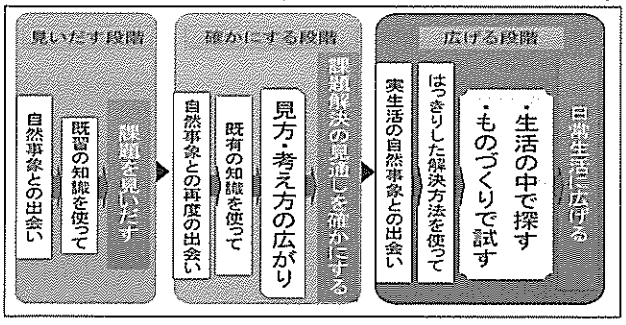
年間指導計画の作成にあったては，本校の全体計画に基づき，領域「かがく」においては，自然の事物・現象に働きかけ得るものにしていく必要がある。そのために，特に，関連題材においては，領域「にんげん」と「くらし」とは関連を図り，他領域とは子供の思いに基づいた関連が行えるようにする。さらに，不易と流行での流行の視点から，現代社会の課題や要請，大学改革での学部編成の動き，最先端技術など，今後の未来社会で活かせる学びを子供の実態と発達段階に即して系統的に設定する。そのために，保・幼・小・中の連携から，適切な学びの接続と，中学校理科との系統を基に年間指導計画を作成していく。



【図２　年間指導計画についての考え方】

(2) 題材計画についての考え方

題材計画については，子供たちが自然の事物・現象と出合ったときに発見した様々な問いをもとに，予想や仮説を立て探究し，解決までのプロセスを考えることができ，新たな価値の創造を考えることができるようにする。この一連の学びを子供が主体的にできるように，３つの段階で学習を仕組む。「見出す」段階では，事象の提示や体験活動を通して，身近な自然や生活の中で疑問に思っていることなどを学習課題とし，追究意欲を喚起させる。「確かにする」段階では，見通しをもたせるために追究計画を立て，課題を検証するために観察，実験の方法を工夫し，実践していくようにする。「広げる」段階では，新たな論理を構成して，解決へと進むようにする。こうして，次第に，自然の事物・現象を論理的，客観的にとらえると考える。



【図３　「かがく」における題材計画の流れ】

6　指導計画の作成と学習指導

(1) 「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は「かがく」単独での題材と他領域との関連題材の２つによって成り立っている。基本的な考え方としては，子供の求めに応じた題材設定が必要である。そのため，中核になる領域「くらし」と領域「にんげん」の題材内容が重要になると考える。その学習を通して，必要となる領域「かがく」の内容がある。それが関連題材となるのである。

(2) 「内容」を学ぶための問題設定について

「かがく」の内容構成からは，問題設定場面として，３つのことが考えられる。

① 自然の事物・現象をもとに子供の生活経験や体験活動から，問題を見出すようにする。

② ＧＴとの活動や話し合い，出合いから，問題を見出し，解決の見通しや意欲をもつようにする。

③ 自然の事物・現象との出合いから，その自然の事物・現象についての考えを出し合い，疑問や気付きなどを話合い，問題設定へと導くようにすることである。

領域「かがく」においては，問題設定で大切にしていくことは，子供の素朴な問題意識である。その素朴概念こそが，子供の知的好奇心の根幹になる。その子供の思いを大切にして，問題解決のプロセスを通して，問題解決へと導くようにする。

(3) 「学習の評価」について

自然の事物・現象から，問題を見出し，問題解決へ向けての取り組みや，その活動の様子などを資質・能力ベースで，次のように評価していく。

【表３　評価場面と評価方法】

創造性	主に展開段階と終末段階での課題解決に向けた話合い活動の場面で
	○　作品や表現物そのもの ○　発言やボード，ポートフォリオ ○　パフォーマンス課題への取組 ○　問題解決過程の振り返り
協働性	主に展開段階の協働的な課題解決の場面で
	○　ボード ○　ポートフォリオ ○　表現物
向上性	主に終末段階の振り返りの場面で
	○　発言やポートフォリオ ○　質問紙調査 ○　マイタイムノート

参考文献
小川正賢著編『ＳＴＳ教育』東洋館出版社，1993
デビット．A．スーザ著『ＳＴＥＡＭ教育』幻冬舎，2017
奈良潤著『人工知能を超える人間の強みとは』
技術評論社，2017

領域「かがく」年間指導計画

学年	学期 内容区分	1学期		
第1学年	A 生命・ 地球		おおきくなあれ！　わたしのおはな （にんげんの関連）⑪	
	B 物質・ エネルギー			すご
	C 科学と 人間生活			
年間時数（30時間）		11時間		
第2学年	A 生命・ 地球	大きくなあれ！　わたしの野菜（にんげんとの関連）⑪		
	B 物質・ エネルギー			
	C 科学と 人間生活			
年間時数（31時間）		12時間		
第3学年	A 生命・ 地球		すごいね　生き物の秘密⑧	つ
	B 物質・ エネルギー	パワー全開 遠くまでの動くゴムカー・ソーラーカー⑨ （ゴム・風の力）		地球は大きな磁石なの 発見しよう　じしゃくのふし （磁石の力）
	C 科学と 人間生活			
年間時数（63時間）		17時間		
第4学年	A 生命・ 地球			自然は
	B 物質・ エネルギー	空気の秘密のパワー発見 押して飛ばそう空気でっぽう⑧ （空気の力）	電流の限界に挑戦 速さ・明るさ・力強さ⑨ （電気の力）	
	C 科学と 人間生活			
年間時数（63時間）		17時間		
第5学年	A 生命・ 地球	私たちは植物の恩恵を受けている 生き物のつくりをさぐり，生きることについて考えよう⑤ （植物の生長と日光の関わり）		生物 種
	B 物質・ エネルギー	持ち上げられる？ 小さな力で大きな力をうみ出そう④ （運動の力）		それって安全？ 水溶液の見分け方⑤ （水の力）
	C 科学と 人間生活	【テーマ研究】 実現しよう　飛行プラン⑦ （飛行力学　ハイテクノロジー）		もっと
年間時数（63時間）		16時間		
第6学年	A 生命・ 地球	わたしたちのすむ日本は快適？ 日本の気象事情⑤ （天気の変化・台風）		わたしたちのすむ地球と月・太陽の奇跡
	B 物質・ エネルギー	なぜものは燃える？ 仕組みを解明して　もえ続ける　行灯をつくろう⑤ （火の力）		
	C 科学と 人間生活	【テーマ研究】 明日の天気は予測できる？⑥ （インフォメーションテクノロジー）		
年間時数（61時間）		16時間		

2学期		3学期	
いね　風で運ばれる種のひみつ⑫ （風の力）		ひびき合いは　きれいだね　音のひびきを楽しもう⑦ （音の力）	
12時間		7時間	
これで勝てる？ かげ遊びを楽しもう⑫ （日光の力）		きれいだね　ふしぎだね　光の世界⑦ （光の力）	
12時間		7時間	
くろう！わたしたちの小さな森⑮			
？ ぎ⑥	えっ？形が変わると重さも変わる？ ものと重さについて調べよう⑤ （質量保存）	光った電気の仕組みをとき明かそう⑤ （電流の力）	
		【テーマ研究】 発明しよう！未来につながるひみつ道具⑮	
26時間		20時間	
数を知っている　自然の生き物たち⑫			
熱をくわえて大きさへんしん 水・空気・金属のひみつ⑭ （熱の力）		ふしぎだな　自然の中の水⑧ （熱の力）	
			【テーマ研究】 つくろう！創造の世界⑰ （プログラミング）
26時間		20時間	
にとってのエコロン池の魅力とは？ が絶えないエコロン池の秘密をさぐろう⑦ （生命の誕生から終わりまで）			
	どうしたら　遠くに飛ぶの？ 科学ビー玉コースターをつくろう⑤ （運動の力）	持ち上げられる？ 使ってみよう　電磁石の仕組み⑥ （電磁石の力）	ふれるきまり発見 長さと周期の関係性⑤ （運動の力）
【テーマ研究】 魅力のあるエコロン池にできる？ エコロン池構想プロジェクト⑦ （バイオテクノロジー）		【テーマ研究】 世界にほこる　日本の技術⑫ （プログラミング）	
24時間		23時間	
の関係⑤			
豪雨と災害の関係とは？④ （大地の力）		これからも安心？ 日本の未来のエネルギー⑤ （エネルギーの力）	
	【テーマ研究】 なぜ自然災害は起きるのか⑱ （台風・洪水・地震） （防災危機テクノロジー）	【テーマ研究】 日本の未来と科学技術⑱ （プログラミング）	
25時間		20時間	

小学校学習指導要領(試案)
領域「すうがく」編

1　領域新設の経緯

(1) 現代社会から

変化の激しい21世紀の社会では，想定外の事象や未知の事象に対しても，もてる力を総動員して主体的に解決していこうとする力を培っていくことが必要である。そのためには，既存の概念にとらわれない創造的な発想力や企画力，直観力が必要となる。そこで，本領域では，様々な情報を数理的に処理し，問題を他者と協力しながら解決する問題解決過程を通して，自ら問いを見い出し，直観的，論理的に推論する力を育成することを目指す。そのため，論理的にきまりをつくったり，ひらめきをもとに発想を広げながら思考したりする事象，多様な情報を処理しながら現代的な課題を解決していく事象を学習対象にして，数や量，形の面白さや不思議さに触れることができるように学習内容を設定する。このように領域「すうがく」では，自らの問いを解決するために情報を整理し，直観的にアイデアを生み出したり，論理的に推論したりする力を育成する。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「自然探究」が領域「すうがく」の学習内容を担っていた。この領域「自然探究」の学習においては，領域目標を「自然の事物・現象に関わる仕組みを，知的好奇心をもとに粘り強く探究していく過程を通して，発見力，探究力，未来発想力を発揮し，自然の事物・現象に関わる考えを創り出す能力を育てる」とし，内容を「自然」「数理」「数理科学」の３つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

○　不易と流行の観点から，今後の未来社会に活かせるものを題材化することができた。
○　自然や科学の仕組みを探究する学習過程によって，創造性を発揮する子供が見られた。

しかし，領域「自然探究」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

●　ひらめきをもとにした直観的な推論の力をさらに養っていく必要があった。
●　他領域との関連を行うことで，さらに数や形のおもしろさに気付かせていく必要があった。

そこで，成果と課題を踏まえ，問題を解決するために必要となる知識や技能を確実に身に付けながら，数や形のおもしろさ，不思議さに気付くことができるような子供の姿が具体的になるように学習を創るようにした。このことから領域「すうがく」を新設した。

目標

数や形に親しみ，事象を数理的にとらえ，問題を他者とともに解決する活動を通して，自ら問いを見い出し，直観的，論理的に推論する力を身に付けていくための資質･能力を次の通り育成することを目指す。

(1)　事象から数や形，量についての問題を見い出し，直観的思考や論理的思考を通して，新たな考えや価値を見い出すことができる。　(創造性)

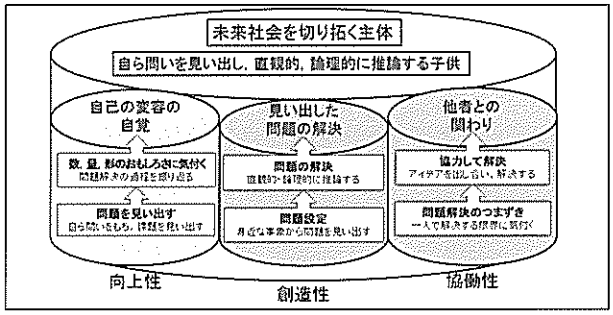
(2)　図や式，言葉などを用いて，他者と共に考えをつくり出したり，他者にわかりやすく表現したり，仲間とともに考えることを楽しむことができる。　(協働性)

(3)　問題解決過程を振り返ることで，自己の変容や高まりを価値付け，考えることを楽しもうとすることができる。　(向上性)

(1) 目標の趣旨

「数や形に親しみ，事象を数理的にとらえ，問題を他者とともに解決する活動」とは，「数や形に触れながら，日常の生活における様々なことがらを数や形の視点で見ること」と「日常生活において見い出した問題を他者とアイデアを出し合いながら解決していくこと」の２つの活動を表す。これは，本領域の学習活動の原理を表し，数や形の面白さや不思議さに気付いていくためには，他者との協働により，アイデアを出し合い解決することが必要であることを意味している。「自ら問いを見い出し，直観的，論理的に推論する」とは，日常生活における事象から数理的な問題を自分で見つけ出し，それを筋道立てて順序よく解決していく中で数理的なきまりを見つけたり，時にはひらめきをもとに問題解決の道筋を発見したりする活動のことである。これは，領域「すうがく」で目指す予測不能な未来社会を切り拓いていく力につながる。そのためには，論理的に推論する力に加え，ひらめきをもとに直観的に推論していく力を育成する必要がある。

(2) 3つの資質･能力に関する目標と概念図



【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

様々な情報が飛び交う変化の激しいこれからの時代を生きていくためには，何か問題場面に出合ったときに自分で情報を整理しながら解決できる力を付けていく必要がある。そこで，大切にしたいことは，たくさんの情報の中から必要な情報を取捨選択したり，分類整理したりして，自ら問いを見い出し，直観的，論理的に推論する力を育成することである。つまり，これまで算数科で大切にされてきた「論理的に考える力」だけではなく，瞬間的に本質を見抜く「直観力」も育てていくことを大切にしていく。このような学習をしていくことで，これまでの学習や生活の中で蓄積されてきた知識・思考方法を問題解決の場で，瞬時に活用することができるようになると考える。さらに，それまで経験的にもち得た知識・技能を，脳の力として最大限に活用することができるようになるとも考える。そこで，内容を次のように構成していく。

それは「数楽のちえ」「はっそう」「ちょうせん」の３つである。まず「数楽のちえ」では，先人達が大切にしてきた数や形についての基礎的・基本的な概念や性質，きまりなどをつくり出し，問題解決に活用していく。次に「はっそう」では，習得している知識や技能，経験を通して瞬時に物事を判断できるようにする。最後に「ちょうせん」では，目的に応じて情報を取捨選択し，直観的，論理的に思考しながら現代的な課題を解決することができるようにする。つまり，問題場面に出合ったときに，情報を読み取り，直観的にひらめいた解決方法をもとに，論理的に思考しながら解決していくことができるようになるのである。

(2) 内容構成の具体的視点

上記の３つの内容を設定しつつ，ものの個数や順序，などを表す「数」，ものの大きさを表す「量」，見たり，触ったりしてとらえることができる平面や立体で表された「形」という３つの視点を重視する。

(3) 学習活動や学習対象

ア　数

ここでは，日常生活における事象を数値化することで視覚化し，数理的な処理のよさに気付くことができる。そのために「数楽のちえ」の内容においては，動物の数調べやケーキの分け方調べなどを通した整数や小数，分数の概念の理解，加法や減法，乗法，除法などの計算の意味理解などの活動が考えられる。また，「はっそう」の内容では，マッチ棒遊びや計算クイズ，パズルづくりなどが考えられる。「ちょうせん」では，他領域で育てている花や野菜などの数を調べる活動や，他領域で調べた日本の農業や産業についてわかったことを円グラフや帯グラフなどにまとめる活動などが考えられる。

イ　量

ここでは，日常事象の特徴を量に着目してとらえ，目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり比べたりすることができる。そのため「数楽のちえ」の内容においては，量の概念や測定の方法について考えるための，自分の身長や体重の伸びを調べる活動などが考えられる。また，単位量あたりの大きさについて考える混み具合を比べる活動などが考えられる。「はっそう」の内容では，影遊びやストローで楽器をつくるなどの活動が考えられる。「ちょうせん」では，ソフトボール投げの様々な投げ方とその結果を整理して，遠くにボールが飛ぶ秘密を調べる活動が考えられる。

ウ　形

ここでは，形の機能的な特徴のよさや形の美しさに気付き，形の性質を生活に活かすことができる。そのために「数楽のちえ」の内容においては，三角形や四角形，立方体や直方体などの基本的な図形の概念やその性質について調べる活動が考えられる。また，「はっそう」の内容では，形を見つけたり三角形の秘密について調べたりする活動などが考えられる。「ちょうせん」では，こまの形による回り方の違いを調べたり，ボールの大きさや形によるボールの跳ね方の違いなどを調べたりする活動が考えられる。

(4) 内容の階層性

上記の内容構成と視点を生かした要素と学年の系統について表すと以下のようになる。

【表２　内容構成の例】

	１，２年生	３，４年生	５，６年生
A　数楽のちえ	数の概念（整数） 整数の加減乗	数の概念（整数，小数，分数） 整数の加減乗除 小数の加減乗除 分数の加減	分数の加減乗除 文字を用いた式
	長さ・かさ・広さの概念 時刻や時間 簡単な表やグラフ	長さ・重さの概念 時刻と時間 折れ線グラフ	単位量あたりの大きさ 割合，百分率 比，比例，反比例，平均，度数分布表 場合の数
	形の特徴 三角形，四角形，正方形，長方形，直角三角形 箱の形	二等辺三角形，正三角形，ひし形 平行四辺形，台形 円，球 立方体，直方体 正方形，長方形の求積 三角形のひみつ	多角形，正多角形 角柱，円柱 三角形，ひし形，平行四辺形，台形の求積 立方体，直方体，円の球積 角柱，円柱の求積 対称な図形 縮図や拡大図
B　はっそう	すごろく遊び パズル遊び マッチ棒パズル	計算クイズ 便利な計算	お得にお買い物をしよう 引き出そう！脳の力
	時間調べ かげ遊び	太陽までの距離 ストロー楽器	じゃんけんの謎 引き出そう！脳の力
	形見つけ		サッカーボールをつくろう 引き出そう！脳の力
C　ちょうせん	よく回るこまを作ろう つくって食べようマイやさい	つくろう！わたしたちの小さな森 遠くにボールを投げるには	よく弾むボールを決めよう メロスの速さを調べよう

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

① 具体物や半具体物を用いた活動を通して，直観的，論理的に思考しながら，数や形，量の面白さや不思議さに気付き，自分なりの考えを見い出すことができる。（創造性）

② 具体物や半具体物を用いて，友達と話し合ったり一緒に活動したりして，他者と共に考えを出し合い，仲間と共に考えることを楽しむことができる。（協働性）

③ 具体物や半具体物を用いた活動を通して，数や形，量に親しみながら，自己の伸びを実感することができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ数楽のちえ】

① ものの個数を数えるなどの活動を通して，事象を数理的にとらえることのよさに気付き，友達と話し合ったり一緒に活動したりして数の意味や表し方について理解しようとする。

② ものの大きさを比較するなどの活動を通して，量を身の回りの幾つ分かで表すことのよさに気付き，友達と長さや面積，体積を比べて量についての理解の基礎を豊かにしようとする。

③ ものの形についての観察や構成などの活動を通して，形に着目した身の回りの事象の特徴に気付き，友達と形の特徴を話し合うなどして，図形について理解の基礎を豊かにしようとする。

【Ｂはっそう】

④ 簡単なパズルを解くなどの活動を通して，直観をもとに課題を解決することのよさに気付き，友達とアイデアを出し合うなどして，問題を完成させようとする。

⑤ 身近な標識などの形を見つけ，その形が使われている理由を考える活動を通して，身の回りには生活を豊かにするために形が使われているということに気付き，友達と身の回りの形を見つけるなどして，生活を豊かにするための形の工夫を考えようとする。

【Ｃちょうせん】

⑥ 学校に咲いた花の数を表に表して分類整理するなどの活動を通して，情報を分類整理することのよさに気付き，友達と情報を集めるなどして，見やすいまとめ方を考えようとする。

⑦ 安定してよく回るこまを作るなどなどの活動を通して，つばの高さの条件を変え，試行錯誤することのよさに気付き，友達とグラフに整理しながらこまがよりよく回るための工夫を考えようとする。

〔第２学年〕

(1) 目標

① 具体物や半具体物を用いた活動を通して，直観的，論理的に思考しながら，数理的な処理のよさに気付き，自分なりの考えを見い出すことができる。（創造性）

② 具体物や半具体物を用いた活動を通して，友達と協力してアイデアを出し合ったり，考えを伝え合ったりするなどして，仲間と共に考えることを楽しむことができる。（協働性）

③ 具体物や半具体物を用いた活動を通して，数学的に表現・処理し，それらを振り返り，自己の伸びや考えることの楽しさを実感することができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ数楽のちえ】

① ２位数や３位数の加法や減法，乗法九九の計算を行うなどの活動を通して，事象を数理的に処理することのよさに気付き，友達と話し合ったり問題を出し合ったりして，数の仕組みや計算の仕方などについて理解しようとする。

② 長さやかさを測定したり，比べたりするなどの活動を通して，普遍単位を用いて数値化した表現のよさに気付き，友達と単位のよさについて話し合ったり，長さ比べをしたりして，目的に応じた単位の用い方を理解しようとする。

③ 図形の構成要素に着目して観察や構成する活動を通して，図形の約束や特徴に気付き，友達と形の特徴を話し合うなどして，図形について理解しようとする。

【Ｂはっそう】

④ パズルやクイズなどを解くなどの活動を通して，多面的に見る面白さに気付き，友達とアイデアを出し合うなどして，問題を完成させようとする。

⑤ 形が隠れた模様の中から隠れている形を見つける活動を通して，視点を変えると見える形が違うことに気付き，友達と問題を出し合いながら多様な見方をしようとする。

【Ｃちょうせん】

⑥ 野菜を植える畑作りの活動を通して，情報を分類整理することのよさに気付き，友達と表に整理して，野菜の種類に合った畑の作り方を考えようとする。

⑦ 畑に植えた野菜の生長をグラフに整理するなどの活動を通して，情報を整理しグラフに表すことのよさに気付き，友達と情報を集めるなどして，見やすいまとめ方を判断し，表現しようとする。

〔第３学年〕

(1) 目標

① 身の回りの問題解決に数や形を活用するなどの活動を通して，小数や分数，平面図形について理解し，直観をもとに推論したり，論理的に推論したりしながら，問題解決することができる。（創造性）

② 友達と問題を出し合ったり，アイデアを出し合ったりしながら，友達に自分の考えを伝えたり，友達の考えを聴いたりすることを通して，協力して身の回りの問題を解決することができる。（協働性）

③ 半具体物を用いた活動を通して，数学的に物事を表現・処理し，その活動を振り返ることによって，数や形の面白さに気付くとともに，自己の伸びを実感することができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ数楽のちえ】

① 乗法の計算や簡単な除法の計算を行うなどの活動を通して，数理的に処理することのよさに気付き，友達と問題を出し合うなどして数の意味や表し方の理解を深めようとする。

② 長さや重さの測定をするなどの活動を通して，量を数値化することのよさに気付き，友達と長さや重さを比べるなどして量についての理解を深めようとする。

③ ものの形についての観察や構成などの活動を通して，辺の長さや角度に着目した図形の特徴に気付き，友達と形の特徴を話し合うなどして，図形について理解を深めようとする。

【Ｂはっそう】

④ 計算のきまりを用いて効率よく計算を行うなどの活動を通して，直観をもとにきまりを適用することのよさに気付き，友達とアイデアを出し合うなどして，効率よく計算しようとする。

⑤ 三角形の強さを活かしたものを作るなどの活動を通して，生活を豊かにするための形の工夫に気付き，友達と形の特徴を話し合うなどして，生活を豊かにする形の工夫を考えようとする。

【Ｃちょうせん】

⑥ 給食の残菜量をグラフに表すなどの活動を通して，整理した情報を生活に活かすことのよさに気付き，友達と協力してより多くの情報を集めるなどして，整理の仕方を考えようとする。

⑦ 角度とボールの飛び方をグラフに表すなどの活動を通して，角度が変わるとボールの飛び方も変わることに気付き，友達と角度とボールの飛び方の関連を話し合うなどして，よりボールが飛ぶ方法を考えようとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

① 小数や分数の計算の仕方を考えたり，図形の面積の求め方を考えたりする活動を通して，数を処理したり形の広さについて考えることの楽しさに気付いたり，直観をもとに推論しながら問題を解決することのよさに気付いたりすることができる。（創造性）

② 身の回りの問題解決に数や形を活用するなどの活動を通して，友達とアイデアを出し合ったりするなどして，問題解決に役立てようとすることができる。（協働性）

③ 半具体物を用いた活動を通して，数学的に物事を表現・処理し，その活動を振り返ることによって，自己の伸びを実感することができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ数楽のちえ】

① 小数の計算や分数の計算を行うなどの活動を通して，数理的に処理することのよさに気付き，友達と問題を出し合うなどして，数の意味や表し方の理解を深めようとする。

② 図形の面積を求めるなどの活動を通して，広さを数値化することのよさに気付き，友達と広さを比べるなどして量についての理解を深めようとする。

③ 図形の構成要素に着目して観察や構成するなどの活動を通して，辺の平行や垂直の関係に気付き，友達と形の特徴を話し合うなどして，図形についての理解を深めようとする。

【Ｂはっそう】

④ 紙を折り曲げたときの厚さを考えるなどの活動を通して，直観をもとに計算の便利さに気付き，友達とアイデアを出し合うなどして，紙を折ったときの厚さを計算で求めようとする。

⑤ 斜めに立つ立体の展開図をつくるなどの活動を通して，形の不思議さに気付き，友達と展開図のつくり方を話し合うなどして，面白い立体の展開図を考えようとする。

【Ｃちょうせん】

⑥ 時間と気温の変化を折れ線グラフに表すなどの活動を通して，２つの観点から分類整理するよさに気付き，友達と特徴や傾向について話し合うなどして，考察の仕方を考えようとする。

⑦ 目的に応じてデータを集めて分類整理するなどの活動を通して，データの特徴や傾向に応じて適切なグラフがあることに気付き，友達のグラフと比べるなどして，問題解決に適切なグラフを選択して判断しようとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

① 分数や小数の計算を確実に行ったり，図形の面積や体積を求めたりするなどの活動を通して，数や形の処理について直観をもとに推論したり，論理的に推論したりしながら，主体的に問題を解決することができる。（創造性）

② 友達のアイデアを自分に取り入れたり，自分の考えを友達に根拠とともに伝えたりして，友達と協力しながら効率的に問題を解決することができる。（協働性）

③ 抽象的に数や形を処理する活動を通して，数学的に物事を表現・処理し，その活動や活動を通した学びを振り返ることによって，自己の伸びや考えることの楽しさを実感し，次の目標を設定することができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ数楽のちえ】

① 小数の計算や分数の計算を行うなどの活動を通して，整数以外の数を処理することのよさに気付き，友達と計算の仕方を話し合うなどして小数や分数の表し方の理解を深めようとする。

② 図形の面積や体積を測定するなどの活動を通して，広さやかさを数値化することのよさに気付き，友達と広さやかさを比べるなどして面積や体積についての理解を深めようとする。

③ 多角形をつくったりするなどの活動を通して，図形の辺の数を増やしたときの特徴に気付き，友達と形の特徴を話し合うなどして，辺の数を増やしたときのきまりを見つけようようとする。

【Ｂはっそう】

④ 公式では見つけられないものの体積を求めるなどの活動を通して，直観をもとにすれば体積が求められることに気付き，友達とアイデアを出し合うなどして，体積を求めようとする。

⑤ 買い物を行うなどの活動を通して，生活を豊かにするための数の活用方法に気付き，友達と割引後の値段を話し合うなどして，よりお得に買い物をするための方法を考えようとする。

【Ｃちょうせん】

⑥ 調べた結果を円グラフに表すなどの活動を通して，情報をグラフ化することのよさに気付き，友達と協力してグラフを作成するなどして，見やすいグラフの描き方を考えようとする。

⑦ ボールの弾み方をグラフに表すなどの活動を通して，処理されたデータを問題解決に活かすことができることに気付き，友達とボールの種類と弾み方との関連を話し合うなどして，より弾むボールを見つけようとする。

〔第６学年〕

(1) 目標

① 分数や文字式の計算について考えたり，図形の求積をしたりするなどの活動を通して，直観をもとに推論したり，論理的に推論したりしながら，問題解決することができる。（創造性）

② 友達のアイデアを自分に取り入れたり，自分の考えの根拠を明確にして友達に伝えたりして，友達と協力しながら効率的に問題を解決しようとする。（協働性）

③ 抽象的に数や形を処理する活動を通して，数学的に物事を表現・処理し，活動を振り返ったり，未来のことを考えたりすることによって，自己の伸びや考えることの楽しさを実感し，さらなる目標を設定することができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ数楽のちえ】

① 分数の乗法，除法の計算を行うなどの活動を通して，四則計算のよさに気付き，友達と計算の仕方を話し合うなどして，四則計算の理解を深めようとする。

② 図形の面積や体積を測定するなどの活動を通して，曲線で囲まれた図形でも工夫して測定できることに気付き，友達と求積方法を話し合うなどして，求積について理解を深めようとする。

③ 図形を拡大，縮小するなどの活動を通して，日常生活に活かせることに気付き，友達と作図の仕方などについて話し合うなどして，図形の理解を深めようとする。

【Ｂはっそう】

④ じゃんけんが４種類だったらどうなるのかを確かめるなどの活動を通して，じゃんけんが３種類である不思議さに気付き，３種類でないときの感想を友達と出し合うなどして，じゃんけんが３種類である理由を考えようとする。

⑤ 様々な脳クイズを解く活動を通して，脳クイズの仕組みに気付き，仕組みをもとにオリジナルの脳クイズをつくったり，友達と一緒に解き合ったりしようとする。

【Ｃちょうせん】

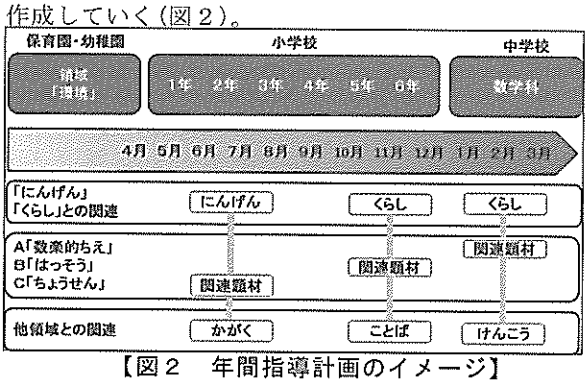
⑥ スポーツテストの結果を度数分布表に表すなどの活動を通して，データの特徴をとらえられるグラフ化のよさに気付き，調べた結果を友達と比べるなどして，結果を分析しようとする。

⑦ 写真撮影の並び方を調べるなどの活動を通して，落ちや重なりなく調べる必要性に気付き，友達と落ちや重なりなく調べる方法について話し合うなどして，起こりうる場合を順序よく整理するための方法を見つけようとする。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

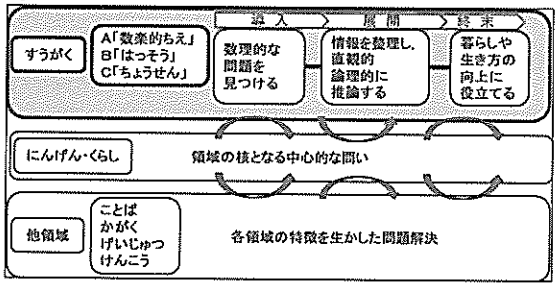
年間指導計画作成にあたっては，本校の全体計画に基づき，領域「すうがく」においては，子供たちの暮らしや生き方と関連させながら問いを見い出していく必要がある。そのために，特に関連題材においては，領域「くらし」や領域「にんげん」を中核として，他領域の特質を活かした関連が行えるようにする。さらに，生活場面に潜む数や形を見い出し，事象を数理的にとらえ，問題を他者とともに解決していく学びを子供たちの実態と発達段階に即して出合わせるようにする。そのために，保・幼・小・中の連携の視点から，保育園・幼稚園における「環境」の学びとの適切な接続と，中学校数学科との系統をもとに年間指導計画を作成していく(図２)。



【図２　年間指導計画のイメージ】

(2)　題材計画についての考え方

題材計画については，子供たちが自分たちの暮らしや自己の生き方について考える中で見い出した数理的な「問い」をもとに，情報を整理し，直観的・論理的に推論できるような内容が題材の中に組み込まれる必要がある。この一連の学びのプロセスを子供自らが展開することができるように，学習の段階を三段階に分けて学習を仕組んでいく。「導入」段階では，自分たちの暮らしや生き方をよりよくしていこうとする中で個々に数理的な課題を見つけられるようにする。「展開」段階では，見出した課題を「直観的」「論理的」に推論し，自分なりの方法で課題を解決していく。「終末」段階では，領域「すうがく」で解決した課題を領域「くらし」や「にんげん」に返し，自らの暮らしや生き方がよりよくなったことを実感できるようにする。そうすることによって子供主体の探究が充実すると考える。



【図３　題材での学びのプロセス】

6　指導計画の作成と学習指導

(1)　「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は単独題材と関連題材の２つによって成り立っている。この単独題材と関連題材とを学年の実態に応じて計画的・効果的に配置し，子供たちの主体的な学びへと導くことができるようにする。

(2)　「内容」を学ぶための学習指導について

「導入」段階における問題設定では，２頁に述べた内容構成を踏まえて，「どのような対象と関わるか」「どのような学びがある内容か」という視点で行っていくことが求められる。そのためには，子供たちの暮らしや生き方をよりよくすることができるような学習であることが大切である。「展開」段階では，子供たちの自由な発想を大切にすることが求められる。そのためには，友達と協力しての問題解決を取り入れたり，必要に応じて追究活動を見直し，修正する活動を取り入れたりする必要がある。「終末」段階では，「すうがく」によって学んだことのよさを実感させることが求められる。そのためには，領域「くらし」や「にんげん」において自分たちの暮らしや生き方がどのようによくなったのか，そこに領域「すうがく」の学びがどのように役立ったのかを振り返る活動を設定することが必要である。

【表３　学習指導の視点】

学習場面	学習指導の視点
導入	○子供の暮らしや生活に沿っているか ○学ぶ価値のある内容か
展開	○友達と協力して取り組む活動の設定 ○活動を見直し，修正する活動の設定
終末	○自分の暮らしや生き方を振り返り，よくなったことを実感する活動の設定

(3)　「学習の評価」について

自ら問いを見い出し，情報を整理し，直観的，論理的に推論していく活動を通して育成を目指す資質・能力を次のように評価していく。

【表４　評価場面と評価方法】

創造性	展開・終末の表現物，討論の場面 ○表現物の記述 ○討論における発言
協働性	展開の探究的な課題解決の場面 ○他者の理解を見るポートフォリオ ○話合いや追究活動中の子供の発言
向上性	導入の課題設定と終末の振り返りの場面 ○自分への気付きを見るポートフォリオ ○マイタイムノート

参考文献
文部科学省『幼稚園指導要領解説』文部科学省，2008
市川伸一『考えることの科学』中央公論社，1997
木村健太郎『はっそうはロジックから生まれる』宣伝会議2013

領域「すうがく」年間指導計画

| 学年 | 学期 / 内容区分 | 1学期 | | |

2学期					3学期				
	いろいろな形⑫				どちらが大きいかな？⑮				1年生のまとめ⑯
						マッチ棒　脳パズル⑥	数えてできたよ⑩		
		よく回るこまを作ろう⑪							
60時間					41時間				
					かけ算の秘密を見つけよう⑪	見つけよう　はこのなぞ⑧	はしたの数は表せる？⑥		2年生のまとめ⑩
	どれだけかかるかな？⑨	どんな形がかくれているかな？⑨							
って食べようイ野菜 ⑪							つくって食べようマイ野菜⑤		
67時間					40時間				
	位が大きな計算⑧				1より小さい数の計算⑫		強い形を見つけよう⑨		3年生のまとめ⑩
						ひらめき計算クイズ⑤			
表やグラフに表そう⑥									
56時間					36時間				
			広さを表そう⑮		いろいろな四角形⑨	立体のしくみ⑬			4年生のまとめ⑩
							ピサの斜塔をつくるには⑦		
表や⑫	遠くにボールを投げるには⑭	表やグラフを選んで表そう⑯							
72時間					39時間				
⑦			でこぼこをならそう⑫		ともなって変わる数⑦		広がる図形の世界⑤		6年生に向けて⑲
	お得に買い物しよう⑦							サッカーボールをつくろう⑤	
		円グラフ帯グラフ⑦		よくはずむボールを決めよう⑨					
74時間					35時間				
立体の⑱			拡大・縮小のきまり⑰		美しい図形のひみつ⑨		6年生のまとめ⑧	「すうがく」から「数学」へ⑤	
		じゃんけん3種類のなぞ⑤				引き出そう！脳の力⑨			
	全部で何通り？⑩			学校の地図をつくろう⑫					
74時間					31時間				

小学校学習指導要領(試案)

領域「くらし」編

1　領域新設の経緯

(1) 現代社会から

領域「くらし」は，人間の「くらし」そのものを学ぶ上で設定した領域である。そこで，本領域では，過去もそして未来においても変わらない家族のつながりを基盤とした地域や日本，世界の人々の関わりとともに，変化の激しい現代社会において，持続可能な社会（ESD）や多様性（diversity）などのグローバルな視点から，「日本」という国家としてのアイデンティティを中心に据える。それは，自分の「くらし」の拠り所となる自分が住む国を知ることなくして，世界的な視点は得られないからである。そのため，過去から現在にわたって人間が社会生活を営む上で大切にしてきた「くらし」そのものを学習対象として継承しつつ，今後子供たちが出会うであろう「くらし」のフィールドに沿って学習内容を設定する。このように，領域「くらし」では，子供たちが「くらし」の主体となり，「日本を土台にして世界に貢献する主体をはぐくむ」ことを求める。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「社会共創」が領域「くらし」の学習内容を担っていた。この領域「社会共創」の学習においては，領域目標を「かかわりづくりの活動を通して，自分と社会，環境，文化との関係理解を図り，持続可能な社会に働きかける意思と態度を育む。」とし，内容を「自分と社会」「自分と環境」「自分と文化」の３つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

- ○　経済，民主主義，平和，持続可能性などのESDの対象を内容構成の視点とすることができた。
- ○　自分を取り巻く，社会・環境・文化と関わる人の営みと自分との関係を考えることができた。

しかし，領域「社会共創」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

- ●　内容への依存が高く，子供たちが主体となった領域横断的な探究学習の位置付けが難しい。
- ●　領域の学習の中で育てたい子供の具体的な姿が明確ではなかった。
- ●　低学年の学習内容を見いだしきれなかった。

そこで，成果と課題を踏まえ，保・幼，小，中の連携をもとに，６カ年の系統を見据えながら，より領域横断的な学習の中で，目指す子供の姿が具体的になるように新たな学習を創ることができるようにした。これらのことから領域「くらし」を設定することとなった。

2　目標

日常や社会の生活における問題を見出し，解決に向けて参画する活動を通して，日本を土台に世界に貢献する主体としての自覚や責任を培うための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 生活や社会における問題を見出し，目標や課題を設定し探究する中で自己の考えを明確にして解決に向けて参画することができる。　（創造性）

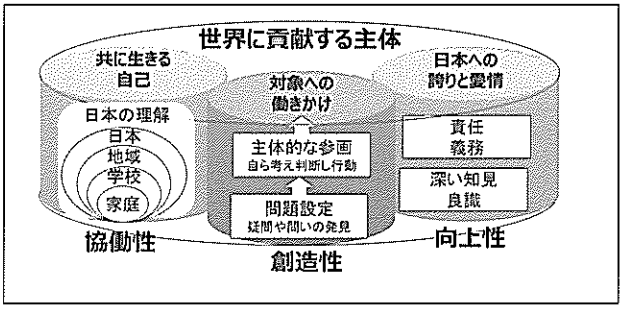
(2) 家族や学校，地域などの日本に住む多様な他者と進んで関わり，世界の人々と共生的に生きることの価値を考えることができる。　（協働性）

(3) 日常や社会の生活における自己の役割や義務に気付き，日本に住む人間として深い知見や良識をもって行動することができる。　（向上性）

(1) 目標の趣旨

「日常や社会の生活における問題を見いだし，解決に向けて参画する活動」とは，「生活や社会に関わる素朴な疑問や問いを発見すること」と「見いだした問題から課題を分析し，その解決に向けて主体的に参画すること」の２つの活動を表す。これは本領域の学習活動の原理を表し，社会生活の主体として具体的な対象への働きかけが必要であることを意味している。「日本を土台に世界に貢献する主体としての自覚や責任を培うことができる」とは，日本に住む人間として，日本国についての深い知見と良識をもって主体的に考え判断し，行動することができる子供の具体的な姿を表すとともに，家庭，地域，日本の中での自分の役割や責任，義務を重んじ，世界に貢献することができる態度を求めている。すなわち，日本を愛し，日本を土台に世界に貢献する主体を育てることは，足元のアイデンティティを確立し，敬い，世界に資する考え方をもった人間を育てることである。これは，領域「くらし」で目指す人格の具体を表している。そのために，日本そのものを学ぶことを重視する。

(2) ３つの資質・能力に関する目標と概念図



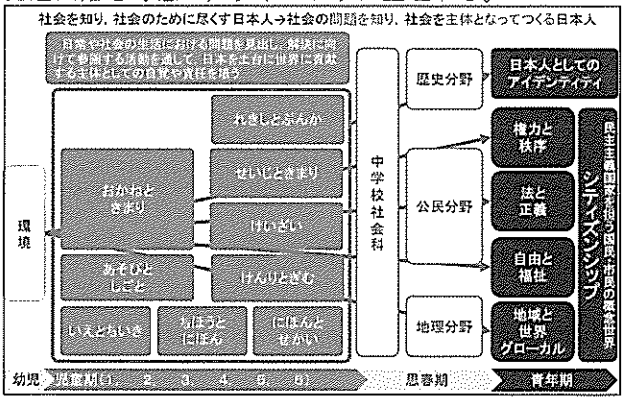
【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

日本に住む人間としてのアイデンティティを育て，世界に貢献する主体を育てていくためには，民主主義国家を担う国民・市民として何が大切なのか学ぶ必要がある。そこで大切にしたいことは，日本を中心に据えながら，学習の中心となる人の営みを重視することである。すなわち，このような学習を行うことによって単に地理や歴史について学ぶよりも，より主体的な問題解決が図れる。これまでの「社会を知り，社会のために尽くす日本人」から「社会の問題を知り，社会を主体となってつくる日本人」としての学びが位置付けられるものであると考える。このような学びを展開していくためにも，特に領域「くらし」の学習においては，現代的課題についての探究や討論などを中心に学習する中で，必要な知識を必要なときに身に付ける主体的な学びであることが大切である。

そこで，このような領域での学びが展開されていくために，次の５つの概念から整理する。それは「歴史と文化」「権力と秩序」「自由と福祉」「法と正義」「地域と世界」である。まず「歴史と文化」は内容としての土台となる部分である。「権力と秩序」とは，政府の権力が市民の秩序ある生活に寄与しているとともに，正も負も考えることである。次に「法と正義」では，法が人々の生活を守ったり，基準をつくったりするとともに，本当の意味での善なる行動は法の縛りではくくれないことを考えることである。さらに，「自由と福祉」では人が自由な意思のもと，自分の思想や信条に従って行動できるとともに，すべての人の公共の福祉のために努める必要があるということを考えることである。最後に，「地域と世界」では，地域性と国際性とのバランスについて考えることである。これらの内容は内容の特質上，価値判断を伴うものであり，子供たち自身が社会の中で生きていく中で必要なバランス感覚や自分の立ち位置をもつことが大切である。そこで，幼稚園（保育園）課程と中学校社会科，前述した民主主義国家を担う国民・市民の概念をもとに小学校段階での発達段階を考慮し，以下のように整理する。



【図２　領域「くらし」の内容の系統性】

(2) 内容構成の具体的視点

上記のことから，具体的には次の３つの視点から考える。まず，「ア日本の歴史」は日本人（日本に住む人間）としてのアイデンティティ形成に関わるものである。「イ日本の社会」では，「おかねときまり」から，「せいじときまり」に発展していく。次に「ウ日本の経済」ではイと同じく，まず「おかねときまり」から，「ほうとただしさ」に発展していく。さらに，「エ日本の人々」では「あそびとしごと」が「けんりとぎむ」に発展していく。「エ日本の地理」では１，２年生は「いえとちいき」，３，４年生は「ちほうとにほん」，５，６年生は「にほんと世界」が内容として位置づけられ，発展していく。

(3) 学習活動や学習対象

ア　日本の歴史

ここでは地域や日本の令嗣や文化そのものが学習対象として位置付けられ，地域や日本としての特色やよさについて考える学習活動が考えられる。

イ　日本の社会

ここでは，地域や国の政治の仕組みや，各家庭や地域におけるきまりなどが学習対象として考えられる。市や県，我が国の政治，国際連合などの人々の平和な生活や安全を守る組織的な仕事，身近な市や県の条例，日本国憲法に基づいて行われる自衛隊の仕事，法と市民との関係など，裁判員制度や18歳投票権，憲法改正などの現代的課題について具体的に探究したり，協働的に実践したりする学習活動を進めることができる。

ウ　日本の経済

身近な生活における金銭の取り扱いから，金融と投資などの私的経済に関わる学習対象や，家庭や地域のお金の使われ方や国家の財政問題などの現代的課題について具体的に探究したり，協働的に実践したりする学習活動を進めることができる。

エ　日本の国民

日本の国民が社会のために自らの意志をもって実践する営みを学習対象とする。遊びと仕事の違いやよさなどの子供たちにとって身近な学習対象が考えられる。さらに，高学年においては，障害者福祉，認知症，介護，貧困問題などに関わる現代的課題なども考えられる。ボランティア，青年海外協力隊，国境なき医師団などの政府の手が及ばない人々を助けるために主体的に働く人々を取り上げる学習活動が期待できる。

オ　日本の地理

自分の住む家や学校，地域などの点のつながりを線として結びつけ，それを世界にまで広げる認知的な空間としての学びを学習対象とする。その中で，日本の自然や町並み，四季，地域の人々が織りなす特色ある暮らしにまで目を向け探究していくことが，この視点における学習活動である。

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

① 生活における問題を見いだし，思いな願いをもって，自分の考えをもって活動し，自分の生活に生かすことができる。（創造性）

② 日常生活における自分の役割に気付き，家庭や学校，地域の一人として進んで行動することができる。（協働性）

③ 家族や学校，地域などの人々と関わり，くらしの中にある対象のよさに気付き，自分の成長を感じることができる。（向上性）

(2) 内容

【ａおかねときまり】

① お金の使い方を体験的に学ぶことを通して，家族から預かったお小遣いを大切に使うことの大切さに気付き，友達と共に扱い方を話し合ったり，家族と相談したりして，無駄遣いせず大切に使おうとする。

② 地域のきまりを体験的に学ぶことを通して，安心して暮らすためのきまりのよさに気付き，友達や家族とともに家庭の約束を話し合ったり，先生や上級生にインタビューしたりして，自分の行動をよりよくしようとする。

③ 昔について体験的に学ぶことを通して，祖父母との話の中で感じたよさに気付き，友達と共に自分の祖父母の子供時代について聞いたことを話し合って，自分の生活に生かそうとする。

【ｂあそびとしごと】

④ 身近にある道具を使った遊びをすることを通して，自分の興味･関心に基づいた遊びのよさに気付き，友達と共に遊びの場や遊ぶ道具について話し合ったり，地域の方々と遊んだりして，自分の生活を楽しくしようとする。

⑤ 動植物の飼育・栽培を通して，動植物の成長に気付き，友達と共に動植物に対する自分の気付きを話し合ったり，地域の方々の話を聞いたりして，自分の生活を充実させようとする。

⑥ 家庭における仕事を学ぶことを通して，家族を支える仕事のよさに気付き，友達と共に家族について話し合ったり，家族の話を聞いたりして，自分の生活に生かそうとする。

【ｃいえとちいき】

⑦ 身近な家や地域を調べることを通して，家や地域のよさに気付き，友達と共にお気に入りの場所を話し合ったり，地域の方々と関わったりして，自分の生活を楽しくしようとする。

〔第２学年〕

(1) 目標

① 生活における問題を見いだし，思いな願いをもって，自分なりの考えをもって活動し，自分の生活に生かすことができる。（創造性）

② 日常生活における自分の役割に気付き，家庭や学校，地域の一人として自分にできることを進んで行動することができる。（協働性）

③ 家族や学校，地域などの人々と進んで関わり，くらしの中にある対象のよさに気付き，自分の成長を実感することができる。（向上性）

(2) 内容

【ａおかねときまり】

① 地域の法律や正しさについて学ぶことを通して，家族から預かったお小遣いやお年玉を大切に使うことの大切さに気付き，友達と共に扱い方を話し合ったり，家族と相談したりして，大切に使うための計画を立てようとする。

② 地域のきまりを体験的に学ぶことを通して，安心して暮らすためのきまりのよさに気付き，友達と共に公共物や公共施設の利用の仕方を話し合ったり，地域の人にインタビューしたりして，自分の行動をよりよくしようとする。

③ 昔について体験的に学ぶことを通して，地域の高齢者との話の中で感じたよさに気付き，友達と共に地域の高齢者の思い出をインタビューして，自分の生活を豊かにしようとする。

【ｂあそびとしごと】

④ 季節や自然物を使った遊びや遊びを創り出すことを通して，自分の工夫した遊びのよさに気付き，友達と共に遊びの場や遊ぶ道具について話し合ったり，地域の方々と遊んだりして，自分の生活を豊かにしようとする。

⑤ 動植物の飼育・栽培を通して，動植物とともに成長した自分のよさに気付き，友達と共に動植物に対する自分の気付きについて話し合ったり，地域の方々の話を聞いたりして，自分の生活を豊かに充実させようとする。

⑥ 家庭や地域の仕事を学ぶことを通して，家族や地域を支える仕事のよさに気付き，友達と共に家族や地域で働いている方々の話を聞いたりして，自分の生活に生かそうとする。

【ｃいえとちいき】

⑦ 身近な家や地域を調べることを通して，家や地域のよさに気付き，友達と共にお気に入りの場所を話し合ったり，地域の方々と関わったりして，自分の生活を楽しくしようとする。

〔第３学年〕

(1) 目標

① 地域社会における問題を見いだし，目標や課題を設定し探究する中で自己の考えを明確にして活動することができる。（創造性）

② 地域社会の生活における自己の役割や義務に気付き，地域に住む人間として郷土への愛着をもって行動することができる。（協働性）

③ 地域に住む他者と進んで関わり，人々と共生的に生きることの価値を考えることができる。（向上性）

(2) 内容

【ａおかねときまり】

① お金の仕組みを学ぶことを通して，お金の価値や信用に気付き，地域の銀行やものを売るお店などを取材して，お金の使われ方や流れをもとに社会生活を豊かにようにしようとする。

② 市町村役所の仕事や条例を学ぶことを通して，地域の人々が安全に生活するためのきまりのよさに気付き，地域や役所の方々と共に仕事についてインタビューして，地域生活を営む自分の行動をよりよくしようとする。

③ 地域に伝わる伝統行事を体験的に学ぶことを通して，行事に対する古くからの願いや思いのよさに気付き，仲間と共に地域の伝統を守る人々に話を聞いたことについて話し合い，地域にある伝統やしきたりを守り，自分のこれからの社会生活に生かそうとする。

【ｂあそびとしごと】

④ 季節とともに変わる人々のくらしや時代における道具の変化について学ぶことを通して，日本の四季の変化，時代に合わせた人々の暮らしの知恵に気付き，仲間と共に調べたことについて話し合ったり，地域の方々と関わったりして，自分の社会生活をより豊かにしようとする。

⑤ 農家や工場の仕事について学ぶことを通して，動植物の成長や人々の食生活を支える人々の存在に気付き，調べたことについて話し合い，自分の社会生活を充実させようとする。

⑥ 地域の住民が主体となった活動を体験的に学ぶことを通して，地域を支えるはたらきのよさに気付き，仲間と共に地域のためにできることについて話し合ったり，地域の方々の話を聞いたりして，自分の社会生活に生かそうとする。

【ｃちほうとにほん】

⑦ 市や県の様子を調べることを通して，地域と地域を比べたり，仲間と共に関係について話し合ったりする中で，日本における自分の地域の特色を見いだそうとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

① 地域社会における問題を見いだし，課題を設定し探究する中で自己の考えを明確にして解決のために参画することができる。（創造性）

② 地域社会の生活における自己の役割や義務に気付き，地域に住む人間として郷土への愛着をもって行動することができる。（協働性）

③ 地域の多様な他者と進んで関わり，人々と共生的に生きることの価値を考え，地域の主体者としての意識をもつことができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａれきしとぶんか】

① 地域の発展に努めた先人を体験的に学ぶことを通して，その努力に気付き，仲間と共に協力して探究して，地域に生きる自分の生き方を見つめようとする。

【Ｂせいじときまり】

② 地方自治を学ぶことを通して，事件や事故，災害への地域相互の対応の大切さに気付き，仲間と共に協力して探究して，自分が地域のためにできることを考えようとする。

③ 市や県の条例を学ぶことを通して，よさに気付き，仲間と共に地域の担当者の方々に取材して，自分の生活をより豊かにしようとする。

【Ｃけいざい】

④ 金融や投資を学ぶことを通して，物資の流通や必要な貯蓄や運用の大切さに気付き，仲間と共に協力して探究して，自分の社会生活をより豊かにしようとする。

【Ｄけんりとぎむ】

⑤ 高齢者や障害者などへの地域の福祉を学ぶことを通して，それらの人々と共に生きることの大切さに気付き，仲間と共にできることについて話し合ったり，支えている方々の話を聞いたりして，自分の生活に生かそうとする。

⑥ 生活保護を学ぶことを通して，それらの人々と共に生きることの大切さに気付き，仲間と共に話し合ったり，支える方々の話を聞いたりして，自分の生活に生かそうとする。

【Ｅちほうとにほん】

⑦ 日本の国土を学ぶことを通して，それぞれの地方の特色に気付き，気候や地形を生かした人々の様子や行政区分などについて協力して探究して，国土のすばらしさをもっと知ろうとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

① 現代社会における問題を見いだし，課題を設定し探究する中で自己の考えを明確にして解決に向けて参画することができる。 （創造性）

② 社会の生活における自己の役割や義務に気付き，日本に住む人間として深い知見や良識をもって行動することができる。 （協働性）

③ 日本に住む多様な他者と進んで関わり，世界の人々と共生的に生きることの価値を考えることができる。 （向上性）

(2) 内容

【Ａれきしとぶんか】

① 日本の発展に努めた先人の営みやこれまで育まれた文化を学ぶことを通して，その努力に気付き，仲間と共に協力して探究して，歴史や文化をもとに社会生活を豊かにしようとする。

【Ｂせいじときまり】

② 我が国の法律と法律の成立までを学ぶことを通して，そのよさと必要性に気付き，法をつくったり，守ることをうながしたりする方々に取材して，自分の生活をより豊かにしようとする。

【Ｃけいざい】

③ 我が国の産業について学ぶことを通して，様々な産業と国際的な物流や地域性の大切さに気付き，仲間と共に協力して探究して，自分の社会生活をより豊かにしようとする。

④ 情報の活用を学ぶことを通して，情報の受信とともに発信の責任の大切さに気付き，仲間と共に協力して探究して，情報とのよりよい関わりをつくろうとする。

【Ｄけんりとぎむ】

⑤ 国民への福祉を学ぶことを通して，共に生きることや制度の大切さに気付き，仲間と共に話し合ったり，支えている方々の話を聞いたりして，自分の生活に生かそうとする。

⑥ 世界中にある貧困を学ぶことを通して，それらに自分たちも関わりがあることに気付き，仲間と共に話し合ったり，支える方々の話を聞いたりして，自分の生活を変えようとする。

【Ｅにほんとせかい】

⑦ 我が国の国土を学ぶことを通して，国の範囲や隣接する諸外国との関わりの大切さに気付き，仲間と共に探究的な活動を通して，我が国の在り方について考えようとする。

〔第６学年〕

(1) 目標

① 現代社会における問題を見いだし，課題を設定し探究する中で自己の考えを明確にして解決に向けて参画することができる。 （創造性）

② 社会の生活における自己の役割や義務に気付き，日本に住む人間として深い知見や良識をもって行動することができる。 （協働性）

③ 日本に住む多様な他者と進んで関わり，世界の人々と共生的に生きることの価値を考えることができる。 （向上性）

(2) 内容

【Ａれきしとぶんか】

① 我が国の歴史について学ぶことを通して，権力の移り変わりや経済の変遷に気付き，仲間と共に協力して探究して，歴史や文化をもとに社会生活をより豊かにしようとする。

【Ｂせいじときまり】

② 我が国の政治と民主主義について学ぶことを通して，民主的に考えをまとめる大切さに気付き，仲間と共に協力して探究して，未来の有権者の一人として，自分の考えをもとうとする。

③ 日本国憲法や法の課題について学ぶことを通して，裁判員制度や18歳投票，憲法改正などの論議の大切さに気付き，仲間と共に考え方の違いを話し合い，その価値を考えようとする。

【Ｃけいざい】

④ 我が国の新たな産業を学ぶことを通して，地域の産業と国際的な物流や地域性の大切さに気付き，仲間と共に協力して探究して，自分の社会生活をより豊かにしようとする。

【Ｄけんりとぎむ】

⑤ ユニセフやユネスコの活動を学ぶことを通して，世界中の人々と共に生きることの大切さに気付き，仲間と共にできることを話し合ったり，働いている方々の話を聞いたりして，自分の生活に生かそうとする。

⑥ 民族や宗教に関わる人権を学ぶことを通して，多様な考え方への寛容さに気付き，仲間と共に話し合い，自分の生活に生かそうとする。

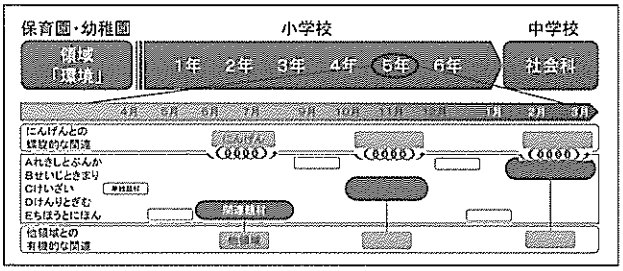
【Ｅにほんとせかい】

⑦ 国際情勢について学ぶことを通して，各国の特色に気付き，気候や地形を生かした人々の様子や信仰や宗教などについて協力して探究して，各国のすばらしさをもっと知ろうとする。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

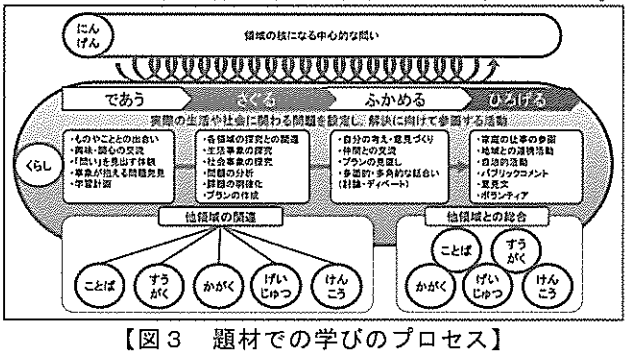
年間指導計画作成にあたっては，本校の全体計画に基づき，領域「くらし」においては，子供たちの生きていく上での実際の対象に働きかけ得るものにしていく必要がある。そのために，特に関連題材においては領域「にんげん」と螺旋的な関連を図り，他領域とは有機的な関連が行えるようにする。さらに，総合的かつ領域横断的に様々な生活事象や社会事象に関わる多様な人々との学びを，子供たちの実態と発達段階に即して出合わせるようにする。そのために，保・幼・小・中の連携の視点から，保育園・幼稚園における「環境」の学びとの適切な接続と，中学校社会科との系統をもとに年間指導計画を作成していく（図２）。



【図２　年間指導計画のイメージ】

(2) 題材計画についての考え方

題材計画については，子供たちの「くらし」の中で発見した様々な「問い」をもとに，予想や見通しに沿った探究，そして，実際の生活や社会に参画することが題材の中に組み込まれる必要がある。この一連の学びのプロセスを子供自身が展開することができるように，４つの段階で学習を仕組む。「であう」段階では，ものやこととの出合いから個々の「問い」をもとにした問題設定をもとに学習計画をつくらせるようにする。「さぐる」段階では，子供たちの問題意識を解決する探究が他領域と有機的に関連しながら，問題を分析し，深く調べることで課題を明確化させ，自分たちの問題を解決する。「ふかめる」段階では，仲間との交流や互いの評価活動を通して，プランを見直したり，立場の違う他者と討論したりするようにする。「ひろげる」段階では，実現可能なプランをもとに主体的に生活や社会に参画することができるようにする。そうすることによって子供主体の探究が充実すると考えられる。



【図３　題材での学びのプロセス】

6　指導計画の作成と学習指導

(1)「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は単独題材と関連題材の２つによって成り立っている。学年前半は単独題材による領域内関連を行い，学年後半は領域間関連によって他領域との関連も位置付け，主体的な学びへと導くことができるようにする。

(2)「内容」を学ぶための問題設定について

２頁に述べた内容構成を踏まえて，どのような対象と関わり，どのような価値ある問題設定であるかということが求められる。そのためには，①素朴な「問い」を大切にし，問題に対して様々な視点から学習できること，②問いに対する知識を自分の中で成長させ構造的にすることで概念化できること，③問題に対して一つの決まった答えを求めるのではなく多面的・多角的に価値判断できることなどが求められる。

【表３　問題設定の例】

問題設定	学習場面での「問い」の例
素朴な「問い」	いつ野菜の花が咲くのだろう。 いつ我が国の政治は民主的になったのだろう。
	どこで遊ぶともっと楽しくなるのだろう。 どこで地域の方々はパトロールしているんだろう。
	誰がわたしの家の家訓を決めたのだろう。 誰がわたしたちのくらしの安全を守ってくれているのだろう。
	手伝いをするときには何ができるのだろう。
構造化する「問い」	どのようにして地域の高齢者の方々は生き生きと生活しているのだろう。
	なぜ人を救うはずの宗教が戦争の原因になってしまうのだろう。
価値判断する「問い」	いかにしたら，国の安全保障を充実させることができるか
	どちらにしたら，支援はうまくいくのだろうか。

(3)「学習の評価」について

日常や社会の生活における問題を見いだし，解決に向けて参画する活動を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示した内容として次のように評価していく。

【表４　評価場面と評価方法】

創造性	展開・終末の作品や表現物，討論の場面 ○パフォーマンス課題への取組（作品や表現物） ○発言やポートフォリオ
協働性	展開の探究的な課題解決の場面 ○ボード ○ポートフォリオ
向上性	導入の課題設定と終末の振り返りの場面 ○ボード　○ポートフォリオ ○マイタイムノート

参考文献

竹村牧男ほか編『共生のかたち』誠信書房，2006.
山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書 2004.
佐々木紀彦「日本3.0―2020年の人生戦略―」2017.

領域「くらし」年間指導計画

学年	学期 / 内容区分								
		1学期							
第1学年	a おかねときまり	しょうがっこうってどんな ところ？③					めざせおてつだいめいじん⑥		
	b あそびとしごと		のりもの だいすき⑤						あら
	c いえとちいき				こうえんに いってみたら⑧				
年間時数（61時間）		16時間							
第2学年	a おかねときまり				みんなの えがおを はこんで⑮				
	b あそびとしごと						うごくおもちゃであそぼう⑧		
	c いえとちいき	ぼく・わたしのとう人町しょう店がい⑬							ぼく・とう人町しいきいきプ
年間時数（94時間）		28時間							
第3学年	a おかねときまり						スーパーの中の世界⑤		
	b あそびとしごと				地いきの特色ある仕事のうつり変わり⑭				つくろう わ
	c ちほうとにほん	たんけん，はっけん！福岡⑭～調べよう！福岡市の様子～							唐人町商店街元気よく⑧
年間時数（94時間）		28時間							
第4学年	A れきしとぶんか				私たちのくらす福岡県⑨				
	B せいじときまり								だ
	C けいざい		お金の仕組み⑨						
	D けんりとぎむ	だれもが住みよい町に⑩～市役所の町づくりから～					だれもが住みよい町に㉔～生活を支える仕事～		
	E ちほうとにほん								
年間時数（94時間）		28時間							
第5学年	A れきしとぶんか								
	B せいじときまり								環境から考える⑥
	C けいざい	わが国を支える食料生産⑫					わが国を支える工業生産⑧		
	D けんりとぎむ								
	E にほんとせかい				どうする？わが国の領土問題⑯				
年間時数（94時間）		28時間							
第6学年	A れきしとぶんか	歴史を創った日本人と世界遺産の魅力⑳							
	B せいじときまり								
	C けいざい								日本と世界エネルギー
	D けんりとぎむ						わが国の憲法⑩		
	E にほんとせかい								
年間時数（91時間）		28時間							

2学期	3学期
つあそびたい⑮ / あんしん　あんぜん 小学校④	こころ つなぐ あらつあそびたい⑳
25時間	20時間
つくって　食べよう　マイやさい㉕(⑳と⑤)	見たい！知りたい！やってみたい！ ～われら　おしごと　ちょうさたい～⑳
わたしの ょう店がい ロジェクト⑬	
41時間	25時間
	地いきのせい治⑬
たしたちの小さな森㉕ / 地いきの 安全な生活③	
を	受けつぐ博多の伝統と未来⑫
41時間	25時間
れもが住みよい町に㉑ ～福祉の視点から～	だれもが住みやすい町に⑦ ～互いに支え合う仕組み～
	みんなとともに生きる⑱
アジアへの 玄関口福岡⑥	
41時間	25時間
	すごいよ！日本！㉕ ～増やそう　インバウンド～
情報の中で 生きる⑦	
どうする？食料問題⑳	
41時間	25時間
市民のくらしを 守るために⑯ ～九州北部豪雨の 市民と行政の働き～	
の⑫	
18歳まであと 6年⑬ ～選挙権を考える～	これからの幸せな国のかたち⑰
	ユニセフとユネスコ④
41時間	21時間

小学校学習指導要領(試案)
領域「げいじゅつ」編

1　領域新設の経緯

(1) 現代社会から

領域「げいじゅつ」は，自然や生活，文化に存在する多様なひと・もの・ことの美との関わり方について学ぶ上で設定した領域である。そこで，本領域では，予測不可能な変化の激しい時代となると予想されているこれからの未来を生き抜いていくために必要となる，正しい方向性や価値あるものを見いだしていこうとする態度や能力の育成を図ることができる芸術表現を中心に据える。それは，創造的な想像力を発揮する芸術表現が，新たな発想を生みだす力や柔軟性がこれまで以上に求められる社会では大変重要となってくるからである。そのため，従来の教科等の枠にとらわれずに，よりよい表現をつくりだすことに向かって活動を連続・発展させることのできる学習内容を設定する。このように，領域「げいじゅつ」では，子供たちが自然や生活，文化にある美しいものを美しいと感じることができる豊かな感性をもち，感じたことをもとに自分の表現をつくりだし，自分を表現しながら主体的に社会に関わることができる人間となっていくことができるような資質・能力を育成することを求める。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「表現」が領域「げいじゅつ」の学習内容を担っていた。この領域「表現」の学習においては，領域目標を「感性を働かせながら，美を感じたり表したりする活動を通して，自分の表現をつくりだす力を高め，豊かな美的情操を養う。」とし，内容を「造形」「音楽」「複合」の３つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

○　飽くなき表現欲求に基づいて，子供自らが表現と鑑賞を連続・発展させることができた。
○　自分が感じたことをもとに，自己の表現を主体的につくりだすことができた。

しかし，領域「表現」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

●　従来の図画工作科や音楽科において大切にされてきた子供の造形的な学びや音楽的な学びが，子供の課題の追究にどのように関連しているのか，十分に明確にすることができなかった。

そこで，成果と課題を踏まえ，子供自らが見いだした課題を追究していく中で，造形や音楽を中心とした芸術表現に関する学びを活かすことができるように，領域「げいじゅつ」を設定することとなった。

2　目標

感性を働かせ，ひと・もの・ことから美を感じたり，イメージしたことを造形や音楽を中心に表現したりする活動を通して，生活や社会の中の美と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 諸感覚を働かせながら表現素材に関わり，よさや美しさを感じ取るとともに，造形や音楽による表現に関する知識・技能を習得・活用しながら，表現をつくりだすことができる。　（創造性）

(2) 他者の表現のよさや美しさを，表現素材の特徴を通して，肯定的に感じ取ったり感じたことを伝えたりしようとすることができる。　（協働性）

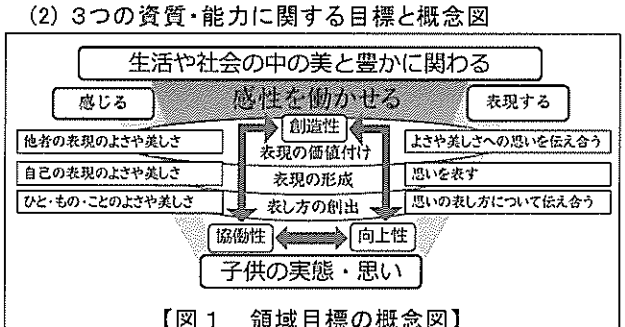
(3) 自分が感じたことや思い浮かべたイメージ，表したい思いや意図を明確にしながら，自分の表現や対象の価値を見いだすことができる。　（向上性）

(1) 目標の趣旨

「感性を働かせ，ひと・もの・ことから美を感じたり，イメージしたことを造形や音楽を中心に表現したりする活動」とは，「自然や生活，文化に関わるひと・もの・ことから面白さや楽しさ，よさや美しさを感じとること」と「自分がイメージしたことを造形や音楽を中心に芸術表現で主体的に表すこと」の２つの活動を表す。これは，本領域の学習活動の原理を表し，自らが感じたことを表現することで主体的に社会に関わることが必要であることを意味している。

「生活や社会の中の美と豊かに関わる」とは，諸感覚を働かせながら身の回りのひと・もの・ことに関わり，よさや美しさを感じ取るとともに，造形や音楽による表現に関する知識・技能を習得・活用しながら自分の思いや意図の表し方，表現の目的について考え，表現をつくりだすことができる子供の具体的な姿を表している。これは，領域「げいじゅつ」で目指す人格の具体を表している。そのためには，多様な芸術表現にふれ，自分なりに美を感じ取り，自分の内面に生じたイメージを表していく活動の積み重ねが必要である。

(2) ３つの資質・能力に関する目標と概念図



【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

生活，文化にある美しいものを美しいと感じることができる豊かな感性をもち，感じたことをもとに自分の表現をつくりだし，自分を表現しながら主体的に社会に関わることができる人間を育てていくためには，ひと・もの・ことの特徴や自分が感じたイメージから発想を広げ，表し方を工夫しながら表すこと，芸術作品にふれてよさや美しさを自分なりに感じ取るとともに，他者の感じ方についてもふれ，見方や感じ方，考え方を広げたり深めたりすることが必要である。そこで，領域「げいじゅつ」の内容を，伝える相手を意識しながら表し方を工夫して自分の内面に生じた思いや意図を表現する「ひょうげん」と，様々な価値観や考え方に基づいて表現された作品等にふれて自分なりによさや美しさを感じ取ったり，感じたイメージを他者と伝え合ったりする「かんしょう」から構成していく。

「ひょうげん」では，造形素材への関わりから発想を広げ，造形的な特徴をもとにした表し方を考えて表すことや，音素材への関わりから発想を広げ，音楽的な特徴をもとにした表し方を考えて表すことで，ひと・もの・ことへの関わりから表現をつくりだすことができるようにする。また，生活上あるいはひととの関わりの上で伝えたい思いや意図が生じたときに，それを造形表現や音楽表現を中心に表すことで，内面の伝達に最適な表現をつくりだすことができるようにする。さらに，集団で様々な表し方を組み合わせながら表現することで，多様な思いや意図をもとに一つの表現をつくりだすことのよさを感じ取ったり，表現の広がりや深まりを図ったりすることができるようにする。

「かんしょう」では，発達段階に応じて造形要素や音楽を形づくっている要素を含む芸術作品等にふれることで，諸感覚を働かせながらよさや美しさを感じ取ったり，自分のイメージをもったり，感じたことを他者と伝え合ったりすることができるようにする。

(2) 内容構成の具体的視点

表現には，造形，音楽，身体，言語の４つがある。芸術表現はそれら単体で構成されたり複合的に構成されたりすることでつくりだされる。単体で構成される身体は領域「けんこう」，言語は領域「ことば」の学習内容にあることから，領域「げいじゅつ」では，造形，音楽，複合という３つの表現の視点を重視して内容を構成する。

(3) 学習活動や学習対象

ア　造形

ここでは，空間芸術である美術やデザインなどを中心に取り扱う。例えば，「ひょうげん」では，形，色などの造形要素を含む素材への関わりをもとに，感じたことを造形的な表現活動を中心に表したり，自分の思いや意図を伝えるための造形的な表現をつくりだしたりすることが考えられる。「かんしょう」では，造形的な表現を中心とした芸術作品等にふれてよさや美しさを味わうことが考えられる。

イ　音楽

ここでは，時間芸術である音楽を中心に取り扱う。例えば，「ひょうげん」では，音色，リズムなどの音楽を形づくっている要素を含む素材への関わりをもとに，感じたことを音楽的な表現活動を中心に表したり，自分の思いや意図を伝えるための音楽的な表現をつくりだしたりすることが考えられる。「かんしょう」では，音楽的な表現を中心とした芸術作品等にふれてよさや美しさを味わったりすることが考えられる。

ウ　複合

ここでは，時間芸術や総合芸術である舞台芸術や映像芸術，インスタレーションなどを取り扱う。例えば，「ひょうげん」では，集団での美的な共有体験によって生じた表現への欲求をもとに，造形および音楽的な表現活動が協調・調和した形式で，素材のよさを活かした表し方を見いだし，表現を構成することが考えられる。「かんしょう」では，総合芸術や新興芸術などの芸術作品等にふれてよさや美しさを味わったりすることが考えられる。

(4) 構成要素と階層性

上記の内容構成と視点を活かした要素と学年の系統性について表すと以下のようになる。

【表１　内容構成の例】

	１・２年生	３・４年生	５・６年生
Aひょうげん	○遊び ・色遊び ・形遊び ・音遊び ・童歌遊び ○思いの伝達 ・好きなもの ・好きな音 ・好きなリズム ・感動体験 ・感謝 ○劇的表現 ○合唱・合奏	○空想 ・絵本の世界 ・絵の具の世界 ・森 ・宇宙 ○思いや意図の伝達 ・日本のよさ ・好きな色や形 ・好きな音色 ・自己の成長 ○劇的表現 ○合唱・合奏	○思いや意図の伝達 ・好きな場所 ・好きな時間 ・メッセージ ・四季 ○世界の文化 ・複合表現 ・新興芸術 ・世界の音楽 ・映像 ○劇的表現 ○合唱・合奏
Bかんしょう	○身近なもの ・材料 ・音色やリズム ○季節 ・自然物 ・音楽 ○伝統文化	○空想 ・絵本 ・森 ・宇宙 ○身近にある芸術作品 ○伝統文化	○総合芸術 ・テーマ曲 ・音と映像 ・漫画，アニメ ○世界の芸術作品 ○伝統文化

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

① 造形や音楽による表現に関する知識・技能を習得しながら，表し方をつくりだしたり，芸術作品などの面白さや楽しさを見つけたりすることができる。（創造性）

② 他者との対話活動を通して，つくりだした表し方や芸術作品などの面白さや楽しさに気付き，感じたことを伝え合ったり，自分の表現に活かしたりすることができる。（協働性）

③ 自分の表し方や感じ方の面白さや楽しさに気付き，進んで表現したり感じ取ったりしようとすることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａひょうげん】

ア　造形

身近な自然物や人工物，環境に遊びを通して関わることで生まれた偶然の色や形などの造形要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらの面白さや楽しさを見つけて友達と伝え合ったり，造形素材の特徴を活かして伝えたい思いを表現したりしようとする。

イ　音楽

身近な自然物や人工物，環境に遊びを通して関わることで生まれた偶然の音色やリズムなどの音楽を形づくっている要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらの面白さや楽しさを見つけて友達と伝え合ったり，音素材や楽器，発声の特徴を活かしながら思いを表現したりしようとする。

ウ　複合

友達とともに劇や合唱をつくる活動を通して，動きや声の大きさなどを考えることの面白さや楽しさに気付き，それらを互いに認め合い，よりよい表現をつくりだそうとする。

【Ｂかんしょう】

ア　造形

身近な造形作品や自然物などの面白さや楽しさを感じ取ることを通して，自分の思いに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

イ　音楽

親しみのある曲の面白さや楽しさを感じ取ることを通して，自分の思いに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

ウ　複合

劇的表現の面白さや楽しさを感じ取ることを通して，自分の思いに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

〔第２学年〕

(1) 目標

① 造形や音楽による表現に関する知識・技能を習得しながら，表し方をつくりだしたり，芸術作品などの面白さや楽しさについて自分なりの考えをもったりすることができる。（創造性）

② 他者との対話活動を通して，つくりだした表し方や芸術作品などの面白さや楽しさに気付き，感じたことや考えを伝え合ったり，自分の表現に活かしたりすることができる。（協働性）

③ 自分の表し方や感じ方，自分の考えの面白さや楽しさに気付き，進んで表現したり感じ取ったりしようとすることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａひょうげん】

ア　造形

身近な自然物や人工物，環境に遊びを通して関わることで生まれた偶然の色や形，動きなどの造形要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらの面白さや楽しさを見つけて友達と伝え合ったり，造形素材の特徴を活かして伝えたい思いを表現したりしようとする。

イ　音楽

身近な自然物や人工物，環境に遊びを通して関わることで生まれた偶然の音色やリズム，音の重なりなどの音楽を形づくっている要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらの面白さや楽しさを見つけて友達と伝え合ったり，音素材や楽器，発声の特徴を活かしながら思いを表現したりしようとする。

ウ　複合

友達とともに劇や合唱・合奏をつくる活動を通して，動きや声の大きさなどを考えることの面白さや楽しさに気付き，それらを互いに認め合い，よりよい表現をつくりだそうとする。

【Ｂかんしょう】

ア　造形

身近な造形作品や自然物などの面白さや楽しさを感じ取ることを通して，自分の思いや考えに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

イ　音楽

親しみのある曲の面白さや楽しさを感じ取ることを通して，自分の思いや考えに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

ウ　複合

劇的表現の面白さや楽しさを感じ取ることを通して，自分の思いや考えに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

〔第３学年〕

(1) 目標

① 造形や音楽による表現に関する知識・技能を活用しながら，表し方について考え，つくりだしたり，芸術作品などのよさや面白さを見つけたりすることができる。（創造性）

② 他者との対話活動を通して，つくりだした表し方や芸術作品などのよさや面白さについての考えをもって伝え合ったり，自分の表現に活かしたりすることができる。（協働性）

③ 自分の表し方や感じ方のよさや面白さに気付き，それを活かして表現したり感じ取ったりしようとすることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａひょうげん】

ア 造形

身近な自然物や人工物，環境の造形的な特徴を活かしながら表現する活動を通して，生みだした形や色，動きや重なりなどの造形要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらのよさや面白さを見つけて友達と伝え合い，自分の思いや意図を具体化して表そうとする。

イ 音楽

伝えたい思いや意図を伝えるために，音素材や楽器，発声の特徴を活かしたり，様々な関わり方を通して発想を広げたりしながら表す活動を通して，音色やリズム，音の重なりなどの音楽を形づくっている要素をもとにして，自分の思いや意図に合う音素材のよさや面白さに気付き，友達と伝え合うなどして，自分の思いや意図を具体化して表そうとする。

ウ 複合

友達とともに劇や合唱・合奏をつくる活動を通して，動きや音程，リズムなどを考えることのよさや面白さに気付き，それらを互いに認め合い，よりよい表現をつくりだそうとする。

【Ｂかんしょう】

ア 造形

造形的な芸術作品のよさや面白さを感じ取ることを通して，自分の思いや意図に気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

イ 音楽

音楽的な芸術作品のよさや面白さを感じ取ることを通して，自分の思いや意図に気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

ウ 複合

劇的表現などのよさや面白さを感じ取ることを通して，自分の思いに気付き，友達と伝え合い，まとめようとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

① 造形や音楽による表現に関する知識・技能を活用しながら，表し方について考え，よりよい表現をつくったり，芸術作品などのよさや面白さを見つけたりすることができる。（創造性）

② 他者との対話活動を通して，つくりだした表し方や芸術作品などのよさや面白さについての具体的な考えをもって伝え合ったり，自分の表現に活かしたりすることができる。（協働性）

③ 自分の表し方や感じ方のよさや面白さに気付き，それを活かしてよりよく表現したり感じ取ったりしようとすることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａひょうげん】

ア 造形

身近な自然物や人工物，環境の造形的な特徴を活かしながら表現する活動を通して，生みだした形や色，動きや重なりなどの造形要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらのよさや面白さを見つけて具体的に友達と伝え合い，自分の思いや意図を具体化して表そうとする。

イ 音楽

伝えたい思いや意図を伝えるために，音素材や楽器，発声の特徴を活かしたり，様々な関わり方を通して発想を広げたりしながら表す活動を通して，音色やリズム，音の重なりなどの音楽を形づくっている要素をもとにして，自分の思いや意図に合う音素材のよさや面白さに気付き，具体的に友達と伝え合うなどして，自分の思いや意図を具体化して表そうとする。

ウ 複合

友達とともに劇や合唱・合奏をつくる活動を通して，動きや音程，リズムなどをそろえることのよさや面白さに気付き，それらを互いに認め合い，よりよい表現をつくりだそうとする。

【Ｂかんしょう】

ア 造形

造形的な芸術作品のよさや面白さを感じ取ることを通して，自分の思いや意図に気付き，友達と視点に沿って伝え合い，まとめようとする。

イ 音楽

音楽的な芸術作品のよさや面白さを感じ取ることを通して，自分の思いや意図に気付き，友達と視点に沿って伝え合い，まとめようとする。

ウ 複合

劇的表現などのよさや面白さを感じ取ることを通して，自分の思いに気付き，友達と視点に沿って伝え合い，まとめようとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

① 造形や音楽による表現に関する知識・技能を活用しながら，表し方について考え，よりよい表現をつくったり，芸術作品などのよさや美しさを見いだしたりすることができる。（創造性）

② 他者との対話活動を通して，つくりだした表し方や芸術作品などのよさや美しさについての根拠に基づいた考えを伝え合ったり，表現に活かしたりすることができる。（協働性）

③ 自分の表し方や感じ方のよさや美しさに気付き，それを活かして表現を発展させたり，よさを感じ取ったりすることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａひょうげん】

ア 造形

身近な自然物や人工物，環境の造形的な特徴を組み合わせながら表現する活動を通して，多様な造形要素をもとにして，様々な表し方に気付き，よさや美しさについて造形的な視点に基づいて他者と伝え合うなどして，自分の思いや意図，イメージを明確にして表そうとする。

イ 音楽

身近な自然物や人工物，環境の音楽的な特徴を組み合わせながら表現する活動を通して，多様な音楽を形づくっている要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらのよさや美しさについて音楽的な視点に基づいて他者と伝え合うなどして，自分の思いや意図を明確にして表そうとする。

ウ 複合

友達とともに劇や合唱・合奏をつくる活動を通して，場面や曲想に合わせて動きや音程，リズムなどをそろえることのよさや美しさに気付き，互いに認め合い，よりよい表現をつくりだそうとする。

【Ｂかんしょう】

ア 造形

造形的な芸術作品などのよさや美しさを感じ取ることを通して，思いや意図について友達と視点に沿って伝え合い，イメージを明確にする。

イ 音楽

音楽的な芸術作品などのよさや美しさを感じ取ることを通して，思いや意図について友達と視点に沿って伝え合い，イメージを明確にする。

ウ 複合

総合芸術などのよさや美しさを感じ取ることを通して，思いや意図について友達と視点に沿って伝え合い，イメージを明確にする。

〔第６学年〕

(1) 目標

① 造形や音楽による表現に関する知識・技能を活用しながら，表し方について考え，最適な表現をつくったり，芸術作品などのよさや美しさを見いだしたりすることができる。（創造性）

② 他者との対話活動を通して，つくりだした表し方や芸術作品などのよさや美しさについての根拠に基づいた考えを伝え合ったり，最適な表現をつくったりすることができる。（協働性）

③ 自分の表し方や感じ方のよさや美しさに気付き，それを活かして最適な表現をつくり，よさを感じ取ることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａひょうげん】

ア 造形

身近な自然物や人工物，環境の造形的な特徴を組み合わせながら表現する活動を通して，多様な造形要素をもとにして，様々な表し方に気付き，よさや美しさについて造形的な視点に基づいて他者と伝え合うなどして，自分の思いや意図，イメージを最適化して表そうとする。

イ 音楽

身近な自然物や人工物，環境の音楽的な特徴を組み合わせながら表現する活動を通して，多様な音楽を形づくっている要素をもとにして，様々な表し方に気付き，それらのよさや美しさについて音楽的な視点に基づいて他者と伝え合うなどして，自分の思いや意図，イメージを最適化して表そうとする。

ウ 複合

友達とともに劇や合唱・合奏をつくる活動を通して，場面や曲想に合わせて動きや音程，リズムなどをそろえることのよさや美しさに気付き，互いに認め合い，思いや意図，イメージを最適化しながら表現をつくりだそうとする。

【Ｂかんしょう】

ア 造形

造形的な芸術作品などのよさや美しさを感じ取ることを通して，思いや意図，イメージについて友達と視点に沿って伝え合い，最適化する。

イ 音楽

音楽的な芸術作品などのよさや美しさを感じ取ることを通して，思いや意図，イメージについて友達と視点に沿って伝え合い，最適化する。

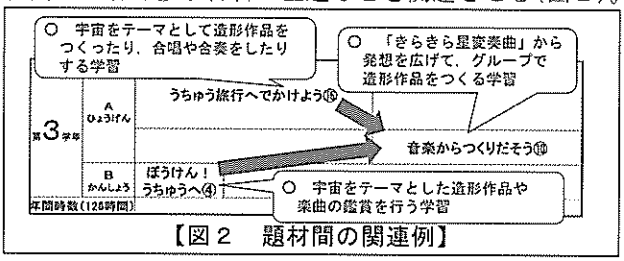
ウ 複合

総合芸術などのよさや美しさを感じ取ることを通して，思いや意図，イメージについて友達と視点に沿って伝え合い，最適化する。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

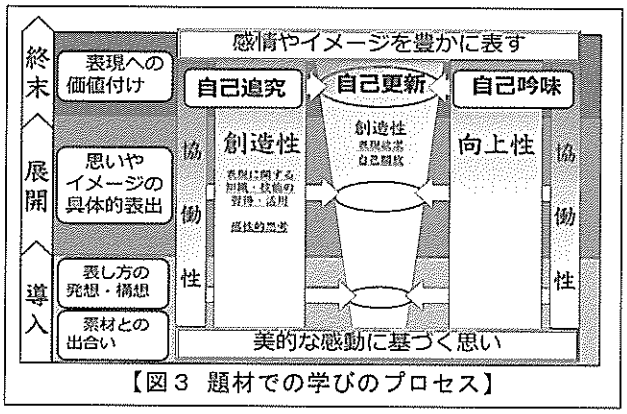
年間指導計画の作成にあたっては，本校の全体計画に基づき，領域「げいじゅつ」においては，子供たちが自分たちの生活や社会との関連を感じ取りながら，身近なひと・もの・ことの多様性にふれ，自分の表し方をつくりだしたり，自分の伝えたい思いや意図を表現したり，芸術作品等からよさや美しさを感じ取ったりすることができるようにする必要がある。そのために，学校行事や学習する季節との関連を図ったり，他領域の学習とのつながりをもたせたりする。また，題材間で内容や扱う材料・主題などを関連させる(図２)。



【図２　題材間の関連例】

(2) 題材計画についての考え方

題材計画については，素材との出合いによる美的な感動に基づく思いや意図をもつことから始める。その中で，表し方の創出やイメージの具体化を活発にしたり，自分の表現のよさや方向性を確かめたりすることができるようにする。そして，表現への価値付けを行いながら，感情やイメージを豊かに表していくことができるようにする（図３）。具体的には，導入段階では，感性的思考を働かせながら，表現素材のよさを活かした表し方を見いだし，思いや意図に基づいて決定する。展開段階では，表現に関する技能を習得・活用しながら自分の表し方をつくりだし，表したい思いや意図と照らし合わせながらよさや美しさを明確にしていく。一方では，感性的思考を働かせながら新たな表現素材と出合い，新たな表し方も見いだし，それらを組み合わせるなどしてよりよい表現をつくりだす。終末段階では，表現活動に関わる知識を活かしながらよさや美しさを感じることで，自分の表現に対して自己認識を通して価値付けを行う。



【図３ 題材での学びのプロセス】

6　指導計画の作成と学習指導

(1) 「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は単独題材と関連題材の２つによって成り立っている。単独題材の中には，造形や音楽，複合がそれぞれ単独で含まれているものと，複数を含むものがある。関連題材には，領域「げいじゅつ」の題材の中での内容的なつながりがあるものと他領域との関連題材がある。それらをバランスよく配列しながら，主体的な学びが実現できるようにする。

(2) 「内容」を学ぶための問題設定について

２頁に述べた内容構成を踏まえて，どのような対象と関わり，どのような価値のある問題を設定し，問いをするか吟味することが求められる。

【表２　問題設定の例】

問題設定	学習場面での「問い」の例
げいじゅつに関する素朴な「問い」	・　この絵を見てどのような感じがしましたか。 ・　この楽曲を聴いて，どのような情景を思い浮かべましたか。
感性を高め，発想を促す「問い」	・　もしこの部分の赤色を青色に変えたら，どのような感じになるでしょうか。 ・　もしこの曲のテンポを速くすると，どのようなことを思い浮かべるでしょうか。 ・　自分の思いや意図を表すためには，どうしたらよいですか。
表現の価値を追究する「問い」	・　なぜこの彫刻は不思議な感じがするのでしょうか。 ・　なぜこの楽曲が感動する場面で使われるのでしょうか。

(3) 「学習の評価」について

感性を働かせながら，身の回りのひと・もの・ことから美を感じたり，イメージしたことを造形や音楽を中心に表現したりする活動の様子や発言，記述した内容などから，資質・能力ベースで次のように評価する。

【表３　評価場面と評価方法】

創造性	発想を広げる場面，表現をつくりだす場面
	○　げいじゅつノート，マイタイムノート
	○　作品や表現物，活動の様子，発言
向上性	自分の表現について振り返る場面
	○　げいじゅつノート，マイタイムノート
	○　発言や振り返りカード
協働性	表現に対して感じたことを伝え合う場面
	○　げいじゅつノート，マイタイムノート
	○　活動の様子，発言

参考文献

ハーバート・リード『芸術による教育』フィルムアート社，2001

レフ・セミョノヴィチ・ヴィゴツキー『新訳版芸術心理学』学文社，2006

領域「げいじゅつ」年間指導計画

学年	学期 / 内容区分	1学期					
第1学年	A ひょうげん	いっぱいかいたよ　つくったよ⑩	かみっておもしろい！⑩				はこハコ大しゅうごう
		みんなでうたおう⑧	すてきな音　見いつけた⑫				ドレミとリズム⑬
						つくってみよう！ はじめてのげき⑩	
	B かんしょう		すてきな音 見いつけた②	かみって おもしろい！②			
年間時数（122時間）		44時間					
第2学年	A ひょうげん	色と形でこんにちは⑳					どきどき ～どうぶつ
		わくわく音楽ランド⑳					
						どうぶつになりきって げきをつくろう⑩	
	B かんしょう	色と形でこんにちは③	わくわく音楽ランド③				
年間時数（126時間）		46時間					
第3学年	A ひょうげん	表そう！ぼくたちわたしたちの ファンタジーワールド⑳	広がれ　絵の具の世界⑫			組み合わせて楽しもう！森のおくりもの⑫	
			新たな表し方との出合い～リコーダーの音色～⑭			音楽の森⑭	
	B かんしょう	とびこもう！ 絵本の世界へ④				たんけん！ 森の世界へ④	
年間時数（126時間）		46時間					
第4学年	A ひょうげん	かざって，使って，楽しいマイグッズ⑩	こころぽかぽか～あらつ博覧会へようこそ～⑳				これぞ！日本のわざ⑮
		気持ちを含わせて　歌と合奏で⑩					
						日本のみ力を げきで伝えよう⑩	
	B かんしょう	色・音・形で連想ゲーム⑥				大切にされてきた日本のわざ④	
年間時数（126時間）		46時間					
第5学年	A ひょうげん		流れる風にのって⑮				想像から広がる表現 ～色や形，音楽がつくりだす世
		友とのきずなを げきで表そう⑩		表そう！お気に入りの マイタイム・マイプレイス⑭			
	B かんしょう		テーマソングの世界⑥				魅力いっぱい！
年間時数（126時間）		46時間					
第6学年	A ひょうげん		表そう！四季のストーリー ～造形と音楽の調和～ ㉚				附属福岡小学校の誇り ～思い出のあの日・あの時・あの場所で～ ⑫
							つくろう！ぼくたち・わたしたちのワールドミ
		劇で伝えるメッセージ⑩					
	B かんしょう		附属小ミニコンサート ～世界の音楽に触れよう～⑥				レッツトー
年間時数（122時間）		46時間					

2学期		3学期	
⑬	あらつあそびたい ～つくろう！いろあそび・おとあそび～⑭	うごくおもちゃはたのしいね⑥	こころつなぐ　あらつあそびたい ～いろ・かたち・おとのあそびでつながる・ひろがる～⑭
		うたごえとがっきの音を あわせてみよう⑥	
		ふゆ休みに　見つけたよ②	
50時間		28時間	
ジャングルクルーズ たちとのであい～㉖	きせつをかんじる 色や音楽⑫	みんなで楽しもう！音と光のおまつりランド㉚	
	きせつをかんじる 色や音楽②		
50時間		30時間	
		うちゅう旅行へでかけよう⑯	
	みんなおいでよ！秋の小部屋⑳		音楽からつくりだそう⑲
		ぼうけん！ うちゅうへ④	
50時間		30時間	
	伝えよう！私たちが感じる日本のよさ⑳	つくろう！ぼくたちわたしたちの1／2成人式㉔	
		気持ちを伝える色・形・音楽⑥	
50時間		30時間	
界～㉘		転がるぼう険ワールド⑱	
		つくろう！ぼくたち・わたしたちの「希望と誇り」 （6年生との共通題材）⑱	
	ミュージックビデオをつくろう⑭		思いをつないでつくろう！ シンボルタワー⑧
アジアの芸術⑧			
52時間		28時間	
		メモリーボックスをつくろう⑧	
ュージック⑭		つくろう！ぼくたち・わたしたちの「希望と誇り」 （5年生との共通題材）⑱	
	世界に誇る！クールジャパン⑳		伝えよう！マイワード 残そう！マイメモリー⑥
ク！世界の芸術⑥			
52時間		24時間	

小学校学習指導要領(試案)

領域「けんこう」編

1　領域新設の経緯

(1) 現代社会の要請から

領域「けんこう」は，人が生活する上で必要な資源である「健康」を学ぶ上で設定した領域である。そこで，本領域では，毎日の生活に満足感をもち身体的な健康や精神的な健康を維持して，生活の質を生涯にわたって向上させていく力をつけるという視点を中心に据える。それは，子供の健康を支える環境を自分自身がセルフマネージメントできるようにすることが必要だからである。そのため，子供が自分自身の身体について理解し，健康な生活を送るための体力を身に付けるとともに，健康な生活を送るための生活づくりを行うことができるよう学習内容を設定する。このように，領域「けんこう」では，子供が「健康」について，「これからの自分の健康な生活のための方法を選び，必要な技能を身に付けていくこと」を求める。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「健康」が領域「けんこう」の学習内容を担っていた。この領域「健康」の学習においては，領域目標を「自分の身体や環境に関わる課題解決に向けた体験的な活動を通して，必要な知識・技能を自ら獲得するとともに望ましい生活行動を実践しようとする態度を育てる。」とし，内容を「心」「運動生活」「食生活」「生活環境」の４つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

○　健康な生活習慣を形成する内容に焦点化して学習内容を構成することができた。
○　自分の日常生活における運動習慣や食習慣を課題として生活の改善に取り組むことができた。

しかし，領域「健康」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

●　従来の家庭科や体育科からの内容の依存が高く，領域横断的な探究学習の位置付けが難しい。
●　子供の生活に即した学習ではあったが，将来の自分の健康像を思い描く学習を展開することができなかった。

そこで，成果と課題を踏まえ，子供が健康な生活を送ることの意義を感じながら学びを深めたり，体力を保持増進したりするために，６ヵ年の系統を見直すとともに，学ぶ目的を明確にして内容を構成し新たな学習をつくることができるように，領域「けんこう」を設定することとなった。

2　目標

自分の身体や生活環境に関わる課題解決に向けた体験的な活動を通して，望ましい生活行動を実践しようとする態度を身に付けた主体としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 健康課題を解決する必要性を感じながら自分なりの解決方法を考え，望ましい生活行動を実践しようとすることができる。（創造性）

(2) 健康課題に対する友達の考えのよさに気付いたり，互いの考えを受け入れたりして伝え合ったり，考えを創り出したりしようとすることができる。（協働性）

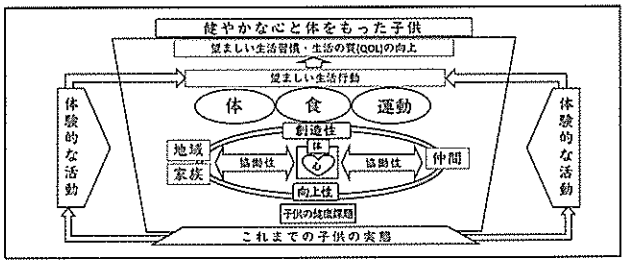
(3) 身近な健康についての課題を解決する活動を通して，自分の生活を見つめ直し，自分自身の生活や環境に継続して働きかけることができる。（向上性）

(1) 目標の趣旨

「自分の身体や生活環境に関わる課題解決に向けた体験的な活動」とは，「個人の生活の仕方や運動に関する課題を発見しその解決に向けて，身体全体を使って対象に働きかけて活動すること」を表す。これは，本領域の学習活動の原理を表し，健康な生活を送るためには，学ぶ対象への働きかけによる知識・技能の習得が必要であることを意味している。

「望ましい生活行動を実践しようとする」とは，生活の質を向上させるために自分の生活をマネージメントすることができる子供の具体的な姿を表している。生活の質を向上するために，自分の生活を見つめ直し，その方法や必要性についての理解を深め，必要な知識・技能を身に付けることを求めている。親の就労環境の変化や生活時間の多様化が子供の生活習慣に大きな影響を与え，成人病の低年齢化など子供の健康問題が社会問題化している。そのため，子供自身が自らの健康の状態を把握し，保持増進していくための実践力を身に付けていくことが求められている。

(2) ３つの資質・能力に関する目標と概念図



【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

上記の資質・能力を向上させ，目標を達成するために毎日の生活に満足感をもちながら，身体的な健康や精神的な健康を維持して，子供に望ましい生活習慣の定着と生活の質を向上させるための力を付けさせるためには，①自分自身の体のつくりや元気な毎日を過ごすために，予想される健康を阻害する要因や予防的な措置について調べたり，自分自身の生活を見直したりすること，②体をつくるもととなり，活動の源でもある食に関する正しい知識を理解し，自分自身の食生活を見直すこと，③明るく元気な毎日を過ごすために自分自身の運動の関わり方や運動の行い方を理解して，自分自身の行動を見直すことを重視する。毎日の生活に満足感をもちながら過ごすには，「健康」な状態を維持することが必要である。健康な状態を阻害する要因として，疾病などの外部的な要因や体力，生活習慣等の本人の行動に起因するものがある。そこで，子供が自分自身の現在やこれからの健康や体力についてとらえる体験的な活動や自分自身の生活に関わることを通して，健康を保持増進するための内容をとらえていくことを基本的な学びの方法とする。そのため，学習する内容を，「体」「食」「運動」の３つで構成することとする。

「体」では，感染症やう歯などの子供に身近な病気や，生活習慣が主な原因となって起こる病気の予防について様々な体験活動や調査活動を通して理解することである。「食」では，活動の源となり，自分自身の体をつくるもととなる栄養について理解するとともに自分の生活を見直したり，生活に活かすための技能を身に付けたりする。それらの知識や技能がもととなり，自分の生活を見直すことができる。「運動」では，運動の体や心に与える影響についての理解とともに，自分自身の体をよりよく発育・発達させることについて取り扱うとともに，運動の楽しさや喜びを味わい，運動を継続することができる意欲と体を身に付けることをねらう。

(2) 内容構成の具体的視点

健康な生活を送るためには，予防的な方法，健全な体の育成，これからの自分自身の体の３つの視点を重視して内容を構成する。

(3) 学習活動や学習対象

ア　予防的な方法

ここでは，健康な状態を維持，また，疾病などの健康を阻害する要因を避けるための方法や大切さについて取り扱う。小学校期は，体が十分に発達しておらず様々な予防的な行動を身に付ける時期でもある。そのため，「体」の内容を中心に指導する。例えば，う歯や感染症の予防，環境衛生を整えることなどが考えられる。また，「食」の内容では，疾病を予防するために必要な栄養や食事の仕方などについて取り上げることが考えられる。「運動」の内容においては，自分自身の体を維持させるために，適度に運動をする必要があることを理解したり，実践したりして，運動に取り組むことの大切さをとらえさせる。

イ　健全な体の育成

自分の身体をよりよく発育・発達させるために必要な事柄について取り上げる。小学生期は心身の発達が著しいとともに，生活習慣を形成する時期でもある。そのため，主に「食」「運動」の内容を指導する。「食」の内容では，栄養素の働きと食品群について取り上げ，発達の段階に応じて，意識的に食品を摂取できるようにする。また，食についての基礎的な技能を身に付けられるようにする。「運動」の内容では，望ましい運動習慣を形成したり運動の楽しさや喜びを味わったりすることを重視して取り扱う。「体」の内容においては，中学年において二次成長について取り扱う。

ウ　これからの自分自身

ライフステージに応じて自分の健康な生活を見通すことをねらって内容を取り上げる。高学年の主に「体」を中心に取り扱う。日本人の世代別に見ても大きな死因となっている悪性新生物や，脳卒中や現代的な健康課題も取り扱う。それらを関連させて「食」や運動の内容を総合的に取り扱う。内容を関連させて取り扱うことで，健康の大切さを多面的にとらえることができる。「運動」の内容では，誰でも手軽に行うことができるニュースポーツやオリンピックなども取り扱う。

(4) 構成要素と階層性

上記の内容構成と視点を活かした要素と学年の系統について表すと以下のようになる。

【表２　内容構成の例】

	１・２年	３・４年	５・６年
体	○風邪の予防 ・うがい ○う歯の予防 ・歯の磨き方 ○目や耳の健康	○発育発達 ・二次成長 ○環境衛生 ・掃除の仕方 ○骨や筋肉の働き	○感染症の予防 ・菌やウイルス ○生活習慣病予防 ・脳卒中など ○環境衛生 ○現代的な課題
食	○栄養素の働き ・五大栄養素と毎日の食生活 ○食生活の見直し	○二次成長に必要な食品 ・食生活の振り返り ○健康な食生活	○調理 ・1日の献立 ・調理技能
運動	○運動 ・運動遊び ・運動習慣	○運動 ・体力の向上 ・運動習慣	○運動 ・体力の向上 ・運動習慣

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

① 自分自身の身近な健康課題を見つけ，課題を解決するために自分がよいと思う方法を実践し，健康な生活をつくろうとすることができる。（創造性）

② 友達に健康課題を解決するために自分の考えを伝えたり，よい方法を決めたりすることができる。（協働性）

③ 健康課題を解決する活動を通して，自分の身体や身近な生活の関連に気付くことができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ体】

① 手に付着した菌を可視化したり，校内の欠席者の推移を調べたりする体験的な活動を通して，疾病を予防するための手洗いやうがいを行うことの大切さに気付き，生活の中で予防行動をとることができるようにする。

② 校内の欠席者の推移や元気に毎日を過ごす方法を調べる活動を通して，食生活や運動習慣を整えることなどの大切さに気付き，運動習慣や食習慣に気を付けることができるようにする。

【Ｂ食】

③ 自分の給食の食べ方や食事の摂り方を振り返る活動を通して，自分の食事の摂り方についてのよさに気付き，バランスのよい食生活を送ることができるようにする。

④ 給食の献立に含まれる栄養について，栄養士から話を聞いたり，本で調べたりする活動を通して，給食のよさに気付き，自分に応じた量の給食を食べる取組を実践して，バランスのよい食生活を送ることができるようにする。

【Ｃ運動】

⑤ 多様な種類の運動遊びを経験する活動を通して，力いっぱい体を動かすことの楽しさに気付き，友達と運動の行い方を工夫する話合いを通して，楽しく運動しようとする。

〔第２学年〕

(1) 目標

① 自分自身の身近な健康課題を見つけ，課題を解決するために自分がよいと思う方法を実践し，健康な生活をつくろうとすることができる。（創造性）

② 友達に健康課題を解決するために自分の考えを伝えたり，解決のために理由を話してよい方法を決めたりすることができる。（協働性）

③ 健康課題を解決する活動を通して，自分の身体や身近な生活の関連に気付き，健康な生活を送ろうとすることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ体】

① 視力検査の結果を分析したり，目の働きについてインタビューをしたりして調べる活動を通して，自分の目の状態や望ましい状態に保つための具体的な方法に気付き，その方法を実践する取組を通して，よりよい状態を保つ行動をしようとする。

② 歯科検診の結果を分析したり，歯の働きについてインタビューをしたりして調べる活動を通して，自分の歯の状態や望ましいしい状態に保つための具体的な方法に気付き，その方法を実践する取組を通して，よりよい状態を保つ行動をしようとする。

【Ｂ食】

③ 自分自身の毎日の食生活や１日に必要な栄養の量と自分自身の健康状態などを調べる活動を通して，健康な状態と自分の食生活との関係に気付き，よりよい健康な生活を送るために友達や家族と話し合って，食事の内容や時間帯などの食生活をよりよくしようとする。

【Ｃ運動】

④ 多様な種類の運動遊びを経験する活動を通して，友達と運動をすることの楽しさに気付き，友達と運動の行い方を工夫する話合いを通して，楽しく運動しようとする。

⑤ 休み時間に友達と運動遊びを行う計画を立てて遊ぶ活動を通して，友達と体を動かして遊ぶことの楽しさに気付き，多くの友達が楽しむことができるような運動遊びをの工夫を友達と話し合い，学校生活に運動遊びを取り入れようとする。

〔第３学年〕

(1) 目標

① 自分自身の健康課題を見つけ，課題を解決するために自分の身体や生活を考えて，自分がよいと思う方法を実践し，健康な生活をつくろうとすることができる。（創造性）

② 少人数で健康課題を解決するために自分の考えを伝え合い，解決のために理由を明確にしてよりよい方法を決めたりすることができる。（協働性）

③ 自分の生活を見つめ直し，健康課題を解決するためにこれからの自分や身近な人が健康に過ごすための方法を考えることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ体】

① 自分の身体の状態や生活習慣を大人と比較したり，なぜそのような違いが出るのかを調べたりする活動を通して，思春期にかかる時期によりよく発育・発達するために運動習慣や食生活などの生活習慣を整える必要があることに気付き，運動習慣や食生活を整える方法について友達や自分の考えのよさに気付きながら話し合い，運動や食生活を見直そうとする。

【Ｂ食】

② 自分自身の成長や食生活等を調べる活動を通して，食生活と体の発育･発達の相関に気付き，自分の体をよりよく発達させるための行動について友達の考えのよさを見付けながら話し合い，自分の生活を見直そうとする。

【Ｃ運動】

③ 友達と多くの人が楽しめる運動をつくる活動を通して，ルールを変更することで味わうことができる運動の楽しさが変わることに気付き，友達と運動の行い方やルールについて話合い，協力して運動しようとする。

④ 学級の友達が楽しく遊ぶことができる計画を立てて実践する活動を通して，友達と体を動かして遊ぶことの楽しさに気付き，運動遊びを生活の中に取り入れるよさについて話し合い，学校生活に運動遊びを取り入れようとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

① 自分自身の健康課題を見つけ，課題を解決するために自分の身体や生活を考えて，自分がよいと思う方法を実践し，身近な他者と協力して健康な生活をつくろうとすることができる。（創造性）

② 少人数で健康課題を解決するために自分の考えを伝え合い，解決のために理由を明らかにしてよりよい方法を決めたりすることができる。（協働性）

③ 自分の生活を見つめ直し，健康課題を解決するためにこれからの自分や身近な人が健康に過ごすための方法を自分の生活に合った方法で考えることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ体】

① ごみがたまりやすい場所や効率のよい清掃の仕方について調べる活動を通して，環境を清潔に整える必要性やよさに気付き，清潔に保つための清掃の仕方や整頓の仕方について友達の考えのよさに気付きながら話し合い，清掃場所や自宅などの身近な身の回りの環境を清潔に保とうとする。

【Ｂ食】

② これまでの自分自身の身長の伸びや体重の増加，今後の発育･発達と生活習慣について調べる活動を通して，思春期には体に変化が起こることなどに気付き，これからの自分の体の成長について友達の考えのよさに気付きながら話し合い，食生活をはじめとする生活習慣を整えることでよりよく発育･発達させようとする。

【Ｃ運動】

③ 友達とルールを変えながらねらいをもって運動を楽しむ活動を通して，ルールを変更することで運動の楽しみ方が変わることに気付き，友達の考えのよさに気付きながら話し合い，友達と運動の行い方を工夫して協力して運動しようとする。

④ 学級の友達と仲よく遊ぶことができる運動遊びの計画を立てて実践する活動を通して，友達と体を動かして遊ぶために連絡や調整を行い，学校生活に，仲間づくりや体力の向上などの意図をもって運動遊びを取り入れようとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

① 自分自身の健康課題を見つけ，課題を解決するために自分や周囲の環境を考えて，よりよい解決方法を選んで実践し，自分や周りの人の健康な生活をつくろうとすることができる。（創造性）

② 自分の考えの根拠を明らかにして友達と健康課題を解決するための方法を伝え合い，解決の方法を様々な考えを組み合わせて決めることができる。（協働性）

③ 自分の生活を見つめ直し，健康課題を解決するためにこれからの自分と身近な集団がよりよくなるための方法を，自分や身近な集団に適した方法で考えることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ体】

① 生活習慣がもとで起こる心筋梗塞や脳卒中などの病気やインフルエンザなどの細菌がもとで起こる感染症などの病気について調べる活動を通して，感染症を発症するメカニズムや生活習慣を整える必要に気付き，考えの根拠を明らかにしてそれらの予防について友達と話し合い，健康な生活をつくろうとする。

【Ｂ食】

② 食材の切り方と味などの相関について調べたり，様々な調理法のよさについて考えたりする活動を通して，調理に必要な基本的な技能を身に付けることの大切さに気付き，自分自身で調理をすることのよさを感じながら調理のよさを話し合い，実践的な力を身に付ける。

【Ｃ運動】

③ 多様な運動の楽しさを知り，様々な目的をもって運動を行うことを通して，運動の楽しさや価値に気付き，友達と自分の考えの根拠を明確にして運動の目的や行い方について話し合い，継続して運動に関わろうとする。

④ 自分の生活に運動を取り入れるために生活習慣を見直す活動を通して，自分自身の生活の仕方や運動の取り組み方の傾向に気付き，友達と生活に運動を取り入れるよさについて根拠を明らかにしながら話し合い，生活に運動を取り入れようとする。

〔第６学年〕

(1) 目標

① 自分や身近な集団から健康課題を見つけ，課題を解決するために自分や周囲の環境を考えて，よりよい解決方法を選んで実践し，自分や周りの人の健康な生活をつくろうとすることができる。（創造性）

② 自分の考えの根拠を明らかにして友達と健康課題を解決するための方法を伝え合い，解決の方法を様々な考えを組み合わせて決めることができる。（協働性）

③ 自分の生活を見つめ直し，健康課題を解決するためにこれからの自分と身近な集団がよりよくなるための方法を，自分や身近な集団に適した方法で考えることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａ体】

① 現代的な健康課題への対処について調べる活動を通して，健康な生活のためには食，運動，睡眠・休養などを総合的にとらえて整えていく必要があることに気付き，それらを整えることで自分の生活にどのような効果があるのかについて自分の考えの根拠を明らかにしながら友達と話し合い，健康な生活をつくろうとする。

【Ｂ食】

② 食事の効果について調べたり，状況を設定して１食分の献立をつくったりする活動を通して，健康な生活を送るための食事の在り方は様々にあることに気付き，状況に応じて食生活を整えようとする。

【Ｃ運動】

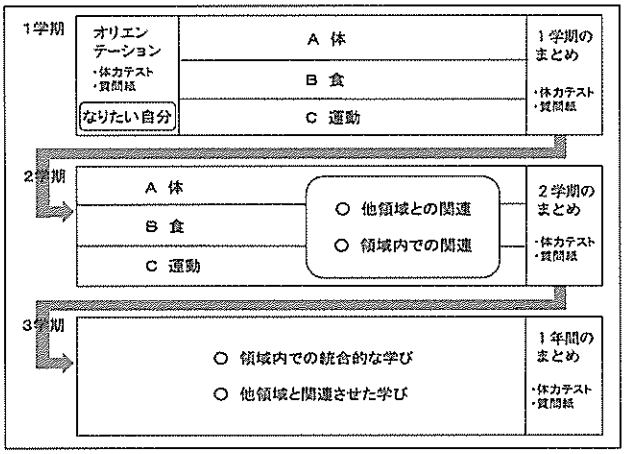
③ 自分に合った目的をもって運動を行うことを通して，多様な運動の楽しみ方のよさや価値に気付き，友達と自分の考えの根拠を明確にして運動の行い方やスポーツ大会について話し合い，継続して運動に関わろうとする。

④ 日常の生活に運動やスポーツを取り入れる活動を通して，運動を行う場所や行う運動の種類，競技以外の運動など運動やスポーツの多様性に気付き，運動を生活に取り入れることについて友達と根拠を明らかにして話し合い，これからの生活に運動やスポーツを取り入れようとする。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

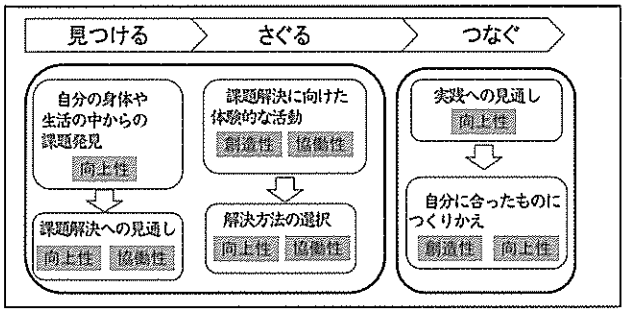
年間指導計画作成にあたっては，本校の全体計画に基づき，領域「けんこう」においては，子供たちが自分の成長を感じながら学んでいくことができるようにする必要がある。そのために，各学年段階の始めには，オリエンテーションを行い自分の体力の状態を，確かめ，その年度での目標を設定するようにする（図２）。



【図２　年間の題材配列】

(2) 題材計画についての考え方

題材計画については，自分の身体に関することやその周囲の環境，日常生活の中から課題を見つけることから始める。そして，体験的な活動を通して，課題の解決を図り，自分に合った方法で望ましい生活行動を実践したり，啓発をしたりする活動をしていくという３つの段階で題材を構成することを基本とする。子供が課題を見つけ，解決の見通しをもつ「見つける」段階，見いだした課題を自分に合った方法で解決する「さぐる」段階，見いだした解決方法を自分に合った方法で生活に取り入れたり，今後の生活に役立てるための活動を行ったりする「つなぐ」段階で題材を構成する。また，子供が生活を見直し，よりよい生活行動を実践するためには「科学的に理解すること」，「行動を起こしたいという感情や規範をつくること」，「行動する方法が分かること」という３つの段階が必要である。そこで，それぞれの段階に応じた内容を段階に位置付けて題材を展開する（図３）。



【図３　題材の学び例】

6　指導計画の作成と学習指導

(1) 「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は単独題材と関連題材の２つによって成り立っている。学年前半は単独題材による領域内関連を図るが，学年後半は他領域との関連も行い，主体的な学びが実現できるようにする。領域内関連を図る際には，健康行動である，睡眠・休養，食，運動について整える必要性を感じることができるようにする。

(2) 「内容」を学ぶための問題設定について

学ぶ内容の中には，技能を身に付けることを中心にしている内容と価値や判断への気付きを求めているものがある。「Ｂ食」高学年においては，食の技能を身に付けることをねらっている。また「Ｃ運動」においては，すべての学年において体力の向上と運動技能を身に付けることをねらう。すべての内容において，学ぶ内容は「健康」に関する事柄であり，経験として知識のある子供が多い。そこで，「なぜ」「どのように」等の問いを明確にして事象を追究していく過程で健康の価値に気付かせることが求められる。そのためには，①既習や既知との比較を通して「なぜ」などの素朴な疑問を抱いて追究できること，②問いの答えを追究する中で，健康な行動の理由や価値に気付くことができること，③日常での実践を想定することができるものなどが求められる。

(3) 「学習の評価」について

自分の身体や生活環境に関わる課題解決に向けた体験的な活動を通して，望ましい生活行動を実践しようとする態度を身に付けた主体としての資質･能力の表出を次の方法で評価していく。

【表３　評価場面と方法】

創造性	【展開場面】パフォーマンス課題への取組
協働性	【展開場面】プリントやボードへの記述
向上性	【導入場面・展開場面】 課題設定時と終末での意識の変容

参考文献

和田雅史『健康科学ヘルスプロモーションの理念』扉書社，2007

畑栄一『行動科学』南江堂，2009

青柳領『子供の発育発達と健康』ナカニシヤ出版，2006

領域「けんこう」年間指導計画

<table>
<tr><td rowspan="2">学年</td><td>学期</td><td colspan="5">1学期</td><td></td></tr>
<tr><td>内容区分</td><td colspan="5"></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第1学年</td><td>A
体</td><td rowspan="3">オリエンテーション②</td><td colspan="3"></td><td rowspan="3">1学期のまとめ②</td><td>元気な体</td></tr>
<tr><td>B
食</td><td colspan="3">給食おいしいね④</td><td></td></tr>
<tr><td>C
運動</td><td>元気いっぱい走ろう！⑥</td><td>力強い動きできるかな⑧</td><td>水と仲よし⑩</td><td>道具と仲よし⑥</td><td>あらつあそ</td></tr>
<tr><td colspan="2">年間時数(91時間)</td><td colspan="5">32時間</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第2学年</td><td>A
体</td><td rowspan="3">オリエンテーション②</td><td colspan="3"></td><td rowspan="3">1学期のまとめ②</td><td></td></tr>
<tr><td>B
食</td><td colspan="3">気持ちのよい生活⑤</td><td>ぼくのわたしの</td></tr>
<tr><td>C
運動</td><td>ボールを使って⑩</td><td>力いっぱい引いたり押したり⑩</td><td>水の中で やってみよう⑥</td><td colspan="2">道具を使って友達と仲よし遊びに</td></tr>
<tr><td colspan="2">年間時数(94時間)</td><td colspan="5">35時間</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第3学年</td><td>A
体</td><td rowspan="3">オリエンテーション②</td><td colspan="3">かんで強い歯⑧</td><td rowspan="3">1学期のまとめ②</td><td rowspan="2">毎日元気なわた</td></tr>
<tr><td>B
食</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>C
運動</td><td>走って ジャンプ⑪</td><td>すもう・つなひき⑮</td><td>水の中で運動しよう⑩</td><td>走って跳んで⑯</td><td>いろいろ挑戦</td></tr>
<tr><td colspan="2">年間時数(126時間)</td><td colspan="5">48時間</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第4学年</td><td>A
体</td><td rowspan="3">オリエンテーション②</td><td colspan="3">大きくなるからだ⑦</td><td rowspan="3">1学期のまとめ②</td><td></td></tr>
<tr><td>B
食</td><td colspan="3"></td><td>バランスのよい食事⑦</td></tr>
<tr><td>C
運動</td><td>走る跳ぶ運動⑬</td><td>すもう・つなひき⑭</td><td>水泳運動⑨</td><td colspan="2">ゲームをつくろう⑮</td></tr>
<tr><td colspan="2">年間時数(126時間)</td><td colspan="5">47時間</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第5学年</td><td>A
体</td><td rowspan="3">オリエンテーション②</td><td colspan="2">毎日の生活とわたしたちのからだ⑦</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="3">1学期のまとめ②</td><td rowspan="2">わたしの周り</td></tr>
<tr><td>B
食</td><td colspan="2">はじめてみよう クッキング⑭</td></tr>
<tr><td>C
運動</td><td>陸上運動⑫</td><td>すもう・つなひき⑧</td><td>水泳運動⑨</td><td>ゲームを楽しもう⑲</td><td>器械</td></tr>
<tr><td colspan="2">年間時数(157時間)</td><td colspan="5">54時間</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">第6学年</td><td>A
体</td><td rowspan="3">オリエンテーション②</td><td colspan="3">食事でできる病気の予防⑮</td><td rowspan="3">1学期のまとめ②</td><td>どう整える 心と体⑬</td></tr>
<tr><td>B
食</td><td colspan="3"></td><td>工夫しよう 1食分の食事⑭</td></tr>
<tr><td>C
運動</td><td>ニュースポーツ⑭</td><td>すもう・つなひき⑪</td><td>水泳運動
アクアビクス⑩</td><td>ゲームを楽しもう⑮</td><td>器械</td></tr>
<tr><td colspan="2">年間時数(153時間)</td><td colspan="5">54時間</td><td></td></tr>
</table>

2学期			3学期	
をつくろう⑩		2学期のまとめ②	学校での生活を見直して元気な体をつくろう㉒	学年のまとめ②
びたい⑩	続けて走ろう 4分間⑦			
35時間			24時間	
エネルギー③		2学期のまとめ②	学校や家庭での過ごし方を見直そう㉒	学年のまとめ②
取り組もう㉒	つづけて走ろう 5分間⑧			
35時間			24時間	
しのために⑨		2学期のまとめ②	元気一杯な毎日を過ごすために㉙	学年のまとめ②
なゲームにしよう⑫	続けて走ろう 6分間走⑧			
47時間			31時間	
		2学期のまとめ②	自分のよりよい成長のために㉚	学年のまとめ②
器械運動⑮	6分間走⑧			
47時間			32時間	
の食べ物⑯		2学期のまとめ②	食や運動を見直して生活をつくろう㊲	学年のまとめ②
運動⑱	8分間走⑨			
64時間			39時間	
		2学期のまとめ②	これからのわたしの健康をつくろう㉛	学年のまとめ②
運動⑬	8分間走⑨			
66時間			33時間	

小学校学習指導要領(試案)
領域「にんげん」編

1　領域新設の経緯

(1) 現代社会から

領域「にんげん」は，自己の生き方をつくる主体を育てる上で設定した領域である。そこで，本領域では，子供たちが自己の成長への願いや問いをもち，学校内外の仲間や他者と関わり合ってともに学ぶ中で，自分とは異なる見方や考え方に触れ，過去・現在・未来の自己や集団と向き合ったり，見つめたりする自己内省を繰り返すことを中心に据える。多様な他者との関わりをもとに，自分や所属する集団を見つめ直すことなくして，自己の生き方を育むことはできないからである。そのため，多様な人の「生き方」そのものに出合うことを学習対象として継承しつつ，その出合いの中で触れる，人の価値や見方や考え方，行い方から自分や集団を見つめ直すことを学習内容として設定する。このように，領域「にんげん」では，子供たちが「にんげん」として，「人の生き方と関わり，自己の生き方をつくる主体を育てる」ことを求める。

(2) これまでの研究の歩みから

昨年度まで，６領域の中で，領域「生き方」が領域「にんげん」の学習内容を担っていた。この領域「生き方」の学習においては，領域目標を「人と対象との関わりを考え，多様な他者と協働的に実践する活動を通して，生き方への価値認識，他者尊重，自己への見方や考え方，自己実現する力を高め，自己形成する力を養う。」とし，内容を「自分といのち」「自分とみらい」「自分とくらし」「自分となかま」の４つとして研究を進めてきた。

ここでの成果は，以下のようなものであった。

○　多様な他者の生き方に出合い，自分の今後の生活を見直し，実践することができた。
○　自己の課題の解決方法を自ら吟味しながら追求し，自己を更新していくことができた。

しかし，領域「生き方」を設定する上においては，以下のような課題も見られた。

●　領域「社会共創」との間で，内容の重なりが見られ，明確な内容の区分ができていなかった。
●　集団内の問題や課題について話し合って，解決方法を見い出すことが不十分だった。

そこで，成果と課題を踏まえ，学級内外の仲間や他者の生き方に触れ，自己の生き方を見直しながら，より集団内の問題や課題の解決に目を向ける中で，自己と集団の両面から生き方を見直すことができるようにした。このことから領域「にんげん」を設定した。

2　目標

(1) 目標の趣旨

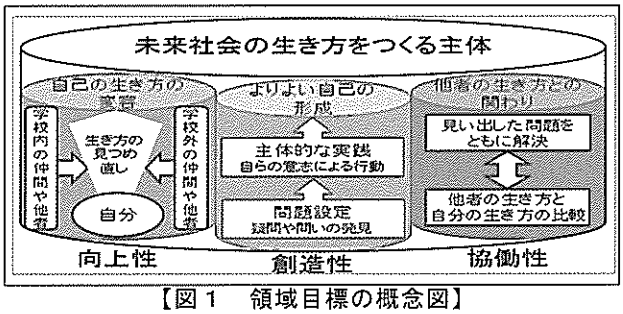
自己内省を繰り返し，多様な他者と協働的に実践する活動を通して，人間として生きる価値を見い出し，自己形成を図る主体を養うための資質･能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 自ら対象や人に働きかけ，自己の生き方を広げ深め，問題を解決するために行動し，よりよい自分をつくることができる。　(創造性)
(2) 集団や社会に進んで参画し，相手の立場や考えを尊重しながら，自分の考えや望みを伝え，自分の役割の責任を果たすことができる。　(協働性)
(3) あるがままの自分を受けとめることで自分の特徴を理解し，あるべき自分を思い描いた生活の実現に努めることができる。　(向上性)

「自己内省を繰り返し，多様な他者と協働的に実践する活動」とは，「自分や仲間，身近な人，地域のためになどの，明確な目的意識や相手意識があること」と「一人では課題解決が困難であること」の２つの活動を表す。これは，本領域の学習活動の原理を表し，人間としてよりよい生き方をつくる主体として，多様な学校内外の仲間や他者との関わりが必要であることを意味している。

「人間として生きる価値を見い出し，自己形成を図る主体を養う」とは，多様な他者との関わりの中で，よりよい生き方について主体的に考え判断し，自分をつくることができる子供の具体的な姿を表している。多様な他者との関わりを大切にし，自己の生き方を更新することができる態度を求めている。つまり，人間がもつ多様な価値感に触れることで，自己の見方や考え方，行い方を見つめ直す中で自分の価値感を研ぎ澄まし，集団や社会の中で生きるよりよい自分をつくろうとする人間を育てることである。これは，領域「にんげん」で目指す人格の具体を表している。そのためには，「人の生き方」そのものから，学ぶ必要がある。

(2) ３つの資質・能力に関する目標と概念図



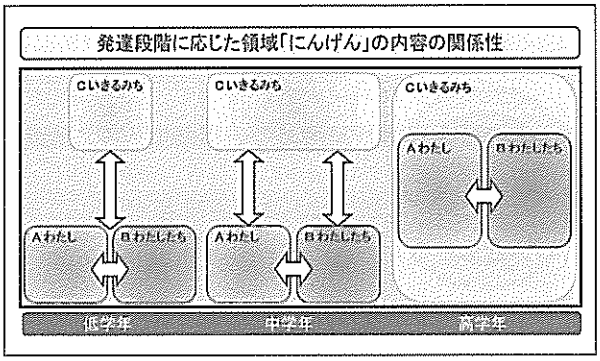
【図１　領域目標の概念図】

3　内容

(1) 内容構成の考え方

自己内省を繰り返しながら，よりよい自分をつくろうとする人間を育てるためには，多様な他者に触れ，多様な価値感（見方や考え方）を学ぶ必要がある。そこで大切にしたいことは，学校内外の仲間や他者とともに活動していく中で，自己内省を繰り返し，自己を更新していくことである。つまり，多様な価値に触れた経験や体験をもとに過去・現在・未来を通して自己の生き方を見つめることである。例えば，「自分の今までの成長を支えていたものは何か」や「幸せとは」など，自分を含む多様な他者の価値観や生き方に触れ，自分なりの課題をもち，追求しながら話し合う学習の中で，自分にできることは何かを考え，実践していくことである。そのような活動を通して，よりよい自己をつくっていこうとする態度を身に付けるようにする。そこで，自分や学校内外の多様な他者の価値観や生き方（ものやこととの関わりを通した他者の生き方）に触れることをもとに，内容を次の３つから構成していく。

それは，「わたし」「わたしたち」「いきるみち」である。まず「わたし」とは，よりよい自己をつくっていきたいとの願いのもと，自己の目標や課題をもち，解決の方法を考え実践を繰り返す中で，自己の価値観を過去・現在・未来を通して長所や短所の両面から自分の特徴をとらえ，見つめ直すことである。次に「わたしたち」とは，多様な集団や社会の中でともに支え合ったり，助け合ったりする意義について考え，過去・現在・未来を通して多様な集団や社会との関わりに対する自己の価値観を見つめ直すことである。特に，よりよい集団生活を築いていこうとすることである。最後に「いきるみち」とは，学校内外の多様な他者とともに活動したり，実践したりする活動を通して，他者のもつ人や生命，自然などに関する価値観や生き方そのものに触れ，自己の生き方を見つめ直したり，深めたりすることである。これらの内容は内容の特質上，相互に関連し合って存在している。子供たちがもっている価値観を繰り返し見直し，よりよい生き方をつくることができるようにしていくため，発達段階を考慮し，それぞれの内容を横断しながら，以下のようにその関係を整理する（図２）。



【図２　発達段階に応じた領域「にんげん」の内容の関係性】

(2) 内容構成の具体的視点

上記の３つの内容を設定しつつ，自分の言動やその判断の中心にある「自己」，それが様々な立場で関わり合う「集団」，そして，過去・現在・未来のようにその自己と集団が常に存在している「時間」という３つの視点を重視する。

(3) 学習活動や学習対象

ア　自己

「自己」の視点では，自分の言動やその判断の中心にあり，よりよい自分や生活をつくりだしていきたいと主体的に願う，自分の価値観や生き方そのものが学習対象として考えられる。自分のよいところとは，自由とはどのようなことか，もっと仲良くするためには，学んだことを自分の生活にどのように生かせるのか，○○さんとの出会いの素晴らしさとは，一人では解決が困難な課題について，学校内外の仲間や他者と協働的に実践しながら，自分の価値観や生き方を追求したり，見つめ直したりする学習活動が考えられる。

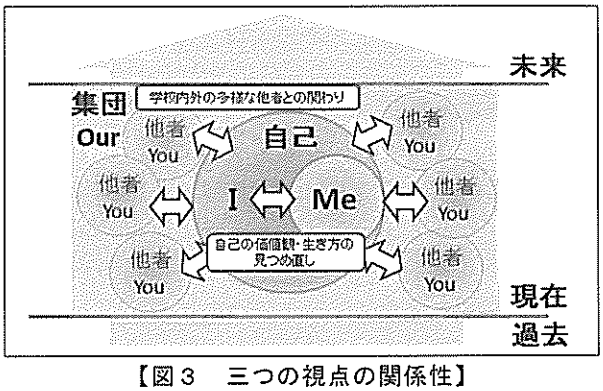
イ　集団

「集団」の視点では，自分を取り巻く学校内外の仲間や他者そのものや，その人たちとの関わりが学習対象として考えられる。友達のよいところとは，係活動をもっと素敵にするためには，よりよい学級にするためには，高学年として必要なこととは，誰もが住みやすいまちにしていくためにはなど，一人では解決が困難な課題について，自分の価値観をもとに話し合ったり，学校内外の仲間や他者と協働的に実践したりしながら，仲間や他者の価値観，生き方と比較したりする学習活動が考えられる。

ウ　時間

「時間」の視点では，過去・現在・未来を通した自分や自分を取り巻く集団の価値観，生き方そのものが学習対象として考えられる。自分ができるようになったことは何か，次の学年で目指すことは何か，学級目標は達成することができているのかなど，１年間の自分の成長を見つめたり，学級の成長について考えたりして，自分や集団の価値観や生き方の変容について話し合う学習活動が考えられる。

それら３つの関係性は以下のようになる（図３）。



【図３　三つの視点の関係性】

4　各学年の目標及び内容

〔第１学年〕

(1) 目標

① 身近な他者の生き方と出合い，自分の生き方と比べ，共通点や差異点に気付き，よりよい自分の生き方をつくることができる。（創造性）

② 自分の役割の取り組み方やみんなで使う物の使い方を考え，友達と仲良く活動することの大切さに気付き，考えを伝えたり聞いたりして，学級生活に生かすことができる。（協働性）

③ 自分の目標をもとに日々の生活を振り返り，自分のがんばりや自分がもつよさに気付き，友達と伝え合ったり話し合ったりして，なりたい自分への思いをもつことができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａわたし】

① 自分が決めた目標について振り返ることを通して，自分のがんばりやよさに気付き，友達とよさを伝え合ったり話し合ったりして，なりたい自分の姿をつくろうとする。

② 身近な他者と出会い，生まれた疑問について調べる活動を通して，自己の生き方との違いに気付き，友達とその違いを伝え合ったり話し合ったりして，自己の生き方を見つめ直そうとする。

③ 新しい学年になるために必要なことはどのようなことか考え，整理する活動を通して，自分の課題に気付き，友達と伝え合ったり話し合ったりして，自己の目標を設定しようとする。

【Ｂわたしたち】

④ 学級の友達のよいところを見つけ，まとめる活動を通して，友達によさを伝える大切さに気付き，友達と仲良くよさを伝え合い，自分の中に友達のよさを取り入れようとする。

⑤ 学級のみんなで取り組む活動について，どのようにしていくことがよいのかを考える活動を通して，自分の役割を果たすことの大切さに気付き，友達と仕事や役割について話し合い，よりよい学級にしていこうとする。

⑥ 学校内の施設や物の使い方について，どのように使うのか考える活動を通して，次に使う人のことを考えることの大切さに気付き，友達と話し合って，自分の生活に生かそうとする。

【Ｃいきるみち】

⑦ 身近な他者と関わり，その人の生き方に触れる活動を通して，身近な他者の見方や考え方，行い方のよさに気付き，友達とともに気付きについて話し合い，自己の生き方を見つめ直そうとする。

〔第２学年〕

(1) 目標

① 身近な他者の生き方と出合い，自分の生き方と比べ，よりよい自分の姿や生き方をつくり，行うことができる。（創造性）

② 学級や学年における自分の役割に取り組み，友達と助け合って活動する大切さに気付き，考えを伝えたり聞いたりして，よりよい学級生活をつくることができる。（協働性）

③ 自分の目標をもとに日々の生活を振り返り，自分と友達のがんばりやよさに気付き，気付いたよさについて友達と伝え合ったり話し合ったりして，よりよい自分をつくることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａわたし】

① 自分が決めた目標や課題について振り返ることを通して，自分と友達のがんばりやよさに気付き，友達と伝え合ったり話し合ったりして，目指す自分の姿を具体的なものにしようとする。

② 身近な他者と出会って感じたことから課題を設定し，調べる活動を通して，自己の生き方にはないよさに気付き，友達とそのよさを伝え合ったり話し合ったりして，自己の生き方をよりよいものにしていこうとする。

③ ２年間の学びをもとに，中学年になるために必要なことはどのようなことかを考える活動を通して，自分たちの課題に気付き，友達と話し合って，新たな目標を設定しようとする。

【Ｂわたしたち】

④ 学年の友達のよいところを見つけ合う活動を通して，お互いのよさを認め合う大切さに気付き，学級を越えてよさを伝え合い，友達と一緒によさを伸ばしていこうとする。

⑤ 当番や係などみんなで取り組む活動をよりよくするために考える活動を通して，友達と助け合って役割を果たすことの大切さに気付き，一緒に活動することのよさや楽しさについて話し合い，よりよい学級にしていこうとする。

⑥ 学校内の施設や物の使い方をもとに，地域の施設や公共物の使い方について，よりよい使い方を考える活動を通して，周りの人のことを考えて使うことの大切さに気付き，友達と話し合って，実際の生活に生かそうとする。

【Ｃいきるみち】

⑦ 身近な他者の生き方と関わり合う活動を通して，自分にはない身近な他者の見方や考え方，行い方のよさに気付き，そのよさを話し合い，自己の生き方をよりよいものにしようとする。

〔第３学年〕

(1) 目標

① 多様な他者の生き方と出合い，自分にとっての価値を考え，自分のよりよい生き方に気付き，友達と話し合って，それに近付くことができる。（創造性）

② 学級集団における自分の役割に取り組み，友達と協力して取り組むことの大切さに気付き，考えを伝えたり，受け入れたりしながら，よりよい学級生活をつくることができる。（協働性）

③ 自分の目標をもとに，できたことやできないことにも目を向け，自分について分類・整理する中で自分のよさや課題に気付き，よりよい自分の姿をつくることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａわたし】

① 自分が決めた目標や課題について振り返ったり，追求したりすることを通して，自分のよさや課題に気付き，そのことを分類・整理して，自分らしさをとらえようとする。

② 他者と出会って生まれた課題を設定し，解決する活動を通して，友達のよさや自分のよさに気付き，友達と伝えあったり話し合ったりして，なりたい自己の生き方について自分でよりよいものにしていこうとする。

③ 今の自分と未来の自分を比べる活動を通して自分の課題に気付き，友達と話し合ったり，解決するために活動したりして，新たな目標を設定しようとする。

【Ｂわたしたち】

④ 友達と活動する中で見つけたよさを伝え合う活動を通して，よさを認め合い取り組む大切さに気付き，課題を解決しながら，友達と一緒に自分らしさを伸ばしていこうとする。

⑤ みんなで取り組む活動をよりよくするための活動を通して，友達と助け合って役割を果たすことの大切さに気付き，他者と一緒に活動することの価値について話し合い，よりよい学級生活をつくっていこうとする。

⑥ 学級生活をよりよくするためにできる活動を実践する活動を通して，友達と協力しながら取り組むことの大切さに気付き，友達と話し合いながら，自己の生き方に生かそうとする。

【Ｃいきるみち】

⑦ 他者の生き方と関わり合う活動を通して，自分と他者の見方や考え方，行い方の違いに気付き，対象と自分の関わりについて話し合い，自己の生き方をよりよいものにしようとする。

〔第４学年〕

(1) 目標

① 多様な他者の生き方と出合い，自分にとっての価値を考え，自分のよりよい生き方や変容に気付き，友達と話し合って，それに近付くことができる。（創造性）

② 学級集団における自分の役割に取り組み，友達と協力して取り組むことの大切さに気付き，考えを伝えたり，受け入れたりしながら，よりよい学級生活をつくることができる。（協働性）

③ 自分の目標をもとに，どのような自分なのかに目を向け，自分について分類・整理する中で自分のよさや課題を受け入れ，よりよい自分の姿をつくることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａわたし】

① 自分が決めた目標や課題について振り返ったり，追求したりすることを通して，自分のよさや課題に気付き，そのことを分類・整理して，自分らしさをとらえ，受け入れようとする。

② 他者と出会って生まれた課題を設定し，解決する活動を通して，友達のよさや自分のよさに気付き，友達と伝え合ったり話し合ったりして，なりたい自己の生き方について自分でよりよいものにしていこうと努力する。

③ 今の自分と未来の自分を比べる活動を通して自分の課題に気付き，友達と話し合ったり，解決するために活動したりして，どのような自分になるのかの新たな目標を設定しようとする。

【Ｂわたしたち】

④ 友達と活動する中で見つけたよさを伝え合う活動を通して，よさを認め合い協力して取り組む大切さに気付き，課題を解決しながら，友達と一緒に自分らしさを伸ばしていこうとする。

⑤ みんなで取り組む活動をよりよくするための活動を通して，友達と助け合って役割を果たすことの大切さに気付き，他者と一緒に活動することの価値について話し合い，よりよい学級や学校生活をつくっていこうとする。

⑥ 学級生活をよりよくするためにできる活動を実践する活動を通して，友達と協力しながら取り組むことの大切さに気付き，友達と話し合いながら，自己の生き方に生かそうとする。

【Ｃいきるみち】

⑦ 他者の生き方と関わり合う活動を通して，自分と他者の見方や考え方，行い方の違いやよさに気付き，対象との関わりについて話し合い，自己の生き方をよりよいものにしようとする。

〔第５学年〕

(1) 目標

① 多様な他者の生き方と出合い，自分にとっての価値を考えて，未来社会のためにできることについて友達と話し合い，理想に向かう大切な生き方を構築することができる。（創造性）

② 学級や学校生活における自分の役割に取り組み，友達と信頼し合って取り組むことの大切さに気付き，考えを伝えたり，尊重したりしながら，よりよい学級や学校生活づくりに進んで参画することができる。（協働性）

③ 自分の目標をもとに，自分のよさや弱さにも目を向け，自分について分類・整理する中で自分の特徴を理解し，ありたい自分の姿をつくることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａわたし】

① 自分が決めた目標や課題について振り返ったり，追求したりすることを通して，自分のよさや弱さに気付き，そのことを分類・整理して，自分の特徴をとらえようとする。

② 他者と出会って生まれた課題を設定し，解決する活動を通して，友達の特徴や自分の特徴に気付き，友達と伝え合ったり話し合ったりして，なりたい自己の生き方を理想として，自分でよりよいものにしていこうと努力する。

③ 今の自分と過去，未来の自分を比べる活動を通して自分の課題に気付き，解決するために友達と活動し，どのような自分になるのかの新たな目標を設定しようとする。

【Ｂわたしたち】

④ 友達と活動する中で見つけたよさを伝え合う活動を通して，よさを認め合い信頼し合って取り組む大切さに気付き，課題を解決しながら，友達と自分らしさを伸ばしていこうとする。

⑤ みんなで取り組む活動をよりよくするための活動を通して，友達と信頼し合って役割を果たすことの大切さに気付き，相手の考えを尊重する価値について話し合い，よりよい学級や学校生活をつくっていこうとする。

⑥ 学級や学校生活をよりよくするためにできる活動を実践する活動を通して，友達と信頼し合って取り組むことの大切さに気付き，相手を尊重しながら可能性を広げようとする。

【Ｃいきるみち】

⑦ 他者の生き方と関わり合う活動を通して，自分と他者の見方や考え方，行い方の特徴に気付き，対象との関わりについて話し合い，自己の生き方を広げ，深めようとする。

〔第６学年〕

(1) 目標

① 多様な他者の生き方と出合い，自分にとっての価値を考え，未来社会のためにできることについて友達と話し合い，理想に向かう大切な生き方を構築することができる。（創造性）

② 学級や学校生活における自分の役割に取り組み，友達と信頼し合って取り組むことの大切さに気付き，考えを伝えたり，お互いを尊重したりしながら，よりよい学級や学校生活づくりに進んで参画することができる。（協働性）

③ 自分の目標をもとに，自分のよさや弱さにも目を向け，自分について分類・整理する中で自分の特徴を理解し，理想とする自分の姿をつくることができる。（向上性）

(2) 内容

【Ａわたし】

① 自分が決めた目標や課題について振り返ったり，追求したりすることを通して，自分のよさや弱さに気付き，そのことを分類・整理して，自分の特徴を受け入れようとする。

② 他者と出会って生まれた課題を設定し，解決したり，追求したりする活動を通して，友達の特徴や自分の特徴に気付き，伝え合ったり話し合ったりして，なりたい自己の生き方を理想として，よりよいものにしていこうと努力する。

③ 今の自分と過去，未来の自分を比べる活動を通して自分の特徴に気付き，解決するために友達と活動し，どのような自分になるのかの新たな目標を設定しようとする。

【Ｂわたしたち】

④ 友達と活動する中で見つけた価値を伝え合う活動を通して，よさを認め合い信頼し合って取り組む大切さに気付き，課題を解決しながら，友達と自分らしさを伸ばしていこうとする。

⑤ みんなで取り組む活動をよりよくするための活動を通して，友達と信頼し合って役割を果たし，参画することの大切さに気付き，相手の考えを尊重する価値について話し合い，よりよい学級や学校生活をつくっていこうとする。

⑥ 学級や学校生活をよりよくするためにできる活動を実践する活動を通して，友達と信頼し合って取り組むことの大切さに気付き，相手を尊重しながら，自分の可能性を広げようとする。

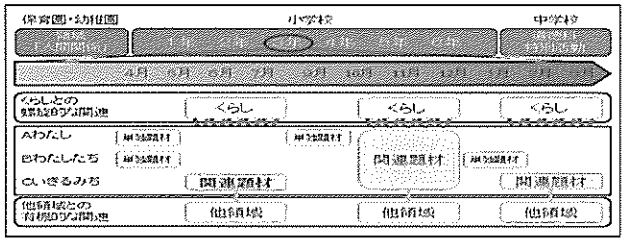
【Ｃいきるみち】

⑦ 他者の生き方と関わり合う活動を通して，自分と他者の見方や考え方，行い方の特徴に気付き，対象との関わりについて自分の考えを話し合い，自己の生き方を広げ深めようとする。

5　指導計画の作成と内容の取り扱い

(1) 年間指導計画についての考え方

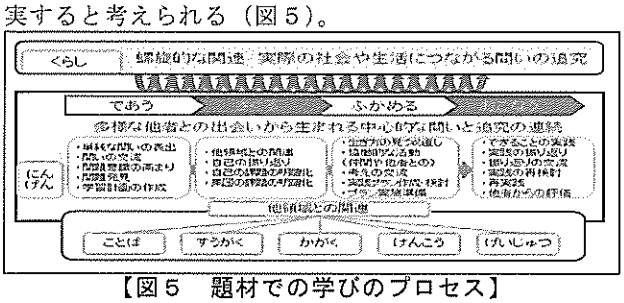
年間指導計画作成にあたっては，本校の全体計画に基づき，領域「にんげん」においては，子供たちが自分の見方や考え方，行い方を振り返り，生き方を見つめ直せるものにしていく必要がある。そのために，特に関連題材においては領域「くらし」と螺旋的な関連を図り，他領域とは有機的な関連が行えるようにする。さらに，領域横断的に学校内外の仲間や他者との協働的な活動を通した学びを子供たちの実態と発達段階に即して出会わせるようにする。保・幼・小・中の連携の視点から，保育園・幼稚園における「人間関係」の学びとの適切な接続と，中学校道徳科，特別活動との系統をもとに年間指導計画を作成していく（図４）。



【図４　年間指導計画のイメージ】

(2) 題材計画についての考え方

題材計画については，子供たちの「くらし」の中で出会った学校内外の仲間や他者の「生き方」から見い出した「問い」をもとに，自分の生き方を見つめ直し，よりよい生き方をつくり出していくことが題材の中に組み込まれる必要がある。この一連の学びのプロセスを子供自身が展開することができるように，４つの段階で学習を仕組む。「であう」段階では，学校内外の仲間や他者との出会いから，個々の「問い」をもとにした学習計画をつくるようにする。「さぐる」段階では，子供たちの問題を解決する探究が他領域と有機的に関連しながら，自己の見方や考え方，行い方を振り返り，よりよい自分や集団をつくっていく上での課題を明確化し，自分の問題を解決していく。「ふかめる」段階では，仲間や他者との協働的な活動や交流を通して，自己の生き方や実践プランを見つめ直していくようにする。「おこなう」段階では，実践プランを学校内外の仲間や他者とともに行い，振り返ることを繰り返しながら，よりよい自分と集団をつくっていくようにする。そうすることによって，子供主体の探究が充実すると考えられる（図５）。



【図５　題材での学びのプロセス】

6　指導計画の作成と学習指導

(1)「題材」及び「年間指導計画」のつながり

題材は単独題材と関連題材の２つによって成り立っている。この単独題材と関連題材とを発達段階や学年の実態に応じて計画的・効果的に配置し，子供たちの主体的な学びへと導くことができるようにする。

(2)「内容」を学ぶための問題設定について

先に述べた内容構成を踏まえてどのような人と関わり，どのような価値ある問題設定であるかということが求められる。そのためには，①表象を問う「問い」を大切にし，問題に対して様々な視点から学習できること，②自己の生き方と比べ，共通点や差異点などを見い出す中で，自己の生き方を見つめ直すことができること，③問題に対して１つの答えを求めるのではなく，よりよい生き方について多面的・多角的に判断することができることなどが求められる（表１）。

【表１　問いの種類とその例】

問いのレベル	学習場面での「問い」の例
表象を問う「問い」 ※気付きに基づく	自分のよいところは何だろう。 どうして○○さんは，その活動を始めたのだろう。 どうして自分たちは○○することができるようになったのだろう。 ○○さんたちはどこで出会ったのだろう。
因果関係を問う「問い」 ※背景を探る	どのようにして，自分たちはできるようになったのだろう。 どのようにして○○さんは，人との関係をつくってきたのだろう。
実践へ向かう「問い」 ※未来に向かう	どのようにすれば，誰もが住みよいまちにしていくことができるのだろう。

(3)「学習の評価」について

日常の社会や生活における問題を見い出し，解決に向けて学校内外の仲間や他者と協働的に活動することを通して育成を目指す具体的な資質・能力を示した内容として次のように評価していく（表２）。

【表２　３つの資質・能力に関する目標】

創造性	展開・終末の作品や表現物，話合いの場面 ○パフォーマンス課題への取組(作品や表現物) ○話合いでの発言やポートフォリオ
協働性	展開の協働的な課題解決の場面 ○質問紙調査 ○話合いでの発言やポートフォリオ
向上性	導入の課題設定と終末の振り返りの場面 ○質問紙調査　○マイタイムノート ○ポートフォリオ

参考文献

梶田叡一『〈生きる力〉の人間教育を』金子書房，1997

三宮真智子編『メタ認知』北大路書房，2008

無藤隆『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』北大路書房，2016

領域「にんげん」年間指導計画

学年	学期 内容区分	1学期	
第1学年	A わたし	1ねんせいになって　じぶんの○○みつけたよ　どうして○○なんだろう　がっこうの○○をさがしてみよう　○○ってなあに	
	B わたしたち	がっこうになれよう　みつけたともだちのよいところ　きゅうしょくのじかんをもっとすてきに　そうじのじかんはなんのためにあるのかな　あめのひはどんなあ	
	C いきるみち		あ
年間時数（61時間）		20時間	
学年	学期 内容区分	1学期	
第2学年	A わたし	2ねんせいになって　○○ができるようになった　○○のふしぎ　どうして○○なのかな　○○さんとじぶんはなにがちがうのかな　どうして○○はひつよ	
	B わたしたち	もっとなかよし　みんなでいっしょにあそぼう　かかりかつどうをもっとすてきにしよう　1年生に学校のことをしょうかいしよう　トイレのつかい方について話し	
	C いきるみち		いっしょにあそぼう　自ぜんとみんなと　西公園
年間時数（63時間）		21時間	
学年	学期 内容区分	1学期	
第3学年	A わたし	3年生になって　じぶんのとくちょうを見つけよう　なりたい○○って何だろう　どうすれば○○できるのかな　年をとるってどういうこと　動物を飼うってど	
	B わたしたち	学級目標を話し合って決めよう　係をパワーアップしよう　お世話になった人に気持ちを伝えよう　地いきねこサポーターの方とかかわろう　ありがとう3年○	
	C いきるみち	大切にしよう！自分とのかかわり⑮	つくろう！「
年間時数（126時間）		40時間	
学年	学期 内容区分	1学期	
第4学年	A わたし	4年生になって　高学年になるじゅんびをしよう　障害ってどういうことだろう　バリアフリーとは何だろう　ぼくのわたしの○○研究　ともに生きるってどう	
	B わたしたち	学級目標を話し合おう　学級のルールを決めよう　係活動で学級を明るくしよう　みんなで話そう障がいのこと　話そうともに生きること　学級目標を見直	
	C いきるみち	高学年に向けて　パワーアップ！⑱	みんな
年間時数（126時間）		40時間	
学年	学期 内容区分	1学期	
第5学年	A わたし	貧困って何？　自分と食の関係は？　情報ってどうやって集めるの　附属小のすごいところはどんなところ　自分の役割は何だろう　今気になっている	
	B わたしたち	高学年として　学級目標を話し合って決めよう　よりよい学校にするために必要なことは何だろう　係活動を充実させよう　学級目標を見直そう	
	C いきるみち	家族からのおくりもの～はなちゃんのみそ汁～⑲	チーム福岡～
年間時数（126時間）		40時間	
学年	学期 内容区分	1学期	
第6学年	A わたし	1年生に教えることは何　わたしにできることはあるのだろうか　なりたい自分はどんな自分　性っていったい何だろう　幸せは誰が決めるのだろう　自分	
	B わたしたち	最高学年として　学級目標を決めよう　1年生と関わろう　梅組となかよし　つながるっていったいどういうこと　みんなで話そう性のこと　みんなで話そ	
	C いきるみち	これがわたしの生きる道⑳	わたし
年間時数（122時間）		40時間	

2学期	3学期
できるようになったこと　〇〇さんにであってかんがえたこと　〇〇さんにありがとうをつたえよう　2ねんせいになるまえに	
そびをしようかな　しょうがっこうはたのしいよ	
らつあそびたい⑩	こころつなぐ　あらつあそびたい⑩ ～とどけたい　つながりたい　みらいの　小学生へ～
26時間	15時間
2学期	3学期
うなのかな　〇〇のがくしゅうはどうしてあるのかな　2ねんかんでできるようになったこと　3ねんせいはどんながくねんなの	
合おう　雨の日のすごし方を話し合おう　〇〇さんにありがとうの気持ちを伝えよう	
⑥ つくって　食べよう　マイ　野さい⑦	見たい！知りたい！やってみたい！ ～われら　おそごと　ちょうさたい～⑤
26時間	16時間
2学期	3学期
ういうこと　動物愛護管理センターって何だろう　つくろう未来の自分	
組	
ふぞく小ぷらっとホーム」⑳	つくろう　ぼくたちわたしたちの未来⑫
50時間	36時間
2学期	3学期
いうこと	
そう　高学年になるわたしたち	
が笑顔でくらすために㉚	つながってわかり合おう～となりの外国人～㉘
50時間	36時間
2学期	3学期
こと　最高学年になるわたし　おもてなしの心とは何だろう	
ぼくとわたしができること～⑩	すごいよ！日本人㉑
50時間	36時間
2学期	3学期
の将来に向かって	
うわたしたちにできること	
たちにできること㉕	本当の幸せって㉙
50時間	32時間

多言語・多文化との共生を目指す帰国子女教育

―母語と第2言語を活用した領域「ことば」の学びを通して―

帰国子女教育部　杉本　克如・大橋　美香

1　帰国子女教育でめざす力

帰国子女学級は，①国内での生活に適応し，最終的には日本の学校教育課程において学習できる能力の育成，②海外で身に付けた特性（言語や文化など）の伸長を図ることを目的として設置されている。①については領域「ことば」「すうがく」「くらし」の学習を帰国子女学級で行っている。その際，在籍学年と同等の学力が身に付いていないことを考慮した上で個別に学習を進めたり，「ことば」では，日本語や英語，滞在国の言語など，複数言語を活用する題材で学習したりしている。上記以外の領域の学習については，交流学級の子供と一緒に学習する形態をとっている。②については領域「ことば」「にんげん」において，滞在国の言語や文化を追究し他者に発信する学習を行っている。

帰国子女学級の子供たちの海外での生活期間，学校での学習状況や日本語の習得状況は様々である。そのために，滞在国と日本の文化に対するとらえ方も様々である。帰国子女学級では，このような子供たちの多様化に対応するとともに，子供の視点に立った教育をどのように実践するかが重要だと言われている。帰国子女学級の子供たちの特性を生かして，複数の言語や文化を題材として学習活動を進めたり，それらと日本語や日本文化とを比較したりすることで，日本と滞在国のよさについてより深く追究し，多様なものの見方・考え方を育成する学習を展開することができると考える。そこで，帰国子女教育においては，次の３つの姿を目指す。

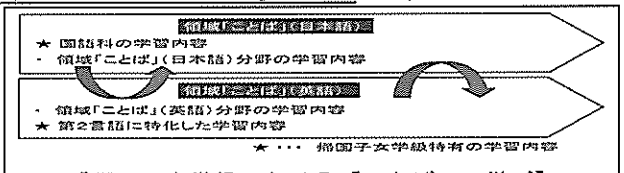
○　多様なひと・もの・こととの関わりを通して，自分の価値観との共通点や相違点を見出すとともに，新たな知見を得たり，これまでの考えを広げたりする子供　（創造性）
○　他者の多様性を認め，互いの特性や価値を認め合いながら，よりよい人間関係を築く子供　（協働性）
○　自分や友達のよさや価値に気付き，自分の特性を生かそうとする子供　（向上性）

2　主題について

多言語とは，複数の言語が並存していることである。多文化とは，異なる文化をもつ集団が存在していることである。多言語・多文化との共生とは，国籍や民族など異なる人々が言語的や文化的な違いを認め合い，対等な関係を築こうとしながら共に生きていくことである。日本社会をはじめ，多くの社会には多言語・多文化が存在している。また，近年のグローバル化の進展により，個人の中に複数の言語と文化の混在が身近なものとなっている。多言語・多文化との共生を目指す帰国子女教育とは，海外での滞在経験から，多様な言語や文化に慣れ親しんでいる帰国子女学級の子供たちが，それぞれがもつ特性に気付き，互いの多様さを認め合いながら，自分の特性を生かした生き方を見つけていくことである（図１）。

【図１　帰国子女教育における目指す子供の姿】

本年度の研究においては，子供たちの母語や第２言語を焦点化し，「ことば」の学びを通して子供たちの資質・能力の育成を目指す。母語と第２言語を活用したとは，帰国子女の特性を生かして，それぞれの母語と世界の共通語である英語を学習に取り入れることである。母語と第２言語を活用した領域「ことば」の学びとは，子供たちの多数にとって母語であり，子供たちがこれから日本で生活していく上で必要となる日本語，多数の子供にとって第２言語である英語に重点を置き，それらを効果的に関連付けながら題材配列を行うことである。また，子供が得意とすることばを選んで主体的に学びを深めることである（図２）。



【図２　本学級における「ことば」の学び】

3　具体的方途

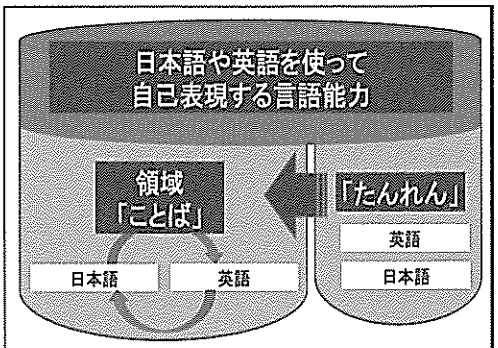
(1) 教材化の条件

帰国子女学級の子供たちが日本の学校や社会で生活していく上で必要な力を身に付けていくとともに，滞在国で身に付けたことばを保持したり，日本語の語彙や表現を獲得したりするための教材化の条件を次の３つとする。

○　ことばの獲得状況に応じて，母語や第２言語，滞在国のことばを使って表現活動ができるもの
○　それぞれの滞在国の衣食住，行事や音楽などの文化について，子供たちが日本や自分の滞在国との比較を通して，共通点や相違点をとらえ，互いの多様性を認識できるもの
○　他者，異文化や日本文化との関わりを通して，自分の海外での生活経験の価値や自分のよさを認識したり，ことばとの関わり方について考えたりすることができるもの

(2) 領域「ことば」と「たんれん（英会話）」の関連

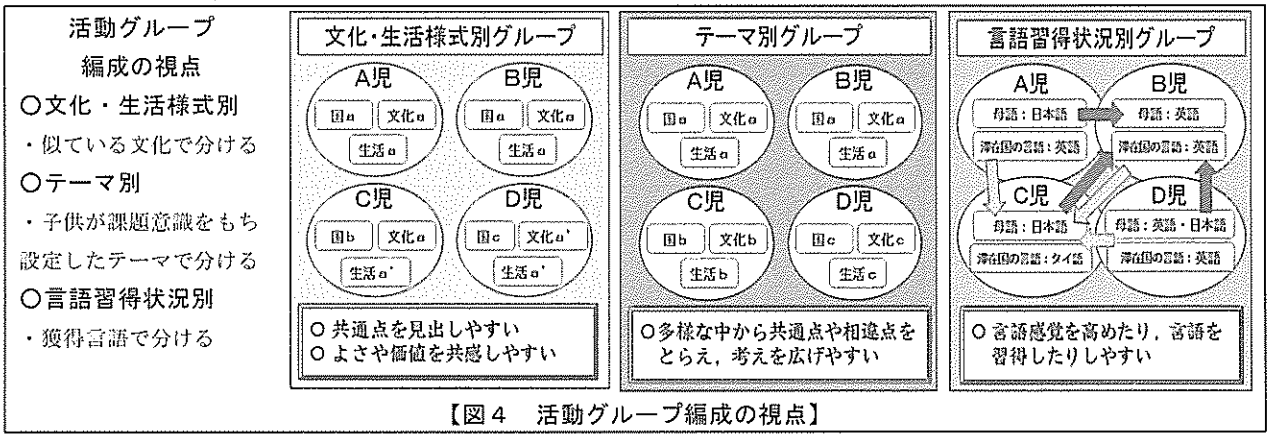
現在，帰国子女学級には，滞在国で第２言語として英語に慣れ親しむ機会がなかった子供が数名在籍している。また，母語が英語であり，日本での生活経験が乏しい子供にとっては，日本語力の向上が喫緊の課題である。このように，それぞれの滞在国や滞在期間の違いから，子供の言語の習得状況は様々である。そこで，子供がこれから日本で生活していく上で不可欠となる日本語，グローバル化した社会で活躍する上で不可欠となる世界の共通語である英語の力を向上させることが大切である。そのために，領域「ことば」や「たんれん」の学習を通して，日本語や英語を効果的に関連させたり，ことばと自分の生活とを関連付けさせたりしながら，ことばの力を高めていくことが重要である。そこで，領域「ことば」では，日本語と英語とを関連付け，「たんれん」では，英語や日本語の基礎・基本に特化し，多面的に言語能力を育成していくようにする（図３）。



【図３　子供の「ことば」の学び】

(3) 目的や内容に応じた活動グループの編成

帰国子女学級の子供たちの実態は，滞在国，滞在期間，学校（現地校か日本人学校及び補習校），日本語の習得度など様々である。学習のねらいを達成したり，学びを深めたりするためには，単独の活動ではなく，グループでの活動が望ましい。その際，個の実態を考慮して活動グループの編成を行うことが不可欠である。そこで，図４のように３つの視点をもとに活動グループを編成し，子供たちがグループ内で多様な文化や考え方に触れ，自分の考え方を広げたり，得意とすることばを使って学び合ったりできるようにする。



【図４　活動グループ編成の視点】

4　評価方法の工夫

評価については，領域「ことば」や「たんれん（英会話）」の学びを軸に，個に応じて作成したルーブリックや題材を通したポートフォリオなどをもとにして子供の変容を見取る。また，学習プリントに振り返りを記述させ，交流させる。それに加えて，自分の生き方や学びの振り返りに使うノートに各時間のねらいに沿って自由記述で振り返りを書かせたり，個に応じて振り返り用紙をノートに貼ったりさせながら，自分の変容や学びの広がりを実感させるようにする。このように学びと振り返りの蓄積を行い，それらをもとに自己を見つめさせることで，自分自身の海外での生活経験の価値や成長を実感させ，ことばとの関わり方を明確にしていくことができるようにする。

「たんれん」

脳の記憶の仕組みと目的意識をもとに知識・技能の習熟を図る

1　新設の趣旨

(1) 新設の趣旨と内容設定

子供たちが資質・能力を旺盛に発揮するためには，学びを深める上で土台となる基礎的な知識・技能の習熟が必要である。また，近年，脳科学の研究が進み，脳の記憶の仕組みも明らかになってきている。

そこで，「ことば」「すうがく」「くらし」「かがく」「けんこう」の５領域において，今後も必要となるであろう知識・技能や，脳の記憶の仕組みに適していて，興味・関心，目的意識をもとに意欲的に追究することができる知識・技能を内容として位置付ける。

(2) 学習活動

脳の記憶の仕組みを生かして，学習活動を設定する。具体的には，「一つの知識・技能を連続して保存，検索させるより，時期を分散してリズムを決めて行う方が効果的である」，「変化のある状況が記憶の強化につながる」「インターリーブという差し込む行為を組み込むことで効果が高まる」といった仕組みを生かした学習活動を設定する。

2　目標

自分で設定した目標達成に向けて個別に追究する活動を通して，新領域の学びの土台となる基礎的な知識・技能を確実に身に付けるようにする。

3　内容　※本年度の仮説設定

ことば	A　慣用句・俳句	ことわざ，慣用句，四字熟語，詩，俳句
	B　英会話	日常会話や自分の思いや考えを伝える英会話表現
	C　漢字	日常よく使う難易度の高い漢字の読み，書き
すうがく	A　計算	たし算，ひき算，かけ算，わり算
	B　単位	よく使う単位，単位換算（長さ，重さなど）
	C　図形	図形の名称（平面図形，立体図形）
	D　公式	よく使う公式（面積，体積，速さなど）
くらし	A　都道府県	日本の地理，47都道府県の名称と位置
	B　地図記号	地図帳に記載されている地図記号と名称の一致
	C　世界地図	世界の主要な国の国旗と国名，位置
	D　歴史人物	歴史上の人物の写真と名前の一致
かがく	A　天体	天体の名称，季節を代表する星座，星の名称
	B　生き物	身近な昆虫や植物の名称
	C　実験器具	基本的な実験器具の名称
	D　記号	基本的な化学記号，単位
けんこう	A　持久走	目標と体力に合わせた走り方
	B　集団行動	正常歩行，整列，隊形移動など

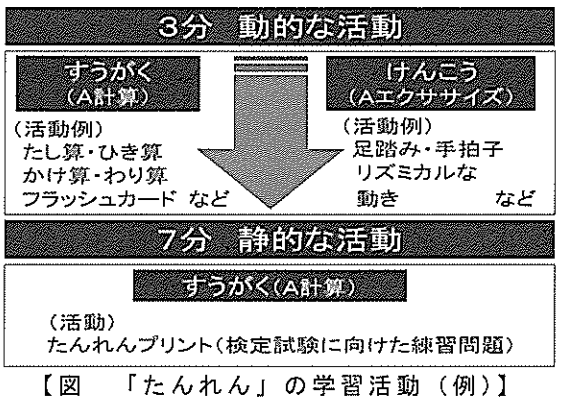
4　実施方法

(1) 基本的な活動構成

コグニサイズ（運動と脳を使う認知課題を組み合わせて同時に行うエクササイズ）の考え方を使って，動的な活動と静的な活動を組み合わせる（右図）。

(2) 目的意識（到達目標）の設定

各領域で，１級から５級までの検定内容を設定し，定期的に検定試験を実施する。これは，教師の評価機能と，子供自らの学習状況の把握と活動意欲の維持・向上の機能を兼ね備えている。



【図　「たんれん」の学習活動（例）】

MEMO

第１学年

実践

実践事例　第1学年　「あらつあそびたい」プラン

テーマ　自立　　指導者　　岡崎　教昭・野口　順也

関連領域　くらし →（にんげん・げいじゅつ・けんこう）→ くらし

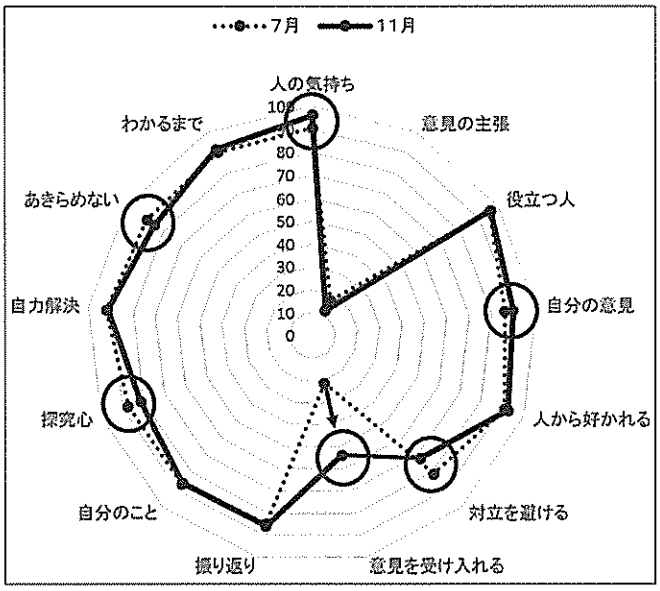
1　資質・能力

◎　様々な材料や場所，友達との関わりを通して，楽しむために大切なことを考えながら，試行錯誤を繰り返して自分の遊びをつくりだすことができる。（創造性）

○　友達と一緒に互いの遊びを体験し合い，感じた面白さや楽しさについて伝え合ったり，よりよい遊びにしようとしたりすることができる。（協働性）

◎　自分がつくりだした遊びに面白さや楽しさを見いだし，楽しめる遊びをつくりだすことができた自分のよさに気付くことができる。（向上性）

2　子供たちの実態



【図　子供の実態】

本学年の子供たちは，人の気持ちを考え，他人の役に立ちたいなどというように，他者との関係を重視している。また，自分で課題を解決したいという強い気持ちをもっている。実際，学校生活において，ペットボトルの蓋と竹ひごを使ってつくった自作の独楽で遊んだり，「かもつれっしゃ」の歌に合わせてじゃんけん遊びをしたり，自分たちで遊び方を工夫した鬼遊びをしたりしながら，遊びに没頭している姿も見られた。これらの姿は，経験や学びを活かして自分たちの遊びをつくりだし，その遊びに没頭し，楽しむことへの意欲が高いことを示しており，子供たちにとって遊びの創造が学びにつながるといえる。一方で，決められた場や用具，決まりに則して遊ぶ遊びを好む傾向も強い。そこで，身の回りにある様々な材料や場所，友達との関わりから自分たちの手で遊びをつくりだす楽しさを味わい，生活をよりよくしていこうとする資質・能力を高めるために，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連して学びを展開していく。

3　題材の考え方

本題材では，様々な材料や場所の特徴を活かしたり，友達との関わりをもったりしながら，自分の遊びをつくりだし，面白さや楽しさを味わいながら遊ぶことを通して，自分で遊びをつくりだすことで学校生活を楽しくすることができるということに気付き，主体的に生活に活かそうとする態度を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域くらしを中心として生活を豊かにする遊びを楽しむことを通して，日常生活をよりよいものにしていこうとする過程で，「にんげん」「げいじゅつ」「けんこう」を子供の求めに応じて関連させていくことで，効果的に課題を解決していくことができると考えた。具体的には，①様々な材料や場所，友達に関わりながら遊ぶことで，自分の遊びづくりに大切なことに気付き，考えた遊びを何度も試し，よりよいものにつくりかえながら，遊び方の工夫を考えることのよさを味わうこと（くらし），②楽しい遊びにするための決まりや大切にしたいこと，どのような遊びの場にするとよいかということなど，遊びの方法や考え方，態度について考えること（にんげん），③様々な色をつくりながら遊ぶことや，リズム遊びや音遊びを楽しむことを通して，色や音の特徴を活かした表現の面白さや楽しさを味わうこと（げいじゅつ），④遊びの中で体を動かすことの楽しさに気付き，友達と場や決まりについて話し合うことを通して，体を動かす遊びを楽しむこと（けんこう）などである。最終的には，各領域での学びを生かして「あらつあそびパーク」を開き，自分たちの遊びの価値を認識することにつなげたい。また，遊びは子供たちの生活の身近にあり，第１学年の子供たちは遊びを通して多くのことを学ぶ。固定されたきまりはなく，遊ぶ人や場所などの特徴によって決まりを作ったり遊び方を変えたりすることができる。このような多様性をもつ遊びを通して学ぶことは，自分の考えをもち，自分で生活をつくりだしながら様々な特徴をもつ人と関わり，よりよい社会をつくっていこうという態度を育む上でも価値がある。

学びのプラン

段階	導入	展開
	1　様々な材料や場所，友達との関わりを通して遊びながら，感じた面白さや楽しさについて話し合う。	2　楽しく遊ぶための遊び方や決まりなどについて考えながら，自分たちの遊びをつくる。

くらし⑮

1　様々な材料や場所，友達と関わりながら，自分たちの遊びをつくりだして，楽しく遊ぶ。⑥
○　みんなで楽しく遊ぶ面白さや楽しさを見いだすこと

学習課題　もっと楽しく遊ぶことができるように，自分たちの遊びをつくろう。

2　友達と一緒に遊びを工夫したり，新たな遊びで遊んだりすることを通して，自分たちの遊びをつくり，楽しく遊ぶ。⑧
(1) 友達と一緒に考えた遊びを工夫したり，新たな遊びをつくったりして遊ぶ。④
○　遊びを工夫することや新たな遊びで遊ぶことの面白さや楽しさを味わうこと

にんげん⑩

学習課題　楽しい遊びにするための決まりや大切なことを見つけよう。

1　友達と一緒に遊んで楽しかったことについて話し合う。②
○　楽しく遊ぶための決まりや制限などの必要性に気付くこと

2　自分たちが楽しく遊ぶための決まりや大切なことについて考え，楽しく遊ぶことについて話し合う。⑥
(1) 楽しく遊ぶための決まりや大切なことなどについて話し合う。③
○　楽しく遊ぶための決まりや制限など，大切なことを明らかにすること

げいじゅつ⑭

学習課題　自分たちで色遊びや音遊びをつくって，楽しく遊ぼう。

1　自分たちで考えた音遊びや色遊びをして遊ぶ。②
○　色遊びや音遊びの面白さや楽しさを味わうこと

2　様々な打楽器の特徴を生かした音遊びや食紅えのぐを使った色遊びをしながら，自分たちの音遊びや色遊びをつくって遊ぶ。⑫
(1) 竹を使った音遊びや絵の具やペンを使った色遊びの面白さや楽しさについて話し合う。②
○　音遊びや色遊びの面白さや楽しさについて具体化するとともに，自分たちで音遊びや色遊びをつくることへの意欲を高めること

けんこう⑩

学習課題　体を動かす遊びで友達と楽しく遊ぶことができるように，遊び方や決まりについて話し合ったり，上手にするこつを見つけたりしよう。

1　自分たちで考えた体を動かす遊びをして遊ぶ。②
○　体を動かす遊びの面白さや楽しさを味わうこと

2　体を動かす遊びで友達と楽しく遊ぶことができるようにするために，友達と遊びながら遊び方や決まりについて話し合ったり，上手に遊ぶこつを見つけたりする。⑧
(1) 自分たちで考えた体を動かす遊びをさらに楽しくするための遊び方や決まりについて話し合う。①
○　自分たちでつくった体を動かす遊びの面白さや楽しさについて具体化するとともに，遊びを楽しくすることへの意欲を高めること

評価

領域「くらし」において，自分たちの遊びの経験をもとに，してみたいことについて発表したり，遊びを工夫したり，新たな遊びをしたりする活動に没頭する子供の姿から，以下の方法で評価をする。
→　「あそびノート」や「マイタイムノート」への記述内容，考えた遊びの工夫やつくったものの変化，友達とともに活動しているときの発言内容

展開	終末
2　楽しく遊ぶための遊び方や決まりなどについて考えながら，自分たちの遊びをつくる。	3　あらつあそびパークで，自分たちがつくった遊びの面白さや楽しさを紹介したり，一緒に遊んだりする。

2　友達と一緒に遊びを工夫したり，新たな遊びで遊んだりすることを通して，自分たちの遊びをつくり，楽しく遊ぶ。⑧
(2) 友達と話し合いながら，自分たちがつくりたい遊びをつくる。④
○　楽しい遊びにするための工夫をするための視点や材料，用具などについて考えること

3　あらつフェスタであらつあそびパークを開き，自分たちが考えた遊びについて説明したり，一緒に遊んだりする。①
○　多様な他者からの価値付けをもとにして，自分たちの遊びの価値を認識すること

2　自分たちが楽しく遊ぶための決まりや大切なことについて考え，楽しく遊ぶことについて話し合う。⑥
(2) どのような遊び場をつくるとよいか，自分の経験をもとに話し合う。③
○　遊び場が，自分たちの遊びの面白さや楽しさを味わえる場になるために大切なことを明らかにすること

3　友達との関わりや遊び場づくりを通して自分の成長や学びについて気付いたことをマイタイムノートにかく。②
○　自分の力で遊びをつくりだすことが自分の成長にとってどのような価値があったのか考えること

2　様々な打楽器の特徴を生かした音遊びや食紅絵の具を使った色遊びをしながら，自分たちの音遊びや色遊びをつくって遊ぶ。⑫
(2) 様々な打楽器を使った音遊びや食紅絵の具を使った色遊びを考え，楽しく遊ぶ。⑩
○　表現素材への関わりから音遊びや色遊びの面白さや楽しさを見いだし，遊びの楽しさを味わうこと

2　体を動かす遊びで友達と楽しく遊ぶことができるようにするために，友達と遊びながら遊び方や決まりについて話し合ったり，上手に遊ぶこつを見つけたりする。⑧
(2) 話し合って考えた体を動かす遊びの遊び方や決まりを生かして，実際に遊ぶ。⑦
○　自分たちでつくった体を動かす遊びの面白さや楽しさを味わいながら，さらに楽しく遊ぶための工夫について考えること

評価	領域「くらし」において，友達との関わりやあらつあそびパークづくりの中で友達と一緒に遊びを工夫したり，学びについて気付いたことを話し合ったりする姿から，以下の方法で評価をする。 →　「あそびノート」や「マイタイムノート」への記述内容，考えた遊びの工夫やつくったものの変化，友達とともに活動しているときの発言内容

実践事例　第1学年　「あらつあそびたい」プラン
～つくろう！いろあそび・おとあそび～

領域　げいじゅつ　　指導者　岡﨑　教昭

1　資質・能力

◎　晒竹や紙コップなどで作った手作り楽器，食紅絵の具や和紙などの材料を使い，友達と関わることを通して，楽しむために大切なことを考えながら，自分の遊びをつくりだすことができる。　（創造性）

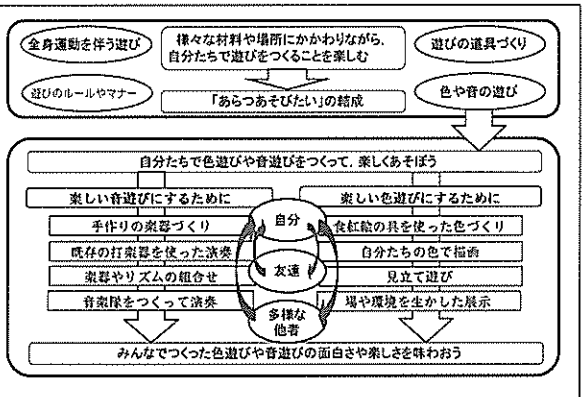
○　友達と一緒に互いの色や音の遊びを体験し合い，感じた面白さや楽しさについて伝え合ったり，よりよい遊びにしたりすることができる。　（協働性）

○　自分がつくりだした色や音の遊びに面白さや楽しさを見いだし，楽しめる遊びをつくりだすことができた自分のよさに気付くことができる。　（向上性）

2　題材における領域「げいじゅつ」の考え方

本題材では，様々な色をつくりながら遊ぶことや，音遊びを楽しむことを通して，色や音の特徴を活かした表現の面白さや楽しさを味わうことができるようにする。また，自分たちがつくりだした色や音の遊びで，自分たちの生活を豊かにすることができるということに気付くことをねらいとしている。具体的には，①食紅絵の具で自分の好きな色をつくり，絵や模様を描く楽しさを味わうこと，②晒竹や紙コップ，小豆などで作った手作り楽器を使って音遊びをする楽しさを味わうこと，③自分たちがつくった色や音の遊びを通して多様な他者と関わることで，自分たちで色や音の特徴を活かした遊びをつくりだすことの面白さや楽しさを味わうことなどである。領域「くらし」の学習で「あらつあそびたい」を結成し，様々な遊びづくりを行っていく中で生じた，造形や音楽に関する遊びについて深く追究していきたいという子供の思いをもとに領域「げいじゅつ」の学習を展開していくことは，生活の中で主体的に美を追究していく態度を養う上でも大切なことであると考える。

3　学習の流れと考察



【題材における領域「げいじゅつ」の構造】

導入段階のねらい

自分たちがつくってきた色遊びや音遊びを体験して，面白さや楽しさ，よりよい遊びにするためにしたいことについて考えることができる。

【資料１　追究意欲を高めるＡ・Ｂ児】

導入段階では，友達がつくってきた色遊びや音遊びで遊んでみたいという子供の求めが出た。そこで，互いがつくってきた色遊びや音遊びの面白さや楽しさを感じ取りながら，よりよくしていきたいという追究の意欲を高めるために，自分たちがつくりだしてきた色遊びや音遊びを体験した。Ａ児は，「友達の音楽隊の演奏を聴いて，すごいと思った。わたしも竹の楽器を作って，友達と音楽隊をしたい。」という追究課題をもつことができた。Ａ児の他にも，「みんなでつくった色でいろいろな絵を描きたい。」「もっときれいな色をつくりたい。」「もっといろいろな楽器をつくりたい。」などのように，色遊びや音遊びに関する追究の課題をもつ子供の姿が見られた（資料１）。

考察１

「あらつあそびたい」の活動でつくりだしてきた色や音の遊びを互いに体験し合う活動を設定したことは，子供が色や音の遊びに対する追究意欲を高め，具体的な課題をもつ上で有効であった。その根拠は，９割の子供が色や音の遊びについて，したいことを明確にすることができていたからである。これは，領域「げいじゅつ」で大切にしている感性を高める問いである「もし色や音をつくったら（変えたら）どのようになるか。」にもあたり，達成できたといえる。

展開段階のねらい

材料の特徴や友達との関わりを活かしながら，楽しい色遊びや音遊びをつくることができる。

(1) 竹を使った音遊びや絵の具やペンを使った色遊びの面白さや楽しさについて話し合う。

【資料２　気付きや追究課題を明確にするＡ・Ｂ児】

(2) 様々な打楽器を使った音遊びや食紅絵の具を使った色遊びを考え，楽しく遊ぶ。

【資料３　音遊びや色遊びに没頭するＡ・Ｂ児】

展開段階では，まず自分たちがつくりだしてきた音遊びや色遊びの面白さや楽しさについて話し合った。そして，追究していきたい音遊びや色遊びについて，使いたい材料やしてみたいことについて思っていることをまとめ，伝え合った（資料２）。次に，音遊びの紙コップや小豆，色遊びの食紅絵の具や和紙など，新たな材料を使い，様々な場所で友達と感じたことを伝え合いながら，音遊びや色遊びを新たにつくったり，つくりかえたりした。Ａ児のように，食紅絵の具の組合せを試しながら様々な色をつくって名前を付けたり，Ｂ児のように手作り楽器を演奏しながら友達と一緒にパレードをしたりするなど，色遊びや音遊びに没頭する子供の姿が見られた。また，食紅絵の具と和紙の特徴から光の効果を活かすことを発想する子供や，既存の打楽器を活用したり自分たちでリズム譜をつくって演奏を楽しんだりする子供の姿も見られた（資料３）。

考察2

子供の求めに応じて材料や場を提示し，活動を発展できるようにしたことは，有効であった。その根拠は，資料３のように，活動に没頭しながら造形や音楽の学びを広げたり深めたりする姿が見られたからである。

終末段階のねらい

自分たちがつくりだした音遊びや色遊びの面白さや楽しさを実感し，学びを見いだすことができる。

《A児の振り返り記述》

わたしは，いろあそびで，いろいろないろをつくりました。とくにきれいないろは，「金いろ」です。どのようにしてつくるかというと，水をすこし入れて，えのぐのきいろをすこし入れたらかんせいです。ほかにもたくさんのいろができたので，もっとほかの学年にも見せたいです。

音あそびでは，竹でつくったがっきでひる休みにもみんなでえんそうしました。音あそびがたのしいのは，竹のながさがちがうと音がかわるということに気がついたからです。

【資料４　他者に伝え，自分の学びに気付くＡ児】

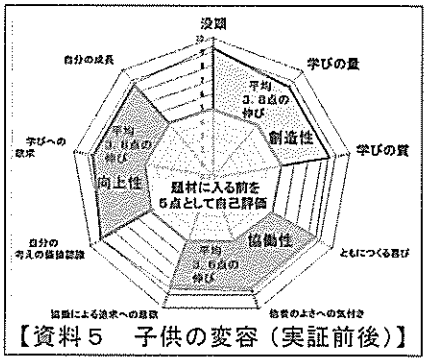
終末段階では，自分たちがつくりだした色遊びや音遊びを，あらつフェスタで参会者に紹介し，体験してもらった。そして，音遊びや色遊びを通して学んだことについて振り返りカードに記述した。あらつフェスタの振り返りカードには，自分たちがつくった色がきれいだと言ってもらえたことに対する喜びや，手作り楽器を作って演奏体験をする参会者の笑顔を見て自分も嬉しくなったという記述が見られた。Ａ児は，あらつあそびたいの振り返りカードに，色をつくることの楽しさや楽器の特徴による音の違いに関する気付きを得たことを学びとして記述していた（資料４）。

考察3

自分たちがつくりだした遊びの面白さや楽しさを他者に伝え，色や音に関する学びについてまとめる活動を設定したことは有効であった。その根拠は，資料４のＡ児の振り返り記述のように，造形や音楽に関する学びを具体的にとらえ，さらに活動を発展させたいという意欲をもっている姿が見られたからである。

全体考察

本題材は特に創造性と向上性の伸長に有効であったと判断できる（資料５）。これは，考察２，３で述べたように，子供の求めに応じて材料や場，教具などを提示し，活用させたことが，自分たちで遊びをつくりだすことに没頭しながら，造形や音楽に関する学びを得ることにつながったと考えられる。今後は，協働性を高める手だてとして，集団による遊びへと発展する材を提示していく必要がある。



【資料５　子供の変容（実証前後）】

実践事例　第1学年　「あらつあそびたい」プラン

領域　にんげん　　指導者　野口　順也

1　資質・能力

◎　自分たちで考えた様々な遊びをみんなで楽しむために大切な遊び方やルールについて話し合い，遊び方やルールをまとめた「あそびたい手ちょう」をつくり，活用することができる。　（創造性）

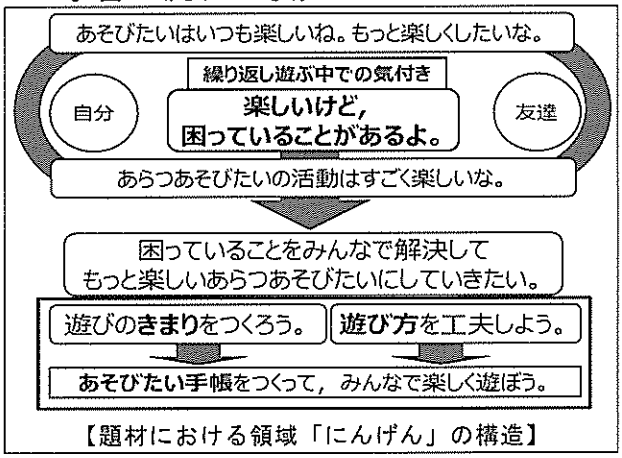
○　みんなで楽しむために大切な遊び方やルールについて友達とお互いの考えを伝え合ったり，一緒に考えながらまとめたりすることができる。　（協働性）

○　自分たちで遊びを考えたり，大切な遊び方やルールをつくったりする中で，自分の成長や学びをとらえることができる。　（向上性）

2　題材における領域「にんげん」の考え方

本題材では，自分たちでつくりだした遊びで繰り返し遊ぶ中で生まれた困っていることを解決し，みんなで楽しむことができる遊びにするためのきまりや遊び方を話し合ってまとめた，「あそびたい手帳」をつくることができるようにする。また，自分たちで遊びやそのルール，遊び方を考えたことで，自分たちで決めたことを守ることのよさをとらえることができることをねらいとしている。具体的には，①遊びの中で生まれた困っていることを解決するためには，みんなできまりをつくることが大切だと考えること，②きまりだけでなく遊び方についてもまとめ，みんなで決めたことを守ろうとすること，③自分たちで遊びを考えたり，決まりをつくって守ったりしたことを振り返り，自分ができるようになったことを考えることなどである。自分たちで考えた遊びを行う中で生まれた困っていることを，自分たちできまりや遊び方の工夫をつくって解決していこうとする態度を養うことは，自分の生活を自分たちでつくりだす上で大切なことだと考える。

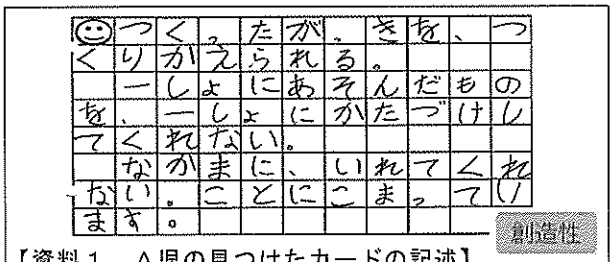
3　学習の流れと考察



【題材における領域「にんげん」の構造】

導入段階のねらい

考えた遊びで友達と一緒に遊んだ経験をもとに，もっとみんなで楽しく遊ぶために追究する課題を設定することができる。



【資料１　Ａ児の見つけたカードの記述】

導入段階では，くらしの時間の活動を振り返り，「みんなで楽しく遊ぶことができましたか」という質問に対して，「竹の楽器で演奏することが楽しかった」という意見が出た。その後，書きためた「見つけたカード」を見ながらさらに交流した。すると，「見つけたカード」に「つくったがっきをつくりかえられる。一しょにあそんだものを一しょにかたづけてくれない。なかまにいれてくれないことに困っています」という記述があったことから，「楽しいけれど，困っていることがある」という意見が出た（資料１）。その意見に対して「楽しいのだから，困っていることがあってもよいのではないか」と問いかけると，「困っていることを解決したら，もっと楽しいあそびたいになる」という意見が出て，さらに「みんなで困っていることを解決したい」という発言が出た。そして，「困っていることを解決するにはどのようにすればよいだろうか」という全体の問いが出た。そこで，解決するために，その解決案を話し合っていくことを決めた。

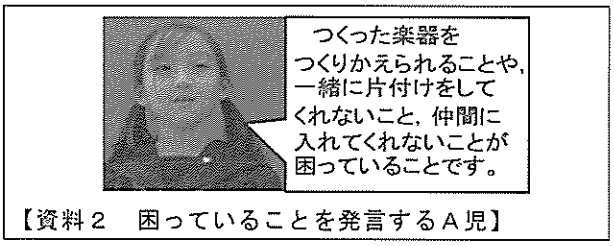
考察１

書きためてきた見つけたカードを活用して振り返りを行ったことは，困ったことに気付かせ，もっと楽しく遊ぶためにという課題をもち，創造性を発揮する上で有効であった。その根拠は，資料１にあるように楽しい中にある困ったことに気付いたからである。

展開段階のねらい

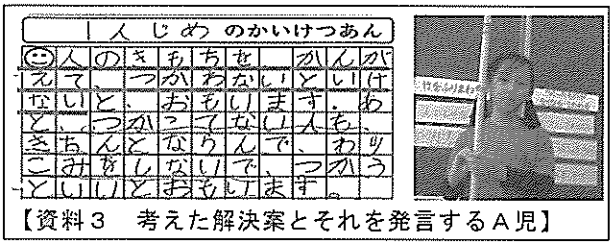
困っていることを解決する解決案を交流し，みんなで楽しむためのルールや工夫についてまとめ，あそびたい手帳をつくることができる。

(1) 困っていることを出し合い，それぞれについて解決案や遊ぶときに大切にすることを考える。



【資料２　困っていることを発言するＡ児】

(2) どうすれば解決できるか，解決案をもとに話し合い，遊ぶときに大切にすることをまとめる。



【資料３　考えた解決案とそれを発言するＡ児】

(3) 担当した部分のルールや遊び方を考え，あそびたい手帳をつくる。

【資料４　Ａ児の手帳の内容と手帳作成後の振り返り，話し合いの様子】

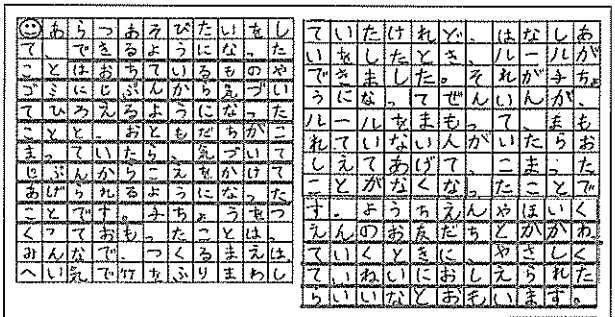
展開段階では，まず，全体の問いにある困っていることについて出し合った。「物（道具）がなくなる」，「片付けをしない」，「仲間に入れてもらえない」などが困っていることとして出た。次にそれぞれについて，どのようにすれば解決できるのか，解決案を考え話し合った。「名前を書く」，「譲り合う」，「嬉しくなる言葉を言う」などが解決案として出た。その解決案をまとめる中で，「解決案をルールにしたらよいのではないか」という意見から，「ルールを決めて手帳みたいにしたらみんなが守ることができる」という意見にまとまり，担当を決めて「あそびたい手帳」をつくることにした。まずは，それぞれがルールや遊び方の工夫を考えまとめた。その後，担当ごとに集まり，伝えたいことや書きたいことを話し合い，共通理解したことを「みんなで大切にすることカード」にまとめた。全体，遊びそれぞれで大切にすることをまとめ「あそびたい手ちょう」を作成し，完成したことを振り返った。

考察2

困っていることを解決し，その解決案からルールや遊び方の工夫を考え，「あそびたい手帳」を作成したことは，創造性を発揮させる上で有効であった。その根拠は，資料４の傍線部のように自分たちがつくったことに対して価値を感じているからである。

終末段階のねらい

自分たちで遊びをつくったり，ルールを考えたりしたことを振り返り，自分の成長や学びをとらえることができる。



【資料５　Ａ児の振り返りカード】

向上性

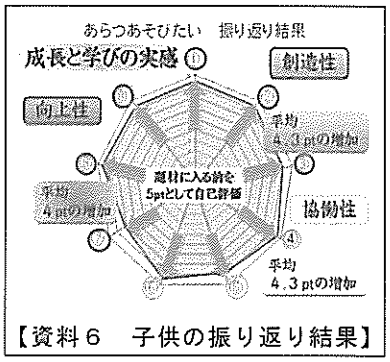
終末段階では，活動中の動画やつくった手帳を見ながら，あらつあそびたいの活動をしてよかったかどうかを振り返る場を設定した。「片付けをすることが前よりできるようになった」や「友達に優しく声をかけることができるようになった」などの発言があった。Ａ児が記入した振り返りカードには「ようちえんやほいくえんのおともだちとかかわっていくときに」という記述があり，今後は年下の子供たちに遊びを伝えていくという方向性をもつことができた（資料５）。

考察3

活動中の動画やつくった手帳を見ながら，あらつあそびたいの活動全体を通して，自分を振り返る場を設定したことは，向上性を発揮させる上で有効であった。その根拠は，資料５の傍線部のように，Ａ児が活動を通した自分の成長と学びをとらえ，今後の活動への見通しをもつことができていたからである。

全体考察

本題材は，特に創造性の伸長に有効であったと判断できる（資料６）。



【資料６　子供の振り返り結果】

考察１，２から，創造性の発揮には，見つけたカードを活用した交流と問題を解決する手帳を作成したことが大きく影響したと考えられる。以上のことから創造性を発揮するためには，自分たちで問題を解決する活動が有効であると考察することができる。今後は向上性を発揮させるために自己を見つめる指標を提示していく必要がある。

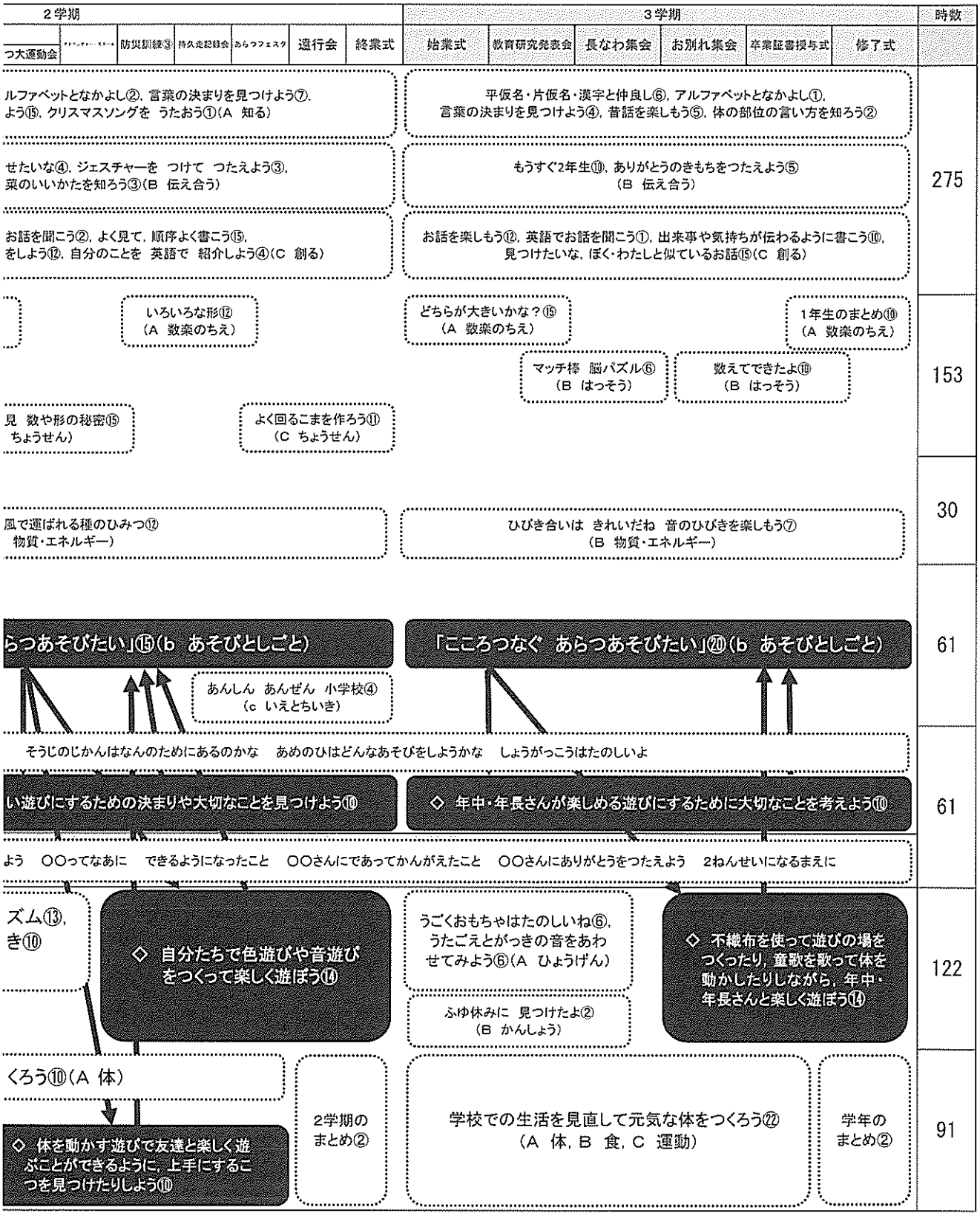
H２９年度　年間指導計画　第１学年

単独題材名　関連題材名　学びが進む方向に矢印でつなぐ

	１学期												教育実習			
学校行事	始業式	入学式	歓迎遠足	参見学芸会	防災訓練①	交通安全教室	修学旅行	授業づくりセミナー	プール清掃	プール開き	福度・縦引き大会	終業式	始業式	防災訓練②	月見学芸会	あら
ことば	平仮名と仲良し⑰，アルファベットと仲良し②，言葉の決まりを見つけよう⑫（A 知る）												平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑬，ア 福岡に伝わるお話を紹介し			
	どうぞよろしく④，絵を見て話そう④，宝物は何ですか⑦，世界のいろいろな言葉であいさつしよう④， いろいろな色と動物のいいかたを知ろう④（B 伝え合う）												お話聞いて④，知らせたいな 見 いろいろな果物と野			
	お話を楽しもう⑳，英語でお話を聞こう①，文を作ったり，文章を書いたりしよう⑭ （C 創る）												お話を楽しもう㉚，英語で 幼稚園や保育園の友達に読み聞かせ			
すうがく	かずと ともだち⑩ （A 数楽のちえ）									なんばんめに なるのかな⑭ （A 数楽のちえ）		あわせると ふえると⑭ （A 数楽のちえ）	いま何時？⑫ （A 数楽のちえ）		のこりは ちがいは⑩ （A 数楽のちえ）	
	すごろくあそび パズルあそび⑥ （B はっそう）															
	いくつ さいたかな⑧ （C ちょうせん）														あつめて発 （C	
かがく	おおきくなあれ！ わたしのおはな⑪ （A 生命・地球）															
													すごいね （B			
くらし	しょうがっこうって どんな ところ？③ （a おかねときまり）												めざせ おてつだいめいじん⑥ （a おかねときまり）			
										のりもの だいすき⑤ （b あそびとしごと）					「あ	
											こうえんに いってみたら⑧ （c いえとちいき）					
にんげん	予想される内容（B わたしたち）：がっこうになれよう　みつけたともだちのよいところ　きゅうしょくのじかんをもっとすてきに															
															◇ 楽し	
	My Time㉞	予想される内容（A わたし）：1ねんせいになって　じぶんの○○みつけたよ　どうして○○なんだろう　がっこうの○○をさがしてみ														
げいじゅつ	いっぱいかいたよ つくったよ⑩，かみっておもしろい！⑩， みんなでうたおう⑧，すてきな音 見いつけた⑫（A ひょうげん）												はこハコ大しゅうごう⑬，ドレミとリ つくってみよう！はじめてのげ （A ひょうげん）			
	すてきな音 見いつけた②，かみっておもしろい！②（B かんしょう）															
けんこう	オリエンテーション②	給食 おいしいね④（B 食）										1学期のまとめ②	元気な体をつ			
		元気いっぱい走ろう！⑥，力強い動きできるかな⑧，水と仲よし⑩（C 運動）											道具と仲よし⑥，続けて走ろう4分間⑦ （C 運動）			

◇課題

学年テーマ【自立】


2学期
3学期
時数
つ大運動会
防災訓練③
持久走記録会
あらつフェスタ
遠行会
終業式
始業式
教育研究発表会
長なわ集会
お別れ集会
卒業証書授与式
修了式
ルファベットとなかよし②，言葉の決まりを見つけよう⑦，
よう⑮，クリスマスソングを うたおう①（A 知る）
平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑥，アルファベットとなかよし①，
言葉の決まりを見つけよう④，昔話を楽しもう⑤，体の部位の言い方を知ろう②
せたいな④，ジェスチャーを つけて つたえよう③，
菜のいいかたを知ろう③（B 伝え合う）
もうすぐ2年生⑩，ありがとうのきもちをつたえよう⑤
（B 伝え合う）
275
お話を聞こう②，よく見て，順序よく書こう⑮，
をしよう⑫，自分のことを 英語で 紹介しよう④（C 創る）
お話を楽しもう⑫，英語でお話を聞こう①，出来事や気持ちが伝わるように書こう⑩，
見つけたいな，ぼく・わたしと似ているお話⑮（C 創る）
いろいろな形⑫
（A 数楽のちえ）
どちらが大きいかな？⑮
（A 数楽のちえ）
1年生のまとめ⑩
（A 数楽のちえ）
マッチ棒 脳パズル⑥
（B はっそう）
数えてできたよ⑩
（B はっそう）
153
見 数や形の秘密⑮
ちょうせん）
よく回るこまを作ろう⑪
（C ちょうせん）
風で運ばれる種のひみつ⑫
物質・エネルギー）
ひびき合いは きれいだね 音のひびきを楽しもう⑦
（B 物質・エネルギー）
30
らつあそびたい」⑮（b あそびとしごと）
「こころつなぐ あらつあそびたい」⑳（b あそびとしごと）
61
あんしん あんぜん 小学校④
（c いえとちいき）
そうじのじかんはなんのためにあるのかな あめのひはどんなあそびをしようかな しょうがっこうはたのしいよ
い遊びにするための決まりや大切なことを見つけよう⑩
◇ 年中・年長さんが楽しめる遊びにするために大切なことを考えよう⑩
61
よう ○○ってなあに できるようになったこと ○○さんにであってかんがえたこと ○○さんにありがとうをつたえよう 2ねんせいになるまえに
ズム⑬，
き⑩
◇ 自分たちで色遊びや音遊び
をつくって楽しく遊ぼう⑭
うごくおもちゃはたのしいね⑥，
うたごえとがっきの音をあわ
せてみよう⑥（A ひょうげん）
ふゆ休みに 見つけたよ②
（B かんしょう）
◇ 不織布を使って遊びの場を
つくったり，童歌を歌って体を
動かしたりしながら，年中・
年長さんと楽しく遊ぼう⑭
122
くろう⑩（A 体）
◇ 体を動かす遊びで友達と楽しく遊
ぶことができるように，上手にするこ
つを見つけたりしよう⑩
2学期の
まとめ②
学校での生活を見直して元気な体をつくろう㉒
（A 体，B 食，C 運動）
学年の
まとめ②
91

第２学年

実践

実践事例　第2学年　「つくって　食べよう　マイやさい」プラン

テーマ　生命（生長と成長）　　指導者　　関　尚幸・曽根﨑　達雄

関連領域　にんげん →（くらし・すうがく）→ にんげん

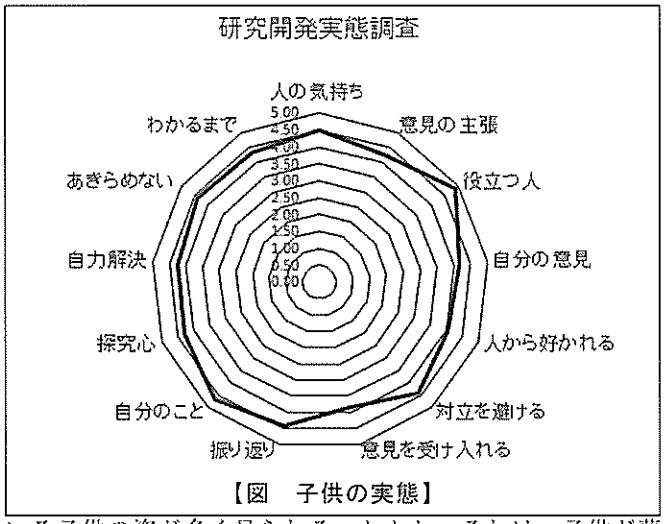
1　資質・能力

◎　自分たちで畑をつくったり，野菜の収穫をして食べたりする活動を通して，植物の命に感謝しながら，命あるものへのこれからの関わり方について考えることができる。　（創造性）

○　友達と考えを出し合いながら，畑作りの計画について話し合ったり，協力して野菜のお世話をしたりして，野菜を育てて収穫し，食べるという１つのことを全員でやり遂げることができる。　（協働性）

◎　これから野菜や植物との関わり方を考えることを通して，生命に対して感謝をもって過ごすことができる。　（向上性）

2　子供たちの実態



【図　子供の実態】

２年生の子供たちは，人の役に立ちたいという貢献の部分が特に育ってきている。これは，１年生のときのあらつフェスタで遊びを紹介したり，入学者説明会で学校紹介をしたりしたことで，相手に喜んでもらった経験があるからだと考える。子供たちは，自分たちがしたいことには，夢中になって取り組む姿が多く見られる。１年生のときの学習「よく回るこまをつくろう」でも，友達と一緒になって遊んだり，工夫しながらこまを作ったり，意欲的に学習に参加する姿が見られた。さらに，蚕を育てる経験もしている。この学習を通して，虫などの生物には命があり，命には終わりがあることを学び，自己の生き方について見つめ直してきている。２年生になっても蚕のお墓に花を添えている子供の姿が多く見られる。しかし，それは，子供が夢中になる昆虫など，動きがあるものに限定されている。普段の生活を見てみると，給食時間において，自分が嫌いな野菜だけを減らしたり，残したりする姿が多く見られる。他の子供も残っている給食を見て「もったいない。」と言う程度で，野菜の命をいただいているということを実感を伴って理解できていない。そこで，本題材の野菜の栽培，収穫，食事を通して，植物の命について考え，私たちはその命をいただいて生きていることをとらえさせたい。

3　題材の考え方

本題材では，商品としての野菜を栽培しているのではなく，自分たちがおいしくいただくために，栽培している方やその野菜をお店で提供している方との出会いを通して，自分の野菜を栽培し，おいしくいただこうと目的をもち，そのために，何をしないといけないのか調べ，試行錯誤しながら実践していく態度を養うことと，生命に対する考えを自分なりにもつことをねらいとしている。そのために題材では，領域「にんげん」を中心とした人の生き方に出合うことを通して，野菜を栽培していく過程で，「くらし」，「すうがく」を子供の求めに応じて関連させていくことで，「おいしいマイやさいを育てて，おいしくいただこう」という課題にいきつくと考えた。具体的には，①自分がおいしく食べるために野菜を栽培したり，料理したりしている方々の思いや生き方にふれること（にんげん），②おいしいマイやさいを収穫するという目的をもち，自分たちで試行錯誤しながら実践すること（くらし），③畝を作ったり，野菜の生長を調べたりするために，長さを計測すること（すうがく）などである。以上のように，領域「にんげん」を中心に，子供の求めに応じて他の領域と関連して題材を展開していった。題材の導入では，まず日本一の野菜ソムリエとの出会いから，野菜に魅力について学んだ。次に，おいしい野菜を自分が食べるために，お客さんに提供するために野菜を栽培している方の料理を実際に食べ，自分たちも野菜をつくりたいという思いをもった。その思いのもと，畑を見学したり，自分たちで野菜つくりについて調べたりして，畑の準備に取りかかった。その中で，自分がしたいことやしなければいけないことを実践し，領域「くらし」「すうがく」の中で，個の問題を解決していった。終末段階では，それまでの学びをもとに，「いただきます」「ごちそうさまでした」の意味について考え，話し合うことを想定している。

4　学びのプラン

段階	導入	展開
	1　野菜ソムリエの吉田さんやレストランのシェフの田川さんと出会い，これからの学習課題を話し合う。	2　おいしい自分たちの野菜をつくるための計画について話し合う。
すうがく⑮		
くらし㉕	1　おいしそうな野菜を見たり，簡単に調理した採れたて野菜を食べたりして，学習課題について話し合う。③ (1) 野菜について知っていることについて話し合う。① ○　たくさんの野菜があることに気付くこと (2) 実際に野菜を見たり食べたりして，食感や味について感じたことや考えたことについて話し合う。① ○　おいしい野菜があることに気付くこと (3) これから，どのようなことを学習していくのか，学習問題について話し合う。① ○　自分たちで育ててみたいという思いをもつこと	学習課題　おいしい野菜をつくって，食べる計画をたてよう。 2　高嶋さんたちが野菜づくりをしている畑を見学する。⑤ (1) 高嶋さんたちと出会い，野菜を育てている畑を見学したり，いろいろなことを質問したりする。④ ○　野菜を育てるには，たくさんのことが必要なことに気付くこと (2) 見学や質問を通して気付いたことをもとに野菜を育てるために必要なことについて話し合う。① ○　これからどのように学習を進めていくのか学習計画を立てる。
にんげん⑤	1　野菜ソムリエの吉田さんと出会い，野菜のよさなどについて話を聞く。① ○　野菜には様々なよさがあることに気付くこと	2　自分で野菜を育てて，料理として提供している田川さんや一緒に野菜を育てている高嶋さんと出会い，野菜や野菜づくりについての思いや願いについて話を聞く。① ○　野菜づくりをされている方たちの思いや願いに気付くこと
評価	領域「にんげん」において，野菜ソムリエの吉田さんや自分で育てた野菜を提供しているレストランのシェフである田川さんとの出会いをもとに，自分たちもつくりたいという追究課題を設定することができる。 →　吉田さんや田川さんとの交流や実際に野菜を使った料理を食べる活動を通しての発言内容や感想内容，その後設定した追究課題に沿った，各自の表現物の記述内容	

展開	終末
2　おいしい自分たちの野菜をつくるための，準備やお世話をする。	3　自分たちで育てた野菜を自分たちで調理して，おいしくいただく。

学習課題　マイ野菜が大きく生長するような野菜園をつくろう。

1　野菜園をつくる。⑤
(1) 野菜園の長さを測り，野菜園をつくる計画をたてる。③
○　野菜園の広さや野菜の種類による畝の幅，種を蒔く間隔をもとに，畝をつくる場所を決めること
(2) 設計図をもとに，野菜園をつくる。②
○　巻き尺やものさしを用いて長さを測定し，畝をつくること

2　野菜園に種を植える。②
○　設計図をもとに決めた間隔で種を蒔くこと

3　野菜園をつくる。⑦
(1) 野菜園をつくる計画を立てる。③
○　日光の当たり方などをもとに，畝をつくる場所を決めること
(2) 野菜園をつくる。②
○　野菜に適した畝づくりや育て方があること
(3) 野菜の種を蒔く。②
○　野菜によって，種の蒔き方に違いがあること

学習課題　マイ野菜がおいしくなるように，しっかりお世話をしよう。

4　マイ野菜のお世話の仕方について話し合い，お世話をする。⑤
(1) マイ野菜のお世話の仕方について話し合う。②
○　たくさんのお世話をする必要があることに気付くこと
(2) マイ野菜のお世話をする。②
○　お世話が大変であることに気付くこと
(3) お世話の仕方や野菜の育ち方について話し合う。①
○　お世話は大変であるが，とても大切であることに気付くこと

3　田川さんや高嶋さんたちに，いろいろなことについて，アドバイスをもらいながら，野菜を育てる。②
(1) 畑のつくり方や種の蒔き方などについて，高嶋さんたちにアドバイスをしてもらいながら，種を蒔く。①
○　野菜を育てるには，土づくりや畑づくりが大切であることに気付くこと
(2) 野菜の成長の様子やお世話の仕方などについて，高嶋さんたちにアドバイスをもらいながら，お世話をする。①
○　野菜を大きく育てるには，毎日の小さなお世話が大切であることに気付くこと

学習課題　野菜を大きく育てるためには，どのようにしたらよいのだろう。

3　野菜を大きく育てる方法を調べる。⑤
(1) 野菜の生長の記録をとる。③
○　野菜の生長の記録をとり，野菜の生長を実感すること
(2) 野菜を大きく育てるための方法を調べる。②
○　野菜を大きく育てる方法をとらえること

4　野菜の大きさや収穫量を調べる。③
○　収穫した野菜の大きさや量を実感すること

学習課題　自分たちで育てた野菜をおいしくいただこう。

5　育った自分の野菜を収穫し，食べて感じたことや考えたことについて話し合う。⑤
(1) 大きく成長した自分の野菜を収穫する。②
○　収穫の喜びに気付くこと
(2) 収穫した自分の野菜を食べて，感じたことや考えたことについて話し合う。②
○　お世話をしただけおいしい野菜になったことに気付くこと
(3) これからの野菜園のお世話について話し合う。①
○　これからの自分の関わり方を見つめ直すこと

学習課題　何をいただくのだろうか。

1　野菜ソムリエの吉田さんと再開し，食事のときに，何をいただくのか，何をごちそうになったのか，様々な学習をもとに話し合い，これからの自分について伝え合う。①
○　植物の命，自然の恵み，つくっている方の思いなど，たくさんのものをいただいていることに気付くこと

評価

領域「にんげん」において，自分たちで育てた野菜を食べる活動を通して，何を「いただくのか」を交流し，これから野菜や料理への自分の関わり方を語ることができる。
→　各領域で関わってきた人や内容について追究してきたノート記述や表現物，今後の自分にできることについての発言内容

実践事例　第2学年　「つくって食べよう　マイやさい」プラン
～野菜園をつくって　マイやさいを育てよう～

領域　すうがく　　指導者　曽根崎　達雄

1　資質・能力

◎　畑の長さを測定したり，マイやさいに合った畝の幅や種を植える間隔などを測定したりして，測定したことを整理しながら，マイやさいに合った畑をつくったり，生長にあったお世話をしたりすることができる。（創造性）

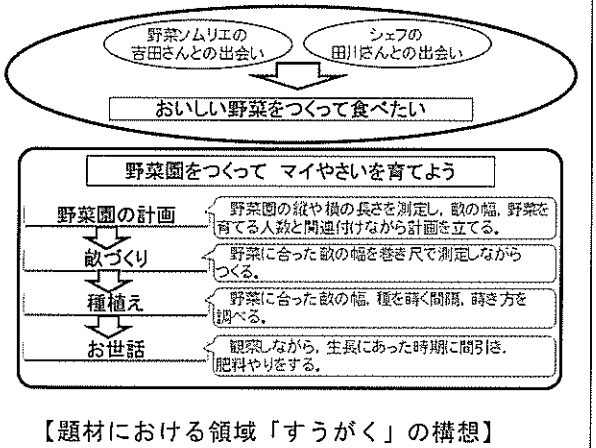
○　畑づくりやマイやさいの生長に伴ったお世話の仕方についてグループで話し合い，畝のつくり方や種の植え方などについて発表したり，協力して作業をすることができる。（協働性）

○　マイやさいに合った畑のつくり方や種の蒔き方，お世話の仕方など，調べたことをもとに実践したり，マイやさいの観察を通して，マイやさいの生長を実感することができる。（向上性）

2　題材における領域「すうがく」の考え方

本題材では，自分たちでつくった畑で，マイやさいを育てて収穫するために，自分たちでどのようなことをしなければいけないのか課題を見つけ，それを解決できるようにすることをねらいとしている。具体的には，①畑の縦や横の長さや畝の幅，野菜を選んだ人数を根拠に野菜畑の計画を立てること，②マイやさいに合った畝の幅や種を蒔く間隔を調べ，調べた長さに合うように畝をつくったり，種を蒔いたりすること，③マイやさいの生長を記録し，マイやさいの生長にあったお世話をすることなどである。変化の激しいこれからの社会を生きていくためには，日々生長していく野菜を観察しながら，どのようなお世話をする必要があるのかを考えたり，資料の中から，自分で必要な情報を取り出して，情報を整理し，活用したりしていこうとする態度を養うことが大切なことだと考える。

3　学習の流れと考察

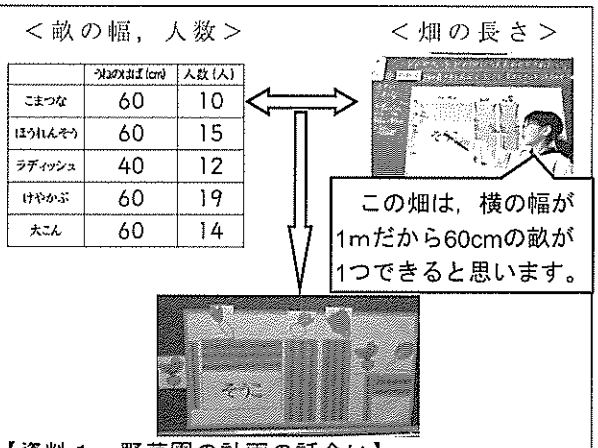


【題材における領域「すうがく」の構想】

導入段階のねらい

野菜園をつくるために，野菜園の縦や横の長さを測定したり，マイやさいに合った畝の幅を調べたりすることができる。

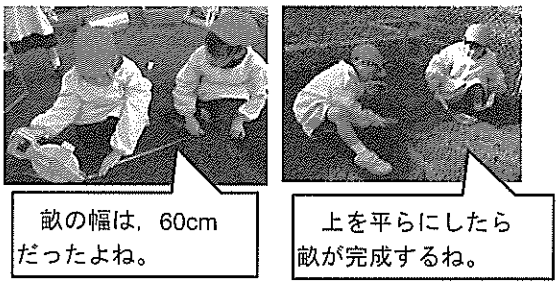
(1) 野菜園の長さを測定し，野菜園の計画を立てる。



	畝の幅(cm)	人数(人)
こまつな	60	10
ほうれんそう	60	15
ラディッシュ	40	12
けやかぶ	60	19
大こん	60	14

【資料１　野菜園の計画の話合い】

(2) 計画をもとに，野菜園をつくる。



【資料２　畝をつくっている様子】

導入段階では，くらしの学習から出た「マイやさいが大きく生長するような野菜園をつくろう。」という課題に対して野菜園をつくる計画を立てた。そこで，まず，どの野菜をどこで育てたらよいのかを決めるために野菜園をつくる場所に行き，どれだけの大きさなのか長さの測定を行った。次に，測定した長さを畑の図の中に書き込み，野菜を育てる人数，野菜に合った畝の幅を整理した表をもとに，どこにどの野菜の種を蒔くのかを話し合った（資料１）。最後に，決まった場所にマイやさいに合った畝づくりを行った（資料２）。

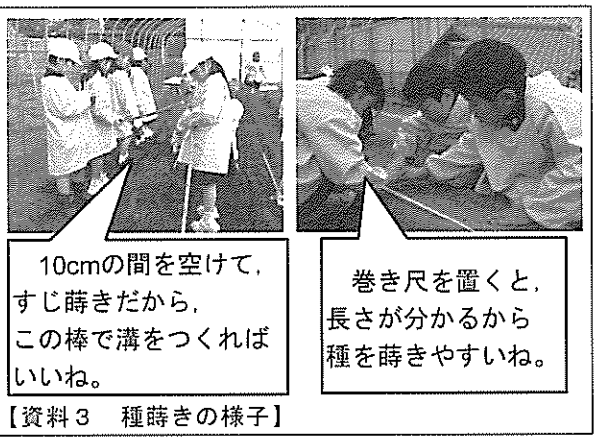
考察１

測定した野菜園の縦や横の長さを整理した畑の図と野菜の畝の幅や野菜を育てる人数を整理した表を比較して掲示したことは，野菜園の計画を立てる上で有効

であった。その根拠は，野菜園の計画を話し合っているときの子供の発言で，「横の幅が１ｍだから，60cmの畝が１つできると思います。」と測定した畑の長さと表に整理していた野菜の畝の幅とを関連付けた発言があったからである。

展開段階のねらい

マイやさいが大きく生長することができるように，マイやさいに合った，種を蒔く間隔，蒔き方を理解するとともにマイやさいに合った間隔，蒔き方で実際に種を蒔くことができる。



【資料３　種蒔きの様子】

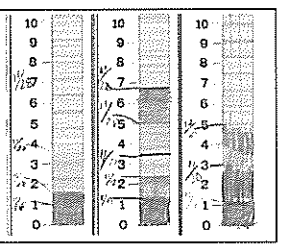
展開段階では，まず，野菜グループごとに種を蒔く間隔や蒔き方を本で調べる活動を設定した。種の蒔き方を調べた子供たちは，導入段階で決めた野菜ごとの畑に行き，グループで協力して，蒔き溝をつくったり，巻き尺を使って長さを測定したりしながら，マイやさいの種を蒔いていった。子供たちは，本で調べたマイやさいの種を蒔く間隔に気を付けながら，巻き尺を使い長さを測りながら，種を蒔いていた（資料３）。

考察2

教師から種の蒔き方を教えてやらせるのではなく，自分たちで本で調べ，わかったことをもとに種蒔きをさせたことは有効であった。その根拠は，自分たちで近くにある棒を使って溝をつくったり，巻き尺を当てて長さを測りながら種を蒔いたり，主体的に活動している姿が見られたからである。

終末段階のねらい

マイやさいの観察記録をとり，マイやさいの生長を実感するとともに，今後のお世話の見通しをもつことができる。



野菜の背丈などを測り，生長を調べるものさし。

生長の幅が分かるように日付を書いたり，色を変えて塗ったりしている。

【資料４　マイものさし】

みんなあとだいたい7cmくらいのびるとひりょうが、あげられます。これからどのようなことをするのかなどがたのしみです。自分のマイやさいがどのようにへんかしていくのかたのしみです。

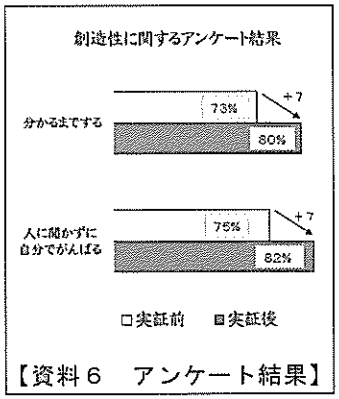
【資料５　グループ交流後の子供の記述】

終末段階では，マイやさいの観察をいつでもできるように観察ノートを廊下に置いて，自由にとれるようにした。また，生長の変化をとらえやすいように，一人一人が書き込みができるマイものさしを準備した（資料４）。子供たちは，休み時間にも畑に行き，水やりをしたり，草取りをしたり，マイやさいのお世話をしていた。そこで，マイやさいの生長とお世話を関連付けることができるようにするために，マイやさいの観察をしてきたことをグループで整理していく活動を設定した。子供たちは，まず，グループでマイものさしを比べ，友達の野菜の生長とマイやさいの生長を比較したり，以前に調べていた野菜のお世話のポイントを比べたりしながら気付いたことを交流した。そこでは，「みんなあとだいたい７cmくらい伸びると肥料があげられます。これからどのようなことをするのかなどが楽しみです。」と記述していた（資料５）。次に，他の野菜グループの様子を知ることができるように全体交流を位置付けた。そして，どのグループの野菜も芽が出そろってきているので，これからは肥料をあげたり，間引きをしたりするお世話のポイントを見逃さないようにして，マイやさいのお世話をしていく必要があるという方向性が明らかになった。

考察3

グループで，それぞれのマイものさしを比べたり，お世話のポイントとマイものさしを比べたりする活動を位置付けたことは，今後のお世話の見通しをもたせる上で有効であった。その根拠は，資料５の子供の記述のように，今の自分たちの野菜の草丈と，お世話のポイントとなる肥料をあげるときの高さを比べて，「あと７cmで肥料をあげる。」という見通しもつことができていることがわかるからである。

全体考察



【資料６　アンケート結果】

本題材はとくに創造性の伸長に有効であったと判断できる（資料６）。考察１，２から，創造性の発揮には，子供の主体的な活動が大きく影響したと考える。以上のことから創造性を発揮するためには，自分たちで調べたり，考えたり，主体的な活動を大切にしていく必要があると考察することができる。今後も収穫まで，主体的に野菜のお世話をするようにしていく必要がある。

実践事例　第2学年　「つくって　食べよう　マイやさい」プラン

領域　くらし　　指導者　関　尚幸

1　資質・能力

◎　自分の野菜を育てて収穫し，料理していただくという見通しをもち，その中で自分の問題を解決したり，願いを達成したりすることができる。（創造性）

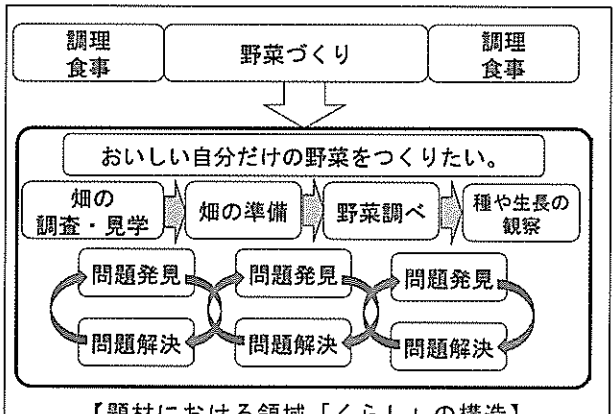
○　野菜を収穫して，おいしくいだたくという共通の目的をもち，その目的達成のために，自分が調べたことをもとに話し合ったり，役割を分担しながら作業をしたりすることができる。　（協働性）

○　野菜をいただくために，野菜づくりを行っている方と進んでかかわったり，友達と共同で作業を行ったりし，成長に気付くことができる。　（向上性）

2　題材における領域「くらし」の考え方

本題材では，自分の野菜を育て，収穫し，おいしくいただくために，野菜や野菜づくりについて自分で調べたり，調べたことや体験したことをもとに，実際に準備やお世話などの作業を行うことができるようにする。また，その中で生まれた疑問から問題を見いだしたり，自分の思いや願いをもとに活動を進めたりできることをねらいとしている。具体的には，①畑の準備から収穫までの野菜づくり全体の見通しをもつこと，②その中で，自分の問題を見いだして，解決したり，願いをもとに，作業を進めること，③自分の野菜の生長の様子を観察し，野菜に対しての思いをもつこと，④自分の野菜の生長や収穫に喜びを感じることなどである。畑があるから，野菜を育てるのではなく，おいしい野菜を収穫して，いただくために，畑の準備からはじめることが大切であると考える。その中で，子供なりに試行錯誤しながら準備やお世話をしたり，主体的に野菜と関わったりすることで，生命について考えようとする態度を養うことは大切なことだと考える。また，活動を進めていく中で，小さな解決を繰り返し，学習を自分たちで創造していく。

3　学習の流れと考察



【題材における領域「くらし」の構造】

導入段階のねらい

糸島の畑を見学したり，野菜づくりについて自分なりに調べた事をもとに，自分がどのようなことを解決したり，どのようなことを実践したりしていきたいのか課題を設定することができる。

導入段階では，「おいしい野菜を育てるには，どのような畑をつくるとよいのだろうか。」という疑問に対して，自分たちが知っていることをもとに，様々な考えを出したが，明確にすることができなかった。そこで，目指す畑の見学を行った。その見学を通して，今の自分たちとの比較から，しなければいけないこと，自分がしたいことを画用紙に表現し，話し合った。

【資料１　題材における自分の課題を決める子供】

子供たちは，自分がしたいことが，野菜を調理して食べるまでという流れのどの辺りになるのか，考えながら画用紙を置いていた（資料１）。個人のしたいことが集まり，学習の流れを決めることができた。

考察１

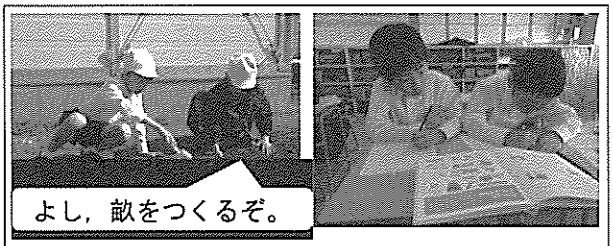
理想とする畑の見学をしたり，自分たちの畑と比べたりして，自分がしたいことを話し合ったことは，題材の中で，みんながしたい課題を設定する上で有効であった。その根拠は，資料１にあるように，自分がしたいことが，題材のどの辺りになるのか考えて，画用紙を置く姿があり，題材の流れや課題を自分たちで決める姿が見られたからである。

展開段階のねらい

野菜づくりの見通しをもとに，解決したいことやしなければいけないことを自分で決め，友達と協力しながら，畑の準備やお世話をすることができる。

(1) 題材の見通しをもとに，畑の準備をしたり，野菜について調べたりする。

学習の流れを決めた後は，子供たちはグループをつくり，個人や各グループで追究を行った。



【資料２　自分の課題を解決する子供】

子供たちは，ワークスペースに掲示していた題材計画を見ながら課題を確認したり，自分が追究する課題を明らかにするために，ネームカードを活用したりと，主体的に学習に取り組んでいった（資料３）。

【資料３　課題を決めたり，確認したりする子供】

(2) 育てるマイ野菜の種を蒔き，お世話をする。

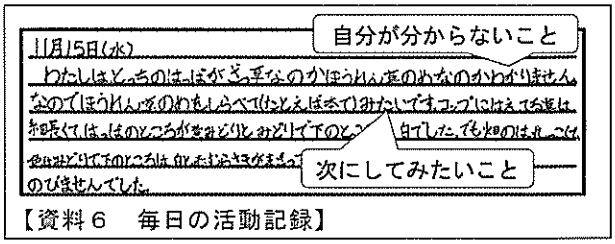
時期に合った植えることができるマイ野菜を決め，畑の準備が終わると，種を蒔き，お世話を始めた。

【資料４　種を蒔いたり，お世話をしたりする子供】

展開段階では，おいしい自分だけのマイ野菜を育てるために，本やインターネットを使って，野菜のことを調べたり，実際に畑に行って，耕したりするなど，自分がしたいことを各自で行っていった。また，マイ野菜の生長を記録する活動も始まり，バインダーや定規をもって畑に行くようになった（資料５）。

【資料５　マイ野菜の観察をする子供】

追究の中で，自分だけでは解決できないことや全体に関係することは，グループや学年全体で集まって話し合った。子供たちは，毎日自分がしたことや気付いたこと，疑問に思ったことを記録し，自分の新たな問題を見いだしたり，その日に追究を通して分かったことなどを振り返ったりしていた。



【資料６　毎日の活動記録】

考察２

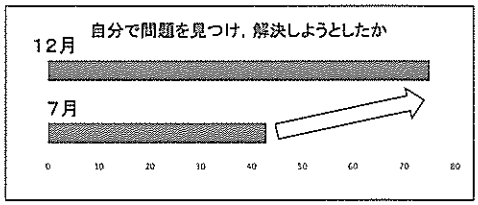
毎日の活動記録を書かせたり，題材計画を掲示したりしたことは，マイ野菜をおいしく育てるための問題を見いだし，課題を解決していく上で有効であった。その根拠は，資料２，３，４，５にあるように，自分の課題を解決しようとする姿が見られたからである。また，資料６にあるように，毎日の活動の中で自分が気付いたことや分からないことを書くことで，自分の新しい問題を見いだし，次に課題を解決していこうとする姿がたくさん見られたからである。また，自分やみんなの課題を確認できるように，題材計画を掲示したり，いつでも観察に行けるように，必要な道具やプリントを準備したりしたことも有効であった。

終末段階のねらい

自分たちが育てて収穫したマイ野菜を料理していただくことで，収穫の喜びを味わうとともに，自分の頑張りや成長，マイやさいのおいしさについて考えることができる。

終末段階では，これまでがんばってお世話をしてきたマイ野菜を収穫して，調理し，実際に食べる活動を想定している。その活動を通して，野菜の命をおいしくいただいた感想を話し合ったり，自分のがんばりを振り返ったりする。そうすることで，野菜づくりを通して，自分が学習を創造してきたことを実感させる。

全体考察



本題材はとくに創造性の伸長に有効であったと判断できる。考察１，２から，創造性の発揮に，自分たちで題材計画をつくったこと，毎時間振り返りを行ったことが大きく影響したと考えられる。以上のことから創造性を発揮するためには，かかわりを通して，自分の問題をもつこと，自分で解決できるように活動や場を保障することが大切であると考察することができる。

Ｈ２９年度　年間指導計画　第2学年

単独題材名　関連題材名　学びが進む方向に矢印でつなぐ

	1学期												教育実習			
学校行事	始業式	入学式	歓迎遠足	保護者会	防災訓練①	交通安全教室	修学旅行	体育ガイダンス	プール清掃	プール開き	身体・運動テスト	終業式	始業式	防災訓練②	月見学芸会	あら

ことば

- 平仮名・片仮名・漢字と仲良し⑮，アルファベット，1から20まで②
  言葉の決まりを見つけよう⑦　昔のお話を楽しもう⑧（A 知る）
- お話クイズをしよう⑥，インタビュー名人になろう⑩，ともこさんはどこかな④
  アルファベットクイズをつくろう④，動物園をつくろう④（B 伝え合う）
- お話（物語・説明文）を楽しもう㉒，英語でお話を聞こう②，丁寧に観察して記録しよう⑭
  大好きな場面をシナリオにしよう（「スイミー」場面間の話の創作）⑩（C 創る）

教育実習：
- 平仮名・片仮名・漢字
  言葉の決まりを見つけよう⑮，言
- 組み立て
  すきなものをつたえよう
- お話（物語・説明文）を楽しもう㉟，
  幼稚園や保育園の友達に読み聞かせを

すうがく

- たし算とひき算⑮（A 数楽のちえ）
- ひょうやグラフにあらわそう⑮（C ちょうせん）
- どちらが長い？どちらが多い？⑩（A 数楽のちえ）
- かげあそびを楽しもう⑩（B ひらめき）
- 100をこえる数の仕組み⑪（A 数楽のちえ）
- 時計にくわしくなろう⑪（A 数楽のちえ）
- ◇ マイ野
  どのような

かがく

- 大きくなあれ！　わたしの夏野菜⑫（A 生命・地球）
- これで勝てる？かげ遊

くらし

- ぼく・わたしの唐人町商店街⑬（c いえとちいき）
- みんな　のえがおを　はこんで⑮（a おかねときまり）
- 動くおもちゃで遊ぼう⑧（b あそびとしごと）
- ぼく・わ

にんげん

- 予想される内容（B わたしたち）：もっとなかよし　みんなでいっしょにあそぼう　かかりかつどうをもっとすてきにしよう　1年生に学校のこ
- 一緒に遊ぼう　自然とみんなと西公

My Time㉟

- 予想される内容（A わたし）：2ねんせいになって　○○ができるようになった　○○のふしぎ　どうして○○なのかな　○○さんとじぶんはなにが

けいじゅつ

- 色と形でこんにちは㉓（A ひょうげん，B かんしょう）
- わくわく音楽ランド㉓（A ひょうげん，B かんしょう）
- 動物になりきって劇をつくろう⑩（A ひょうげん）
- どきどきジャ
  動物たちと
  （A ひょうげん

けんこう

オリエンテーション②

- ボールを使って⑩（C 運動）
- 力いっぱい引いたり押したり⑩（C 運動）
- 水の中でやってみよう⑥（C 運動）
- 気持ちのよい⑤（B 食）

一学期のまとめ②

- 道具を使って友達と仲よし遊びに取り（C 運動）
- ぼくのわたしのエ

◇課題

学年テーマ【生命】

2学期							3学期						時数
つ大運動会	[illegible]	防災訓練③	持久走記録会	あらつフェスタ	遠行会	終業式	始業式	教育研究発表会	長なわ集会	お別れ集会	卒業証書授与式	修了式	

と仲良し⑮，アルファベットと仲良し①
葉遊びを楽しもう⑬，英語で歌おう①(A 知る)

平仮名・片仮名・漢字に親しもう⑧，アルファベットとなかよし①
言葉の決まりを見つけよう⑥，言葉遊びを楽しもう⑧(A 知る)

を考えてスピーチしよう⑭
③，休み時間を楽しもう③(B 伝え合う)

お手紙でつたえよう⑧，すきな形をつたえよう②(B 伝え合う)

283

英語でお話を聞こう②，よく見て，順序よく書こう⑯
しよう⑫，自分のことを 英語で 紹介しよう④(C 創る)

お話(物語・説明文)を楽しもう⑭，英語でお話を聞こう①
出来事や気持ちが伝わるように書こう⑭，心に響く言葉で作ろう⑮
1年間の思い出を気もちとともにつたえよう④(C 創る)

形の秘密を見つけよう⑯ (A 数楽のちえ)

どれだけかかるかな⑨ (B はっそう)

どんな形がかくれているかな⑨ (B はっそう)

かけ算の秘密を見つけよう⑪ (A 数楽のちえ)

見つけようはこのなぞ⑧ (A 数楽のちえ)

はしたの数は表せる？⑥ (B はっそう)

2年生のまとめ⑩ (A 数楽のちえ)

157

菜が大きく生長するためには，畑にしたらよいのだろうか。⑫

◇ 野菜はどれくらい収穫できたのだろうか。③

びを楽しもう⑫(B 物質・エネルギー)

きれいだね ふしぎだね 光の世界⑦(B 物質・エネルギー)

31

◇ 野菜を育てるためには，どのような仕事があるのだろうか。㉕

見たい！知りたい！やってみたい！⑳
～われら おしごと ちょうさたい～(b あそびとしごと)

たしの唐人町商店街いきいきプロジェクト⑬
(c いえとちいき)

94

とをしょうかいしよう トイレのつかい方について話し合おう 雨の日のすごし方を話し合おう ○○さんにありがとうの気持ちを伝えよう

つくって 食べよう マイやさい⑦(C いきるみち)

◇ どのような思いで働いているのだろうか。⑤

園⑥(C いきるみち)

63

ちがうのかな どうして○○はひつようなのかな ○○のがくしゅうはどうしてあるのかな 2ねんかんでできるようになったこと 3ねんせいはどんながくねんなの

グルクルーズの出合い㉖，B かんしょう)

季節を感じる色や音楽⑭ (A ひょうげん，B かんしょう)

みんなで楽しもう！音と光のおまつりランド㉚(A ひょうげん，B かんしょう)

126

組もう㉒

続けて走ろう5分間⑧ (C 運動)

二学期のまとめ②

学校や家庭での過ごし方を見直そう㉒ (A 休，B 食，C 運動)

学年のまとめ②

ネルギー③(B 食)

94

第３学年

実践

実践事例　第3学年　「つくろう！わたしたちの小さな森」プラン
テーマ　自然　　指導者　　古賀　誠・石橋　大輔
関連領域　くらし →（すうがく・かがく）→ くらし

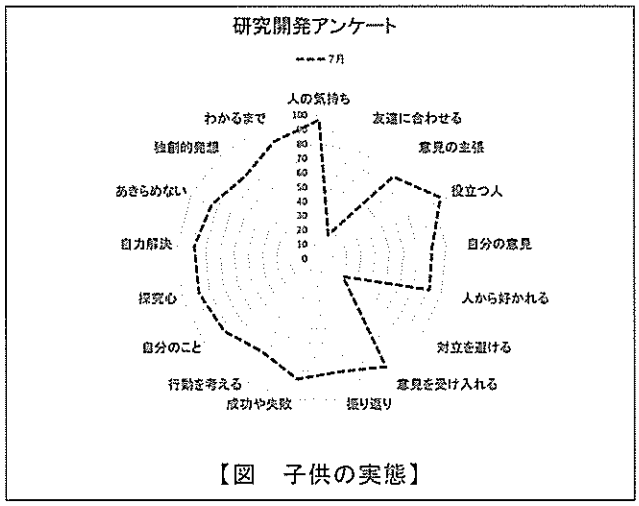
1　資質・能力

◎　植物のすばらしさを実感し，学校に植物をどのように植えると生き物がたくさん来るのかを考えることを通して，学校の緑化を自分なりに立案することができる。（創造性）

○　小さな森をつくるために，友達と生き物を呼び戻す方法を話し合ったり，自分たちの課題を友達と協力して解決したりすることができる。（協働性）

◎　小さな森をつくることの価値を見いだし，自分が見つけた生き物を守ることのよさや課題を振り返り，自分の取　組みのよさを実感することができる。（向上性）

2　子供たちの実態



【図　子供の実態】

３年生の子供たちは，１学期題材「調べよう！生き物のひみつの力」において，生き物の習性を調べるための方法を自分なりに考えたり，調べて分かったことを学級に伝えたりすることを行った。また，「マジックのひみつを探ろう」では，物質の性質を調べたり，実験方法を試行錯誤したりしながら，マジックを成功させようとしていた。研究開発アンケートの結果から，自分の考えがうまくいかないときに改善点を考える自力解決や，友達と関わって実験したり，友達と伝え合って考えを深めたり広げたりするなど，調べたこと以外にも興味・関心をもち，調べていこうとする探究心を身に付けてきている。これまでに子供たちは，植物やそこに生きる生き物を育て，植物やそこに生きる生き物を大切にした経験がある。また，校内にいる自然と深く関わろうとする傾向が見られた。しかし，植物やそこに生きる生き物が環境とどのように関わっているのか，校内の植物にはどのようなものがあって，どこに生息しているのかという視点をもつことはできていない。さらに，植物の大切さを実感すると共に，植物を増やす価値にふれることはできていない。これから，学校の中で，どのような環境が人と生き物にとってよいのか，身近にある植物やそこに生きる生き物とふれ合う中で，自然にあるものの価値やよさを実感させ，人と自然とのつながりについての考えを深めさせていきたい。

3　題材の考え方

本題材では，校内の生き物調査をしたり，グリーンシティ福岡の方やまほろば自然学校の方と出合ったりして，「生き物や環境」に目を向け，校内の自然環境をよりよくするために，「自分たちにできることは何だろう」という課題をもとに，学校の緑化を推進するための方法や価値を考え，実践していくことをねらいとしている。そのために題材では，領域「くらし」を中心とした学校での自然環境の改善を実践していく過程で，すうがく，かがくを子供の求めに応じて関連することで，課題を解決できると考えた。具体的には，①グリーンシティ福岡の方やまほろば自然学校の方との出会いや，校内の生き物調査をして，「どんな生き物がいて，どのような問題があるのだろうか」という疑問をもち，校内の生き物について目を向け，学校の自然について，何をどのように変えていけばいいのか，また，何が自分たちにできるのかを考え，自分たちの学校の自然との関わりで実践できることを考えること（くらし），②校内の生き物がどのように生息し，どこにどのような植物が生息するのか，生態調査をして，植物とそこに生きる生き物の共生について考えること（かがく），③植物の位置や形態など，どのような種類を校内に植えるのか計画し，個数や位置などを考えること（すうがく）などである。各領域での学びを最終的には，学校の自然環境を改善したり，保全したりすることが大切であり，自分たちにできることを考え，実践できるようにしたい。このようなテーマにした背景としては，自然環境の実態が大きく悪化しているからである。実際に，学校の周りにある生き物は減少している現状があり，身近にある西公園の自然も激変している。このような現状を調べたり，植物を増やす取組みをしているアクロス福岡などの建物を見たりして，日本人が大切にしてきた緑との調和や保全を環境改善の視点から，子供たちが見いだすことは価値があると考える。

4　学びのプラン

段階	導入	展開
	1　生き物・植物調査やグリーンシティ福岡の方との出会いから，学習の課題をもつ。	2　自然環境の改善のための方法や価値を考える。

すうがく⑪

学習課題　校庭に花を飾って，しぜんのしょくぶつを増やそう。

1　飾る花をアンケートで決定し，花を飾るために必要なものを決め，必要なプランターの数を調べる。⑮
(1) 飾る花の希望をアンケートによって調査し，結果を整理して花の種類を決める④
○　アンケートの結果を整理し，飾る花の種類をとらえること
(2) 必要なものを決め，必要なプランターの数を調べる。②
○　プランターの数を決める必要性に気付き，計算したり実際に並べたりして，必要なプランターの数をとらえること

学年の学習課題　わたしたちの小さな森をつくるために，自分たちにできることを考え，実践しよう。

くらし㉕

1　身近な環境を調査し，生き物の不思議を調べ，環境マイスターの岩熊先生の話や，グリーンシティ福岡の方の話を聞き，学習の課題について話し合う。⑧
(1) 身近な自然について知っていることや，生き物について学んだことを出し合い，疑問に思っていることを話し合う。①
○　自分たちは，自然の生き物について，知っているようで知らないことが多いという認識をもつこと
(2) グリーンシティ福岡の志賀さんの話を聞いたり，一緒に校内を散策したりして，校内の自然環境について考えたことを話し合う。②
○　グリーンシティ福岡の志賀さんの思いや，校内の自然環境を見る視点などをとらえること
(3) 環境マイスターの岩熊先生の活動についての写真を観たり，ビデオを観たりして自然環境について考えたことを話し合う。②
○　生き物と植物の関係がとても大切であり，それをどのように守るのかという視点をもつこと
(4)　グリーンシティ福岡の方の話や岩熊先生の話を聞いて考えたことや，身近な環境調査をして思ったことを交流し，これから学習していきたいことについて話し合う。③
○　身近な自然環境について「自分たちがやりたいことは何か」という課題意識をもつこと

2　グリーンシティ福岡の方や岩熊先生と一緒に，どのような活動ができるのか話し合い，自然を守る取組みを実践する。⑩
(1) 身近な自然である校内についての自然をどのようにすればいいのか話し合い，実行計画を立てる。④
○　グリーンシティ福岡の方と共に，自分たちにも校内の緑の環境をよりよくするための方法があることをとらえると共に，「他にも学校をよりよくするための方法を考えたい」という思いをもつこと
(2)　校内の緑の環境整備についての計画を実行し，緑の環境を整える。⑥
○　グループで計画し，実行することで，自然環境を守るためには，緑を増やしたり，生き物を多くしたりするなど「自分たちにできること」があることをとらえること

学習課題　校内の自然を豊かにするために，植物を調べ，校内で育てる植物を決めて，植えよう。

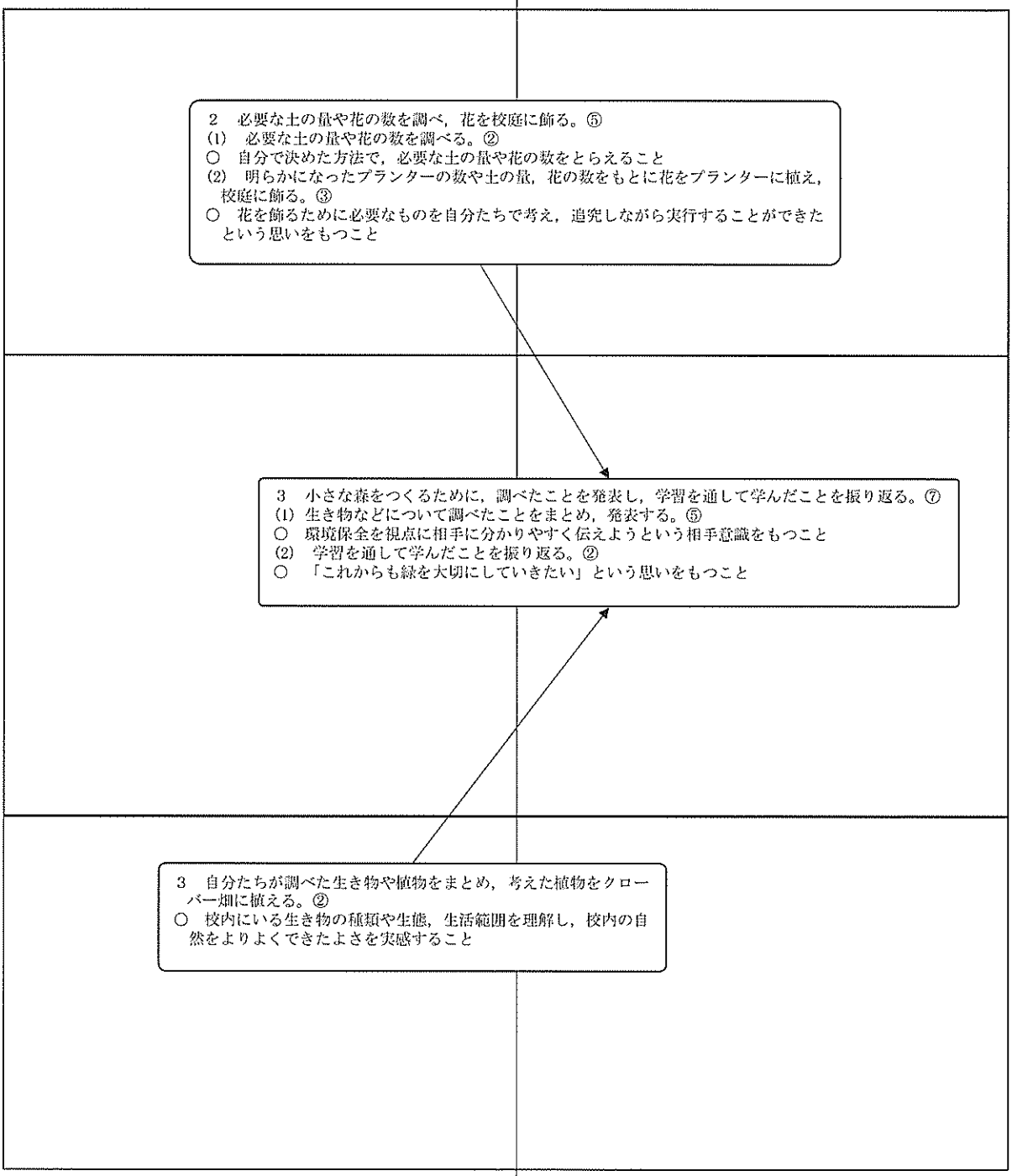
かがく⑮

1　校内の自然についての課題をもち，どのような動物や植物を増やすとよいのか話し合う。③
○　校内の自然環境についての課題をとらえ，どのようにしていくのかの見通しをもつこと

2　校内の自然環境を追究し，植物や土などについて調べる。⑩
(1) 校内の自然に適した植物を調べる。⑥
○　校内に適した植物の種類を調べ，特徴をとらえること
(2) 校内の土を調べ，どの場所が植物を植える上で適切かを話し合う。④
○　校内の土について条件制御しながら調べることを通して，どの場所がいいのかを客観的にとらえること

評価	領域「くらし」において，生き物調査を行ったり，グリーンシティ福岡の方やまほろば自然学校の方の話を聞いたりして，自然環境について，自分の課題を設定することができる。 →　生き物を観察し，調査している場面における子供のつぶやきやグループでの発言内容，記述内容 →　グリーンシティ福岡の方やまほろば自然学校の方に出会った場面における子供の発言内容や記述内容

展開	終末
2　自然環境の改善のための方法や価値を考える。	3　学校の緑化についてまとめたことを校内で提案し，自分の高まりや成長について話し合う。



評価	領域「くらし」において，これまでの学びを振り返りながら，「生き物を増やすことはとても大切であり，これからも身近にある生き物や自然環境を大事にしたい」という思いをもち，実践しようとしている。 →　単元終末における，学びを振り返るための学習ノートへの記述内容や表現物 単元終末における，学んだことを学級全体で話し合うときの発言内容

実践事例　第3学年　「つくろう！わたしたちの小さな森」プラン
～校内の自然環境をよりよくしよう～

領域　かがく　　指導者　古賀　誠

1　資質・能力

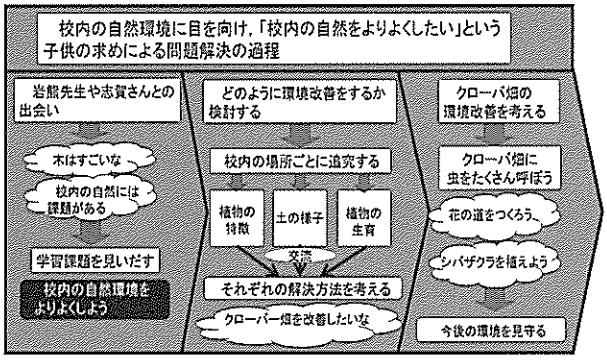
◎　身の回りの自然環境に目を向け，校内の自然環境をよりよくするために追究し，必要だと思う植物の特徴を調べ，どのような植物が校内に適切なのかを考えることができる。（創造性）

○　校内の自然環境に関する課題をグループで話し合い，課題解決に向けて協力して，自然環境を豊かにする方法や手段を見つけだすことができる。（協働性）

○　校内の自然環境について考える価値を見いだし，自他のよさを実感し，校内の自然環境をよくする具体的な案を創り出したそれぞれのよさを認め合うことができる。（向上性）

2　題材における領域「かがく」の考え方

本題材では，校内の自然環境に目を向け，校内の自然環境を豊かにするための方策を考えるとともに身近な植物についての理解を深め，植物の特徴を調べることができるようにする。また，よりよい環境にするために，土を調べたり植物調査をしたりして，校内の自然環境の状況に気付き，これからの環境問題の解決に向けた自分なりの考えをもつことをねらいとしている。具体的には，①校内の自然環境について，グリーンシティ福岡の志賀壮士さんやまほろば自然学校の岩熊志保さん（以下，GT）と動植物の調査をして，校内の植物の特徴や種類を理解すること，②土やその土における生育状況などを調べ，どの植物が適しているのかの考えをもつこと，③校内の自然環境の実態を把握し，校内の自然環境をよりよくするために，自分にできることはないのかを考えることなどである。身近な自然環境に目を向け，木々の様子や草花の特徴を調べることは，今後の自然環境保全の意識を高めると考える。

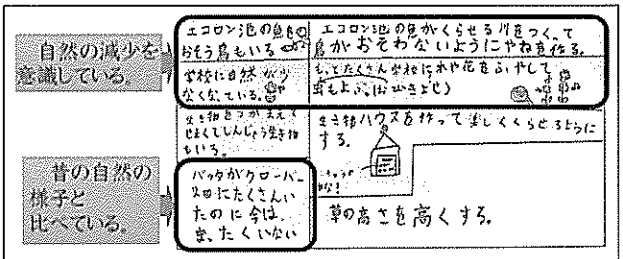


【題材における領域「かがく」の構造】

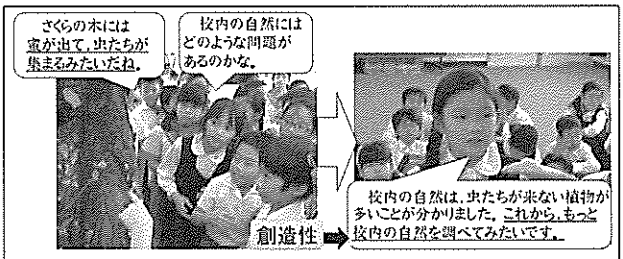
3　学習の流れと考察

導入段階のねらい

ＧＴの方と一緒に校内の自然環境を調査したり，自然環境に関する課題を考えたりして，校内の自然環境をよりよくするためにはどのようなことができるのか，追究課題を設定することができる。



【資料１　子供の気付きが見える学習ノート】



【資料２　校内の自然環境の課題を話し合う】

導入段階では，GTの方と共に校内の自然環境の調査を行った。そこで，校内の植物の種類や特徴，そこに生きる生き物を調べ，校内の自然環境がどのような状況なのかを調べ，虫たちがあまり来ない植物が多いことが分かった。そして，「校内の自然を豊かにするために，植物やそこに生きる生き物を調べ，校内で育てる植物を決めて植えよう」という追究課題を見いだし，見通しを話し合った。以上のような課題を見いだす活動を通して，Ａ児は「もっと学校に花や木を増やして，虫を呼びたい。」と記述していた（資料１）。

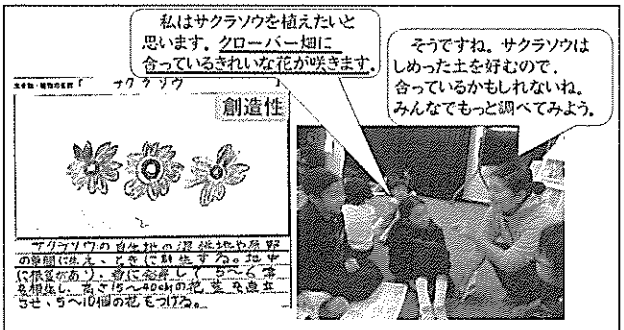
考察１

GTの方との出会いから，校内の自然環境に目を向けて，環境調査をしたり，身近な植物の特徴を調べたりしたことは，子供の課題意識を高める上で有効であった。その根拠は，課題を交流するときに，「校内の自然環境はあまりよくないことが分かった。もっと虫がたくさん来るように，植物を植えたい。」と自然環境の視点で発言していたからである。

展開段階のねらい

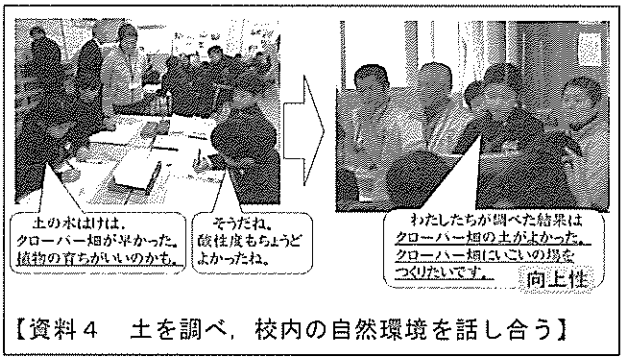
校内の自然環境をどのように調べていくのか見通しをもち，動植物の種類や校内の土などを調べ，どのような植物や土が校内の自然環境に適切かを考えることができる。

(1) 校内の自然環境に適した植物を調べる。



【資料３　植物を調べた学習ノート】

(2) 校内の土を調べ，どの場所が植物を育てる上で適切かを話し合う。



【資料４　土を調べ，校内の自然環境を話し合う】

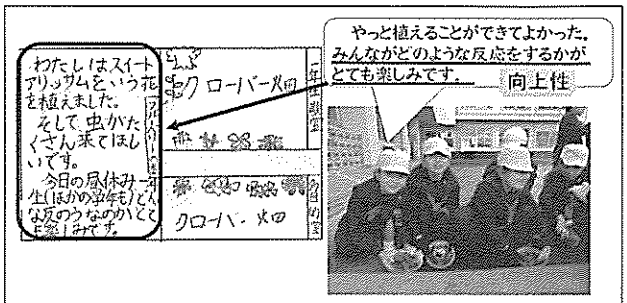
展開段階では，校内の自然環境について，校内の調べたい場所別にグループで追究を行った。校内の自然に適する条件を調べ，虫は色が鮮やかなもの，においがするもの，蜜が多いものなどを見いだした（資料３）。校内の土を調べる活動では，運動場，夢広場，クローバー畑，飼育小屋周辺の土を調べ，同じ花をそれぞれの土で育てて生育状況を把握したり，土の酸性度を調べたりした。その結果から，クローバー畑が一番植物が育ちやすい土であることが分かった。以上のような課題を解決する活動を通して，Ａ児は「校内の自然環境をよくするためには，いこいの場が必要であり，クローバー畑がよいことが分かった。どのような花を植えるのか考えたい。」と記述していた（資料４）。

考察2

子供の求めに応じて，校内の自然に合った植物や，条件に合った校内の土を調べさせたことは，子供が校内の自然環境にその植物や土が適切かどうかを考える上で有効であった。その根拠は，校内の土を調べたときに，「よりよくなりそうな場所はクローバー畑と分かった。たくさんの花を植えて，いこいの場にしたい。」という結果を記述していたからである。

終末段階のねらい

どのような植物が校内の環境に適しているのかを見直し，クローバー畑に植えたい植物を決め，校内の自然環境についての考えをまとめることができる。



【資料５　クローバー畑に花を植える】

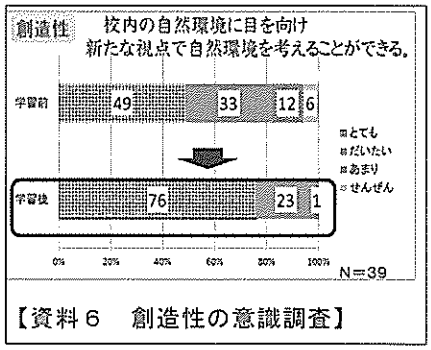
終末段階では，校内の自然環境で改善する場所を確認し，自分たちが考えた場所に植えたい花や木を植える活動を設定した。クローバー畑に虫が来て，学校のいこいの場となるように，どのような花が適しているのかを考え直し，花を植えることができた。また，校内の自然環境が改善されるには時間がかかり，今後も自然環境を見守ることが大切であることを話し合った。そして，これからも身近な自然に目を向け環境を守っていく方向性が明らかになった（資料５）。

考察3

校内の環境を改善するために，クローバー畑に実際に花を植えたり，木を植えたりする活動を行ったことは，子供の求めに応じた課題解決を実現する上で有効であった。その根拠は，学習の振り返りにおいて，Ａ児は「クローバー畑に花を植えると，クローバー畑がとても明るくなった。みんなが植えた花はいろいろあり，虫たちもたくさん来るから，春になるのが楽しみだ。」というように記述していたからである。

全体考察

本題材はとくに創造性の伸長に有効であったと判断できる（資料６）。考察１，２から，創造性の発揮に子供の求めに応じた校内での自然環境の課題解決の活動や，実際に花や木を植える活動が大きく影響したと考えられる。以上のことから創造性を発揮するためには，子供の求めに応じた課題解決の道筋や，身近にある自然とのつながりを考えさせたことがよかったと考察する。今後も継続的に自然と関わりをもたせ，身近な生活の環境改善の視点をもつようにしていく必要がある。



【資料６　創造性の意識調査】

実践事例　第3学年　「つくろう　わたしたちの小さな森」プラン
～花いっぱいの附属小学校にしよう～

領域　すうがく　　指導者　　石橋　大輔

1　資質・能力

◎　「学校の自然を変えたい」という課題意識をもとに草花を植えるための計画を立て，植えたい草花について調べたり，植えたい場所の長さや広さを測ったりして植える方法を探ることができる。（創造性）

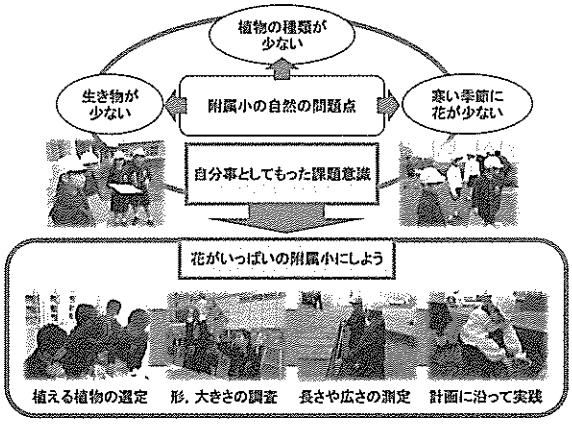
○　同じ課題をもつ子供たち同士で，追究方法を話し合ったり，協力して長さや広さを測ったりして，学びを共有することができる。　（協働性）

○　花いっぱいの附属小学校にするための活動や，活動を通して自分自身が学んだことを振り返り，草花やその他の生き物を今以上に大切にしようという思いをもつことができる。　（向上性）

2　題材における領域「すうがく」の考え方

本題材では，自然の面から「学校をよりよくしたい」という思いをもとに，草花について調べたり，植えたい場所の長さや広さを測ったりして，自分なりの方法で植える方法を考えることができるようにする。また，そのような計画に基づいて草花のお世話をすることを通して，草花やその他の生き物をこれまで以上に大切にしたいという思いをもつことができることをねらいとしている。具体的には，①附属小学校の自然についての課題を見つけ，変えていきたいという思いをもつこと，②形や数の視点から自分が植えたい草花について調べたり，植えたい場所の長さや広さを測ったりして，植える計画を立てること，③活動を通して学んだことを振り返り，草花やその他の生き物を大切にしようという思いをもつことなどである。子供が本気で解決したい課題意識をもち，自分なりの方法でその解決方法を考え，実践していくことは，生き物を大切にするという思いを強くもつために大切なことだと考える。

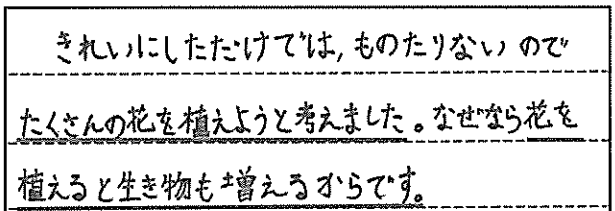
3　学習の流れと考察



【題材における領域「すうがく」の構造】

導入段階のねらい

学校の自然を観察して見つけた問題点をもとに，どのようなことに取り組んでいけばよいかという課題を設定することができる。


きれいにしたただけでは，ものたりないので
たくさんの花を植えようと考えました。なぜなら花を
植えると生き物も増えるからです。

【資料１　課題をもっている子供の記述】

導入段階では，学校の自然について取り組みたいことを考える場を設定した。すると，始めは「ヤモリの走る速さを調べたい」「アリの巣の中の様子が知りたい」など，子供の興味・関心に基づく課題が出た。そこで，子供が本当に解決したい課題をもつことができるように，「附属小の自然の問題点を見つける」という観点で学校内の調査を行った。すると，学校の自然の問題点について，「生き物が昔より少ない」「植物の種類が少ない」などの考えが出た。そこで問題点を解決するために個人で取組を考えたり，学級やグループで話し合ったりする中で，「草花を増やし，花がいっぱいの附属小にしたい」という全体の課題が出た。以上のような課題設定に向けた活動を通して，A児は「花を植えると生き物も増えるから，たくさんの花を植えたい。」と記述していた（資料１）。

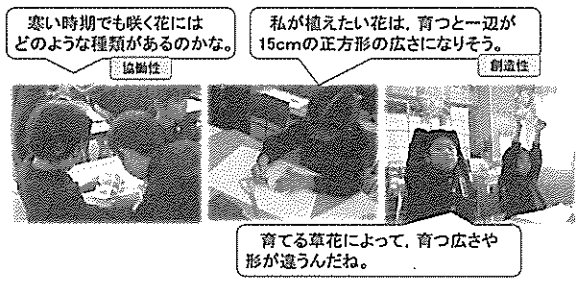
考察１

「自然の問題点を見つける」という観点で学校内の調査をする活動を設定したことは，子供に「本当に解決したい」という課題意識をもたせる上で有効であった。その根拠は，取り組むことを話し合っているときの子供の発言内容が，始めは自分たちの興味・関心を中心にしたものから，次第に学校全体のことを考えたものへと変容していったからである。

展開段階のねらい

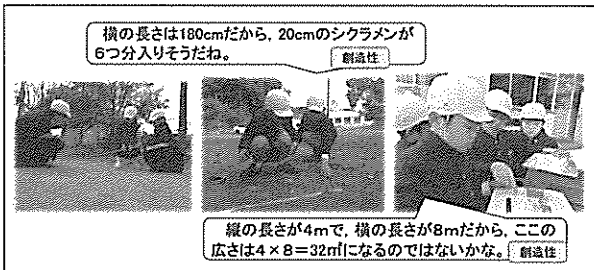
全体の課題意識をもとに，校内に草花を植える計画を立て，自分が植えたい草花について調べたり，植えたい場所の長さや広さを測ったりして，自分なりに計画を実行に移すために追究することができる。

(1)　校内に植えたい草花を決め，特徴について調べる。



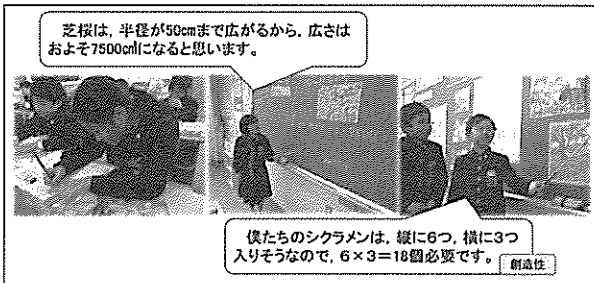
【資料２　植えたい草花の広さを調べる活動】

(2) 植えようとしている場所の長さや広さを測る。



【資料３　植えたい場所の長さや広さを測る活動】

(3) 必要な草花の数を計算で求める。



【資料４　必要な草花の数を求める活動】

展開段階では，草花を植える計画について，各自が植えたい植物の広さと植えたい場所の長さや広さをもとにして，必要な植物の数を求める活動を設定した。子供たちはまず，自分が植えたい植物の特徴を図鑑などで調べ，植物一苗ごとに使う面積を画用紙に表した。その後，夢広場やクローバー畑など，自分が植えたいと考えている場所の長さや広さを測った。そして植物が使う面積と植えたい場所の面積をもとにして，計算で必要な植物の数を求めていった。全体での交流場面では，「シクラメンは縦に６つ，横に３つ入りそうなので，６×３＝18個必要になる」などの発言があった。

考察2

必要となる植物の数を，植えたい場所の長さや広さをもとに求めていく活動の設定は有効であった。その根拠は，子供たちが「学校に花を増やしたい」という思いから発生した「必要な植物の数を考える」という活動を，実際の体験活動を通して得られた長さや広さの数，計算の結果を根拠にしながら論理的に説明する姿が見られたからである。

終末段階のねらい

自分が植える計画に沿って実際に植える活動を行うことを通して，自分の活動を振り返り，学びを通した成長を実感することができる。

【資料５　終末段階における活動】

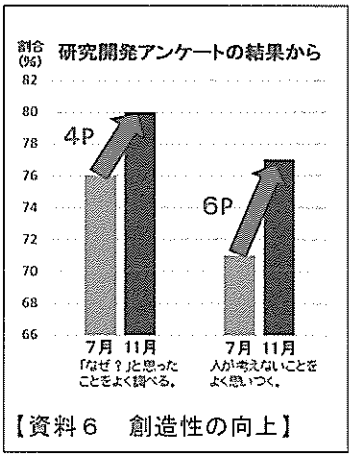
終末段階では，草花を計画に沿って実際に植えていく活動を設定した。まず，自分が植える植物をプランターに植え，そのお世話をした。子供たちは，これまでに図鑑などで調べてきた植物の特徴をもとにプランターの場所を変えたり，水の量や時間帯を考えたりしていた。実際に植える段階では，クローバー畑をさらに素敵な場所にするためにシバザクラを植える計画を追加し，これまでのすうがくにおける学びを生かして，クローバー畑の面積をもとに必要なシバザクラの量を計算していった。そしてクローバー畑にこれまでお世話してきた植物を植え替えたり，シバザクラを植えたりした。植えた後は学年で今後の活動について話し合い，植えるだけで終わるのではなく，これからも学年全員でお世話を続けていく方向性が明らかになった。

考察3

シバザクラを植える計画について話し合う活動を設定したことは有効であった。その根拠は，すうがくの学びを生かし，「必要なシバザクラの数を調べることができそうだ」という発言があったためである。

全体考察

本題材はとくに創造性の伸長に有効であったと判断できる（資料６）。考察から，創造性の発揮には，「学校の自然をよくしたい」という子供の求めに応じた活動の設定が影響したと考えられる。以上のことから創造性を発揮するためには，子供が本気で解決したい課題をもたせることが必要であると考察することができる。今後はよりすうがくとしての向上性の伸びが見えるような見取り方を考えていく必要がある。



【資料６　創造性の向上】

Ｈ２９年度　年間指導計画　第3学年

単独題材名　関連題材名　学びが進む方向に矢印でつなぐ

	1学期												教育実習			
学校行事	始業式	入学式	歓迎遠足	藤見学芸会	防災訓練①	交通安全教室	修学旅行	授業づくりセミナー	プール清掃	プール開き	短縄・縄引き大会	終業式	始業式	防災訓練②	月見学芸会	あら

ことば

- 日本の文字に親しもう⑧，英単語に親しもう⑧，言葉の決まりを知ろう③，今日は何曜日？①
- みんなでつくろうミュージカル⑭，好きなスポーツを伝えよう④，できることをしょうかいしよう④，（B　伝え合う）
- お話（物語・説明文）を楽しもう⑯，英語を聞いて想像しよう②，報告する文章を書こう⑪，手紙を書こう⑤，できることをスピーチしよう⑤（C　創る）
- 日本の文字に親しもう⑩，英単語に親
- 進行を考えながら，話し合おう⑬，す
  ぼくの特技
- お話（物語・説明文）を楽しもう
  ピクトグラムが伝える言葉

すうがく

- 同じ数でわけていくと⑧（A数楽のちえ）
- 大きな数のひみつをさぐろう⑩（A数楽のちえ）
- 丸いものについて調べよう⑦（A数楽的ちえ）
- 時こくと時間⑪（A　数楽のちえ）
- 長さと重さ⑳（A　数楽のちえ）
- 位
- ストロー楽器をつくろう⑨（C　ちょうせん）
- 表やグラフに表そう⑧（C　ちょうせん）

かがく

- パワー全開　遠くまで動くゴムカー・ソーラーカー⑨（B　物質・エネルギー）
- 地球は大きな磁石なの？発見しようじしゃのふしぎ⑥（B　物質・エネルギー）
- すごいね　生き物のひみつ⑧（A生命・地球）
- え？形が変わると重さも変わる？もの重さついて調べよう⑤（B　物質・エネルギー

くらし

- 地いきの特色ある仕事のうつり変わり⑭(b　あそびとしごと)
- 唐人町商店街を元気よく⑧(c　ちほうとにほ
- たんけん，はっけん！福岡市⑭(C　ちほうとにほん)
- 「つくろう！わたしたちの小さな
  (b　あそびとおかね)

にんげん

- 予想される内容（B　わたしたち）　学級目標を話し合おう　係をパワーアップしよう　お
- 大切にしよう！自分とのかかわり⑮(C　いきるみち)

My Time㉟

- 予想される内容（A　わたし）：3年生になって　じぶんのとくちょうを見つけよう　なりたい○○って何だ

げいじゅつ

- 表そう！ぼくたちわたしたちのファンタジーワールド⑳（A　ひょうげん）
- 組み合わせて楽しもう！森のおく
- 広がれ　絵の具の世界⑫（A　ひょうげん）
- とびこもう！絵本の世界へ④（B　かんしょう）
- 音楽の森⑭（A　ひょうげ
- 新たな表し方との出合い⑩（A　ひょうげん）

けんこう

- 走ってジャンプ⑪（C　運動）
- 水の中で運動しよう⑩（C　運動）
- 走ってとんで⑯（C　運動）
- オリエンテーション②
- かんで強い歯⑧（A　体）
- すもう・つなひき⑮（C　運動）
- 1学期のまとめ②
- 毎日元気なわたしたちのために⑨

◇ 課題

学年テーマ【自然】

2学期							3学期						時数
つ大運動会	[illegible]	防災訓練③	持久走記録会	遠行会	あらつフェスタ	終業式	始業式	教育研究発表会	長なわ集会	お別れ集会	卒業証書授与式	修了式	

しもう⑩，言葉の決まりを知ろう⑤，詩や短歌を楽しもう⑤

きなもの，なあに？③，バーベキューの買い物をしよう④
，教えます④（B 伝え合う）

⑲，英語を聞いて想像しよう①，物語を書こう⑧，
⑮，自分のことをプレゼンしよう⑤（C 創る）

日本の文字に親しもう②，英単語に親しもう⑥，言葉の決まりを知ろう②

落語でみがく言葉の力⑩，日本のお正月を説明しよう④

お話を楽しもう⑧，お話を聞いて想像しよう②，本で調べてほうこくしよう⑨，

252

1より小さい数の計算⑫（A 数楽のちえ）

が大きな計算⑧（A 数楽のちえ）

3年生のまとめ⑩（A 数楽のちえ）

強い形のひみつをさぐろう⑨（A 数楽のちえ）

◇ どのように花壇をつくれば
いいのだろうか⑨

ひらめき計算クイズ⑤（B はっそう）

126

く

◇ 学校には，どのような
生き物がいるのだろうか⑮

光った電気の仕組みをとき明かそう⑤（B 物質・エネルギー）

に
）

発明しよう！未来につながるひみつ道具⑮（C 科学と人間生活）

63

ん）

スーパーの中の世界⑤（a おかねときまり）

受けつぐ 博多の伝統と未来⑫（a おかねときまり）

森」㉕

地いきの安全な生活③
（b あそびとしごと）

地いきのせい治⑬（c ちほうとにほん）

94

世話になった人に気持ちを伝えよう　地いきねこサポーターの方とかかわろう　ありがとう3年〇組

つくろう！「ふぞく小ぷらっとホーム」⑳（C いきるみち）

つくろう ぼくたちわたしたちの未来⑫（C いきるみち）

126

ろう　どうすれば〇〇できるのかな　年をとるってどういうこと　動物を飼うってどういうこと　動物愛護管理センターって何だろう

りもの⑫（A ひょうげん）

たんけん！森の世界へ④（B かんしょう）

うちゅう旅行へでかけよう⑯（A ひょうげん）

音楽からつくりだそう⑩（A ひょうげん）

126

ん）

みんなおいでよ 秋の小部屋⑳（A ひょうげん）

ぼうけん！うちゅうへ④（B かんしょう）

いろいろなゲームに挑戦しよう⑫（C 運動）

元気一杯な毎日を過ごすために㉙
（A 体，B 食，C 運動）

126

続けて走ろう 6分間走⑧（C 運動）

（A 体，B 食）

2学期のまとめ②

学年のまとめ②

第４学年

実践

実践事例　第4学年　「みんなが笑顔でくらすために」プラン

テーマ　共生　　指導者　　伊澤　直美・谷口　慎一郎・井手　　司

関連領域　にんげん →（くらし・ことば）→ にんげん

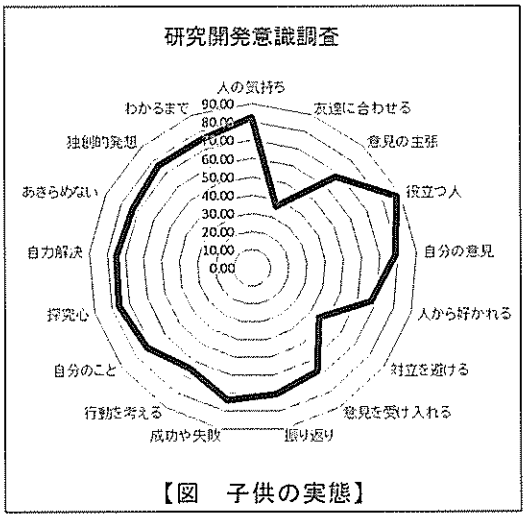
1　資質・能力

◎　自分や周りにいる人たちが，共に生きがいをもって生活したり，関係をつくったりしていくために自分にできることを考え，仲間や他者と関わりながら実践しようとする。（創造性）

○　自分だけでなく，周りの人にとっても住みやすいまちにしていくために大切なことについて，自分の考えを伝え仲間や他者の考えを理解し，共感しながら，自分にできることに協力して取り組むことができる。（協働性）

○　視覚障がい者の方や伴走者の方，仲間との関わりの中で周りの人に目を向け，相手の立場や思いに気付き，自分にできることについて自己決定することができる。（向上性）

2　子供たちの実態



【図　子供の実態】

本学年の子供たちは１学期に「にんげん」の学習において，ペア学年である２年生と二人一鉢で花を植える活動や２年生とより仲良くなるための方法をみんなで話し合い，交流を通して，下級生と関わるときに大切なことや，自分の考え方の変容，成長に気付いてきている。また学校生活において，困っている友達を見かけると「どうしたの。」と声をかけたり，一緒に解決しようとしたりする姿が見られる。このことから人の気持ちを考えたい，役に立ちたいという側面が育ってきていることが分かる（図）。しかし，自分の身の回りにいる人以外に目を向けようとすることや，その関わりについては不十分な点がある。また，相手がどのような状況なのか見取ることや，そこから自分がどのように行動すればよいのかについて判断することも不十分なところが見られる。そこで本題材では，地域の視覚障がい者ランナーや伴走者の方と関わり，その方々の生き方や関係性について調べたり，コミュニケーションに必要な言葉の大切さについて考えたり，誰もが住みやすいまちにするために自分にはどのようなことができるかについての自分の考えをもつことで，周りにいる人たちもよりよく生活していくために自分にできることを考え，実践しようとする態度を養う。そこで，領域「にんげん」を中心に，子供の求めに応じて，他領域と関連させた学びを展開させていく。

3　題材の考え方

本題材では，視覚障がい者の方や伴走者の方の生き方に関心をもち，自分も周りの人も住みやすいまちにするために，自分たちにできることを実践していこうとする態度を養うことをねらいとしている。そのために本題材では，領域「にんげん」を中心として，そこで出合う視覚障がい者の方や伴走者の方の生き方を通して，自己の生き方を見つめ直していく過程で，「くらし」，「ことば」を子供の求めに応じて関連させていき，課題を解決していくことをねらいとしている。具体的には，①視覚障がい者マラソンランナーの方や伴走者の方との出会いを通して，その方々の生き方を追究し，誰もが住みやすいまちにしていくために何が大切なのかについてとらえ，自分にできることを実践すること（にんげん），②視覚障がい者の方と伴走者の方が信頼関係を築くためにはどのようなコミュニケーションをとり，その中で大切なことは何かについて調べることを通して，よりよい人間関係を築いたり，豊かな人生を送ったりするには，相手に合った言葉を選び，思いを伝えることの価値をとらえること（ことば），③視覚障がい者の方が使いやすくするための施設や設備について調べたことや，アイマスク体験から感じたことやもっと知りたいことなどから，自分も，周りの人にとっても住みやすい街にするために，周りに目を向け，住みやすいまちづくりについて工夫していることやそこに関わる人のことを知り，誰もが住みやすいまちにしていくために何ができるかについての考えをもつこと（くらし）などである。そこで本題材では，視覚障がい者の方や伴走者の方から話を聞いたり，学校の周りやたくさんの人が走っている公園を調べたりする活動を設定する。視覚障がい者の立場に立ち一緒に活動することで，相手を気遣うことや，信頼することなど，気持ちよく暮らすことの大切さに気付き，自分も相手にとってもよりよい生き方をとらえることができると考える。また，相手を尊重する態度や，人と気持ちよく関わるためには真心をもった行いを実践しようとする態度を育てる上でも価値がある。

4　学びのプラン

段階	導入	展開
	1　視覚障がい者の松永さんや伴走者の森さんと出会い，これからの学習課題を話し合う。	2　自分の課題を解決するための方法を考え，追究する。

くらし⑱

学習課題　障がい者の方のための施設や設備にはどのようなものがあるのだろう。

2　大濠公園や学校の周りの施設について調べ，障がい者の方にとって，どのような工夫があるかについて話し合う。⑧
(1) 大濠公園で練習をしていることやふくふくプラザの施設について，利用しやすい環境づくりという視点で調べる。④
○　大濠公園は，視覚障がい者と伴走者が安全に練習することのできる工夫がされていることをとらえること
(2) 学校の周りの地域は住みやすいのかについて調べ，話し合う。④
○　段差があったり，道が狭かったりするというように住みにくいところもあることを理解すること

学習課題　住みやすいまちにするために，どのような工夫がされているのだろう。

(3) 住みやすいまちにするためにどのような工夫がされているのか話し合う。⑥
○　市役所の人が施設等をつくったり，困っている人を見かけたら声をかけたりしようというような取組をしたりしていることについて理解すること

にんげん㉟

1　福岡マラソンに関する資料を見て，大濠公園で走っている人にインタビューを行い，その中で出会った視覚障がい者や，伴走者に話を聞き，物が見えないということについて調べるためにアイマスク体験を行い，感じたことや疑問に思ったことから，これからの学習課題について話し合う。⑮
(1) 福岡マラソンの資料から調べたいことを出し合い，大濠公園で走っている人にインタビューを行う。④
○　視覚障がい者のマラソンランナーがいることに気付き，知りたいことの意欲をもつこと
(2) インタビューをして気付いたことやもっと知りたいことを出し合い，見えないことはどのようなことなのか調べるために，アイマスク体験を行う。⑥
○　見えない中で生活をしたり，移動したりすることの大変さを実感し，追究したことについての自分の考えをもつこと
(3) 松永さんや森さんと一緒に走る体験を行い，二人にインタビューを行い，学習課題について話し合う。
○　体験を行ったり，質問したりして解決できたことと，まだ追究したいことについてとらえること
(4) 出し合ったことを分類，整理し，調べる方法や学習課題について話し合う。⑤
○　出し合ったことについて，どのようにして解決していけばよいかをとらえること

学習課題　視覚障がい者の方が走ることや，伴走者ってどのようなことなのだろう。

2　視覚障がい者の松永さんと，伴走者の森さんとの交流から，その生活や一緒に活動していることについて知り，障がいがあることやサポートすることについて話し合う。⑩
(1) 松永さんや森さんの考えや実践していることを知り，障がいがあり生活することについて話し合う。③
○　松永さんや森さんの考えや，これまでの過程を知り，マラソンをしていることについての自分の考えを振り返ること

ことば⑫

学習課題　二人は，どのようにしてコミュニケーションをとっているのだろう。

2　松永さんと森さんがどのようにしてコミュニケーションを取っているのかについて調べ，分かったことを話し合う。⑧
(1) 走るときや，一緒に活動するときにどのようなことに気を付けてコミュニケーションを取っているのかについて調べる。③
○　視覚障がい者の方とコミュニケーションを取る方法を理解すること

評価

領域「にんげん」において，視覚障がい者の方，伴走者の方と出会い，交流したことと自分の体験を比べながら，その生き方から感じたことから，学習課題をつくることができる。
→　視覚障がい者の方や伴走者の方との交流を通しての自分の考えの変容の発言内容や，自分の学びや感じたことの学習プリントへの記述内容，マイタイムノートへの記述内容

展開	終末
2　自分の課題を解決するための方法を考え，追究する。	3　みんなが笑顔で暮らすために大切なことを確かめながら，自分にできることを実践する。

くらし⑱

学習課題　住みやすいまちにするために，必要なことは何だろう。

(4) 住みやすいまちにするために，市役所の人の話を聞くことで，ハード面，ソフト面について，今，できることについて話し合う。④
○　困っている人がいたら声をかけたり，点字ブロックの上に自転車を置いたりしないなど，わたしたちにもできることがあることを知ること

にんげん㉟

学習課題　視覚障がい者の松永さんと伴走者の森さんは，なぜ一緒に走っているのだろう。

(2) 障がいがあってもよりよく生きることや，お互いに支え合うことについて話を聞いたり話し合ったりする。⑦
○　松永さんと森さんのやりとりから，お互いに関わり，信頼することや相手への気遣いが大切であることに気付くこと

3　安心して暮らすために，どのようなことが大切かについて話し合い，実践を行う。⑩
(1) 安心して暮らすためにどのようなことが大切かについて話し合う。②
○　自分のことだけでなく，周りの人のことや，困っていることは何かを見つけることが大切であることに気付くこと
(2) 自分にできることを話し合い，実践を行う。⑥
○　これまでの学びから，自分にできることを決めて実行すること
(3) 実践したことを振り返り，これからの自分の生活に生かせることについて話し合う。②
○　自分だけでなく，周りにいる人も一緒に支え合いながら生きていくことについてとらえること

ことば⑫

学習課題　２人は，どのようにしてコミュニケーションをとっているのだろう。

(2) お互いにコミュニケーションをとることについて調べたことを話し合う。②
○　視覚障がいがあることに配慮してはっきり言ったり，短く的確に言ったりしていることに気付くこと

学習課題　文字が見えない相手に思いを伝えるとき，どのようなことに気を付ければよいのだろう。

(3) 視覚に障がいのある方に，自分の思いを伝える方法について話し合い，松永さんに自分の思いを伝える。③
○　自分の目的，相手に合わせた方法を選んで，自分の思いを伝えること

学習課題　よりよい人間関係を築いていこうとするとき，言葉はどのような価値があるのだろう。

3　コミュニケーションをとるときに言葉はどのような価値があるのかについてまとめ，書き表す。④
(1) 今まで学習したことについて話し合い，言葉の価値についての自分の考えをまとめる。②
○　障がいのある方とコミュニケーションをとるときに大切なことについて学んだことを振り返ること
(2) 言葉の価値やコミュニケーションの大切さについて書き表したことを話し合う。②
○　自分が考える言葉の価値やコミュニケーションの大切さについてとらえること

評価

領域「にんげん」において，視覚障がい者の方や伴走者の方との交流から，誰にでも住みやすいまちづくりにしていくためにどのようなことが大切かについてとらえ，実践することができる。
→　自分の考えたことや，大切にしたいことをまとめた表現物や交流の発言内容，これまでの学習におけるポートフォリオ，学校生活での行動記録

実践事例　第4学年　「みんなが笑顔でくらすために」プラン

領域　にんげん　　指導者　伊澤　直美

1　資質・能力

◎　自分や周りにいる人たちが，共に生きがいをもって生活したり，関係をつくったりしていくために自分にできることを考え，仲間や他者と関わりながら実践しようとする。（創造性）

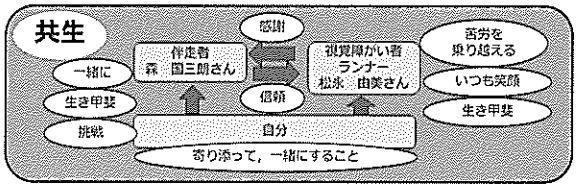
○　自分も，周りの人にとっても住みやすいまちにしていくために大切なことについて，自分の考えを伝え仲間や他者の考えを理解し，共感しながら，自分にできることに協力して取り組むことができる。（協働性）

○　視覚障がい者の方や伴走者の方，仲間との関わりの中で周りの人に目を向け，相手の立場や思いに気付き，自分にできることについて自己決定することができる。（向上性）

2　題材における領域「にんげん」の考え方

本題材では，視覚障がい者の方や伴走者の方の生き方に関心をもち，自分も周りの人にとっても住みやすいまちにするためには何が大切なのかについて考え，自分にできることを実践していこうとする態度を養うことをねらいとしている。具体的には，①視覚障がい者マラソンランナーの方や伴走者の方との出会いを通して，視覚障がい者の方の生活や，体験を通してのサポートの必要性に気付くこと，②視覚障がい者の方と伴走者の方は，互いに信頼し合っていることや，互いに高め合うことができる関係であることに気付くこと，③誰もが笑顔で暮らすために大切なことについての自分の考えをもち，自分にできることを実践することなどである。視覚障がい者の立場に立ち，相手の困っていることに気付くことや，互いに信頼すること，生き甲斐をもって生活することの素晴らしさや誰もが笑顔で暮らせるようにするためのまちづくりの大切さに気付き，自分も相手にとってもよりよい生き方をとらえることができると考える。また，相手を尊重する態度や，人と気持ちよく関わるためには真心をもった行いを実践しようとする態度を養うことは大切なことであると考える。

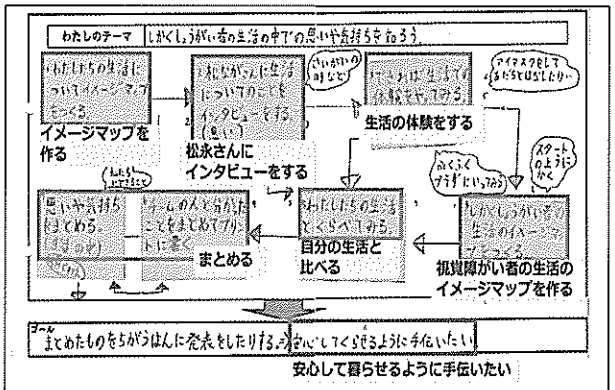
3　学習の流れと考察



【題材における領域「にんげん」の構造】

導入段階のねらい

福岡マラソンや大濠公園でのインタビューをもとに，どのようなことを追究していきたいのか課題を設定することができる。



【資料１　課題解決のための計画】

導入段階では，大濠公園で走っている視覚障がい者ランナーの方と伴走者の方と出会い，福岡マラソンにはどのような人が参加しているのか，視覚障がいとはどのようなことかについて話し合った。その中で，どのような福祉用具があるのか，また，視覚障がい者マラソンランナーの松永さんはなぜマラソンを続けているのかなどの疑問が出た。そこで，子供それぞれが出したこのような疑問をどのような順番で解決し，どのようなゴールを目指すのかについて全体で話し合う場を設定した。そこからＡ児は，話合いやこれまでの体験などを通して，「安心して暮らせるように手伝いたい。」と記述していた（資料１）。

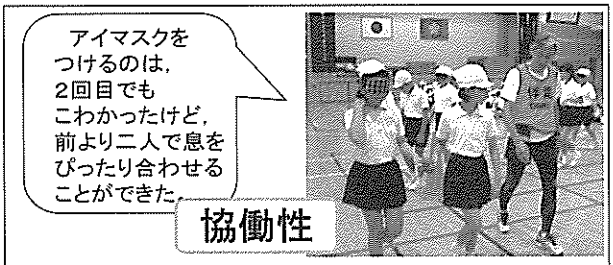
考察１

視覚障がい者マラソンランナーの松永さんや伴走者の森さんとの出会いは，子供たちが追究していきたい課題を設定する上で有効であった。その根拠は「視覚障がい者の方が苦手なことに挑戦することや，目が見えない不自由さについて考えていきたい。」という記述があり，自分が解決したいことについて，どのように進めるのか計画を立てることができたからである。

展開段階のねらい

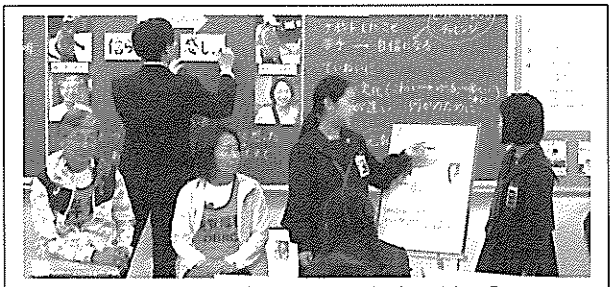
視覚障がい者マラソンランナーの松永さんと伴走者の森さんと一緒に活動したり交流したりすることで，視覚障がい者の生活について知り，それぞれの生き方についてとらえることができる。

(1) 見えないことや，視覚障がい者の方の生活はどのようなものか，実際にアイマスクを着けて体験する。



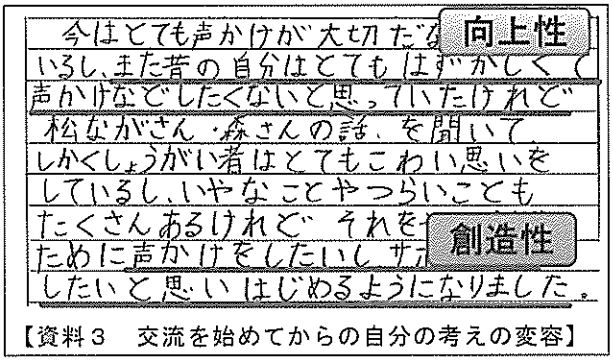
【資料２　アイマスクをして歩く様子と感想】

(2) アイマスクを着けて走る体験や，伴走者の体験，視覚障がい者の松永さんや伴走者の森さんと交流して気付いたことを話し合う。



【写真　松永さんと森さんとの交流の様子】

(3) これまで追究してきたことや体験してきたことから，自分の考えの変容について交流する。



【資料３　交流を始めてからの自分の考えの変容】

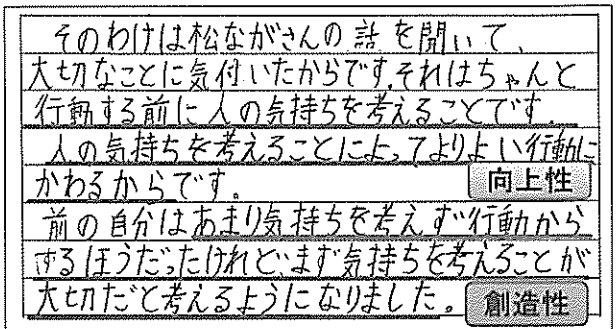
展開段階では，課題解決のためにアイマスクを着けて歩いたり，走ったりする活動を行った。松永さんと森さんとの交流では，見えないことの経験や日常生活，伴走者としての関わりやサポートすることなどについての考えを話し合った。すると，A児は「前の自分は恥ずかしくて声かけはしたくないと思っていたけれど，辛いことを和らげるために声かけやサポートをしていきたい。」といった記述をしていた（資料３）。

考察2

松永さんと森さんと一緒に，アイマスクや伴走の体験をしたり，交流をして気付いた自分の考えについて話し合ったりしたことは，松永さんの生き方の素晴らしさをとらえさせる上で有効であった。その根拠は，目が見えないことについて体験して感じたことや，松永さんや森さんの生きる姿勢の素晴らしさに気付いて発言し，自分の視覚障がい者の方に対する考えや見方が以前と比べて変わってきたことに気付いてきたからである。

終末段階のねらい

松永さんや森さんとの交流や信頼関係について話し合う活動や，調べ活動を行うことで，これからの自分の生き方について意思決定することができる。



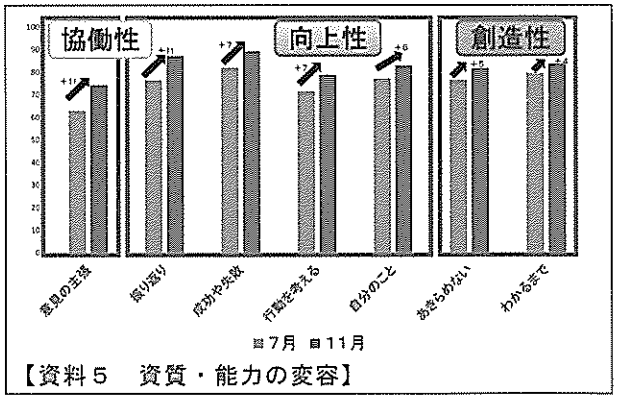
【資料４　これからの自分の生き方についての感想】

終末段階では，松永さんと森さんとの信頼関係から，これまでの学びをどのように生かすのかについての話合いの時間を設定した。すると，自分の考えの変容から，「障がいがあっても特別ではないのだから，声をかけることをしよう。」といった発言や，相手の気持ちを考えて行動するという記述があった（資料４）。

考察3

松永さんや森さんとの交流から，二人の信頼関係について話し合ったり，これからの自分の生き方について考えたりしたことは有効であった。その根拠は，「人の気持ちを考えて行動する。」という記述があったからである。お互いに支え合っている松永さんと森さんの様子を見たり，実際に質問に答えてもらったりしたことで，自分の生き方の参考になったと考える。

全体考察



【資料５　資質・能力の変容】

本題材はとくに向上性の伸長に有効であったと判断できる（資料５）。考察１，２から，向上性の発揮に学びの途中での自分の考えの変容や，また変わらなかったところの振り返りの活動の設定が大きく影響したと考えられる。以上のことから向上性を発揮するためには，活動した後に自分のことを振り返る活動が有効であると考察することができる。今後は子供の資質・能力の高まりを見取る評価のあり方，他の領域との関連における効果的な題材計画の開発の必要がある。

実践事例　第4学年　「松永さんに感謝の気持ちを伝えるには」プラン
～点字がよいか，音声がよいか～

領域　ことば　　指導者　谷　口　慎一郎

1　資質・能力

○　松永さんにお礼の気持ちを伝える方法を追究し，その方法のよさや問題点からコミュニケーションについての考えをつくることができる。　（創造性）

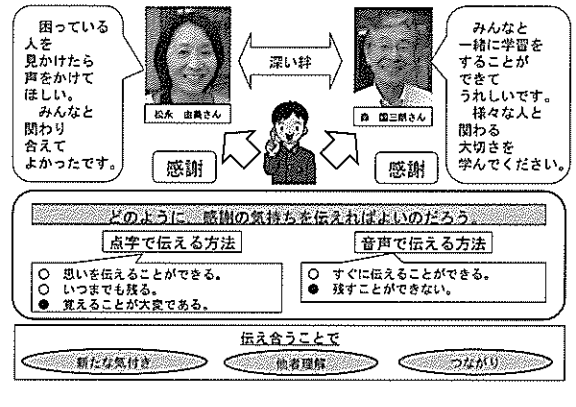
◎　お礼の気持ちを伝えるために，松永さんへの思いを大切にしている方法を選択し，そのよさについて友達と伝え合おうとすることができる。　（協働性）

○　友達と関わり合いながら，お礼の気持ちを伝える方法についてどちらがよいか考える中で，自他の考えのよさに気付くことができる。　（向上性）

2　題材における領域「ことば」の考え方

本題材では，お世話になった松永さんにお礼の気持ちを伝える方法について話し合う中で，方法のよさや問題点から自分の考えを創り出すことができるようにする。また，その考えを他者と交流することで，他者の考えのよさに気付き，自分の考えに取り入れたり，話し合うことの価値を実感したりすることができることをねらいとしている。具体的には，①「視覚障がい者の松永さんに感謝の気持ちを伝えるには，どうしたらよいのか」という課題意識をもつこと，②資料で調べたり，直接本人にインタビューしたりすることで，よりよい伝え方について自分の考えを創り出すこと，③違う考えをもつ友達と交流することで，自分の考えと比較し，考えに付加・修正，強化すること，④思いの伝え方について自分の考えを見直し，松永さんに感謝の気持ちを伝えることなどである。実際に感謝の気持ちを伝える方法として点字で伝える方法と音声で伝える方法がある。その二つから最適な方法を選び，根拠を明確にして，考えや思いを他者に説明していこうとする態度を養うことは大切だと考える。

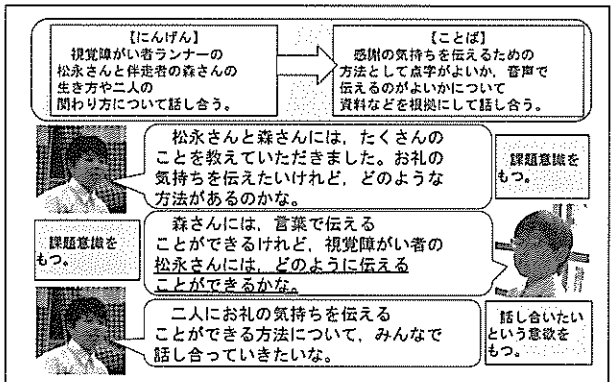
3　学習の流れと考察



【題材における領域「ことば」の構造】

導入段階のねらい

松永さんから学んだことを振り返り，松永さんにどのように感謝の気持ちを伝えればよいのか，これからの追究課題をつくることができる。



【資料１　課題づくりをするまでの子供の反応】

導入段階では，「にんげん」の学習で松永さんと森さんの生き方や思いから学んだことを流れ図を使って振り返った。その中で，子供たちは，「松永さんや森さんにお礼の言葉を伝えたい」と発言した。また，視覚障がい者の方に思いを伝える方法として，点字で伝える方法と音声で伝える方法があることに気付いた。その中で，「伴走者の森さんには，言葉ですぐに伝えることができるけれど，松永さんにはどのように伝えればよいのだろうか」という発言が出た。この発言をもとに，「松永さんに感謝の気持ちを伝えるにはどうすればよいのか」という全体の問いをつくった。

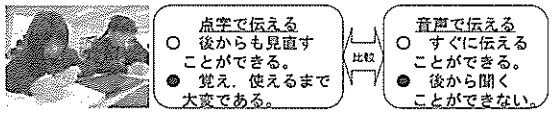
考察１

視覚障がい者ランナーの松永さんや伴走者の森さんとの出会いや，「にんげん」の学習で二人の生き方や思いにふれ，学んだことを話し合う活動の場を設定したことは，感謝の気持ちをもち，どのような方法でその思いを伝えればよいのかという課題を設定する上で有効であった。その根拠は，資料１にあるように，話合いにおいて，子供たちが「感謝の気持ちを伝えるためには，どうしたらよいか」と発言したからである。

展開段階のねらい

点字や音声言語のよさや問題点について追究したことを交流し，感謝の思いを伝える最適な方法について考えをつくったり，深めたりすることができる。

(1) 点字や音声言語のよさや問題点について調べる。

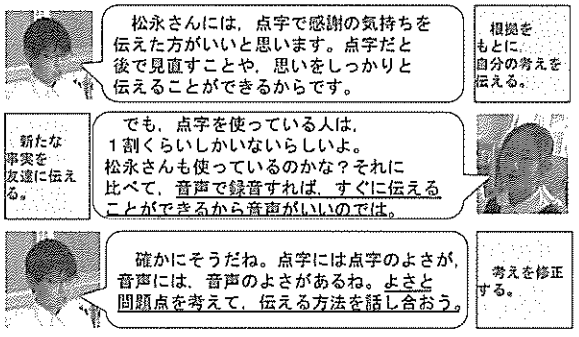


【資料２　点字と音声で伝える方法のよさと問題点】

(2) 松永さんにインタビューして調べる。

【資料３　インタビューしている子供の反応】

(3) 創り出した考えを交流する。



【資料４　考えを深める子供の反応】

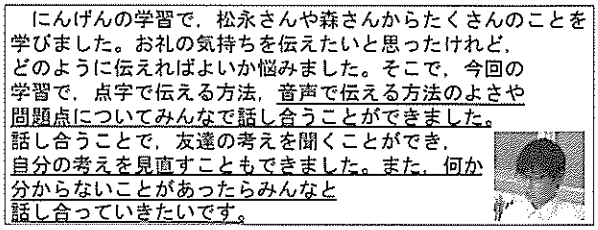
展開段階では，松永さんに感謝の気持ちを点字で伝えるグループと音声で伝えるグループに分かれ，追究した。点字で伝えるグループは，覚えることが大変であり，作成することに手間がかかる問題点がある一方，ずっと残すことができ，後から何度も読むことができるというよさに気付いた。また，音声で伝えるグループは，すぐに伝えることができるよさがある一方，自分の思いを伝えにくいことや，後から聞き直すことができないという問題点に気付いた(資料２)。次に，松永さんに直接インタビューした。その中で，松永さんの「点字の方が後から読み直すことができるので，相手の思いを知ることができます」という話を聞いて，創り出した自分の考えを見直し，「もっと，他の友達の考えを聞き，話し合いたい」と発言した(資料４)。

考察2

本人にインタビューしたり，違う考えをもつ友達と意見を交流したりしたことは，松永さんに感謝の気持ちを伝える方法についての考えを深めさせる上で有効であった。その根拠は，資料４にあるように，話合いにおいて，考えを変容させ，新たな価値に気付き，意欲をもった発言をしたからである。

終末段階のねらい

感謝の気持ちを伝える方法について自分の考えを決定するとともに，課題解決のために，他者と関わり合うことのよさを感じることができる。



【資料５　学んだことの感想 】

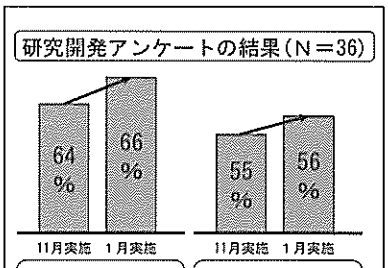
終末段階では，追究して分かったことを振り返り，学んだことを話し合う活動を設定した。その中で，資料５のように感謝の気持ちを伝える方法についてみんなで話し合うことで，新たな考えを創り出すことができ，これからも課題解決のためには，みんなで話し合いたいと振り返ることができた。

考察3

内容面で分かったこと，自分の変容，これからのことという３つの視点で振り返る活動を設定したことは，自分がどのようなことを学び，これからもっとどのようなことをしたいのかについてとらえさせる上で有効であった。その根拠は，資料５にあるように，話し合うことのよさを感じ，これからも課題を解決していくために話し合っていこうという記述があるからである。

全体考察

本題材はとくに意見を主張することや，他者の意見を受け入れることが育ってきていることから協働性の伸長に有効であったと判断できる(資料６)。これは，考察２にあるように，違う考えの友達と交流したり，分からなことを本人にインタビューしたりしたことで，点字や音声言語のよさや問題点について理解することができ，自分の考えを主張する根拠を明確にもつことができたことが大きく影響したと考えられる。また，ポイントの減少があったものは「難しいことでも，人に頼らず，自分の力でやろうとする」であった。これは，追究方法が限定的であったため，自分で学ぶ機会が少なく自力解決する満足感を味わうことができなかったからだと考える。



【資料６　子供の変容】

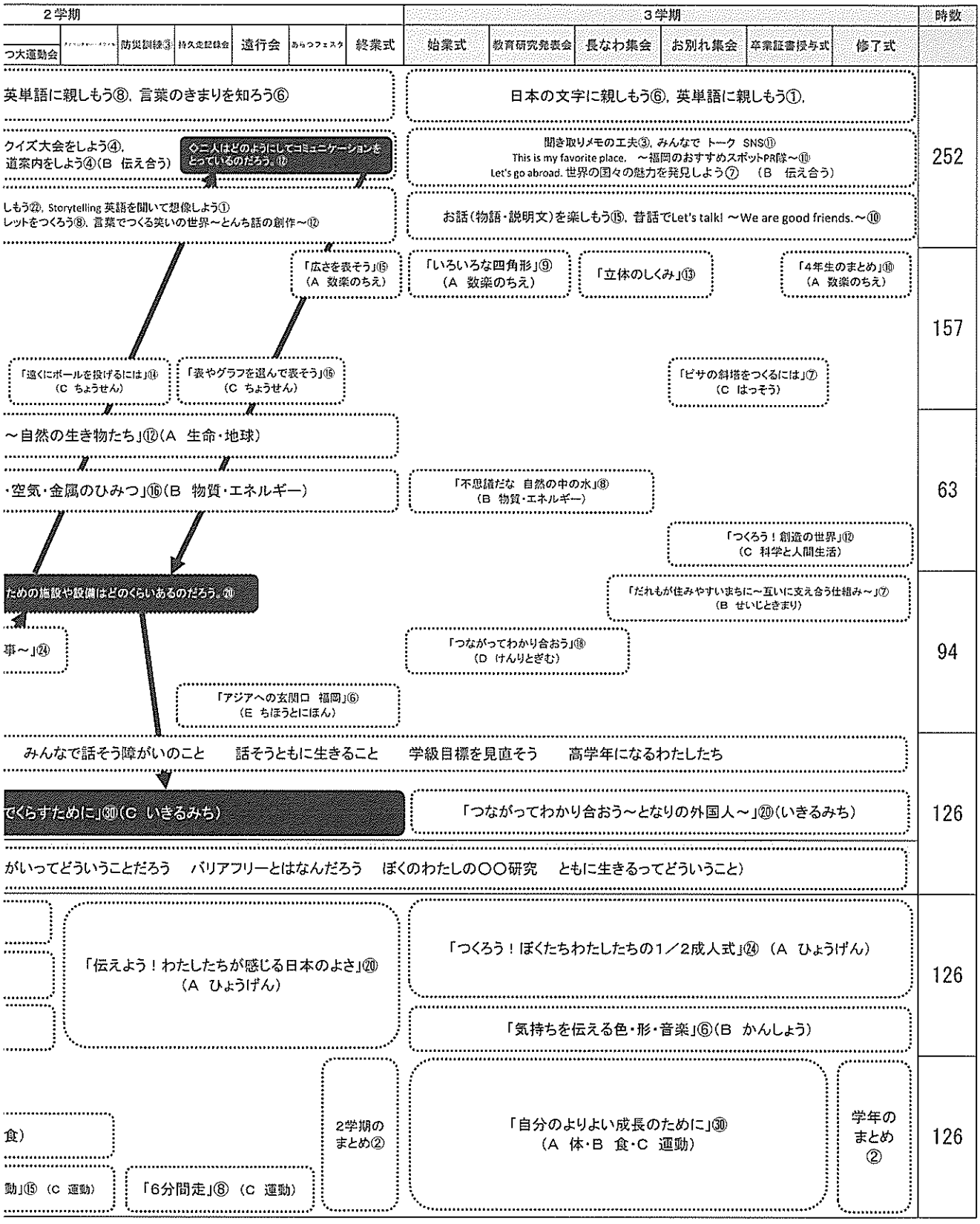
Ｈ２９年度　年間指導計画　第4学年

単独題材名　関連題材名　学びが進む方向に矢印でつなぐ

	1学期												教育実習			
学校行事	始業式	入学式	歓迎遠足	参観学芸会	防災訓練①	交通安全教室	修学旅行	体育づくりセミナー	プール清掃	プール開き	相撲・綱引き大会	終業式	始業式	防災訓練②	月見学芸会	あら
ことば	日本の文字に親しもう⑥，英単語に親しもう⑦，言葉のきまりを知ろう④（A　知る）												日本の文字に親しもう④，			
	読書生活について考えよう⑪（B　伝え合う） What do you like?　すきなものをたずねよう②（B　伝え合う）												ことわざからの学びを伝えよう⑧，What's this? 松永さんに感謝の気持ちを伝えよう⑫，Turn right.			
	お話（物語・説明文）を楽しもう㉔，英語を聞いて想像しよう①，調べたことを整理して書こう⑬ 新聞の秘密をさぐろう⑭，広めよう！日本のこころ～英語にしたい日本のことば～⑫（C　創る）												お話（物語・説明文）を楽 心に残ったことを感想文に書こう⑧，リーフ			
すうがく	「小数にくわしくなろう」⑪ （A　数楽のちえ）			「大きな大きな数」⑪ （A　数楽のちえ）			「きまりをつかって計算しよう」⑧ （A　数楽のちえ）						「分数のたし算・ひき算」⑳ （A　数楽のちえ）			
	「魔方陣にチャレンジ」⑥ （B　はっそう）					「太陽までのきょりは?」④ （B　はっそう）				「ひらめきで便利に計算」⑥ （B　はっそう）						
															「いろいろな表やグラフ」⑫ （C　ちょうせん）	
かがく													「自然は数を知っている			
	「空気の秘密のパワー発見　押して飛ばそう空気でっぽう」⑧ （B　物質・エネルギー）					「電流の限界に挑戦　速さ・明るさ・力強さ」⑨ （B　物質・エネルギー）							「熱を加えて大きさへんしん　水			
くらし					「お金の仕組み」⑨ （C　けいざい）		「わたしたちのくらす福岡県」⑫ （A　れきしとぶんか）								◇障がい者の	
	「だれもが住みやすいまちに～市役所のまちづくりから～」 （D　けんりとぎむ）												「だれもが住みやすいまちに～生活を支える仕			
にんげん	予想される内容（B　わたしたち）：　学級目標を話し合おう　　学級のルールを決めよう　　係活動で学級を明るくしよう															
	「高学年に向けて，パワーアップ」⑱（C　いきるみち）												「みんなが笑顔			
	My Time㉟			予想される内容（A　わたし）：　4年生になって　高学年になる準備をしよう　〇〇を振り返って　障												
けいしゅつ	「かざって，使って，楽しいマイグッズ」⑩（A　ひょうげん）						「こころぽかぽか ～あらつ博物館へようこそ～」⑳ （A　ひょうげん・B　かんしょう）						「これぞ！日本のわざ」⑯ （A　ひょうげん）			
	「気持ちを合わせて　歌と合奏で」⑩（A　ひょうげん）												「日本のみ力をげきで伝えよう」⑩			
	「色・音・形で連想ゲーム」⑥（B　かんしょう）												「大切にされてきた日本のわざ」④			
けんこう	オリエンテーション②			「大きくなるからだ」⑦（A　体・B　食）									1学期のまとめ②	「バランスのよい食事」⑦（B		
				走る跳ぶ運動⑬ （C　運動）		すもう・つなひき⑭（C　運動）		「水泳」⑨（C　運動）						「ゲームをつくろう」⑮		「器械運

◇課題

学年テーマ【共生】


2学期
3学期
時数
つ大運動会
防災訓練③
持久走記録会
遠行会
あらつフェスタ
終業式
始業式
教育研究発表会
長なわ集会
お別れ集会
卒業証書授与式
修了式
英単語に親しもう⑧，言葉のきまりを知ろう⑥
日本の文字に親しもう⑥，英単語に親しもう①，
クイズ大会をしよう④，
道案内をしよう④（B 伝え合う）
◇二人はどのようにしてコミュニケーションをとっているのだろう。⑪
聞き取りメモの工夫③，みんなで トーク SNS⑪
This is my favorite place. ～福岡のおすすめスポットPR隊～⑩
Let's go abroad. 世界の国々の魅力を発見しよう⑦ （B 伝え合う）
252
しもう㉒，Storytelling 英語を聞いて想像しよう①
レットをつくろう⑧，言葉でつくる笑いの世界～とんち話の創作～⑫
お話（物語・説明文）を楽しもう⑮，昔話でLet's talk! ～We are good friends.～⑩
「広さを表そう」⑮
（A 数楽のちえ）
「いろいろな四角形」⑨
（A 数楽のちえ）
「立体のしくみ」⑬
「4年生のまとめ」⑩
（A 数楽のちえ）
157
「遠くにボールを投げるには」⑭
（C ちょうせん）
「表やグラフを選んで表そう」⑯
（C ちょうせん）
「ピサの斜塔をつくるには」⑦
（C はっそう）
～自然の生き物たち」⑫（A 生命・地球）
・空気・金属のひみつ」⑯（B 物質・エネルギー）
「不思議だな 自然の中の水」⑧
（B 物質・エネルギー）
63
「つくろう！創造の世界」⑫
（C 科学と人間生活）
ための施設や設備はどのくらいあるのだろう。⑳
「だれもが住みやすいまちに～互いに支え合う仕組み～」⑦
（B せいじときまり）
事～」㉔
「つながってわかり合おう」⑱
（D けんりとぎむ）
94
「アジアへの玄関口 福岡」⑥
（E ちほうとにほん）
みんなで話そう障がいのこと 話そうともに生きること 学級目標を見直そう 高学年になるわたしたち
てくらすために」㉚（C いきるみち）
「つながってわかり合おう～となりの外国人～」⑳（いきるみち）
126
がいってどういうことだろう バリアフリーとはなんだろう ぼくのわたしの〇〇研究 ともに生きるってどういうこと）
「伝えよう！わたしたちが感じる日本のよさ」⑳
（A ひょうげん）
「つくろう！ぼくたちわたしたちの1／2成人式」㉔ （A ひょうげん）
「気持ちを伝える色・形・音楽」⑥（B かんしょう）
126
食）
動」⑮ （C 運動）
「6分間走」⑧ （C 運動）
2学期のまとめ②
「自分のよりよい成長のために」㉚
（A 体・B 食・C 運動）
学年のまとめ②
126

第５学年

実践

実践事例　第5学年　「どうする？　食料問題」プラン

テーマ　日本　　指導者　　井手　　司・鞭馬　あゆみ・杉本　克如

関連領域　くらし →（くらし・けんこう・ことば）→ くらし

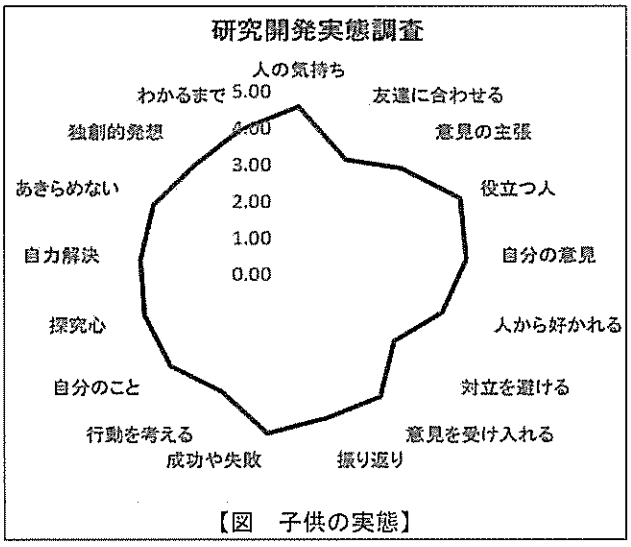
1　資質・能力

◎　世界の食料問題の解決に向けて，問題を明らかにしながら，何ができるか実現可能な方法を見つけ出し，提案したり実践したりして，それをよりよいものに改善することができる。（創造性）

○　よりよい解決方法を見つけるために，友達と協力して情報を集め，折り合いをつけながら話し合ったり，問題に取り組む人々の考え方や思いを理解し，状況に応じた働きかけをしたりすることができる。（協働性）

◎　食料問題を自分の生活に関わることとしてとらえ，自分にできることに取り組んでいくことの大切さに気付き，自分にできることを続けていこうという意欲をもつことができる。（向上性）

2　子供たちの実態



【図　子供の実態】

５年生の子供たちは，人の気持ちを考えたり，誰かの役に立ちたいと思ったりするなど，社会性の側面は育ってきている。「くらし」１学期題材「自分の考えをもとう！わが国の領土問題」の学習では，社会的な問題を考えようとする態度を身に付けてきている。また，「けんこう」１学期題材「はじめてみようクッキング」では，今までやってもらっていたことが，自分でできるようになったという達成感を感じ，実践意欲を高めることができた。「ことば」１学期題材「マイスーパースターを紹介しよう」の学習では，友達や教師ができることを聞き手に分かるように説明する活動を行った。

本題材「どうする？食料問題」では，国内外の食に関する社会的な問題や取組について調べ，取組に携わる方の考え方や思いを知ることを通して，自分にできることを考え，実践する意欲をもたせたい。また，これからの時代に求められる持続可能な社会の実現に向けて小学校のこの期に，世界規模の食料問題について考えながら，自分との関わりに気付き，自分にできることを考えさせるようにする。そこで，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連して学習を展開していく。

3　題材の考え方

本題材では，食料問題について，解決のための実現可能な方法を見つけ出し，実践したり，自分にできることを実践する意欲をもったりすることをねらいとしている。そのために本テーマでは，領域「くらし」を中心として食料問題といった世界の見過ごすことのできない状況や事実に出合い，解決に向けて参画する過程において，子供の求めに応じて，「けんこう」「ことば」における学習を関連させながら，子供の学びを総合的に深めていくようにしたいと考えた。具体的には，①世界の飢餓について調べることを通して，追究していきたい課題を見い出すこと（くらし），②食料問題に関する国内外の現状や取組を理解すること（くらし），③オーストラリアの市民団体「オズハーベスト」が運営する無料スーパーマーケットの取組について調べたり，スタッフとやりとりしたりすることを通して，食料問題に対する海外の先進的な取組やキャッチフレーズに込められたスタッフの思いや考えを理解すること（ことば），④調理や栄養の視点から自分の食事をどのように整えることができるかを考えることを通して，食べ物を無駄にしない調理方法が，自分たちにもできる食料問題に対する取組の１つであることをとらえること（けんこう），⑤食料問題の現状を改善するために自分たちにできることは何かを考え，できることを実践すること（くらし）である。以上のように，領域「くらし」を中心に，子供の求めに応じて，他領域と関連して題材を展開していった。題材の導入では，世界の飢餓の現状を示した動画を視聴し，「どうすれば飢餓が解決するのか」という疑問から，「解決策を見つけたい」という願いのもと「くらし」「ことば」「けんこう」において追究していった。

個々の問いをもとに，各領域での追究を行った子供たちは，終末段階では，世界の食料問題の解決方法について話し合い，その中で自分たちとの関わりを見い出すことができた。そして，自分たちにできることは何か考え，「あらつフェスタ」において，食について考えてもらう展示や体験コーナーを設定した。

4　学びのプラン

段階	導入	展開
	1　世界の飢餓について知り，自分のテーマをつくる。	2　自分のテーマを解決するための方法を考え追究する。

けんこう⑩

学習課題　野菜の栄養を残さず取り入れる調理の仕方を調べよう。

1　野菜に含まれる栄養について調べる。②
○　今まで捨てていた部分にも多くの栄養が含まれていることに気付くこと

2　野菜を丸ごと活用した調理方法を調べる。⑧
(1) これまでは捨てていた皮や茎の部分も残さず食べられるようにする調理方法を調べる。④
○　ゆでる，蒸す，電子レンジで加熱するなどの調理方法を工夫することで，おいしく食べられることが分かること

くらし⑳

1　世界の飢餓の現状を知り，感じたことを交流し，これから学習を進めるための課題について話し合う。⑩
(1) 世界の食料問題の現状に触れ，感じたことについて話し合う。②
○　世界や日本の食料問題に関心をもつこと
(2) どのようなテーマで自分たちのチームは追究するか，ＧＴから学んだテーマの作り方をもとに話し合う。⑤
○　事前に調べたことをもとに，どのようなことを調べたいのか課題をもつこと
(3) 自分のテーマについて友達と交流し，課題の価値を話し合い，自分の追究するテーマを決定する。③
○　調べる中で関心をもったことがテーマとして価値があるのか，追究方法が適切か判断すること

学習課題　世界の食料問題は，どうすれば解決するのだろうか。

2　自分の課題について追究する。⑧
(1) 日本の食料問題について話し合う。⑤
○　日本の食品ロスの現状などをとらえ，それをもとに，解決方法を考えたり，自分にできることについて考えたりすること

にんげん⑥

1　日本や世界の子供の貧困問題に対して，取り組んでいる方に出会い，感じたことを交流し，課題について話し合う。②
○　日本や世界の子供の貧困問題に関心をもつこと

学習課題　貧困とはどのようなことなのだろうか。

2　日本や世界の子供の貧困問題について調べ，話し合う。④
(1)　貧困とはどのようなことなのか話し合う。②
○　金銭的なことだけが貧困ではなく，学ぶ権利が奪われたり，食事を十分にとることができなかったり，人権が大切にされないことが貧困につながることをとらえること

ことば⑧

学習課題　食料問題に対して，オーストラリアではどのような取組を行っているのだろうか。

1　オーストラリアの市民団体が運営する無料のスーパー「オズハーベストマーケット」について調べる。②
○　日本と同様に貧困や食品ロスなどの食料問題を抱えるオーストラリアの取組を知ること

評価	領域「くらし」において，「世界では，１分間に17人が餓死している」という事実に出合い，それをもとに世界の食料問題に関心をもち，追究したいテーマを設定することができる。 →　食料問題に関する映像を見たときの感想内容や，その後チーム毎に追究テーマを設定し，それを吟味しながらテーマを付加・修正していく発言内容，記述内容

展開	終末
2　自分のテーマを解決するための方法を考え追究する。	3　学習を通して，自分にできるようになったことや考え方の変化について話し合う。

2　野菜を丸ごと活用した調理方法を調べる。⑧
(2) 今まで捨てていた部分をだしとして活用する方法を調べる。④
○　ベジブロスを活用することが，家庭からの食品ロスの大きな要因である過剰除去の減少につながっていることに気付くこと

2　自分の課題のについて追究する。⑧
(2) 世界の食料問題について話し合う。③
○　課題解決の過程でどのようなことを調べ，調べた事実から考えることができた解決策について，実現可能か，継続することができるか，共有し広げることができるか，という視点で，友達や自分の解決策について判断すること

（子供の求めに応じて）
3　学習して分かったことや自分たちの考えを発信する。②
○　伝えたい相手や内容に応じた発信方法を考えること
【例】
・学校の給食の残菜を減らすために，キャッチコピーをつくり，教室で残菜を減らす取組に協力してもらう
・ベジブロスを使った料理のレシピをつくり，あらつフェスタで紹介する
・食品ロスを減らすための動画をつくり，学校のホームページで紹介する
・福岡市役所の担当の方に，自分たちの考えた食品ロスを減らすための取組を伝える

にんげん⑥

2　日本や世界の子供の貧困問題について調べ，話し合う。④
(2) 日本における子供の貧困に対する取組について調べ，話し合う。②
○　行政による支援だけではなく，子供食堂やフードバンク，学習の場の提供など，民間の取組も行われることによって，子供の貧困を解決しようとしていることをとらえること

2　「オズハーベストマーケット」のキャッチコピーからスタッフの考え方や思いを話し合う。⑥
(1) 紹介ビデオを視聴したり，キャッチコピーの４語の意味を調べたりして，キャッチコピーに込められたスタッフの考え方や思いを話し合う。②
○　英単語そのものの意味だけでなく，４語に込められている意味やスタッフの思いを考えること

2　「オズハーベストマーケット」のキャッチコピーからスタッフの考え方や思いを話し合う。⑥
(2) 「オズハーベストマーケット」のスタッフと交流し，キャッチコピーに込められたスタッフの考え方や思いをもとに，考えたことを話し合う。④
○　使える英語を駆使してスタッフとやりとりし，スタッフの思いや考え方を理解することを通して，自分の考えを広げること

評価　領域「くらし」において，各領域で追究してきた学びをもとに，食料問題を解決する方法について考え，行政や企業，市民に提案したり，自分たちにできることを実践したりしようとすることができる。
→　各領域で関わってきた人や内容について追究してきたノート記述や表現物，世界的な食料問題について自分たちも関わっていることをとらえている発言内容や，解決策を提案する表現物や発言内容

実践事例　第5学年　「どうする？食料問題」プラン
～世界から餓死者を一人でも減らすためにどうすればよいのか～

領域　くらし　　指導者　井手　司

1　資質・能力

◎　世界の食料問題が起きる原因や現状，改善するための取組を追究し，日本から遠い国で起きていることでも，自分たちが関わっていることに気付き，解決方法について提案することができる。　（創造性）

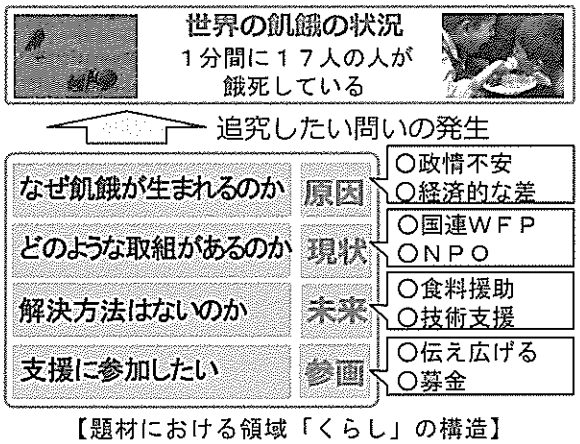
○　個人で追究している食料問題の解決方法について，友達と互いに質問し合ったり，評価し合ったりして自分の考えを改善することができる。　（協働性）

○　世界の食料問題について追究することで，自分自身の生活を省みて，自分の生活を変えようと試みたり，実践してみたりすることができる。　（向上性）

2　題材における領域「くらし」の考え方

本題材では，世界の食料問題の解決方法について考える中で，遠い国で起きていることであっても，自分たちもどこかで関わっていることに気付くことができるようにする。また，それに伴って，自分の生活を変えていこうとしたり，実際に実践したりすることができるようにすることをねらいとしている。具体的には，①世界では現在，９人に１人は飢餓状態にあり，１分間に17人の人が餓死していることを知ること，②世界の飢餓の原因は環境，政治，経済など多様にあることを理解し，その解決のために国際的な機関から民間のＮＰＯまで様々な団体が支援していることを理解すること，③世界がこのような状態の中で，日本は食料の最大の輸入国でありながら，最大の廃棄国でもあることから，日本の課題をとらえ，原因と解決方法について考えること，④追究したことをもとに，自分の生活について考えることなどである。実際に国連は食料問題を解決可能であると述べ，その解決に向けて，子供たちなりに考えることは大切なことだと考える。

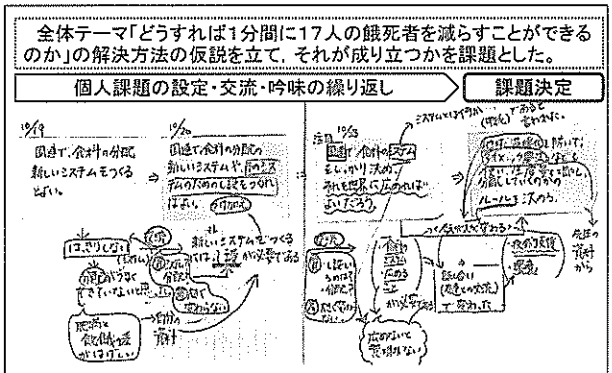
3　学習の流れと考察



【題材における領域「くらし」の構造】

導入段階のねらい

世界の食料問題の現状を知り，どのようなことを追究していきたいのか課題を設定することができる。



【資料１　課題設定までの子供の思考の振り返り】

導入段階では，世界の食料問題の現状についてまとめた映像を視聴し，それに対する疑問を出し合い，個人で追究する課題を設定した。子供からは「何かできないのか。」「国連は解決できると言っているがどうすればよいのか。」などが出た。そこで，全体テーマ「どうすれば１分間に17人の餓死者を減らすことができるのか。」を設定した。そして，その解決方法について個人で仮説を立て，成立するのか調べていくことを課題とした。その際，課題のつくり方についてＧＴ（九州大学松山先生）からアドバイスを頂いたり，付箋紙に記入した課題を全体で共有し，交流したりして，自分の課題を吟味しながら，課題を設定した（資料１）。

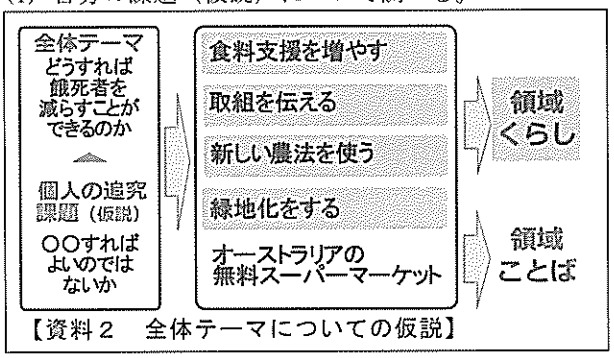
考察１

研究のコンサルティングをされている九州大学名誉教授松山先生との出会いや，友達と自身の課題について交流したことは，課題を設定していく際に，その課題が追究に耐えうるか，全体のテーマにつながっているかを吟味し，よりよい課題を設定させる上で有効であった。その根拠は，課題設定までの付箋に記述している課題の内容が変化し，より具体的になり，焦点化されていることからである。

展開段階のねらい

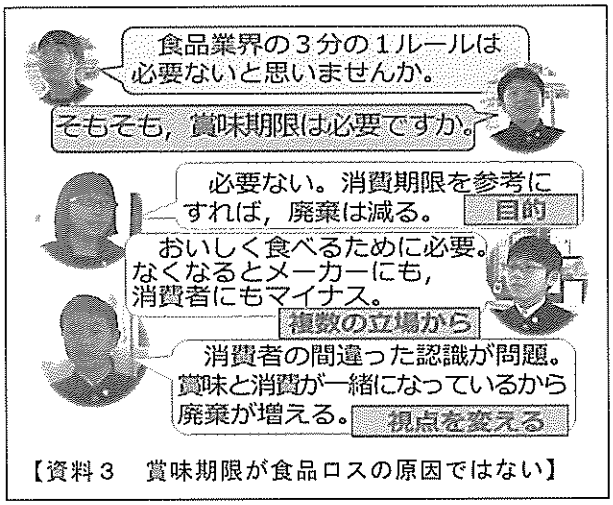
食料問題の解決方法について追究してきたことを交流し，最終的な解決にはその国に自立を促す技術援助が必要であることをとらえることができる。

(1) 自分の課題（仮説）について調べる。



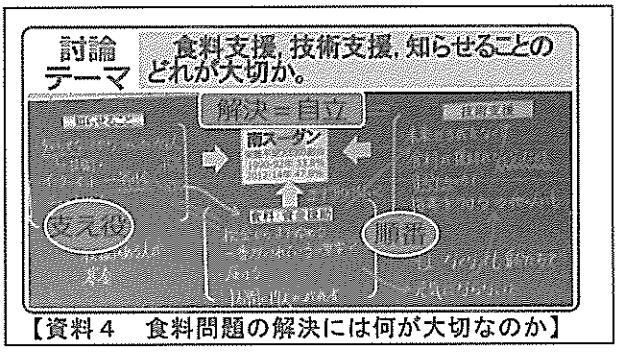
【資料２　全体テーマについての仮説】

(2) 追究する中で，疑問に思ったことをみんなに提案し，全体の場で話し合う。



【資料３　賞味期限が食品ロスの原因ではない】

(3) 食料問題の解決には何が大切なのかを話し合う。



【資料４　食料問題の解決には何が大切なのか】

展開段階では，自分のつくった課題について個人で追究を行った（資料２）。その中で，疑問に思ったこと「賞味期限があるから，食品ロスが生まれていると思うが，賞味期限は必要なのか」を全体に提案し，話し合った。子供たちは，消費者の意識のもち方や賞味期限の正しい理解をする必要性について発言していた（資料３）。その後，それぞれが追究してきた食料問題の解決方法について交流し，全体で食料問題の解決には何が大切か，飢餓が深刻な状態にある南スーダンを事例として話し合った。子供たちは，最終的な食料問題の解決のためには，自立のための技術支援が大切であることに気付きながらも，今苦しんでいる人を助けるための直接的な食料援助や，同じ地球に住む人として飢餓について知らせ，関心を高めていく大切さについて話し合った（資料４）。

考察２

自分の課題について個人で追究し，疑問に思ったことを全体に提案して話し合ったり，追究したことを交流し，全体でその価値について話し合ったりしたことは，最終的な食料問題の解決にはその国の自立が大切であることを理解させるとともに，食料問題に自分たちも関わっていることに気付かせる上で有効であった。その根拠は，学習中の発言において食料問題の解決とは自立することであることや，学習後の振り返りにおいて自分と食料問題の関わりに気付いたことを記述しているからである（資料４，５）。

終末段階のねらい

学んだことをもとに自分にできることを考え，実践しようとすることができる。

【資料５　自分たちの考えをまとめ，発信する】

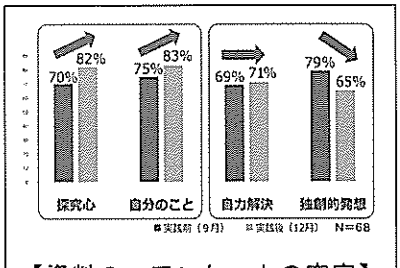
終末段階では，全体テーマに対する自分の考えを提案書としてまとめたり，発信したりする活動を設定した。その中で，「もっと現状を知らせたい」という思いから，オープンキャンパス「あらつフェスタ」でのポスター展示を行い，自分たちが考えた解決方法を伝えることができた（資料５）。

考察３

学習後に自分の考えについてまとめさせたことは，自分が何を学び，どのように考えるようになったのかをとらえさせる上で有効であった。その根拠は，展示したポスターや提案書の記述内容からである。

全体考察

本題材はとくに探究心をもたせたり，自分のことを考えさせたりすることに有効であったと判断できる（資料６）。



【資料６　アンケートの変容】

ポイントの停滞や減少があったのは「自力で解決しようとするか」「独創的な発想があるか」であった。これは，終末段階で，自分たちの学習によって「少しは世界が変わるかも」しれないと十分に実感させられなかったからだと考える。

実践事例　第5学年　「どうする？食料問題」プラン
～世界初の無料スーパーとは～

領域　ことば　　指導者　杉本　克如

1　資質・能力

◎　“Take what you need” “Give if you can” というオズハーベストの２つのキャッチコピーから，オズハーベストが大切にしている思いや考えをとらえ，自分の考えを広げることができる。　（創造性）

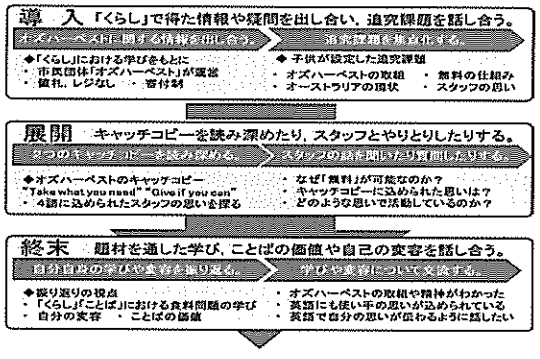
○　追究課題について，オズハーベストのスタッフの話を聞いたり，使える英語や非言語を活用しながら，質問したりすることができる。　（協働性）

○　キャッチコピーの読み深めやスタッフとのやりとりを通して，自分の考えを深めたり，ことばの価値をとらえたりすることができる。　（向上性）

2　題材における領域「ことば」の考え方

本題材では，無料スーパーマーケット「オズハーベスト」の取組について調べたり，スタッフとやりとりしたりすることを通して，食料問題に対する海外の先進的な取組やことばに込められたスタッフの思いや考えを理解することができるようにする。具体的には，①英語で書かれたオズハーベストのホームページを読んだり，紹介ビデオを視聴したりして，オズハーベストの活動内容を知ること，②２つのキャッチコピーの読み深めを通して，オズハーベストのスタッフの思いや考えを考えること，③オズハーベストのスタッフとのやりとりを通して，スタッフの思いや考えを理解することなどである。本題材において，キャッチコピーという短いことばに着目させ，読み深める活動を行うことで，日本語と同様に，英語にも使い手の思いや考えが込められていることをとらえさせることができると考える。また，課題解決に向けて，英語を使って対象に働きかける活動を位置付けることは，ことばを通して新たな知見を得たり，ことばを学ぶ価値を実感させたりする上で価値がある。

3　学習の流れと考察



【題材における領域「ことば」の構造】

導入段階のねらい

「くらし」で調べたオズハーベストマーケットについての情報を出し合い，それをもとに「ことば」で追究していきたい課題を設定することができる。

(1)　「くらし」で調べたオズハーベストマーケットに関する情報や知識を出し合う。

・オーストラリアの市民団体「オズハーベスト」が運営
・平日10時から14時まで開店　・１日150人前後が来店
・値札，レジがなく寄付制　・食料品を売っている
・大手スーパーなどから食品をゆずり受けている　など

【資料１　子供が「くらし」で調べた情報】

(2)　オズハーベストマーケットについて「ことば」で追究していきたいことを話し合う。

【資料２　追究課題の話合い】

導入段階では，「ことば」で追究していきたいことを話し合った。そこで，追究課題を設定するために，「くらし」の学習において調べた情報をもとに，疑問を出し合う場を設定した（資料２）。子供たちは「どのようにして毎日食べ物を仕入れているのか」「どのような考えで活動しているのか」という疑問に加えて，「なぜ飢餓がないオーストラリアで活動しているのか」という「くらし」の学びに関連させた疑問を出し合った。Ａ児は「スタッフの人たちはどのような思いや考えで活動しているのか追究していきたい」と記述した。

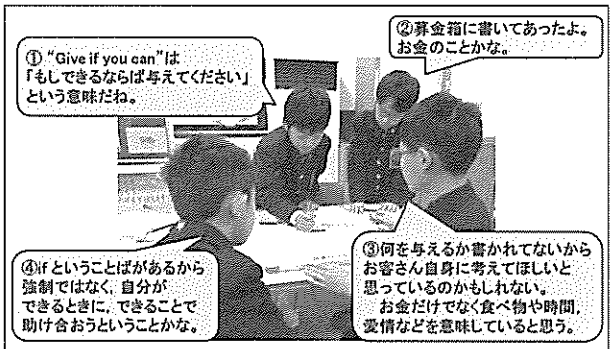
考察１

子供に追究課題をとらえさせるために，「くらし」で調べた情報や知識をもとにした話合い活動を位置付けたことは有効であった。その根拠は，多くの子供が「なぜアフリカではなく，飢餓がないオーストラリアなのか」「ホームページを読めば分かるのではないか」など，課題と追究方法を記述していたからである。

展開段階のねらい

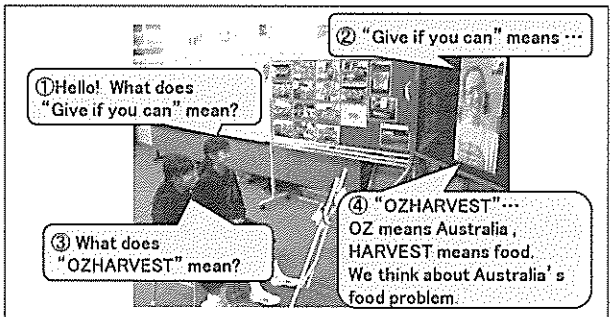
キャッチコピーの読み取りやスタッフとのやりとりを通して，オズハーベストの思いや考えをとらえることができる。

(1) ２つのキャッチコピーの意味を話し合う。

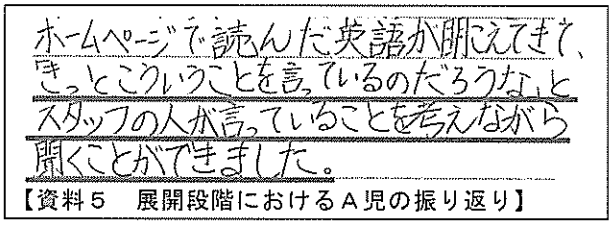


【資料３　ことばに込められた思いを話し合う姿】

(2) スタッフとのやりとりを通して，オズハーベストの思いや考えについて話し合う。



【資料４　スタッフとやりとりする姿】



【資料５　展開段階におけるＡ児の振り返り】

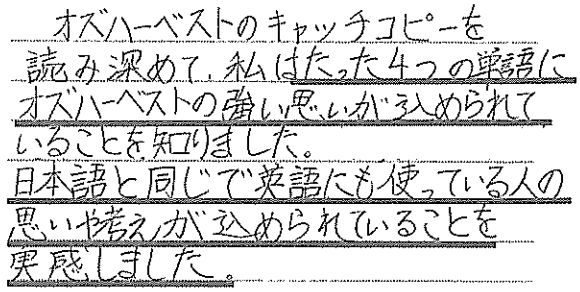
展開段階では，キャッチコピーの意味やオズハーベストの思いや考えを話し合う活動を行った（資料３）。そのときにＡ児は“Give if you can”の if ということばに着目し「相手に強制せず，できるときにできるものを与えてほしい」という自分の考えをシンキングボードに記述していた。次に，スタッフの話を聞いたり，質問したりする交流活動を行った。そのときにＡ児は，知っている英語をつなげたり，写真を見せたりしてやりとりする姿が見られた（資料４）。

考察2

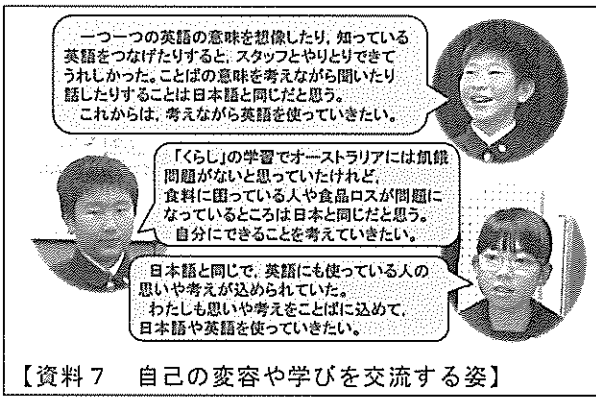
オズハーベストの思いや考えをとらえさせるために，キャッチコピーの意味を考え，スタッフとやりとりする活動を位置付けたことは有効であった。その根拠は，調べたり読み深めたりして得た知識と結び付けながら，スタッフとやりとりすることを通して，自分の考えを深める姿が見られたからである（資料５）。

終末段階のねらい

全体交流を通して，自分の学びを広げたり，ことばの価値をとらえたりすることができる。



【資料６　終末段階におけるＡ児の振り返り】



【資料７　自己の変容や学びを交流する姿】

終末段階では，題材を通した学び，ことばに関する気付きや自己の変容を交流する活動を行った。そのときにＡ児は，ことばへの気付きについて資料６のように記述し，全体交流において発言していた。

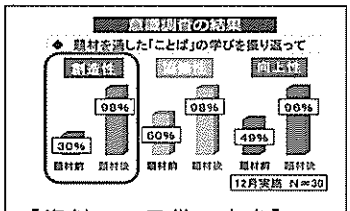
考察3

ことばの価値を実感させ，英語を学び，使う意欲を向上させるために，学びや自己の変容を交流する活動を位置付けたことは有効であった。その根拠は，英語を使って人と関わり合うことを通して，新たな知見を得たり，主体的にことばと関わっていこうとする意欲の高まりが見られたりしたからである（資料７）。

全体考察

本題材はとくに創造性の伸長に有効であったと判断できる（資料８）。考察１，２から，創造性の発揮に，子供自ら追究課題を設定し，課題意識をもち，言語活動に取り組んだことが大きく影響したと考えられる。以上のことから，創造性を発揮するためには，子供が日本語と英語とを往還させながら思考する活動を仕組むことが必要であることが分かる。

今後は，日本語と英語の関連を通して，効果的に子供のことばへの気付きを深める材の開発と題材の精選が必要であると考える。



【資料８　子供の変容】

実践事例　第5学年　「どうする？食料問題」プラン
～つくろう　わたしの満点スープ～

領域　けんこう　　指導者　　鞭馬　あゆみ

1　資質・能力

◎　野菜などの食品に含まれる栄養を無駄なく取り入れるための調理の仕方を理解し，味，旬，色どり，食感などを考えてスープをつくることができる。（創造性）

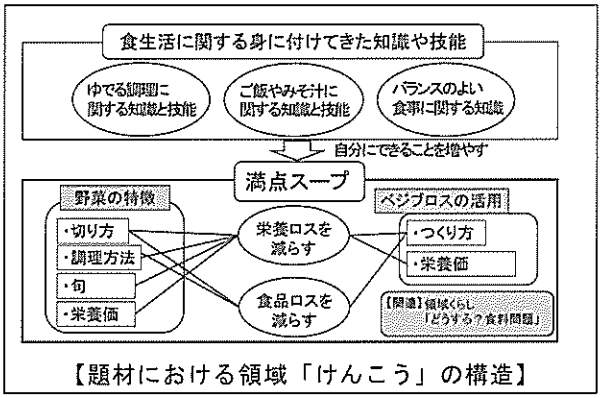
○　使いたい野菜から無駄なく栄養を取り入れることができるように，スープに適した切り方や調理手順のよりよい方法を互いにアドバイスし合うことができる。（協働性）

○　ベジブロスを活用して満点スープをつくることは，栄養ロスを減らし，自分の健康をつくることだけではなく，食材を無駄なく使うことができることから，食品ロスにもつながっていることに気付くことができる。（向上性）

2　題材における領域「けんこう」の考え方

本題材では，野菜の皮や根，種など本来は捨ててしまっていた野菜の部位によってつくられる「ベジブロス」の価値を理解し，それを活用してスープをつくることができるようにする。また，自分でスープをつくることによって，自分の食生活を整えることができることに気付き，自分の健康をマネージメントすることができるようにすることをねらいとしている。具体的には，①ベジブロスの栄養的な価値を理解し，つくることができること，②栄養ロスを減らすために，それぞれの野菜に応じた切り方や調理方法があることが分かること，③栄養がたくさんとれる，色どりがよいなどいろいろな観点から，自分の満点スープをつくることができることなどである。自分でできることが増えることは，自分の健康をマネージメントしていくための選択肢が増えることである。また，食品を無駄にしないスープづくりは領域くらしの学習ともつながっていくものである。

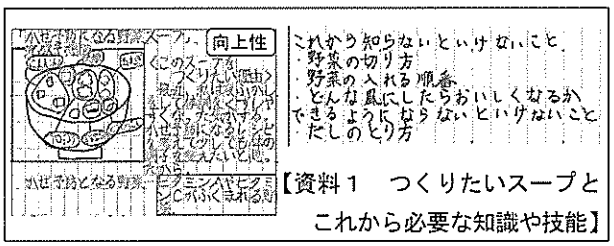
3　学習の流れと考察



【題材における領域「けんこう」の構造】

導入段階のねらい

自分で汁物をつくることで，自分の食生活を整えることができることに気付き，自分の課題をつくることができる。



【資料１　つくりたいスープとこれから必要な知識や技能】

導入段階では，だしの種類によって，風味が変わることに気付かせるために，かつおと昆布の合わせだしとあごだしを使ってつくったみそ汁の飲み比べを行った。さらに，調味料によって，具材の組合せ方も変わることが分かるように，コンソメスープと野菜だしでつくったスープの試飲をした。子供たちは，食事に合わせたいろいろな種類の汁物をつくることができるようになることで，食事のバランスを自分で整えることができるようになることが分かり，自分がつくりたいスープを考えることができた（資料１）。

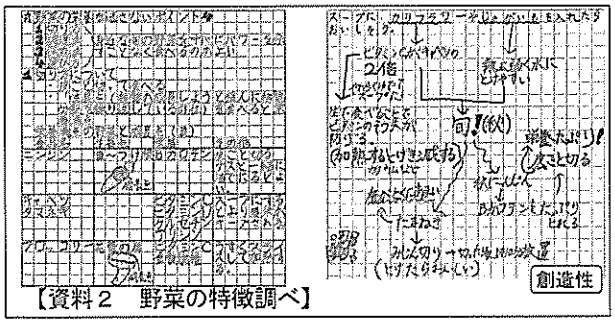
考察１

前題材で，食事のバランスを整えるために大切なことやみそ汁の調理について学習した。それをもとにして，いろいろなだしや調味料を使ったみそ汁やスープを試飲させたことは，子供たちにこれからの学習に対して意欲をもたせる上で有効であった。その根拠は，Ａ児の「かぜ予防になる野菜スープ」の食材で，これまでの学習で分かった栄養素の働きをもとに食材を選び，スープの内容を具体的に考えることができたからである（資料１）。また，「これから知らないといけないこと」として，これまでに習得した知識や技能を振り返りながら，これから自分が身に付けていかなくてはいけない知識や技能についても明らかにしようとする姿が見られたからである。

展開段階のねらい

「満点スープ」をつくるために，栄養ロスを減らすための野菜の調理方法やベジブロスの価値について調べ，自分のスープづくりの計画を立てることができる。

(1) 栄養ロスを減らすための，野菜の調理方法について調べる。

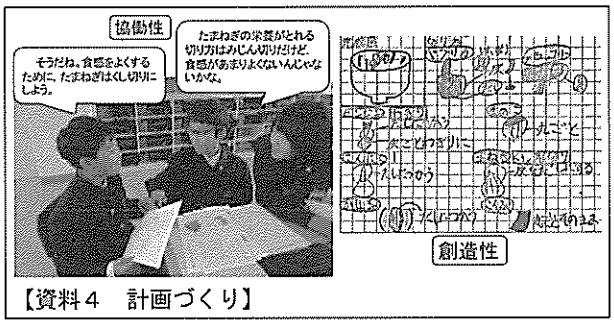


【資料２　野菜の特徴調べ】

(2) ベジブロスの価値を調べ，実際につくる。

【資料３　ベジブロスづくり】

(3) 自分がつくりたい「満点スープ」の計画を立てる。



【資料４　計画づくり】

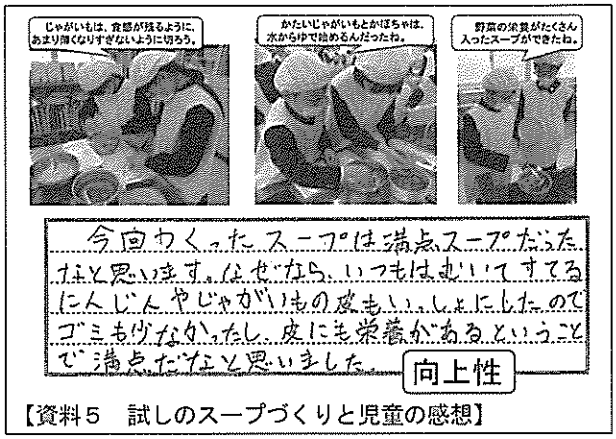
展開段階では，始めに「満点スープ」とはどのようなスープなのかを話し合った。そして，「味」「色どり」「栄養」「食感」がどれもよいスープをつくろうという共通理解のもと，学習を行った。そこで，スープづくりに向けて必要な知識や技能を明らかにし，「野菜の切り方」「だしのとり方と調理手順」について調べていくという全体の学習計画を立てた。まず栄養のとり方についても考えさせるために，「栄養ロス」という言葉を提示した。そして，複数の資料から，野菜のもつ特徴やよりよい切り方について調べた。次に，野菜の皮や根などを使っただしである「ベジブロス」を提示し，その価値について調べ，実際にベジブロスをつくった（資料３）。そして，これまでの学習をもとに最初に自分がつくりたいと考えたスープを見直し，「満点スープ」の計画を立てた。

考察2

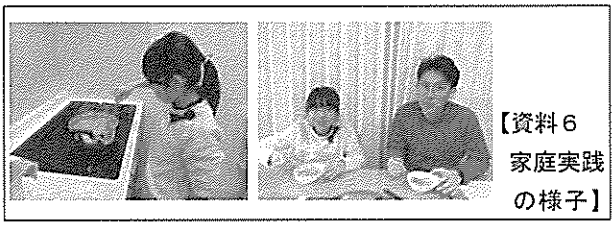
学習の始めに「満点スープ」につて共通理解を図ったことと「栄養ロス」という言葉を提示したことは有効であった。その根拠は，スープに入れたい野菜について考える際に，自分の好みだけでなく，野菜のもつ特徴や季節（旬）など，複数の要素から選ぶことができたからである（資料２）。また，野菜の皮や種の部分など，今までは捨てていた部分に栄養価が豊富であることが分かり，ベジブロスを活用することのよさにも気付くことができたからである（資料４）。また，各自がつくった満点スープづくりの計画について，共通の視点からアドバイスをすることができていたことからも有効であったということができる。

終末段階のねらい

試しの満点スープづくりを通して自分の満点スープづくりに見通しをもち，家庭実践ができる。



【資料５　試しのスープづくりと児童の感想】



【資料６　家庭実践の様子】

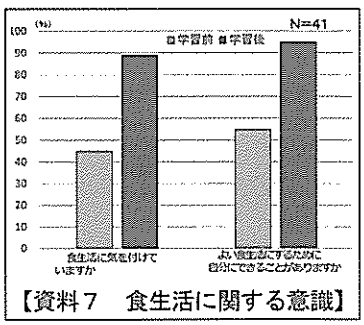
終末段階では，つくりたいスープが似ている子供でグループを編制し，試しのスープづくりを行った。まず，グループで入れる具材を決め，調理手順を話し合わせた。そして，資料５のように試しの満点スープづくりを行い，家庭実践へとつなげた（資料６）。

考察3

試しのスープづくりを行ったことは，自分にできるようになったことを実感させるために有効であった。その根拠は，資料５のように複数の視点から満点スープをつくることができたという子供の記述からである。

全体考察

本題材はとくに創造性の伸長に有効であったと判断できる（資料７）。



【資料７　食生活に関する意識】

考察１，２から，創造性の発揮には，よりよいものをつくるために考える複数の視点を提示し，自分で選択したことが影響したと考えられる。以上のことから創造性を発揮するためには，活動を通して知識や技能を主体的に習得する機会を設定することが有効であると考察することができる。

実践事例　第5学年2組　「読もう　孔子のことば～論語研究所～」プラン
～論語は，2500年経った今もなぜ日本で読まれ続けているのか～

領域　ことば　　指導者　大橋　美香

1　資質・能力

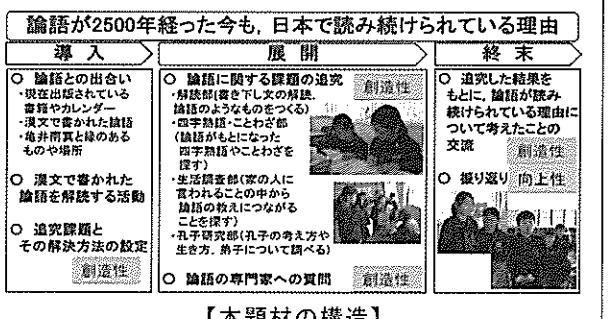
◎　論語を解読したり，論語がもとになっている「四字熟語・ことわざ」などについて調べたりする活動を通して，論語の内容や読まれ続けている理由について自分の考えをもつことができる。　（創造性）

○　自分が読み取った論語の内容，孔子や亀井南冥の考え方などについて調べたことを友達と話し合うことを通して，論語の内容について深く考えたり，理解したりすることができる。　（協働性）

○　論語に関する個人の課題を追究する活動を通して，思いやりの心をもつことや学ぶ意味などについて書かれている論語の内容に対する自分の考えを深めたり，広げたりすることができる。　（向上性）

2　題材における領域「ことば」の考え方

本題材では，現在出版されている論語に関する書籍，漢文で表記された論語，孔子や江戸時代に唐人町で論語の塾を開いた亀井南冥と縁があるものや場所との出合いを通して，論語に関心をもち，論語を読んだり，内容を解読したりすることができるようにする。これらの活動を通して，論語は身近な存在であること，言葉は時代や国を越えて大切な思いや考えを伝えること，論語を読んだことにより自分の考えが変わったことに気付くことをねらいとしている。具体的には，①論語，孔子や亀井南冥との出合いを通して，論語に課題をもつこと，②論語の内容を解読したり，論語の内容を考えたりすること，③課題を追究する活動を通して，見つけた論語が読み続けられている理由を出し合い，思いやりの心や学ぶ意味などについて書かれた論語の内容に対する自分の考えを深めたり，広げたりすることである。2500年前に中国でつくられた論語が，今も日本で読み続けられている理由を追究させることは，友達と議論し，自分の考えをよりよい意見に高めることに，意欲的になるこの期に，友達とよい関係を築くために大切なことを考える上で意義深い。

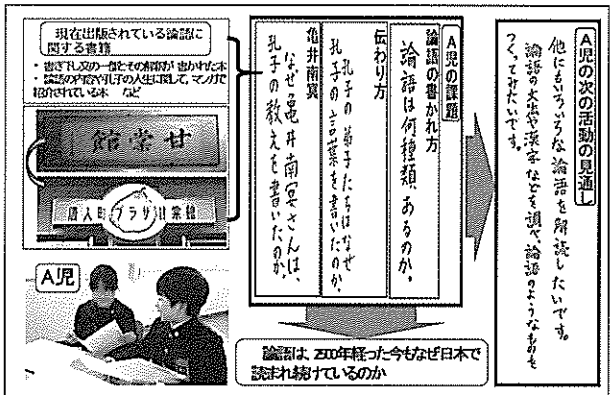


【本題材の構造】

3　学習の流れと考察

導入段階のねらい

論語，孔子や亀井南冥と出合うことを通して，論語に関する課題を見いだすことができる。



【資料１　A児の課題と次の活動の見通し】

導入段階では，現在出版されている論語に関する書籍やカレンダー，漢文で書かれた論語，現在「唐人町プラザ甘棠館」がある場所に，江戸時代に論語の教室「甘棠館」を開いていた亀井南冥と縁のあるものや場所と出合うことを通して，論語に関心をもった。「論語には何が書かれているのか」という課題から，実際に漢文で書かれた論語を漢字辞典を使って意味を調べ，解読した。それらの活動を受けて，個人で追究課題を考えた後，友達と追究課題を整理する活動を位置付けた。A児は，論語の書かれ方や伝わり方などに課題をもった（資料１中央）。全体での話合いの結果，「論語は，2500年経った今もなぜ日本で読まれ続けているのか」について追究していくことになった。追究するための活動が「解読したい」「孔子について調べたい」など複数あったため，似た活動をしたい人を集めて，グループを作った。A児は，論語の内容や表現の仕方に関心をもち，「論語のようなものをつくるために，解読したり，表現の仕方を調べたりしたい」と追究していく活動への見通しをもつことができた（資料１右）。

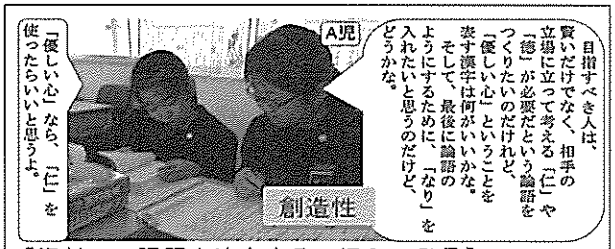
考察１

子供たちにとって身近な書籍やカレンダー，唐人町にある亀井南冥の縁のあるものと出合わせたことは，子供たちの論語に対する関心を高める上で有効であった。その根拠は，A児をはじめとする全員が論語に関する追究課題や解決に向けた活動の見通しをもつことができたからである。

展開段階のねらい

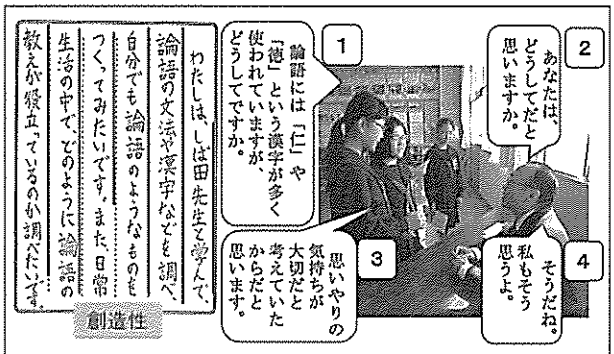
論語を解読したり，孔子や「四字熟語・ことわざ」のもとになった論語について調べたりする活動を通して，論語が2500年経った今も，日本で読み続けられている理由について考えることができる。

(1) 論語の意味を解読したり，孔子や「四字熟語・ことわざ」のもとになった論語について調べたりしながら，個人の課題を追求する。



【資料２　課題を追究するＡ児らの発言】

(2) 論語について分からないことを専門家に尋ねる。



【資料３　専門家の方への質問と学習後のＡ児の感想】

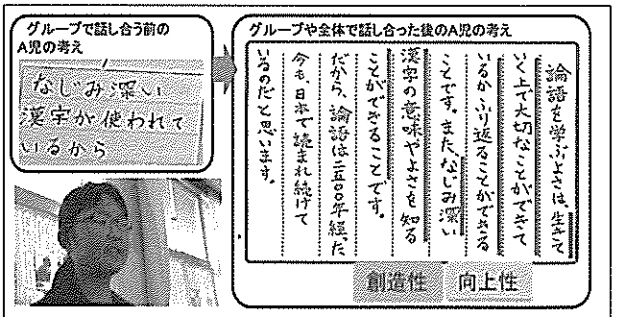
展開段階では，解読部，孔子研究部，四字熟語・ことわざ調査室，生活調査部の４つのグループに分けた。さらにそのグループを３～５人のグループに分け，個人やグループでそれぞれの課題を追究する活動を行った。また，同質・異質のグループを問わず，自由にお互いが調べていることを尋ね，情報の共有ができるようにした。Ａ児は解読部に属し，論語を解読し，論語をつくりたいと考えていた（資料１右）。友達に相談しながら，解読したことをもとに，論語にしたい内容を考えた（資料２）。さらに，論語の専門家の方に論語の中に繰り返し出てくる漢字について尋ね，疑問を解決することができた（資料３）。

考察2

課題追究の方法を自ら考えて追究させたり，論語を研究している専門家の方に尋ねる機会を位置付けたりしたことは，子供たちの論語に対する追究意欲を高め，論語の内容に対する自分の考えをもたせる上で有効であった。その根拠は，資料３から分かるように，Ａ児が次の学習への意欲を高めている内容の感想を記述していたからである。

発展段階のねらい

論語が2500年経った今も，日本で読み続けられている理由や論語のよさについて話し合う。



【資料４　自分の課題に対するＡ児の考えの変容】

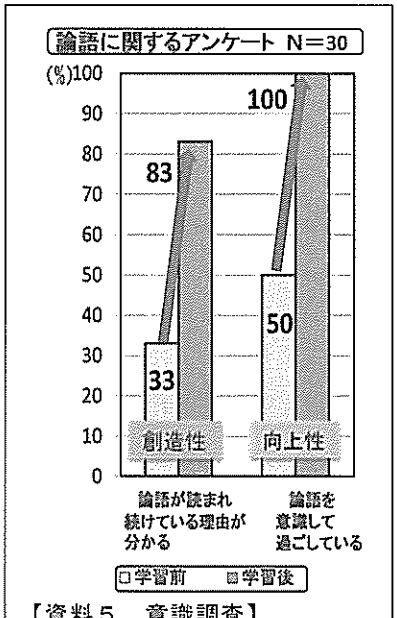
終末段階では，個人で追究してきたことをもとに，「論語が2500年経った今も，日本で読まれ続けている理由」についてグループや全体で話し合った。Ａ児は，論語が漢字で書かれていることから「なじみ深い漢字で書かれているから」だと考えていたが，グループでの話し合い後は，「論語には生きていく上で大切なことが書かれていて，論語を読むことで，自分のことを振り返ることができるから」読まれ続けているという自分なりの考えを発表した（資料４）。

考察3

個人で追究したことをもとにグループや全体での話合いを位置付けたことは，論語に書かれている内容やよさに気付くことができ，論語の内容に対する自分の考えを深める上で有効であった（資料４）。４つのグループに分かれて調べたことで，それぞれの立場から意見が出され，今の日本の生活の中に論語の教えが浸透していることに気付くこともできた。

全体考察

本題材では，創造性や向上性の高まりが見られた（資料５）。それは，論語に関心をもち，各自が追究課題やそのための活動を考え，友達と話し合いながら追究する活動が有効に働いたためだと考える。今後は，協働性の向上を図るために，題材の途中で，各自の進行状況や分かったことを交流する機会を位置付ける必要がある。



【資料５　意識調査】

Ｈ２９年度　年間指導計画　第５学年

単独題材名　関連題材名　学びが進む方向に矢印でつなぐ

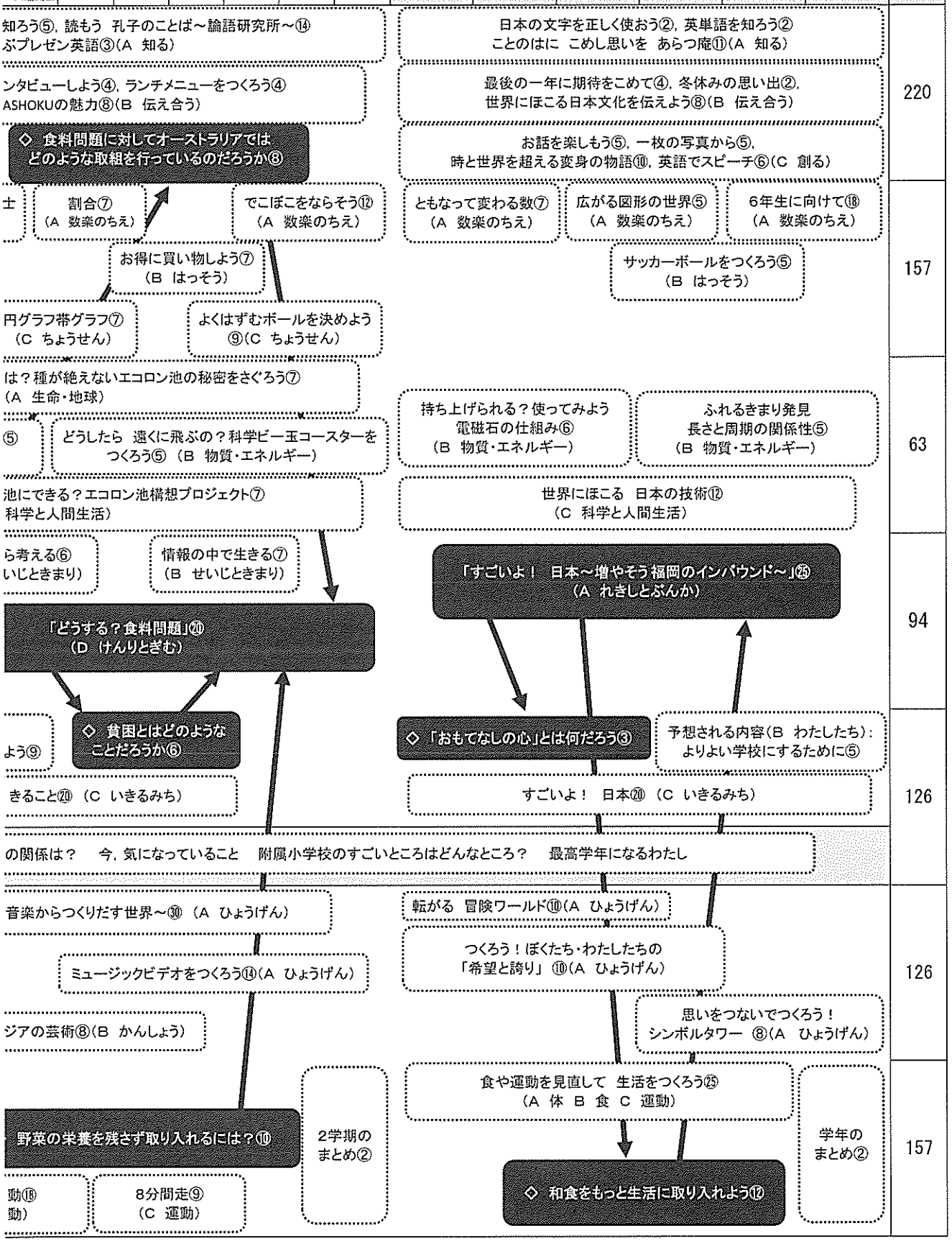
	1学期												教育実習			
学校行事	始業式	入学式	歓迎遠足	参観学芸会	防災訓練①	交通安全教室	修学旅行	体集づくりセミナー	プール清掃	プール開き	内科・眼科検診	終業式	始業式	防災訓練②	月見学芸会	あら
ことば	日本の文字を正しく使おう④，英単語を知ろう②，言葉の特徴や決まりをとらえよう③ 受け継がれてきた理由を考えよう～狂言～⑫（A　知る）												聞きやすく話そう⑤，英単語を プロに学			
	「きく」をつなごう⑤，あなたをとりこにする言葉のヒミツ⑥ マイ時間割をつくろう⑥，世界の小学生とつながろう⑤　（B　伝え合う）												言葉でえがく未来⑮，友達にイ 伝わる？和食・W			
	お話を楽しもう⑧，英語を聞いて想像しよう①，事実と意見を区別して書こう⑧，登場人物の かかわりがおもしろい物語を紹介しよう⑧，英語でスピーチ②，英語で説明しよう④　（C　創る）												お話を楽しもう⑱， グラフや表を使って書こう⑥（C　創る）			
すうがく	ぼくもわたしも小数博士 ㉑（A　数楽のちえ）												倍数と約数⑫ （A　数楽のちえ）	ぼくもわたしも分数博 ⑳（A　数楽のちえ）		
	工夫して求めよう　様々な面積⑯ （B　はっそう）								いろいろな物の体積を求めよう⑪ （A　数楽のちえ）							
かがく	わたしたちは植物の恩恵を受けている　生物のつくりをさぐり，生きることについて考えよう⑤ （A　生命・地球）												生物にとってのエコロン池の魅力と			
	持ち上げられる？　小さな力で大きな力をうみ出そう④ （B　物質・エネルギー）												それって安全？　水溶液の見分け方 （B　物質・エネルギー）			
	実現しよう　飛行プラン⑦ （C　科学と人間生活）												もっと魅力のあるエコロン （C			
くらし	わが国を支える食料生産⑫ （C　けいざい）												わが国を支える工業生産⑧ （C　けいざい）	環境か （B　せ		
	どうする？わが国の領土問題⑯ （E　にほんとせかい）															
にんげん	予想される内容（B　わたしたち）：高学年として　学級目標を話し合って決めよう よりよい学校にするために必要なことは何だろう　係活動を充実させよう⑩												予想される内容（B　わたしたち）： 学級目標を見直そう　係活動を充実させ			
	家族からのおくりもの～はなちゃんのみそ汁～⑲（C　いきるみち）												チーム福岡　ぼくとわたしがで			
	My Time㉟	予想される内容（A　わたし）：自分の役割は何だろう　情報ってどうやって集めるの　自分と食														
げいじゅつ	流れる風にのって⑯　（A　ひょうげん）												想像から広がる表現　～色や形，			
	友とのきずなを劇で表そう⑩ （A　ひょうげん）	表そう！　お気に入りの　マイタイム・マイプレイス⑭ （A　ひょうげん）														
	テーマソングの世界⑥ （B　かんしょう）												魅力いっぱい　ア			
けんこう	オリエンテーション②	毎日の生活とわたしたちのからだ⑦（A　体）														
		はじめてみよう　クッキング⑭（B　食）											私の周りの食べ物⑥（B　食）			
		陸上運動⑫ （C　運動）	すもう・つなひき⑧ （C　運動）	水泳運動⑨ （C　運動）									ゲームを楽しもう⑲ （C　運動）	器械運 （C　運		

1学期のまとめ②

◇課題

学年テーマ【日本】

2学期							3学期						時数
つ大運動会	[illegible]	防災訓練③	持久走記録会	あらつフェスタ	遠行会	終業式	始業式	教育研究発表会	長なわ集会	お別れ集会	卒業証書授与式	修了式	



第６学年

実践

実践事例　第6学年　「わたしたちにできること」プラン

テーマ　幸福　　指導者　中村　　剛・永田　裕二・齋藤　　淳・菊竹　一平

関連領域　にんげん →（けんこう・かがく・くらし・ことば）→ にんげん

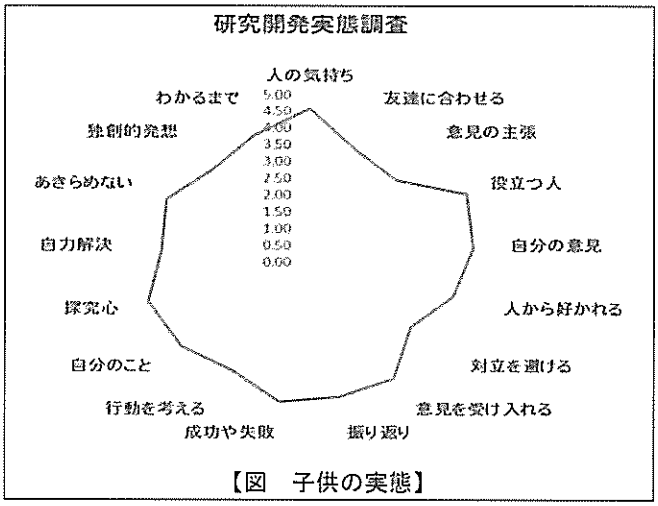
1　資質・能力

◎　被災した地域の方との出会いを通して，自然災害の仕組みや復興に向けた町の取組等を多面的に追究することができる。（創造性）

○　被災された方々のために自分たちはどのようなことができるのかをグループで話し合い，被災された人の気持ちに寄り添った実践をすることができる。（協働性）

◎　被災された方々との交流を通して，自分たちが，どのような目的で，どのようなことを追究していくのか考えることができる（向上性）

2　子供たちの実態



【図　子供の実態】

６年生の子供たちは，人の気持ちを考えること，誰かの役に立ちたいという推量，貢献といった社会性の側面を育んできている。６年生１学期の「にんげん」の学習において，九州北部豪雨について，「同じ福岡に住む自分たちにできることをしたい」と提案した３名から学習が始まり，その後，６年生全体で寄せ書きを行い，学校全体に募金を呼びかけた。その中で，被災された方が求めていることや現状をとらえ，「自分たちにできること」を実践した。しかし，本当の意味で「被災した方の気持ちに寄り添い，人のためにできることはないか」を考えるには至っていない。そのためには，現地の方との出会いや，豪雨による災害の科学的な分析，避難所での生活や被災地の復興に向けた動きなど，十分に学習を深める必要があると考えた。「被災された方々の力になりたい」という子供の求めに応じた主体的な学びの展開は，今の自分と向き合い今後の生き方につなげる上での価値がある。また，これからの時代に求められる「命を守る教育」の視点に立った防災教育の点からも，卒業を迎えるこの時期に，豪雨による自然災害を科学的に分析した上で，復興に向けて取り組む様々な人々の生き方を学び，自分にできることを考えさせるようにする。

3　題材の考え方

本題材では，九州北部豪雨で被災した方々との出会いを通して，人の気持ちを推し量り，人のために何ができるのかを真剣に考え「幸せに生きるとはどういうことか」について考える態度を養うことをねらいとしている。そのために題材では，領域「にんげん」を中心とした人の生き方に出会うことを通して，自己の生き方を見つめ直していく過程で「かがく」「けんこう」「くらし」「ことば」を子供の求めに応じて関連させていくことで「幸せに生きるとはどういうことか」という問いにいきつくと考えた。具体的には，①被災地の見学や豪雨を体験した方々との出会いを通して，自分にできることを考えること（にんげん），②九州北部豪雨の原因を分析し，豪雨の現象の本質を正しく理解すること（かがく），③避難所で活動されている方々と出会い，健康状態をどのように整えていくのかを理解すること（けんこう），④被災地の復興についてとらえるさせために，復興支援の仕組みについて理解すること（くらし），⑤歌による復興支援で人々を勇気づけることができることを理解すること（ことば）などである。以上のように，領域「にんげん」を中心に，子供の求めに応じて他領域と関連して題材を展開していった。題材の導入では，１学期の募金活動を振り返り，いまだに復興が進んでいない朝倉の現状と，災害に負けずに歌の力で地元を勇気づけている朝倉高校音楽部の存在を知り，「なぜ，復興に時間がかかっているのか」という素朴な疑問から，「実際に見たり，会って話を聞いたりしたい」という願いのもと見学を行った。復興が進んでいない現状，自然災害の脅威など，感じたことを交流し，「自分たちにできることはないのか」という問いのもと，追究を広げていった。個々の問いをもとに各領域での追究を行った子供たちは，終末段階で，豪雨による自然災害について理解し，復興に向けて取り組む人々の生き方に触れ，自分にできることを考え実行に移すことができた。まさに，問いを自分事にすることで，主体的に解決していった姿であるととらえている。

4　学びのプラン

段階	導入	展開
	1　九州北部豪雨の災害状況を知り，これからの学習課題を話し合う。	2　九州北部豪雨の被災者の思いを話し合い，自分たちにできる活動を行う。

学習課題　九州北部豪雨による自然災害はなぜ起きたのか。

かがく⑯

1　自然災害のメカニズムを知るための課題について話し合う。　②
○　豪雨による自然災害について調べる学習課題を設定すること

2　自然災害のメカニズムを課題に沿って追究する。　⑧
(1) 九州北部豪雨による自然災害の被害について調べる。　④
○　土地の特徴が自然災害と関係していることをとらえること
(2) 自然災害のメカニズムをモデルを使って調べる。　④
○　課題別に自然災害のメカニズムをとらえること

にんげん⑭

1　九州北部豪雨の災害状況を知りこれからの学習課題を話し合う。　⑥
(1) 九州北部豪雨の義援金報告をもとに被災状況や生活の様子などについて調べる。　④
○　現在の朝倉市や東峰村の状況をとらえ，自分自身の生活と比べること
(2) 調べたことを交流し，今後の学習課題を話し合う。　②
○　九州北部豪雨の状況について調べたことをもとに課題を設定する。

学習課題　復興支援のためにわたしたちにできることとは何だろうか。

2　九州北部豪雨の被災者の思いを話し合い，自分たちができる活動を行う。　④
(1) 朝倉高校音楽部の生徒との交流を通して，どのような思いを大切にして支援をしていくのか話し合う。　②
○　被災者からの思いを受けて，自分がどのような思いをもって支援を行うのか考え，支援の仕方を決定すること

(2) 被災地である杷木地区東林田に住む時川さんと交流し，自分たちができることを話し合う。②
○　自分ができることを見つけて行うことが大切であるということをとらえること

くらし⑥

学習課題　自然災害からいのちを守るにはどうしたらよいだろうか。

1　九州北部豪雨の際に災害派遣で現地に行った方々の話を聞く。　②
○　できるだけ多くの人の命を守るために何が大切かを考える学習課題をとらえること

2　災害が起きたときの政治の仕組みと市民の自治的活動を知り個の責任と集団や社会の在り方について調べたことをもとに話し合う。　②
○　共助と公助の大切さを知るとともに，自助がその根本にあることを理解すること

けんこう⑦

学習課題　豪雨に関連して起こる健康への問題を防ぐために，心と体をどう整えたらよいか。

1　避難所での生活による心と体への影響を調べるための課題について話し合う。　③
○　避難所での実際の生活やその際の心と体への影響を調べる学習課題を設定すること

2　避難所生活での心と体へのケアについて調べる。　②
(1) 避難所生活の状況を調べる。　①
○　避難所疑似体験をしたり，国が出している避難所運営マニュアルを活用したりして実態をとらえること
(2) 生活者のストレスを軽減するためにどのような支援があったのかを調べる。　①
○　健康な生活を送るために必要な事柄を世代や時期別にとらえること

評価

領域「にんげん」において，被災地である朝倉の朝倉高校音楽部や東林田地区の時川さんとの出会いをもとに，自分たちにできることがあるのか真剣に考え，自分の追究課題を設定することができる。
→　朝倉高校音楽部や被災地で復興に取り組む時川さんとの交流を通しての感想内容や，その後設定した追究課題に沿った各自の表現物の記述内容

展開	終末
2　九州北部豪雨の被災者の思いを話し合い，自分たちにできる活動を行う。	3　災害支援を呼びかけ，どのようなことを大切に生きていきたいのか話し合う。

2　自然災害のメカニズムを課題に沿って追究する。
(3)　追究したことを交流する。　④
○　自然災害と土地の関係をとらえ，これから行う復興支援につなぐ意識をもつこと

3　自然災害のメカニズムをまとめ，東林田赤谷川構想プランを作成し，提案する。　②
○　自分たちが行ったモデル実験をもとに，防災の視点から復興支援にかかわれることをとらえること

学習課題　ことばで復興支援ができるのだろうか。

ことば⑩

1　歌による復興支援があることを知り，ことばで復興支援ができるのか他の支援と比べて，話し合う。　③
○　復興支援ソングによる支援があることを知り，ことばで支援ができるのか学習課題をとらえること

2　復興支援ソングの歌詞を比べたり，自分たちで復興支援ソングを作ったりして，ことばで復興支援ができるのか話し合う。　⑥
(1) 国内外の復興支援ソングの歌詞を比べ，ことばで復興支援ができるのか話し合う。　②
○ 復興支援ソングの歌詞は，作者の思いや願いがこめられており，人によって伝わるものは違うことをとらえること
(2) 復興支援ソングを作り，ことばで復興支援ができるのか話し合う。　④
○ 届けたい思いや願いを明確にして，言葉を選んで歌詞として表すこと

3　完成した復興支援ソングを被災者の方々や地域の方々に届け，ことばで復興支援ができるのか話し合う。①
○　復興支援ソング作りの経験や歌を聞いた人の感想をもとに，言葉には人を勇気づけたり，励ましたりする力があることをとらえること

(3) 自分たちが考えた復興支援を行う。　②
○ 復興のために自分たちができる支援活動を行い，ボランティア活動についての自分の考えをつくること

3　災害支援をよびかけ，どのようなことを大切に生きていきたいか話し合う。②
(1) あらつフェスタで九州北部豪雨について学んだことを支援活動の一環として発表する。　①
○　九州北部豪雨から派生した学びを統合し，災害と防災や人々の生活，復興，支援などを１つの事象としてとらえること
(2) 今までの学習を振り返り，自分が学習を通してどのように変化し，成長していったのか，そして今後どのように生きていきたいのか，学習でお世話になった方々へ手紙を書く。　①
○　九州北部豪雨を通した学習で学んだことをもとに，これからの自分がどのような考えをもって生きていきたいのか考えをもつこと

3　災害時における健康保持の仕方を避難所健康プランにまとめる。②
○　避難などの限られた空間での健康の保持について，他人に分かるように伝える意識をもつこと

評価	領域「にんげん」において，各領域で追究してきた学びをもとにできることを交流し，自然災害の脅威と，今後の復興支援に向けてできることを関連付けて語ることができる。 →　各領域で関わってきた人や内容について追究してきたノート記述や表現物，今後の復興支援に向けてできることを関連付けている発言内容

実践事例　第6学年　「わたしたちにできること」プラン
～ことばでできる？復興支援～

領域　ことば　　**指導者　菊竹　一平**

1　資質・能力

○　九州北部豪雨の被災者や復興支援に関わる方々との交流を通して感じた思いや願いを復興支援ソングの歌詞として表すことができる。　（創造性）

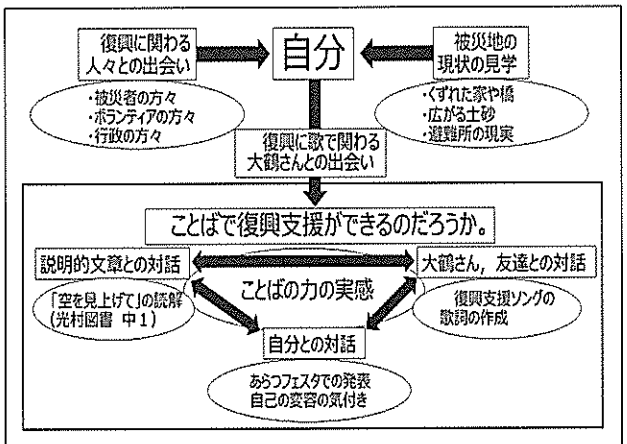
○　ことばによる復興支援について自分の立場を明確にして考えを伝え合ったり，歌詞のことばを吟味したりして，ことばがもつ力について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　（協働性）

◎　復興支援ソングの歌詞をつくり，歌で思いを届けることで，自分たちが作り出したことばが社会の力になる可能性を実感することができる。　（向上性）

2　題材における領域「ことば」の考え方

本題材では，九州北部豪雨からの復興を願う支援ソングの創作を通して，ことばのもつ力を実感させることをねらいとしている。具体的には，①大鶴さんとの出会いからことばで復興支援ができるのか追究する意欲をもつこと②東日本大震災後に被災者の中学生が世代や国を超え，連句でつながったことを伝える説明的文章「空を見上げて」（光村図書中１）を読み，ことばのもつ力について自分の考えをもつこと，③九州北部豪雨の復興を願う支援ソングの歌詞を作り，歌で思いを届け，ことばのもつ力について自分の考えを広げたり深めたりすることなどである。領域「にんげん」の学習を通して，自分たちにできることを追究している子供たちにとって，支援ソングを創作し，歌で思いを届けることは，自分たちが少しでも復興支援に関わることができた達成感を味わうだけではなく，自分たちがつくり出したことばが社会の力になる可能性をもつことを実感できる点で価値があると考える。

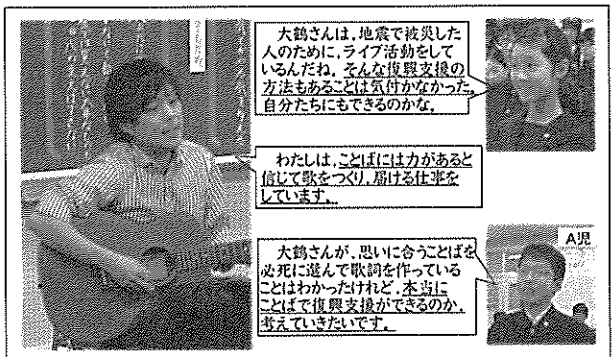
3　学習の流れと考察



【題材における領域「ことば」の構造】

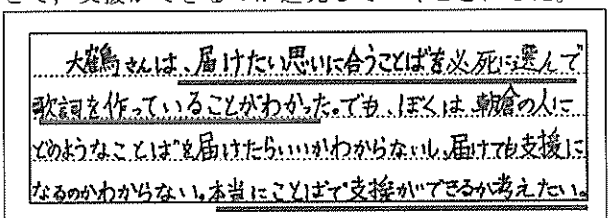
導入段階のねらい

歌を創作し，歌声を届けることで熊本地震の復興支援に関わる大鶴裕紀さんと出会い，ことばを通した復興支援について課題を設定することができる。



【資料１　学習課題について話し合う】

導入段階では，九州北部豪雨による被害の実際を知るために朝倉に行き，自分たちにできることを追究し始めた子供たちに，歌を通して復興支援に関わる大鶴裕紀さんと出会わせ，学習課題について話し合った（資料１）。子供たちは，ボランティアや募金などの具体的な支援と違い，思いをことばにして，歌で届ける支援について，「まずは物資やお金を届けた方が力になるのではないか」，「被災していない自分たちのことばが励みになるのか」といった疑問や不安の声を多く出していた。そこで，「ことばで復興支援ができるのか？」という学習課題をもち，歌詞を作り，歌声を届けることで，支援ができるのか追究していくことにした。


大鶴さんは，届けたい思いに合うことばを必死に選んで歌詞を作っていることがわかった。でも，ぼくは，朝倉の人にどのようなことばを届けたらいいかわからないし，届けても支援になるのかわからない。本当にことばで支援ができるか考えたい。

【資料２　話し合い後のＡ児の記述】

考察１

九州北部豪雨被害の復興のために自分たちにできることを追究し始めた子供たちに，歌を通して復興支援に関わる大鶴さんに出会わせたことは，有効であった。その根拠は，「大鶴さんが思いに合うことばを必死に選んで歌詞を作っていることは分かったが，本当にことばで支援できるのか考えたい。」などの追究課題を記述していたからである（資料２）。

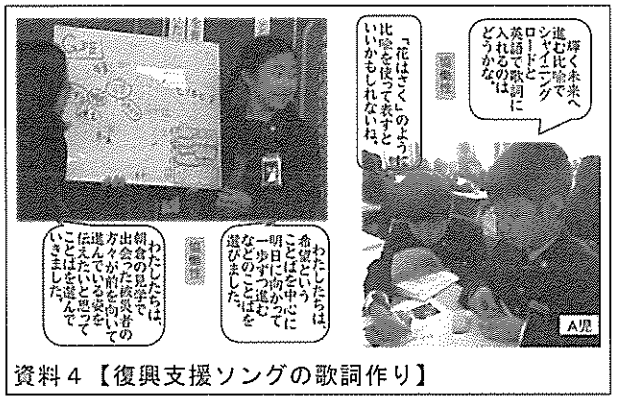
展開段階のねらい

説明的文章「空を見上げて」を読み取り，ことばがもつ力について自分の考えをもち，九州北部豪雨の復興支援ソングの歌詞を作ることができる。

(1) 説明的文章「空を見上げて」の筆者の考えを読み取り，ことばがもつ力について話し合う。

資料３【説明文や歌詞の読み取りとＡ児の感想】

(2) 自分たちが届けたい思いをことばにして，九州北部豪雨の復興支援ソングの歌詞を作る。



資料４【復興支援ソングの歌詞作り】

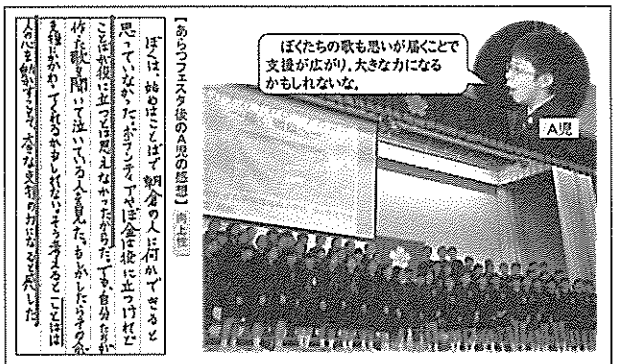
展開段階では，ことばで復興支援ができるのか追究している子供たちに，説明的文章「空を見上げて」の筆者の考えについて話し合う活動を位置付けた。子供たちは，被災した女川の中学生の句に連句のように下の句が世界中から寄せられた事実から，心のこもったことばには，人を動かす力があり，世代や国を超えてことばでつながることができるのだという筆者の考えを読み取ることができた。そして，自分たちも思いをこめた支援ソングを作ることで，多くの人の心を動かすことができるかもしれないという思いをもち，復興支援ソングの作詞に対する意欲を高め，歌詞を作ることができた（資料３・４）。

考察2

ことばで復興支援ができるのか追究しようとしている子供たちに，説明文の読み取りを通して学んだことをもとに，歌詞を作る活動を位置付けたことは有効であった。その根拠は，「自分たちも心をこめたことばで歌詞を作ることで，人の心を動かすことができるかもしれない。」など復興支援ソングの作詞を行う価値に気付く記述をしていたからである（資料３）。

終末段階のねらい

あらつフェスタで自分たちが作詞した復興支援ソングを発表し，ことばで復興支援ができるのか考えの変容を振り返る。



資料５【あらつフェスタでの発表とＡ児の感想】

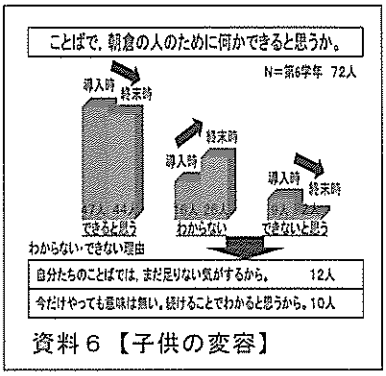
終末段階では，保護者や地域の方々などが来校するあらつフェスタで自分たちでことばを選んで作詞した「Ｓｈｉｎｉｎｇ　ｒｏａｄ～輝く明日へ～」を発表し，ことばでの復興支援について自分の考えの変容を振り返る場を設定した。子供たちは，自分たちの歌を聞いて，泣いている観客の様子から，ことばがもつ力を実感していた。また，初めはことばを通した復興支援に疑問を抱いていたＡ児は歌の発表後に，「ことばは，大きな支援につながる力があるのではないか。」という考えをもつようになった（資料５）。

考察3

ことばで復興支援ができるか確かめようとしている子供たちに，あらつフェスタでの発表の場を設定したことは有効であった。その根拠は，始めはことばで朝倉の人に何かできると思っていなかった子供が「ことばは，人の心を動かすことで，大きな支援になると感じた。」などことばのもつ価値に気付き，自己の変容を記述していたからである（資料５）。

全体考察

本題材は，向上性の伸長が顕著であった。それは，ことばで朝倉の人のために何かできると考える子供は減少しているが，「わからない」「できない」と考える子供たちもより深く考え，「今のことばでは，足りない」，「継続しなければ意味が無い」など自分たちの現状の把握や今後の課題までも認識して記述しているからである（資料６）。今後の課題は，領域「ことば」が求める個の資質・能力の高まりを実感できる場の設定である。



資料６【子供の変容】

実践事例　第6学年　「わたしたちにできること」プラン
～市民のいのちを守るために～

領域　くらし　　指導者　齋藤　淳

1　資質・能力

◎　国や地方公共団体の災害時の取組から，政治は生活の安定と向上に役立っていることを理解するとともに，九州北部豪雨の支援のためにできることを考え，参画することができる。（創造性）

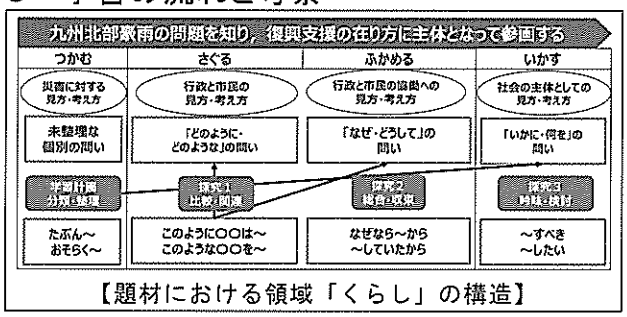
○　市民の願いに基づく災害に対する政治の働きは，市民一人一人の防災や支援に向けた具体的な取組，人々のつながりをとらえることができる。（協働性）

○　災害時にどのように行動したらよいか想定し，今自分がすべきことや課題に気付き，社会の中での役割の大切さを考えることができる。（向上性）

2　題材における領域「くらし」の考え方

本題材では，九州北部豪雨の災害における福岡市や県，国などの組織的な災害支援と市民を守るための協働的な取組をとらえることをねらいとしている。具体的には，①突然の災害時に市民の一人としてどのような行動をするべきか考えること（自然的条件），②福岡市役所，気象台，市民団体の方々と人々のつながりについて考え，仲間と協働して災害に対する学びを深めること（社会的条件），③自分たちにできる支援の在り方やいのちを守る実践について考えること（物理的条件）などである。九州北部豪雨の災害では，大きな被害を地域や行政とのつながりで最小限に食い止めていることや，福岡市が行った災害支援が迅速かつ適時性があったことが高く評価されている。このような対応は今後も異常気象や大地震が起こると予測されている我が国において非常に重要な学びであると言える。さらに，今後，日本のどこにいても被災者になることが考えられることから，当事者意識をもち，どのように自分たちが行動するべきか（自助），どのように仲間や地域の方々と手を取り合ってできるだけ多くの人人のいのちを救うか（共助），どのような行政の働きがあるのか（公助）を学ぶ上においても本題材は価値があると考える。

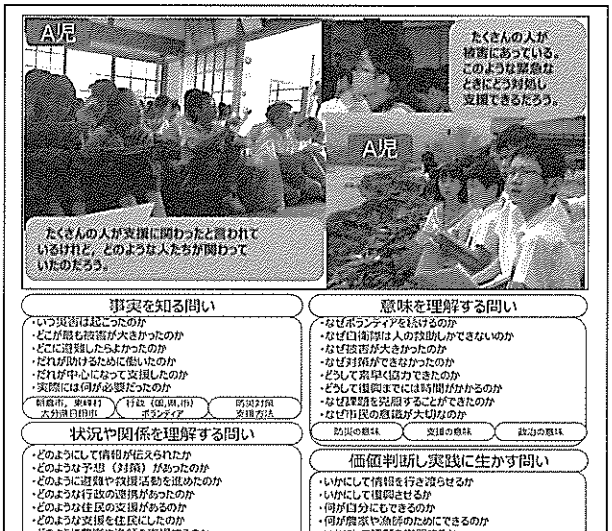
3　学習の流れと考察



【題材における領域「くらし」の構造】

導入段階のねらい

九州北部豪雨の災害について知り，その中で見えた政治や法律に関わる課題を設定することができる。



【資料１　現地見学の学習で気付いた子供の問い】

導入段階では，被災地での体験をもとにした様々な問いが出た。A児は資料１の発言にあるように「どのように行政が対処したのか」という問いをもった。その後，これからの学習計画をつくり，今後の学習を進めていくために，個々の問いを４つに分類した。

考察１

被災地での人の営みに関わる問いを出し合ったことは，個々の感じ方や考え方をもとに問いを見いだす創造性を発揮させる上で有効であった。その根拠は，A児のように，自分なりの問いをもつ子供の姿と，問いを解決する順序を確かにする姿からである（資料１）。

展開段階のねらい

九州北部豪雨の災害に関わる課題を解決する探究活動を行うことで，自然災害に対する行政や市民の在り方や各々の働きの意味を考えることができる。

(1)　災害そのものや防災及び支援について調べる。

さぐる問い（例）
・被災地はどのような状況なのか
・被災地では実際どのような支援をしているのか
・どのように支援を進めているのか

(2) 様々な人と出会い，復興支援，防災のための仕組みなどについて，追究したことを話し合う。

ふかめる「問い」（例）
・なぜ素早い対策が可能だったのか
・なぜ政治には市民の意識が最も大切なのか
・なぜ市民が政治課題を克服することができるのか

【資料２　気象台との交流の様子】

展開段階では，個々の問いに対して，個やグループでの探究を行った。そこで，子供たちの個別の「問い」に基づいた課題を解決させる中で，国や地方公共団体が行っている政治の働きの意味をとらえさせるために，福岡市防災危機管理課やボランティアを行う市民団体，福岡管区気象台の方々と交流し，自分たちの「問い」をもとに交流する場を設けた（資料２）。Ａ児は自分の問い「どう対処するのか」の応えとして，特にボランティアを行う市民団体の活動のよさに目を向けていた。ここで，三者は立場が違っても「防災や支援は市民が主体」といったのはなぜか考えるようにした。

【資料３　３つの立場での討論活動とＡ児の記述】

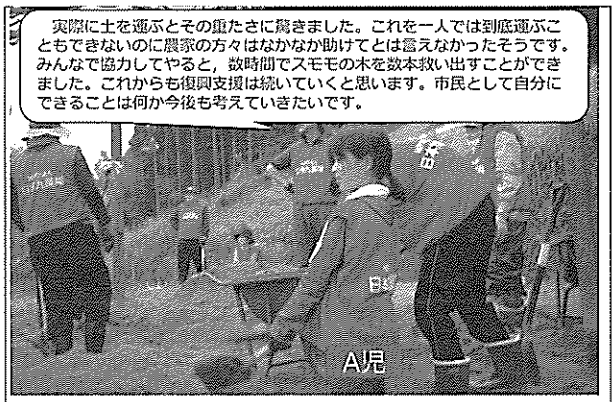
ここで資料３のように３つの立場から討論を行った。すると，Ａ児は自助を強めるべきと考え，具体的な事実をもとに考えを述べていた。その中で，Ａ児たちにボランティアバスが違法とされた過去を紹介し，そのことについて福岡市が民意とボランティアを行う市民団体の声をもとに法改正に至ったことを伝えると，「市民が主体というのはどちらが働くではなく，ともに手を取り合って進めていくこと」や「市民の手に政治が委ねられている」等という言葉を口々に発していた。Ａ児も双方の歩み寄りの必要性を記述していた。

考察２

行政と市民団体，気象台などの立場の違うＧＴの活用は協働性を発揮する上で有効であった。その根拠は，政治の主体者としての自覚の重要性をとらえさせるために，行政指導があったボランティアバスの運行についてのＧＴからの助言をさせたことで行政と市民の協働の必要性に気付いたからである。

終末段階のねらい

市民が主体となってできることをプランに表し，仲間や他者とともに参画することができる。



【資料４　ボランティアをしたＡ児の様子】

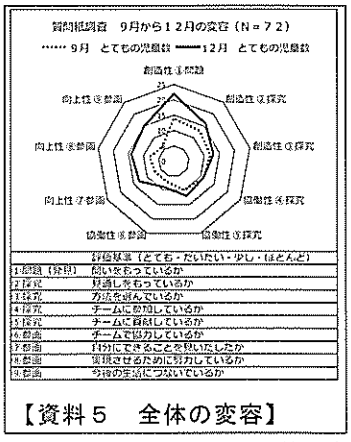
終末段階では，自分たちが参画する復興支援プランに対する意見を述べ合って何をすべきなのか評価し合う場を設定した。ここでは，政治の働きの学びを創造主体としての自覚や行動につなげさせるようにした。様様な意見が出された中で，Ａ児は自分にできることを考え，果樹園を救うボランティアを行った（資料４）。

考察３

復興支援プランに考えをまとめ，それぞれが意見を述べ合って何をすべきなのか評価し合う討論の場を設定したことは向上性を高める上で有効であった。その根拠は，何ができるのか，何が求められるのか，現実的に考え，Ａ児のように参画する姿が見られたからである。

全体考察

本題材は特に，向上性の伸長に有効であったと判断できる（資料５）。また，考察１，２から，個々の問いを大切にしたことが創造性と協働性の発揮に作用したと考えられる。さらに，実際に自分ができる参画を考えさせたことが向上性の伸びに影響したと考えられる。しかし，問題発見以外の創造性の発揮が見られなかった。今後は探究や参画の中での創造性の発揮を見いだす評価の工夫が必要である。



【資料５　全体の変容】

実践事例　第6学年　「わたしたちにできること」プラン
～どう整える　心と体～

領域　けんこう　　**指導者　　中村　　剛**

1　資質・能力

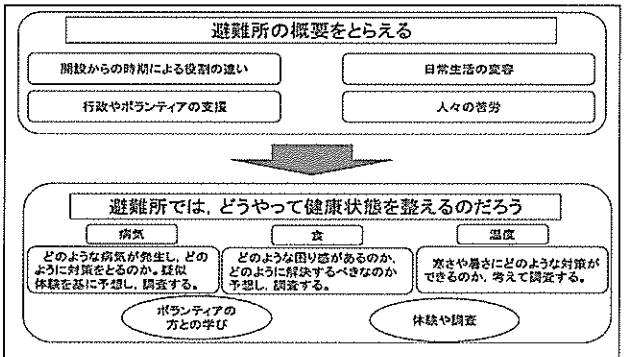
◎　避難所ではどのような健康被害が生じるのか，また，その対策としてどのような方法が考えられるのかを追究し，心の状態を整える方法やせまい空間でも行うことができる運動，体調を管理するための寒さ対策などの特殊な環境下での対応について理解することができる。（創造性）

○　同課題のグループで，避難所で起きる健康被害について調べ，伝える対象や状況を明確にして内容を交流し，避難所での生活において自分自身の健康を整える方法を発表することができる。（協働性）

○　資料をもとに調べたことや考えたことを試すことで，実際に災害が発生した場合に役に立ちそうなのかどうか，災害の状況や場所などをもとに振り返ることができる。（向上性）

2　題材における領域「けんこう」の考え方

本題材では，避難所で起こる健康被害について理解を深めることに加えて，自らの課題を自分なりの方法で調べることができるようにする。また，避難所の開設からの時期や災害の季節，避難者の年齢などに応じて，必要な対応が異なり，調べて分かったことを対象などを明確にして考えをつくり変える過程で，人々と助け合って生活することの大切さに気付くことをねらいとしている。具体的には，①避難所で起こる健康被害について理解すること，②体験や実験を通して，避難所での生活やそこで生活する人の苦労を理解すること，③学んだことを人々に伝え，防災の意識を高めるためにできることを実行することなどである。実際に今回の九州北部豪雨では，避難勧告が39万人に出されており，避難所で生活する困難さをとらえ，その中で気を付けるべきことについて避難所について知っている方と交流することで正しく理解し，防災の意識を広めていこうとすることは，大切なことであると考える。

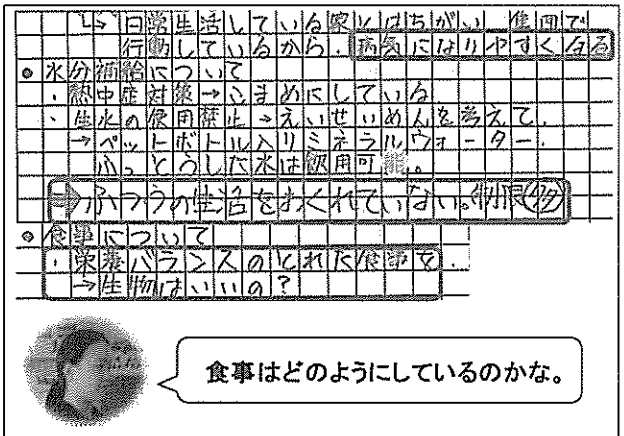


【題材における領域「けんこう」の構造】

3　学習の流れと考察

導入段階のねらい

避難所で生活をするようになると，どのような健康課題が起こるのかを考え，追究課題をつくることができる。



【資料１　Ａ児のノート振り返り】

導入段階では，避難所ではトイレの水をどのように手に入れて使用していたのだろうか，という問いに対して，実際にプールから水を汲んで流すという体験を行った。その体験をもとに，避難所の実態について調べ，「避難所ではどのように健康状態を保っていくのか」という全体の問いをつくった（資料１）。避難所の実態として，多くの人が同じ場所で生活をしていることや，普段の生活との違いに驚き，「食事について調べたい」「プライバシーについて調べたい」などと今後の学習課題をつくることができた。

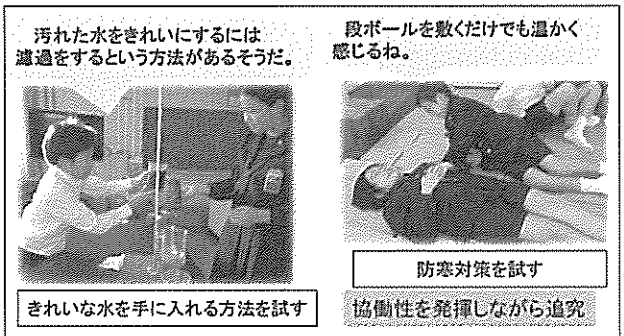
考察１

避難所でトイレの水をどのように使用していたのかを体験させ，避難所について調べる活動を設定したことは，避難所では健康上の課題が出ることをとらえ，どのように対処していくのかを調べたいという課題をとらえさせる上で有効であった。その根拠は，資料１のふつうの生活をしていないという実態をとらえた記述と「生物はいいの？」という記述である。Ａ児は，実際の生活と避難所の生活との違いに驚き，普段食べているものはどのようにしているのかについて，疑問を抱いている。この疑問をもとに，追究していくことが食事をどのように調達し，栄養のバランスを整えるのかという課題をもつことができたからである。

展開段階のねらい

避難所での生活では，どのように心の状態や体の状態を整えていくべきなのか調べ，考えをつくることができる。

(1) 追究のテーマに沿って調べる。



【資料２　テーマ別の追究】

(2) 調べたことをもとに避難所での体験を行う。

【資料３　避難所疑似体験】

(3) 問題を解決する方法の考えを確かめる。

【資料４　ボランティアの方との交流】

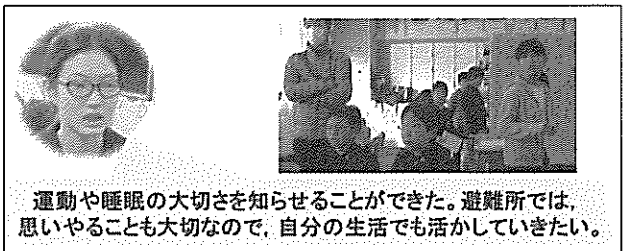
展開段階では，全体の問いに対して同課題のグループで追究を行った（資料２）。水をきれいにするにはどうするのか，食事はどのように確保するのか，睡眠はどのように取っているのかなどについて調べていった。その後，分かったことをもとにして，避難所の疑似体験を行った。体験では，車椅子の方がいる家族，乳児がいる家族などの条件ごとに避難所での生活をつくった。そして，自分たちが体験して生まれた疑問を解決するために，避難所の運営に関わっているボランティア団体の方と交流し，考えを確かめたり，不十分な部分を補ったりした（資料４）。

考察２

調べたことをもとに，避難所での体験を行い，考えを付加する場を位置付けたことは，子供が避難所についての知識を確かなものにする上で有効であった。その根拠は，資料３と資料４の子供の発言からである。避難所に見立てた体験をすることで，他者に配慮した生活をする必要があることや我慢を強いられることをとらえた発言が見られた。「ストレスがたまる」という発言は題材の導入から見られたが，その具体的な内容は，この段階でとらえることができた。

終末段階のねらい

学んだことを活かして，全校に広める活動をするために，内容や方法を考えることができる。



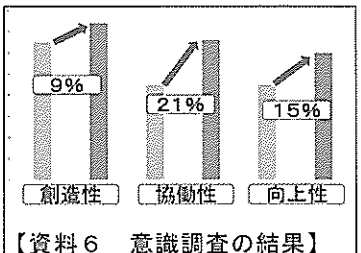
【資料５　学んだ知識を活かす】

終末段階では，あらつフェスタで伝える内容を決定し，学んだことをまとめる活動を設定した。内容を決定する際には，下級生が避難所についてどのようなことを知りたいのか調査した結果を提示した（資料５）。子供が体験して伝えるべきだと感たことと，教わりたいことにズレがあったが，健康維持のために必要なことを内容とした。フェスタ後の感想では資料５のように，これからの自分の生活を見直す感想があった。

考察３

他者に伝える目的で学びを振り返らせたことは自分自身の生活を見つめさせる上で有効であった。その根拠は資料５の児童の感想からである。避難所での学びを自分の生活に活かそうとする姿は向上性が発揮された姿と考える。

全体考察



【資料６　意識調査の結果】

本題材はとくに向上性の伸長に有効であったと判断できる（資料６）。

考察１，２から，協働性と知識を確かなものにしていく向上性の発揮が考察できる。以上のことから，向上性を発揮するためには，知識の再構築が必要であると言える。今後は，今後想定される健康課題についても，子供たちが健康の状態をとらえ，課題を追究していくための手だてが必要である。

実践事例　第6学年　「わたしたちにできること」プラン
～なぜ，自然災害は起きるのか～

領域　かがく　　指導者　永田　裕二

1　資質・能力

◎　豪雨によって引き起こされた自然災害を追究し，自然災害のメカニズムを地形，地質，雨量と関係付けて理解するとともに，豪雨が与えた影響について根拠をもとに述べることができる。　（創造性）

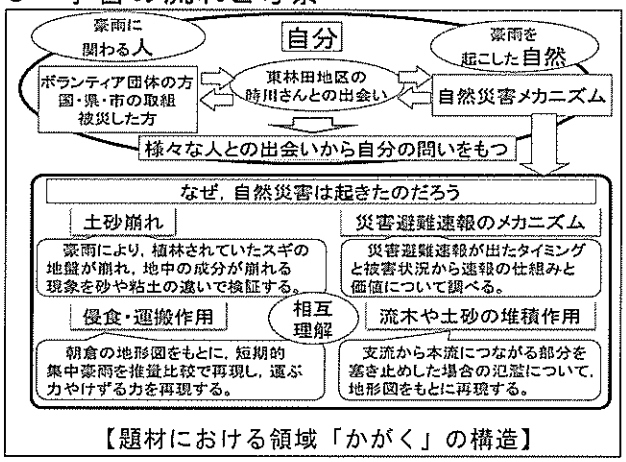
○　自然災害のメカニズムに対する問いをグループで交流し，自然災害の原因についてグループで追究したことを発表することができる。　（協働性）

○　「土砂崩れ」「侵食・運搬作用」「気象予報の仕組み」など，個々の問いの解明のために，資料やモデル実験を効果的に用いながら仮説に沿って実証することができる。　（向上性）

2　題材における領域「かがく」の考え方

本題材では，豪雨を中心とした自然災害についての理解を深めることに加えて，自らの課題を自分なりの方法で調べることができるようにする。また，よりよい生活を創造するためにどのような状況におかれても，様々な角度から考える大切さに気付き，自分の生き方を強化したり，見直したりすることをねらいとしている。具体的には，①豪雨を想定したモデル実験と実際の自然現象とをつないで理解すること，②モデル実験を通して，自分がもっている知識に基づいて思考を展開し，現象の本質を理解すること，③豪雨から発生する自然災害に対する正しい認識のもと，復興に向けて取り組む様々な人々の生き方を学び，自分にできることを考えることなどである。実際に九州北部豪雨では，土地の特徴と被害に関係があり，それら複数の要因を関係付けながら，問いを解決していこうとする態度を養うことは，複数の情報を組み合わせて新たな考えを創り出す力を育てる上で大切なことだと考える。

3　学習の流れと考察



【題材における領域「かがく」の構造】

導入段階のねらい

現地の方の話や見学から，どのようなことを追究していきたいか学級の問いを設定することができる。

【資料１　現地見学を通して追究意欲を高める姿】

導入段階では，「今回の被害はなぜ大きかったのか」という疑問に対して，様々な考えが出た。そこで個々に生まれた仮説を追究していく過程で，「なぜ自然災害は起きたのか」という全体の問いに行き着いた。Ａ児は，「見学に行くまでは，被害の大きさを深刻には考えていなかったけれど，実際に見ることで，今後このようなことが起きたときに被害を最小限にするにはどうしたらよいのだろうか。」という問いをもった。このような個々の問いを解決していくために，解決していく方法や計画を立て，同質の問いのグループをつくった。以上のような問いの設定を通して，「豪雨と浸食」「豪雨と土砂崩れ」「豪雨と感染症」「５年前との豪雨の比較」「豪雨と流木や土砂の堆積」のグループができ，以後の追究につながった（資料１）。

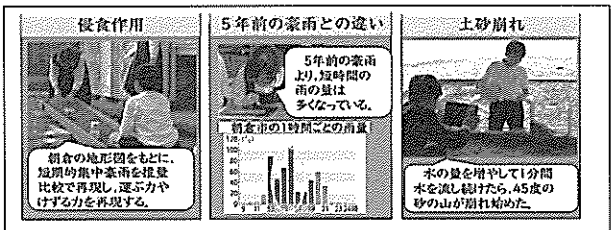
考察１

１学期の自主的な募金活動から学習を始め，子供の求めに応じて，現地見学と朝倉在住の時川さん，塚原さん（以下，ＧＴ）との出会いを設定したことは，子供が追究意欲を高め，個々で解決していきたい問いを設定する上で有効であった。その根拠は，９割の子供が具体的な根拠をもって問いを設定できたからである。これは，「なぜだろう。調べたい。」という，領域「かがく」で重視している学習動機が達成できたといえる。

展開段階のねらい

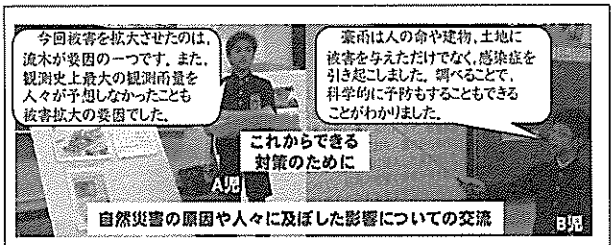
朝倉市の豪雨自然災害について追究してきたことを交流し，自然災害の原因を地形や雨量と関係付けて理解するとともに，豪雨が与えた影響について根拠をもとに述べることができる。

(1) 九州北部豪雨による自然災害の原因について，自分の追究課題に沿って調べる。



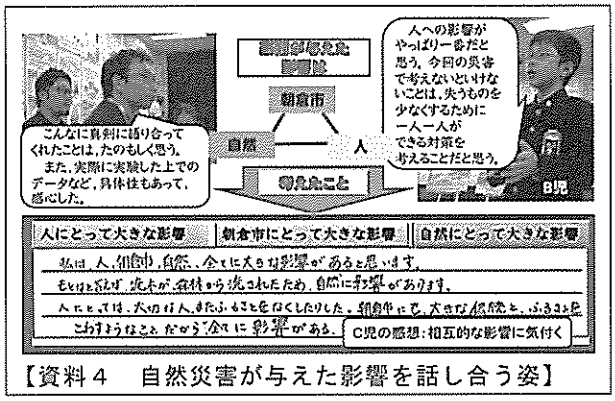
【資料２　自分の課題に沿って追究する姿】

(2) 自然災害について調べたことを交流する。



【資料３　学級内で，追究報告会を行う姿】

(3) 自分の考えを時川さんと塚原さんに伝える。



【資料４　自然災害が与えた影響を話し合う姿】

展開段階では，まず「自然災害はなぜ起きたのだろう。」という全体の問いに対して，自分の追究課題をつくった。次に，同質の課題ごとにグループをつくり，資料の分析や，流水のモデル実験，気象庁の方の話などをもとに追究を行った（資料２）。そして，個人の追究課題をグループでまとめ，交流会を行うことで情報共有を行った。そこでＡ児は，今回の被害拡大の原因を，自然の面と人の防災意識の面からとらえた（資料３）。最後に，今回の豪雨が与えた影響について，人，朝倉市，自然の面から考えを交流した。Ｂ児は，自然災害は人に一番影響を与え，被害を今後防ぐには一人一人の防災意識の向上が大切であることをとらえた。またＣ児は，自然災害が与えた相互的な影響をとらえることができた（資料４）。

考察2

豪雨が与えた影響について話し合うために，求めに応じたＧＴとの出会いや，自分で計画した流水モデル実験をしたことは有効であった。その根拠は，資料３にもあるように，自分で必要な情報を整理・分析してまとめた内容を交流した姿が見られたことと，資料４から多面的な視点で豪雨の影響についてとらえた姿が読み取れたことからである。

終末段階のねらい

九州北部豪雨の原因について追究してきたことを，外部に発信することで，防災という視点で人のために役立つことができた達成感を味わうことができる。

【資料５　題材通してのＡ児の変容】

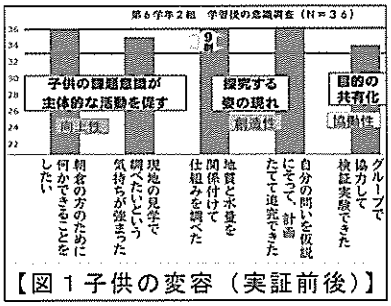
終末段階では，展開段階から子供たちが抱いていた「九州北部豪雨について調べたことを伝えたい。」という思いを実現するために，外部に発信する活動に取り組んだ。Ａ児のグループは，川が氾濫する地形と水量の関係について調べた。そして「被害をおさえるために，いつ起きるか予測できない自然災害について備えること。」という防災意識の大切さを，気象庁が発信するはれるん通信にまとめることができた(資料５)。

考察3

九州北部豪雨の原因について追究してきたことを，学級内だけでなく，外部に発信させたことは，「自分たちにも，被災された方々のために一つでも行動に移すことができた。」という子供にとっての喜びや大きな達成感を味わわせる上で有効であった。その根拠は，自然災害は，どこででも起こりうる可能性があること，その上で危機意識をもつことの大切さに気付いた姿が資料５から読み取れるからである。

全体考察

本題材は，とくに向上性の自己伸長の向上に有効であったと判断できる（図１）。これは，考察１にも述べたように，学習の対象が明確であり，喫緊の問題であったことや，出会う段階で実際に人や自然に触れたことで，「自分たちにできることを考え，実践したい。」という明確な追究意欲がもてたことが大きく影響したと考えられる。また，創造性の探究力の向上が見られる点に関しては，考察２で述べたように，追究の段階で，求めに応じてＧＴを活用して必要な資料を整理・分析したり，流水のモデル実験を行ったりして，自分の問いを解決するための方法を自ら考えた結果であると考える。



【図１子供の変容（実証前後）】

Ｈ２９年度　年間指導計画　第６学年

単独題材名　関連題材名　学びが進む方向に矢印でつなぐ

	1学期												教育実習			
学校行事	始業式	入学式	歓迎遠足	疎見学芸会	防災訓練①	交通安全教室	修学旅行	授業プリセミナー	プール清掃	プール開き	相撲・綱引き大会	終業式	始業式	防災訓練②	月見学芸会	あら
ことば	日本の文字を正しく使おう④，英単語を知ろう②言葉の特徴や決まりをとらえよう③音で感じる日本語の心⑧Let's sing.												日本の文字を正しく使おう④，英単語を Let's sing and dan			
	学級討論会をしよう⑦，つくろうおいしい広告⑧What time do you get up? 休日の過ごし方⑤ What are you doing? 今，何をしていますか？④(B 伝え合う)												自分の考えを明確に伝えよう⑥考えようネチケッ を旅行に誘おう④解決			
	お話(物語・説明文)を楽しもう⑮パンフレットをつくろう⑧Making a speech. 修学旅行の思い出 英語でスピーチ⑦(C 創る)												お話(物語・説明文)を楽しもう⑫この絵わたしは ことばでできる？復興支援⑳Making a speech. 自			
すうがく	「X，Yを使って表そう」⑧「分数の仕組みを解明しよう」⑫「不思議な円の世界」⑥「おいしいドレッシングの きまり」⑥(A 数楽のちえ)												「速い遅いをすうがくで表そう」⑬「伴って変わる数			
	「数独にチャレンジ」⑤「円の面積を求めよう」⑤(B はっそう)												「ジャンケン3			
	「資料の調べ方」⑥(C ちょうせん)												「メロスの速さを調べよう」⑥「全部で何			
かがく	「わたしたちの住む日本は快適？日本の気象事情⑤(A 生命・地球)												「わたしたちの住む地球と月・太陽の奇跡の関 係」⑤(A 生命・地球)			
	「なぜ物は燃える？仕組みを解明して燃え続けるあんどんを作ろう」⑤(B 物質・エネルギー)												◇ 豪雨と災害にはどのような関係が あるのだろうか④			
	テーマ研究「明日の天気は予測できる？⑥(C 科学と人間生活)															
くらし	「歴史を創った日本人と世界遺産の魅力」㉘(A れきしとぶんか)												「日本と世界のエネルギー」⑫(C けいざ			
													「わが国の憲法」⑩(B けんりとぎむ)			
にんげん	予想される内容(B わたしたち) 高学年として 学級目標を決めよう 1年生と関わろう⑱												「わたしたちにできること」㉕ C いきる			
	これがわたしの生きる道⑳(C いきるみち)												梅組と仲よし (C			
	My Time㉞	予想される内容(A わたし) ：1年生に教えることは何 なりたい自分はどんな自分 性って一体何だろう 自分の将来に														
げいじゅつ	「劇で伝えるメッセージ」⑩「表そう！四季のストーリー～造形と音楽の調和～」㉚(A ひょうげん)												「附属福岡小学校の誇り」⑫「つくろう!ワ う			
	「附属小ミニコンサート」⑥(B かんしょう)												「世界の			
けんこう	オリエンテーション②	「食事でできる病気の予防」⑮(A 体 B 食)										1学期のまとめ②	◇ 避難所では心と体をどのよう			
		「ニュースポーツ」⑭「相撲・綱引き」⑪「水泳運動アクアビクス」⑩(C 運動)											「工夫			
													「ゲームを楽しもう」⑮「器械運			

◇ 課題

学年テーマ【幸福】

2学期							3学期						時数
つ大運動会	[illegible]	防災訓練③	特久走記録会	あらつフェスタ	遠行会	終業式	始業式	教育研究発表会	長なわ集会	お別れ集会	卒業証書授与式	修了式	

知ろう②言葉の特徴や決まりをとらえよう④古典に親しもう③
ce! フラッシュモブに挑戦④(A 知る)

ト⑦When is your birthday? 誕生日を尋ねよう④Let's go to Italy. 友達しよう！ニッポンの不思議⑩ (B 伝え合う)

こう見る(解説文)⑥
分のこと④(C 創る)

◇ 言葉で復興支援はできるのだろうか⑳

英単語を知ろう①言葉の決まりを知ろう②HAIKUで広がる言葉の世界⑥(A 知る)

卒業を前に 今，わたしは ぼくは④This is my dream! 6年生の夢宣言④プレゼンしよ

お話(物語・説明文)を楽しもう⑧自分を見つめ直して⑥共に考える⑧
Making a skit. オリジナルの物語をつくろう⑥(C 創る)

214

のきまり」⑧「複雑な立体の体積」⑧「拡大・縮小のきまり」⑫(A 数楽のちえ)

種類の謎」⑤(B はっそう)

通り」⑩「学校の地図をつくろう」⑫ (C ちょうせん)

「美しい図形の秘密」⑨「6年生のまとめ」⑧「すうがくか」ら「数学」へ⑤(A 数楽のちえ)

「引き出そう！脳の力」⑨(B はっそう)

153

◇ なぜ自然災害は起きるのだろうか⑯

◇ 日本の未来のために科学技術をどのように活用するべきなのだろうか⑮

「日本の未来のエネルギー」⑤(B 物質・エネルギー)

61

◇ 市民のくらしはどのように守られたのだろうか⑥

い)

「18歳まであと6年
～選挙権を考える～」⑬(D けんりとぎむ)

「これからの幸せな国のかたち」⑰(B せいじときまり C けいざい)

「ユニセフとユネスコ」④(E 日本と世界)

91

みち

◇ わたしたちが生きていく幸せのためにお金は必要だろうか⑳

いきるみち)⑤

122

向かって 幸せは誰が決めるのだろう 自分の将来に向かって 幸せは誰が決めるのだろう

ールドミュージック」⑭「世界に誇るクールジャパン」⑳ひょげん(A ひょうげん)

芸術」⑥(B かんしょう)

「メモリーボックスを作ろう」⑧「希望と誇り」⑩「伝えようマイワード」⑥(A ひょうげん)

122

に整えているのだろうか⑬

しよう1食分の食事」⑭(B 食)

動」⑬「8分間走」⑨(C 運動)

2学期のまとめ②

「これからのわたしの健康」㉗(A 体, B 食, C 運動)

◇ がんや認知症は予防できるのだろうか④

学年のまとめ②

153

実践事例　3組　「たんれん（英会話）」プラン
～帰国子女教育における「ことば」の習得～

たんれん（英会話）　　**指導者　杉本　克如**

1　資質・能力

○　日本語や英語の新たな表現を知り，その意味や使い方を理解したり，それらを使って自分の思いや考えを表現したりすることができる。　（創造性）

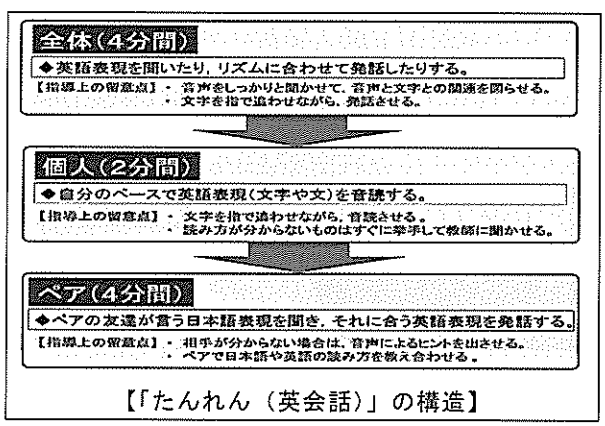
○　音声を聞いて音読したり，日本語の意味に合う表現を答えたりすることを通して，やりとりを可能にする語彙や表現を増やすことができる。　（協働性）

◎　母語または第２言語である英語の新たな表現を身に付けることを通して，これから英語を学び，使う意欲を高めることができる。　（向上性）

2　帰国子女教育部における「たんれん（英会話）」の考え方

本学級には，現在12名の子供が在籍している。それぞれの滞在国は，アメリカ，カナダ，オーストラリアなどの英語が公用語の国もあれば，タイ，パキスタン，中国や韓国などの英語が公用語でない国もある。また，滞在国で子供が通っていた学校が現地校か，日本人学校かによっても，第２言語の習得状況は様々である。そこで，「たんれん（英会話）」では，英語や日本語の新たな語彙や表現を知り，それらを使って自分の思いや考えを伝えることばの習得を目指す。具体的な活動の流れは，下図に示す通り，①語彙や表現の音声を聞き，音声と文字を一致させながら，リズムに合わせて音読すること（全体），②文字を見て，音読すること（個人），③日本語の表現に合う英語表現を発話すること（ペア）である。帰国子女教育部において，「たんれん（英会話）」を位置付けることは，母語や第２言語である日本語や英語の能力を身に付け，第２言語を使って自己表現できる喜びを実感させたり，ことばを学ぶ意欲を高めたりする上で価値がある。

3　学習の流れと考察



【「たんれん（英会話）」の構造】

「たんれん（英会話）」を行う上で，英語や第２言語に関する意識調査を行った。本学級在籍の12名のうち，英語を母語とする子供が３名，英語と日本語の両方を難なく使いこなすことができる子供が２名いる。また，日本語が母語であり，第２言語として英語をある程度活用することができる子供は７名いる。また，滞在国や通っていた学校の状況から，英語を学ぶ機会がほとんどなかった子供も２名いることが分かった。Ａ児は，タイの日本人学校での４年間，英語に触れた経験がなく，日本語の習得においても課題がある。本学級において，Ａ児は人前で英語を話すことに苦手意識をもっており，自分に合った勉強方法や英語学習に明確な価値を見いだすことができていない（資料１）。

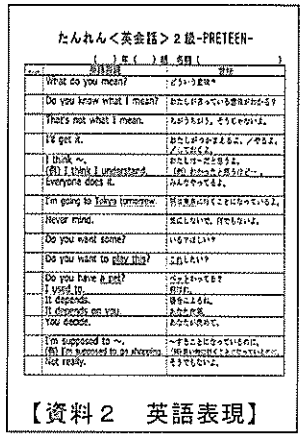
単語や短い文章を読むことはできるけれど、
英語を話すことや書くことができない。
どのように英語を勉強したらよい分分からない。
自分に合った勉強法が見つからない。

【資料１　Ａ児の意識調査への記述】

全体（４分間）のねらい

英語表現の音声を聞き，音声と文字とを関連付けながら発話することができる。

全体では，教師が範読する資料２の英文を聞き，リズムに合わせて英語表現を発話する活動を行った。そのときにＡ児は，教師が読む英語表現と手元の英文とを一致させながら，文字や英文とそれらの読み方を確認した。その際，Ａ児は発音や音のつながりに気を付けながら，大きな声で発話することができた。


たんれん＜英会話＞２級-PRETEEN-

	表現	意味
	What do you mean?	どういう意味？
	Do you know what I mean?	わたしが言っている意味がわかる？
	That's not what I mean.	そういうわけじゃ、そうじゃないよ。
	I've got it.	わたしがやりますよ。／やります、／いただきく。
	I think ～. (例) I think I understand.	わたしは～だと思う。 (例) わかったと思うけど～。
	Everyone does it.	みんなやってる。
	I'm going to Tokyo tomorrow.	明日東京に行くことになっている。
	Never mind.	気にしないで、何でもない。
	Do you want some?	いる？ほしい？
	Do you want to play me?	一緒にしない？
	Do you have a pet? I used to. It depends. It depends on you. You decide.	ペットを飼ってます 昔は。 時と場合による。 あなた次第。 あなたが決めて。
	I'm supposed to ～. (例) I'm supposed to go shopping.	～することになっているのに。 (例) 私は買い物に行くことになっているのに。
	Not really.	そうでもない。

【資料２　英語表現】

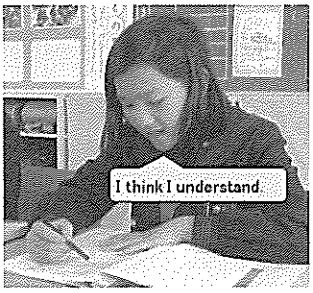
考察１

英語特有の音のつながりやイントネーション，音声と文字との関連を意識させるために，教師の範読のあとに続き，リズムに合わせて音読する全体活動を位置付けたことは有効であった。その根拠は，多くの子供がリズムに合わせて発話することを通して，単語や英文の正しい読み方を知り，読むことができる単語や英文を増やすことができたからである。

個人（２分間）のねらい

音のつながりやイントネーションに気を付けて，単語や英文を正しく読むことができる。

個人では，時間内に，15個の英文を繰り返し読む活動を行った。１分30秒間に英文をいくつ読むことができたか，「たんれん（英会話）」の毎時間の記録を書かせることで，活動を重ねるごとに，記録がどのように伸びたか，自分の成長が一目で分かるようにした。A児は，鉛筆を持ち，読み方が分からない単語や音がつながるところに印をつけながら音読した（資料３）。A児は，１回目は23個しか読むことができなかったが，44個，73個，89個と，活動を重ねるごとに記録を伸ばしていくことができた。



【資料３　英文を読むA児】

考察２

音声と文字とを関連付けて，英文を正しく読む力を身に付けさせるために，全体での読む練習のあとに，同じ英文を音読する個人活動を位置付けたことは，有効であった。その根拠は，活動を重ねるごとに，多くの子供が正しく読むことができる単語や英文を増やしていくことができたからである。

ペア（４分間）のねらい

日本語に合う英語表現を発話することができる。

ペアでは，一方の子供が15個の日本語表現を順番に出題し，相手の子供がその日本語表現に合う英語表現を発話する活動を行った。１分30秒間に英文をいくつ答えることができたか，個人の読みの活動と同様に，毎時間の記録を書かせるようにした。A児は，日本語に合う英語表現を答えたり，分からないときには，友達からのヒントを頼りに，英語表現を考えたりすることができた（資料４）。

【資料４　英語を答えるA児】

考察３

英語表現を身に付けさせるために，日本語と英語の表現を確認し合うペア活動を位置付けたことは，有効であった。その根拠は，多くの子供が，日本語と英語表現とを関連付けて考え，日本語に合う英語表現を正しく発話することができたからである。

検定試験（課外）のねらい

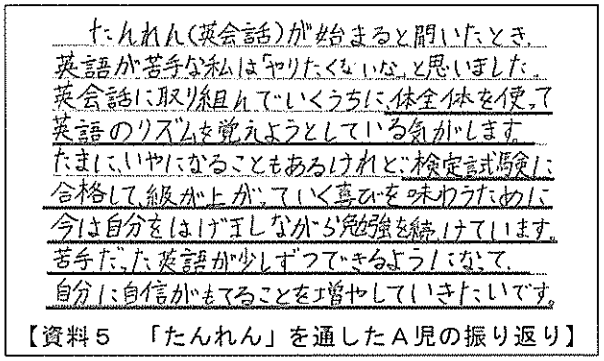
検定試験の合格に向けて，知識を定着させたり，主体的に学ぶ意欲を高めたりすることができる。

「たんれん（英会話）」の時間外に，合格の基準を下のように定めた検定試験を位置付けた。教師が15個の日本語を順番に言い，それに合う英語表現を子供が答えるようにした。

◆各級（１～５級）の合格点（15問中の正答数）

１年生・・・10点	４年生・・・13点
２年生・・・11点	５年生・・・14点
３年生・・・12点	６年生・・・15点満点
	帰国子女学級・・・15点満点

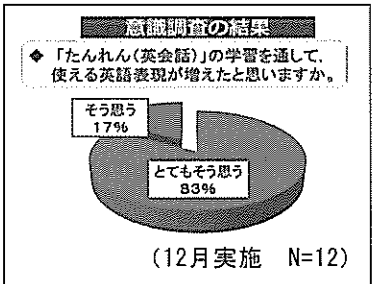
帰国子女学級の合格の基準のもと，A児は２学期終了までに５級から１級までの各級に満点合格することができた。A児は，２学期までの「たんれん（英会話）」の学びと自己の変容を次のように振り返った（資料５）。


たんれん(英会話)が始まると聞いたとき，英語が苦手な私は「やりたくないな」と思いました。英会話に取り組んでいくうちに体全体を使って英語のリズムを覚えようとしている気がします。たまにいやになることもあるけれど，検定試験に合格して，級が上がっていく喜びを味わうために今は自分をはげましながら勉強を続けています。苦手だった英語が少しずつできるようになって，自分に自信がもてることを増やしていきたいです。

【資料５　「たんれん」を通したA児の振り返り】

全体考察

２学期末に行った質問紙調査の結果から「たんれん（英会話）」の学びを通して，子供たちが英語の語彙や表現を新たに身に付けたことを実感していることが分かる（資料６）。「とてもそう思う」と答えた83%は，A児を含む日本語を母語としている子供たちである。一方で，「そう思う」と答えた17%の子供は，英語を母語としている子供であった。「どのようなことで増えたと思うか」尋ねたところ，「他の英語表現を知ることができた」「日本語表現を知ることができた」と回答したことから，「たんれん（英会話）」を位置付けたことは，本学級の子供にとって単に英語の力を向上させるだけでなく，日本語の力を育成する上でも有効であったと考える。



【資料６　質問紙調査の結果】

今後は，「たんれん（英会話）」で身に付けた「ことば」の力を子供が活用したり発揮したりすることができる領域「ことば」や「にんげん」の題材開発と領域と「たんれん」の効果的な関連が必要である。

特別支援教育部

生活をつくり出す子供を育む教育課程の創造

1　主題設定の理由

(1) 社会的背景から

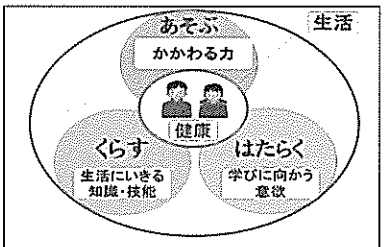
2020年に完全実施となる新学習指導要領では，子供一人一人に応じて十分な学びを確保することと個に応じた指導や支援を充実させていくことが求められている。そのため特別支援教育では，個の実態に合わせた個別の指導計画や個別の教育支援計画を用いている。しかし，県内では特別支援学級が急増していることに加えて，指導体制の若年化が進んでいるため，目の前の子供に対する指導が中心となり，教育課程を通した全体としての指導までに至っていない現状が覗える。これらのニーズに応えるために，どのような教育課程が効果的なのかを明確化していく必要がある。

(2) これまでの研究から

本校の過去の研究では，個の発達段階や特性に応じた学習方法や内容を追究する研究がなされてきた。ふじ・さくら・梅組は，知的障害のある子供を対象とした特別支援学級であり，①抽象的な思考が困難であること，②知識の定着に時間を要することなどが主な学習上の特性として挙げられる。そのため，教材を具体化し，繰り返し操作できる教材化を図ったりすることで生活にいきる資質・能力を高める学びを追究してきている。また，昨年度の研究では，子供の現在の生活を中心とした教育課程の在り方について追究し，子供の生活上の課題から学びを進める学習において，生活に根ざした学習内容の獲得をねらう題材の開発を行った。成果として，意欲的に学ぶ子供の姿や，獲得した知識・技能を生活の中でいかすことを実感する子供の姿に迫ることができた。しかし，既存の年間指導計画を見ると，時代の変化と共に学習内容と子供の生活が結び付きづらいものがある。そこで，現在の子供の生活に応じた内容に精選していく必要がある。現在の子供の生活を想定し，その子供にとって必要な学習内容を設定していくにあたり，大切なことは子供の実態を正確にとらえることである。そこで，子供がどのような生活を送り，どのようなことに困難さを感じているのかをとらえ，自立した生活を目指す学習内容を設定し支援していくことができるように教育課程を創造していくことが必要である。また，これからの未来社会で生活するために，学習内容を系統的に積み上げたり，社会の中で合理的配慮へとつながる意思を表出したりするなど，未来社会で必要となる見方・考え方を育てていくことの視点をもつことも大切である。

2　主題について

(1) 生活をつくり出す子供とは

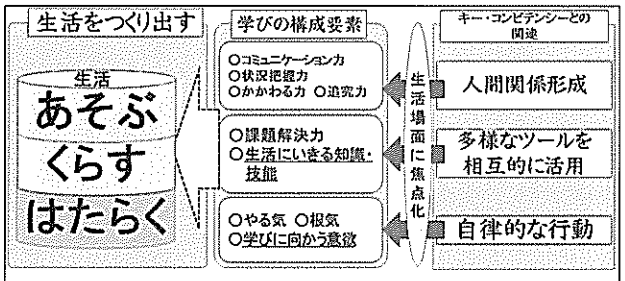


【図1　子供の生活と必要な力】

生活とは，子供が現在及び将来，健康や体力を基盤として，身近な人や出来事に関わりをもったり必要な情報やものに働きかけたりすることであり，主に学校，家庭，地域といった場面で構成されている。この３つの場面において，子供たちは「あそぶ」，「くらす」，「はたらく」という３つの活動を中心に生活している(図１)。

あそぶ・・・身の回りの「ひと」「もの」「こと」と関わり合うことを楽しむこと
くらす・・・身の回りの「もの」を正確に活用すること
はたらく・・身の回りの「こと」に働きかけていくこと

生活をつくり出すとは，生活を構成する３つの活動の幅を広げたり，質を深めたりしていくことである。そのために，それぞれの活動を構成していく力を育てていく必要がある。構成する力は図２に示す通りである。

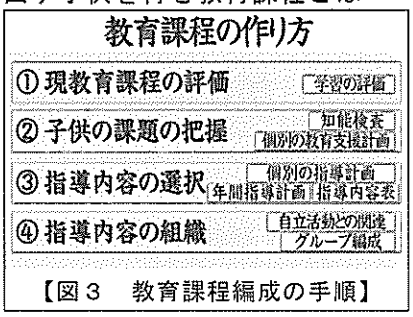


【図２　生活をつくり出す構成要素】

これは，キーコンピテンシーから「あそぶ」，「くらす」，「はたらく」の活動を通した生活場面において，関連する力を中心に子供の姿を追究していくものである。具体的には，本研究では「あそぶ」につながる「かかわる力」，「くらす」につながる「生活にいきる知識・技能」，「はたらく」につながる「学びに向かう意欲」として，目指す子供像を設定する。

○やる気をもって，粘り強く物事をやり遂げる子供　(学びに向かう意欲)
○学習において身に付けたことを生活の中でいかす子供　(生活にいきる知識・技能)
○「ひと」「もの」「こと」に自分から働きかけて関わり合うことを楽しむ子供　(かかわる力)

(2) 生活をつくり出す子供を育む教育課程とは



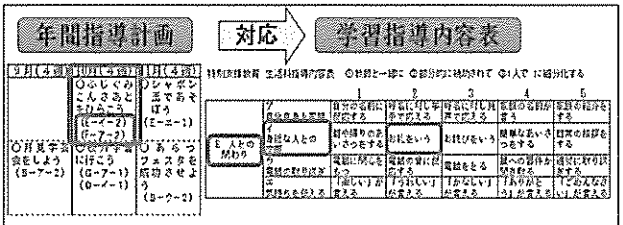
【図３　教育課程編成の手順】

生活をつくり出す子供を育む教育課程の創造とは，「かかわる力」「生活にいきる知識・技能」「学びに向かう意欲」を育んでいくために教育課程を編成していくことである。教育課程の編成には大きく４つの手順が必要である（図３）。その中で，生活をつくり出すための力を育んでいくことができるように，各段階において工夫する項目を明確化した。手順に沿って具体化していくと，まず①の現行課程の評価では，昨年度の研究内容を分析し，成果と課題を洗い出す。これまでの教育課程は子供の生活に沿って編成されたものであるが，時代の変化と共に生活と乖離した学習内容も存在している。そこで，時代の変化をとらえ子供の生活に沿う教育課程を創造していくことが必要である。主な成果と課題は以下の通りである。

成果・・子供たちの今の生活にいきる題材
課題・・子供たちの将来まで見据えていく必要性

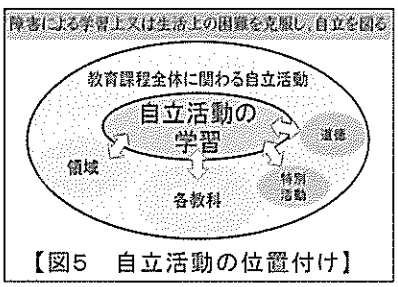
次に②では，個別の教育支援計画や知能検査，そして教師による行動観察から総合的に子供の将来像を想定し，これからの未来社会を生きていく上で，個に応じて重視するものを項立てていく。

そして③では，年間指導計画と指導内容表を照らし合わせ，個に応じた目標の設定を行う(図４)。



【図４　年間指導計画と指導内容表の照合】

最後の④では，子供たちの生活とこれからの未来社会で生活していくことを踏まえて，生活をつくり出す力を育むために，２つの視点を設定して授業内容を組織していく。まず，どのような実態の子供も可能な限り力を発揮し，よりよく生活しようとする意欲をもつことができるように，自立活動の学習を重点に置く。自立活動は教育課程全体に位置付くものであるが，今年度の研究では，教科指導との関連について焦点化し研究していく（図５）。また，その際の指導形態についても工夫していく。

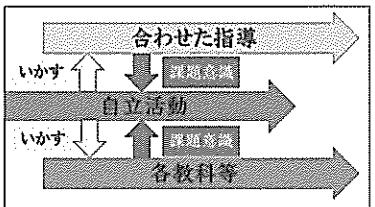


【図5　自立活動の位置付け】

3　研究の方向性

(1) 自立活動との関連性

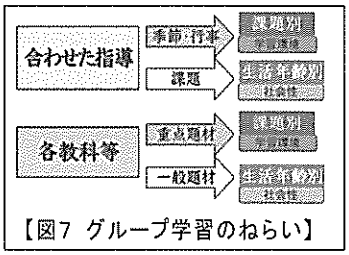
自立活動では，子供がよりよい生活を実現させていく上で，これからの生活において必要となる指導内容を個の実態に応じて設定していく。世間では，合理的配慮に対する社会の理解は進んできているため，子供自身が将来配慮を求める意志を表明する手段を身に付けさせることが必要である。具体的には，人工知能によるオートメーション化された社会では，タッチパネルや電子マネーといった「もの」の操作に関する関わり方を模索していくことが必要である。これは，今やこれからの生活と関連して相乗的に生活をつくり出していくことへとつながっていくものである。また，内容に関しては単独で存在するものではなく，学習と関連付けることで一層の効果があると考える。そこで，各教科等と連動した指導を行い，学びの実感を味わうことができる内容を設定していく。



【図６　自立活動と関連性の例】

(2) 学習形態の工夫

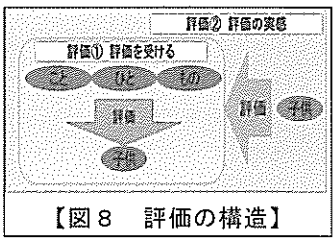
生活をつくり出すことを中心とする教育課程において，学習上の特性やねらいに応じて学習形態の工夫を行うことで，内容の獲得を効果的に行うことができる(図７)。合わせた指導の季節・行事単元においては，支援学級全体で共通する目的を有していくことが多いため，類似する課題をもつ子供たちで編成する課題別グループが効果的である。一方で，課題単元においては，学級単位で課題を共有化し，他学年との関係性を尊重していく。教科等では重点題材を設定し実証を行っていく。子供の実態により，指導内容も異なるため，類似する課題をもつ子供でグループを編成することで，学習への集中度や学び合いが生まれると考える。



【図7 グループ学習のねらい】

(3) 自己を評価する活動の設定

自己の成長を喜ぶためには，評価を受けることと，自己を評価し，学んだ成果の実感を伴うことがなければならない。そこで，身の回りの「ひと」「もの」「こと」からの評価を客観的に自分で振り返る。これは，自己評価と他者評価を並行して行うことにより，子供自身が生活をつくり出す姿を実感することができる(図８)。



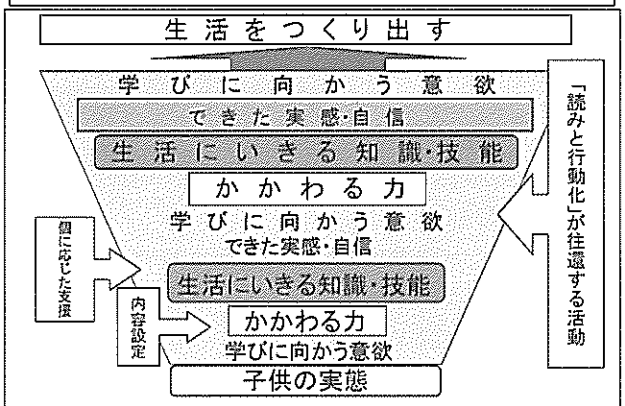
【図８　評価の構造】

特別支援教育部国語科
説明的文章における「読みと行動化」が往還する活動構成

1　国語科の「読むこと」における「生活をつくり出す子供」とは

特別支援教育国語科の「読むこと」における生活をつくり出す子供とは，次の３つの姿である（図１）。

○　身の回りの言葉に関心をもち，言葉でのやりとりに粘り強く取り組もうとする子供
（学びに向かう意欲）
○　学習上・生活上で必要な語句や文を読んで理解し，意味に応じて行動することができる子供
（生活にいきる知識・技能）
○　言葉を介して「ひと」「もの」「こと」に自分から働きかけて関わり合う子供　（かかわる力）



【図１　生活をつくり出す子供を育む過程】

生活をつくり出すとは，日常生活に必要な言葉や情報を理解したり，行動に移したりして必要な情報を得ることである。知的障害のある子供が生活するために，言葉と関わることは必要不可欠である。情報化が進む現代，街中やインターネット上などでは文字や記号で表記されているものが多い。また，将来働くときに使用することがある手順書や作業内容も文字を主として示されている。つまり，言葉を読んで意味・内容を理解したり，行動に移したりすることは，子供が現在から将来に向けて生活していく上で必要不可欠な力であると考える。生活をつくり出す子供とは，言葉の意味を理解したり，活用したりすることができたことを実感し，粘り強く学習に取り組む子供である。活用するためには，まず理解をする必要がある。言葉を理解するとは，語句や文をまとまりでとらえて読んだり，意味が分かったりすることである。具体的には，語句のまとまりを意識して読むこと，読んだ事柄の意味が分かることなどである。国語科においては，実態をもとに言葉に関する知識・技能や言葉を介したかかわる力を高めるようにする。このような力が高まることで学びに向かう意欲も高まる。その結果，生活をつくり出す子供を育むことができると考える。

2　主題の説明

（１）主題設定の理由

知的障害の子供の特性として次のようなことがある。

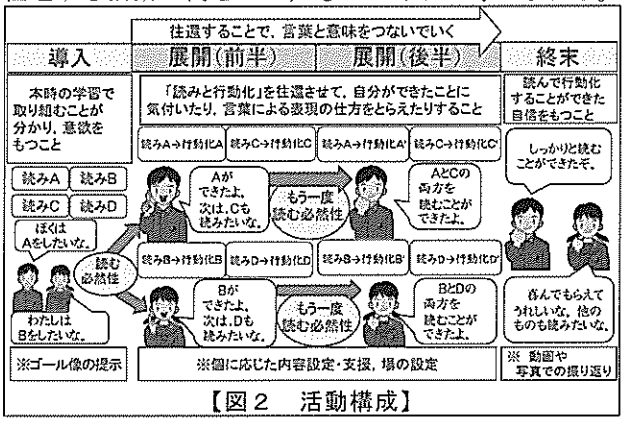
○　意味理解をするときに混乱が生じやすい
○　学んだことを応用することが難しい　　など

このような特性のある子供が「できた」実感をもったり，言葉と事象を関連付けて把握・判断し，行動に移したりするための仕組みには次のような条件がある。

○　「読み」と「行動化」を繰り返すこと
○　読む量を増やしたり（内容を高めたり），「教師と一緒に」や「部分的に補助されて」していたことを一人でできるようになったりすること

（２）主題の意味

読みとは，文字や文章，図などを見て，その意味・内容を理解することである。読みの段階は①一文字一文字，②語句，③文や文章の大きく３つに分けることができる。行動化とは，子供が考えや意思をもって，動作に移すことである。「読みと行動化」とは，読んだことをもとに，意思をもって行動に移すことである。読んだことを理解できたかどうかは，客観的に見取ることが難しい。そのため，行動化させることで見取りが可能になる。「読みと行動化」が往還するとは，読んだことをもとに行動へ移し，その内容を理解してもう一度読み確かめることである。このことにより，自分の行動と語句や文などの言葉の意味とを結び付けることもできる。また，読むことの価値は新たな知識や情報を得ることである。つまり，将来の子供の自立や社会参加を目指していく上でも有効である。「読みと行動化」が往還する活動構成（図２）とは，言葉と意味を関連付けたり，意味を理解したりするために，読む活動と行動に移す活動を連続して位置付けることである。また，内容を段階的に高めることで何度も読む必然性が生まれる。説明的文章では，読みと行動化を往還する活動の例として，ものづくりが考えられる。

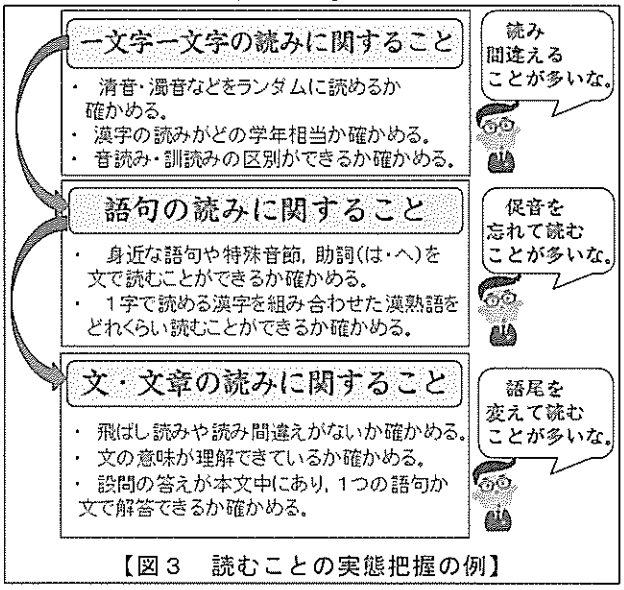


【図２　活動構成】

3　具体的方途

（1）「読むこと」の実態把握と原因分析

文を読んで理解するには，文字と音を一致させる，語句と語句をまとまりでとらえる，語句と意味を一致させるなどの複数の過程を経て成り立つ。この過程のどこにつまずきがあっても「文を読めない」「文を理解できない」という結果となる。読むことは，様々な能力を必要とするため，現在どの段階なのかを細かく見取る必要がある。そのために，図３の実態把握の例や本校で作成した指導内容表から現在地を定め，身に付けさせたいことを見つけ，目標や学習内容を設定する。そこで「あと少しでできそうなこと」を目標として取り上げていくようにする。



【図３　読むことの実態把握の例】

次に，原因分析である。実態把握ができても，どこでつまずいているのかを分析することができなくては，子供の成長につながらない。そこで，普段の学習から以下に示した分析的な視点で観ることが大切である。

聴覚的な処理･･･文字を音に変換すること
視覚的な処理･･･文字の形を細部までとらえること
音の操作･･･文字と音を一対一対応させること
視知覚･･･視覚的に文字や行を正確に追うこと
メタ認知能力･･･内容理解を認識・調整すること

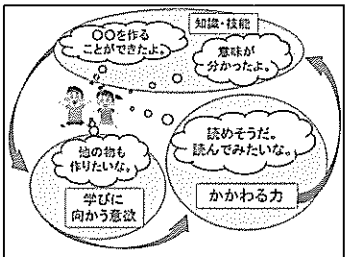
このように，実態把握と原因分析を行うことで，それぞれの子供に合う支援や学習をつくることができる。

（2）「読みと行動化」の往還を生む教材化の条件

「読むこと」の題材を設定する際，説明的な文章においては次の条件があるものを教材化する。

○　読む必要性を感じるものであること
○　子供が音声言語として理解しており，活用することができる語句や文であること
○　身に付けた語句や文が生活と結び付いたり，役に立ったりすること
○　行動化することができること

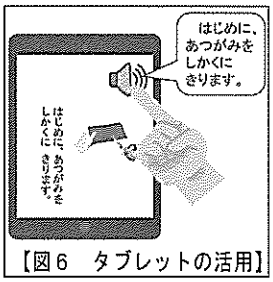
説明的文章は，事物を説明し，正確に伝えることを目的としている。そのために，語句や文を正しく読んで理解することや順序をとらえる必要がある。そこで，正しく読むと，実際に物ができあがるという実感を伴う活動を仕組むことで，次の学びに向かう意欲へとつながる（図４）。



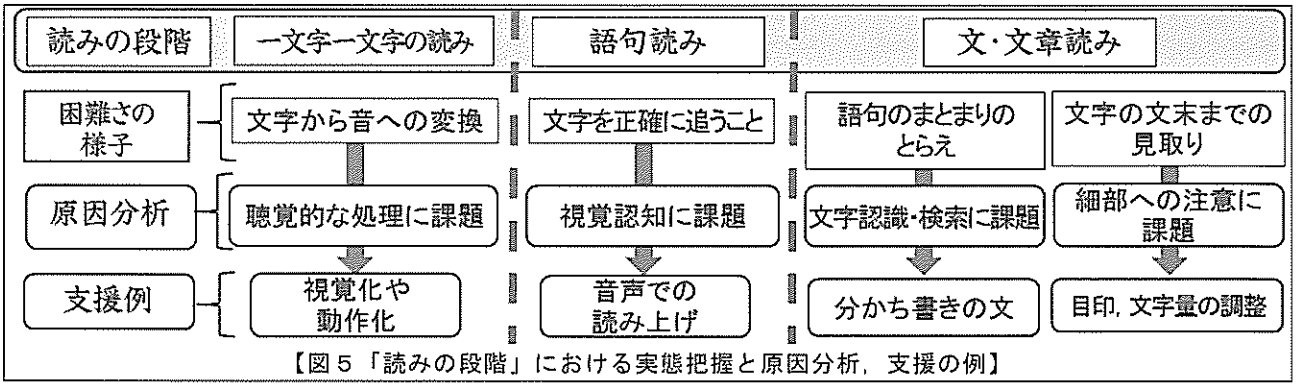
【図４　子供の思考の流れ】

（3）読みから行動化へ向かうための支援

困難さの様子から考えられる原因を分析して個に応じた支援を行うことが必要である（図５）。①聴覚的な支援が必要であれば，音声で読み上げる機能のあるタブレットや範読などが有効である。②語句のまとまりをとらえる支援が必要であれば，分かち書きの文や一文の文字量を調節することが有効である。③視覚的な支援が必要であれば，写真やイラストを言葉の補助として挿入することが有効である。④読んだ後にすぐに行動へ移すことができるように，読む場と行動化する場を構造化する必要がある。特に①②③はタブレットを活用することで支援を行うことができる（図６）。また，タブレットは，繰り返し操作することができるため，一人で学習を進めることができるよさもある。今どこを読んでいるかを示しながら読み上げるDAISY教科書も普及し始めている。



【図６　タブレットの活用】



【図５「読みの段階」における実態把握と原因分析，支援の例】

実践事例　第5・6学年　題材　よんで　つくろう！　梅組おもちゃ

指導者　辻本　拓

1　題材の目標

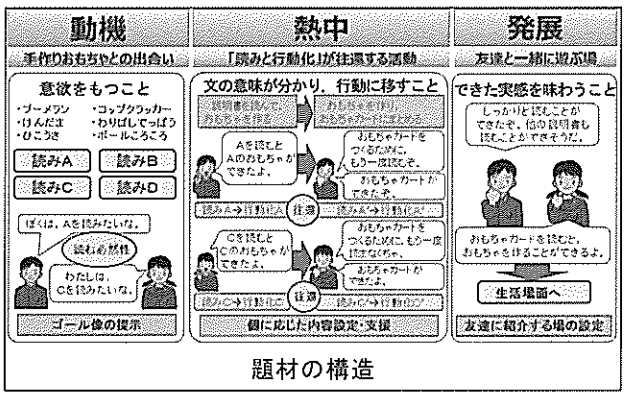
○　説明書を読んでおもちゃを作ることができたことを実感したり，他のことへ広げたりしたいという意欲をもつことができる。　【学びに向かう意欲】

○　おもちゃを作るために必要な文を読み取ったり，それをもとにおもちゃカードをつくったりすることができる。　【生活にいきる知識・技能】

○　語句や文の正しい読み方をしたり，語句や文の意味によるまとまりを理解したりすることができる。　【かかわる力】

2　題材の考え方

本題材では，おもちゃの説明書を読んで，その通りに行動に移すことができるようになることをねらいとしている。具体的には，①語句や文の正しい読み方をしたり，意味による語句のまとまりを理解したりすること，②おもちゃやおもちゃカードをつくること（行動化）と説明書を読むこと（読み）を往還させること，③おもちゃやおもちゃカードをつくることができたことを実感し，読みを広げたいという意欲をもつことである。特に，②については，二語文の読み，多語文の読み，時間的な順序の読みなどおもちゃ作りに必要な文を写真とつないで読むことと行動化を繰り返すことである。そのために，子供の実態に応じて，一文の文字量を調節したり，読み上げ機能を付けた自作アプリを作成してタブレットを活用したりすることが有効であると考える。また，題材の中で，おもちゃ作りで扱う語句や文の内容を高めたり，１ページの文字量を増やしたりしていく。このことにより，読んでおもちゃを作ることができた実感を味わったり，他の読むことへ広げたいという意欲を高めたりすることへつながる。このように，個別の課題を設定し，正しく読んだことでおもちゃが完成するという喜びに結び付けることで，生活をつくり出す子供を育むことができる。



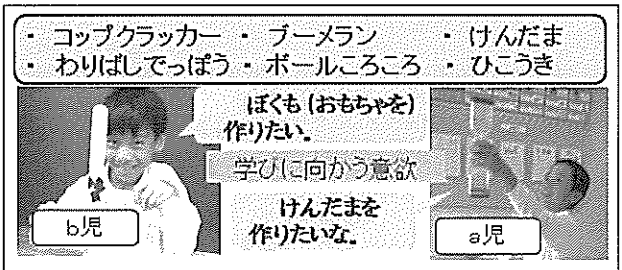
題材の構造

3　学習の流れと考察

「動機」段階のねらい：１～２/７時

手作りおもちゃを作って遊ぶという題材の見通しをもったり，おもちゃを作りたいという意欲を高めたりすることができる。

（1）提示された複数の手作りおもちゃで遊び，どのように作るのか発表し合う。



【資料１　遊び後の学びに向かう意欲】

「動機」段階では，複数の手作りおもちゃを提示して遊んだ。その際，ｂ児はブーメランで遊び，「ぼくも作りたい。」と発言した（資料１）。その後，学級全体でおもちゃはどのように作るのかを発表し合った。その際，ｃ児は「牛乳パックがいるね。」や「テープで貼っている。」とおもちゃ作りに必要な材料や作り方を発表した。また，説明書なしでおもちゃを作ると，どのように作ればよいのか手順が分からずに戸惑っていた。そこでｃ児は，「（おもちゃの）作り方が分かったら作ることができる。」と発言した。

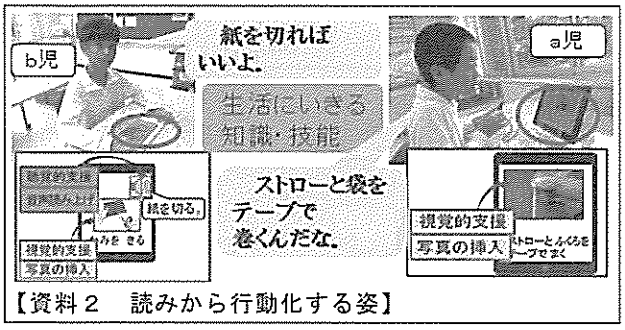
考察１

複数の手作りおもちゃで遊ぶ活動を取り入れたことは有効であった。その根拠は「ぼくも作りたい。」という発言があったからである。また「（おもちゃの）作り方が分かったら作ることができる。」という発言から読む必要性をもつことができたからである。これらのことから子供がおもちゃ作りへの意欲を高めたり，おもちゃを作って遊ぶという題材の見通しをもったりすることができたと考える。

「熱中」段階のねらい：３～６/７時

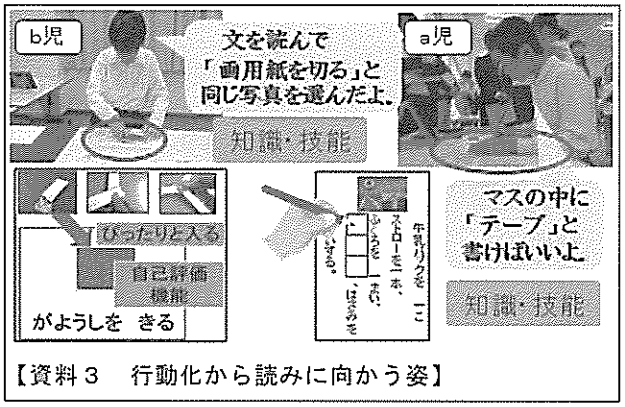
説明書を読んでおもちゃを作り，適切な言葉を書いたり，文を読んで対応する写真を選んだりして，おもちゃカードをつくることができる。

（1）説明書の文から作り方を読み取って，紙やゴムなどのおもちゃを作る。



【資料２　読みから行動化する姿】

(2) 説明書から必要な文を読み取って，多くのおもちゃを作ったり，その作り方をまとめるためにおもちゃカードをつくったりする。



【資料３　行動化から読みに向かう姿】

「熱中」段階では，説明書を読んで，自分が作りたいおもちゃを作った。a 児は，タブレットの自作ソフトから多語文を読んだ。一文が読み終わると，道具や材料を取りに行った。おもちゃを作る際，繰り返しタブレットにある説明書を読む姿が見られた（資料２）。a 児は「ストローにテープを巻く。」「ストローを穴に入れる。」などの文を読んで行動に移すことができた。おもちゃが完成すると喜んでいた。後段では，説明書を読んでびっくり箱を４個作ることができた。前段からの内容の高まりとして「ストローにテープをぐるぐると巻く。」などと言葉を付け加えて提示した。どのように巻くのか尋ねると「ぐるぐると巻く。」と発言した。次に，他学級の友達に教えるために，おもちゃカードをつくるという話を聞くと，a 児は「よし。（おもちゃカードを）つくるぞ。」と発言した。そして，おもちゃカードのマスの中に説明書から適切な語句を読み取って「テープ」と書き込むことができた。b 児は，「赤色を合わせる。」という文を読んで，対応する写真を選び，おもちゃカードに貼ることができた。

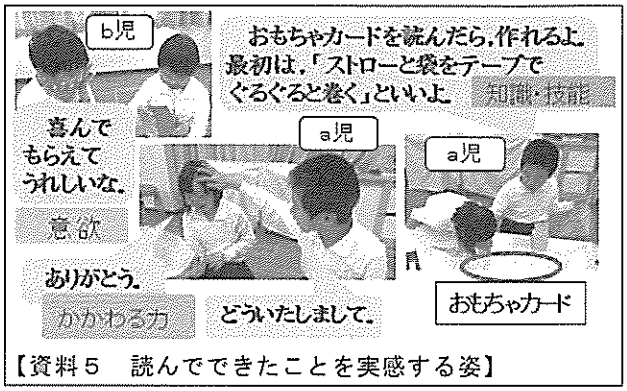
考察2

個別の説明書をつくり，読みとおもちゃ作り（行動化）が往還するように活動を構成したことは，学習への意欲や読むことができた実感を味わわせる上で有効であった。その根拠として，資料３のおもちゃの説明書を繰り返し読みながら多くのおもちゃを正しく作った姿や，おもちゃカードに適切な語句を書き抜いたり，対応する写真を選んだりする姿が見られたからである。

「発展」段階のねらい：７/７時

読んでおもちゃができたことを実感したり，読みを広げたいという意欲をもったりすることができる。

他学級の友達とおもちゃカードを読んでおもちゃを作ったり，作ったおもちゃで一緒に遊んだりする。



【資料５　読んでできたことを実感する姿】

「発展」段階では，他学級の友達におもちゃを紹介したり，一緒に遊んだりしようと教師が提案した。すると，b 児は「ぼくは，びっくり箱を教えたいな。」と発言した。また a 児は「○○ちゃんに作ってあげたい。」と発言した。その後，他の学級の友達に自分のおもちゃカードを読みながらおもちゃを作る活動に取り組んだ。そのときに友達から感謝され，b 児は「うれしいです。」と喜んだ（資料５）。a 児はおもちゃを作る際，自分のおもちゃカードを読みながら作った。

考察3

読んだことをいかすために，他学級の友達に紹介したり，おもちゃを作って一緒に遊んだりする活動を設定したことは有効であった。その根拠として，資料５から全ての子供が紹介したいおもちゃを他学級の友達に作ることができた姿を見られたからである。また，友達から感謝されることで，読んでできた実感を味わうことができたと考える。

全体考察

読みと行動化が往還するために，おもちゃ作りやおもちゃカードづくりを取り入れたことは有効であったと判断できる。これは，考察２から分かるように，繰り返し説明書を読む姿，読みから行動へ移す姿が見られたからである。そこで，個に応じた説明書を提示することで子供は意欲的に活動に取り組むことができる。また，考察３から分かるように，発展段階で「他学級の友達に作ること」を目的とすることで，できた実感を味わっている姿が見られたからである。しかし全体を見ると，題材を通してどのように文の内容を高めていくのかについては，個人差が見られた。そのため，読み取らせたい内容を個別に系統立てて考える必要がある。また，行動化から再び読みへと向かわせるための手だてや活動づくりを行うことが大切である。

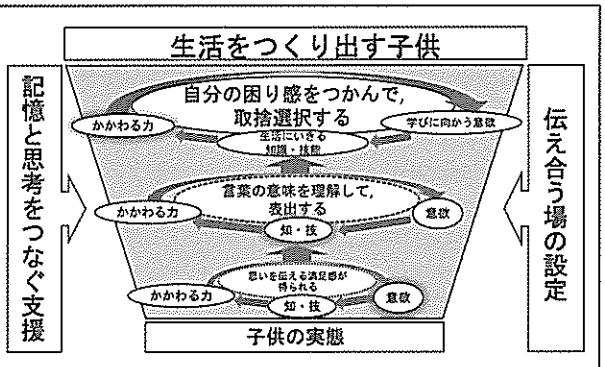
特別支援教育部国語科
記憶と思考をつなぐ支援を取り入れた授業づくり

1　国語科学習における「生活をつくり出す子供」とは

「生活をつくり出す」とは，現在の自分の生活をとらえることで，周りの「ひと」「もの」「こと」への理解を深めたり，新たな生活の中で身に付けた知識や技能を生かしたりすることだと考える。そのためには，「やってみたい，やり遂げたい」と思う学びに向かう意欲，「できた，わかった」と思うことができる生活にいかす知識や技能，「ひと」「もの」「こと」にかかる力の３つの資質・能力が必要である。そこで，特別支援教育国語科においては，下記の３つの姿をめざす。

○　言葉に興味をもち，進んで言葉を使って伝えることができる子供　（学びに向かう意欲）
○　言葉の意味をとらえて，したことや思いを伝えることができる子供　（生活にいきる知識・技能）
○　言葉を通して，身近な「ひと」「もの」「こと」にかかわることができる子供　（かかわる力）

特別支援学級の子供たちは，言葉の意味理解の定着，言葉の表出に困難さを抱えている。そこで，国語科学習では，体験を通して，言葉や表現方法を獲得しながら言葉を使って相手に伝えることができる子供をめざす。このことは，自分の思いを一方的に伝えるだけではなく，身近な人と思いを伝え合いながら生活することへとつながる。そのためには，まず，「伝えたいと思いをもつことができる体験を通して，伝える意欲をもたせる。次に，言葉の意味を理解したり，表現の方法を獲得したりして，伝えるための知識や技能を身に付ける。最後に，自分の困り感を解決するために，伝える方法を選択して，身近な人とかかわる力を身に付ける。また，子供たちの特性として，記憶が断片的であったり，想像することに苦手意識をもっていたりするので，記憶と思考をつなぐために個に応じた支援を行ったり，伝え合う場を繰り返し設定したりする。このことは，言葉を通して伝え合うことで，自分の生活をつくり出す子供を育てる上で価値がある（図１）。



【図１　生活をつくり出す子供を育てる過程】

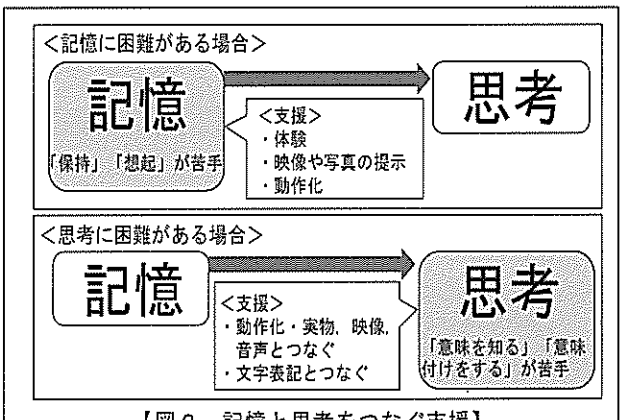
2　主題の説明

(1) 主題設定の理由

平成21年の特別支援学校学習指導要領解説の小学部国語科の目標には「伝え合う力を養う」と述べられていた。平成29年改訂版では，「国語の特質を理解し使うことができる」「伝え合う力を身に付け，思考力や想像力を養う」「言葉で伝えるよさを感じ，言語感覚を養う」と述べらている。このことから，自分の思いをもったり自分で考えたりして伝えるために，思考力や想像力を働かせながら，言葉を獲得して生活の中で使うことが求められているといえる。

(2) 主題の意味

記憶とは，過去の経験の内容を保持し，後で思い出すことである。また，思考とは，問題を解決するために問題を理解することや解決方法を導き出すことである。そして，記憶と思考をつなぐとは，問題を解決するために，過去の体験で身に付けた知識や技能を想起し関係付けることである。しかし，特別支援学級の子供たちは，記憶の定着に困難さをもっていたり，想像することに苦手意識をもっていたりするため，記憶と思考をつなぐことが困難である。そこで，記憶と思考をつなぐ支援を取り入れる（図２）。特に，記憶においては「保持」「想起」に困難さが見られる。その場合には，再度，体験をしたり，映像や写真を提示したり，動作化をしたりして，想起することの補助を行う。そして，思考においては「意味を知る」「意味付けをする」ことに困難さが見られる。その場合には，動作化，映像，実物，写真，音声と言葉をつないだり，文字表記とつないだりして，言葉の意味理解の補助を行う。国語科学習では，「聞く・話す」「読む」「書く」の領域があるが，記憶と思考をつなぐ支援を最も必要とする「書く」領域において実践を行う。



【図２　記憶と思考をつなぐ支援】

3　具体的方法

(1)「書き表したい」と思う教材化

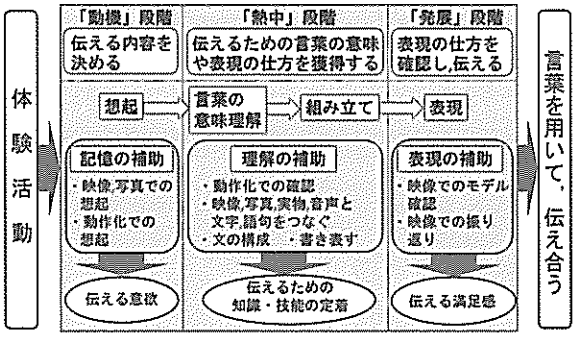
子供たちが意欲的に書いて伝えることができ，書いて伝える満足感をもつことができる教材化には，下記の３つの条件が必要だと考える。

① 話し言葉として用いている言葉を書くこと
② 「書きたい」と思わせる課題を設定すること
③ 体験を通して言葉の意味を獲得できること

子供たちは，話し言葉が中心の生活をしている。身近な人との話し言葉でのやりとりを通して，言葉を獲得している。そこで，話し言葉として獲得している言葉を書き言葉に用いる。また，子供は，話すだけでなく，「書き残したい」「書いて伝えたい」と実感したとき，進んで書くことへの意欲をもつことができる。そこで，書く必要性を実感できるものや書く楽しさを味わうことができる課題を設定する。さらに，実際に体験したことと言葉がつながるときに言葉の意味を理解することができる。そこで，繰り返し体験することで，獲得した様々な言葉を用いて書くことができる。このことは，話し言葉以外にも書くという表現方法を身に付けることで，自分の生活をつくり出すことができるといえる。上記の３つの条件を満たす教材には，Ａ生活文，Ｂ手紙，Ｃ劇の台本作り，Ｄ絵本作りなどが挙げられる。Ａの生活文を書く場合は，「一年間の思い出アルバムを作ろう」や「宝物ブックを作ろう」など，自分の成長を振り返って書きまとめて発表することができる。特に，子供たちが生活の中で身近な人とやりとりしている話し言葉を生かして書くことにつなぐことができるというよさがある。Ｂの手紙を書く場合は，「○○さんにありがとうの気持ちを伝えよう」など，対象を明確にして書くことができる。加えて，「書きたい」「書き残したい」という書くことへの思いを持続させることもできる。Ｃ・Ｄの劇の台本や絵本作りでは，「劇の台本を書こう」「絵本作りをしよう」など，書き上げた台本を使って劇をしたり読み聞かせをしたりして書いたことを生かすことができる。この場合には，繰り返し動作化をして言葉の意味を理解することができるよさがある。このような条件を満たす教材を扱うことによって，書くことへの意欲を高めることや書いて伝える楽しさを実感させることができる。

(2) 記憶と思考をつなぐための題材構成

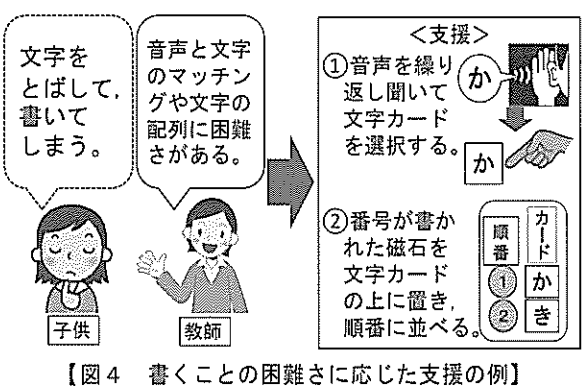
記憶と思考をつなぐ支援を各段階に位置付けることで，子供たちが言葉の意味を理解して書いて伝えることができる。「動機」段階では，体験したことを振り返って伝える内容を決める。そこで，映像や写真を見たり，動作化をしたりすることで，体験したことを想起する記憶の補助を行う。次に「熱中」段階では，伝えるために言葉の意味や表現の仕方を獲得する。映像，写真，実物，音声と言葉をつないだり，動作化して言葉の意味を確認したり，文字表記をして書き残したりすることで，理解の補助を行う。最後に「発展」段階では，伝えるために表現の仕方を確認して実際に伝える。伝え方のモデルを見たり，映像を見て自分を振り返ったり，書いたものを使ってやりとりをしたりすることで，表現の補助を行う。このように，記憶と思考をつなぐ支援を行うことで，子供たちは書くことで伝える満足感を得ることができる（図３）。



【図３　記憶と思考をつなぐ題材構成】

(3) 記憶と思考をつなぐ「書く」ことの支援

実際に体験したことを書く際に，どこに困難さを感じているのかは子供たちの実態に応じて異なる。書くことには，言葉の意味理解だけでなく，表記の仕方に困難さを感じていることも多い。例えば，音声と文字表記が結び付いていないという実態がある。そこで，音声と文字表記をつなぐ支援として，タブレットを活用することが考えられる。タブレットで音声と文字を確認した後，語句カードや文カードなどを操作することで，文字表記をとらえる効果を高めることができる（図４）。特に，特別支援学級の子供たちは，記憶と思考をつなぐことに困難さがあるため，文字・語句・文カードなどの具体的な教具を操作して，繰り返し語句や文をつくったり，実際に動作化して言葉の意味を理解したりして取り組むことが必要である。さらに，子供たちが自分の書いたものを振り返ることによって言葉の定着を図る。推敲するには，実際に書いたものを声に出して読むことや正しい文字で書かれたシートを用いることが有効である。



【図４　書くことの困難さに応じた支援の例】

実践事例　第3・4学年　題材　げきの　だいほんを　かこう「どうぞの　いす」

指導者　野村　喜代香

1　題材の目標

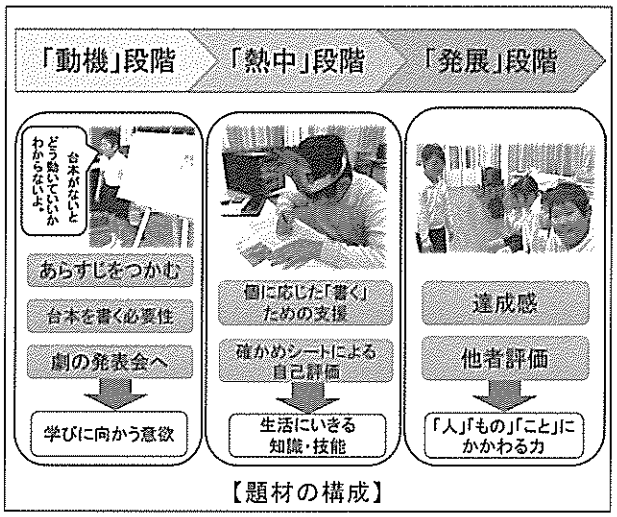
○　文字や語句カードを操作して，劇の台本を書くことができる。　【学びに向かう意欲】

○　動画や挿絵をもとに，語句の意味をとらえたり，文の構成や文字表記の仕方をつかんだりして，分かりやすく書くことができる。　【生活にいきる知識・技能】

○　書いた台本をもとに，下級生に劇を発表することで，書いて伝えるよさを実感することができる。　【かかわる力】

2　題材の考え方

本題材では，北校舎の下級生や先生たちに劇を発表して喜んでもらうために，「どうぞの　いす」の台本を分かりやすく書くことができるようにすることをねらいとしている。具体的には，①「どうぞの　いす」の読み聞かせを聞いてあらすじをつかみ，劇の台本を書いてそれをもとに劇をするという課題をつかむこと，②動画や音声を再現すること，文字や語句カードを操作することで，語句の意味を理解したり，文の構成や文字表記に気を付けたりすること，③書いた台本をもとに，下級生や先生たちに劇を発表することで，書くことへの達成感を味わうことなどである。特に，②については，個に応じて書くことの困難さを克服できる内容設定や支援具を提示することで，一人一人の書く力の高まりと満足感につなげていきたい。個によって書くことに関する実態は大きいが，文字に興味をもち，「自分で書き表したい」「書いて伝えたい」という思いや願いをもっている子供たちである。そこで，本題材では，「大好きな劇を下級生に発表したい」という思いと「発表するためには台本を書くことが必要だ」という課題をもたせることで，劇の台本を書くことへ意欲的に取り組むことができるようにする。



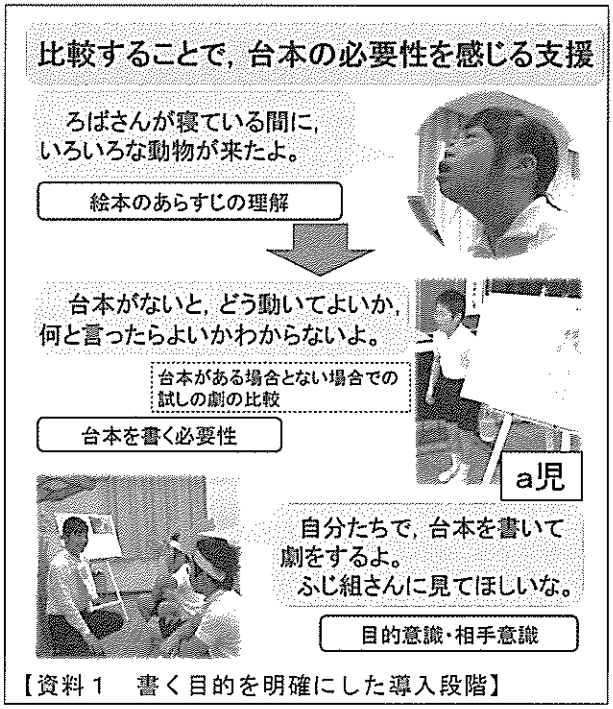
【題材の構成】

3　学習の流れと考察

「動機」段階のねらい：1～2/15時

「どうぞの　いす」の劇を下級生に発表するために，台本を書くという課題をつかむことができる。

「どうぞの　いす」の絵本の読み聞かせからあらすじをつかみ，下級生のふじ組の子供たちに劇を発表することについて話し合う。



【資料１　書く目的を明確にした導入段階】

「動機」段階では，「どうぞの　いす」の絵本の内容に関心をもたせるために，まず，教師が読み聞かせをしたり，子供たちに試しの劇をさせたりして絵本のあらすじをつかませた。そして，劇をするためには，台本が必要であることを実感させるために，台本が無い状態で劇をすることを経験させた。すると「どんな風に動いていいのか，何と言っていいのか分からない（ａ児）。」と発言する様子が見られた。そこで，「どうしたらよいか。」と問いかけると「自分たちで台本を書こう。」と答え，台本を書く必要性をもたせることができた。さらに，下級生に劇を発表することで台本を書く意欲をもたせることができた（資料１）。

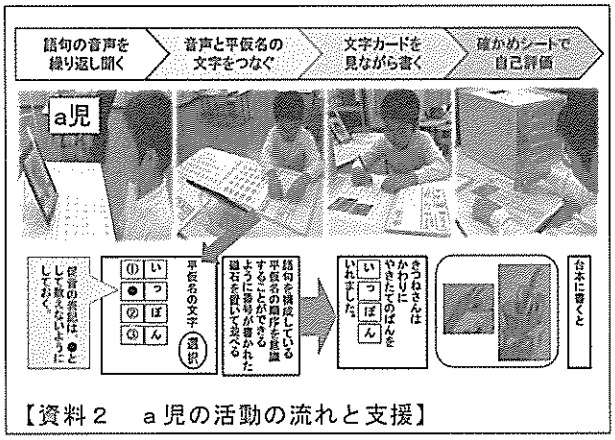
考察１

台本がない状態で，試しの劇をさせたことは有効であった。その根拠は，「自分たちで台本を書いて劇を発表しよう。」と意欲的な発言をしたからである。

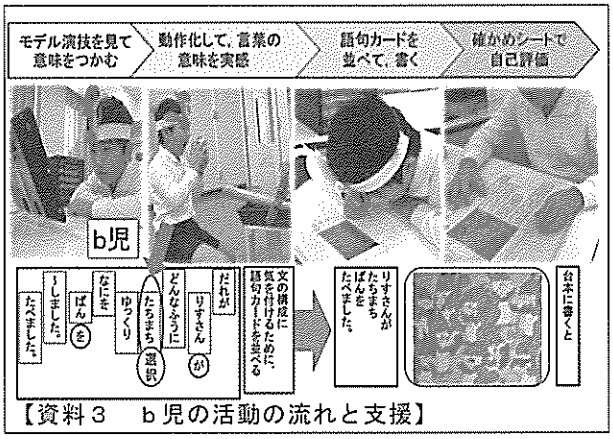
「熱中」段階のねらい：３～12/15時

動画や音声の再現，文字や語句カードの操作により，語句の意味を理解したり，文の構成や文字表記に気を付けたりして台本を書くことができる。

「熱中」段階では，場面ごとのト書きと台詞の部分を書いて「どうぞの　いす」の台本をつくる。



【資料２　a児の活動の流れと支援】



【資料３　b児の活動の流れと支援】

まず，a児はタブレットを使って，音声を繰り返し聞き，平仮名の文字を探した。語句の配列に意識が向くように，文字カードに番号が書かれた磁石を置いて確かめた。繰り返し「いっぽん」とつぶやきながら文字カードを探す姿が見られ，語句を書くことができた（資料２）。b児はタブレットを使って，モデル演技を見て，登場人物の行動をつかんだ。様子を表す語句を選択する場合には，実際に動作化することで，語句の意味を理解して付け加えることができた。「たちまちって，すぐに食べること，がつがつ食べること。」と発言する姿が見られた。語句カードを並べて文をつくった後は，マス目のある台本に書き表した（資料３）。

考察2

音声を聞いて文字カードを並べさせたり，動作化をして語句の意味をつかませたりしたことは，台本を書くための記憶と思考をつなぐ有効な手だてになった。その根拠は，繰り返し音声を聞いて，文字カードを選択し，順序よく並べる姿や動作化した後に，適切な語句カードを選択する姿が見られたからである。

「発展」段階のねらい：13～15/15時

自分たちで書いた台本をもとに「どうぞの　いす」の劇を下級生に発表することで，達成感や満足感を味わうことができる。

「発展」段階では，下級生のふじ組の子供たちに自分たちで書いた台本をもとに劇を発表する。

【資料４　b児の工夫点と下級生の感想】

「発展」段階では，４人が書いた台本を組み合わせてつくった大型の台本で劇の練習をした。練習している様子を動画で見直して，台本に書いたように登場人物の動きができているか，台詞を言うことができているかを振り返った。振り返る中で「もっと，のっしのっしと歩きたいな。」「がつがつ食べるようにしたいな。」と工夫したいことをつぶやく子供たちの姿が見られた。下級生の子供たちに劇の発表をした後，工夫した点を尋ねると，a児は「のっしのっしと歩く所はゆっくり歩いたよ。」b児は「べろべろなめるときは，こんな風に激しくしたよ。」と発言しながら，工夫した動きをして見せた。下級生からは「体の動きが上手だった。」「べろべろなめる所がおもしろかった。」などの感想をもらうことができた。子供たちは下級生が劇を見て喜んでいることで，自分たちが書いた台本をもとに劇をしたことに達成感や満足感を味わっている様子がうかがえた。

考察3

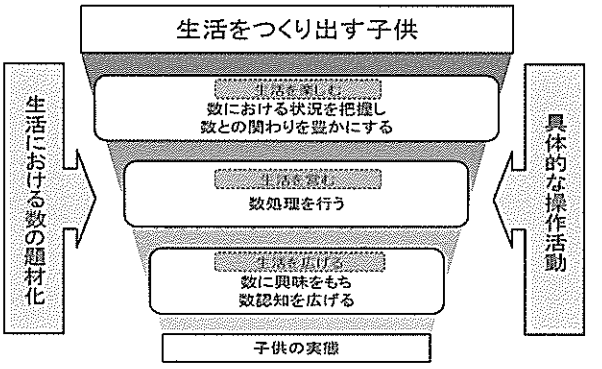
台本を書いて表現させたことは，語句や文の意味を理解しているかを確かめる上で有効であった。その根拠は，「のっしのっしだから，ゆっくりと歩いた。」と発言する姿が見られたからである。このことから，語句や文に着目した表現へとつながったことが分かる。

全体考察

子供たちが意欲的に書く活動を行うために，台本を書いて，それをもとに劇をするという課題を設定したことは有効であったと判断できる。これは考察１，２から，台本を書く必要性を感じたことや記憶と思考をつなぐ支援を取り入れて書かせたことで，書く目的と方法が明確だったからであると考える。考察３からは，書いたことで達成感をもつことができ，書くことへの意欲を高めることができた。しかし，子供の生活を豊かなものにする上では，子供の生活の中の出来事を振り返って書き表すことへとつなぐ必要がある。

特別支援教育部算数科
個に応じた具体的な操作活動を位置付けた算数科学習

1　算数科における「生活をつくり出す子供」



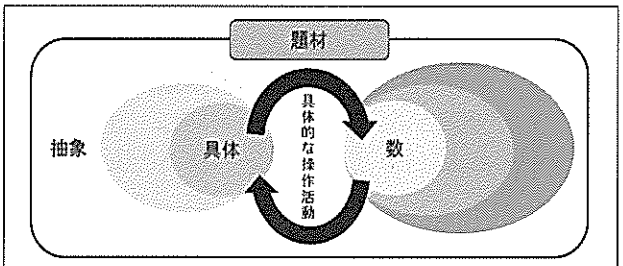
【図１　生活をつくり出す子供】

特別支援算数科における生活をつくり出す子供とは，日常生活における様々な数に対し，数認識をもとに，具体的な操作活動を通して数処理を行い，獲得した数処理を生活の様々な場面の中でいかす子供のことである。生活をつくり出す３つの構成要素を特別支援教育算数科において考えると，生活を支える姿とは，数に興味をもち数認識を広げることである。生活を営む姿とは，具体的な操作活動を通して数処理を行うことである。生活を楽しむとは，数における状況を把握し，数との関わりを豊かにすることである。生活の中では，時間・時刻や金銭処理がそれにあたる。さらにこれからは，電子マネーの普及や災害等による社会生活の変化に対応できる力が必要となる。そこで，特別支援教育算数科では，数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き，理解するとともに，具体的な操作活動を通して処理する技能を身に付けさせることをねらいとする。そのためにも，子供が興味をもつものから，自然と学習に没頭できるように題材化し，明確な共通のゴール像を位置付け，具体的な操作活動を通して，数処理を獲得していくことができるようにする。したがって，算数科における「生活をつくり出す子供」とは，題材化された生活における数を，具体的な操作活動を用いて数処理をし，自分にも「できる」生活があることを認識することで，生活をさらに充実させていこうと願う子供のことである（図１）。

○　日常生活における数に対し関心をもち，最後まで粘り強く学ぼうとする子供　（学びに向かう意欲）
○　獲得している知識や技能を十分にいかして，具体的な操作活動を通して数処理をする子供　（生活にいきる知識・技能）
○　日常生活における数に対し，自分が獲得している数処理を発揮しようとする子供　（かかわる力）

2　主題の説明

個に応じたとは，学習内容の獲得状況や，個の得意な学び方に応じて活動内容を構成していくことである。具体的には生活経験を通して身近な生活における様々な数に関する概念を身に付け，獲得した知識や技能を再度生活場面にいかしていくことで，生活上の数量的課題を処理する力や態度を培っていくことである。知的障害のある子供たちは，抽象的で論理的な思考を必要とする課題や，数量や図形についてのきまりの理解と，そこで学んだ知識や技能を生活に役立てていくことが困難だと考えられている。しかし，子供たちは，個数，順番，大きさ，形，金銭，時刻といった数量や図形などの様々な事象に囲まれて生活している。このような数量や図形について，できるだけ正しくとらえ，獲得した知識や技能を，身の回りに活用できる範囲を広げていくことによって，一人一人がより豊かな生活を送ることができるようになると考える。具体的な操作活動とは，数や図形に関する目的や課題を解決するために，具体物の数や形に着目して，取り出す，並べる，比べる，合わせる，分けるなどの操作活動をすることである。また，具体的・実際的な場面において，操作活動をしながら具体物と数の関係について，対応付ける，分類・整理する，関係付けるといった観点をもとにとらえることである。個に応じた具体的な操作活動を位置付けた算数科学習とは，子供が興味をもつものから題材化し，明確な共通のゴール像を設定し，具体物と数を関連付けるような操作活動を繰り返しながら，数範囲を広げたり，操作する対象の抽象性を高めたりする学習のことである（図２）。



【図２　具体的な操作活動を繰り返した学びの広がり】

また，繰り返して活動することができるように，自分の数処理を見直したり，活動によって獲得した知識や技能を生活の場で発揮することを通して，満足感を味わったりすることも大切であると考える。このような学習を行っていくことは，主体的に学ぶ意欲や，自分にもできることがあるという自信を養うとともに，生活をつくり出す力を育んでいくと考える。

3　具体的方途

(1) 教材化

本研究では，生活をつくり出す子供を育むために，自然と没頭し，学習に取り組むことができるものを教材化する。それは，以下の３つの視点がある。

①　繰り返し活動を仕組むことができるもの
②　多様な実態に合わせることができるもの
③　生活単元学習や行事と絡めることができるもの

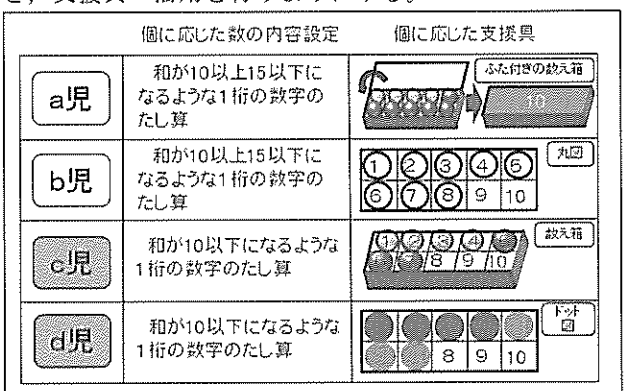
①については，繰り返し活動を行うことで数処理を身に付けるためであり，教師と一緒にできる，部分的に補助されてできる，一人でできるというスモールステップで学びを重ねていくものである。②については，同じ題材の中で，一人一人が数処理を身に付けるためであり，個に応じた活動内容が設定できるものである。③については，材の必然性を生むためであり，学校や学級の行事と生活の中に存在する数を結び付け，算数科の内容を取り出して扱うものである。

(2) 題材構成

本研究では，図３に示したように，個に応じた具体操作と生活を結び付けさせるために，教材化で述べたような視点で，生活をつくり出す子供を育むことができるような題材構成にする。具体的に「動機」段階では，子供の興味・関心や課題を含む生活場面における数理と出合わせ，明確な共通のゴールを目指す課題設定を行う。その中で，子供は自分ができることを認識し，それをさらに伸ばすという視点から個々の課題をつかむことができるようにする。次に，「熱中」段階では，一人一人の「わかること」を具体的な操作活動を繰り返して行うことで，「できる」体験を味わわせるようにしたい。そのためにも，「わかること」を十分に経験させた後で，問題の難易度を難しくしたり，支援を減らしたりすることで，一人で「できる」体験へと結び付けていきたい。また，特性を考えた学習を支援する支援具を準備することで，個に応じた指導を行う。さらには，学習の場の形態を変化させることで，協働的な学びへとつなげていきたい。そのためにも，「熱中」段階を２つに分け，前半は，個に応じた場で，個々の課題解決に向けて活動し，後半は，集団に応じた場で，協働的な学びによる課題解決に向けての活動を仕組む。とくに，前半から後半にかけて，学習内容を高めたり，支援を減らしたりして，スモールステップで繰り返し活動を仕組むようにする。最後に，「発展」段階では，自分や友達の頑張りを賞賛し合うことで，個や集団として満足感を得られるようにする。また，獲得した数処理を生活にいかすことができたという体験をさせるためにも，学級や学校の行事，生活単元学習等の他教科との関連の中でいかすことを通して，生活をつくり出す力を育むことにつなげていきたい。

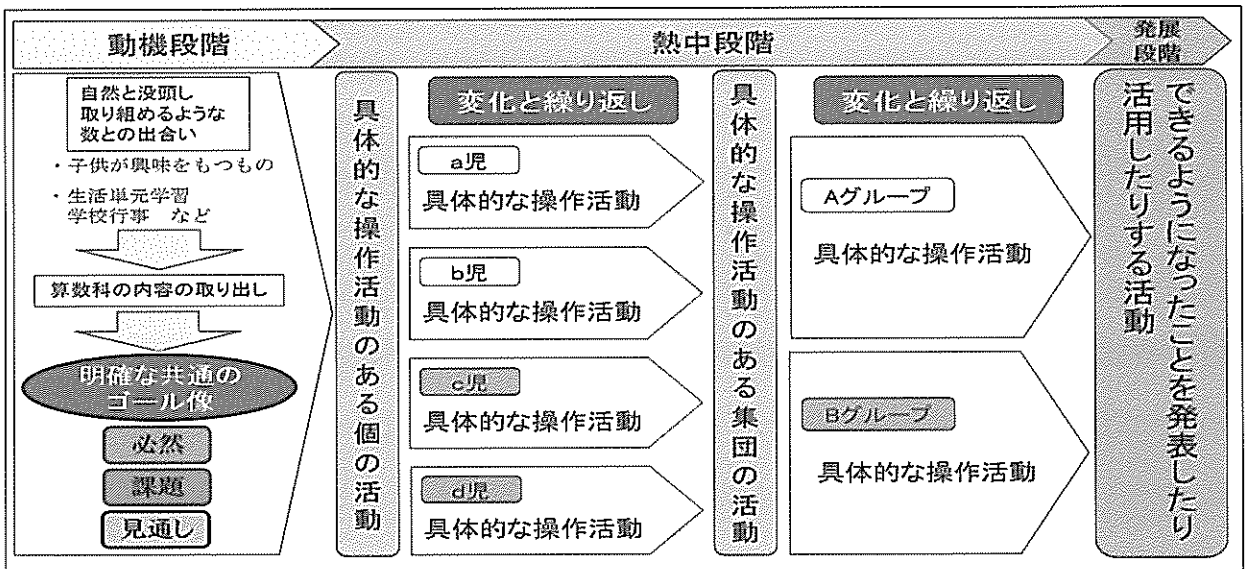
(3) 個に応じた支援

本研究では，多様な実態の中で，個に応じた具体的な操作活動を位置付けるために，個に応じた支援を行う。図４に示したように，子供の実態に応じた数設定と，支援具の活用を行うようにする。



【図４　個に応じた支援】

子供の数の獲得状況，視覚優位や聴覚優位といった特性を踏まえながら，個に応じた支援を行う。



【図３　個に応じた具体的な操作活動を位置付けた題材構成】

実践事例　第3・4学年　題材　しわけて　しゅうけい　さくらぐみ　ベルマークうんどう

指導者　赤司　光徳

1　題材の目標

○　ベルマークの集計をするために，計算したり，計算して求めた点数をグラフに表したりする活動に最後まで粘り強く取り組むことができる。

【学びに向かう意欲】

○　計算の仕方やグラフの表し方について，具体的な操作活動で表現することができる。

【生活にいきる知識・技能】

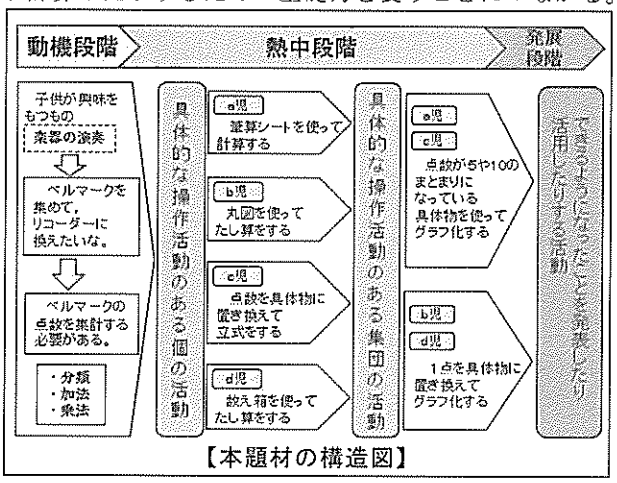
（ＡＧ）３つ以上の数をたし算で計算し，計算した結果を量感としてグラフに表すことができる。

（ＢＧ）たし算とかけ算が混ざった計算をし，計算結果を工夫してグラフに表すことができる。

○　集まったベルマークの集計をする活動に，友達と協力しながら自分の得意なやり方で取り組み，満足感を味わうことができる。　【かかわる力】

2　題材の考え方

本題材においては，ベルマークを集計する際に必要となる数処理ができるようになることをねらいとしている。具体的には，①ベルマークを集計するために，たし算やかけ算の仕方や，集まった点数をグラフに表す方法をとらえること，②個に応じた教具を操作して，計算をしたりグラフに表したりすること，③集まったベルマークの点数を集計できたことに満足感を味わい，自分ができることに自信をもつことである。とくに，②については，数え箱や丸図を使ってたし算をする，筆算シートを使って計算する，ベルマークの点数を具体物に置き換えてかけ算とたし算の式に表すことなど，個の実態に応じて，具体，数字，数詞の３つを関連付けながら計算する活動を設定することが重要である。このように個の実態に応じて，具体的な操作活動に繰り返し取り組ませることは，子供が生活で数を数えたり計算したりするための基礎力を養うことにつながる。



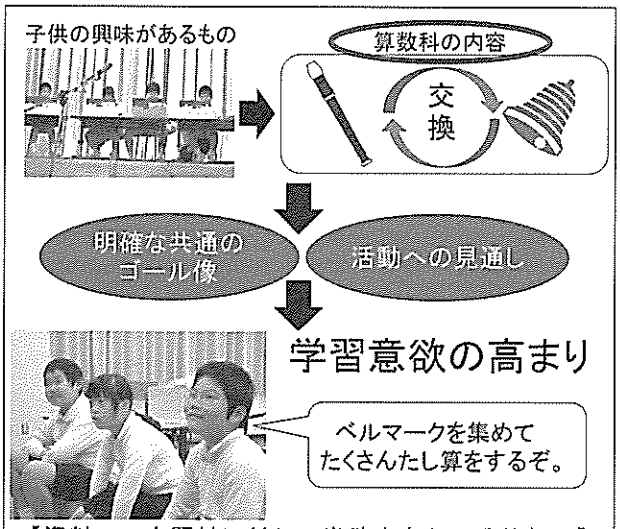
【本題材の構造図】

3　学習の流れと考察

「動機」段階のねらい：1/8時

ほしい楽器をベルマークで交換するために，集めたベルマークを集計できるようになりたいという意欲を高め活動への見通しをもつことができる。

ベルマーク運動の歴史や活動に関する資料を提示することを通して，集計についての意欲を高め，また，試しの活動を通して，一人一人がどのような学習を身に付ける必要があるかを話し合う。



【資料１　本題材に対して意欲をもたせる仕組み】

「動機」段階では，音楽の時間にいろいろな楽器に挑戦してみたいという子供の願いから，リコーダーを紹介し，ベルマークを集めて交換できることを知らせた。その後，ベルマーク運動についての歴史や活動に関する資料を提示し，学習意欲を高めていった。その後，ベルマークを集めてリコーダーに交換するために，ベルマークの点数を計算する必要性を感じさせ，試しの活動を行った。その際ｂ児は「ベルマークを集めてたくさん計算したいです。」と発言した（資料１）。

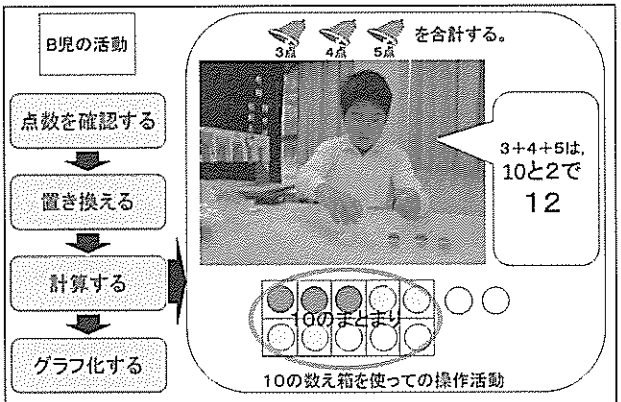
考察1

子供が興味をもつものから，算数科の内容を取り出して，明確な共通のゴール像を位置付けたことは，子供の学習意欲を高める上で有効であった。その根拠は，ベルマークの点数を集計することに対して興味を強めたｂ児が，学習したい学習内容を明確にし，発言した姿が見られたからである。また，子供たちが学級のみんなと協力して，ベルマークを集計しようと意欲を高める姿も見られたからである。

「熱中」段階のねらい：2～7/8時

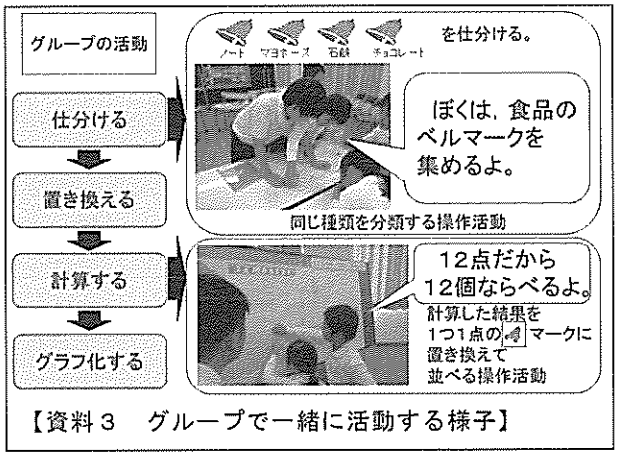
ベルマークを集計するために，種類ごとに仕分けをしたり，点数を計算したりすることができる。

(1) 先生や知り合いから集めてきたベルマークを仕分けたり，点数を集計したりして，個人で計算した結果をグラフに表す活動に取り組む。



【資料２　課題に繰り返し取り組むｂ児】

(2)　自分や家から集めてきたベルマークを仕分けたり，点数を集計したりして，グループで計算した結果をグラフに表す活動に取り組む。



【資料３　グループで一緒に活動する様子】

「熱中」段階では，集めたベルマークを集計する活動を行った。そのときｂ児は，10の数え箱を繰り返し操作することで，「10と３で13」と言ったり，丸図を使って計算したりすることができた。さらに，「もっと計算したい。」と発言したり，友達の計算を手伝ったりする姿も見られた（資料２，３）。

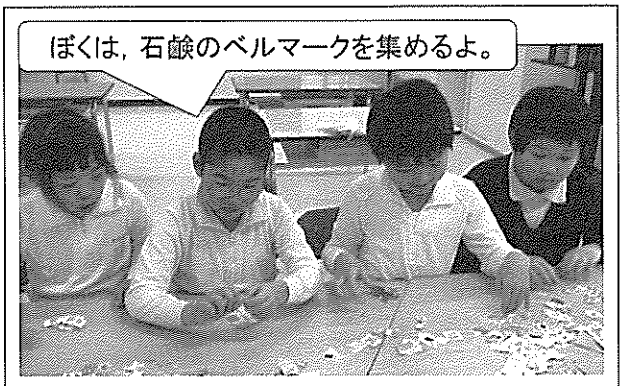
考察2

具体物を操作させながら10のまとまりを作ってたし算に取り組ませたことは，数字と具体物を関連付けて計算する数処理を獲得させ，自分でできることを自覚させる上で有効であった。その根拠は，ｂ児は，授業後に「10＋３は，10と３で13と計算できるようになった。」と嬉しそうに話す姿が見られたからである。また，横一直線にグラフ化したことで，「たくさん計算できた。」と量感をとらえる姿が見られたからである。

「発展」段階のねらい：8/8時

頑張ったことやできるようになったことを発表したり，新たに集めたベルマークを集計したりする活動を通して，できるようになったことに満足感を味わって自信をもつことができる。

題材を通して，友達の頑張っているところを見つけたり，新たに集めたベルマークを集計したりする活動を通して，自分ができるようになったことを発表する。



【資料４　ベルマークを仕分ける子供の様子】

「発展」段階では，題材を通して頑張ったことやできるようになったことを発表した。そのときｂ児は，黒板に「10と３で，13」と書き，数え箱や丸図を使ってたし算ができるようになったことを嬉しそうに発表した。また題材終了後に，新たに集めたベルマークを集計させた。そのときにｂ児は，食品のベルマークを進んで仕分け，数え箱や丸図を使いながら，友達と協力して正しく集計することができた（資料４）。

考察3

題材終了後も，ベルマークを集計する場を設けたことは，学習と生活とのつながりを子供に気付かせる上で有効であった。その根拠は，数を数える場面で，10のまとまりにしたり，同じ数は，かけ算を使って計算したりする姿が見られたからである。

全体考察

子供が興味をもつものを題材化し，ベルマークの点数を具体物に置き換えて，数え箱や丸図を使って計算する活動を繰り返し位置付けたことは，子供ができる数処理の技能を自分の生活の中に見いだし，できることを増やそうとする子供を育てる上で，有効であった。その根拠は，考察１，３から分かるように，子供が学習意欲を高め，自分の課題に対して主体的に取り組む姿が見られたからである。さらに，個や集団での学習の場を効果的に位置付けたことで，明確な共通のゴール像を意識しながら協力して活動する姿も見られた。また，考察２からは，具体的な操作活動に繰り返し取り組ませることで，数字，具体物，数詞を関連付けて計算する数処理の技能を高めることができたと考える。

特別支援教育部生活単元学習
「ひと」との関わり合いを発展的に位置付けた単元構成

1　生活単元学習における「生活をつくり出す子供」とは

生活単元学習における「生活をつくり出す子供」とは，自分の身の回りにある「ひと」「もの」「こと」に積極的に働きかけて関わり合い，できるようになることを楽しむ子供のことである。本研究における対象は，軽度な知的障害がある子供である。そこで，子供が障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するために必要な知識・技能，態度を生活単元学習を通して獲得し，生活場面で活用していくことを目指していくものとする。必要な知識・技能とは，子供の日常生活場面において欠かすことのできない情報収集や情報発信のことである。それらを活用していくことで生活をより豊かなものにしていくことができる。本学級に在籍する子供は，明るくて元気がよく，社交的な一面をもつ。そのため，自分から朝の挨拶を行ったり，休み時間には，友達や教師に活動を共にするよう要求したりする姿が見られる。しかし，校舎を共にする中学生や中学校担当教諭を前にすると，その姿は一変し，固まってしまう子供もいる。これは，状況の変化に対して子供が本来の力を発揮することの困難さを示している。このような実態を考慮し，自分の成長を喜ぶためには，①子供が関わり合う対象に対して自ら働きかけることができること，②関わり合う内容に繰り返し取り組み，必要な資質・能力を身に付けること，③関わり合うことを通して「できた」ことを子供が実感できること，の３つの条件が必要であると考える。そこで，まず，子供が関わり合う対象に積極的に働きかけていく必要がある。そのために，子供が学ぶ必然性をもつ状況を設定する。次に，子供が得意なことを活かしながら活動できる場と，繰り返し取り組むことができる内容を設定する。最後に，子供自らが「できた」を実感することができるようにする。このような生活そのものを単元化していく生活単元学習においては次のような子供を目指す。

○　自分の力でできるようになりたいという思いや願いをもとにねばり強く活動に取り組む子供
（学びに向かう意欲）
○　活動を通して，生活上に必要な事柄やきまりなどの知識や「もの」を操作する技能を身に付ける子供　（生活にいきる知識・技能）
○　自分の身の回りの「ひと」「もの」「こと」を認識し，意志の疎通を図り，活動の中で役割や責任感をもつことなどを実践しようとする子供
（かかわる力）

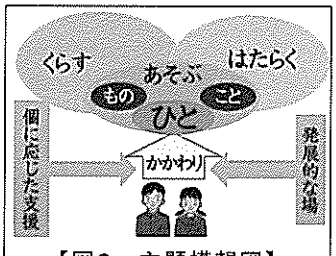
2　主題の説明

「ひと」とは，子供たちが生活の中で関わるであろう人物のことである。子供たちにとって「ひと」とは，身の回りにいる家族や学校の友達，学校の先生から，地域の方やお店の店員などへと，段階的に広がる。関わり合う対象に「ひと」「もの」「こと」がある中で，子供が優先的に関わるべき対象は「ひと」である。その理由は次の２点である。１つは「ひと」は子供たちにとって具体的な存在として認識しやすく，最も分かりやすい対象であるため，２つは「ひと」は即時に評価が可能であり，子供たちの学びの意欲へと直結しやすい対象であるためである。また，脳科学の点からも即時評価には，人間の快感情を増幅させる効果があることも理由に挙げられる。「ひと」と関わり合いとは，他者の存在に気付き，理解し，相手に対して働きかけたり，働きかけられたりするやりとりのことである。行動の中に相手を意識していることが重要である。「ひと」との関わり合いを発展的に位置付けた単元構成とは，「ひと」と関わり合う場を重視し，場や対象を段階的に変化させていく学習指導過程のことである。「動機」段階では，活動への主体性を発揮させるために「ひと」と出会う活動を位置付ける。「熱中」段階では，出会った相手を意識しながら，個の得意を活かす活動を通して，対象への働きかけ方を強化し，子供ができることを支援していく。「発展」段階では，出会った「ひと」との一連の活動を振り返る。これは子供が受けた評価を再度確認したり，「ひと」とのやりとりを客観視し，自己の成長について実感していくことである（図１）。

動機段階	出会いを通して，活動への主体性を発揮させる目的
熱中段階	出会いを通して学習対象への働きかけ方を強化する目的
発展段階	出会いを通して活動に達成感をもたせる目的

【図１　「ひと」と関わり合う段階とねらい】

このように得意なことを活かして効果的に「ひと」と関わり合わせることで，目的意識を高めながら集団での役割や責任を自覚し，できる自信を深めさせていくことができる。このような関わり合う活動を繰り返し仕組むことで，子供は生活に必要な知識や技能を獲得し，自分の成長を喜ぶことができるようになる（図２）。



【図２　主題構想図】

3　具体的方途

(1) 関わり合いの設定

子供が生活していく上で「ひと」と関わり合うことは必要不可欠な要素である。また，「ひと」と関わり合うことで，子供は自分の行動を広げていくための動機や意欲を引き出すことができる。生活上の課題をそのまま学習対象とする生活単元学習では，単元のねらいに応じて関わり合う段階を意図的に設定する。そこで，段階に応じて「ひと」との関わり合うねらいとその具体例を以下のように考える(表１)。

【表１　関わり合いの設定の具体】

段階	ねらい	関わり合う具体
動機	主体性の発揮	子供への活動の依頼 子供へのモデル提示
熱中	対象への働きかけの強化	協同による製作活動 手紙やSNSを通じた交流
発展	達成感の実感	製作物などの評価 感謝の表明

以上のような関わり合いを，次のような手続きで取り上げ単元の設定を行う(表２)。

【表２　関わり合い活かした学習過程設定の手順】

	関わり合いを位置付ける手続き	具体例 (単元「ふじぐみこんさあとをひらこうの例)
1	子供が目的意識や課題意識をもてるような生活上の課題を設定し，学習対象としての関わり合いを明らかにする。	課題「学校の地域の方と交流しよう」から，本校から最も近いカフェに出かけ，お店の方や地域の方と出会う場を設定する。
2	課題解決のために必要な関わり合いを明らかにして，具体的な学習内容として設定する。	出会う場の設定からお店の方や地域の方からの働きかけによって，ふじ組が学習していることや頑張っていることを地域の方に発表するという学習内容を設定する。
3	関わり合いをする過程や結果で身に付く実際生活に必要な知識・技能を明らかにする。	コンサートの企画(プログラムの選択，決定)，運営(司会，紹介活動，お礼の挨拶)，コンサートのお知らせ製作，地域の方とのあいさつなど

(2) 単元づくりの方法

単元の設定にあたっては，子供たちの「～できるようになりたい」という動機を引き出す学習を行う必要がある。さらに学校外の体験活動と学校の中で行う模擬の活動(環境と対象を変化させたもの)や代理体験(写真や動画の視聴)の活動を関連させながら，子供たちに学校外でもできそうだという見通しをもたせることが重要である。このような活動を構成していくことで，場や状況が変わっても，自分のできることを発揮することができるようになっていくと考える。具体的な単元づくりを，①子供の実態把握，②個に応じた学習内容の設定，③単元構成という手順で行っていく。個に応じた学習内容の設定では，一連の生活場面において，子供たちの得意なことをいかすことができる活動や役割を設定する。子供の得意なことを把握するために，本研究で作成する指導内容表を用いる。子供が今現在何ができて，どの内容ができそうなのか把握することができる。これらをもとに単元構成を行っていく。

①　子供の実態把握

活動づくりを行う上で，関わり合いに焦点をあて，次に示す観点から子供の実態を把握していく。

- ○　子供が日常生活で獲得している「ひと」に対する働きかけ方
- ○　「ひと」に対する興味・関心
- ○　これまでに「ひと」と関わり合ってきた経験の度合い

②　個の学習内容の設定

交流体験を通して課題解決に必要な事柄(表２における３の具体例を参照)と子供の実態から次のような点に留意して学習内容の設定を行う。

- ○　子供の得意なことを活かしながら，自分だけの力で課題解決を行うことができるようにする。
- ○　「ひと」に対して働きかける内容を重視する。
- ○　課題解決の仕方について，発達段階や特性を考慮し，個の学習内容として設定する。

③　単元の設定

学校外で交流体験を行う活動と，学校内で行う模擬の活動や協同活動とを関連させながら構成し，学習過程を「動機」「熱中」「発展」の３段階で位置付ける。

ア　動機段階

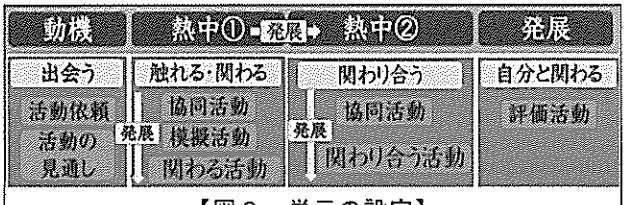
身近な「ひと」と出会うための直接体験を重視する。直接体験は，その場の雰囲気や「ひと」の表情や言葉など様々な条件によって子供たちとっての感動体験となる。そこで，出会う段階では，「ひと」から子供たちへの働きかけによって，子供たちが関わり合うための動機をもつことができる。

イ　熱中段階

課題解決という目的に対して，子供たちによる活動内容の自己決定を促していく。そこで内容の高まりを促すために２つの段階に分けて構成する。まず熱中段階①では，交流体験の活動内容を分析し，場を段階的に発展させて，交流体験への自信を深めさせるようにする。熱中②では，課題をより高度なものへと発展させていく。そして，課題解決に向けて場を段階的に発展させていくようにする。

ウ　発展段階

関わり合いにより生まれる相互の働きかけによって子供たちは達成感や満足感を味わうことができる。また，一連のやりとりを記録媒体を活用して視覚化することで，自分のやりとりを客観視させ，自己の成長を実感させることができる。



【図３　単元の設定】

実践事例　第1・2学年　単元　わくわく　ふじぐみ　こんさあとを　ひらこう

指導者　藤　康宏

1　単元の目標

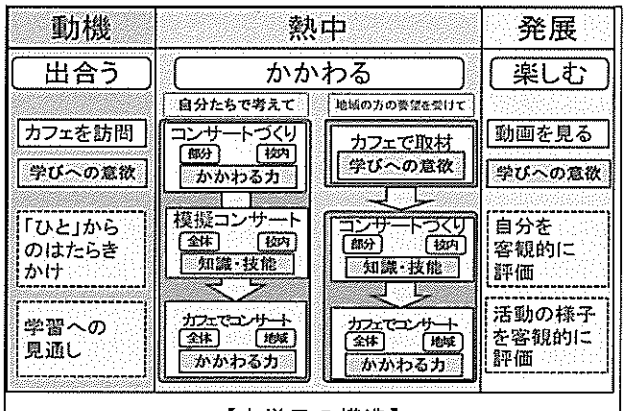
○　コンサートを開くために必要な準備にねばり強く取り組むことができる。　【学びに向かう意欲】

○　言葉をつないだり，準備物を用意したりして，ふじぐみこんさあとを自分たちで準備し運営することができる。　【生活に必要な知識・技能】

○　関わり合う人や環境が変わっても，自分のできることを活かして関わり合うことができる。　【かかわる力】

2　単元の考え方

本単元では，「ひと」「もの」「こと」に積極的に関わり合いながら，自分の得意とすることを活かすことでうまく関わることができたという自信をもたせることをねらいとしている。そのために，大好きな歌やダンスを活かしたコンサートづくりを通して，地域の方と関わり合う活動を設定した。具体的には，①カフェの店員や地域の方とやりとりをすること（生活「交際」【身近な人との交際】），②自分の得意を活かしてコンサートづくりを行うこと（生活「役割」【集団の参加や集団内での役割】），③大人や友達からの話しかけに応答したり，話し言葉を聞いて理解したりすること（国語「聞く・話す」）である。これらを達成するために，①店員の方との出会い，②ふじぐみコンサートづくり，③校内で模擬のふじぐみコンサート，④カフェでふじぐみコンサート，⑤要望に沿ったクリスマスコンサートづくり，⑥カフェでクリスマスコンサートといった活動で単元を構成している。本単元において重視することは「ひと」と関わり合う活動である。「ひと」は，子供たちにとって具体的で分かりやすく，即時に評価してもらえる対象である。そこで「ひと」との関わり合いを通して，できることを増やしたり，関わり合う楽しさを実感したりする経験ができるように支援していく。



【本単元の構造】

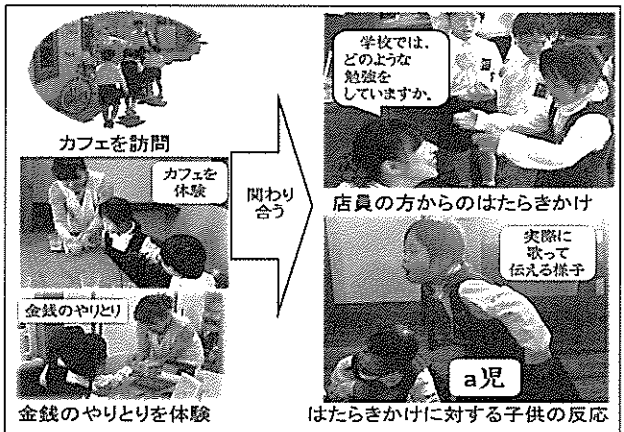
3　学習の流れと考察

「動機」段階のねらい：1～2/20時

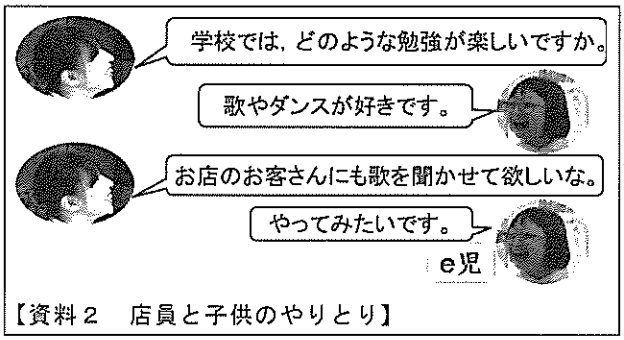
カフェの店員と出会い，やりとりをすること通して，コンサートをつくる意欲をもつことができる。

(1) カフェを訪問し，店員と出会う。

(2) 店員の方とのやりとりを通して，学習を通してできるようになったことを紹介する内容を選ぶ。



【資料１　学習課題との出合い】



【資料２　店員と子供のやりとり】

「動機」段階では，子供が「ひと」と出会う場をカフェに設定し訪問した。金銭を扱う活動を伴う校外学習に向けて，事前に金銭のやりとりを経験する目的がある。お金の支払いを終えた段階で店員の方から働きかけてもらうことでやりとりが生まれた（資料１）。その際，ａ児は実際に歌ったりジェスチャーを交えたりながら学校の様子を紹介する様子が見られた。店員から「お客さんにも聞かせたい」という働きかけに，ｅ児は，「もっとやりたい」と発言した（資料２）。

考察1

店員からの働きかけを位置付けたことは，子供に課題意識をもたせる上で有効であった。その根拠は，ｅ児が「司会をしたい」と過去の行事を引き合いに出し見通しをもつ姿が見られたからである。

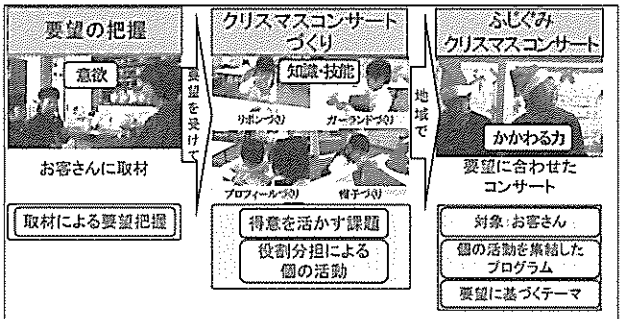
「熱中」段階のねらい：3～19/20時

自分たちの学習を紹介するコンサートの内容や，関わり合う「ひと」の要望に応える内容を選んでコンサートづくりをすることができる。

(1) 自分たちの学習を紹介するためのコンサートづくりを行い，「ふじぐみ　こんさあと」を行う。

【資料３　学習したことを紹介するコンサートづくり】

(2) お客さんの要望に応えるコンサートづくりを行い，「ふじぐみ くりすます こんさあと」を行う。



【資料４　お客さんの要望に応えるコンサートづくり】

【資料５　かかわる力を高めた子供の姿】

熱中段階(1)では，得意なことを活かしてコンサートづくりを行った(資料３)。熱中段階(2)では，お客さんの要望を受けてコンサートづくりを行った(資料４)。コンサートでは，お客さんからの評価を受けて達成感を味わう子供の姿が見られた(資料５)。

考察2

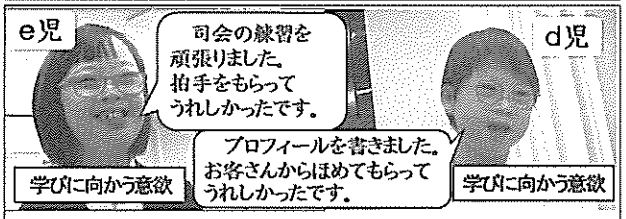
「ひと」との関わり合いを発展的に設定したことは，子供が様々な場で自分を発揮する上で有効であった。その根拠は，初めて会う人の前でも，緊張せずに自分の感情を表出する子供の姿が見られたからである。

「発展」段階のねらい：20/20時

コンサートづくりの様子や実際にコンサートを行う様子を動画で見ることで，活動を想起させ，自分たちの頑張りを交流し，達成感を得ることができる。

(1) コンサートの様子を動画で視聴し，これまでの活動について交流しながら振り返る。

【資料６　動画を視聴し交流する様子】



【資料７　e児とd児の感想】

発展段階では，動画を用いて自分たちの活動を客観的にとらえる活動を設定した(資料６)。子供たちはお客さんの感想を振り返る際に，自分の取り組みに触れ，活動への達成感を味わう発言をした(資料７)。

考察3

録画した活動の様子を視聴し合う交流を位置付けたことは，活動を客観的に振り返らせる上で有効であった。その根拠は，活動を振り返る中で，お客さんからの評価を再認識する発言をしたことや，友達の頑張りを交流の中で評価する様子が見られたからである。

全体考察

本単元では，子供が場や環境が変わっても，自分のよさを出すことができたことが分かる。それは，関わり合う場や環境を段階的に発展させていくことで，子供たちは不要な緊張感を感じることなく，落ち着いてコンサートをすることができたためだと考える。また，子供が意欲をもち続けられたことは，関わり合う対象として「ひと」を重視したことが有効に働いたためであると考える。今後の課題は，「ひと」との関わり合う活動から，「もの」「こと」へと発展させていくための単元の在り方についても究明する必要がある。

平成30年２月　印刷・発行
福岡教育大学附属福岡小学校
研　究　紀　要　No.48（別冊）

発行者　福岡教育大学附属福岡小学校
〒810－0061
福岡市中央区西公園12-１
TEL092－741－4731（代）

表紙デザイン　株式会社タイム社
印刷　〒812－0068
福岡市東区社領2-7-4
TEL092－621－6800

Future Creation